

災害科学国際研究所活動報告書 2014年度

著者	東北大学災害科学国際研究所
雑誌名	東北大学災害科学国際研究所活動報告書
発行年	2015-08-01
URL	http://hdl.handle.net/10097/60617



TOHOKU
UNIVERSITY

2014年度

東北大学 災害科学国際研究所 活動報告書

Annual Report

International Research Institute of Disaster Science

Tohoku University



IRIDES

目 次

1	巻頭言	1
2	研究所の概要	
(1)	基本理念	3
(2)	沿革・設置目的	3
(3)	中期目標・中期計画	3
(4)	組織運営活動	5
(5)	研究活動	6
(6)	教育活動	8
(7)	社会貢献活動	9
(8)	自己評価	10
3	組織運営活動	
(1)	人員配置と業務分担	19
A	教員等の配置・研究組織構成状況	19
B	専任教員における外国人教員比率	25
C	専任教員における女性教員比率	25
D	研究所内会議・委員会構成	26
E	運営会議及び各種委員会	27
(2)	研究資金	30
A	歳出決算	30
B	研究者一人あたりの研究費	30
C	科学研究費補助金採択状況	31
D	外部資金受入状況	32
E	寄付金の受入状況	33
4	研究活動	
(1)	研究部門・研究分野の研究活動	35
(2)	特定プロジェクト研究（拠点研究 A・拠点研究 B・連携研究）	59
(3)	専任教員の研究・教育・社会活動	
①	災害リスク研究部門	159
②	人間・社会対応研究部門	210
③	地域・都市再生研究部門	241
④	災害理学研究部門	266

⑤災害医学研究部門	293
⑥情報管理・社会連携部門	339
⑦寄附研究部門	372
⑧リーディング大学院	379
⑨広報室	389
5 教育活動	391
6 研究成果の社会発信	
（1）刊行物	393
（2）IRIDES 金曜フォーラム	394
（3）メディアでの紹介	398
7 国際交流	405
8 関係・協力団体	409

1 卷頭言

巻頭言

災害科学国際研究所での3年目の活動について

ー 国際社会への貢献を目指して ー

災害科学国際研究所が発足し3年が経過致しました。甚大な被害を受けた直後から復旧・復興のための支援を行う中で、学術的な調査研究を精力的に実施し、多くの貴重な情報・データと成果および教訓を得ているところです。人類がかつて経験したことのないような広域で複合的な大災害ですので、全貌をまとめることは大変困難ではありますが、1つに「東日本大震災を分析する」(明石書店)を出版でき、その後も継続して総合的な調査研究を進めております。この度、研究所での3年目の活動や成果をまとめましたので、是非ご覧頂き、忌憚のない助言やアドバイスを頂ければ幸いです。

研究所の発足時から、地震・津波のメカニズム解明、東日本大震災の被災実態の把握、構造物の耐震性強化、災害と人間社会の関係、復興地域づくり、災害医療・医学研究の展開、震災アーカイブの構築など、各分野で先端的研究を推進してきました。さらに、分野融合研究として「生きる力」プロジェクト、市民運動プロジェクト(みんなの防災手帳)、フィリピン・ハイエン高潮被害調査研究などを推進し、すばらしい学術的な成果があがっています。平成26年度中の成果を数値として見ると、507編の学術論文、著書54編、総説解説論文63編、学会における基調講演・招待講演150件、通常講演634件になります。これらの成果は量だけでなく質的にも優れており、学会等における27件の受賞につながっています。

この中で、今年の9月1日、青葉山新キャンパスに研究所棟が竣工し、最先端の研究拠点が整ったことを受け、同年11月10日新棟多目的ホールにて落成式を開催できました。式典は、政府・学術機関・企業関係者等約200名の方々に御臨席頂きました。特長的な施設である「多次元可視化システム」、「MRシステム」、「光トポグラフィー・防音室」、「避難所支援ゲーミング」の見学、さらには「減災結プロジェクト」、「災害医学研究部門の活動」、「研究紹介パネル」、「サーバー室」「ライブラリ」の展示、「小型地震体験装置」の体験の機会を設け、各会場で出席者に説明をさせていただきました。

また、今年 3 月 14 日から 5 日間にわたり、仙台市内を中心に第 3 回国連防災世界会議が開催され、国連会議である本体会議に加えて、市民が参加出来る総合フォーラムやパブリックフォーラムが企画されました。187 か国の首脳・閣僚らを含む 6,500 名が本体会議へ出席したほか、5 日間で延べ 15 万人がパブリックフォーラムなどに参加しました。会議の最終日には、2030 年までの国際的な防災の行動指針「仙台防災枠組」(Sendai Framework of Disaster Risk Reduction: SFDRR) が採択されました。この SFDRR は 10 年前にまとめた「兵庫行動枠組」(HFA) の後継となるもので、15 年間で災害による死亡率や経済損失を減少させるなど世界共通の目標が設けられました。国連が具体的な期限を示して減災目標を掲げるのはこれが初めてです。本研究所も、会場の提供だけではなく、世界会議開催前から仙台市に協力し誘致活動や政策への提言をさせていただきました。特に、災害統計については、開催前から国連機関と連携して合計 2 回のワークショップを大学で実施し、データ等の重要性和整備方針などについて議論し、重要性の理解を得ました。また、東日本大震災での経験を踏まえて兵庫行動枠組のレビューを行い、その結果をレポートにまとめ日本語と英語で出版したことで、準備会合などでの議論を先導し、企画立案・運営においても中心的な役割を担いました。

この他の国際的な活動としては、知のフォーラムへの参画、APRU（環太平洋大学連合）でのサマースクールやシンポジウムの企画、ハーバード大学ライシャワー日本研究所・福島高等専門学校・GNS・フィリピン大学・台湾大学等との部局間学術協定の締結のほか、既存の連携大学との共同研究も活発に行っております。一方で、国連防災世界会議中にもバヌアツでのサイクロン被害、また、4 月 25 日にはネパールでの地震被害が生じ、残念ながら大きな災害が繰り返されています。国内においても火山噴火、巨大地震（異常震源）など発生しています。災害科学国際研究所は、国内外の社会での防災・減災取組に対してさらなる貢献が出来るよう、引き続き邁進してまいります。

災害科学国際研究所
所 長 今村 文彦

2 研究所の概要

（１）基本理念

平成 24 年 4 月、東日本大震災という未曾有の災害を経験した東北大学は、新たな研究組織「災害科学国際研究所」を設立した。東北大学の英知を結集して被災地の復興・再生に貢献するとともに、国内外の大学・研究機関と協力しながら、自然災害科学に関する世界最先端の研究を推進することが、災害科学国際研究所に与えられた使命である。

本研究所の設立理念は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえた上で、わが国の自然災害対策・災害対応策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えへのパラダイムを作り上げることにある。このことを通じて、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目標とする。

本研究所が推進する自然災害科学研究とは、事前対策、災害の発生、被害の波及、緊急対応、復旧・復興、将来への備えを一連の災害サイクルにとらえ、それぞれのプロセスにおける事象を解明し、その教訓を一般化・統合化することである。

東日本大震災における調査研究、復興事業への取り組みから得られる知見や、世界をフィールドとした自然災害科学研究の成果を社会に組み込み、複雑化する災害サイクルに対して人間・社会が賢く対応し、苦難を乗り越え、教訓を活かしていく社会システムを構築するための学問を「実践的防災学」として体系化し、その学術的価値を創成することを災害科学国際研究所のミッションとする。

（２）沿革・設置目的

沿 革

平成 24（2012 年）4 月 研究所設置（7 部門 36 分野）

災 害 リ ス ク 研 究 部 門（7 分野）

人間・社会対応研究部門（7 分野）

地域・都市再生研究部門（5 分野）

災 害 理 学 研 究 部 門（7 分野）

災 害 医 学 研 究 部 門（7 分野）

情報管理・社会連携部門（3 分野）

寄 附 研 究 部 門

平成 25（2013 年）4 月 災害医学研究部門に災害口腔科学分野新設（7 部門 37 分野）

設置目的

災害科学国際研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、わが国の自然災害対策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害に備える新たなパラダイムを作り上げることが設立理念とし、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目的として設置された。

（３）中期目標・中期計画

災害科学国際研究所の理念に則り、研究活動、教育活動、社会貢献、国際展開について以下の中期目標を立てた。

1) 研究活動に関する中期目標

東日本大震災の被災自治体等との連携を強化し、被災地の復興への具体的貢献を果たしながら、複雑化・多様化する自然災害のリスクに対応できる社会の創成を目指し、新たな防災・減災技術の開発とその社会実装に取り組む。災害という脅威を防ぎ止めるだけでなく、人間・社会が賢く備えて対応する、さらに災害による被害や社会の不安定から回復しながら教訓を語り継ぐ災害文化を醸成し、社会システムにそれを織り込んでいく。

- ・地球規模の自然災害発生とその波及機構の解明
- ・東日本大震災の被害実態と教訓に基づく防災・減災技術の再構築
- ・被災地支援学の創成と歴史的視点での災害サイクル・復興の再評価
- ・地域・都市における耐災害性能の向上とその重層化
- ・広域巨大災害対応型医学・医療の確立
- ・新たな防災・減災社会のデザインと災害教訓の語り継ぎ

2) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

本研究所における学内の教育活動は、各教員が兼担している学部・学科および研究科における学部教育・大学院教育が主たるものである。一方、教育活動を広い意味でとらえると、本学教員の全員が、災害に強い社会を醸成するための市民力の向上に寄与するという責務を有している。中期目標・中期計画では、大学内での学生および研究者の教育を「教育活動」とし、震災被災地復興への貢献や我が国の防災力等の向上に資する教育活動は、「社会貢献活動」として位置づけることとする。本学における教育活動の中期目標は以下の通りである。

学部・大学院の学生に対して、災害科学に関する基礎的な知識を教育し、関心を高める教育を行う。そのために、全学教育や学部・大学院における専門教育プログラムにおいて、災害科学に関する基礎的な知識を提供する科目を提供する。

災害科学に関する実践的研究の成果を基盤として、社会における防災・減災に携わる人材と、次代を担う災害科学研究者を育成する。

なお、本学の学生の活動支援は、学部生については教育機会および知識の提供を主とし、大学院生についてはそれに加え自身の問題意識に基づいて進める研究活動や成果発信を支援することとしている。すなわち、災害科学に関する最新の研究発表・聴講ができる支援体制をつくるとともに、国内外の学会やワークショップにおける参加・発表するための支援体制を検討し設置する。加えて、国際連携のための仕組みをつくり、大学院の学生の海外における災害科学に関する研修を支援する。

3) 社会との連携や社会貢献に関する目標

東日本大震災の被災地や世界をフィールドとする研究を進めると同時に、社会との防災・減災の連携強化を図り、国内外の防災・減災戦略及び防災・減災教育に対して積極的に貢献する。東日本大震災の教訓や研究活動により得られた研究成果の社会実装を行うため、産官学の戦略的な連携研究を推進する。

そのために、社会連携オフィスを設置し、国内外に対しての防災・減災戦略の企画や展開を積極的に実施し、防災・減災教育のための社会への情報発信と意識啓発活動を推進する。所内には、広報・情報担当者をおき、広報活動の充実、公開講座、シンポジウム等を実施する。

4) 国際化に関する目標

本研究所は、震災の教訓を国内外に広く発信することに加え、世界をフィールドとした防災・減災研究に取り組み、その成果を社会に組み込むことを目標としているため、外国の大学や研究機関との連携・交流及び国際協力事業を積極的に推進する。海外大学との共同研究や、大学間および部局間協定、人材交流等を継続的に

推進するために、国際連携担当者をおく。また、海外からの留学生・研究者を積極的に支援する。

5) 組織運営活動に関する目標

本研究所の教員は、本学内の多数の部局から異動してきており、平成26年8月末の本研究所棟竣工までは、それぞれの居室は元部局にあるため、研究所構成員の全体会議を定期的に開催し、研究所を取り巻く状況や活動、課題の共有化を図る。また、メーリングリストやビデオ会議を有効活用しながら効率的な組織運営を図ることとし、部局間の情報・意見の交換や合意形成を効率的に行う体制を構築する。

(4) 組織運営活動

本研究所の組織運営としては、本研究所の最高意志決定機関である運営会議の下に、予算委員会、研究企画委員会、広報・出版・図書委員会、教務委員会、施設・環境委員会、ハラスメント防止対策委員会、国内・国際連携委員会、総務委員会、倫理委員会を設置し、それぞれの所掌事項毎に所内ルールや制度・方針を策定して運営会議に諮った後に決定し、教授会や全体会議で周知するという仕組みを確立している(3章E 研究所内会議・委員会構成を参照)。平成26年8月末に本研究所新棟が竣工したことに伴い、組織運営の今まで以上の円滑化が可能となった。

平成26年度は、月1回を基本に研究所教授会及び全体会議を開催した。全体会議の場を可能な限り効率的な情報交換、課題の共有化の場として活用するため、(1)兼務教員、事務スタッフ、防災関係機関を含めた拡大全体会議、(2)専任教員対象の全体会議、(3)専任の講師・准教授以上が対象の拡大教授会、(4)専任の教授による教授会という4つの会議を同一日に連続して開催した。さらに、本研究所のミッション達成に関連する情報を共有化するため、拡大全体会議で、所外組織の講師による談話(東日本大震災ウォッチャー)と本研究所メンバーによる最新の活動報告を行うという仕組みを構築している。

平成26年度の重点的な取り組みは以下である。

1) 広報室設置による社会発信機能の強化

平成26年4月、所内に広報室を設置(専属の助教1、事務補佐1)し、広報・出版・図書委員会と緊密に連携しながら活動を開始した。これにより社会発信の対外窓口・広報業務が広報室に集約され、効果的・戦略的な社会発信・メディア対応等が可能となった。以下が主要な活動実績である。

1. 本研究所の全教員のアクティビティ(学会発表、受賞、取材、災害現地調査報告、重要な活動等)についてのウェブページを通じた発信(平成26年度はトピックス230件、報道481件を掲載)。
2. 本研究所の設立理念やミッションを広く伝えるためのパンフレット制作(日本語版、英語版)、東日本大震災への復興の貢献や教員の取り組み・研究成果を広く発信するためのニュースレター: IRIDeS Quarterly(日本語版年4回、英語版年2回)刊行、本研究所のPR誌 IRIDeS Report(年1回)刊行。災害研を紹介する広報ビデオ(日本語版、英語版)作成。なお、ニュースレターでは毎回、女性研究者1名以上の研究を、掲載・紹介している。
3. メディア関係として、記者会見(1件): 東日本大震災メモリアル、プレスリリース(27件)を行うとともに、所内教員向けにメディア対応講座(メディア基礎講座、メディア講座応用編、そして模擬対応訓練)、女性研究者向けメディア講座(男女共同参画推進センターと共催)(1回)を開催。
4. 本研究所の全教員と特定プロジェクト研究の1年間の活動を総括する年次活動報告書の編集と、災害研の業績に関する統計データ算出と管理。

2) コンプライアンス推進体制の整備と強化

研究所として適切な研究が実施されるように、研究活動の不正防止や、個人情報の管理など、コンプライア

ンスを推進するための体制を整備・強化した。

1. 研究費管理運用の適正化、研究活動の不正防止のための全学的体制構築の方針を全体会議時に全教員に説明（計3回）するとともに、公正な研究活動推進担当組織、研究倫理推進責任者及び相談窓口を設置し、研究倫理教育の実施体制と相談体制を整備した。さらに、緊急性のために公正な記録の保持や調査対象者への配慮がおろそかになりがちな災害緊急調査に関しても、実施体制の整備を行った。さらに、研究費不正などの問題発生時に社会から求められる情報の内容とその提供について、所内教員を対象に講習（3回：上記メディア対応講座）を実施し、不正予防のための留意点を確認した。

2. 平成25年度に設置した研究所倫理委員会が、人間を対象とする研究の内規、審査内規を検討し、全体会議での説明と教授会での審議（3回）を経て、平成27年度当初から倫理審査を開始した。また倫理委員会主催講習会（2回）で、全教員に個人情報の取り扱いの基本的なルールを周知した。

（5）研究活動

本研究所の使命は、東日本大震災における調査研究、復興事業への取り組みから得られる知見や、世界をフィールドとした災害科学研究の成果を社会に組み込み、複雑化する災害サイクルに対して人間・社会が賢く対応し、苦難を乗り越え、教訓を活かしていく社会システムを構築するための「実践的防災学」の体系化とその学術的価値の創成である。そのために、平成26年度では以下の主要4項目を研究目標に掲げ、研究活動を展開した。

- 1) 東日本大震災の被害実態と教訓に基づく国際研究の推進
- 2) 文理連携および多様な学際連携による研究の推進
- 3) 国内外研究機関および国際社会との連携強化
- 4) 「実践的防災学」の体系化と産学官連携の強化

上記の目標に対して、平成26年度の取り組みや達成状況の概要は以下の通りである。

1) 東日本大震災の被害実態と教訓に基づく国際研究の推進

地震・津波のメカニズム解明、東日本大震災の被災実態の把握、構造物の耐震性強化、災害と人間社会、復興地域づくり、災害医療・医学研究の展開、震災アーカイブの構築など、分野ごとの先端的研究を推進した。国内外の防災・減災研究の深化においては、東日本大震災での被害実態の研究成果を将来の予測技術に活かせる取組や、特に震災アーカイブ「みちのく震録伝」を活用した教訓の発信が、文部科学大臣賞を授与されるなど、社会から高く評価された。平成26年度中の成果として、507編の学術論文、著書54編、総説解説論文63編、学会における基調講演・招待講演150件、通常講演634件を行った（表1、p.13）。これらの成果は量だけでなく質的にも優れており、27件の受賞につながっている（表2、p.14）。

2) 文理連携および多様な学際連携による研究の推進

社会が必要とする災害研究とその成果は、従来の学問の専門領域を越えて幅広く多様である。それに応える分野横断的・学際融合的な研究を促進するため、学内外への特定研究プロジェクト（拠点研究A、Bおよび連携研究）を公募し、拠点研究Aを12件、拠点研究Bを70件、国内外との連携研究を5件採択した。また前年度の成果発表会を一般公開で開催し、口頭発表とポスターセッションで報告した。さらに産学官と連携した共同研究推進のため、緊急被災医療推進、G空間防災モデル構築、防災教育国際協働の3つのプロジェクト連携研究センターを設置し、実践的防災技術の共同開発に取り組んでいる。

文理連携の代表例の1つとして、「1611年慶長奥州地震津波の総合的調査及びデータベース構築」があり、新しい古文書の発見と再検討により地震や津波の状況を現地調査と合わせて評価し、津波堆積物などの科学的な根拠とともにデータベースとしてまとめ、津波の波源の再検討を行った。この成果は、NHK クローズアップ

東北（平成 26 年 7 月 4 日放送）「慶長奥州地震津波 研究最前線」として特別番組で紹介され、社会的な注目を集めた。

また、災害科学や行動心理学、脳科学、認知心理学などの連携により、「生きる力の解明」を精力的に実施しており、社会調査で得られた東日本大震災での経験や行動を認知科学的に分析し、8つの主要な「生きる力」に集約が出来る結果を示した。この成果は、災害時での情報処理過程のモデルを今後実施しながら綿密な防災・避難計画立案への貢献だけでなく非常時に人が適切に行動するという自助の向上に繋がるものと期待されている。

3) 国内外研究機関および国際社会との連携強化

東北大学の英知を結集して被災地の復興・再生に貢献するとともに、国内外の大学・研究機関、さらには国際機関（国連等）と協力しながら、自然災害科学に関する世界最先端の研究を推進するために共同研究を推進している。

ドイツ航空宇宙センター（災害リスク評価、リモートセンシング）、ロンドン大学（災害リスク評価、災害医療）、ハワイ大学（自然災害科学、災害感染症）、インドネシア・パジャジャラン大学、ブラヴィジア大学（自然災害科学、災害感染症）などの海外共同研究機関との連携研究活動を強化するとともに、ハーバード大学（震災アーカイブ、災害医療）、フィリピン大学マニラ校（災害感染症、災害精神医学）、インドネシア・シヤクラ大学（復興モニタリング）、ニュージーランド地質・核科学研究所との協定を締結して連携の枠を広げている。また、2013 年 11 月に発生したフィリピン台風ハイエン高潮災害において、フィリピンのカウンターパートとの共同調査チームを編成し、東北大学総長裁量経費の支援を受けて強風と高潮による被害実態調査、建築・医療の脆弱性、避難行動や復興を調査した。報告書を刊行し、被災地への提言を行った結果、フィリピンの学術機関との 3 件の共同研究プロジェクト、部局間協定の締結に結びついた。

さらに、災害対策技術の標準化に取り組む国際機関（国連等）や海外の研究機関との連携を通じて災害統計、防災対策の国際標準化への提言を行った結果、国連開発計画（UNDP）の協力により「災害統計グローバルセンター」を本研究所内のプロジェクト連携研究センターとして設置することが決定した。

4) 「実践的防災学」の体系化と産学官連携の強化

第 3 回国連防災世界会議において採択された国際的な防災の行動指針「仙台防災枠組」では、支援する側からだけではなく、災害において特別な支援を必要とする人々が自ら防災活動に積極的に関与することが求められている。震災以前から存在する地域社会やインフラ、人々の脆弱性を減少させることが災害リスクの減少につながるため、発災後に適切な避難と対応が可能になるような備えをすることをすべての分野で体系化し、実践的防災学として発信している。

東日本大震災において、被災地では病院や学校、行政などの公共の被害も相次いだことから、受援力や事業継続計画に關しての研究成果を首都圏や南海トラフの被害想定地域に対して発信している。その結果、本研究所の我が国の防災政策におけるプレゼンスが向上し、9 名の教員が国の重要な委員会での活動を 40 件行っている。

産学官の連携研究活動としては、津波のリアルタイム浸水予測手法の実用化プロジェクト、津波避難訓練の実装化に取り組む「カケアガレ日本！」などの活動を全国で展開している。また、利益相反には細心の注意を払いながら、展示会や学会での技術展示などで企業との連携を図っている。仙台市で毎年開催される震災対策技術展にも中心的に関与し、企業、行政、医療関係者に対するセミナーを開催している。また平成 26 年 4 月から広報室を設置し、広報誌の作成やメディア対応・発信など、研究所のアウトリーチ活動を積極的に推進している。フィリピン台風災害などの国内外で起きた災害に関する情報を災害特集として関係者が利用しやすいようにウェブサイトで公開を行っている。

理工学、人文・社会学、医学、情報学など多数の分野を融合した学際的研究を推進するには、多くの課題が

ある。そこで所内のみならず学内外・一般の方々と広く情報を共有し、研究の連携・融合を図ることを目的に、定期的な発表・討論の場 IRIDeS 金曜フォーラム（毎月開催）を開催している。平成 26 年度は、9 回のフォーラムを開催した。平成 27 年度には、宮城県内の産学官と報道機関、市民団体などの防災関係者および本研究所が、防災啓発に関する研究や活動を共有する目的で設立した連携組織「みやぎ防災・減災円卓会議」との共同開催も予定されている。また、所内では所長懇談会（部門単位で毎年開催）を設け、災害科学の深化と実践的防災学の創成に関する現状と課題を整理し共有化している。

（６）教育活動

本研究所における学内の教育活動は、各教員が兼担している学部・学科および研究科での学部教育・大学院教育が主たるものである。一方、教育活動を広い意味でとらえると、本学教員の全員が、防災知識を身につけた人材の育成を通し、災害に強い社会を醸成するための市民力の向上に寄与するという責務を有している。

本研究所の理念と活動目標に基づいた平成 26 年度の教育目標は以下の通りである。

- 1) 全学教育、関連部局の学部や大学院の科目での、災害科学に関する基礎的な知識の提供。
- 2) 災害科学に関する実践的研究成果の大学院学生への公開。
- 3) 大学院の学生が、国内外の学会やワークショップで参加・発表するための支援体制の整備。
- 4) 国際連携の構築による、大学院学生の災害科学に関する国際的な研修への支援。

上記の目標に対して、平成 26 年度の取り組みや達成状況は以下の通りである。

1) 災害科学に関する基礎的な知識の提供

兼務先の学部、大学院の専門科目に災害科学の内容を組み込むことに加え、災害科学に関する基礎的な知識を提供する全学教育科目として「基礎ゼミ」2 科目と、カレントトピックス科目として「災害の科学」2 科目、基幹科目として「経済と社会：東日本大震災等の災害と社会の対応」を提供し、平成 26 年度は合計 262 名の学生が受講した。さらにリーディング大学院グローバル安全学トップリーダー育成プログラム（以下、グローバル安全学）の中核部局として実践的防災学の講義、リーダーシップ養成演習等を提供した。さらに、APRU（環太平洋大学協会）、あしなが育英会、フィリピン国アンヘレス大学の多国籍学生 150 名への講義を行った。ヒューマンセキュリティコースでは留学生に災害科学の講義を行い、平成 26 年度東北大学総長教育賞を受賞した。

2) 実践的研究成果の大学院学生への公開

実践的研究の成果発信と教育との関連については、本研究所主催の「金曜フォーラム」で、その機会を提供している。災害科学に関する実践的研究の成果を紹介するフォーラムを 9 回開催し、大学院生と一般市民に公開した。

さらに、学都仙台コンソーシアムが仙台市内で開講している復興大学の「復興人材育成教育コース」で、所属教員が講義を担当し、大学を超えた人材の育成に貢献している。（<http://www.fukkou-daigaku-jinzai.jp>）

3) 大学院学生の研究活動支援体制の整備

東北大学のすべての学生が東日本大震災の貴重な経験を共有し、巨大災害に対する人類の備えに関して主体的な意見を表明できることが必要と考え、グローバル安全学のプログラムにおいて、実践的防災学の講義 6 科目及び C-Lab 研修を直接担当している他、多くの科目について外部講師の選定や内容の調整、具体的な講義日程の設定などの協力を行っている。平成 26 年度は、優秀な大学院生が学会に参加・発表することを支援した（国内派遣 167 件、外国派遣 29 件）。また、国外の学術機関と協力協定を締結し、経済的負担を下げると

同時に研修先の情報を得やすくした。

4) 国際連携の構築による大学院学生への支援

海外のすぐれた研究者を招聘する知のフォーラムを開催した。平成 26 年 7 月、11 月と平成 27 年 3 月の 3 回に分け、サマースクール、分科会形式のワークショップ、全体討論会を開催し、大学院生や若手研究者が分野・部門を越えて卓越した知識を学ぶ機会を提供した。

(7) 社会貢献活動

災害対策先進国として、これまでに特に地震・津波対策で国際貢献を果たしてきた我が国が、東日本大震災後、どのように社会の安定を取り戻し、復興を果たしていくかは、世界的にも注目されている。事前対策、発災時の緊急対応、被災後の復旧・復興の一連の災害サイクルにおいて、世界で最も緻密かつ徹底した総合調査・研究を行い、その知見を普遍化して次世代への防災・減災技術構築への先導を果たすことが本研究所の責務である。被災地にある総合大学としての特徴を最大限に活かし、災害における社会問題の具体的解決のための実践的研究を指向するために、社会との連携や国際化は必須である。そのため、平成 26 年度は、以下の 4 つの目標を挙げ、活動を実施した。

- 1) 東日本大震災の被災地の復興への具体的貢献
 - 2) 防災教育の社会的展開
 - 3) 産官および地域社会と連携した防災対策の強化
 - 4) 第 3 回国連防災世界会議を通じた「実践的防災学」の国際社会への発信
- 上記の目標に対して、平成 26 年度の取り組みや達成状況は以下の通りである。

1) 東日本大震災の被災地の復興への具体的貢献

実践的防災学の社会実装を図るためには、被災自治体との協働による成果の普及・展開が不可欠である。気仙沼市や多賀城市をはじめとする被災自治体との間では、災害に関する包括的連携協定を積極的に締結し、自治体の要請に対応した研究成果の展開と復興への支援に結びつけている。過疎化と人口減少が進行する地域社会においては、行政や学校、医療を含めた都市計画の立案に関わり、市民とのワークショップやセミナーなどの開催を通して災害に強い魅力ある街づくりを推進している。また被災地のメンタルヘルスに関する調査と悪化防止のための支援を継続的に行うとともに「こころの防災市民セミナー」を開催し、被災者および行政職・医療職など対応者のメンタルヘルスに関する啓発を行った。

2) 防災教育の社会的展開

地域との連携の中で防災教育活動を展開している。気仙沼市ではサテライト（分室）を設置し、情報発信や地域での防災講座、学校での防災教育の協力を行った。その成果として、3 回の文化講演会の実施、震災アーカイブ活動、中学校における防災学習（総合的な学習の時間）への協力活動が実施できた。さらに、企業や行政機関、病院の事業継続性計画や受援計画に関する研究成果を発信するとともに、企業や行政、保健所長などに対して災害に対する備えについて教育を行った。この取り組みを強化するために、国立保健医療科学院との連携協定を締結した。

学校教育を起点に、家庭や地域が防災への取り組みを進めることができるように小中高への出前教育を 44 件実施し、防災教育教材の開発を行うとともに、市民向けのセミナーやシンポジウム等を 290 件開催して、防災知識の普及を図った。また防災・減災についての取り組み「減災ポケット『結』プロジェクト」では中心的な役割を担っている。宮城県内の小学 5 年生の全児童に対して『結』ハンカチを配布し、これを活用した出前事業を展開している。ハンカチなどの教材には、「災害が発生した時にどう行動すればよいのか」、「日頃から

何を準備しておけばよいのか」など、東北大学の防災・減災に関する研究成果が盛り込まれている。更に多賀城高校の災害科学科設置における基本構想の策定にあたり、アドバイザー9名の内4名が研究所の教員であり、平成28年度開設に向けての活動を展開した。

3) 産官および地域社会と連携した防災対策の強化

産学官の連携研究活動として、津波のリアルタイム浸水予測手法の実用化プロジェクト、津波避難訓練の実装化に取り組む「カケアガレ日本!」や、生きる力を強化させる「みんなの防災手帳」、「防災キャンプ活動」などユニークな活動を全国で展開している。「みんなの防災手帳」、「防災キャンプ活動」に対して、公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会 から「PR アワードグランプリ」ソーシャル・コミュニケーション部門優秀賞が授与された。また、被災地の健康調査、特に小児ぜんそくや女性のストレス、七ヶ浜町を中心とした被災地のメンタルヘルスを継続的に調査し、被災者の精神面への支援と悪化予防に努めている。福島県の歯科医師会と協力して、乳歯による体内被ばく調査を行っている。

この他に、被災自治体との災害に関する包括的連携協定を活用しながら、自治体の要請に対応した研究成果の展開に結びつけてきた結果、本研究所のプレゼンスが向上し、計20名の教員が地方自治体の重要な委員会での活動を79件行っている。

4) 第3回国連防災世界会議を通じた「実践的防災学」の国際社会への発信

平成27年3月に仙台市で開催された第3回国連防災世界会議において、大震災の経験と教訓から培われた「実践的防災学」を、世界にむけて発信した。以下が概要である。

1. 東日本大震災での課題や産学官の役割等を整理し、政策等への提言を行った。具体的には、大震災の経験を踏まえた研究成果に基づき、第2回国連防災世界会議の兵庫行動枠組(HFA)の評価を行い、日・英で出版するとともに、アジア防災閣僚会議、国連での国連防災世界会議の準備委員会、ダボス国際災害リスクフォーラム、国際災害リスク東京会議、知のフォーラム等で発信し、国連関係者(UN-ISDR、WHO、UNESCO、ESCAP、UNDP、World Bank など)や所内外の研究者に対して議論を先導した。またワシントンDCで国際シンポジウム(厚生労働省後援)を主催し、保健医療の防災枠組への組み入れを提言した。
2. 市民向けに国連防災世界会議の意義を伝えるために仙台市との共催で市民公開講座を3回開催した。
3. 国連防災世界会議の会期中、パブリックフォーラムの開催や企画展示、視察ツアーなど25件の主催を含む68件の企画・運営を行い、延べ8500人以上の参加を得た(表3、pp.15-17)。本体会議でのワーキングセッションでも研究成果を報告し、仙台防災枠組2015-2030の作成に貢献した。
4. 3月15日「東北大学復興シンポジウム 東北大学からのメッセージ～震災の教訓を未来に紡ぐ～」において、潘基文 国連事務総長が講演し、本研究所を含む東北大学の一連の活動を高く評価した。
5. 仙台防災枠組で、防災対策推進の基盤としての統計データ収集の重要性が認識され、国連開発計画等と連携した、本研究所への災害統計グローバルセンター設置が決定し、平成27年度より活動を開始した。

(8) 自己評価

1) 平成26年度活動の総括

本研究所は歴史的・世界的な東日本大震災を経験した東北大学における新たな学際的研究組織として、平成24年4月に設置された。設立当初は、限られた人的資源と十分とは言えない施設環境の中で、組織としての体制づくりを行いながら、研究活動を進めてきた。そして、所内外における学際研究の相互理解の場としての「金曜フォーラム」(毎月開催)、所員の研究レベルを向上させるための「所長懇談会」(部門単位で毎年開催)、被災地のステークホルダーや関係者との情報交換と社会的ニーズを研究に反映するための「震災ウォッチャー」(拡大会議にて開催)などの場を設けて、研究活動を支援する機会を積極的に設けてきた。

平成 26 年度は 3 年目にあたり、当初に構想した理学、工学、医学、社会科学、人文学にわたる 7 部門（災害リスク研究部門、人間・社会対応研究部門、地域・都市再生研究部門、災害理学研究部門、災害医学研究部門、情報管理・社会連携研究部門、寄付研究部門）37 分野のすべてに専任教員とスタッフが着任し一応の完成を見た。さらに新研究所棟が平成 26 年 8 月末に竣工し、10 月には災害医学研究部門以外の 6 部門の移転が終了し、一つの場所で交流を強化しつつ研究活動を推進できる状況が整った。

ここに至るまでの過程では、十分に整備されていたとは言えなかった研究環境の下で、物理的に離れた場所にいることから生じる相互のコミュニケーションの制約を乗り越え、前節までに述べてきたような活動を遂行し、着実に成果を上げてきた。研究実績と社会貢献活動に対しては、外部評価委員会からも「東日本大震災被災地の中心都市に立地する大学の研究所として期待される役割に、十二分に応えている」、「次々と成果を挙げ、様々な情報発信を日本国内のみならず、世界に対して行っていることを高く評価します」との評価を受けている。

2) 第 3 回国連防災世界会議への貢献

平成 26 年度の最大のトピックスは、平成 27 年 3 月に仙台市で開催された第 3 回国連防災世界会議への取り組みであった。本研究所は、大震災の経験と教訓を世界に発信し、防災・減災のあり方を考え直すことの必要性から、平成 24 年度から仙台市に協力して会議の誘致を支援してきた。その後、同会議の仙台開催が決定し、会議の成果として Sendai Framework for Disaster Risk Reduction（仙台防災枠組）が作成されるまでの期間の、本研究所が行った数多くの活動・貢献の詳細については、前ページ 4）を参照されたい。

仙台防災枠組では、災害リスクはハザード（外力）への曝露、社会・構造・人のもつ脆弱性と対応能力によって規定されることから、適切な防災・減災技術をあらゆる方面から研究し、わかりやすい政策として提言すべきであることが示された。防災対策を科学的に推進していく基盤として統計データを収集することが大きな課題であることが認識され、UNDP の協力を得て、本研究所に災害統計グローバルセンターを設置することを決定した。本センターは、災害統計の国際基準を定め、各国のデータを集めて分析するという使命を有し、世界中が注目することとなった。

3) 活動水準の向上度の評価

設立からの 3 年間に様々な状況の変化があったことに対応して、研究成果の状況も年々変化している。平成 24 年度の設立以降 3 年間の研究成果の推移をみると、学術論文（403 編→579 編→507 編）、著書（37 冊→54 冊→54 冊）（単著、共著、分担執筆含む）、総説解説（65 編→79 編→63 編）、学会における招待講演（146 件→132 件→150 件）、受賞（16 件→16 件→27 件）、特許（1 件→4 件→5 件）と年々実績をあげているのがわかる。そして、学術論文の内訳も査読有論文の比率が、国際誌（33%→44%）および国内誌（24%→28%）ともに増加している。

このように、設立当初から年々、レベルの高い論文への掲載、個別の分野から学際的な論文への移行、海外大学との連携、注目度（引用数）の向上、学会を超えた社会的重要な賞を含む各種受賞数の増加、メディア報道の増加など、質的な向上が見られた。確実に研究成果は上がっており、平成 28 年度以降はさらなる研究実績が期待できる。

4) 課題

国連防災世界会議では、本研究所のすべての教員が、広い分野にわたり国内外の関係者との調整を図りながら、数多くの研究成果報告や議論の誘導を行い、会議の成功に向けての貢献を行った。世界の防災関係者に対して、仙台防災枠組の中の Sendai とともに、IRIDeS という名前の知名度や期待度は高まり、今後の国際的な研究交流活動の基礎を作ることができたと言える。その一方で、各教員がそれぞれの担当する行事の企画・準備・調整に忙殺され、相互の情報交換や新しい融合研究への取り組みを行う余裕がなかったことも事実である。

災害に関わる学際的な研究組織として、真に学際的、融合的な新しい研究を推進していくことが強く求められている。

一方、財源の不安定性は大きな問題である。本研究所の専任教授、准教授の人件費は大学の一般経費により賄われているが、一部の准教授、助教、特別研究教育教員や支援者の人件費と研究経費、設備費は文部科学省の特別経費の財源に依存している。国立大学のミッションの明確化と予算の見直しという流れを受けて、一般経費および特別経費の抜本的な見直しが予定されており、平成 28 年度以降の人件費の規模が不確定であり、現在のスタッフの継続的な雇用を約束することができない状況にある。本研究所で顕著な成果を上げた人材ができるだけ早い機会に次の就職先を決めて転出する一方で、年限の限られた枠に対する有能な人材の補充が困難であるという問題に直面している。防災や災害研究は国や自治体などの公的セクターによって担われる部分が大きく、民間企業からの財政的な支援が得られにくい分野であるが、民間企業のほか、国際機関、自治体への学術的な貢献の在り方を明確にし、寄付金、寄付講座、共同研究などの充実によって、財政の安定化と人件費の確保を進める必要が高まっている。

本研究所は、国内外の災害研究の中核的拠点としての位置付けを明確に得るため、共同利用・共同研究拠点の認定を受けることを一つの目標とし、平成 27 年度内の申請に向けて、公募型プロジェクトの提供、新研究等整備に合わせての共同利用施設の整備、関連研究組織との意見交換などの準備を進めてきた。しかし、上述した財源の不安定性の下で共同利用のために配分できる予算規模が確定できないことをかんがみ、国連防災世界会議での成果と今後の方針を受け、本研究所は「災害統計グローバルセンター」等の活動を核として、国際的な拠点としての活動に集中的に取り組むこととした。これにより、東北大学が目指すワールドクラスへの飛躍とグローバルな研究発信に貢献できると考えているが、本研究所の使命を考えれば、引き続き共同利用・共同研究拠点への申請準備を継続することが必要である。

表 1 災害科学国際研究所の研究成果（平成 26 年度）の概要

学術論文	507 編
単著 筆頭	135
共著	372
著書	54 冊
単著 筆頭	34
共著	20
総説 説	63 編
表	784 件
単独 筆頭	356
共同	428
ち基 講演 招待講演 特別講演	150
特許	5 件
受賞	27 件
費 代表	55 件
競争 資金	37 件

議 主催 共催 運営	90 件
ポジウ	60
小 高 行政 企	2
講演 ナ	18
ボ ア 他	10
ナ 講演 主催 共催 運営	181 件
ポジウ	39
小 高 行政 企	27
講演 ナ	80
ボ ア 他	35
ナ 講演 講義	340 件
公 講座 講演 ナ	276
示	6
小 高	44
ボ ア 他	14
ち基 講演 招待講演 特別講演	28

表2 平成26年度 研究成果への受賞リスト (27件)

(受賞者名は研究所所属教員のみ記載)

受 賞 名	受 賞 者	授与日
Pos 賞受賞	千田 浩一	2014 4 10
地域安全学会年間優秀論文賞 (2013 年)	佐藤 翔輔	2014 5 16
日本計算工学会論文賞「コンクリートの破壊力学に基づく等	寺田 賢二郎・加藤 準治	2014 5 20
日本計算工学会川井メダル	寺田 賢二郎	2014 5 20
日本都市計画学会論文賞	奥村 誠	2014 5 23
日本建築学会賞	村尾 修	2014 5 30
平成 25 年度建設工学研究奨励賞 (個人)	呉 修一	2014 6 9
ひらめき☆ときめき サイエンス推進賞	邑本 俊亮	2014 7 2
日本災害食学会研究発表会最優秀賞	佐藤 翔輔	2014 7 12
A M Fe ows Award	寺田 賢二郎	2014 7 21
日本安全教育学会最優秀実践賞	桜井 愛子	2014 9 14
若手優秀発表賞 (都市計画部門)	杉安 和也	2014 10 6
日本活断層学会若手優秀講演賞 (一般研究発表の部)	岡田 真介	2014 10 18
日本活断層学会若手優秀講演賞 (ポスター発表の部)	石村 大輔	2014 10 18
ce ence in Re iewin	三木 康宏	2014 11 00
日本土木学会海岸工学論文奨励賞	福谷 陽	2014 11 13
utstandin ontri ution in Re iewin	サッパシー アナワット	2014 11 21
国際 3D 先進映像協会ルミエール・ジャパン・アワード 2014 受賞で「作品賞ドキュメント ライブ部門」	今村 文彦・柴山 明寛 サッパシー アナワット 佐藤 翔輔	2014 12 4
2014 年度「PR アワードグランプリ」ソーシャル・コミュニ ケーション部門優秀賞	今村 文彦・佐藤 翔輔 保田 真理	2014 12 8
地方創生に資する地域情報化大賞 「特別賞」	佐藤 翔輔	2015 1 27
平成 2 6 年度東北大学研究所連携プロジェクト研究成果 報告会優秀ポスター発表賞	佐藤 健・桜井 愛子	2015 2 2
A アワード 2014 企業防災賞	佐藤 翔輔	2015 2 16
A アワード 2014 震災対応特別賞	佐藤 翔輔	2015 2 16
n econocimento a tra a o cientifico desarro ado	奥村 誠	2015 2 26
2014 年度日本地震学会論文賞	日野 亮太	2015 3 13
Most ited Pa er Award	後藤 和久・菅原 大助	2014
日本都市学会 論文賞	松本 行真ら	2014

表3 IRIDeS による第3回国連防災世界会議関連活動

1. パブリックフォーラム（会議形式）

	タ イ ト ル （担当者、代表者）	IRIDeS の 関 与 形 態
1	レジリエントな社会構築と防災教育・地域防災力の向上を目指して（桜井愛子）	主催
2	産学連携による最新の Virtual Reality 技術を活用した震災3Dアーカイブと防災教育（柴山明寛）	共催
3	東日本大震災の災害ボランティア活動を振り返る（丸谷浩明）	後援、参加
4	災害ロボットの社会実装（田所諭）	共同主催
5	震災時のがん医療（伊藤潔）	協力、参加
6	東南アジアにおける近年の大規模水災害から得られた教訓～命をいかに守るか～（呉修一）	主催
7	東日本大震災の被災地域でのグローバル安全学リーダー人材の育成（地引泰人）	共催
8	住民主体の災害復興と大学の役割―東日本大震災の教訓と神戸・アチェ・四川との比較（桜井愛子）	共催
9	日本の災害への強さ―世界とその秘訣と挑戦に迫る―（今村文彦）	共催
10	シミュレーション・センシング・G空間情報の融合による減災力の強化（越村俊一）	主催
11	東北大学復興シンポジウム 東北大学からのメッセージ（今村文彦、奥村誠）	本部に参画
12	災害時における支援調整の仕組みを考える（丸谷浩明）	参加
13	ジオハザード軽減に向けた地球科学の人材育成： 防災国際ネットワーク構築（後藤和久）	主催
14	MORE (Resilience) for LESS (Risk): DRR Matters・上級パネルディスカッション（服部俊夫、江川新一、サッパシーアナワット、保田真理）	参加
15	平成26年度防災とボランティアのつどい（丸谷浩明）	後援、参加
16	気候変動による大規模自然災害～ビッグデータの活用によるリスクコミュニケーションへの展開～（イ ケリーン J.）	主催
17	台風・高潮・高波シミュレーション及びインフラ被害評価（ブリッカー ジェレミー）	主催
18	WMO マルチハザード早期警報システムとサービス提供に係る国際シンポジウム（奥村誠、小野裕一、呉修一）	後援、協力
19	レジリエント・コミュニティ ―私達の住まい、私達の地域、私達の復興―（村尾修）	主催
20	災害科学国際研究所地震津波リスク評価（東京海上日動） 寄附研究部門―津波リスク研究と防災啓発活動（福谷陽）	主催
21	巨大災害におけるメンタルヘルスのしなやかさにむけた復興のありかた（富田博秋、江川新一）	共催
22	レジリエンス・ワークショップ～しなやかな防災・減災を実現する科学技術と社会実装～（寺田賢二郎、奥村誠）	主催
23	「重層的な津波避難対策の展開」シンポジウム（安倍祥）	主催
24	巨大災害からの復興 ～人、コミュニティと計画～（井内加奈子、マリ リズ）	主催
25	企業と市民参加によるコミュニティ・レジリエンス構築（泉貴子）	主催
26	巨大災害に対する保健医療の備え（江川新一、服部俊夫、浩日勒）	主催

27	日本の事業継続マネジメントの現状と今後～東日本大震災も踏まえて～（丸谷浩明）	共催
28	風関連災害低減のための大規模施設の必要性和有効性（小野裕一）	後援、参加
29	東北地域における産業・社会の復興（増田聡）	共催
30	東日本大震災からの多重防御によるまちづくり	共催
31		
32	ESCAP/WMO	
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42	26 10	

2. パブリックフォーラム（展示形式）

1	3D 3.11	
2	G	
3		
4		
5		
6		
7	— —	
8		
9		
10		
11		

3. パブリックフォーラム以外の活動（本体会議関連、公式／非公式関連イベント、連携等）

	タ イ ト ル （担当者、代表者）	関 与 形 態
1	多賀城市イベント「かたりつぎ」～朗読と音楽のタベ～（柴山明寛）	主催
2	東日本大震災メモリアル 震災4周年シンポジウム&3D映画「大津波 3.11 未来への記憶」上映（今村文彦、越村俊一、伊藤潔）	共同主催
3	被災地イベント 福島沿岸スタディツアー 巡検、シンポジウム（松本行真）	共催
4	Children & Youth Forum	共催
5	国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）事務局被災地訪問（小野裕一、サッパシーア ナワット）	協力
6	本体会議関連 Technical workshop on monitoring mechanism for Post-2015 Framework for DRR（小野裕一）	参加
7	防災シンポジウム in 仙台（佐藤翔輔）	参加
8	災害統計グローバルセンター設置発表式（今村文彦、小野裕一）	共同主催
9	インドネシア国立シャークアラ大学総長招聘、神戸・アチェ・東日本大震災の教訓を共有（桜井愛子）	招聘、協力
10	被災地イベント 陸前高田市シンポジウム（小野裕一）	協力
11	東北大学ディスカッションツアー③ 東北大学の貴重な歴史的資料を持つ附属図書館と世界的災害科学拠点を巡る～世界的災害拠点の紹介～（村尾 修、森口 周二）	主催
12	第4回エコ・バイオフィォーラム（服部俊夫、浩日勒）	主催
13	本体会議関連 国連防災世界会議ワーキングセッション「進捗の測定と報告～Measuring and Reporting Progress～」（小野裕一）	参加
14	国立台湾大学と部局間学術交流協定締結（今村文彦、小野裕一、呉修一）	主催
15	被災地イベント 減災市民会議 見学会、ワークショップ（柴山明寛）	共催

※上記リストは実施日時順。また、会議期間中だけでなく、直前・直後に実施された関連イベントも含む。

3 組織運営活動

(1) 人員配置と業務分担

A 教員等の配置・研究組織構成状況

2015 年 3 月 31 日現在

災害リスク研究部門

分 野 名	職 名	氏 名
地域地震災害研究分野	教 授	源 栄 正 人
	准 教 授	大 野 晋
	助 教	王 欣
	技 術 補 佐 員	船 木 ひ と み
津波工学研究分野	教 授	今 村 文 彦
	助 教	今 井 健 太 郎
	助 手	保 田 真 理
	産 学 官 連 携 研 究 員	山 下 啓
	技 術 補 佐 員	佐 藤 雅 美
	技 術 補 佐 員	芳 賀 弥 生
	技 術 補 佐 員	橋 本 茜
災害ポテンシャル研究分野	教 授	真 野 明
	准 教 授	有 働 恵 子
	准 教 授	坂 卷 隆 史
	助 教	呉 修 一
	特 別 教 育 研 究 教 員	武 田 百 合 子
	技 術 補 佐 員	前 橋 祐 子
	技 術 補 佐 員	黒 木 素 子
	研 究 支 援 者	金 沢 明 子
広域被害把握研究分野	教 授	越 村 俊 一
	教 授	佐 藤 源 之 (兼 務)
	助 教	MAS, Erick
	技 術 補 佐 員	豊 田 和 可 子
	事 務 補 佐 員	萩 生 田 彩 夏
最適減災技術研究分野	教 授	五 十 子 幸 樹
	助 教	鈴 木 裕 介
	技 術 補 佐 員	石 野 友 恵
低頻度リスク評価研究分野	准 教 授	後 藤 和 久
	助 教	菅 原 大 助
	技 術 補 佐 員	本 間 紫 織

国際災害リスク研究分野	准 教 授	BRICKER, Jeremy David
	助 教	ROEBER, Volker
	技 術 補 佐 員	齋藤 緑

人間・社会対応研究部門

分 野 名	職 名	氏 名
災害情報認知研究分野	教 授	邑本 俊亮
	准 教 授	杉浦 元亮（兼務）
	助 教	野内 類
被災地支援研究分野	教 授	奥村 誠
	助 教	DAS, Rubel
	技 術 補 佐 員	平山 塔子
歴史資料保存研究分野	准 教 授	佐藤 大介
	助 教	蝦名 裕一
	助 教	天野 真志
	特別教育研究教員	安田 容子
防災社会システム研究分野	教 授	丸谷 浩明
	教 授	増田 聡（兼務）
	教 授	吉田 浩（兼務）
	准 教 授	馬奈木 俊介（兼務）
	技 術 補 佐 員	寅屋敷 哲也
	技 術 補 佐 員	五十嵐 綾子
防災法制度研究分野	教 授	島田 明夫（兼務）
災害文化研究分野	教 授	川島 秀一
	技 術 補 佐 員	今野 由美
	技 術 補 佐 員	鈴木 修
	技 術 補 佐 員	熊谷 成一
防災社会国際比較研究分野	准 教 授	井内 加奈子
	助 教	MALY, Elizabeth Ann
	技 術 補 佐 員	今野 由美

地域・都市再生研究部門

分 野 名	職 名	氏 名
都市再生計画技術分野	教 授	石坂 公一
	准 教 授	姥浦 道生（兼務）
	助 教	花岡 和聖
	技 術 補 佐 員	須藤 靖子

除染科学研究分野	教	授	石井 慶造（兼務）			
	教	授	高橋 信（兼務）			
地域安全工学研究分野	教	授	寺田 賢二郎			
	准	教	授	森口 周二		
	技	術	補	佐	員	芳賀 麻由美
災害対応ロボティクス研究分野	教	授	田所 諭（兼務）			
国際防災戦略研究分野	教	授	村尾 修			
	助	教	YI, Carine Joungyeon			
	技	術	補	佐	員	加藤 園子
	技	術	補	佐	員	及川 由佳
	研	究	支	援	者	坂場 寛子

災害理学研究部門

分 野 名	職 名		氏 名
海底地殻変動研究分野	教	授	日野 亮太
	准	教 授	木戸 元之
	助	教	飯沼 卓史
	助	教	和田 育子
地震ハザード研究分野	教	授	趙 大鵬（兼務）
	准	教 授	岡田 知己（兼務）
	助	教	内田 直希（兼務）
火山ハザード研究分野	教	授	三浦 哲（兼務）
	准	教 授	山本 希（兼務）
	助	教	市來 雅啓（兼務）
地盤災害研究分野	教	授	今泉 俊文（兼務）
	准	教 授	中村 教博（兼務）
	助	教	岡田 真介
気象・海洋災害研究分野	教	授	岩崎 俊樹（兼務）
	准	教 授	山崎 剛（兼務）
	准	教 授	岩渕 弘信（兼務）
宙空災害研究分野	教	授	小原 隆博（兼務）
	准	教 授	三澤 浩昭（兼務）
	助	教	土屋 史紀（兼務）
国際巨大災害研究分野	教	授	遠田 晋次
	助	教	丹羽 雄一
	助	教	石村 大輔
	研 究 支 援 者		國分 園子

災害医学研究部門

分 野 名	職 名	氏 名
災害医療国際協力学分野	教 授	江川 新一
	助 教	佐々木 宏之
	技 術 補 佐 員	寺川 ひろえ
災害感染症学分野	教 授	服部 俊夫
	准 教 授	芦野 有悟（兼務）
	助 教	浩 日勒
	派 遣 職 員	菊池 尚子
	派 遣 職 員	岩崎 紘子
	派 遣 職 員	千田 蓉
災害放射線医学分野	教 授	千田 浩一
	教 授	細井 義夫（兼務）
	助 手	稲葉 洋平
	技 術 補 佐 員	鹿野 美紀
災害精神医学分野	教 授	富田 博秋
	助 教	兪 志前
	助 教	笠原 好之
	特別教育研究教員	根本 晴美
	研 究 支 援 者	小野 千晶
	研 究 支 援 者	筈居 文葉
	研 究 支 援 者	菊地 淑恵
	研 究 支 援 者	中川 高
	研 究 支 援 者	岩間 智子
災害産婦人科学分野	教 授	伊藤 潔
	講 師	三木 康宏
	助 教	齋藤 昌利（兼務）
災害公衆衛生学分野	教 授	栗山 進一
	技 術 補 佐 員	佐々木 佳奈
	厚生科研費研究員	松原 博子
	事 務 補 佐 員	松岡 孝子
	事 務 補 佐 員	長谷川 紀子
災害医療情報学分野	教 授	中山 雅晴
	技 術 補 佐 員	小林 幸恵
	技 術 補 佐 員	佐々木 燈子
災害口腔科学分野	教 授	小坂 健（兼務）
	准 教 授	鈴木 敏彦（兼務）

情報管理・社会連携部門

分 野 名	職 名	氏 名
災害アーカイブ研究分野	教 授	今村 文彦（兼務）
	准 教 授	柴山 明寛
	助 教	
		BORET, Sebastien

		SUPPASRI, Anawat

リーディング大学院

	職 名	氏 名
グローバル安全学トップリーダー 育成プログラム	准 教 授	松本 行真
	講 師	久利 美和
	助 教	杉安 和也
	助 教	地引 泰人

事務部

係 名	職 名	氏 名
事 務 長		阿部 昭
総務係	係 長	菊地 綾子
	主 任	吉田 勇太
	事 務 補 佐 員	此原 奈緒
	事 務 補 佐 員	田中 菜津子
	事 務 補 佐 員	千葉 智子
	事 務 補 佐 員	伊藤 智栄子
経理係	係 長	岡 裕一郎
	事 務 補 佐 員	木村 瑞希
	事 務 補 佐 員	井上 蓉子
用度係	用 度 係 長	鈴木 祐利
	事 務 補 佐 員	玉手 理絵
	事 務 補 佐 員	郷古 昌代
	事 務 補 佐 員	竹林 茉由
	専 門 職 員	滝沢 光拓
	事 務 補 佐 員	國分 美奈

B 専任教員における外国人教員比率（平成 27 年 3 月 31 日現在）

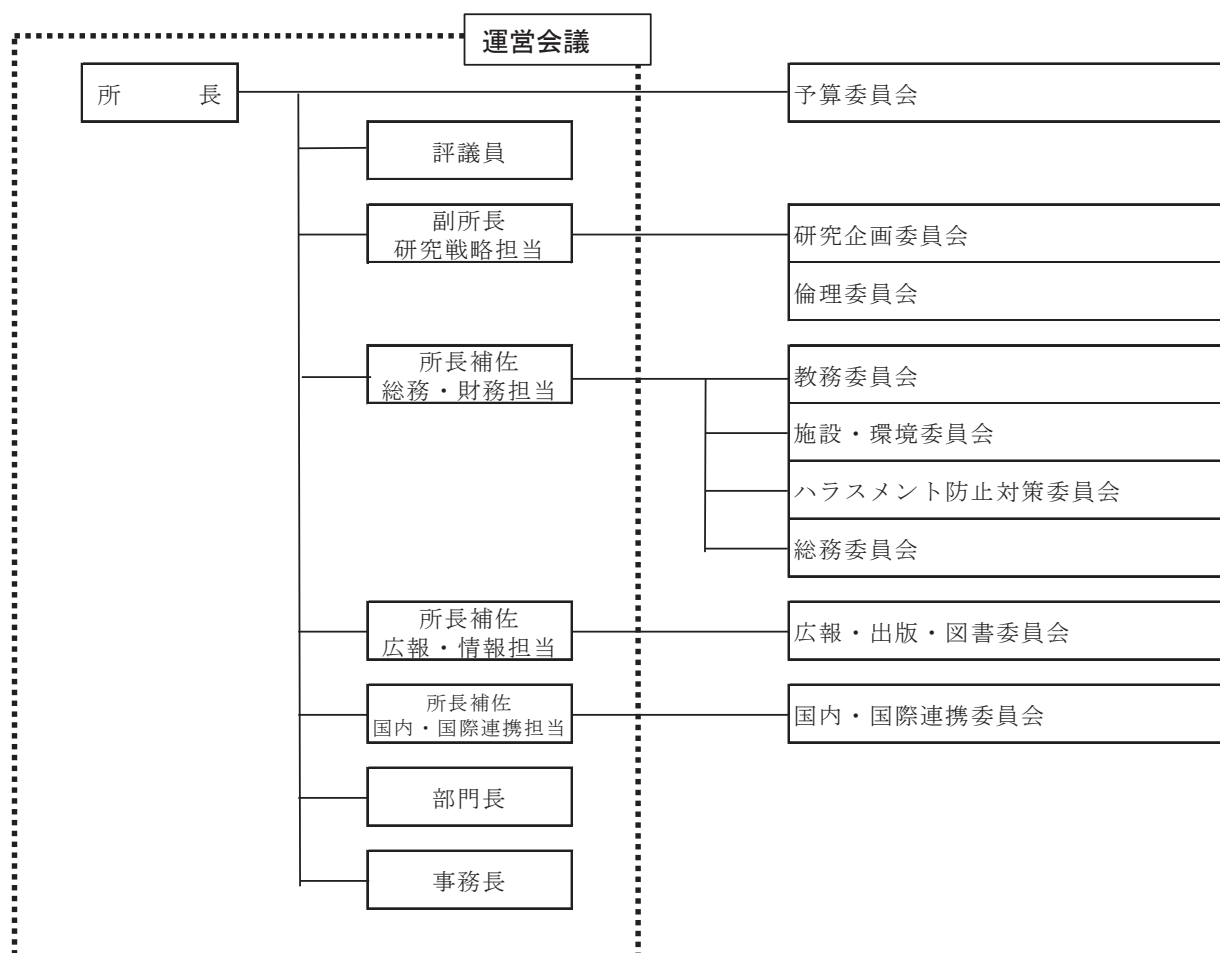
	教員数	外国人教員数	教員数における 外国人教員の割合
教授	23	0	0.0%
准教授	14	2	14.3%
講師	2	0	0.0%
助教	28	10	35.7%
助手	4	0	0.0%
計	71	12	16.9%

※外国人教員数は内数

C 専任教員における女性教員比率（平成 27 年 3 月 31 日現在）

	教員数	男	女	教員数における 女性教員の割合
教授	23	23	0	0.0%
准教授	14	11	3	21.4%
講師	2	1	1	50.0%
助教	28	22	6	21.4%
助手	4	3	1	25.0%
計	71	60	11	15.5%

D 研究所内会議・委員会構成



委 員 会 名	所 掌 内 容
予 算 委 員 会	研究所予算関係
研 究 企 画 委 員 会	研究企画，国際連携，社会連携，
倫 理 委 員 会	研究倫理等
教 務 委 員 会	研究科・学部との教育関係，災害研入居学生等の管理等
施 設 ・ 環 境 委 員 会	建物，環境関係
ハラスメント防止対策委員会	ハラスメント関係
総 務 委 員 会	研究所総務関係
広 報 ・ 出 版 ・ 図 書 委 員 会	広報，出版物の企画・編集，図書，ネットワーク
国 内 ・ 国 際 連 携 委 員 会	産官学連携，自治体連携，国際連携，APRU 等

会 議 名	構 成 員	審 議 事 項
教 授 会	専任教授	人事・予算
拡 大 教 授 会	専任の教授・准教授	研究所に関する情報伝達と情報交換
全 体 会 議	専任の教授・准教授・講師・助教	研究所に関する情報伝達と情報交換
拡 大 全 体 会 議	専任の教授・准教授・講師・助教，スタッフ，研究協力教員（学内外）	研究に関する情報伝達・情報交換

E 運営会議及び各種委員会

1. 運営会議構成員

所 長	今村 文彦	教授
副所長	奥村 誠	教授
(研究戦略担当)		
評議員	源栄 正人	教授
所長補佐	村尾 修	教授
(総務・財務担当)		
所長補佐	伊藤 潔	教授
(広報・情報担当、広報室長)		
所長補佐	小野 裕一	教授
(国内・国際連携担当)		
部門長		
災害リスク研究部門	越村 俊一	教授
人間・社会対応研究部門	丸谷 浩明	教授
地域・都市再生研究部門	寺田賢二郎	教授
災害理学研究部門	遠田 晋次	教授
災害医学研究部門	江川 新一	教授
情報管理・社会連携部門	佐藤 健	教授

2. 各種委員会委員長

(1) 予算委員会委員長	今村 文彦	教授 (所長)
(2) 研究企画委員会委員長	奥村 誠	教授 (副所長 研究戦略担当)
(3) 教務委員会委員長	村尾 修	教授 (所長補佐 (総務・財務担当))
(4) 施設・環境委員会委員長	村尾 修	教授 (")
(5) ハラスメント防止対策委員会委員長	村尾 修	教授 (")
(6) 総務委員会委員長	村尾 修	教授 (")
(7) 広報・出版・図書委員会委員長	伊藤 潔	教授 (所長補佐 (広報・情報担当))
(8) 国内・国際連携委員会委員長	小野 裕一	教授 (所長補佐 (国内・国際連携担当))
(9) 倫理委員会委員長	富田 博秋	教授

3. 2014 年度委員会名簿 (WG メンバー)

委員会	委員長・ 副委員長	委員	WG 名	WG メンバー
予算委員会	◎今村文彦 ○奥村 誠	源栄正人, 村尾修, 伊藤潔, 小野裕一, 大野晋, 阿部事務長		
研究企画委員会	◎奥村 誠 ○佐藤 健	災害リスク: 越村俊一, 呉修一* 人間・社会対応: 丸谷浩明 地域・都市再生: 寺田賢二郎 災害理学: 遠田晋次 災害医学: 江川新一, 佐々木宏之* 寄付研究: Suppasri Anawat	金曜フォーラム WG	★佐々木宏之, 今井健太郎, 菅原大介, 野内類, 天野真志, 岡田真介, 佐藤翔輔
			緊急調査 WG	★呉修一 (洪水), Jeremy Bricker (高潮), 今井健太郎 (津波国内), Eric Mas (津波海外), 天野真志 (歴史資料), 森口周二 (土砂), 岡田真介 (地震), 浩 日勒 (感染症), Suppasri Anawat (津波海外), 久利美和 (火山)
広報・出版・図書委員会	◎伊藤 潔 ○遠田晋次 ○中山雅晴	越村俊一, 寺田賢二郎, 富田博秋, ブリッカー・ジェレミー, 坂巻隆史, 井内加奈子, 加藤準治*, 菅原大助*, 飯沼卓史*, 和田育子*, 中鉢奈津子* (特任助教), 鈴木通江* (広報室職員)	ニューズレターWG	★井内加奈子, ブリッカー・ジェレミー, 三木康宏, 中鉢奈津子, 鈴木通江
			年次報告書 WG	★寺田賢二郎, 富田博秋, 丹羽雄一, 今井健太郎, 蝦名裕一, 稲葉洋平, イケリーン チョンヨン, 中鉢奈津子, 鈴木通江
			出版物 WG	★菅原大助, 邑本俊亮, 千田浩一, 佐藤翔輔, 中鉢奈津子, 鈴木通江
			情報発信 WG	★菅原大助, 兪志前, 柴山明寛, 中鉢奈津子, 鈴木通江
			展示 WG	★飯沼卓史, 岡田真介, 和田育子, 天野真志
			GIS・ソフト管理 WG	★越村俊一, 花岡和聖, イ・ケリーン・ チョンヨン
			ノベルティグッズ WG	★和田育子, 野内類
教務委員会	◎村尾 修 (工) ○日野亮太 (理)	工学系: 五十子幸樹, 森口周二 医学系: 千田浩一 情報科学: 邑本俊亮 法学系: 丸谷浩明 環境科学: 佐藤大介 リーディング: 越村俊一	グローバル安全学 WG	★日野亮太, ☆松本行真, 久利美和, 地引泰人, 杉安和也 C-LAB 担当: 越村俊一
施設・環境委員会	◎村尾 修 ○平野勝也 ○柴山明寛	石坂公一, 江川新一, 大野晋, 木戸元之, 佐藤大介, 川島秀一	施設管理 WG	★平野勝也, ☆柴山明寛, 後藤和久, 佐藤大介, 寺田賢二郎, 木戸元之, 江川新一
			環境衛生 WG	★木戸元之, ☆佐々木宏之, 花岡和聖, 大野晋, 佐藤大介, ブリッカー・ジェレミー
			ネットワーク WG	★柴山明寛, ☆大野晋, 寺田賢二郎, 今井健太郎, 飯沼卓史, 中山雅晴
			デザインコード WG	★村尾修, ☆平野勝也, 柴山明寛, 越村俊一, 鈴木祐利 (用度)
ハラスメント防止対策委員会	◎村尾 修 ○今村文彦	教授代表: 真野明, 准教授・女性 教職員代表: 有働恵子, 助教代表: 飯沼卓史*, 事務・非常勤職員および	男女共同参画 WG	★有働恵子, 飯沼卓史

		び過半数代表候補者：滝沢光拓（専門職員）＊		
国内・国際 連携委員会	◎小野裕一 ○村尾 修 ○泉 貴子 ○池田菜穂＊	寺田賢二郎 川島秀一 丸谷浩明 服部俊夫 後藤和久 井内加奈子 サッパシー・アナワット	被災自治体 支援 WG	★池田菜穂，佐藤翔輔，安倍祥，小林 徹平
			産官学連携 WG	★小野裕一，丸谷浩明，柴山明寛，佐 藤翔輔
			気仙沼分室 WG	★川島秀一，坂巻隆史，笠原好之，池 田菜穂，佐藤翔輔，安倍祥
			被災地ガイ ドブック作 成 WG	★後藤和久，サッパシー・アナワット， 菅原大助，池田菜穂，安倍祥
			片平祭企画 WG	（26 年度なし）
			知のフォー ラム WG	★泉貴子，小野裕一，リーディング大 学院教員，江川新一，村尾修，ブリッ カー・ジェレミー，サッパシー・アナ ワット，柴山明寛，桜井愛子，呉修一， 池田菜穂，ローバー・フォルカ，マリ・ エリザベス，保田真理
			APRU-WG	★泉貴子，小野裕一，真野明，リーデ ィング大学院教員
			大学間コン ソーシアム 連携 WG	★村尾修，源栄正人，寺田賢二郎
			国連防災世 界会議準備 WG	★小野裕一，奥村誠，村尾修，江川新 一，丸谷浩明，越村俊一，服部俊夫， 小野田泰明，寺田賢二郎，遠田晋次， 佐藤健，真野明，源栄正人，井内加奈 子，サッパシー・アナワット，平野勝 也，柴山明寛，泉貴子，桜井愛子，佐 藤翔輔，呉修一，和田育子，イ・ケリ ーン・チョンヨン，エリック・マス， 池田菜穂，マリ・エリザベス，保田真 理，安倍祥， リーディング大学院教員
			HFA レポー ト作成 WG	★村尾修，井内加奈子，遠田晋次，佐 藤健，泉貴子，桜井愛子
			国連防災世 界会議企画 WG	★村尾（地），☆森口（地），柴山（情）， 寺田（地），野内（人），三木（医）， 奥村（人），和田（理），保田（リ）， 呉（リ）（展示 WG），広報室，国連防 災世界会議準備室
総務委員会	◎村尾 修 ○奥村 誠	越村俊一，丸谷浩明，佐藤健，江 川新一，事務職員	落成式 WG	★森口周二，奥村誠，柴山明寛，鈴木 裕介，金進英，花岡和聖，丹羽雄一， 三木康宏，阿部昭，菊地綾子，伊藤智 栄子，中鉢奈津子，鈴木通江，和田育 子
			防災計画策 定 WG	★丸谷浩明，佐藤健，江川新一，邑本 俊亮，柴山明寛，安倍祥，後藤和久， 事務職員
倫理委員会	◎富田博秋 ○邑本俊亮	奥村 誠，川島秀一，日野亮太， 栗山進一，有働恵子		（委員長・副委員長は委員の互選）

(2) 研究資金

A 平成26年度 災害科学国際研究所歳出決算

(単位：百万円)

区 分	決 算 額	備 考
運営費交付金	461	
教員人件費	378	
教育研究費	61	
一般管理費	22	非常勤人件費含む
運営費交付金（特別）	638	平成24年度繰越分および人件費含む
間接経費	52	
外部資金	597	
寄附金	54	寄附部門含む
受託研究費	186	厚労科研委託費含む
共同研究費	15	
受託事業費	10	
科学研究費補助金	312	厚労科研費含む
その他補助金	20	
合 計	1,748	

※単位未満四捨五入

※特殊要因経費除く

B 研究者一人あたりの研究費

平成27年3月末現在（単位：千円）

事 項	研究費総額 (A)	専任教員数 (B)	教員一人あたり の研究費 (A/B)	備 考
運営費交付金	36,480	68	536	
運営費交付金（特別）	139,374	68	2,050	
受託研究費等	388,921	68	5,719	受託研究費、共同研究費、受託事業費、その他補助金を含む
科学研究費補助金	284,217	68	4,180	文科省科研費、厚労省科研費を含む
合 計	848,992	68	12,485	

※専任教員数は研究費配分対象者の総数

C 平成26年度科学研究費補助金採択一覧表

文科学研究費

平成27年3月末現在

	課題番号	研究種目	研究課題名等	直接経費	間接経費	合計	部 門 名	分 野 名	職名	研究者	備 考
1	24116007	新学術領域研究	精神神経免疫相関に関する精神疾患病態のマイクロエンvironmentの解明	11,600,000	3,480,000	15,080,000	災害医学研究部門	災害精神医学分野	教授	富 田 博 秋	H24 - H28
2	25242035	基礎研究(A)	リモートセンシングとソーシャルセンシングの融合による被災地支援策の刷新	7,300,000	2,190,000	9,490,000	災害リスク研究部門	広域被害把握研究分野	教授	越 村 俊 一	H25 - H28
3	25242036	基礎研究(A)	東日本大震災復興システムのレジリエンスと沿岸地域における津波に対する脆弱性	6,000,000	1,800,000	7,800,000	地域・都市再生研究部門	国際防災戦略研究分野	教授	村 尾 修	H25 - H29
4	25246043	基礎研究(A)	瀬上津波と構造物の相互作用評価のためのマルチスケール数値実験	12,000,000	3,600,000	15,600,000	地域・都市再生研究部門	地域安全工学研究分野	教授	寺 田 賢 二 郎	H25 - H27
5	26242033	基礎研究(A)	学際連携による三陸地方の古地震・古津波の実態解明	11,500,000	3,450,000	14,950,000	災害リスク研究部門	津波工学研究分野	教授	今 村 文 彦	H26 - H28
6	26257506	基礎研究(A)	熱帯・災害感染症におけるマトリセラー蛋白質の臨床的意義に関する研究	8,500,000	2,550,000	11,050,000	災害医学研究部門	災害感染症学分野	教授	服 部 俊 夫	H26 - H29
7	23404019	基礎研究(B)	インド洋津波後の都市復興計画の検証と地球温暖化によるアジア都市の津波リスク	2,100,000	630,000	2,730,000	地域・都市再生研究部門	国際防災戦略研究分野	教授	村 尾 修	H23 - H27
8	24300179	基礎研究(B)	患者放射線被曝情報の総合管理システムの研究開発	1,900,000	570,000	2,470,000	災害医学研究部門	災害放射線医学分野	教授	千 田 浩 一	H24 - H27
9	24300226	基礎研究(B)	東日本大震災の経験に基づいた持続可能なセーフ・スクールモデルの創造	2,800,000	840,000	3,640,000	情報管理・社会連携部門	災害復興実践学分野	教授	佐 藤 健	H24 - H27
10	24320114	基礎研究(B)	巨大災害に対応するネットワーク型歴史資料保全システム構築のための実践的研究	2,700,000	810,000	3,510,000	人間・社会対応研究部門	歴史資料保存研究分野	准教授	佐 藤 大 介	H24 - H28
11	24360220	基礎研究(B)	免震建築物制用軸力制限機構付回転慣性マダンバーの開発	4,500,000	1,350,000	5,850,000	災害リスク研究部門	最適減災技術研究分野	教授	五 十 子 幸 樹	H24 - H26
12	25289157	基礎研究(B)	人口減少下の持続的都市間交通ネットワーク計画論の確立	3,000,000	900,000	3,900,000	人間・社会対応研究部門	被災地支援研究分野	教授	奥 村 誠	H25 - H28
13	26289158	基礎研究(B)	2011年大津波による大規模侵食の機構解明と効果的侵食対策の提案	4,600,000	1,380,000	5,980,000	災害リスク研究部門	災害ポテンシャル研究分野	教授	真 野 明	H26 - H28
14	26289187	基礎研究(B)	多点リアルタイム地震観測データを用いた地震防災システムの実用化	6,100,000	1,830,000	7,930,000	災害リスク研究部門	地域地震災害研究分野	教授	源 栄 正 人	H26 - H28
15	26302007	基礎研究(B)	波源推定の高精度化に向けた島嶼部での津波堆積物研究	4,600,000	1,380,000	5,980,000	災害リスク研究部門	低頻度リスク評価研究分野	准教授	後 藤 和 久	H26 - H28
16	24531171	基礎研究(C)	震災エピソードの教材化:認知心理学的アプローチ	700,000	210,000	910,000	人間・社会対応研究部門	災害情報認知研究分野	教授	邑 本 俊 亮	H24 - H27
17	24590442	基礎研究(C)	密微小環境における間質線維細胞の組織型による機能比較	1,100,000	330,000	1,430,000	災害医学研究部門	災害産婦人科学分野	講師	三 木 康 宏	H24 - H26
18	25350492	基礎研究(C)	津波痕跡高を用いた地震規模推定法の高精度化研究	1,000,000	300,000	1,300,000	災害リスク研究部門	津波工学研究分野	助教	今 井 健 太 郎	H25 - H27
19	25420515	基礎研究(C)	地形乱流場における飛砂メカニズムの解明	1,300,000	390,000	1,690,000	災害リスク研究部門	災害ポテンシャル研究分野	准教授	有 働 恵 子	H25 - H27
20	25420621	基礎研究(C)	小地域データを活用した被災地支援方策および想定大地震事前対策に関する研究	1,700,000	510,000	2,210,000	地域・都市再生研究部門	都市再生計画技術分野	教授	石 坂 公 一	H25 - H27
21	26420542	基礎研究(C)	超巨大地震に対応した次世代高精度地震動評価式の開発	1,700,000	510,000	2,210,000	災害リスク研究部門	地域地震災害研究分野	准教授	大 野 晋	H26 - H28
22	26420597	基礎研究(C)	被災コミュニティの再定住政策と計画決定過程の研究:アチーブ・中部ジャバ地域事例	1,200,000	360,000	1,560,000	人間・社会対応研究部門	防災社会国際比較研究分野	准教授	井 内 加 奈 子	H26 - H28
23	26510002	基礎研究(C)	東日本大震災を踏まえた中小企業にも可能な有効な災害時事業継続方策の研究	1,300,000	390,000	1,690,000	人間・社会対応研究部門	防災社会システム研究分野	教授	丸 谷 浩 明	H26 - H28
24	26510008	基礎研究(C)	持続発展可能な防災教育の推進に向けた国際協力モデル構築に関する基礎的研究	1,300,000	390,000	1,690,000	情報管理・社会連携部門	災害復興実践学分野	准教授	櫻 井 愛 子	H26 - H28
25	24710176	若手研究(B)	被災自治体における防災・防犯コミュニティ構築とローカル・アクション形成に関する研究	900,000	270,000	1,170,000	リーディング大学院		准教授	松 本 行 真	H24 - H26
26	24710180	若手研究(B)	膨大なテキストデータを活用した被害対応に関する小規模な状況認識支援モデルの開発	1,200,000	360,000	1,560,000	情報管理・社会連携部門	災害アーカイブ研究分野	助教	佐 藤 翔 輔	H24 - H26
27	24720290	若手研究(B)	慶長十六年(一六六〇)大地震・大津波の新研究	800,000	240,000	1,040,000	人間・社会対応研究部門	歴史資料保存研究分野	助教	蝦 名 裕 一	H24 - H26
28	24791368	若手研究(B)	動物および外科標本を活用した消化器癌の血管リンパ管新生と転位カスケードの解明	1,000,000	300,000	1,300,000	災害医学研究部門	災害医療国際協力学分野	助教	佐 々 木 宏 之	H24 - H26
29	25820265	若手研究(B)	損傷を受けたコンクリート容器のγ線遮蔽性能定量評価	1,300,000	390,000	1,690,000	災害リスク研究部門	最適減災技術研究分野	助教	鈴 木 裕 介	H25 - H26
30	25870062	若手研究(B)	津波堆積物を用いた日本海東縁の地震・津波・本海溝沿い巨大地震との関係の三陸海岸沿い・中津平野の掘削調査に基	1,800,000	540,000	2,340,000	災害リスク研究部門	低頻度リスク評価研究分野	助教	菅 原 大 助	H25 - H26
31	26750106	若手研究(B)	第四紀地殻変動の復元と隆起・沈降要	2,000,000	600,000	2,600,000	災害理学研究部門	国際巨大地震研究分野	助教	丹 羽 雄 一	H26 - H27
32	26750112	若手研究(B)	災害警報と人間の主観的推定との相違性に関する認知心理学的研究	1,000,000	300,000	1,300,000	災害科学国際研究所		PD	行 場 絵 里 奈	H26 - H27
33	26750133	若手研究(B)	津波浸水域の建物被災度判定の自動化に向けた被災度判定支援技術に関する研究	1,200,000	360,000	1,560,000	情報管理・社会連携部門	災害アーカイブ研究分野	准教授	柴 山 明 寛	H26 - H28
34	26800230	若手研究(B)	沈み込み帯プレート境界の温度構造と滑り様式:グローバル比較研究	1,300,000	390,000	1,690,000	災害理学研究部門	海底地殻変動研究分野	助教	和 田 育 子	H26 - H27
35	26820080	若手研究(B)	柔軟素体の形状計測のための体内移動型計測装置に関する研究	1,500,000	450,000	1,950,000	地域・都市再生研究部門	災害対応ITプラットフォーム研究分野	助教	竹 内 榮 二 朗	H26 - H27
36	26820189	若手研究(B)	落石挙動予測解析の妥当性を保証する計測条件の明示	1,200,000	360,000	1,560,000	地域・都市再生研究部門	地域安全工学研究分野	准教授	森 口 周 二	H26 - H28
37	26870044	若手研究(B)	ストレスに対する精神神経疾患発症脆弱性におけるオキシトシンの機能的役割	1,500,000	450,000	1,950,000	災害医学研究部門	災害精神医学分野	助教	笠 原 好 之	H26 - H27
38	25871245	若手研究(B)	International Comparison of Post-Disaster Transitional Housing	800,000	240,000	1,040,000	人間・社会対応研究部門	防災社会国際比較研究分野	助教	マリ・エリザベス	H25 - H26
39	24650307	挑戦的萌芽研究	高磁場MRIによる心臓リハビリテーションの心機能改善効果の非侵襲的定量評価	1,000,000	300,000	1,300,000	災害医学研究部門	災害放射線医学分野	教授	千 田 浩 一	H24 - H26
40	24651195	挑戦的萌芽研究	UAVによる大規模津波・洪水被災地の生	800,000	240,000	1,040,000	災害リスク研究部門	広域被害把握研究分野	教授	越 村 俊 一	H24 - H26
41	24656299	挑戦的萌芽研究	被災地支援額のための位置センシングデータ利用手法の開発	1,000,000	300,000	1,300,000	人間・社会対応研究部門	被災地支援研究分野	教授	奥 村 誠	H24 - H26
42	25630245	挑戦的萌芽研究	デジタルアースを用いた都市リスク変遷の視覚化と災害対応建築空間アーカイブズ	900,000	270,000	1,170,000	地域・都市再生研究部門	国際防災戦略研究分野	教授	村 尾 修	H25 - H27
43	26630209	挑戦的萌芽研究	これからの材料開発に欠かせない材料ミクロ組織の仮想実験と最適化技術の新展開	1,400,000	420,000	1,820,000	地域・都市再生研究部門	地域安全工学研究分野	助教	加 藤 準 治	H26 - H28
44	26670711	挑戦的萌芽研究	閉経後の子宮体部類内腫瘍はde novoに発生し、周囲に内腫瘍腫瘍を形成す	1,200,000	360,000	1,560,000	災害医学研究部門	災害精神医学分野	教授	伊 藤 潔	H26 - H28
45	244610	特別研究員奨励費	認知情報処理特性を生かした新しい防災教育法の提案:的確な災害対応能力の強	1,000,000	300,000	1,300,000	災害科学国際研究所		PD	行 場 絵 里 奈	H24 - H26
46	245839	特別研究員奨励費	2011年東日本大震災の実態に基づいた津波被災地の早期探索技術の開発	1,000,000	0	1,000,000	災害科学国際研究所		DC1	郷 右 近 英 臣	H24 - H26
47	256600	特別研究員奨励費	読みにおける潜在的音韻処理過程の検討	900,000	0	900,000	災害科学国際研究所		DC1	新 国 佳 祐	H25 - H27
49	267122	特別研究員奨励費	広域津波被害の連鎖・複合性解明と国難災害に備える減災策の立案	900,000	0	900,000	災害科学国際研究所		DC1	林 里 美	H26 - H28
50	268761	特別研究員奨励費	マルチスケール非線形破壊力学モデルと多重化学物理連成解析手法の構築	1,000,000	0	1,000,000	災害科学国際研究所		DC2	新 宅 勇 一	H26 - H27
51	265180	研究成果公開促進費	被災コミュニティの実相と変容	2,900,000	0	2,900,000	リーディング大学院		准教授	松 本 行 真	H26
52	26000002	特別推進研究	深海調査で迫るプレート境界浅部すべりの謎とその過去・現在	150,500,000	45,150,000	195,650,000	災害理学研究部門	海底地殻変動研究分野	教授	日 野 亮 太	H26 - H30
53	26882001	研究活動サポート支援	三陸海岸の地形・地質情報に基づく第四紀後期の地殻変動に関する情報の高精度	1,000,000	300,000	1,300,000	災害理学研究	国際巨大地震研究分野	助教	石 村 大 輔	H26
54	26・04370	特別研究員奨励費	ボリビア・アマゾンにおける将来の気候変動と人為活動が洪水リスクに与える影響評価	700,000	0	700,000	災害科学国際研究所		外国人特別研究員	Vladimir Moya Quiroga Gomez	H26
55	24・02702	特別研究員奨励費	東日本大震災復興における「死」を巡るポリテックス:記憶、宗教と国家	17,075	0	17,075	情報管理・社会連携部門	災害アーカイブ研究分野	助教	BORET Sebastien	H24 - H26
総 計				284,217,075	83,040,000	367,257,075					

平成 年度外部資金受入状況

平成 年 月末現在 単位：千円)							
区 分	研究課題名称	研究期間	研究代表者	直接経費	間接経費	合計	備 考
受託研究費	精神神経疾患のバイオマーカーの探索と臨床対応に関する研究	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	富 田 博 秋				
	気候変動と社会環境変化に対する水資源管理適応策の総合影響評価	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	奥 村 誠				
	ペルーにおける津波予測と被害軽減	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	越 村 俊 一				
	南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	今 村 文 彦				
	地震・津波の予測精度の高度化に関する研究	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	今 村 文 彦				
	台風 号（ヨランダ）による強風・豪雨・高潮の複合災害の広域被害把握とマッピング	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	越 村 俊 一				
	シールドトンネルの継手付近における腐食シミュレーションに関する研究	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	寺田賢二郎				
	津波痕跡データベースの高度化	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	今 村 文 彦				
	フィリピン台風 号の心理社会的側面への影響に関する実態調査	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	富 田 博 秋				
	津波堆積物データベースの整備	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	後 藤 和 久				
	構造物への作用波力評価手法の整備	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	越 村 俊 一				
	リアルタイム津波浸水・被害予測・災害情報配信による自治体の減災力強化の実証事業	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	越 村 俊 一				
	大規模・高分解能数値シミュレーションの連携とデータ同化による革新的地震・津波減災ビッグデータ解析基盤の創出	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	越 村 俊 一				
	レジリエントな防災・減災機能の強化	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	日 野 亮 太				
	レベルセット法を用いたトポロジー最適化の基礎技術の展開及びイノベーションスタイルの実施体制構築と、設計技術、新構造技術の最新動向の調査	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	寺田賢二郎				
共同研究費	環境研究総合推進費 温暖化影響評価・適応政策に関する総合研究	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	有 働 恵 子				
	多剤耐性結核の分子疫学的解析、診断・治療法の開発に関する研究 多剤性結核に関する研究	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	服 部 俊 夫				
	計						
	人獣共通感染症リサーチセンターにおける共同研究の推進	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	服 部 俊 夫				
	津波避難へ活用するための津波週上の可視化	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	今 村 文 彦				
	合金の双晶 転位相互作用の研究	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	寺田賢二郎				
	海底地殻変動観測技術の高度化に関する研究	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	日 野 亮 太				研究費を伴わない契約
	東北沖海溝近傍での地殻変動、津波、地震共同観測	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	日 野 亮 太				研究費を伴わない契約
	リアルタイム津波災害予測技術の研究開発	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	今 村 文 彦				
	環境省・子どもの健康環境に関する全国調査における血中アミノ酸測定とその解析	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	栗 山 進 一				研究費を伴わない契約
受託事業費	国連防災世界会議のパブリックフォーラム及び防災復興に関する展示内容の調査研究	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	小 野 裕 一				
		平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	今 村 文 彦				
	津波・地殻変動観測システムの開発	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	木 戸 元 之				研究費を伴わない契約
	計						
	論文博士号取得希望者に対する支援事業	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	越 村 俊 一				
	歴史的に繰り返す災害に対する都市の脆弱性と強靱化の日米比較研究	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	ブリッকার ジェレミー				
	外国人特別研究員（欧米短期）	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	石 坂 公 一				
	平成26年度研究成果の社会還元・普及事業 （ことば・心・コミュニケーション）	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	邑 本 俊 亮				
その他補助金	河北新報震災アーカイブシステム保守業務	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	柴 山 明 寛				
	東日本大震災アーカイブ（みちのく震縁伝）を利活用した防災・減災に係る社会技術開発	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	佐 藤 翔 輔				
	減災用品のストックに関するシステム・商品開発	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	保 田 真 理				
	みんなの防災手帳	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	今 村 文 彦				
	計						
合 計	平成 年度研究大学強化促進事業	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	泉 貴 子				
	スーパーグローバル大学創成支援	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日	今 村 文 彦				
計							
合 計							

平成26年度 寄附金の受入状況について

受入総額：50,676,846円

○研究助成金

(単位 円)

	助成金名称	寄付者名	受入教員	備 考
	放射線検査学研究助成金	東日本メディカルシステム株式会社 代表取締役 石井 喜幸	千田 浩一	
4 月 計			件	
	災害医学や災害感染症対策強化活動等への支援金	株式会社日本微生物研究所 代表取締役社長 齋藤 哲郎	服部 俊夫	
	災害医学や災害感染症対策強化活動等への支援金	株式会社日本微生物研究所 代表取締役社長 齋藤 哲郎	江川 新一	
	津波工学研究分野研究助成金	五洋建設株式会社 代表取締役社長 村重 芳雄	今村 文彦	
	C に関する研究助成金	株式会社ブリヂストン 代表取締役C 津谷 正明	寺田賢二郎	
5 月 計			件	
	C に関する研究助成金		泉 貴子	
6 月 計			件	
	平成 年度国土地理協会学術研究助成	公益財団法人国土地理協会 会長 鶴田 定巳	丹羽 雄一	
7 月 計			件	
	漁港漁業漁村総合研究助成金	一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所 理事長 影山智将	坂巻 隆史	
	シトリン欠損症の早期発見と対処に資する調査事業	栗山 進一	栗山 進一	
8 月 計			件	
	C に関する研究助成金	特定非営利活動法人非線形C 協会 理事長 寺田賢二郎	寺田 賢二郎	
	津波工学研究分野研究助成金	株式会社東京建設コンサルタント 代表取締役 大村 善雄	今村 文彦	
	シトリン欠損症の早期発見と対処に資する調査事業	栗山 進一	栗山 進一	
	津波工学研究分野研究助成金	東洋建設株式会社 代表取締役社長 武澤 恭司	今村 文彦	
10 月 計			件	
	津波工学研究分野研究助成金	日本工営株式会社中央研究所 所長 田中 弘	今村 文彦	
11 月 計			件	
	津波工学研究分野研究助成金	日本データサービス株式会社 代表取締役 石原 智樹	今村 文彦	
	免震・制振構造構造の最適設計研究助成	公益財団法人LIXIL住生活財団 理事長 潮田 洋一郎	五十子 幸樹	
	津波工学研究分野研究助成金	大成建設株式会社 執行役員技術センター長 松井 達彦	今村 文彦	
12 月 計			件	

	助成金名称	寄付者名	受入教員	備 考
	防災教育研究助成金	自然災害研究協議会東北地区部会 部会長 松澤暢	佐藤 健	
	学術研究集会助成金	一般財団法人青葉工学振興会 理事長 根元義章	村尾 修	
	応用水理学に関する研究助成金	八千代エンジニアリング株式会社 代表取締役社長 花岡 憲男	真野 明	
	災害アーカイブ研究助成金	積水ハウス株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 C 室長 広瀬 雄樹	柴山 明寛	
1 月 計			件	
	防災教育の普及・推進・高度化に関わる研究・実践	桜井 愛子	桜井 愛子	
	建築物の減災技術開発に関する研究	東京鉄鋼株式会社 代表取締役社長 吉原 每文	鈴木 裕介	
	災害医療情報学研究助成金	武田薬品工業株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 部長 平手 晴彦	中山 雅晴	
	放射線検査学研究助成金	トーレック株式会社 代表取締役 佐藤 公悦	千田 浩一	
	災害アーカイブ研究助成金	株式会社藤商事 代表取締役 藤崎 敏夫	柴山 明寛	
	地域安全工学研究分野	クリスティ・デジタル・システムズ日本支社 支社長 半澤 衛	寺田 賢二郎	
	C に関する研究助成金	株式会社メカニカルデザイン 代表取締役 小林 卓哉	寺田 賢二郎	
2 月 計			件	
	免震・制振構造構造の最適設計研究助成	公益財団法人大林財団 理事長 大林 剛郎	五十子 幸樹	
	防災キャンププログラム開発に関する研究助成	株式会社スノーピーク 代表取締役社長 山井 太	村尾 修	
	防災教育研究助成金	一般社団法人防災教育普及協会 会長 平田直	佐藤 健	
3 月 計			件	
総 計			件	

○寄附部門

(単位 円)

	助成金名称	寄付者名	件数	備 考
	地震津波リスク評価 (東京海上日動) 寄附研究部門	東京日動海上	1 件	※本部で受入 年度分

4 研究活動

(1) 研究部門・研究分野の研究活動

災害リスク研究部門活動報告

報告者氏名：越村 俊一

部門目標
東日本大震災の被害の全容と教訓を踏まえ、世界の防災・減災技術の再構築を目指す。地震や津波、風水害の被害の発生メカニズムの解明、観測データの統合・同化、先端センシング技術を活用しながら、将来の巨大災害の発生が予想されている地域の災害リスクの軽減やさらなる備えを支援し、災害という脅威を防ぎ止めるだけでなく、人間・社会が賢く備えて対応するための実践的研究に取り組む。
2014 年度の部門活動報告
<p>理学・工学を基盤として、防災・減災技術の再構築に向けた研究に取り組んだ。7 つの分野で構成される災害リスク研究部門の活動を以下に列挙する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東北地方太平洋沖地震による振動被害過程の解明、構造ヘルスマモニタリングと早期地震警報との融合技術の開発に取り組んだ（地域地震災害研究分野） ・ 津波工学のトップランナーとして、産学による数値解析モデルの開発、歴史津波の学際的な再評価、減災のための教育プログラムの提案に取り組んだ（津波工学研究分野） ・ 気候変動による砂浜消失予測モデルの高度化、気候変動による砂浜消失リスク評価。洪水氾濫予測の高度化に取り組んだ（災害ポテンシャル研究分野） ・ 数値シミュレーション・リモートセンシング・ジオインフォマティクスを融合した新しい「広域被害把握技術」の基盤構築に取り組んだ（広域被害把握研究分野） ・ 都市・建築の耐震性能高度化のための革新的高性能振動制御装置の開発、放射線遮蔽コンクリートのリスク評価体系の構築に取り組んだ（最適減災技術研究分野） ・ 過去数千年間の津波履歴と規模の推定と将来の津波リスク評価手法の構築。津波堆積物研究の国際的な連携を推進し、学術的にも高い評価を得た（低頻度リスク評価研究分野） ・ 河川洪水、ハリケーンによる高潮・高波、爆弾低気圧および津波による被害を調査し、シミュレーションを用いて被害メカニズムを解明するための研究を推進した（国際災害リスク研究分野）

災害リスク研究部門 分野活動報告

分野名	地域地震災害研究分野	報告者氏名	源 栄 正人
分野目標	<p>「インセンティブ防災、リアルタイム防災」による地域の地震災害軽減が目標。前者は地域の地震・地盤環境と社会環境を考慮した最適な防災対策・耐震対策の研究であり、後者はリアルタイムに得られる地震・地震動や建物被害等の災害情報を用いて効率的な地震被害低減を目指すものである。</p>		
2014 年度の分野活動報告	<p>地震観測記録と被害データに基づき東北地方太平洋沖地震による振動被害過程の解明を進め、単に上部構造だけでなく入力地震動の相違が被害に大きく影響すること、地震動と建物双方の振動特性の関係が重要であることを示すと同時に、地盤環境調和型地震対策としてマイクロゾーニングに向けた研究を行った。また、東日本大震災で特徴的であった長時間地震動や余震による累積損傷の影響についても検討し、盆地内で累積応答が大きくなること、本震のみならず過去の地震や余震の影響も大きいことを示した。それと同時に、上部構造と基礎構造のバランス、構造躯体と非構造・設備とのバランスのとれた都市・建築の総合的地震対策に向けた国内外への情報発信を行っている。</p> <p>また、構造ヘルスマモニタリングと早期地震警報との融合技術として地域版リアルタイム地震観測システムを構築し、地域の地震防災に有効活用するための研究を行っている。2014 年度は、対象地域の拡大を目指して宮城県内のリアルタイム地震観測網を拡充し、岩手県・山形県の公共施設への地域展開を行った。このシステムのモンゴル国ウランバートル市への海外展開を進めるとともに、これらの研究成果に基づく防災教育活動も行っている。</p> <p>一方、国内外で東北地方太平洋沖地震に代表される超巨大地震の発生が危惧されており、超巨大地震に対応した地震動予測手法の開発を進めた。また、東日本大震災で大きな被害を受けた東北大学青葉山キャンパスに新設された免震建物についても、上記リアルタイム地震観測システムを導入するとともに、常時微動観測により継続的な耐震モニタリングのための竣工時の振動特性評価を実施した。さらに、超高層ビルの地震ヘルスマモニタリングの高度化を目指し、常時微動測定による各階の剛性推定手法の開発を進めた。</p>		

分野名	津波工学研究分野	報告者氏名	今村 文彦
分野目標			
<p>津波工学研究分野は津波減災を目指す研究のトップランナーとして活動を進めている。東日本大震災での被害実態と得られた教訓を国内外の防災・減災活動に活かす研究教育の実践を行い、特に、産学による数値解析モデルの開発、歴史津波に対する学際的な再評価、減災のための教育プログラムの提案などが目標である。</p>			
2014 年度の分野活動報告			
<p>(1)産学による数値解析モデルの開発：国際的に広く用いられている TUNAMI-N2 をもとに、大規模計算機で実行可能な高解像度津波モデルを富士通(株)と共同で開発した。並列津波モデルは文部科学省が推進する HPCI 戦略プログラム分野 3「防災・減災に資する地球変動予測」において、スーパーコンピュータ「京」に移植し性能を検証し開発された。その結果、ワークステーションで数日を要する高解像度の津波の浸水計算が 2 分以内で完了する結果が得られた。(2)歴史津波に対する学際的な再評価：津波痕跡データベースの対象拡大と機能拡張を行った。特に、津波検潮記録などの情報もデータとして取り込み、定量的な解析に活用できるものとした。また、また、波源モデルのデータベースも作成し過去の研究による断層モデルについて取りまとめた。この成果は、第 3 回国連防災世界会議でのパブリックフォーラムなどでの成果発表を行った。(3)減災のための教育プログラムの提案：本学と仙台放送の連携企画である減災プロジェクト「結」を開始し、宮城県内で小学 5 年生全員へ減災ポケットの配布と県内 70 校への出前授業を実施した。第 3 回国連防災世界会議関連として、1 月 31 日に減災こども国際フォーラムを開催し、子供らによる提言をまとめた。会議中には、パブリックフォーラムで学校防災と教育、さらに持続可能な開発に関連した「仙台宣言」をまとめ、引き続き総合フォーラムなどで発表し、協力を求めた。</p>			

分野名	災害ポテンシャル研究分野	報告者氏名	有働 恵子
分野目標			
<p>災害ポテンシャル研究分野は、津波、高潮、高波、洪水、渇水、汚染などの水災害の被災メカニズムを明らかにし、災害リスクを定量化するとともに、効率的な被害軽減技術を開発することを目標としている。将来は気候変動に伴う海面上昇や降雨特性変化などが水災害に及ぼす影響も危惧されており、そのリスク評価と適応策についても重要な課題である。</p>			
2014 年度の分野活動報告			
<p>真野教授は、科研費および特プロの研究費で局所洗掘予測技術の開発を行った。津波の戻り流れによる防潮堤など構造物周辺の侵食には、過剰間隙水圧による液状化が無視できないことを示した。東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会を主導し、国連防災世界会議の関連事業としてパブリック・フォーラムを開催した。この中で、がれき処理の功績に対して土木学会より特別表彰を得た。</p> <p>有働准教授は、宮城・岩手沿岸部を対象として、津波による砂浜被災特性の解析を行った。この過程で、地中レーダ探査による被災特性把握技術の開発にも取り組んだ。また、気候変動による砂浜消失予測モデルの改良を行い、これを用いた気候変動による砂浜消失リスク評価を行った。以上の「砂浜消失リスクに関する総合的研究」について、第 14 回インテリジェント・コスモス奨励賞を受賞した。</p> <p>坂巻准教授は、宮城・岩手沿岸の流域を対象として震災および流域開発が水環境に及ぼす影響の解析を行った。また、震災により大きな被害を受けた南三陸町沿岸を対象フィールドとして、沿岸環境管理方策の適正化を念頭に、物質動態と養殖漁業の相互関係の定量的理解、藻場や河口等エコトーンの生態学的役割の把握のためのフィールド調査研究を展開した。当研究では、南三陸町内の漁業従事者と連携を密にとりながら生物地球化学的環境や生物群集に関するデータ取得とその関係性についての解析を行った。</p> <p>呉助教は、インドネシア・ジャカルタ全域を対象とした洪水氾濫解析手法を開発し、洪水メカニズムの定量的評価を行うとともに各種対策の洪水低減効果の評価を行った。本手法を用いることで準リアルタイムでのジャカルタ全域の洪水氾濫予測が実施可能となる。また、フィリピン台風ハイエンの被害拡大要因に関して、大きな外力、沿岸部への人口集中、貧困に加えて、村長のリーダーシップや知識が大きな要因であることを現地学際調査より明らかにした。</p>			

分野名	広域被害把握研究分野	報告者氏名	越村 俊一
分野目標			
数値シミュレーション・リモートセンシング・ジオインフォマティクスを融合した新しい「広域被害把握技術」の基盤を構築し、その成果を国際社会で共有して、効果的な災害救援活動に資する。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>専任教員の越村俊一教授と Erick Mas 助教は、G 空間情報を基盤として、最新の測位・観測技術によるモニタリングと、リアルタイムシミュレーション・リモートセンシング技術、ソーシャルセンシング技術を高度に融合し、センシング情報を活用するためのビッグデータプラットフォームを社会に実装するための、産学官の新たな研究を推進した。特に、リアルタイムシミュレーションは、サイバーサイエンスセンターとの共同研究で、スーパーコンピュータの計算資源の常時確保により、地震発生後 20 分以内に 10m メッシュでの津波浸水被害予測とそのマッピングを行うことを実証した。地震の震源情報を自動で取得し、津波の発生・伝播・浸水・被害予測・図化・配信を、人の手や判断を介さず全自動で行う技術を確立した。</p> <p>兼任教員の佐藤源之教授は、電波科学を応用した衛星・航空機マイクロ波リモートセンシング(SAR)、地中レーダ(GPR)・電磁法などの開発と応用に継続的に取り組み、アレイ型地中レーダ「やくも」を利用した遺跡調査や航空機 SAR、衛星搭載 SAR の特にポーラリメトリ機能を利用した震災発生後の迅速な被害状況把握を行うための研究を推進した。</p> <p>広域被害把握研究分野の国際連携については、ドイツ航空宇宙センターとの戦略的な連携を継続的に進めており、第 3 回国連防災世界会議でのサイドイベントにおいてもパブリックフォーラム「シミュレーション・センシング・G 空間情報の融合による減災力の強化」を共同開催した。</p>			

分野名	最適減災技術研究分野	報告者氏名	五十子 幸樹
分野目標			
<p>低頻度極大地震や長周期地震動に対する都市・建築の耐震性能高度化を目標として、構造物の倒壊を含む極限挙動の解明とビル用革新的高性能振動制御装置の開発、及びそれら制御装置の性能確認実験手法としてのリアルタイム・ハイブリッドシミュレーション技術の開発を行う。</p> <p>また、原発事故関連課題の対策として、放射線遮蔽コンクリートのリスク評価体系の構築を目指す。</p>			
2014 年度の分野活動報告			
<p>2 節点間の相対加速度に反応して増幅された質量効果を発揮する回転慣性マスダンパーを用いた免震建物の地震時応答制御に関して、ダンパーの見掛け質量の大きさ、付加粘性減衰特性、支持ばね剛性を設計変数とし、想定地震動レベル毎の免震層変位と床応答加速度を目的関数とした、免震システムの多目的最適設計に関する研究を実施した。多目的遺伝アルゴリズムを用いた解析コードを開発し、また非ニュートン流体を流体クラッチ機構として用いて回転慣性ダンパーの新しい機構を提案し、中小地震、設計想定最大レベルの地震動、従来の設計レベルを超える極大地震動のそれぞれに対して免震層変位と上部構造床応答加速度の同時最小化を目標とした妥協解（パレート解）群を導出した。既往の免震制御用ダンパーと比較して提案ダンパーを用いることで優位な設計解を与えることが確認できた。リアルタイム・ハイブリッドシミュレーション技術の開発に関しては、次年度の実験実施のための準備研究として米国研究者の協力の下基礎資料の整理を行った。</p> <p>原発事故による放射能汚染物処理に対する課題の取組みとして、各処分場などで用いられる放射線遮蔽用コンクリートに何らかの影響で損傷が生じた際のリスク評価及びその評価体系構築を目指し、コンクリートの損傷度に対する放射線（γ線）遮蔽性能劣化の定量化について実験及び解析から検討した。詳細として、箱形のコンクリート容器 1 面に 1 本のひび割れ（または測定上理想化した損傷である 1 本のスリット）を有する遮蔽体を用いた実験を行い、ひび割れ幅またはスリット幅と γ 線透過率の関係を示した。解析では、実験で得たスリットに対する γ 線の透過率を再現できた。しかし、自然なひび割れに対する透過率のシミュレーションに関しては、ひび割れの深さ（遮蔽厚）方向の形状（特に、表面粗さ）などのモデル化が困難であり精度を欠く結果に至った。次年度に向けた準備として、解析手法の改善及び精度向上を検討するための実験計画を行った。</p>			

分野名	低頻度リスク評価研究分野	報告者氏名	後藤 和久・菅原 大助
分野目標			
当分野では、過去数千年間の津波履歴と規模を推定し、将来の津波リスク評価に活用することを主目的として、東北地方太平洋沿岸を始めとした日本国内の沿岸域、さらには海外において、地層中に津波堆積物を見出す調査研究に取り組んでいる。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>2014 年度は、国内では北海道、東北、外房、八丈島、和歌山、沖縄において、海外ではニュージーランド、ハワイで津波堆積物の調査を実施した。また、イギリスでもロンドン大学と共同して、ブリストル地方において 1607 年に発生したとされる津波あるいは大規模洪水の痕跡に関する地質学的調査を実施した。北海道や東北地方太平洋岸では、津波堆積物の堆積年代を高精度で推定する手法の開発を目的として、高解像度で放射性炭素年代測定を実施した。その結果、これまで数百年程度の誤差を伴っていた年代値でも、統計処理を行うことで数十年程度まで誤差幅を縮めることができる場合があることがわかった。また、東北地方や外房地域において古津波調査を行い、歴史時代の津波の規模が従来の想定よりも大きい可能性があることがわかった。</p> <p>津波による土砂移動数値計算の高度化を主目的として、米国地質調査所の研究者らと国際共同研究を実施した。具体的には、日本および米国において調査および議論を行い、順解析および逆解析法のメリット、デメリットを整理し、両者を組み合わせて過去の津波の規模評価を高精度で行うハイブリッドモデルの共同開発を進めた。</p> <p>研究成果として、<i>Marine Geology</i> 誌において 2011 年東北地方太平洋沖地震津波による堆積・侵食作用に関する特集号を、代表客員編集員として出版した（後藤）。また、同誌の 50 周年記念特集号において、津波による土砂移動数値計算の現状と課題をまとめたレビュー論文を、米国地質調査所の研究者との共同研究成果として発表した（菅原、後藤）。さらに、同誌において 2011 年に発表した震災に関する論文が、2014 Most Cited Paper Award を受賞した（後藤、菅原）。</p> <p>こうした研究成果を一般に普及するため、著書の出版や一般講演、国や自治体での委員会活動を行った。</p>			

分野名	国際災害リスク研究分野	報告者氏名	ブリッカー ジェレミー
分野目標			
国際災害リスク研究分野は他国で発生する水害後に調査へ行き、シミュレーションを行う分野である。河川洪水、ハリケーンによる高潮・高波、爆弾低気圧、及び津波による被害を調査し、シミュレーションを用いて被害メカニズムを解明する。被害が再び発生しないために構造物設計の向上を提案する。ブシネスク波浪シミュレーション開発も行う。			
2014 年度の分野活動報告			
<ul style="list-style-type: none"> - 台風ハイランによる被害メカニズムを解明するために、現地調査及び数値シミュレーションを実行した。最初に台風の後には 1 次調査及び 2 次調査を行った。1 次調査で建物・インフラの被害を評価した。2 次調査ではヘルナニ市で D G P S ・超音波測量を行い、細かい地形・水深データを得た。そのデータを用い、高潮・高波シミュレーションを行った。しかし、波浪位相平均シミュレーションではヘルナニ市で発生した津波形サーフビートを再現出来ず、そのかわりにブシネスク波浪シミュレーションを実行した。ブシネスク波浪シミュレーションの結果として、目撃された波が上手く再現出来て被害の原因も解明した。壁が急なサンゴ礁がある海岸が台風にあたる可能性があることにより、この現象が発生する可能性を確かめた。 - 米国・フランス津波シミュレーションベンチマークプログラムとして、ブシネスク波浪シミュレーションを用いて室内実験を再現した。様々なモデルと結果を比較し、実験結果を上手く再現出来るモデルを求める競争に入った。米国・フランスが津波ハザードを評価するために、このベンチマークプログラムとして最適なモデルを検討中である。 - 過去津波により被害の統計的な研究を行った。アメリカの統計学者方と共同研究として、東北市町村の回復力を調べた。アメリカ東海岸の市町村と比較する研究である。統計的に防潮堤・防潮林の効果を評価する目的である。 - 津波浸水シミュレーション粗度の適用性をアメリカ陸軍工兵司令部の研究者と共同研究として調べた。日本の津波浸水シミュレーションが利用する粗度が小さいため、河川工学として発表された粗度を提案した。 - 北海道根室市を浸水した爆弾低気圧による高潮を再現した。 			

人間・社会対応研究部門活動報告

報告者氏名：丸谷 浩明

部門目標
災害への人間と社会の対応を研究する。具体的には、人間の災害認知と行動のメカニズムを把握し、被災地支援のための技術を提供し、地域の歴史や文化を災害から守りつつ災害対応に活かし、災害対応力を高める社会システムや法制を提案し、歴史的視点で防災や復興を再評価し、内外の復興に向かう地域に方策を提案する。
2014 年度の部門活動報告
<p>災害科学国際研究所の新棟完成により、2014 年度後半から当部門が一堂に会することができ、部門研究会を定期開催するなどにより、相互の研究の理解と連携を深めている。また、国連防災世界会議の関連事業や研究所開所式にも部門として発表等に積極的に取り組んだ。分野ごとにみた特徴的な活動としては、</p> <p><u>災害情報認知研究分野</u>は、災害時の生きる力の神経基盤解明に向け fMRI 実験に着手し、生きる力質問紙を被災訓練プログラムで実施した。リスク認知能力を向上させるゲームの開発を行い、国内外で効果検証を行った。</p> <p><u>被災地支援研究分野</u>は、被災地からの情報が外部に伝達できないことを前提に、平常時の社会経済状況に基づき被災地外部でニーズを想定する方法、支援活動の計画方法と事前準備のあり方を研究した。</p> <p><u>歴史資料保存研究分野</u>は、震災で被災した歴史資料の状況確認や応急処置を継続して実施した。被災者に向けた歴史文化講座による復興支援とともに、国内外の関係者と保全に向けた社会的対応について研究した。</p> <p><u>防災社会システム研究分野</u>は、防災対策・研究における産官学民連携を重視しつつ、事業継続計画（BCP）、地域防災計画、官民の防災協定、地震時の帰宅困難者対策等の研究に、現地ヒアリングも含めて取り組んだ。</p> <p><u>防災法制度研究分野</u>は、東日本大震災における災害応急対策の検証を中心に研究を行い、特に岩手県庁と被災地陸前高田市及び後方支援拠点となった遠野市等においてヒアリングも含めて取り組んだ。</p> <p><u>災害文化研究分野</u>は、列島各地の津波記念碑や津波供養碑の調査と、減災のための伝統的な行事の参与観察を行い、災害伝承について、各地での講演や研究発表、あるいはメディアを通して問題提起を行った。</p> <p><u>防災社会国際比較研究分野</u>は、国内外の被災地域（東北、米国東海岸、比国レイテ島、尼国アチェ・ジョグジャカルタ）を対象に、リスク配慮と復興計画・実施、移転、住宅復興のテーマで研究に取り組んだ。</p>

人間・社会対応研究部門 分野活動報告

分野名	災害情報認知研究分野	報告者氏名	邑本 俊亮
分野目標	<p>本研究分野では、複雑な物理・社会的環境における人間の知覚・判断・行動の認知過程について、様々な心理学・認知科学・脳科学的手法を用いた基礎研究を行うとともに、その成果をより人間の認知特性に適した防災・減災・復興のシステム設計に反映させる応用研究を行う。</p>		
2014 年度の分野活動報告	<p>1) 災害時の様々な場面で発揮される「生きる力」について、3.11 震災の事例分析に基づき、それを脳内の情報処理特性にまで還元して科学的扱いが可能な一般論に整理し、新しい防災・減災・復興プロトコルの提案を目指した研究を推進中である。昨年度に被災者約 1400 名分の質問紙回答から抽出した 8 つの生きる力因子（人をまとめる力、問題に対応する力、人を思いやる力、信念を貫く力、気持ちを整える力、きちんと生活する力、人生の意味の自覚、生活を充実させる力）について、英文学術誌に論文が近日採択見込みである。今年度は並行してその認知過程についてのモデルを提示し、その神経基盤を解明する機能的 MRI 実験に着手した。すでに「問題に対応する力」について予備的知見を得ている。また、8 つの生きる力質問紙を災害教育・災害対応トレーニングの効果判定に活用する試みを 3 つの被災訓練プログラム（各参加者 20-30 名程度、仙台 1 回・東京 2 回）で実施し、好感触を得ている。</p> <p>2) リスク認知プロセスの解明に向け、災害などの緊急時と平常時とでリスク認知の傾向が異なるかどうかを調べた。その結果、緊急時にはリスク情報を過大にリスクであると評価しがちであることが明らかになった。成果の一部を 2014 年 6 月の第 5 回安全・安心な生活のための情報通信システム（ICSSSL）研究会で発表した。</p> <p>3) 様々な災害場面に応じたリスク認知能力を向上させるゲームの開発を行い、国内外で効果の検証を行った。タイでは、洪水の場面のゲームを約 200 人の高校生に実施した。フィリピンでは、高潮・台風の場面のゲームを約 250 人の小学生に実施した。アメリカでは、津波・地震の場面のクイズゲームを作成し、小学生約 100 人に実施した。国内外でゲームを通じた災害教育活動は、ポジティブに評価されている。これらの成果の一部は、Journal of Disaster Research に掲載された。</p>		

分野名	被災地支援研究分野	報告者氏名	奥村 誠
分野目標			
東日本大震災などの巨大災害に襲われた地域では、地域のインフラや各種の機能が麻痺し、自らの力で救命、救急、復旧、復興を行うことが難しい。被災地のニーズを外部に伝えることができないことを前提に、平常時の社会経済状況に基づいて被災地外部でニーズを想定し、支援活動を計画する方法を研究する。また、支援を受ける上での事前の準備について研究している。			
2014 年度の分野活動報告			
被災地への人的・物的支援を効果的に行うために、事前の基礎データ準備、協定等の締結、備蓄、時中の情報交換、意思決定のあり方について、人口などの地理情報と最適化などのオペレーションズリサーチ手法の活用方法について研究を進めた。			
(1) 災害ロジスティクスに関する研究（奥村、Das） 途絶の社会経済的影響の研究とともに、被災地からのニーズ、支援元からの発送予定の双方の情報が欠乏する中で、物的支援を効果的に実施する方法を研究した。			
(2) 確実な避難の実行可能性の研究（奥村、金） 地域の現在の地形、住居と従業地の分布を前提に、自動車の利用を含む津波避難の実施可能性を研究した。			
(3) 災害時の不確実性に対応できる危機管理、運営体制に関する研究（奥村、金、Das） 災害研棟に多主体ゲーミングシミュレーションシステムを導入し、災害対応における不確実な事態の進展に対応できる、頑健な意思決定、危機管理体制の研究を進める準備を行った。			

分野名	歴史資料保存研究分野	報告者氏名	佐藤 大介
分野目標			
東日本大震災の津波や建物被災などで被害を受けた地域の歴史を物語る古文書その他の歴史資料に対する救済保全活動を推進する。そこでの実践や組織運営などの課題を検討し、懸念される「次」の災害に対する歴史資料の防災のあり方についての知見を得る。そのことで、大規模災害から地域の歴史文化を守るための方策を提案する。			
2014 年度の分野活動報告			
①東日本大震災で被災した歴史資料の救済・保全 東日本大震災で被災した地域の救済・保全活動を進めた。津波で大きな被害を受けた岩手県大船渡市域で、地元の郷土史家が 30 数年間調査してきた所在情報を基に、33 件で現況確認調査を実施した。これまで地域歴史資料の被在状況について地域単位での把握は行われておらず、その具体的な状況を把握するための基礎的な情報を収集することが出来た。 津波被災資料への対応として、2011 年に救出した宮城県石巻市と気仙沼市の史料群に対する応急処置活動を実施し、市民参加前提での応急処置を継続的に実施するための基礎的な情報を収集した。また、被災資料も含めたデジタルカメラによる記録化作業として、宮城県丸森町、女川町、涌谷町および岩手県一関市の 5 件の個人所蔵の文書史料を対象に実施した。約 7 万コマ分の文書情報を保全すると共に、学生や市民、所蔵者や地域との連携に基づく記録化の体制について検討するための実践を行った。また、これらの画像データの広域的保存について、ハーバード大学の関係者との協議により基礎的な環境整備を行った。			
②地域の歴史資料保存に関する知見の共有 被災した地域の歴史を復元しつつ地域住民と共有化する活動として、宮城県亘理町で江戸時代の歴史講演会および 1933 年撮影のフィルム上映会を開催し、約 300 名の住民の参加を得た。また、それらの活動から地域の歴史資料が歴史文化を通じた結集核となり得ることも確認した。 歴史文化の防災対策について、九州国立博物館や宮城県、兵庫県、静岡県で関係者や市民との交流事業を推進し、東日本大震災で得られた知見を還元すると共に、歴史文化を継承するための課題について共有した。 また、日本最大の歴史学会である歴史学研究会での招待講演と論文発表を行い、災害その他から歴史を守るための全国の歴史研究者の社会的役割の重要性を述べた。2015 年 3 月に行われた国連世界防災会議では展示を実施し、分野の研究活動について国内外に発信した。			

分野名	防災社会システム研究分野	報告者氏名	丸谷 浩明
分野目標			
<p>防災・減災及び災害復興の実現に向けた社会システムのあり方を研究する。具体的には、東日本大震災や既往災害の社会経済分析、事業継続計画（BCP）や地域防災計画の研究、経済学研究科と連携した地域産業復興や防災対応力強化の研究、防災における産官学民の取組や連携の研究などを通じて、政策提言や情報発信を行う。</p>			
2014 年度の分野活動報告			
<p>1) 企業・公的組織の事業継続の研究： 事業継続計画（BCP）の研究として、東日本大震災の被災企業の復旧・事業継続について現地ヒアリングを行い、中小企業でも実施できる事業継続方策の研究を行った。また、内閣府の「事業継続ガイドライン第三版」解説書の作成、地方公共団体 BCP の策定手引の改定、中央省庁の BCP の評価・改善手法の立案に参画した。国連防災世界会議では、事業継続推進機構との共催でパブリックフォーラムを開催し、東日本大震災の教訓を踏まえた有効な事業継続のあり方等について発表を行った。</p> <p>2) 震災復興研究センターとの連携： 経済学研究科に設置されている同センターでは、2014 年度は国連防災世界会議のパブリックフォーラムなど 10 回に及ぶ研究会、2 回のシンポジウムを開催するとともに、企業や地域住民に対するアンケート調査を実施するなど活発に活動している。本研究分野からもその研究プロジェクトに参画し、成果発表や研究書刊行等で連携を図っている。</p> <p>3) 東日本大震災の暮らしの状況の調査・分析： 「市民アンケートに見る東日本大震災直後の暮らしの状況」を IRiDeS 金曜フォーラムで報告し、誰に連絡をとろうとしたか、誰が頼りになったのか等の議論を行った。</p> <p>4) 防災の官民連携の研究： 東北地方の県、政令市、国の出先機関、経済団体、有志企業等が構成する「東北復興連合会議」（事務局：日本政策投資銀行）に参画し、地方公共団体と企業の防災協定の研究を共同で行うなどの連携を続け、国連防災世界会議では同会議が主催するパブリックフォーラムで基調講演を担った。</p> <p>5) 政府へ防災政策立案への参画： 防災社会システムの研究成果を活かし、上記 1)に記載した BCP 関係のほか、首都直下地震発生時の帰宅困難者の対策、政府・地方自治体の防災職員への教育プログラムの開発、災害ボランティアの活動環境の整備の各検討会に委員として参加して政策立案に貢献した。</p>			

分野名	防災法制度研究分野	報告者氏名	島田 明夫
分野目標			
<p>今般の東日本大震災の実態に照らして、現行の災害対策法制が広域・大規模災害の実態に対応した適切な形の法体系になっているか否か、また、どこに問題点があるのか、その課題は何かについて、現地調査や各種の実態調査に基づいて実証的に研究することによって、現行法体系の問題点を洗い出し、それに即した必要な法改正等の方向についての研究を行う。</p>			
2014 年度の分野活動報告			
<p>防災法制度研究分野においては、被災自治体の現地調査や内閣府防災担当部局、復興庁、国土交通省本省及び東北地方整備局等の関係機関から集めた東日本大震災の実態に即して、災害予防対策、災害応急対策、災害復旧対策及び災害復興対策の各局面に係る諸法についての問題点及び検討課題を実証的に抽出して、政策提言をまとめることを目指して、公共政策大学院と共同研究を進めているところである。</p> <p>2014 年度においては、2011 年度から 2013 年度に渡る 3 年間の災害応急・災害復旧・災害復興・災害予防に伴う課題も見えてきたことや災害対策基本法などの防災法制度の改正も踏まえて、東日本大震災における災害応急対策の検証を中心に研究を行い、宮城県内においては、東松島市、石巻市、女川町においてヒアリングを行うとともに、加美町の小野田城内地区を対象として、地区防災計画のモデル作りを行った。</p> <p>また、特に岩手県庁と被災地陸前高田市及び後方支援拠点となった遠野市等においてヒアリングも含めて東日本大震災における災害応急対策の検証を中心に研究に取り組んだ。</p>			

分野名	災害文化研究分野	報告者氏名	川島 秀一
分野目標			
全国の津波記念碑			
2014			
<div> <div>2014</div> <div>21</div> <div>2014</div> <div>(11 23)</div> <div>(2014)</div> </div>			

2014			
<div> <div>2014</div> <div>CONCERT-Japan</div> <div>GFDRR</div> </div>			

地域・都市再生研究部門活動報告

報告者氏名：寺田 賢二郎

部門目標
被災地域の状況を的確に把握するための調査・計測技術、持続可能な地域を創るための計画技術、居住可能な地域にするための除染・再生技術等の開発とともに、地域・都市の堅牢性・安全性の重層化を図るための方法論の構築など、安全・安心を保持するための実践的な防災・減災・再生技術に関する多様な研究を、国際協力の積極的な推進と中長期的な戦略のもとで行う。
2014 年度の部門活動報告
「都市再生計画技術分野」では、静岡県を対象に東海・東南海地震等による詳細な想定被災者特性の推定、国勢調査マイクロデータを用いた小地域人口推計手法の開発、台風ハイエンの被災地を対象とした災害の社会的脆弱性の分析、チェルノブイリと福島原発事故被災地の地域変容に関するハンガリー科学アカデミー研究員との共同研究等を実施した。また、実践的活動として、宮古市を事例として復興まちづくりのプロセスの実態を調査し、得られた知見を石巻市中心市街地における復興まちづくり支援活動に適用した。「地域安全工学研究分野」では、遼上津波と構造物の相互作用評価手法及び防潮林のマルチスケール数値実験法、斜面災害の危険度評価手法、地震荷重を受ける鋼構造物の低サイクル疲労強度予測手法などの各種解析手法を提案するとともに、災害科学情報を 3D 立体視して時間・空間的に俯瞰できる可視化システムを運用・公開した。「災害対応ロボティクス研究分野」では、(1) ImPACT タフ・ロボティクス・チャレンジ、(2) ヘリと地上走行ロボットによる被災原子炉建屋内調査システム、(3) 下水管路内点検ロボット、(4) 老朽ガス配管の点検技術、(5) 救助犬の情報強化、(6) 球殻ヘリによる橋梁点検、(7) 災害ロボットの社会実装課題調査と政策提言などを行った。「国際防災戦略研究分野」では、東日本大震災の知見をまとめた HFA IRIDeS Review Report の企画・制作・監修・発行を行い、「HFA 市民セミナー」を開催した。また、2013 年台風ハイエンによる被害分析及び防災教育支援、2004 年インド洋津波及び 2007 年ペルー地震後の復興過程、東日本大震災被災地における復興、大災害時の SNS 活用、阿武隈川流域における放射性物質の移動と拡散シミュレーション、気候変動データのダウンスケーリング等に関する研究を実施した。また、第 3 回国連世界防災会議では、各分野でそれぞれ複数のパブリック・フォーラムを開催したり、ボランティアコミットメントを発表したりして、その成功に大きく貢献した。

地域・都市再生研究部門 分野活動報告

分野名	都市再生計画技術分野	報告者氏名	石坂 公一
分野目標	地域特性や中長期的な観点を踏まえた効果的な復興計画策定と事業実施をめざしてその基礎となる地域特性の把握手法、地理情報システムを援用した復興計画デザイン手法等の確立を図る。また、復興まちづくりの手法の実態についてその特質と限界を明らかにするとともに、得られた知見を復興まちづくりの実践にフィードバックする活動を展開する。		
2014 年度の分野活動報告	<p>1. 被災地域再生のための計画技術の開発と適用</p> <p>前年までに開発した小地域居住状況データ推計手法を用いて、東日本大震災被災地域のみならず首都直下型地震、東海・東南海地震、近畿直下型地震による被災想定地域についてもデータ推計を行うとともに、静岡県を対象に東海・東南海地震の津波浸水深のシミュレーション結果と居住状況データ推計結果を重ね合わせることで 2010 年時点の詳細な想定被災者特性の推定を行った。さらに被災地域および被災想定地域の 2040 年までの性別、年齢階級別人口予測を行い、人口動向から見た被災地域および被災想定地域の復興ポテンシャルを把握するとともに復興支援需要の特性について検討した。また、国勢調査マイクロデータを用いた小地域人口推計手法の開発と活用方策の検討、フィリピン・台風ハイエンの被災地を対象とした現地調査及び災害の社会的脆弱性に関する研究、チェルノブイリと福島原発事故被災地の地域変容と復興課題に関するハンガリー科学アカデミー研究員との国際共同研究を実施し、国内外で成果を発表するとともに、ジオデザインを用いた復興計画手法の教育的プログラムを開発し、その実施を通じてプログラムの有効性の実証的検討を進めた。</p> <p>2. 復興計画の実践支援</p> <p>宮古市を事例として、復興まちづくりの策定プロセスの実態を調査し、震災初動期の行政マンパワーの限られた中での住民参加プロセスに関して、目的とスケジュールに関する丁寧な説明の必要性、技術的検討を通じた相互のやりとりの重要性等を明らかにした。これらで得られた知見は、石巻市中心市街地における災害科学国際研究所の復興実践チームによる復興まちづくり実践的支援活動の枠組みで行われている住民参加プロセスにも適用されている。</p>		

分野名	除染科学研究分野	報告者氏名	石井 慶造
分野目標			
<p>福島第一原子力発電所事故によって放射能汚染された生活環境を復旧するために以下の研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新たな土壌除染技術の開発と放射性物質の有効利用法を開発する。 2. 無放射能農作物の栽培方法を開発する。 3. 食品の放射能汚染検査のために大口径ガンマ線検出器を開発する。 			
2014 年度の分野活動報告			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 汚染土壌除染関係： <p>水洗浄によって、得られた高レベル汚染粘土は小さな粘土粒子の集合体であり、且つ汚染分布は殻構造していること解明された。本成果を2014年9月14日～19日、スロベニア、ブレドで開催された国際シンポジウム Bio-PIXE 7 で招待講演として発表した。これにより、更なる減容化方法が考案できた。</p> 2. 無放射能農作物関係： <p>放射性セシウムの土壌-植物移行係数について、同じ畑ならば、複数の異なった植物の移行係数は同じであることが分かった。本研究を2014年5月25日～30日、米国、サンアントニオで開催された第23回加速器の研究及び産業への応用に関する国際会議において招待講演として発表した。</p> 3. 食品汚染検査関係： <p>タケノコの全筍検査を実施、汚染筍の除外が精確に行えることが分かった。また、大型タケノコなど大きい植物の放射能検査が行える丸ごと検査装置を開発した。</p> 			

分野名	地域安全工学研究分野	報告者氏名	寺田 賢二郎・森口 周二
分野目標			
<p>災害の予測や被害想定、および災害に関連する物理現象のメカニズムの解明を目的としたモデル化や数値解析手法の精緻化・高度化を図るとともに、現象の規模が連続的につながるマルチスケール・マルチステージ複合災害シミュレーションの枠組みを構築する。また、解析結果の可視化や防災教育のためのイベント開催も継続的に実施する。</p>			
2014 年度の分野活動報告			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 構造・流体連成解析手法の開発 <p>遡上津波と構造物の相互作用を表現可能とする、構造・流体連成解析手法の開発を進めており、H26 年度は、固体（部分的に剛体）の破壊を考慮することができる安定化有限被覆法のプロトタイプを構築した。これにより流体力による構造物の破壊などの複雑な現象を表現できるようになった。また、並行して、亀裂進展を高精度に表現する数値解析の枠組みについても別途検討を進め、学術的に興味深い結果が得られている。</p> 2. 防潮林による津波の減災効果に関するマルチスケール災害シミュレーション <p>防潮林を対象として、枝、樹木、林の異なるスケールの解析に基づいて、各スケールの特性を含めて広域レベルで評価することができるマルチスケール災害シミュレーションを提案し、その有効性を確認した。</p> 3. 斜面災害を対象とした危険度評価ツールの開発および災害調査 <p>個別要素法による落石や土砂流動解析に関して、要素形状の影響について整理した。また、7 月の山形豪雨災害では、緊急調査を実施した。</p> 4. 多次元可視化システムのコンテンツの充実 <p>多次元可視化システムのコンテンツとして、GIS・CAD データ、4 次元画像（時期系列・点群データ）、災害統計データ、各種シミュレーション結果など、様々なコンテンツを充実させた。</p> 5. レジリエンスワークショップ（国連防災世界会議パブリックフォーラム）の開催 <p>昨年度に引き続き、災害後の迅速な回復・復旧・復興が可能なレジリエントな社会・都市の実現を目的とし、国連防災世界会議の一環としてワークショップを開催した。防災に関する技術展示も実施し、一般公開した。</p> 			

分野名	災害対応ロボティクス研究分野	報告者氏名	田所 諭
分野目標			
東日本大震災はロボティクスが様々な形で活用された歴史上初めての大災害であった。ロボティクスに対する期待は、人間ではできないことを安全かつ効率的に行うこと、災害に対するリスクを低減すること、防災のコストを下げることである。本分野は、災害緊急対応、災害予防、災害復旧に役立つロボティクスの研究を推進する。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>1) ImPACT プログラム 内閣府革新的研究開発推進プログラム ImPACT で、タフ・ロボティクス・チャレンジというプロジェクトを立ち上げ、研究開発を開始した。</p> <p>2) 被災原子炉建屋内調査システム 資源エネルギー庁の共同研究プロジェクトとして、地上走行ロボットでは困難な瓦礫や障害物が入り組んだ場所を調査する超小型ヘリと地上走行ロボットを組み合わせたシステムの研究開発を行い、モックアップを設置しての実証試験により、その有効性を確認した。</p> <p>3) 被災した下水管路内点検ロボットシステム 積水化学、アスコ、国際レスキューシステム研究機構との共同研究として、下水管路の形状の変形を 3D 計測、マッピングするシステムを研究開発した。</p> <p>4) 細径ガス配管の点検技術 ガス各社、国際レスキューシステム研究機構との共同研究として、老朽化した細径配管の内部を点検する能動スコープカメラの性能向上の研究を行った。</p> <p>5) 救助犬の情報強化 科研費により、救助犬の収集する情報をデジタル化する研究を行った。</p> <p>6) 超小型球殻ヘリによる老朽化プラントの点検 SIP のプロジェクトとして、球殻を有する超小型ヘリが橋梁の構造内部に入り込み、映像情報を収集するシステムの研究開発を開始した。</p> <p>7) COCN プロジェクト 災害対応ロボットの制度的問題点について調査研究を行い、政策提言を行った。</p> <p>8) 国連世界防災会議 IEEE RAS との協力でパブリックフォーラムを開催し、災害ロボットの実績と社会実装に向けた問題点に関する議論を行った。その結果は、この問題を議論して政府等にアドバイスを行う国際委員会を設立する、というボランティアコミットメントにまとめ、本会議のワーキングセッションで発表を行った。</p>			

分野名	国際防災戦略研究分野	報告者氏名	村尾 修
分野目標			
都市の防災と復興に関する国際的な戦略策定を目指し、学際的な視点に立ち、防災および復興戦略の観点から各地域の特性を分析し、事前、事後の両面から現状の問題点と課題を明らかにすることを目的としている。これを踏まえて、各地域の自然・経済・社会状況の特性に適合したリスク管理・防災・復興戦略および国際的協力体制のあり方について研究を進めている。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>【研究活動】①2013 年台風ハイエン（フィリピン）の被害調査に基づき、建物被害について分析をした。②2004 年インド洋津波による被災地の復興過程を定量的に比較し、バンダ・アチェで開催された 10 周年記念シンポジウムで招待講演を行った。③2007 年ペルー地震後の復興過程をリモートセンシング技術によりモニタリングする方法を提案した。④東日本大震災による被災地の復興計画を整理・比較した。⑤被災各地における住宅の変遷についても情報収集し、Google Earth を用いてその変遷を整理した。⑥その他に、大災害時の SNS 活用、阿武隈川流域における放射性物質の移動と拡散シミュレーション、気候変動データのダウンスケーリング等の研究を実施した。</p> <p>【社会活動】①前述した学術的知見を踏まえ、国際協力機構（JICA）のプロジェクト研究「震災復興における支援アプローチ調査」に参加し、②地域安全学会の東日本大震災関連委員会幹事として、宮古で復興シンポジウムとワークショップを企画・運営した。2015 年 3 月に開催された第 3 回国連防災世界会議関連では、③東日本大震災の知見をまとめた HFA IRIDeS Review Report の企画・制作・監修・発行を行い、④「HFA 市民セミナー」を開催し、⑤パブリック・フォーラム（国際会議 2、展示企画 2）を実施し、さらに東北大学のデザイン検討 WG や IRIDeS の企画 WG 長として、東北大学および IRIDeS の企画を先導し、仙台縁日での展示企画、スタディ・ツアーを主導した。そして、⑥2013 年台風ハイエンの被災地にて、防災教育支援も実施した。</p> <p>【国際交流】①国連防災世界会議における国際会議の企画を通じて、UN-HABITAT 等の国連機関と共催することにより、交流を深めた。②11 月の「知のフォーラム」では、WG 長として IRIDeS の企画とりまとめ、また MIT、メルボルン大学、ロンドン大学の研究者らとセッションを共催した。</p>			

災害理学研究部門活動報告

報告者氏名：遠田 晋次

部門目標
本研究部門は、巨大地震やそれによる津波をはじめ、火山噴火、気候変動、宙空災害まで、地球規模のさまざまな自然災害の発生メカニズムの解明に取り組み、短期的および中長期的にそのハザードを予測する。
2014 年度の部門活動報告
<p>海溝型巨大地震の発生メカニズム解明のため、日本海溝周辺に展開した海底地殻変動観測網で繰り返し観測を実施した。特に、東北沖地震後の地殻変動を説明するために、粘弾性的な性質による影響を考慮した新しいモデルを構築した（Nature 誌で発表）。陸域では、三陸海岸において地形地質調査を実施し、数 10 万～1 年オーダーで三陸海岸北部は隆起傾向、三陸海岸中部～南部は沈降傾向にあることを明らかにした。内陸地震研究に関しては、本年度に発生した長野県北部の地震の直後に現地踏査を行い、既知の糸魚川-静岡構造線神城断層沿いに地表地震断層を確認した。また、東北地方に発生した最近 120 年間の内陸地震のほとんどが地震波低速度域で発生していることを突き止めた。</p> <p>火山災害に関しては、東北地方の既存の定常地震観測点の観測装置の高度化等を行った。また、蔵王山における臨時地震観測から、近年断続的に発生している長周期地震が火口湖御釜の北東側における地下破碎帯における熱水活動の活発化によって生じていることを見出した。</p> <p>気象災害については、雲解像モデルによる数値シミュレーション結果を最新の衛星観測データと比較し、日本周辺域における降水量の再現性を定量的に明らかにした。また、陸面過程モデルを用いて、植物の濡れが原因となる作物病害、特にイネいもち病に関する研究を行った。</p> <p>宙空災害に関しては、JAXA の衛星プロジェクトに参加し、宇宙での放射線計測を実施するとともに、その解析から放射線帯粒子変動に関する新しい知見を見出した。また、太陽表面爆発現象を東北大学の太陽電波望遠鏡によって観測し、人工衛星による太陽放射線の直接観測と比較した。</p> <p>国連防災世界会議への貢献として、測地・津波観測による津波予測の技術の紹介を展示・ポスターにより行った。また、JAXA 宇宙利用本部職員に協力し、福岡市で開催された国連主催の宇宙天気ワークショップを後援した。さらに、世界会議前日に地震ハザード・リスク評価に関するシンポジウムを災害研多目的ホールで開催した。</p>

災害理学研究部門 分野活動報告

分野名	海底地殻変動研究分野	報告者氏名	日野 亮太
分野目標	<p>巨大地震や津波を引き起すプレート境界断層での固着すべり状態を、海底地殻変動観測によって明らかにすることにより、海溝型大地震の震源像や津波発生ポテンシャルの予測を行うとともに、これに資する海域観測技術の高度化を図る。さらに、海域観測技術を駆使することにより、地震後の津波即時予測を高度化するための研究開発を推進する。</p>		
2014 年度の分野活動報告	<p>当分野では、日本海溝周辺に展開した海底地殻変動観測網での繰り返し観測を通して、2011 年東北地方太平洋沖地震（東北沖地震）の発生機構に関する研究を推進しており、地震後地殻変動に関する研究で大きな進展があった。震源となった日本海溝近くにおける観測結果は、地震の発生直後であっても地球が有する粘弾性的な性質による影響が大きいという従来の考え方を変革する新しいモデルの構築に貢献し、この成果は Nature 誌で発表された。こうした考察を踏まえることで、地殻変動観測からプレート境界断層の挙動を高精度で推定することも可能となり、たとえば、東北沖地震の震源の北側に隣接する 1968 年十勝沖地震の震源域周辺では定常状態に比べプレート境界でのすべりが加速していて、この地震の再来が早まっている可能性が示唆される。一方で、東北沖地震の地震時すべりが極大であった日本海溝の海溝軸近傍における重点的な調査観測は、超巨大地震の発生履歴や発生のメカニズムを理解する上で極めて重要である。こうした研究の上で海底地殻変動観測は非常に有効な手段であり、科研費特別推進研究により日本海溝・千島海溝沿いの浅部プレート境界断層の挙動に関する研究に着手した。</p> <p>津波を起こしうる海域で発生する地震による地殻変動観測情報をリアルタイムで取得することができれば、津波の即時予測の高度化や、大地震発生直後の大規模余震の活動推移の把握に資することが期待できる。当分野では、こうした新しい観測システムの開発を、今年度から政府が推進する「戦略的イノベーション推進プログラム（SIP）」の一環として受託することになった。さらに、災害リスク部門の越村教授が推進する、津波のリアルタイム浸水予測に活用する実証事業に参画し、浸水予測の基となる津波波源モデルを地震・地殻変動のリアルタイム観測情報から即時推定するための技術開発を担当した。</p>		

分野名	地震ハザード研究分野	報告者氏名	趙 大鵬
分野目標			
地震学的手法を用いて大地震の発生メカニズムを解明することによって実践防災学に貢献する。プレート境界地震の応力蓄積・発生過程の解析研究を進展させることにより、来る東海・東南海・南海地震など低頻度巨大災害への備えの向上を目指す。			
2014 年度の分野活動報告			
<p><u>東北地方の活断層と地殻大地震</u>: Tomography of source areas of 26 crustal earthquakes ($M 6.0-7.2$) in Tohoku during 1894 to 2014 shows that prominent low-velocity and high Poisson's ratio anomalies exist in the crust and mantle wedge under the source areas, indicating that earthquake generation is closely related to subduction dynamics and physical and chemical properties of rocks in the crust and mantle. Arc magma and fluids play an important role in the seismogenesis.</p> <p><u>地殻流体の分布と変化</u>: After the great 2011 Tohoku earthquake ($M_w 9.0$), the seismicity in the overriding plate changed. The seismicity appears to form distinct belts, and we observed temporal expansion of the focal areas, which is attributed to fluid diffusion. We could detect the area from which fluid migrates as a seismic low-velocity area. Our results suggest that fluid pressure changes are responsible for the belts of seismicity.</p> <p><u>繰り返し地震の規模変化</u>: We examined the temporal size variation of repeating earthquakes related to the 2011 Tohoku earthquake for the period from July 1984 to December 2011. The repeaters ($M 2.5-6.1$) show post-seismic magnitude increases for most sequences in and around the $M9$ source region, suggesting that an aseismic-to-seismic transition occurred in the region surrounding the pre-$M9$ repeaters and is most likely related to the fast loading of the repeaters.</p>			

分野名	火山ハザード研究分野	報告者氏名	三浦 哲
分野目標			
起こりうる火山噴火災害の軽減・事前対策に資するため、主として地球物理学的諸観測に基づいて火山活動の推移把握や噴火発生にいたる物理プロセスの解明を進める。特に、東北地方太平洋沖地震以後、活動に活発化が見られ噴火活動の誘引が懸念されている東北地方の活火山において観測研究の強化を図る。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>地震観測については、既存の定常地震観測点の観測装置の高度化等を行うとともに、八甲田山や蔵</p> <p>1990</p> <p>1 8km 1km</p> <p>2014 6 10</p> <p>300m 500m</p> <p>11 GNSS</p>			

分野名	地盤災害研究分野	報告者氏名	今泉 俊文
分野目標			
<p>地学専攻と連携して、活断層の地表から地下深部に至る、形状・性状、形成・発生プロセスなどを明らかにすることを旨として研究を進める。本研究は、内陸活断層の地震危険度を評価する上での基礎的資料となり、地域の防災・減災計画にとっても重要な役割を担っている。</p>			
2014 年度の分野活動報告			
<p>青森県津軽半島の活断層に関して、特に活断層の詳細な位置情報および活動履歴として最新の活動時期を推定するために現地調査を行い、津軽半島地域の震源断層に関する基礎資料を得た。</p> <p>また、活断層で発生した過去の地震性すべり過程を解明するため、野島断層岩の電磁気解析を行い、地震時に400℃程度の発熱を伴い、摩擦係数が0.1以下になる発熱すべり弱化の存在を確認した。さらに、石垣島の津波石の残留磁気を利用した新しい年代推定法を開発した。</p> <p>仙台平野の伏在活断層については、愛島丘陵～名取川右岸にかけての詳細重力探査を実施した。その結果、仙台兵南部から北に延びる伏在活断層は、長町-利府線断層帯の前縁の苦竹伏在断層とは連続せず、愛島丘陵付近を北端とすることが明らかにした。本研究成果は日本活断層学会2014年秋季学術大会において発表し、若手優秀講演賞を受賞した。</p> <p>2014年11月22日に発生した長野県北部の地震に関して、国際巨大災害研究分野と協力し、翌23日から合計10日間にわたる緊急調査（地表踏査）を実施した。地震に伴って出現した地表地震断層およびその変位量の分布を明らかにし、速報としてWebへの掲載やシンポジウム・学会等で成果発表を行った。</p> <p>2014年10月17-18日に東北大学片平キャンパスさくらホールにて開催された日本活断層学会2014年秋季学術大会では、学術大会、シンポジウムさらに翌19日の巡検において、大会実行員会の一員として、企画・運営を行った。巡検では、学会員および一般参加者に対して、長町利府線断層に伴う地形、仙台平野南部の活断層、2011年東北地方太平洋沖地震による津波被害と復興の状況について案内を行った。</p>			

分野名	気象・海洋災害研究分野	報告者氏名	岩崎 俊樹・山崎 剛・岩渕 弘信
分野目標			
<p>大気・海洋結合系における諸現象を解明し、ハザードの評価を行うための研究を進める。具体的には、数値気象予報モデルの高度利用に関する研究、夏季東北地方の豪雨メカニズムに関する研究、災害科学への陸面過程モデルの利用に関する研究を行う。</p>			
2014 年度の分野活動報告			
<p>高解像度非静力学数値モデルを用いて、台風の発達やネパールの降水、積雪水量などの研究を行った。台風については、地表面摩擦、風蒸発フィードバックが台風の発達と組織化に及ぼす影響を明らかにした。ネパールの降水の研究では、ヒマラヤの急峻な地形に対する積雲対流のパラメタリゼーションの問題点を調べた。積雪水資源の監視を目指して融雪時期の再現性を調べた。また、原子力災害に関連し、放射性物質の大気拡散について調べ、日本気象学会の見解として「原子力関連施設の事故に伴う放射性物質の大気拡散に関する数値予測情報の活用策について」をとりまとめた。</p> <p>陸面過程モデルが気象データから植物の状態をシミュレーションできることを用いて、植物の濡れが原因となる作物病害、特にイネいもち病に関する研究を行った。宮城県内の水田を想定して、気象データを陸面過程モデルに入力し、葉面保水量の計算を行ったところ、誘電率を用いた葉面濡れセンサー出力とよく対応することが示された。葉面は降水のほかに、結露によってしばしば濡れ状態となるが、この様子も再現できた。気象データとして数値予報モデルによる予報値を用いることで、葉面濡れを原因とする病害等の予測が可能であることがわかった。</p> <p>雲解像モデルによる数値シミュレーション結果を最新の衛星観測データと比較し、日本周辺域における降水量の再現性を定量的に明らかにした。雲物理特性の時空間分布をモデルと衛星観測で比較し、雲微物理量分布の表現と地上降水量予測精度との関係を調べた。観測事例として、2013年7月山形豪雨、8月秋田・岩手豪雨、2014年2月関東甲信・宮城豪雪について数値シミュレーションを行い衛星データとの比較を行った。地表の豪雨をもたらした3次元的な水(雲)の分布は、衛星からとらえた気柱当りに含まれる量との比較ではほぼ一致し、その変化を動的にとらえることができた。</p>			

分野名	宙空災害研究分野	報告者氏名	小原 隆博
分野目標			
宙空災害研究分野では、人類の宇宙活動に影響を及ぼし得る宇宙放射線に焦点を当てて研究を進める。JAXA の衛星プロジェクトに参加し、宇宙で放射線を計測するとともに、カナダでの地上観測を行なう。国連宇宙天気活動に参加し、宇宙放射線に関するガイドラインをまとめると共に、会議の協賛も行なう。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>以下の 5 点が、平成 26 年度の成果である。</p> <p>① 昨年度に引き続 JAXA の衛星プロジェクトに参加し、宇宙での放射線計測を実施するとともに、その解析から放射線帯粒子変動に関する新しい知見を見出した。</p> <p>② 磁気嵐が発生した際に、磁気赤道面付近に存在していた放射線帯粒子が、地球大気に実際に降下する現場を観測する目的で、カナダ・アサバスカに観測拠点を設置し観測を続行した。</p> <p>③ 太陽については、放射線粒子を放出する太陽表面爆発現象を、東北大学の太陽電波望遠鏡によって観測しつつ、人工衛星による太陽放射線の直接観測と比較した。</p> <p>④ 国連宇宙空間平和利用委員会 (UN COPUOS) 活動に参加し、宇宙天気専門家会合の共同議長として、ベスブラクティス・ガイドライン (全 53 ページ) をまとめ、発行した。また、国連宇宙天気会議 (平成 27 年 3 月、福岡市開催) に協賛した。</p> <p>⑤ 宇宙空間研究委員会 (COSPAR) 宇宙天気パネル副委員長として、宇宙天気ロードマップ (2015-2025) を策定し出版した</p>			

分野名	国際巨大災害研究分野	報告者氏名	遠田 晋次
分野目標			
地形地質学的手法を駆使して沿岸域の数千年～数十万年といった長期地殻変動を明らかにし、東北地方太平洋沖地震のような超巨大地震の繰り返しの有無とその活動履歴の解明に資する。また、地震によって生じた地表地震断層と既知の活断層・変動地形との関係を明らかにし、内陸地震ハザード評価の高精度化を目指す。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>超巨大地震繰り返しメカニズム解明に向けた基礎データ取得の一環として、三陸海岸において長期地殻変動検出のための地形地質調査を実施した。三陸海岸南部に位置する陸前高田平野と気仙沼大川平野ではボーリング調査を実施し、過去 1 万年間の詳細な古環境変化を復元した。その結果、両地域ともに従来想定されていた長期的隆起傾向とは異なり、過去 1 万年間全体としてみると平均約 1 mm/年で沈降していることがわかった。測地観測による過去数十～百年間の沈降速度(数 mm/年～十 mm/年)よりも過去 1 万年間の平均沈降速度が小さい理由の一つとして、観測記録では捉えられない未知の地殻変動が含まれている可能性が考えられる。また、段丘地形・地下地質情報に基づき、さらに長期の数 10 万～数万年オーダーの地殻変動を調査した結果、三陸海岸北部は隆起傾向にあり、三陸海岸中部～南部は沈降傾向にあることがわかった。一方で、海溝型巨大地震の発生履歴を解明するため、岩手県山田町と宮城県南三陸町にて見出された津波堆積物の堆積年代について放射性炭素年代測定とテフラ分析を行い、詳細な津波発生年代を明らかにした。</p> <p>内陸地震評価に関しては、平成 26 年 11 月 22 日に発生した長野県北部の地震 (マグニチュード 6.7) の直後に現地踏査を行い、既知の糸魚川-静岡構造線神城断層沿いに地表地震断層を確認した。断層の長さは 9 km、上下変位は最大 80cm におよび、断層北端部では分岐・並走などの複雑な分布形態を確認した。分布の複雑性が動的破壊の進展と抑制をコントロールしている可能性がある。一方で、東北地方太平洋沖地震によって誘発された内陸地震活動の減衰傾向を 4 年間の観測データで調べた。その結果、伊豆半島は 1 ヶ月で活動が終息したが、銚子周辺や福島・茨城県境では数十年以上継続する傾向がみられており、全体として誘発地震継続期間が地域歪み速度に反比例する傾向が見出された。</p>			

災害医学研究部門活動報告

報告者氏名：江川 新一

部門目標
広域巨大災害に伴い発生する急性期・慢性期の保健医療対応と備えに関する研究推進、および災害時医療・医学の国際標準の確立。オールハザードに対応できる保健・医療を含めた地域社会の備えと、災害時におきる精神や身体の治療ニーズの解析、よりよい対応方法の樹立と、実践的な災害保健医療の教育や訓練を行う。
2014 年度の部門活動報告
<p>1. 広域巨大災害に対応できる災害医学医療の確立：ワシントン DC で国際シンポジウムを開催してコンセンサスを形成し発信することで仙台防災枠組 2015-2030 に健康を大幅に盛り込むことに貢献した。オールハザードに対する国内外の協力体制を構築した。歯牙情報に基づく身元同定システムを構築し、国際標準化を行った。</p> <p>2. 災害に対する身体とこころの健康の課題調査と改善：仙台防災枠組にメンタルヘルスを盛り込むことに成功し、被災地を中心に精神と身体の治療調査研究を継続実施し、こころの防災市民フォーラムを開催した。災害でより女性や健康被害を受けやすい人々のストレスや疾患発生について調査研究を継続実施している。</p> <p>3. 大規模災害後の疾患研究およびそれを通じた被災地住民健康保持の推進：感染症、それ以外の精神・身体疾患の発症の現状を調査し、病態メカニズムの研究を推進し、災害感染症セミナー in Miyagi を開催した。被災地における保健医療の支援と結びついた疫学・臨床・基礎研究の融合、東北メディカルメガバンクと協力した被災地の復興事業としての次世代型医療の開発を行った。地域包括ケアの現状と災害対応の調査を行った。</p> <p>4. 放射線や被曝に対する正しい教育と訓練の普及：福島県の乳歯による体内被曝調査を行った。緊急被ばく医療推進センターを設立し、緊急被ばく医療体制の充実を行い、緊急被ばく医療セミナー in Miyagi を開催した。</p> <p>5. 災害時医療および医学に関わる国際学術研究の拠点形成：WHO と共同して仙台防災枠組に健康を盛り込むことに成功し、災害統計グローバルセンターに保健医療の指標を取り入れるための活動を開始した。国内外において災害医療・医学に関する講義を行った。</p> <p>6. 災害に強い医療情報技術の確立：医療情報共有のための設備運用について東北大学病院を中心にみやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会 MMWIN の活動を推進し、避難所のモバイルアセスメントを推進している。</p>

災害医学研究部門 分野活動報告

分野名	災害医療国際協力学分野	報告者氏名	江川 新一
分野目標	<p>災害に強い医療供給体制を構築することをミッションとし、災害時の保健医療システムの破たん、それに備える病院 BCP・受援力のあり方、医療ニーズの質的量的変化に対する備え、保健医療コーディネーション・意思決定メカニズムを研究する。仙台防災枠組に保健医療の概念を加え、より人々の精神と身体の治療を守る実践的防災学の一部として災害保健医療の教育を行う。</p>		
2014 年度の分野活動報告	<p>5 月にワシントン DC で災害保健医療に関する国際シンポジウムを主催し、災害保健医療専門家のコンセンサスを形成した。その結果をアジア防災閣僚会議、ダボス国際リスクフォーラム、東北大学知のフォーラム、東京 IRDR など発信し、WHO などと共同で兵庫行動枠組では 3 か所のみであった健康に関する記述を仙台防災枠組において 34 か所に増加させ、災害保健医療の備えやメンタルヘルスに関する具体的な記述を盛り込むことができた。全都道府県の災害医療コーディネーターに関する追加調査結果を発信した。東北大学病院 BCP を継続運用し、被災地医療機関の受援計画の調査解析、東日本大震災後の診療記録データベース化を推進した。NPO 法人長陵協議会、東北メディカル・メガバンクと協働して、被災地の循環型医療支援、次世代型ゲノム医療、医療情報共有の事業に参画した。フィリピンの台風 30 号被害に際して医療機関の被害状況の追加調査を行った。</p> <p>リーディング大学院、Human Security コースでの大学院生教育を継続し、医学部 4 年生・臨床研修指導医に災害医療の基礎知識を講義した。フィリピン大学マニラ校およびアンヘラス大学と部局間学術協定を締結し、アンヘラス大学公衆衛生大学院において災害医療の特別講義を 3 回行った。</p>		

分野名	災害感染症学分野	報告者氏名	服部 俊夫
分野目標			
災害により自然に暴露された際にベクター由来感染症や、人獣共通感染症などの災害感染症が発生する。マニラのサンラザロ病院の感染症は災害感染症にあたり、デング熱、結核、レプトスピロシスのポイントオブケアテスト(POCT)の開発を行った。さらに病態を反映するマーカーとしてのマトリセルラー蛋白の意義を追求した。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>主な研究活動</p> <p>① 熱帯災害感染症におけるマトリセルラータンパク質の臨床的意義に関する研究を行った。 デング熱において、全長型のオステオポンチン(OPN)と切断型 OPN の双方を測定し、前者が病初期に、後者が回復期に上昇することを示し、OPN が免疫と凝固の活性の指標となるクロストークマーカである可能性を示した。またサンラザロ病院の肺結核において、初診の際に Galectin-9 (Gal-9)が血漿レベルで高値を示したが、日本・インドネシアの結核患者は高値をしめさなかった。免疫組織染色では Gal-9 は肉芽腫周辺に染色され、炎症局所では Gal-9 が産生されていると思われた。</p> <p>② 人獣共通感染症の早期及び鑑別診断法 (POCT)の確立及び応用 マニラで洪水の際に発症する災害感染症であるレプトスピロシスはラットなどの尿で汚染された水を介して感染する。サンラザロ病院とフィリピン大学との共同研究で、確定診断された患者の尿と血漿を用いて LAMP を行い、尿中の細菌由来 DNA が、貪食細胞に取り込まれている可能性を示した。また結核患者の喀痰由来の DNA をスポリゴタイピングで解析することにより、細菌の遺伝子型を同定することに成功し、サンラザロ病院の結核菌はすべてがマニラ型であった。</p> <p>③ デング熱、レプトスピロシス、結核、マラリアなどの災害感染症患者血漿を 39 種類のサイトカイン・ケモカインの測定のできるルミネクスで解析し、炎症免疫反応パターンの分類と診断への応用を行った。これにより災害感染症におけるレジリアンス関連マーカーの同定の試みも行った。</p>			

分野名	災害放射線医学分野	報告者氏名	千田 浩一
分野目標			
放射線影響評価および被曝測定防護に関する医学的研究、放射線等に対する正しい理解の普及、災害時等における画像診断システム開発等々を行う。当該領域での教育および研究者育成を行い、さらに新しい技術を開発し世界へ情報を発信し成果を社会に還元する。千田兼担の大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同保健学科の研究教育等を推進する。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>研究等：本研究所プロジェクト課題として「災害時 X 線撮影システムの開発」(特許出願済)などを行った。研究代表者(千田)として科研費「基盤 B」、「挑戦的萌芽」を継続して行った。また産業医大や筑波大等との共同研究も含め、研究分担者として「基盤 B」および 2 件の「基盤 C」等を行った。さらに企業との産学共同研究にも積極的に取組んでいる。以上の成果として、当該年度は計 12 編 (英文 6、和文 6) の論文が採択された。</p> <p>国際交流等：北米放射線学会 (RSNA、放射線医学系の最大の国際学会) で関連演題を 3 題発表し、うち 1 つは、RSNA Exhibit Award "CERTIFICATE of MERIT"を受賞することができた。(他に欧州放射線学会は 2 題発表など)</p> <p>教育等：医学部講義(主に放射線技師育成)を通年週 3 コマ、学生実験(通年週 2 回)担当。他学科分担講義や全学教育における集中講義等を多数担当。保健学専攻大学院講義 (含む医学物理士育成) を通年週 2 コマ、その他集中講義等を多数担当。以上は当分野の人材養成の基盤になる。当該年度は当分野に、院生 14 名(博士課程 7 名、修士課程 7 名)、学部生(卒業研究)が 4 名在籍し研究指導等を行った。さらに、主査として博士 1 名と修士 2 名と学士 4 名の学位を出した。(さらに副査として博士 5 名と修士 1 名)。学部学生の就職担当教員としてキャリア支援を引き続き精力的に行った。</p> <p>特許出願等：当該年度は知的財産として次の 3 件の実績を挙げた。1. 特許出願：特願 2014-173929(電源システム及び医用 X 線システム)、2. 特許公開：特開 2014-173903(線量計)、3. 米国出願：14/610、762 (Evaluation Aid)。</p> <p>社会活動等：仙台市防災会議専門委員 (及び原子力防災部会委員) として、防災計画作成活動を行っている。また放射線の正しい知識の普及のための多数の講演活動等やパンフレット作成等を行っている。さらに新線量計の開発についてプレスリリースを行い、日経新聞等から多数の取材を受けた。</p>			

分野名	災害精神医学分野	報告者氏名	富田 博秋
分野目標			
東日本大震災が被災住民の精神的健康と精神保健医療制度に及ぼした影響の実態を把握し、これらの影響からの回復・復興に有益な情報を抽出するとともに、今後の災害にメンタルヘルスの面から有効に備えるための実践的な災害精神医学を推進し、更に災害ストレスに関連する精神疾患の病態を解明し、診療技術の向上を図ること。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>①東日本大震災が被災住民に及ぼした影響の把握と長期支援：宮城県七ヶ浜町では発災以来、毎年継続している被災者健康調査、仮設住宅での茶話会、個別支援を継続して行い、災害後の中長期の精神面への影響の詳細な実態把握、回復の促進因子、阻害因子の解析を行ってきている。更に、東北大学東北メディカル・メガバンク機構が行う宮城県全県での大規模健康調査でもメンタルヘルス面の実態把握・支援を行っている他、宮城県立こども総合センターと連携して被災地の子どものメンタルヘルス実態把握を進めた。</p> <p>②精神保健面の防災・災害対策：東日本大震災被災 3 県の精神科医療機関で地震・津波・原発事故が及ぼした影響とそこからの復旧・復興のプロセスを評価・分析し、今後の災害への備えに活かしていく上で有益な情報の抽出を行った。また、テキストブック「災害精神医学」の監訳・出版をし、日本精神神経学会災害支援委員、厚生労働省災害派遣精神医療チーム（DPAT）準備委員として対策案の策定に当たった。</p> <p>③精神疾患病態研究：心的外傷後ストレス障害（PTSD）、気分障害、アルコール依存などの災害ストレス関連精神疾患に関して、動物モデルを用いた病態解明研究を進め、病態形成関連候補分子の特定を行った。</p> <p>④「東日本大震災メンタルヘルスアーカイブ」：東日本大震災後のメンタルヘルス面の様々な取り組みに関する情報を集積して後世に残すため、各種団体へのアンケート調査を行うとともに資料収集を行った。</p> <p>⑤災害精神医学に関する国際連携・協力：第 3 回国連防災世界会議に向け、平成 26 年 5 月にワシントン DC で防災体制の枠組にメンタルヘルスを組み込むことの重要性和考慮すべきことに関する国際会議を開催、その成果を平成 27 年 2 月の仙台市での「こころの防災」市民フォーラム、日本集団災害医学総会、3 月の第 3 回国連防災世界会議で発信するとともに、更に議論を深めた。</p>			

分野名	災害産婦人科学分野	報告者氏名	伊藤 潔
分野目標			
災害産婦人科学分野は、産婦人科疾患を災害の視点から捉え直すことを目指す分野として創設された。甚大な災害が、婦人科がん検診体制を中心とした保健医療体制に及ぼす影響、婦人科特有の疾患に及ぼす影響を、多面的かつ長期的に解析・検討し、災害地の女性の健康を図ることを第一の目的に、大災害が母子に及ぼす影響を分析し、今後に備え対応できる国際的基準を確立することを第二の目的としている。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>1. 震災時ストレスとその後の生活環境変化が婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響の解析 2014 年 7 月に第 15 回ホルモンと癌研究会を仙台で主催した。テーマは「ホルモン研究の新展開―災害、ストレス、そしてがん―」とし、甲状腺、乳腺、子宮など環境の影響を受けやすい臓器に関し、災害とがんに関連した講演などを行い、他分野・他大学・機関との広範な連携を図った。また、ストレスホルモンやその関連因子が子宮体癌の生命予後と密接に関わることを明らかとし、研究成果を婦人科領域の代表的国際誌(Int J Gynecol Cancer)およびホルモン領域の著明国際誌 (Mol Cell Endocrinol) に掲載した。</p> <p>2. 東日本大震災が宮城県での婦人科がん検診体制に及ぼした影響の解析 震災後数年が経過しても被災地でのがん検診受診率は低迷していたが、HPV 併用検診などに取り組んだ地域では一部で改善が見られた。これらの成果を 2015 年 3 月の世界防災国連会議のパブリックフォーラム：震災時のがん医療で講演した。</p> <p>3. 被災地における国際標準化された災害時分娩取扱い教育プログラムの展開 2014 年 8 月に、医師、看護師、助産師、家庭医、救急隊員など産科救急に携わる医療関係者に向けた教育プログラム（座学と実習）を、石巻赤十字病院で開催し、教育効果を検証した。</p> <p>4. 災害ストレスによる婦人科疾患発症予測マーカーの確立 ストレスホルモンであるコルチゾールによる子宮内膜癌増殖について、S100P と RAGE の 2 つの因子の関与を明らかにし、米国内分泌学会 (San Diego) にて発表を行った。ホルモンに関する研究活動が認められ、The Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology の Excellence in Reviewing を受賞した。</p> <p>5. 災害医学研究に関する教育活動 東北大学医学部保健学科卒業研究（4 年生 1 名）と医学科基礎医学修練（3 年生 4 名）において、災害ストレスと婦人科疾患をテーマとした研究指導を行った。また、東北大学星陵キャンパスを対象に基礎医学研究者の研究モチベーションに対する震災の影響を調査した。</p>			

分野名	災害公衆衛生学分野	報告者氏名	栗山 進一
分野目標			
研究活動においては、大規模災害が健康に与える中長期的影響を、大規模疫学調査の手法を用いて明らかにし、知見が得られれば速やかにこれを情報発信する。さらに中長期的な被災地における健康状態の実態把握と課題があればこれに対する対策立案と政策提言・実践を行う。教育及び学外の社会活動においては、学部から大学院まで幅広く教育を行い、自治体等での講演を積極的に展開する。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>研究活動においては、大規模災害が健康に与える中長期的影響を、大規模疫学調査の手法を用いて研究している。子どもの健康と環境に関する全国調査においては、妊娠中に東日本大震災を経験した妊婦から生まれた児の追跡調査を実施している。東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究及び地域子ども長期健康調査では、被災の経験のある幼児では、アトピー性皮膚炎や気管支喘息の有病率が高いことを見出した。さらに大規模災害が中長期的健康に与える影響に関する大規模疫学調査（三世代コホート調査）によって、震災後数年後の沿岸部と内陸部の健康状態を比較し、自治体等に健康向上に関する政策提言を行っている。</p> <p>教育活動については、医学部から医学系研究科まで、「体と健康」、「災害の科学」、「公衆衛生学」、「臨床推論・EBM 演習・医療統計」、「社会医学」、「疫学トレーニングⅠ」、「社会・環境医学」、「健康栄養 特別講義」などの講義を行い、大学院生2名の学位取得指導を行った。</p> <p>学外の社会活動においては、宮城県公衆衛生学会の会長として学術総会の開催、各種災害公衆衛生情報の配信などを行い、公益財団法人宮城県対がん協会の宮城県新生物レジストリー委員会委員、独立行政法人国立成育医療研究センター成育医療研究開発費評価部会委員会委員などを務めている。さらに「第6回元氣！健康！フェア in とうほく」、「東北メディカル・メガバンク機構市民講演会」、「第15回富士通病院経営戦略フォーラム」、「平成26年度宮城県栄養士設置市町村連絡協議会総会」、「第2回白石市食生活改善推進委員会（ヘルスメイト白石）中央講習会」、「平成26年度全国保健師教育機関協議会 夏期教員研修会」、「東北大学脳科学センター市民講座 脳・神経の病気の解明はどこまで進んでいるのか」、「がん講演会」、「NIH-Japan-JSPS Symposium」、「第18回発達障害支援医学研修未来の医療の不思議―家族とゲノムがにぎる鍵―」などで講演を行った。</p>			

分野名	災害医療情報学分野	報告者氏名	中山 雅晴
分野目標			
災害時に必要なツールの開発を行う。また、データ活用を目的として診療情報のバックアップの整備を行い、データそのものの形式を定め、標準化を推し進める。日常診療において、医療スタッフの満足度を上げるべくシステムを改善し、電子化を進める素地を固める。			
2014 年度の分野活動報告			
<p>2014年4月東北大学病院の電子カルテ化を1年半かけ成功裏に完了させた。本プロジェクトでは導入責任者を務めた。診療科ごと五月雨式に拡大展開し、最終的に院内全ての電子化を完成させた。さらに、2015年1月には病院情報システム更新も責任者として大過なく行った。その過程を通して、東北大学病院の診療情報の電子化を積極的に推し進めている。また、みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会(MMWIN)に協力し、宮城県における診療情報のバックアップを進めている。他にもシステムの不備の改修、アプリケーション改善、情報地域連携活用のための準備などを通じて事業に貢献している。災害時のツールとしては、宮城県、日本総研、ACT災害研究所と協力し、災害時における避難所のアセスメントをipadなどのモバイルにより入力および管理できるツールを作成した。今後、評価内容の標準化とともにiOSアプリ化を行う。また、管理項目の評価方法についてアルゴリズムを開発し、災害医療コーディネーターの理解を深め、属人的でない管理体制の確立を目指す。サーバーに関しては国立保健医療科学院のご協力の下、24時間365日管理できる体制を構築中である。</p> <p>臨床情報はSS-MIXという標準ストレージ形式に保存されることが一般的になってきた。標準ストレージは、採血や検査など標準コードに紐付いた標準ストレージと、それ以外の拡張ストレージとに分けられる。拡張ストレージには臨床データのほとんどが含まれるため、今後のデータ活用を鑑みれば、拡張ストレージにおける形式を定めることが重要である。日本循環器学会やJAHIS、IHE協会と協力し、心電図や心臓超音波、心臓カテーテル検査などのレポート形式において日本循環器学会標準形式を定めるための活動を行った。近日パブリックコメントを経て、標準化形式として確定する予定である。</p>			

分野名	災害口腔科学分野	報告者氏名	小坂 健
分野目標			
災害口腔科学分野として、これまで通り、1) 歯型を用いた身元確認の国際標準化の推進、2) 歯からの放射線被ばくの推定、3) 被災地の健康支援の有り方、及び4) 地域包括ケアシステムによる防災体制について研究を進めると共に提言していく。			
2014 年度の分野活動報告			
1) ISO 2 3 3 4 			
2015 3 1 2800 3 10 9 366 21 450 3 68 1 71 2 24 40 20 1 7 2 78 40 20 40 60 20 http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kensui/bukyukasetu/jutaku.html 4 118 85 73			

情報管理・社会連携部門活動報告

報告者氏名：佐藤 健

部門目標
<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の震災アーカイブの構築支援と今後の防災・減災対策に向けた震災記録の利活用を推進する。 ・東日本大震災の被災地における実践的な復興まちづくりおよび復興教育のありかたを探究する。 ・実践的防災学の構築と社会実装のつなぎ役として、研究所の成果を国内外に発信するベニューを構築する。
2014 年度の部門活動報告
<p>災害アーカイブに関する研究と震災アーカイブの利活用の推進 災害アーカイブ研究分野が中心となり、災害アーカイブに関する国内シンポジウムと国連防災世界会議のパブリックフォーラムの開催を通して、災害アーカイブの国内外連携、及び災害アーカイブ学の構築に向けた研究を推進した。また、震災アーカイブの利活用の推進として、語り部シンポジウム「かたりつぎ」を 3 年連続で開催し、本年度は、多賀城市民センターにおいて 1100 人の来場者があり、後世へ残す一つの方法として確立した。</p> <p>東日本大震災の被災地における実践的な復興まちづくりおよび復興教育のありかたの探究 第三回国連防災世界会議に関連して、防災教育普及協会、内閣府（防災担当）、文部科学省とともに国連防災世界会議防災教育日本連絡会を立ち上げ、防災教育に関する情報交流セミナー、防災教育交流国際フォーラムを企画・運営・実施した。また、「石巻市復興まちづくり推進会議」のメンバーとして石巻市の復興事業に関して、個別具体の施設デザインから、包括的な都市戦略まで、多岐に亘る膨大な案件について、市内部や県との調整を行いながら、実践的・実務的な復興まちづくりに関する知見を蓄積してきた。</p> <p>実践的防災学から得られる知見の社会発信 国連防災世界会議にむけ学の立場から、1) 実践的防災学の実装の活動を世界にアピールし、2) 会議の成果文書に東日本大震災の教訓や研究所が考える国際防災の重要事項をアピールするために所内に準備室を設置した。準備室は、知のフォーラムや APRU の活動とリンクさせ、パブリックフォーラムやシンポジウム、イベントなどを行う司令塔の役割を果たした。成果文書に対しては、仙台防災枠組に目標を設定するためのルールを敷くことができ、UNDP との間に災害統計グローバルセンター設置を発表、世界防災フォーラムのアイデアについても構想を発信した。</p>

情報管理・社会連携部門 分野活動報告

分野名	災害アーカイブ研究分野	報告者氏名	柴山 明寛
分野目標	<p>東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」の活動を中心に、東日本大震災の継続的な震災記録の収集・整理・保存・利活用の推進をするとともに、国内外の震災アーカイブの連携強化及び発信の強化、震災アーカイブのメタデータの標準化を目指す。</p>		
2014 年度の分野活動報告	<p>本年度については、震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」の継続的な活動を行い、宮城県沿岸部を中心に復旧・復興活動等の写真について約 2 万～3 万点の収集を行い、これまでの合計で約 40 万点の震災記録の収集を行った。震災記録の利活用としては、Web 上公開及び API 連携の件数が 10 万点から 13 万点と増大した。また、震災の教訓を伝え残す活動として、多賀城市と協力し、女優竹下景子氏をお招きした語り部シンポジウム「かたりつぎ」を開催し、約 1100 人の来場者があった。</p> <p>ハードウェアの整備状況としては、災害研新棟に移動したことに伴い、公開サーバ及び長期保存のための NAS と記録媒体の再整備を行った。現在では、一次保管場所として合計 0.5 ペタバイトの保存容量を有し、長期保存のための環境設備が整った。</p> <p>国連防災世界会議においては、「みちのく震録伝」の震災記録データを多数団体に提供を行った。例えば、仙台メディアテーク 1 階の復興パビリオンの展示や仙台市のスタディーツアーでの震災記録の利用、東北大学の震災から復興への記録の展示などで利用された。また、パブリックフォーラムにおいて、国内外の研究者 7 名を招聘し、「災害教訓の伝承～アーカイブとメモリアルの役割とは～」を開催して約 70 名の参加者があり、活発な意見交換が行われた。</p> <p>その他、学術会議としては、震災後から毎年行っている東日本大震災アーカイブシンポジウムを開催し、国内の震災アーカイブ団体を招聘し、報告及び約 150 人の参加者と議論を交わした。国内外連携としては、ハーバード大学ライシャワー日本研究所と継続的な共同研究の推進や自治体（多賀城市等）のアーカイブ構築支援、仙台市七郷市民センターへの震災記録の収集・整理支援などを行った。</p>		

分野名	災害復興実践学	報告者氏名	佐藤 健
分野目標			
<p>実践的防災学の確立と復興・防災に関する実践的な展開を大目標に、具体的には以下の二点を目標としている。</p> <p>1) 防災教育国際協働センターを中心に、海外の大学や研究機関等との連携を推進し、地域に根ざした防災・復興教育モデルの開発と実践、高度化の推進。2) 復興事業の実務的支援を通じた実践的な復興まちづくりのあり方の探究。</p>			
2014 年度の分野活動報告			
<p>佐藤健教授・桜井愛子准教授は、石巻市学校防災推進会議の委員（佐藤教授は委員長）として、山形大学、石巻市教育委員会とともに、石巻市の災害復興教育プログラムの開発、実践、モデル構築を支援した。桜井准教授は、石巻市立鹿妻小学校での実践に対して、日本安全教育学会の優秀実践賞を受賞した。第三回国連防災世界会議に関連して、防災教育普及協会、内閣府（防災担当）、文部科学省とともに国連防災世界会議防災教育日本連絡会を立ち上げ、防災教育に関する情報交流セミナー、防災教育交流国際フォーラムを企画・運営・実施した。宮城教育大学と連携し、総合フォーラム「持続可能な開発のための教育を通じた防災・減災の展開」を共催した。2015 年 3 月 1 日付で、プロジェクト連携協力センターとして防災教育国際協働センターを設立した。同センターは、仙台防災枠組みのもと、文理融合の学際研究を推進していくための防災教育に関する国内外のネットワークのハブ機能を備える。また、小野田泰明教授（兼務）・平野勝也准教授・小林徹平助手は、昨年度から引き続き、姥浦道生准教授（兼務）、今井健太郎助教などとともに、「石巻市復興まちづくり推進会議」のメンバーとして石巻市の復興事業に関して、個別具体の施設デザインから、包括的な都市戦略まで、多岐に亘る膨大な案件について、市内部や県との調整を行いながら、実践的・実務的な復興まちづくりに関する知見を蓄積してきた。なお、平野准教授は、女川町復興まちづくりデザイン会議委員長として女川町のまちづくりに貢献してきた。また、本江正茂准教授（兼務）は、災害教訓の継承の知見を生かし、仙台市（震災復興メモリアル等検討委員会）・山元町（震災伝承検討委員会）において震災伝承への助言を行う一方で、女川町では、公共建築（公共施設町民会議・学校施設町民会議）に関して指導を行ってきた。</p>			

分野名	社会連携オフィス	報告者氏名	小野 裕一
分野目標			
<p>文理横断の合計 7 部門 37 分野で行っている研究活動の成果が社会で実装されてこそ価値があるといえる。社会連携オフィスは、本研究所と社会の間の様々な連携活動を強化・促進するにあたり、“繋ぎ役”としての活動を国内外で行い、実践的防災学の構築のために、研究所の成果を国内外に発信することをアシストする。</p>			
2014 年度の分野活動報告			
<p>2015 年 3 月 14～18 日に仙台で開催された第 3 回国連防災世界会議は、本研究所が実践的防災学の成果を世界に発信する絶好の機会であった。多大なる犠牲を払いながら得た教訓・知見を、震災直後からご支援くださった国内外の方々に還元することは我々の責務。よって、本年度の社会連携活動は、防災会議の準備に収斂したものとなった。社会連携オフィスがコアとなり所内に国連防災世界会議の準備室を設置し、準備の司令塔として、本体会議の成果文書へのインプット等に関わるとともに、会議開催中のパブリック・フォーラムなどの企画・運営、会議の成果に関する様々な国連防災世界会議準備室は本研究所の会議に関する窓口として、所外の関係者との調整や連携自治体への協力を中心に活動した。主な成果としては、①「仙台防災枠組」の政府間準備交渉に専門家として参画しターゲット（目標）策定の議論に貢献した。② 準備会合のひとつであった 1 月 14～16 日東京大学開催の世界防災減災科学会議の企画運営に携わり、宣言文に災害統計の重要性を盛り込んだ。③ 国連防災世界会議期間中の 3 月 15 日に UNDP と連携して災害統計グローバルセンターの設置記者会見を行い、「仙台防災枠組」で示された目標の到達状況をモニタリングする機能も兼ねたセンターを作っていくことが決まった。これにはクラーク UNDP 総裁、アクター ESCAP 事務局長、仙台市長も参加し、非常にハイレベルでの設置式となった。④ 国連防災世界会議のモメンタムを維持し、定期的に産学官民の連携によって、世界防災フォーラム（仮称）を仙台および被災地で開催することを、3 月 10 日に萩ホールで行った知のフォーラムのイベントで賛同を得た。ダボスのグローバルリスクフォーラム、APRU 事務局、NGO、防災の専門家から強い支持があった。⑤被災地での 4 つの関連イベント、所内で 19 のシンポジウム、12 の展示とスタディーツアーの開催をアシストした。</p>			

寄附研究部門・地震津波リスク評価（東京海上日動） 寄附研究部門

報告者氏名：今村 文彦

部門目標
津波フラジリティに関する研究、地震津波リスク研究、津波避難研究、防災教育・啓発活動等に関する産学連携研究を推進し、研究成果や得られた情報を広く社会に提供していくほか、強靱なコミュニティづくりに寄与することを目指す。
2014 年度の部門活動報告
<p>まず、津波フラジリティ評価に関する研究は、東北地方太平洋沖地震の構造物や船舶に関する被害データに最先端の統計学技術を適用し、数値解析に基づく津波流速や漂流物影響、被災メカニズム等も考慮して詳細かつ高精度な津波被害関数を構築した。次に、地震津波リスク評価は、確率論的津波ハザード評価手法を応用し再現期間ごとに評価した陸域の津波遡上域に対して、津波フラジリティ研究から得た建物フラジリティ曲線を適用し、建物に対する津波リスクを定量化する手法を確立したほか、確率論的津波ハザード評価に包含される不確実性を抽出・定量化して、ハザードマップの形態に可視化し分かりやすく視覚的に伝達する手段を提案した。この津波リスク定量化手法に関する研究成果は高く評価され、海岸工学論文奨励賞（土木学会・海岸工学講演会）を受賞した。</p> <p>津波避難研究では、地域特性に応じた避難方法を確立するため、住民参加のもとで地域の避難計画を検討するワークショップ手法を東日本大震災の被災自治体とともに検討・実践したほか、産官学連携プロジェクト「カケアガレ！日本」に参画し平野部や観光地・商業施設など地域課題を踏まえた避難訓練手法を提案、訓練を通じて避難の実効性を高める取組を重ねた。そして、防災教育の取組では、宮城県内 70 小学校とタイ、インドネシア、フィリピンなど海外の小学校も訪問し、災害を科学の視点でとらえ分かりやすい表現で伝えながら、子どもたちが自ら考え判断する減災意識を育むプロジェクトを推進した。教育活動を通じて、子どもたちの意識や、家族と災害への備えを共有する態度が高まることも明らかにされた。</p> <p>第 3 回国連防災世界会議においては、産学連携研究成果を発表するパブリック・フォーラムを開催し当研究部門発足以降 3 箇年の研究活動成果を社会に向けて発信した。</p>

リーディング大学院「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム（G-Safety）」

報告者氏名：日野 亮太（松本 行真・久利 美和・杉安 和也・地引 泰人）

分野目標
科学・技術・人文社会科学の研究者が連携したプログラムにより、「安全安心を知る」、「安全安心を創る」、「安全安心に生きる」という 3 つの視点からリーダーを養成する。我国や世界が直面する、巨大地震や津波などの自然災害あるいは気候変動、エネルギーセキュリティ問題等を解決し、人類社会の持続性及び安全安心な社会構築に寄与するグローバル安全学分野のトップリーダー人材育成を目指す。
2014 年度の分野活動報告
<p>本分野には G-Safety 専任教員 4 名(2013 年度着任)が所属するが、2014 年 4 月より情報管理・社会連携部門の社会連携オフィス分野より独立した。G-Safety は大学院生対象の教育プログラムで、8 研究科を含む 12 部局が参画し、所内では、WG7 名（専任教員 4 名を含む）が調整を担当の上、多数の所内教員が授業・実習を提供している。2014 年度は、33 名の所内教員が本プログラムの講義・演習を開講した。2014 年度は G-Safety 第 2 期受講生を採択したが、1 期生が受講した 2013 年度の講義・実習のカリキュラム改善案をもとに、実践的防災学 I～VIII の再構築を行ない、2014 年度は新規内容で開講した。また、グローバル安全学 II、C-Lab 研修の人文社会科学基盤研修 4 テーマおよび安全工学フロンティア研修 1 テーマについて、2014 年度に検討を行い、2015 年度新規開講することとなった。G-Safety 受講生による自主企画活動の支援を教員が担当する。活動経費支援（申請制）のある 7 企画 6 企画の支援を専任教員が担当した。その他、地域連会活動や学生の自主学習会、学生個人活動経費による各種活動に所内多くの教員がかかわっている。具体的には、地域での避難訓練支援、災害科学・防災教育に関する社会活動、いわき市薄磯地区での復興調査や教育活動、海外の復興調査や早期警報・避難に関する調査、などの活動があった。特筆すべき成果として、防災教育をテーマとする学生活動により「減災アクションカードゲーム」が開発され、商標登録（商願 2014-83082）が認められるとともに、第 3 回国連防災世界会議パブリックフォーラム「世界防災ジュニア会議（減災産業振興会主催）」のグッド減災賞「優秀賞」受賞した。同国連防災世界会議では、「東日本大震災の被災地域でのグローバル安全学リーダー人材の育成（会議形式）」を主催し、100 名弱の参加者を得て、議論の場を提供するとともに、受講生・教員が本体会議のテクニカルサポートプロジェクト・スタッフとして運営にも貢献した。</p>

4 研究活動

(2) 特定プロジェクト研究

2014 年度 特定プロジェクト研究報告書

研究課題名	広域被害把握・調査・解析に基づく被災地状況マッピングチームの創成			種目	拠点 A
研究代表者	越村 俊一			職名	教授
部 門	災害リスク研究部門	分野	広域被害把握研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

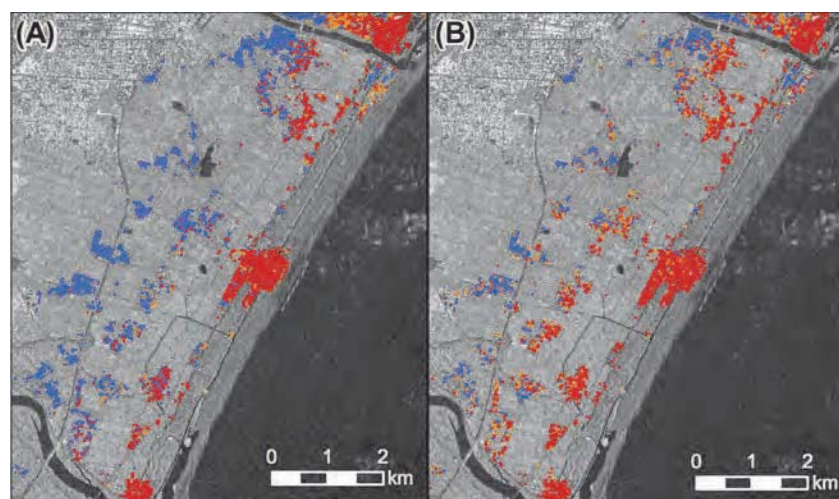
越村俊一・Erick Mas・広域被害把握研究分野、村尾 修・Carine Yi・国際防災戦略研究分野、江川新一・災害医療国際協力学分野、花岡和聖・都市再生計画技術分野、佐藤翔輔・災害アーカイブ研究分野、呉 修一・災害ポテンシャル研究分野

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	4,250,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

【研究の概要】地震・津波・風水害・土砂災害などの自然災害の発生直後に実施する調査や解析の結果を効果的に可視化し、それを国内外に発信するための地図作成チーム（マッピングチーム）を創成し、災害科学国際研究所の調査研究活動の発信力を高めることを目的とする。他機関が公開・運用しているマッピングシステムのレビューを踏まえ、WMS（Web Mapping Service）配信を前提とした災害研独自のマッピングシステムを構築する。

【研究の具体的な成果・波及効果】フィリピンの高潮・強風被害のマッピングについて、ISI 登録の査読付き国際ジャーナル掲載を含む 4 件を公表した。ドイツ航空宇宙センターとの共同研究で、合成開口レーダーを用いた津波被災地の建物被害把握に関する論文が、IEEE Geoscience and Remote Sensing Society のトップジャーナルである Geoscience and Remote Sensing Letters に掲載された。マッピングサーバの基本設計を完了し、3 月中にコンテンツを掲載することができた。2015 年 3 月の国連防災世界会議のパブリックフォーラムを開催した。

【図表】



合成開口レーダによる建物被害マッピングの評価。赤が流失、オレンジが大破、青が中波以下（A：現地調査、B：推定）。ドイツ航空宇宙センターとの共同研究により実施し、IEEE のトップジャーナルに掲載（Gokon et al., 2015）。



タクロバンの建物被害マッピング結果
(Mas et al., 2014)

研究課題名	日本・東南アジアの豪雨・台風被害の減災に向けた実践防災学的アプローチ			種目	拠点 A
研究代表者	呉 修一			職名	助教
部 門	災害リスク研究部門	分野	災害ポテンシャル研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

呉修一（災害ポテンシャル）、越村俊一、エリック マス（広域被害把握研究）、ブリッカー ジェレミー、ボルカー ローバー（国際災害リスク研究分野）、サッパシー アナワット、福谷陽（地震津波リスク寄附研究部門）、久利美和（社会連携オフィス）、野内類（災害情報認知研究分野）、イ ケリーン（国際防災戦略研究分野）、小森大輔（東北大学大学院環境科学研究科）、吉岡真由美（東北大学理学研究科）、手計太一（富山県立大学工学部）、宮本守（土木研究所 ICHARM）、Mohammad Farid（バンドン工科大学）、Maritess Quimpo（DPWH）

期 間	例) 2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	4055000 円
-----	--------------------------	-----	-----------

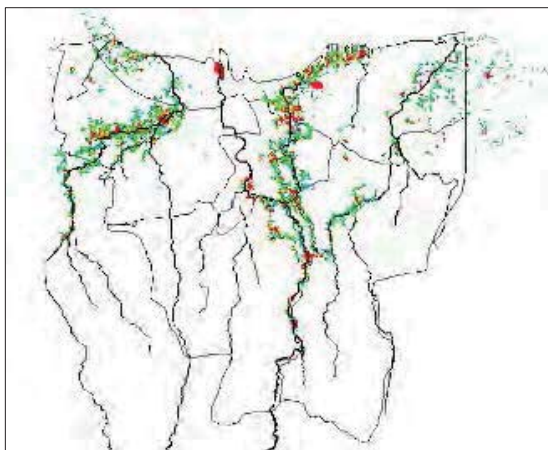
【研究の概要】

本研究は、東北地方および東南アジアにおける豪雨・台風災害に関して、実践防災学的観点から、文理融合の学際的な調査・解析を実施することで、災害の詳細な情報を集め、災害をもたらした現象を数値計算や現地収集データ・情報を用い学術的に高度な解析を行い、災害発生メカニズム・被害拡大要因を明確にすることである。対象は東北地方およびタイ、インドネシア、フィリピンである。

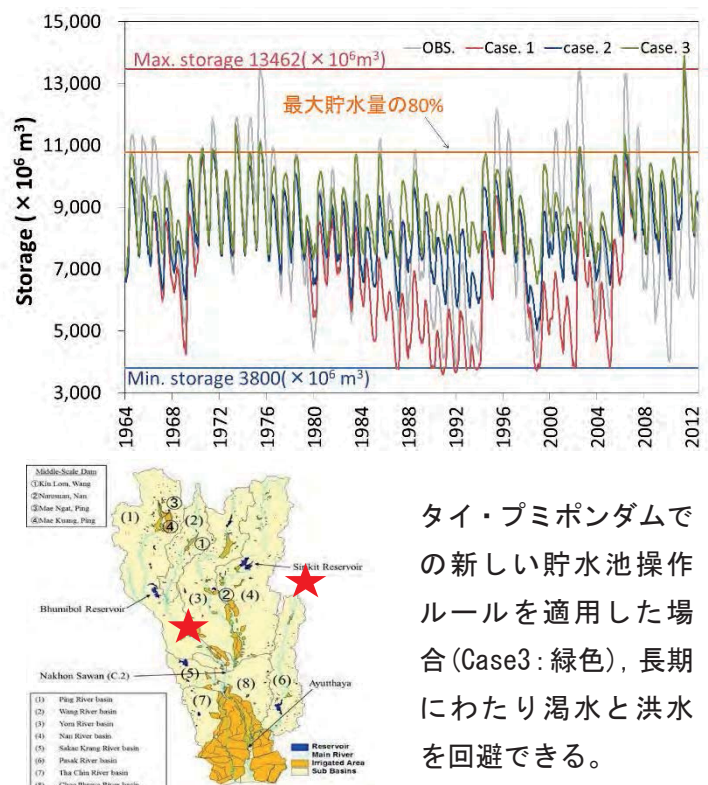
【研究の具体的な成果・波及効果】

インドネシア・ジャカルタを対象とした洪水氾濫解析モデルを構築・適用し、洪水のメカニズムを明らかにした。また、2015 年 2 月に発生した洪水に対しても迅速にモデルを適用し、その結果はジャカルタ政府に提供されている。タイ・チャオプラヤ川流域を対象とした大ダム貯水池の操作ルールに関して治水・利水に最も適した操作方法を開発した。本手法は国内外で高く評価されており、タイ王立灌漑局で導入が検討されている。

【図表】



インドネシア・ジャカルタを対象とした内水・外水氾濫計算モデルを開発した。これにより、洪水メカニズムの解明や今後の各種対策の定量評価が可能となった。2015 年 2 月に発生した洪水は即時に計算されその結果はジャカルタ政府に提供されている。



研究課題名	災害を生きる力とは？—8因子の認知脳科学的分析			種目	拠点 A
研究代表者	杉浦元亮			職名	准教授（兼）
部 門	人間・社会対応研究部門	分野	災害情報認知研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

杉浦元亮・邑本俊亮・野内類（災害情報認知研究分野）、佐藤翔輔（災害アーカイブ研究分野）、今村文彦（津波工学研究分野）、阿部恒之（東北大学）、本多明生（山梨英和大学）、山口浩・佐々木誠（岩手大学）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	4,250,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

【研究の概要】3.11 震災被災者の意見から抽出した、災害における危機回避・困難克服に有利に働く性格・考え方・習慣（生きる力）の8つの因子について、知覚・認知・判断過程のモデルを作成する。これを実証するための計測技術・実験環境を開発し、脳活動計測実験を実施する。その上でこの成果を防災・減災・復興のプロトコールに還元する研究計画を模索する。

【研究の具体的な成果・波及効果】8つの生きる力因子についてメンバー・外部専門家の議論・調査を経て、知覚・認知・判断過程の暫定モデルの提案に至った。これに基づいてその神経基盤を解明する機能的MRI実験に着手し、「問題に対応する力」について予備的知見を得た。8つの生きる力質問紙を災害教育・災害対応トレーニングの効果判定に活用する試みを3つの宿泊プログラム（各参加者20-30名程度、仙台1回・東京2回）で実施し、好感触を得た。

【図表】

生きる力各因子の脳内知覚・認知・判断過程のモデル(暫定)

生きる力因子	知覚・認知・判断過程
①人をまとめる力	(検討中)
②問題に対応する力	実行機能・switching(ルールの変更)
③人を思いやる力	共感・他者視点取得
④信念を貫く力	自己概念の確立
⑤気持ちを整える力	感情制御・マインドフルネス
⑥きちんと生活する力	社会的コードの内在化(自己決定理論)
⑦人生の意味の自覚	自己超越的自己・他者・社会認知
⑧生活を充実させる力	内発的動機・自己成長(自己決定理論)

②「問題に対応する力」に関わる脳領域

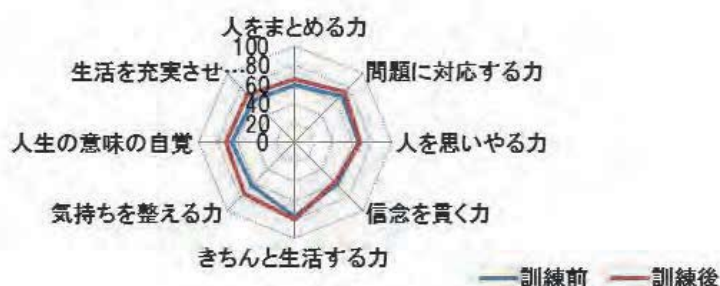


この力の低い人は、MRI内で複雑な問題解決課題を遂行中に、これらの領域の処理負荷が大きい。

被災訓練プログラム(仙台)実施中の様子



訓練前後での生きる力各因子の得点変化



研究課題名	ゲームを用いた災害教育の開発とその国際応用 ーどこでも・だれでも・たのしくできる実践的防災学の展開ー			種目	拠点 A
研究代表者	野内類			職名	助教
部 門	人間・社会対応部門	分野	災害情報認知研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

邑本俊亮、杉浦元亮（災害情報認知研究）、今村文彦、保田真理(津波工学)、 サッパシー・アナワット(地震津波リスク評価)

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	3,120,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

【研究の概要】

本研究計画は、1)様々な災害場面に関連するゲーム・ブックの開発、2)日本国内でのゲーム・ブックを用いた災害教育の実践、3)ゲーム・ブックを用いた災害教育の国際応用を行い、【どこでも】・【だれでも】・【たのしく】できる実践的防災学を展開することが目的である。

【研究の具体的な成果・波及効果】

H26 年度の特定期研究プロジェクトを受け、1)新たに洪水版と地震版の災害教育ゲームを作成し(ゲーム・ブックと災害行動イメージクイズ)、2)日本国内の小学生(約 300 人)・大学生(約 60 人)・高齢者(約 100 人)を対象に実証研究を行った(図 1 左上)。さらに、3)タイとアメリカの 2 か国の約 300 人の小学生・中学生・高校生を対象に災害教育の国際展開を行った。

【図表】

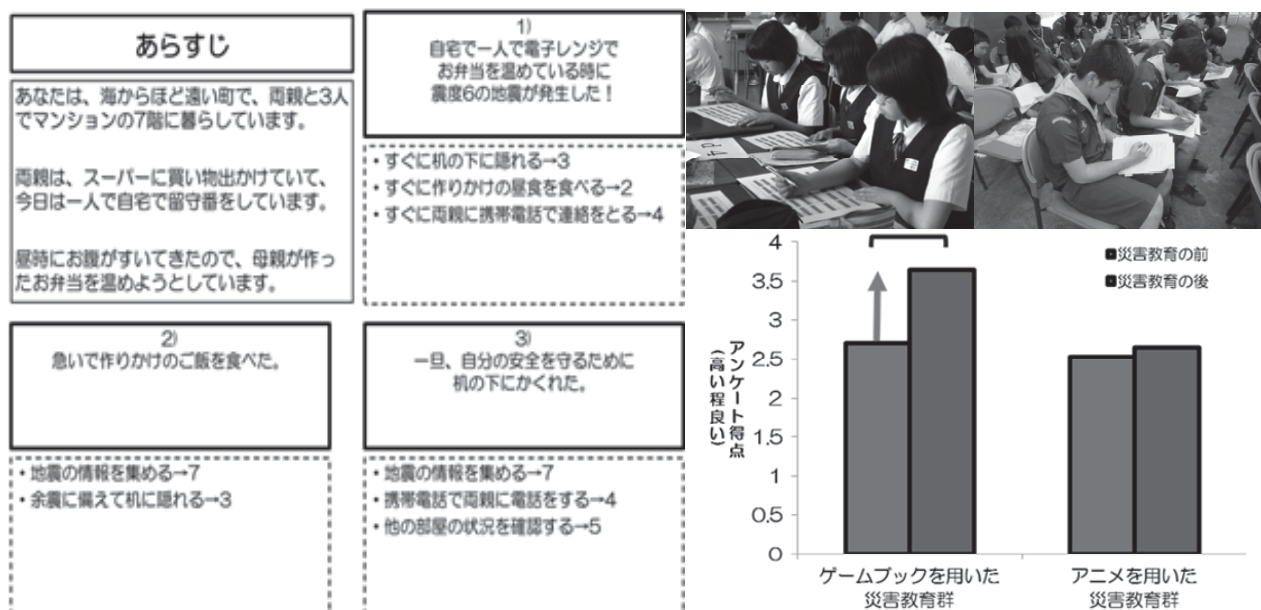


図 1：①作成したゲーム・ブック、②日本と海外での災害教育の様子(右上)、

②ゲームを使った災害教育前後の災害対応力の変化(右下)

研究課題名	ニュージーランド・ヒ克蘭ギ沈み込み帯のプレート間相対運動の収支		種目	拠点 A
研究代表者	日野亮太	職名	教授	
部 門	災害理学研究部門	分野	海底地殻変動研究分野	

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

日野亮太・木戸元之・飯沼卓史・東龍介・和田育子（海底地殻変動研究分野）・岡田知己（地震ハザード研究分野）・伊藤喜宏（京都大学）・望月公廣・小原一成（東京大学）・Laura Wallece（テキサス大）・Stuart Henrys・Stephern Banister・Bill Fry（GNS 科学研究所）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	4,250,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

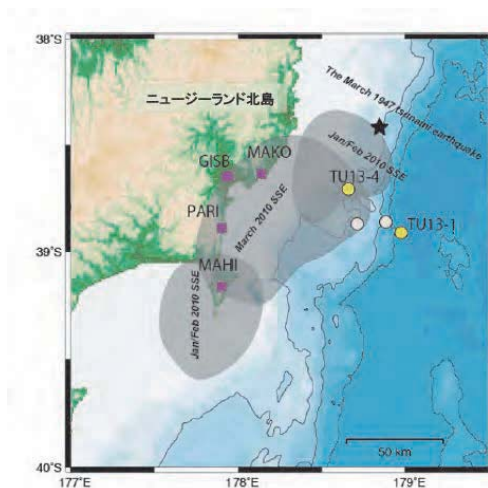
【研究の概要】

ニュージーランド・ヒ克蘭ギ沈み込み帯のプレート境界断層浅部で繰り返し発生する非地震性すべりイベント（SSE）の活動度の理解を目的として海底圧力計による海底上下変動連続観測を継続するとともに、SSEで開放されるすべりと、常時蓄積されるすべり欠損との収支を明らかにするための GPS/音響結合式海底地殻変動観測に着手した。

【研究の具体的な成果・波及効果】

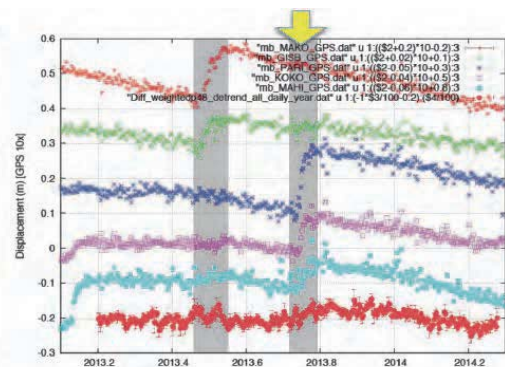
平成 25 年度に設置した海底圧力計を回収し、得られた連続データを解析することによって、同年 7 月に発生した SSE に伴う海底上下変動を捉えることに成功した。この SSE は共同研究者がニュージーランド北島で展開している GNSS 観測網によっても捉えられており、併合解析することにより発生域を特定するための解析を継続して行っている。従来、同地域の SSE の発生域の解析は陸上観測データにのみ依存していたが、今回は海底観測データを加えることにより、詳細な議論が可能になるものと期待できる。

【図表】

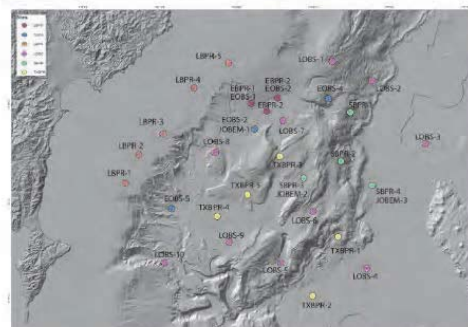


平成25年に設置した海底圧力計の配置

平成26年に展開した海底観測網。
海底圧力計とともに多数の海底地震計を併
設し平成27年まで連続観測を実施中。



海底圧力計と周囲のGNSS観測点が捉えたSSEによる地殻変動



研究課題名	東北地方太平洋沿岸域における段丘・埋没地形の分布高度・編年に基づく 長期地殻変動の復元と巨大海溝型地震にともなう歪みの蓄積・解放過程の解明			種目	拠点 A
研究代表者	丹羽雄一			職名	助教
部 門	災害理学研究部門	分野	国際巨大災害研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

丹羽雄一・遠田晋次・石村大輔(国際巨大災害研究分野)

須貝俊彦(東京大学大学院新領域創成科学研究科)

白井正明(首都大学東京都市環境科学研究科)

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	4,250,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

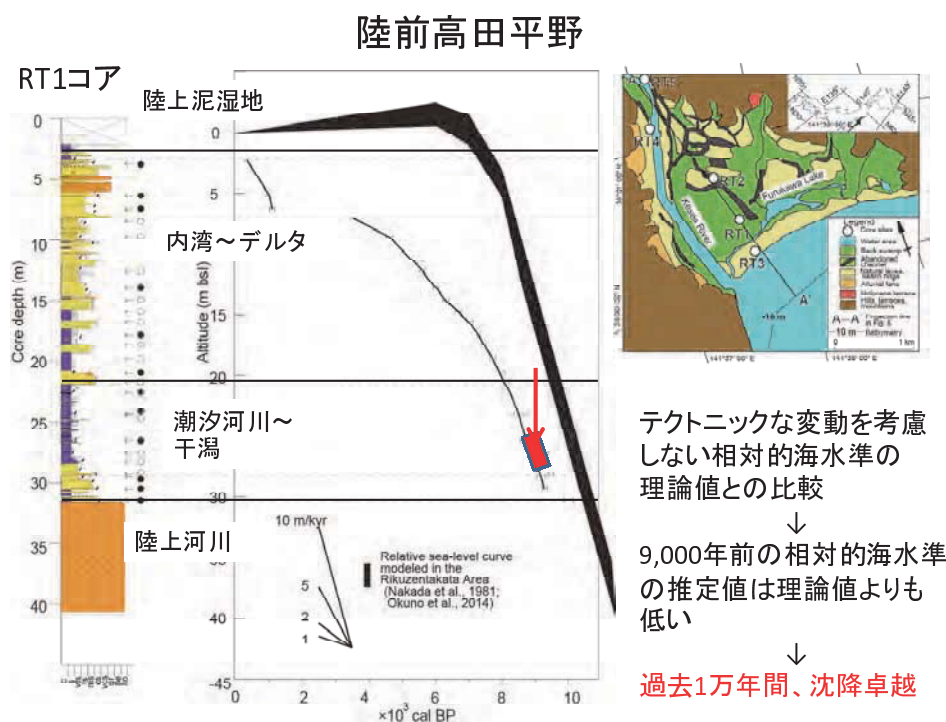
【研究の概要】

超巨大地震繰り返しモデル構築を目的として、東北地方太平洋沿岸域に分布する海成段丘や沖積平野において地形・地質調査を実施し、段丘や潮間帯堆積物の分布高度と年代から長期間(過去数千～十万年間)の地殻変動を復元する。得られた長期地殻変動データを測地観測で既知の短期(数十～百年間)の地殻変動と比較検討し、プレート沈み込みに関係する地殻変動メカニズムの実態に迫る。

【研究の具体的な成果・波及効果】

三陸海岸南部に位置する陸前高田平野で行ったボーリング調査によって認定した約 1 万年前の潮間帯堆積物の高度から、当地域では過去 1 万年間沈降が卓越していることを明らかにした。これは従来言われていた三陸海岸一帯が長期的に隆起しているという見解とは異なる新知見であり、超巨大地震の繰り返しメカニズムを解明する上で、三陸海岸南部を中心に長期地殻変動を見直す必要性を指摘することができた。

【図表】



研究課題名	災害に強い保健・医療供給体制に関する連携研究			種目	拠点
研究代表者	江川新一			職名	教授
部 門	災害医学研究部門	分野	災害医療国際協力学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

江川新一、佐々木宏之（災害医療国際協力学）、伊藤潔（災害産婦人科学）、服部俊夫（災害感染症学）、富田博秋（災害精神医学）、細井義夫（災害放射線医学）、中山雅晴（災害医療情報学）、栗山進一（災害公衆衛生学）、千田浩一（災害放射線医学）、小坂健（災害口腔科学）、石井正、中川敦寛、工藤大介、古川宗（東北大学病院）、上原鳴夫、小井土雄一、甲斐達朗、大友康裕、中瀬克己、石井美恵子、坂元昇（日本集団災害医学会）、菅原 準一（東北メディカルメガバンク）、
C、
、C、
、
、金谷泰宏（国立保健医療科学院）、高田洋介（人と防災未来センター）

期間（西暦）	年 月～ 年 月	経費	万円
--------	----------	----	----

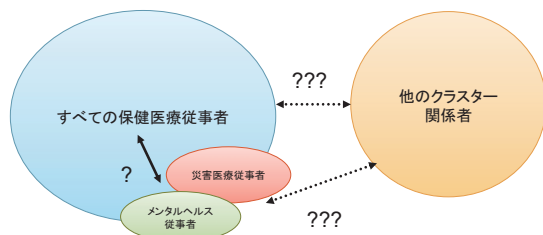
【研究の概要】

本研究は①災害に強い医療・保健・福祉供給体制を確立するための兵庫行動枠組み見直しにむけたワシントン国際シンポジウムの開催と世界防災会議への反映、②医療・保健対応者の標準化した行動対応を可能にするためのマニュアル標準化、③病院受援力を含めた病院 C の開発と体制整備という3つの柱により、災害における保健・医療・福祉の対応について国内外の防災枠組と他分野との連携を強化する。

【研究の具体的な成果・波及効果】

年 月にワシントン C で災害保健医療に関する国際シンポジウムを開催し、保健医療専門家のコンセンサスを形成。国内外に広く口頭や論文で発信し、
、
と協働して仙台防災枠組に健康を中心に据えた防災の概念が盛り込まれた。知のフォーラムにおいて保健医療の分科会を主催し、保健医療に関する標準化ツールの概念を醸成した。病院 C の作成とアクションプランに基づく総合防災訓練の実施が可能になった。

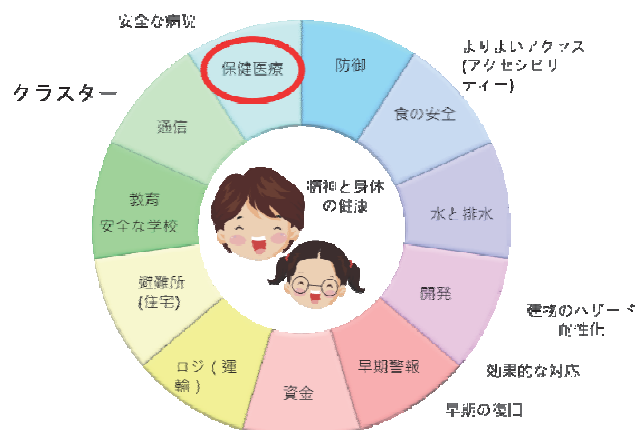
【図表】兵庫行動枠組で健康がほとんど含まれていない現状を踏まえてワシントン C で国際シンポジウム開催
クラスター間の相互理解が不十分！



International Symposium on Disaster Medical and Public Health Management:
Review of the Hyogo Framework for Action
May 21-22
Washington, DC

1. 災害時における保健・医療の行動枠組みや政策への提言
2. 災害で特殊な支援を必要とする人々への備え
3. メンタルヘルスと地域社会
4. 保健医療のインフラとロジスティクス
5. エビデンスに基づいた教育と訓練プログラム

全てのハザードに対応できるように、全てのクラスターが人々の精神と身体の健康を中心に協力する防災体制の構築が必要：仙台防災枠組に健康が
か所盛り込まれ、バイオハザードや、災害を生き延びたあとの保健・医療ニーズが変化していることを的確にとらえ、早期に精神と身体の健康を取り戻すための方策が求められている。持続可能な開発や防災の枠組みに、地域社会において災害医療・病院 C を含む備えと教育、普段からの健康水準の向上が不可欠であることが組み入れられた。



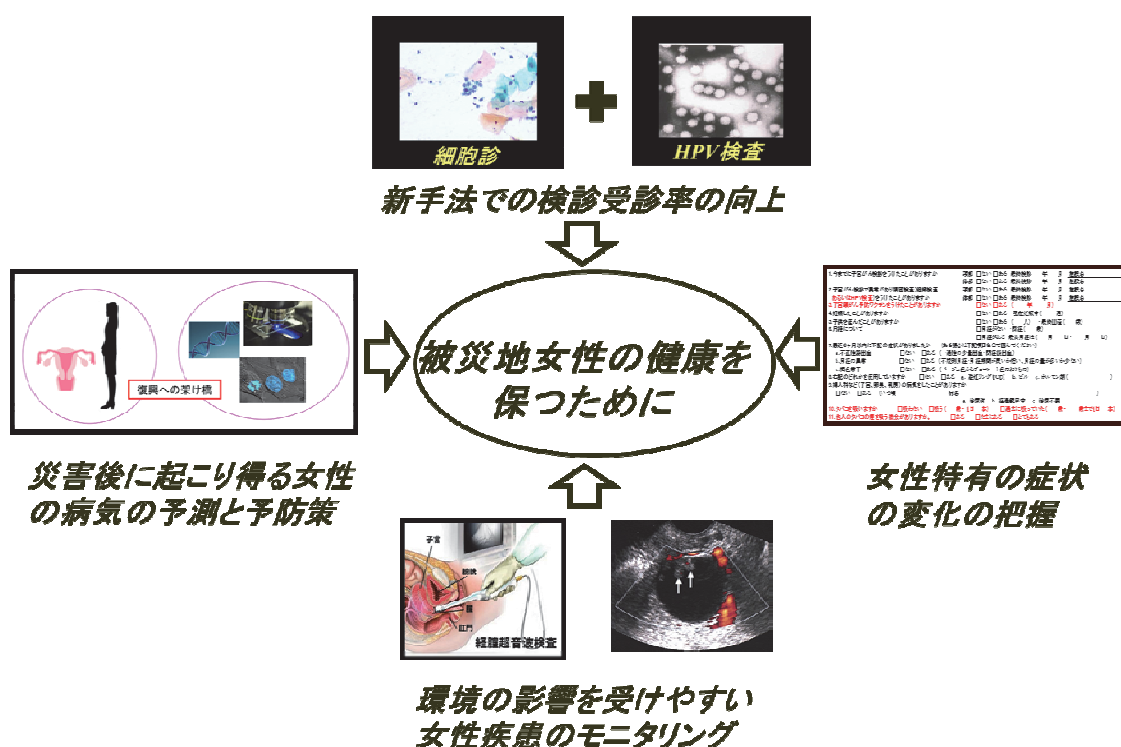
研究課題名	被災地の女性が健康を維持するために：子宮がん検診受診率回復への方策と、災害後起こり得る女性疾患の検証			種目	拠点 A
	2014	4	2015	3	4,250,000

【研究の概要】被災地の女性の健康維持のため、がん検診受診率の回復は急務である。だが震災後、被災地の子宮がん検診受診率は大幅に低下した。この回復手段として最新の検査：HPV 併用検診を導入し、受診率の回復・向上とがん発見率引き上げが可能なかを検証する。また震災後、健康に影響する生活習慣や症状の変化を検証する。さらに災害後にストレスや環境変化で起こり得る病気の傾向を分子生物的に分析し、その予測と予防策を構築す

HPV (Human Papilloma Virus)

corticotropin-releasing hormone receptor 1 (CRHR-1)

(Int J Gynecol Cancer 2014)



研究課題名	「みちのく震録伝」の震災アーカイブ利活用基盤システムの構築と実践			種目	拠点 A
研究代表者	柴山明寛			職名	准教授
部 門	情報管理・社会連携部門	分野	災害アーカイブ研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

佐藤 翔輔、今村 文彦（災害アーカイブ研究分野）、みちのく震録伝賛同協力機関
（約 120 機関、例えば、JST、株式会社 DNP 東北、凸版印刷株式会社、キャンマーケティングジャパン、アジア航測株式会社、国際興業株式会社、朝日システム株式会社、日本 IBM、日本総合システム等）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	4,500,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

【研究の概要】

みちのく震録伝では、震災後から約 35 万点の震災記録の収集を行い、震災記録の整理・公開を目的としたアーカイブシステムの構築を行ってきた。しかしながら、アーカイブシステムとの直接的な連携ができていない問題があった。そこで、真の連携を実現するために新たな API 開発をし、35 万点の震災記録を直接利用できる「震災アーカイブ利活用基盤システムの構築」を実施する。

【研究の具体的な成果・波及効果】

研究成果として、OpenSearch 開発をし、幅広い検索に対応及び記録の取得が可能になり、別事業で開発したアプリとの連携も可能になった。震災記録の公開件数の 2 万点強の拡充と「たがじょう見聞憶」の約 3 万点が検索可能になった。また、アーカイブシンポジウムの開催、国連防災世界会議でのパブリックフォーラムを開催した。本成果によって、震災記録の利活用の促進に繋がるとともに、今後の防災・減災活動の促進に繋がる。

【図表】



2015 年 1 月 11 日東日本大震災アーカイブシンポジウム



2015 年 3 月 16 日国連防災世界会議パブリックフォーラム
災害教訓の伝承～アーカイブとメモリアルの役割とは～

研究課題名	石巻市(市街地部)の再・創生のための研究及び実践活動			種 目	拠点 A
研究代表者	小野田泰明			職 名	教授
部 門	情報管理・社会連携部門	分 野	災害復興実践学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

小野田泰明、佐藤健、平野勝也、本江正茂、今井健太郎、小林徹平(災害復興実践学分野)

姥浦道生(都市再生計画技術分野)

佃悠(東北大学)、北原啓司(弘前大学)、野原卓(横浜国立大学)

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	4,250,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

【研究の概要】

東日本大震災は地域に壊滅的な被害を与えたが、研究のみならず復興のための実効的支援が求められている。本研究は、石巻市全域において地域の復興・再構築実務に深く関わりながら、既往研究成果を反映した科学的復興の実現、質の高い空間の再・創生のためのデザインとその執行方法の開発、効果的事業・規制・誘導の実現における課題の発見と対応策の提示、そしてそれら知見の研究への還元を目的としている。

【研究の具体的な成果・波及効果】

発災以降、画期的な本プロジェクトの継続により、フィールドである石巻市の復興行政の中に中核的に位置付けられ、かなりの影響力を及ぼすことが出来ている。具体的事業が立上る H26-28 年度は非常に重要な時期と言える。中心市街地での再開発計画、新橋梁、新公共施設に関する行政案に代替案を作成し、重要な部分で実装されている。これまで蓄積した知見を基に計画した石巻市復興まちづくり情報交流館は、国連防災世界会議に合わせて竣工し、期間内に 1000 名以上の来場を得るなど大きな成果をあげている。

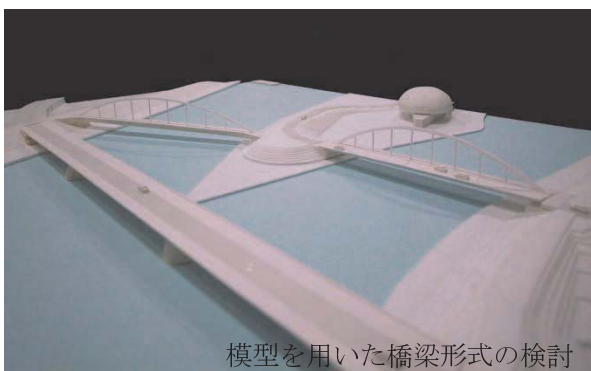
【図表】



情報交流館オープニングセレモニー



中心市街地再開発の検討会議



模型を用いた橋梁形式の検討



中心市街地再開発の検討資料

研究課題名	研究所の実践的防災学の知見を国際防災政策に反映させるための研究		種目	拠点 A
研究代表者	小野 裕一	職名	教授	
部 門	情報管理・社会連携部門	分野	社会連携オフィス	

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

村尾 修・イ ケリーン（国際防災戦略研究分野）、江川 新一（災害医療国際協力学分野）、井内 加奈子（防災社会国際比較研究分野）、泉 貴子・池田 菜穂（社会連携オフィス）、サッパシー アナワット・福谷 陽（地震津波リスク（東京海上日動）寄附研究部門）、保田 真理（津波工学研究分野）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	4,250,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

【研究の概要】

国連を中心とした国際機関におけるマルチの防災政策と活動を把握し、研究所の実践的防災学の成果（特に東日本大震災から得た教訓に基づいて）をブレンドし、日本政府や関連の研究機関と連携しながら、国連などの国際機関が行う国際防災政策に積極的に反映させ、世界の防災・減災活動に寄与・貢献することを目指す。特に今年度は、2015年3月に仙台開催の国連防災世界会議に照準を合わせて戦略を練る。

【研究の具体的な成果・波及効果】

国連防災世界会議のプロセスを通して、1）東日本大震災の教訓からの提言の発信、2）仙台防災枠組交渉へのインプット、3）会議期間中のシンポジウムや展示を通しての実践的防災学の成果の発信の支援、4）会議後を見据えた「災害統計国際センターの発足」・「世界防災フォーラム構想の発表」を行い、日本政府や関連の研究機関と連携しながら、世界の防災・減災活動の枠組み作りに寄与・貢献することができた。

【図表】



研究課題名	微動観測による青葉山免震新設建物群の地盤－構造物振動特性評価			種目	拠点 B
研究代表者	大野 晋			職名	准教授
部 門	災害リスク研究部門	分野	地域地震災害研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

大野晋、源栄正人、王欣（地域地震災害）、古川幸（工学研究科）、三辻和弥（山形大学地域教育学部）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

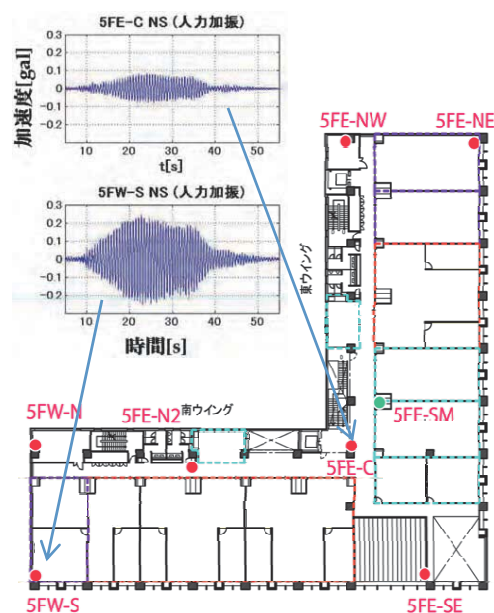
【研究の概要】

東日本大震災で大破となり、東北大学青葉山キャンパスで新設された免震建物に対して、平成 25 年に導入された機動的弱震・強震観測装置を用いて常時微動観測および人力加振を行い、竣工時の振動特性（固有振動数、減衰定数、立体振動モード、地盤から建物基礎への入力損失、建物内増幅特性など）を把握した。

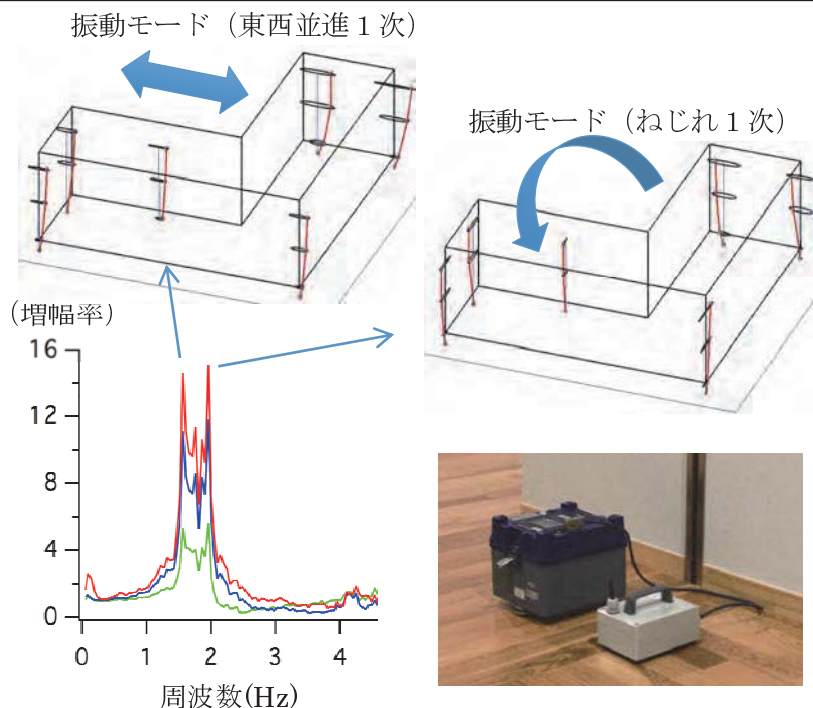
【研究の具体的な成果・波及効果】

東北大学工学部マテリアル・開発系総合研究棟、電子情報システム・応物系 1 号館、災害科学国際研究所棟を対象に計測を行った。建物卓越振動数、減衰定数を把握するとともに、L 字平面である災害研新棟で『はねじれも卓越すること、入力損失は地盤が比較的良好な災害研に比べて、工学部 2 棟の方が大きいことが分かった。これらの結果は別途導入する地震ヘルスマニタリングシステムへの応用を予定している。

【図表】



計測点と振動波形の例



常時微動から求めた建物内増幅率
災害科学国際研究所棟での測定例

測定機器

						B
	2014	4	2015	3		800,000

【研究の概要】

本研究では、超高層ビルの各層における残存耐震性能を適切に評価するため、波動干渉理論に基づく逆重畳法により振動モードがせん断モードだけではなく、曲げ振動やねじれ振動も著しく、より複雑な振動モードを有する超高層ビルへの適用性を明確し、曲げ振動とねじれ振動はせん断波速度の抽出への影響も定量評価する。

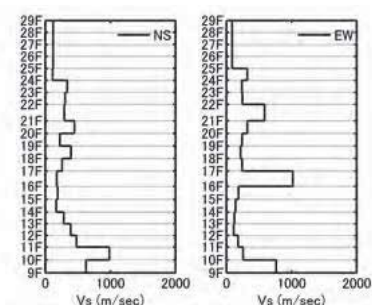
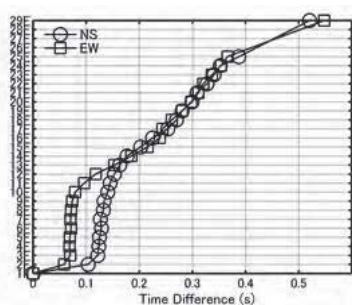
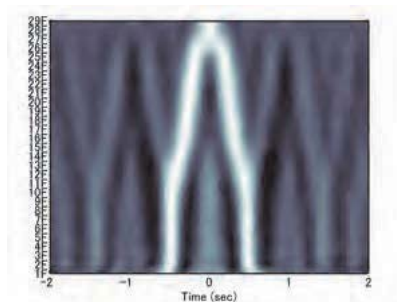
常時微動観測により逆重畳法を超高層ビルへ応用する時に曲げ振動とねじれ振動はせん断波伝播速度の抽出への影響および適用条件を明確した。また、高次振動モードも卓越する超高層ビルの層間せん断波速度を抽出する時に基本モードと高次モードの卓越周期に対する周波数解析範囲の選択規則を明らかにした。

建物内でせん断波（逆重畳波）の伝播

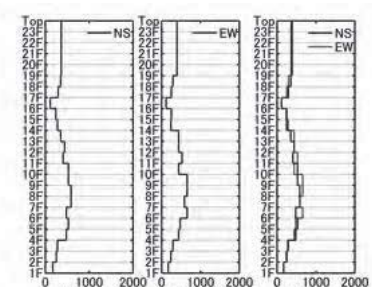
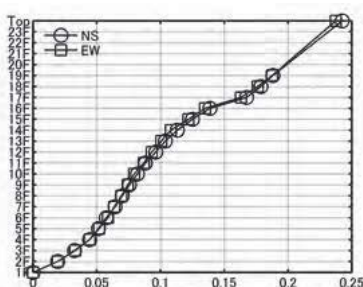
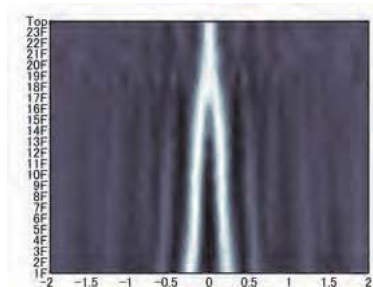
せん断波の伝播時間

層間せん断波分布

建物 A



建物 B



研究課題名	1677 年延宝三陸・房総沖地震の再評価と 1611 年慶長奥州地震との関連性			種 目	拠点 B
研究代表者	今井健太郎			職 名	助教
部 門	災害リスク研究部門	分 野	津波工学研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））					
今井健太郎（津波工学分野・助教）					
飯沼卓史（海底地殻変動研究分野・助教）		蝦名裕一（歴史資料保存研究分野・助教）			
内田直希（地震ハザード研究分野・助教）		安田容子（歴史資料保存研究分野・特別教育研究教員）			

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	1000 千円
-----	-----------------------	-----	---------

【研究の概要】
<p>延宝三陸地震・房総地震に関する新たな資料発掘を試み、資料記載情報から地震活動状況や津波痕跡情報を抽出し、得られた各種情報や最新の知見に基づいて震源域・波源域の推定を行い、地震規模の再評価を試みる。歴史学・理学・工学的視点から、これらの地震と 1611 年慶長奥州地震との関連性を明らかにすることで、東北地方における地震・津波リスク評価に貢献する。</p>

【研究の具体的な成果・波及効果】
<p>史料から得られる情報を最大限活かして波源推定を行う手法を開発し、1611 年慶長奥州地震に適用した（今井ら、2015）。山奈宗真『岩手県大海嘯取調書』に記される古津波痕跡の同定と評価を行った。延宝三陸地震について宮城県・岩手県での津波被害について記録した資料『覚書』と延宝房総沖地震の福島県での津波被害の詳細を記した資料『慶天拔書』を調査し、得られた成果を投稿中（歴史地震、安田・蝦名・今井）。</p>

【図表】

図 1 新出資料『覚書』中の延宝三陸地震と余震

図 2 『岩手県沿岸大海嘯取調書』痕跡点の調査

		十二日					十三日									
資料	場所	18:00 酉	20:00 戌	22:00 亥	00:00 子	02:00 丑	04:00 寅	06:00 卯	08:00 辰	10:00 巳	12:00 午	14:00 未	16:00 申	18:00 酉	20:00 戌	22:00 亥
御日記(御国) 八戸藩日記 雑書 延宝日記 花印 大槌官職記 覚書 稲葉氏永代日記	弘前	(十二日より夥しき地震)														
	八戸	(大) 夜明まで20度										地震度々				
	盛岡	下刻地震					夜中24～5度					西刻より丑刻まで折々地震				
	盛岡	強地震					夜中24～5度					15日まで昼夜度々地震				
	宮古						朝まで9度									
花印 大槌官職記 覚書 稲葉氏永代日記	花巻	大					夜明まで15～6度					大強大地震				
	大槌						大夥									
	仙台	夥					少					下刻少				
覚書 稲葉氏永代日記	江戸	下刻地震					大夥震									
							少					少				

表 東北各地における延宝三陸地震と余震

研究課題名	児童・生徒のための効果的な減災教育ツール開発とその効果の検証			種 目	拠点 B
研究代表者	保田 真理			職 名	助手
部 門	災害リスク研究部門	分 野	津波工学研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

今村文彦（津波工学研究分野） Suppasri Anawat（寄附研究部門） 野内 類（災害情報認知研究分野）
大平留美子（（株）仙台放送）

期 間	例) 2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	--------------------------	-----	-----------

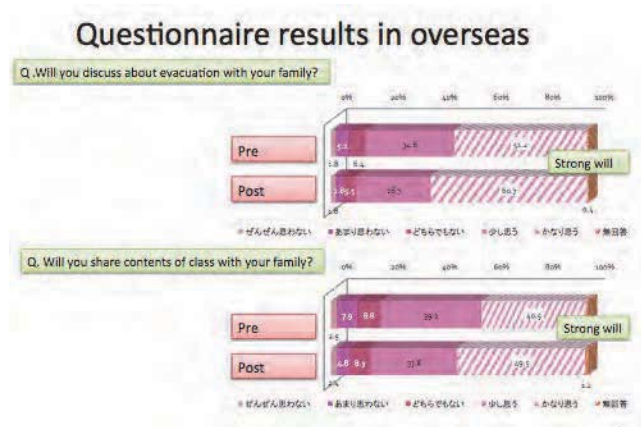
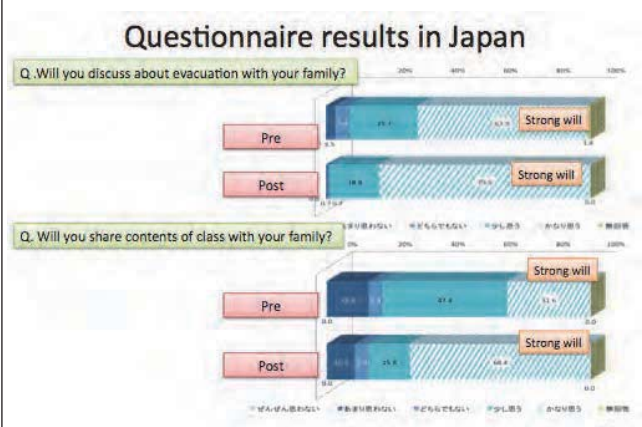
【研究の概要】

2013 年度に開発して教育補助ツールを用いて、国内外で減災意識啓発の出前授業を実施し、アンケート調査によりその意識の変化を統計的に求めた。国内も被災地とそうではない地域の差、国外では文化や言葉の認知度により、その理解度の値の変化はあったが、回数を重ねて、意識啓発に効果的な出前授業のプログラムの開発を進めることができた。

【研究の具体的な成果・波及効果】

自然災害からの最大の減災とは命を守る事であるが、教育補助ツールを効果的に使用する事により、災害を身近に捉え、事前の備えや家族の役割分担およびコミュニケーションの必要性を強く感じた児童の総数を大きく延ばすことができた。また、今回の出前授業で得た知識を回りの人々と共有すると強く思う児童数も延ばすことができた。プログラムも 3 部構成にする事で飽きさせず認知力、判断力、行動力を育成する初期段階に至った。

【図表】



研究課題名	2011 年津波による大規模洗掘機構の解明			種 目	拠点 B
研究代表者	真野 明			職 名	教授
部 門	災害リスク部門	分 野	災害ポテンシャル研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

真野 明・災害ポテンシャル研究分野

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

2011 年東日本大震災では、海岸堤防など防災施設の横に強い流れの集中が起こり、大規模な洗掘を引き起こした。この洗掘は構造物復興の妨げになっており、洗掘の機構解明が急がれている。本研究は、過剰間隙水圧による地盤の液状化、流れの集中により高い底面せん断応力による侵食の 2 つの機構を定量的に解析し、構造物周辺の大規模洗掘の機構を明らかにし、予測できるようにすることを目的とする。

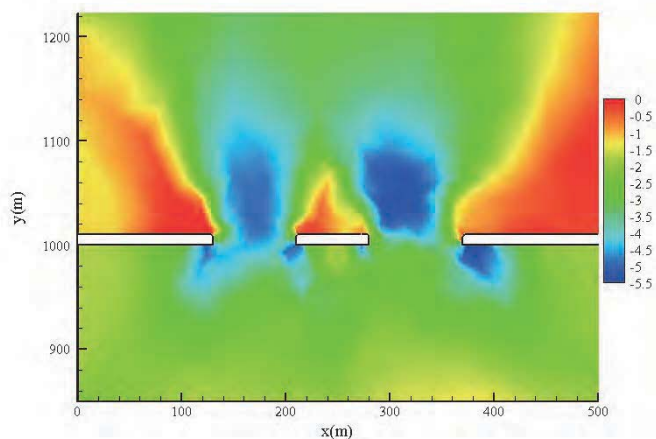
【研究の具体的な成果・波及効果】

せん断力による侵食と、浸透圧の両方を予測する有限体積法プログラムを開発した。これを Tonkin らの水理実験と比較し、モデルの妥当性を検証した。これを 2011 年大津波に適用し、海岸堤防の破堤地点で顕著な液状化が起きることを明らかにした。その深度はせん断力による侵食深の 30%に達し、底面粒径が小さくなるとさらに深くなることを示した。堤防の根入や津波避難ビルの基礎を設計するときに考慮すべき要件であり、粘り強い構造を作ることができる。

【図表】



2011 年津波の破堤地点ビデオ画像(東北地方整備局の防災ヘリコプター、みちのく号から撮影)。破堤地点に流れが集中して大規模な侵食が発生していることがわかる。



破堤地点周辺の液状化発生深度（単位m）。図中白い帯状の部分が残存堤防。切れている部分が破堤地点（2 か所）。破堤地点中央部で、最大深度 5 m に達する液状化が発生。

研究課題名	最先端技術の統合による津波前後の土砂輸送および海浜回復過程の解明		種目	拠点 B
研究代表者	有働 恵子	職名	准教授	
部 門	災害リスク研究部門	分野	災害ポテンシャル研究分野	

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

有働恵子、武田百合子（災害ポテンシャル研究分野）、佐藤源之（広域被害把握研究分野）、後藤和久、菅原大助（低頻度リスク評価研究分野）、高橋一徳（東北大学東北アジア研究センター）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

本研究は、本研究所所属の研究者が蓄積してきた、最先端の地中レーダ探査・堆積物分析・地形解析技術を統合することで、2011 年津波前後の現地データより海浜変形過程を明らかにすることを目的とする。これにより、被災海岸における今後の海浜回復の展望を示すことが可能になるとともに、今後の海岸管理に資する重要な教訓を国内外に提示する。

【研究の具体的な成果・波及効果】

2011 年津波時の砂浜の大規模侵食と被災後の急速な回復過程を、地中レーダ探査と衛星画像および潮位データの解析により把握する手法を開発した。また、これにより、砂浜の回復は、主に被災後数か月の間に生じたものであり、それ以降は急激に回復速度が低下していることが明らかになった。本手法は、地形データが存在しない地域で被災後の回復過程を把握することを可能にする、極めて有効なツールとなる。

【図表】

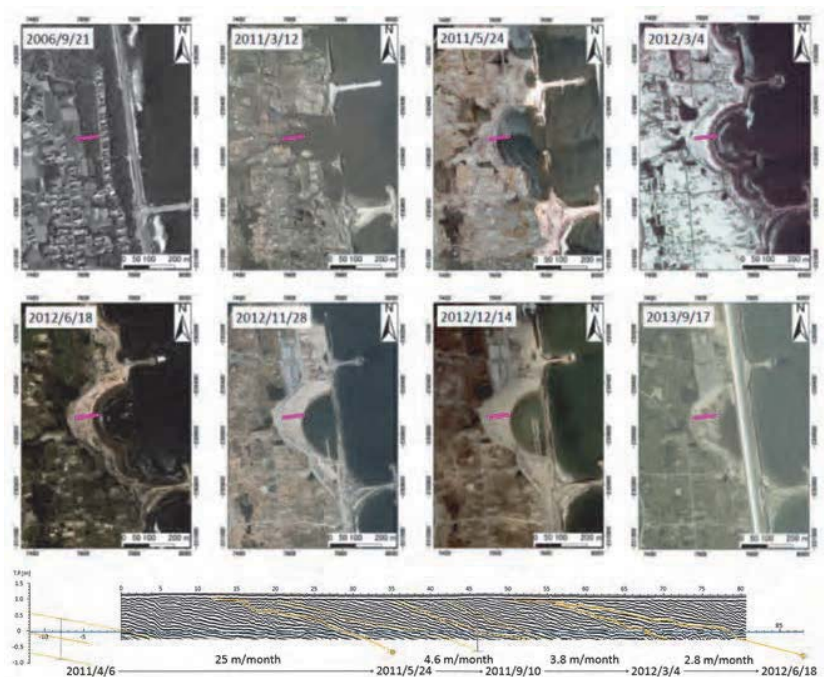


図 2011 年津波前後の山元海岸の衛星画像と地中レーダ探査の結果。
ピンク色の測線にそった砂浜の被災後の回復過程が捉えられている。

研究課題名	東日本沿岸水域における化学的環境の時空間変化の解析：震災および人為的環境改変の影響を理解し今後の環境管理方策を探る			種目	拠点 B
研究代表者	坂巻隆史			職名	准教授
部 門	災害リスク研究部門	分野	災害ポテンシャル研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

坂巻隆史（災害ポテンシャル研究分野）

期 間	2014 年 4	2015	3	800,000
-----	----------	------	---	---------

【研究の概要】

宮城・岩手地域の土地利用形態の変化を捉え沿岸域の化学的環境への震災および流域環境変化の影響に関する統計解析のためのメタデータを構築した。また、志津川湾を中心に、震災後の流域環境の変化および水産養殖それぞれの状況変化を踏まえたあらたな環境管理の枠組みを提案するため、生物地球化学および生態学の観点からフィールドデータを集積した。

必要 基礎 見 近 底質悪 底 貧酸素 ニ リング 討 う

流域環境の空間分布、震災前後の環境変化を捉えるデータベース構築



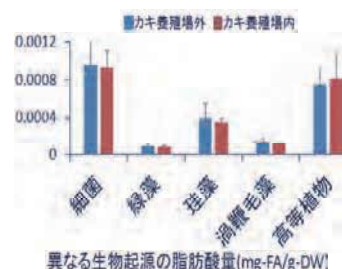
対象地域の解析環境の基盤整備が進められた。

沿岸地域における異なる起源の有機物の空間的分布調査



本プロジェクトを通じて流域影響の生物地球化学的マーカーによるモニタリングが開始された。現時点では、流域の環境インパクトはほとんど検出されていない。

沿岸域環境におよぼす水産養殖の影響評価



2014年夏季に行なわれた脂肪酸マーカーによる調査では、養殖生物の排糞にともなう底質の悪化等が認められなかった。

本研究の成果

- 震災後の沿岸域環境のモニタリングとその変動予測を行なううえで必要となる基礎的知見が得られた。
- 志津川湾を中心とした沿岸域での調査では、現時点では、震災時にいわばリセットされた環境がおおむね維持され、流域環境の変化や水産養殖による沿岸域の化学的環境への悪影響は顕在化していないことが示唆された。

研究課題名	地中レーダを用いた遺跡調査の効率化による復興支援		種目	拠点 B
研究代表者	佐藤 源之	職名	教授	
部 門	災害リスク研究部門	分野	広域被害把握研究分野	

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

藤澤 敦（東北大学埋蔵文化調査室）、金田 明大（奈良文化財研究所）、土井 恭二（三井造船）、高橋 一徳（東北大学東北アジア研究センター）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

アレイ型地中レーダ「やくも」を利用した遺跡調査を実施する。また奈良文化財研究所と協力し市町村レベルでの遺跡調査対象地域での検証試験を行う。また警察、消防、ボランティアが実施する震災復興活動などに対する技術供与を行う。最終的には自治体職員に対して技術指導を行いながら効率的な遺跡調査を実施できる体制の確立をめざす。警察、消防、その他団体への技術供与の仕組みの整備を進める。

【研究の具体的な成果・波及効果】

地中レーダ調査は遺跡調査時の発掘計画を最適化し、作業の効率化につながる。こうした調査を松島市瑞巖寺などで実施した。更に福島、宮城、岩手の各県警と協力し、津波被災者の搜索活動を実施した。地盤沈下で震災後水面下にあったが、回復が見込める地域（宮城、岩手）、原発周辺で除染が進む地域（福島）など、これまで復興活動、遺跡調査活動が行われなかった地域での活動の活発化を予想している。こうした活動を組織化するための活動を進める。

【図表】



津波被災者 搜索活動

岩手・山田町
岩手・釜石市 片岸海岸
宮城・石巻市 渡波
宮城・仙台市 蒲生海岸
宮城・名取市 関上海岸
福島・新地町 釣師浜
福島・相馬市 原釜海岸
福島・浪江町



2015 年度に宮城、福島、岩手各県警と協力して実施した砂浜津波被災者搜索活動

研究課題名				種目	拠点 B
研究代表者				職名	助教
部 門	災害リスク研究部門	分野	広域被害把握研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

- ・ 広域被害把握研究分野
 - ・ 広域被害把握研究分野
- ・ 広域被害把握研究分野
 - ・ 広域被害把握研究分野

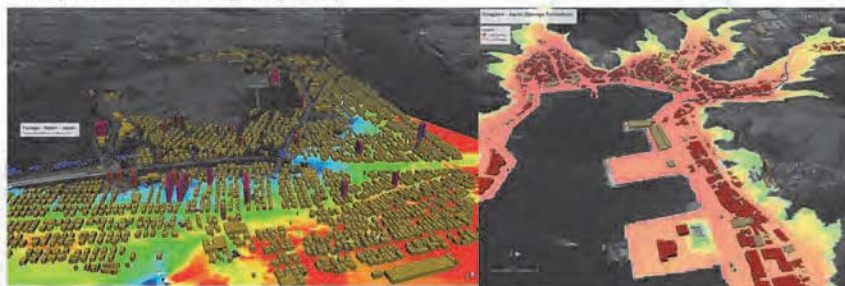
期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

【研究の具体的な成果・波及効果】

【図表】

1. Developed fully coupled models of tsunami simulation and building damage estimation.
Study areas: Natori, Onagawa (Japan)



2. Developed GIS based methods to apply fragility curves for tsunami damage estimation



3. Loose coupling of tsunami simulation, GIS damage estimation and agent based modeling for evacuation.
Study areas: La Punta (Peru)



A comprehensive analysis of tsunami impact is aided by outputs from damage and evacuation scenario simulations.

研究課題名	低環境負荷ジオポリマー硬化体の開発と γ 線遮蔽材への適用			種目	拠点 B
研究代表者	鈴木 裕介			職名	助教
部 門	災害リスク部門	分野	最適減災技術研究分野		

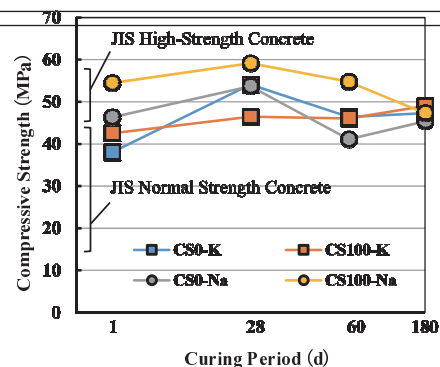
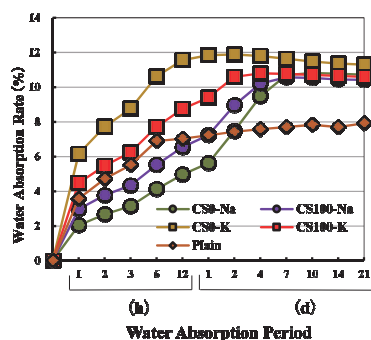
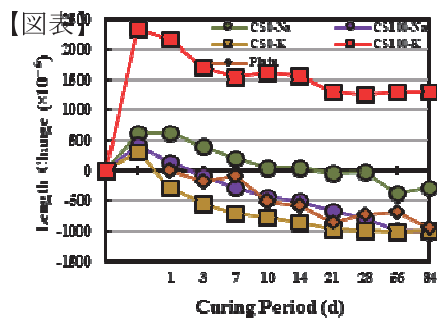
研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

鈴木裕介（最適減災技術研究分野）、Sanjay Pareek（日本大学工学部）、木村健一（フジタ）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

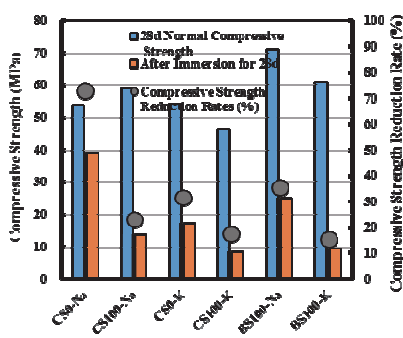
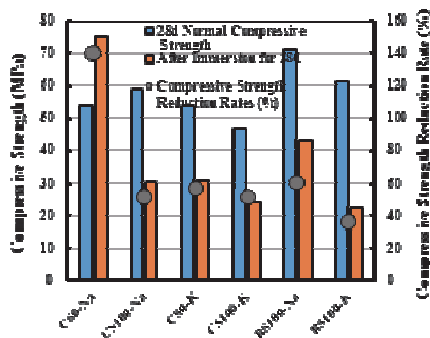
【研究の概要】コンクリートなどのセメント系複合材料に比して材料（セメント）製造時の CO₂ 排出量を大幅に削減可能な、ジオポリマー法によるセメントレス硬化体（以下、ジオポリマー硬化体）の開発を実施する。さらには、使用材料として福島県内のリサイクル材を主材として取り入れることで、今後、建設材料としての開発のみならず地産池消を考慮した原発事故汚染物の γ 線遮蔽体への適用についても検討する。

【研究の具体的な成果・波及効果】ジオポリマー硬化体の最適調合設計及び養生条件を検討した。銅精錬時に副産される銅スラグ（または比較用の珪砂）を主要骨材とし、並びに、耐久性及び水密性向上に寄与する反応（ポズラン反応）促進のため、火力発電所等で資源燃焼の際に副産されるフライアッシュを使用し、環境負荷低減型の建設材料開発を検討した。各材料の種類、調合及び養生条件の違いから硬化体の強度性状及び耐久性について検討したうえで、一般的なセメント系複合材料に比べ同等以上の各性能を有することを実証できた。



乾燥収縮（左図）及び吸水率（右図）に関するセメント系材料（Plain）との比較

養生期間による圧縮強度の推移



調合別の耐薬品性試験（左図：NaOH 水溶液浸漬，右図：硫酸浸漬）と圧縮強度劣化の関係



NaOH 浸漬試験後の供試体

研究課題名	外房地域における古津波履歴と規模の推定			種目	拠点 B
研究代表者	後藤和久			職名	准教授
部 門	災害リスク研究部門	分野	低頻度リスク評価研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

後藤和久、菅原大助（低頻度リスク評価研究分野）、柳澤英明（東北学院大学）

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	円
-----	-----------------------	-----	---

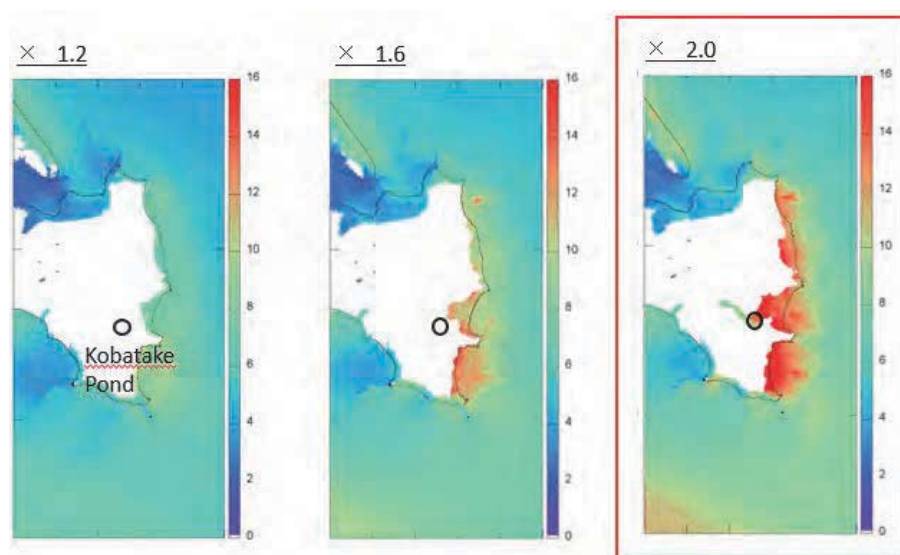
【研究の概要】

本研究では、千葉県銚子市を中心とする外房地域において津波堆積物調査を実施し、歴史・地質痕跡を説明しうる 1677 年延宝房総沖地震津波の波源モデルの再評価を行う。さらに、外房地域において長期の古津波履歴を得て、房総沖を震源とする地震・津波の発生履歴を明らかにする。

【研究の具体的な成果・波及効果】

銚子市の小畑池にて掘削調査を実施し、約 4 m の掘削試料中に 2 層の砂層が堆積していることを明らかにした。年代測定の結果、上位の砂層は 1677 年延宝房総沖地震津波の堆積物である可能性が高いことがわかった。この結果を踏まえて、小畑池まで津波が遡上するという仮定のもと数値計算を行うと、既往モデルの 2 倍程度のすべり量を仮定する必要があることがわかった。

【図表】



従来の想定のスべり量を 1.2 倍（左）、1.6 倍（中央）、2.0 倍（右）と変化させた場合の津波遡上範囲。

研究課題名	津波堆積物に基づく三陸海岸南部における巨大津波の解明			種目	拠点 B
研究代表者	菅原 大助			職名	助教
部 門	災害リスク研究分門	分野	低頻度リスク評価研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

菅原大助・後藤和久（低頻度リスク評価研究分野）・西村裕一（北海道大学）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

石巻市鮫浦湾において、音波探査により浅海域海底の地層状況を確認し、2011 年および過去の巨大津波による堆積物の分布状況を明らかにする。また、陸上および海底の堆積物の採取と分析を実施して津波発生年代、堆積物の供給源および運搬過程を推定し、津波伝播・氾濫と土砂移動の連成シミュレーションにより波源規模との関連を明らかにする。

【研究の具体的な成果・波及効果】

鮫浦湾で音波探査を実施し、水深および地層の分布と構造に関するデータを取得した。陸上では掘削調査を実施し、915 年の十和田 A テフラの直下に厚い砂層を発見した。869 年貞観地震津波の堆積物と推定される。津波土砂移動数値シミュレーションによる解析の結果、津波来襲状況と土砂移動の関係が明らかになった。当地域で確認された特異的な津波挙動は国外の研究者からも注目されており、今後さらに詳しい検討を行う予定である。

【図表】

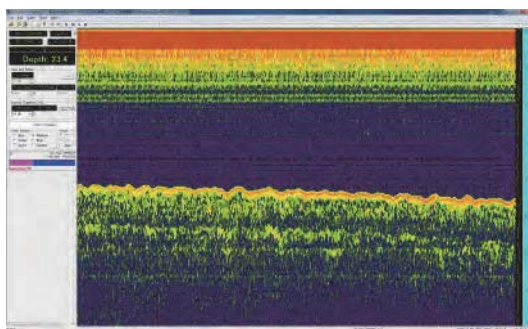


図 1：音波探査による湾内の地層状況

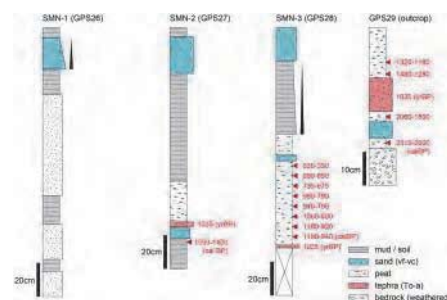


図 2：陸上津波堆積物掘削結果

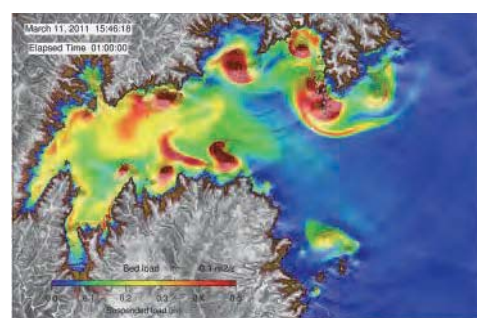
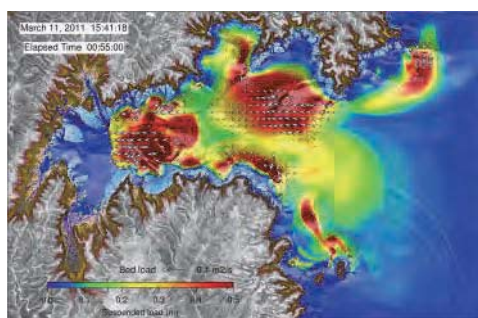


図 3：津波土砂移動数値シミュレーションの結果。第 2 波襲来時の浮遊砂移動状況

研究課題名	波浪の良さと悪い影響：波力発電と台風の被害			種目	B

George Mason University: Celso Ferrera University of Queensland: Hubert Chanson University of Montpellier: Fabien Retif Deltares: Maarten van Ormondt					
---	--	--	--	--	--

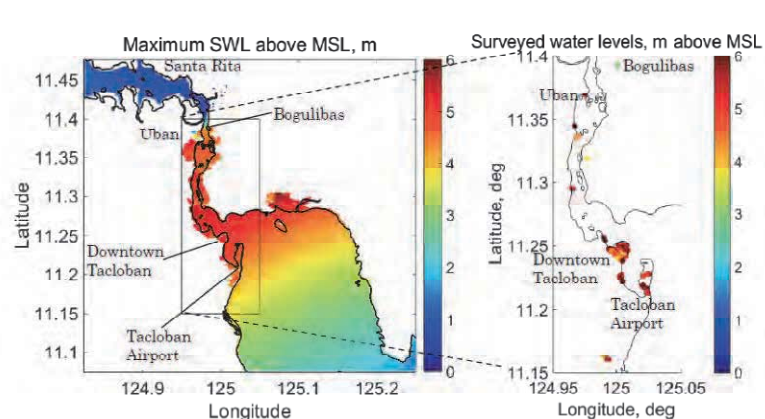
	2014	4	2015	3		850,000
--	------	---	------	---	--	---------

【研究の概要】

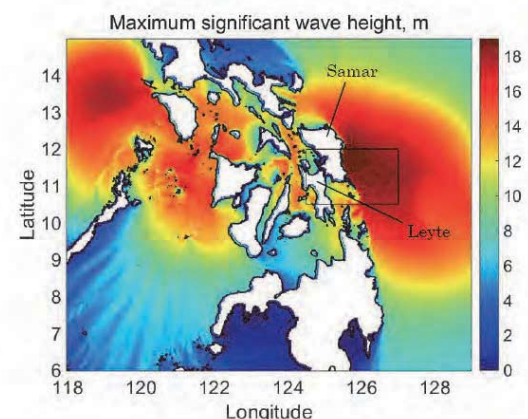
台風ハイヤンにより、暴風・高潮・高波・サーフビートのそれぞれの被害が発生した。場所による被害のメカニズムを解明するため、現地調査・数値シミュレーションを行った。これからの似て様な被害を予防するため、国内外の研究者・技術者方とワークショップを行い、議論した。

Bricker, J., Takagi, H., Mas, E., Kure, S., Adriano, B., Yi, C., and Roeber, V., Spatial variation of damage due to storm surge and waves during Typhoon Haiyan in the Philippines, *Journal of Japan Society of Civil Engineers*, Ser. B2 (Coastal Engineering), Vol. 70, No. 2, I_231-I_235, 2014

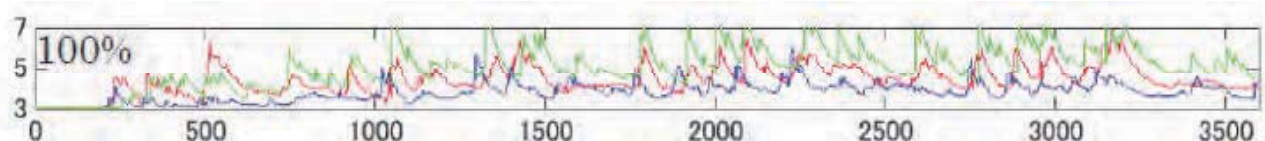
Bricker, J.D., and Roeber, V. Mechanisms of Damage During Typhoon Haiyan: Storm Surge, Waves, and “Tsunami-like” Surf Beat. *Proceedings of the 36th IAHR World Congress*, The Hague, Netherlands, 2015.



1



2



3

OpenFOAM

OpenFOAM

BOSZ

研究課題名	台風による海岸付近波浪現象			種目	拠点 B
研究代表者	ローバー フォルカ			職名	助教
部 門	災害リスク研究部門	分野	国際災害リスク研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

国際災害リスク研究分野：ブリッカー ジェレミー, University of Hawaii: Kwok Fai Cheung, Troy Heitmann, University of Notre Dame: Tory Tomiczek

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

We have investigated wave surf beat and flow velocities induced by individual typhoon waves. Stormwaves from typhoons and extra-tropical low-pressure systems can create major coastal hazards due to runup and inundation from surf beat. Especially in environments with shallow fringing reefs such as the Philippines, tsunami-like bores can form as a result of unbound infragravity wave motion.

【研究の具体的な成果・波及効果】

Roeber, V., Li, N., Heitmann, T., Yamazaki, Y., and Cheung, K.F., (2014). From source to sink: A modeling package for typhoon wave generation, propagation, and inundation. *Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B2 (Coastal Engineering)*, Vol. 70, No. 2, I_481-I_485.

Bricker, J.D., and Roeber, V. Mechanisms of Damage During Typhoon Haiyan: Storm Surge, Waves, and “Tsunami-like” Surf Beat. *Proceedings of the 36th IAHR World Congress*, The Hague, Netherlands, 2015.

【図表】

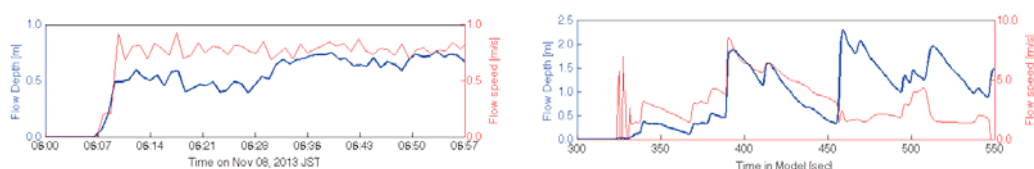


Fig. 1: Comparison of flow depth and speed between two phase-resolving models (left panel: DELFT, right panel: BOSZ)

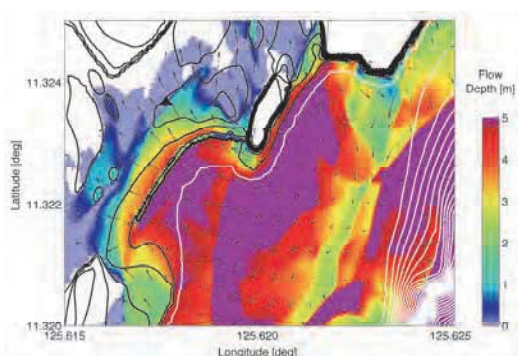


Fig. 2: Bore front formation over coral reef in Hernani. Sharp color transitions indicates shock wave front. Output from BOSZ model.

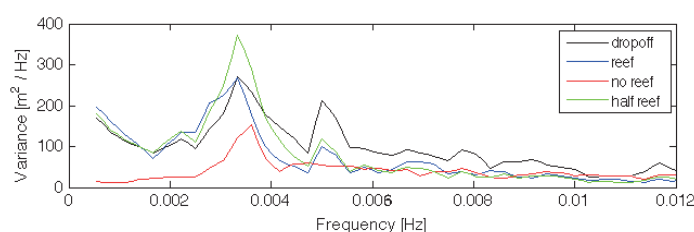


Fig. 3: Variance spectrum near beach in Hernani, Philippines, for different reef configurations. A hypothetical reef flat of half the original length would amplify the surf beat from incoming waves by the natural resonance of the reef flat. Output from BOSZ model.

研究課題名	交通の途絶が災害化するメカニズムに関する調査研究			種目	拠点 B
研究代表者	奥村 誠			職名	教授
部 門	人間・社会対応研究部門	分野	被災地支援研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））
奥村誠・被災地支援、金進英・被災地支援、佐藤大介・歴史資料保全 南正昭・岩手大学、浜岡秀勝・秋田大学、神谷大介・琉球大学、植田今日子・東北学院大学、藤原潤子・総合地球環境学研究所

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月（予定）	経 費	850,000 円
-----	---------------------------	-----	-----------

【研究の概要】
本研究では、台風による交通の途絶にさらされる沖縄県の離島の実態に詳しい研究者、積雪による交通の途絶にさらされる東北地方山間部の実情に詳しい研究者とともに、交通の途絶の発生頻度、深刻化のプロセス、地域住民の事前認識と対応行動を調査、整理することを目的とする。合わせて途絶状況の克服が交通政策につながった歴史も検討する。

【研究の具体的な成果・波及効果】
当初に計画した（1）東北地方山間部の途絶現象の実態把握の基礎となる道路途絶状況のデータの入手交渉が難航したため、（2）人間の対応行動の調査・研究の一部と(3) 途絶時間、事前意識、事前準備が災害化に及ぼす影響の統計分析の遂行ができなくなった。そこで、データ入手交渉を継続する一方、独自の交通量調査を行うための現有機器のアップデートに予算を用いるとともに、携帯電話位置情報データの活用による人びとの行動変化の抽出と類型化に関する研究、交通ネットワーク計画における途絶脆弱性に関わる既存研究の調査と新しい数理計画モデルの研究を進め、口頭発表と査読論文の投稿準備を行った。

【図表】

Makoto Okumura,
Jinyoung Kim and
Kento Bunphong (2014)

における、仙台市域
の昼間活動の回復過
程の分析例：震災後
の昼間人口分布を、
平常時の昼間人口、
夜間人口、夕方人口
で回帰し、直後には
45%まで活動が低下したことを示した。

coefficient value

determination coefficient value

— [normal time 2:00] — [normal time 14:00] — [normal time 18:00] —x— determination coefficient

M1 M2 M3 M4 M7 M8 M9 M10 M14 M15 M16 M17 M18 M22 M23 M24 M25 M28 M29 M30 M31 A1 A4 A5 A6 A7 A8 A11 A12 A13 A14 A15 A18 A19 A20 A21 A22 A25 A26 A27 A28

奥村誠（2015）における、シベリア地域のリスク対応戦略
の整理表：この書籍では、シベリアと三陸の地域社会が直
面する各種のハザードについて、その対応方法を整理して
比較した。

表 13-2 シベリアにおけるリスクへの対応戦略

		ハザード	春洪水	冬道路事故	ソ連邦崩壊
戦略	考え方	リスク	流水と融水の洪水	薄い氷の破壊、 車両転落	航空サービスな どの廃止
	ハザードの縮小 化	ハザードを人工 的に小さくする	残る氷の爆撃	車両重量・間 隔・期間制限	
（防災戦略）	抑止力の向上	リスク回避	暴露を低める	高台移転	橋・トンネルの 整備
		リスク軽減	脆弱性を小さく する	河川堤防	氷厚の増強
（減災戦略）	回復力の向上	リスク転嫁	回復財源確保	保険	僻地からの撤退
		リスク分散	社会的影響の軽 減	春夏の2重居住	独自の代替 サービス実施
		リスク保有	2次被害抑制、 回復力向上	事前避難	救命ボート
					僻地と都市部の 2重居住

研究課題名	交通シミュレーションに基づいた自治体の自動車避難計画の評価			種目	拠点 B
研究代表者	金 進英			職名	助教
部 門	人間・社会対応研究部門	分野	被災地支援研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

奥村 誠（被災地支援研究分野）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

地域によって道路の構造やネットワークの連結性がことなるため、各自治体では当地域にふさわしい避難計画を策定する必要がある。本研究では、津波災害における自動車避難を前提とした避難計画の評価と提案を図るため、現実の避難行動に近い状況を再現可能な交通シミュレーションを用いて、各自治体で提案した避難計画に基づいて自動車避難行動を再現することで、自動車避難による道路ネットワークの問題点を明かし、各自治体が提案している避難計画を評価した。

【研究の具体的な成果・波及効果】

本研究では、各自治体で提案されている自動車避難計画を交通シミュレーションへ適用し、その結果を用いて道路ネットワークを分析した。また、限定された条件下の災害リスクと所要時間コストを最小化する数理計画モデルを構築して交通シミュレーションに適用することで、現実性および実用性の高い避難計画を提案することができる。本研究の結果を用いると、新たな避難所の位置や避難所の容量制限、避難に必要な道路整備、避難誘導などについての検討が可能になり、地域の防災力向上に寄与することが期待できる。

【図表】

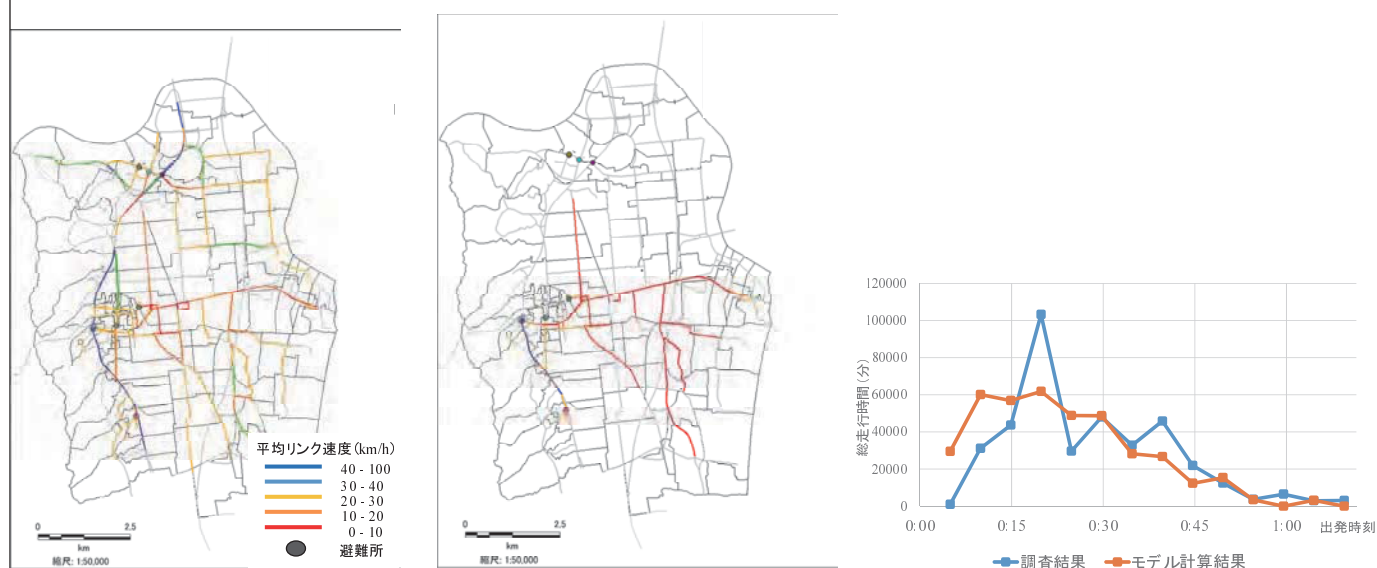


図 1. 地震発生 30 分後の道路状況 図 2. 地震発生 120 分後の道路状況 図 3. 数理計画モデル適用の効果

研究課題名	被災歴史資料の下張り文書に対する保全技術の研究			種目	拠点 B
研究代表者	蝦名 裕一			職名	助教
部 門	人間・社会対応研究部門	分野	歴史資料保存研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

蝦名 裕一（歴史資料保存研究分野・助教）
 安田 容子（歴史資料保存研究分野・特別教育研究員）
 山口 悟史（東京大学史料編纂所・史料保存技術室技術職員）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

本プロジェクトでは、東日本大震災で被災した襖・屏風の下張りに使用されている古文書群について、固着した糊の効果的な剥離方法の考案・実践するとともに、これらの手法を応用した多人数による下張り文書の剥離・整理・保全の一連の作業について効率的な手法・手順を考案・実践することを目的としている。

【研究の具体的な成果・波及効果】

下張り文書の剥離作業については、澱粉分解酵素である α -アミラーゼを使用して糊が固着した下張り文書の剥離工程が考案された。また、災害時を想定した下張り文書の保全手順として、一般ボランティアを主力とした襖・屏風の解体を実施した後、研究者を主力とする整理・保存を実施する 2 段階型の工程を考案・実施した。なお、今回の成果については『災害・復興と資料』第 5 号(2015)に蝦名・山口連名で論考を発表した。

【図表】

○東京大学史料編纂所における下張りの剥離手法



α -アミラーゼ（澱粉分解酵素）
 活性条件 pH6, 75°C 付近

α -アミラーゼを塗布し、ズボンプレスナーなどで
 活性条件を一定時間維持

○東北大学における下張り文書の保全工程

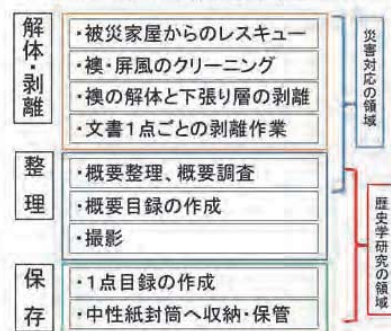


← 一般スタッフ中心の解体・剥離工程

↓ 歴史研究者中心の整理・保全工程



図・災害時の下張り文書の保全の流れ



研究課題名	地域歴史資料の防災・減災体制の構築に向けた広域的連携研究			種目	拠点 B
研究代表者	天野 真志			職名	助教
部 門	人間・社会対応研究分門	分野	歴史資料保存研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

内田俊秀 京都造形芸術大学
 吉原大志 東京文化財研究所
 竹原万雄 東北芸術工科大学
 吉川圭太 神戸大学大学院人文学研究科

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	8 5 0, 0 0 0 円
-----	-----------------------	-----	----------------

【研究の概要】

民間所在の地域歴史資料を災害時に迅速且つ的確に救済・保全するために、大規模災害に備えた多角的・広域的な連携体制の構築を目指し、行政から市民にいたる多様な担い手を取り結ぶとともに、地域横断的な広域連携体制のあり方を調査・検討する。

【研究の具体的な成果・波及効果】

2014 年 11 月 23 日および 24 日、静岡県内において「文化財防災意見交換会」を実施し、東海地震・津波に供えた静岡県域に及ぶ文化財防災を目的とした広域ネットワーク体制のあり方を調査し、行政主体で実施する全県連携体制の特質を解明することができた。また、2015 年 2 月 15 日に兵庫県神戸市において「トークイベント 資料保全の現場」を開催し、地域歴史資料保全の多様性と現場における課題の抽出をおこなうことができた。

【図表】

文化財防災意見交換会 in 静岡

行政・NPO・大学の横断的連携の実相を調査



トークイベント 資料保全の現場

研究課題名	大学の業務継続計画（BCP）の策定・運用手法に関する研究			種目	拠点 B
研究代表者	丸谷 浩明			職名	教授
部 門	人間・社会対応研究部門	分野	防災社会システム研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

丸谷浩明、寅屋敷哲也：防災社会システム研究分野
白木渡：香川大学危機管理研究センター長（教授）
宮村正光：工学院大学建築各部まちづくり学科教授

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経費	850,000 円
-----	-----------------------	----	-----------

【研究の概要】

東北大学でも策定の必要性が高い大学の業務継続計画（BCP）は、部局や教員の独立性の高いこと、重要業務に多くに季節性が大きいことなどの特性があり、それらを踏まえた策定手法を見出す必要がある。そこで、国立大学での BCP 策定の先行例である香川大学の研究者と意見交換も行いながら、現実的で実効性があり、継続的な運用が可能な大学の BCP の策定・運用手法について研究を行う。

【研究の具体的な成果・波及効果】

大学の BCP は次の策定方法によることが有効であると推察された。①教員特性を踏まえ、発災後の対応事項をその場で個別指示できるアクションカードが有効。②重要業務に季節性が大きいので、被災後の行動計画に季節パターンを用意。③教員、学生の所在が非固定的なため、安否確認に携帯電話等を活用。今後期待できる波及効果としては、東北大学で BCP の策定運用方策が確立できれば、他の大学に横展開が可能であり、また、東北地域の大学の横断的な災害対応の連携を推進できる効果も期待される。

【図表】

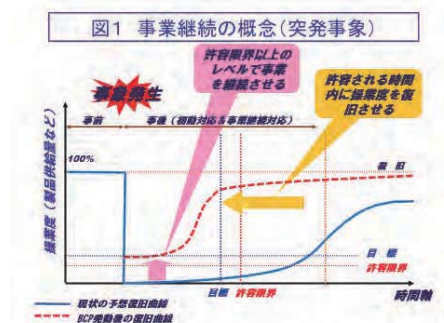


表1 東北大BCPの構成要素の見込み事項

①	学生及び教職員の安全確保
②	大学本部の執行部の中枢機能の確保
③	被災が学生への支援と学生の志望者のボランティア活動への早期誘導
④	研究資産のデータ喪失防止及び研究・教育環境の早期復旧
⑤	卒業、入学などの重要季節行事に関する適切な対応
⑥	地元地域社会への大学のリソースを活かした貢献
⑦	東北地区7国立大学間の災害時協力協定等の活用

表2 東北大学の緊急対応・業務継続計画の初動部分の対応手順のイメージ

No.	開始時間	活動内容	備考	3時間以内	6時間以内	1日以内	1週間以内
1	発災直後	■ 来訪者・職員の負傷者対応・避難誘導 ① 来訪者・職員等の負傷、閉込めを救助し、応急措置 ② 目視、各部課からの緊急通報等により火災や建物倒壊の危険がある場合、〇〇が屋外避難を指示 ③ 屋外避難が必要な場合、来訪者を〇〇へ誘導 ④ 危険箇所は立入禁止として特定し、表示・周知	「避難誘導計画」、「建物安全チェックリスト・発災直後用」を使用	3時間以内	6時間以内	1日以内	1週間以内
2	発災直後	■ 職員の安否確認 ① 各課責任者が職場の職員の安否を点呼等で確認 ② 外出、休職等により職場にいない職員は、自らの安全を確保した後、速やかに安否連絡。帰庁・出勤できる時間の旨も連絡 ③ 全庁の職員の安否確認状況を〇〇担当が集約し、対策本部に連絡 ④ 不明者がある場合、捜索隊を編成して捜索実施	「安否確認実施要領」のとおり	3時間以内	6時間以内	1日以内	1週間以内
3	発災直後	■ けが人の救助 ① けが人は〇〇へ集め、救護班が対応。対策本部に状況を順次報告 ② 病院搬送が必要な場合、救護班が〇〇病院までリヤカー等で搬送、状況を本部に報告	「救護班マニュアル」を使用	3時間以内	6時間以内	1日以内	1週間以内
4	発災直後	■ 建物の被害状況の確認 ① 各部署が被害状況を確認し、所定様式により対策本部〇〇担当に報告 ② 〇〇担当は、報告をとりまとめ、××と協議し安全性を評価し、対策本部に報告	「建物安全チェックリスト・第一次用」を使用 「被害報告書様式」を使用	3時間以内	6時間以内	1日以内	1週間以内
5	発災直後	■ 対策本部の設置場所の決定と立上げ ① 対策本部事務局員は、設置基準に基づき準備を開始 ② 本部長は、代替拠点への移動を必要と判断 ③ 対策本部を設置を正式指示、本部長はそこへ移動 ④ 事務局員は、通話機、ノートパソコン、必要機材や文書等を準備	「建物安全チェックリスト・第二次用」を使用 「代替庁舎移動マニュアル」に記載 ・参集者、代行者は「指揮命令系統図」のとおり	3時間以内	6時間以内	1日以内	1週間以内

研究課題名	東日本大震災に照らした災害対策法制の改正に対する検証（災害応急対策）		種目	拠点 B
研究代表者	島田明夫	職名	教授	
部 門	人間・社会対応研究部門	分野	防災法制度研究分野	

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

島田明夫、小森繁（法学研究科）、今村真二、小森絢、積潤一、妹尾雄介、仲田太樹、和田麻良、市野塊、
轡田真宏、滝澤昌平、松田怜二、村田弦、前田礼二（公共政策大学院）

期 間	2014 4 2015 3	850,000
-----	---------------	---------

【研究の概要】

直近３年間の災害対策法改正等と東日本大震災の実態に照らして、被災地における現地調査や各種の実態調査に基づいて実証的に検証することによって、何が解決して何が未だに足りないかについて、災害応急対策に焦点を当てて、検証した。

我が国の災害対策法制

類型	予 防	応 急	復旧・復興
	災害対策基本法		
地震 津波	大規模地震対策特別措置法	・災害救助法 ・消防法 ・警察法 ・自衛隊法 ・水防法	・激甚災害法 ・大規模災害からの復興に関する法律 《被災者への救済援助措置》 ・災害弔慰金の支給等に関する法律 ・被災者生活再建支援法 ・雇用保険法 ・中小企業信用保険法 《災害廃棄物の処理》 ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 《災害復旧事業》 ・農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助の暫定措置に関する法律 ・公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法 ・被災市街地復興特別措置法 《保険共済制度》 ・地震保険に関する法律 《災害税制関係》 災害被害者に対する租税の減免、徴収猶予等に関する法律
	津波対策の推進に関する法律		
	・建築物の耐震改修の促進に関する法律		
	・地震財特法		
	・地震防災対策特別措置法		
	・密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律		
	・東南海・南海地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法		
	・日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法		
	・南海トラフ巨大地震対策特別措置法		
	・首都直下地震対策特別措置法		
火山	活動火山対策特別措置法	水防法	
風水害	河川法		
地滑り 崖崩れ 土砂流	・砂防法		
	・森林法		
	・地すべり等防止法		
	・急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律		
豪雪	・土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律		
	豪雪地帯対策特別措置法		
原子力	原子力災害対策特別措置法		

研究課題名	列島における津波碑の民俗学的研究			種目	拠点 B
研究代表者	川島秀一			職名	教授
部 門	人間・社会対応研究部門	分野	災害文化研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

川島秀一（災害文化研究分野）

期 間	2014 年 4 月～2016 年 3 月	経 費	1,000,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

【研究の概要】 列島の太平洋沿岸に顕著に見られる津波の記録媒体として、石造の記念碑や供養碑などが残されている。西南日本には近世の建立が多く、三陸沿岸では近代の建立が多いが、その地域的、時代的特徴を捉えるのが、本研究の目的である。とくに、碑文の内容の比較だけではなく、その立地箇所（津波浸水線であることが多い）や、造立者の情報（公的な私的な）など、文献資料の扱いとは異なる、聞き書きを主とする民俗学的方法で総体的に把握する。

【研究の具体的な成果・波及効果】 西日本において近世から津波記念碑が多かったのは、津波の周期が人間の一生のあいだに出会うか出会わないかの確率であったがゆえに、子孫に文字や記録として伝えておくという意識が高かったからである。それに反して、三陸沿岸において近世に建立された津波記念碑が極端に少ない理由は、「一生に二度、津波に遭う」と伝えられている「常習地」であるために、逆に口頭による直接的な伝承が可能であり、ことさらに文字を必要としなかったことにあったのではないと思われる。津波の頻度と文字や記録による伝承意識とは、実際は複雑な様相を呈しており、伝承のありかたに反省を強いられる。

【図表】 高知県黒潮町大方に建立されている、安政元年(1854)の津波記念碑には、末尾に「是よりさき百四十年より五十年まで用心春(す)べ志(し)」と刻まれている。

この「百四十年」とは、安政の津波以前の大津波である宝永四年(1707)から安政元年(1854)までの147年間から計算された値である。このような自然災害に対する時間意識は、三陸沿岸においては明示されることはない。(↓2013.2.25撮影)



研究課題名	リスク配慮方地域再建政策と生活再建プロセスに関する研究			種目	拠点 B
研究代表者	井内加奈子			職名	准教授
部 門	人間・社会対応研究部門	分野	防災社会国際比較研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

Robert Olshansky, University of Illinois at Urbana-Champaign

Laurie Johnson, Laurie Johnson Consulting and Research

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円（2014 年度）
-----	-----------------------	-----	--------------------

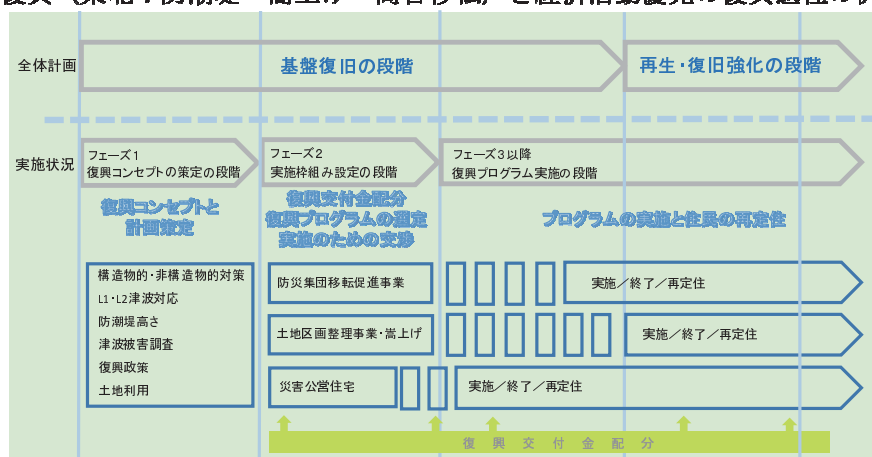
【研究の概要】

本研究は、高リスク低頻度の水害を配慮した地域再建政策とその再建プロセスについて、東北2県を中心に再建政策とその実態を調査し、整合とギャップを明らかにすることを直接的な目的とする。さらに、東日本大震災から1年半後に起きたハリケーンサンディ後の米国東海岸における復興プロセスについて把握し、日本との比較において復興におけるリスク配慮とその実態の相違を明らかにする。

【研究の具体的な成果・波及効果】

東北2県における復興過程では、想定を超える規模の津波被害を受け、当初計画で提示されたものより詳細な、3つの復興段階を経ていることが整理できた（下図参照）。想定できる災害規模を超える復興の計画と実施において、将来のレジリエンシーに備えるには、このような時間が必要であったことが浮き彫りになった。また、米国との復興政策・実施の対比では、命を守る復興と経済活動を守る復興過程の違いが明らかになった。

岩手・宮城を中心とした東北地方における震災後の復興計画と復興3ステージ（図）と 命を守る復興（東北：防潮堤・嵩上げ・高台移転）と経済活動優先の復興過程の例（写真）



研究課題名	小地域データを用いた大規模災害被災想定地域の地域特性の推計			種目	拠点 B
研究代表者	石坂公一			職名	教授
部 門	地域・都市再生研究部門	分野	都市再生計画技術分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

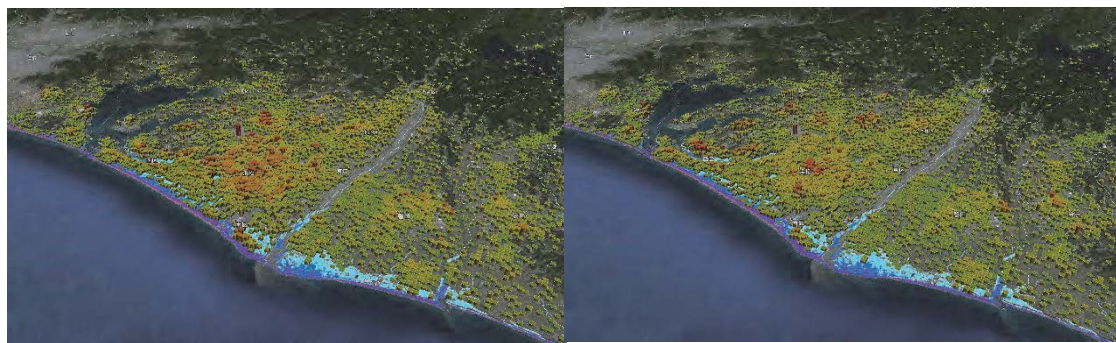
石坂公一（都市再生計画技術分野）、花岡和聖（都市再生計画技術分野）

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経費	850,000 円
-----	-----------------------	----	-----------

【研究の概要】 これまでに開発した被災地特性推計・計測システムを用いて、東日本大震災被災地域に加えて、首都直下型地震、東海・東南海地震による被災想定地域について、小地域単位での社会・経済データの推計を行う。また、これを用いて地域の居住者特性を把握し、想定される地震、津波危険度と重ね合わせることで、地域の被災度と居住者特性を踏まえた詳細な被災推定と対策のための課題の抽出を行う。

【研究の具体的な成果・波及効果】 青森、岩手、宮城、福島（東日本大震災）、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川（首都直下型地震）、静岡、愛知、三重、和歌山、徳島、宮崎（東海・東南海地震）、秋田（日本海地震）、京都、大阪、兵庫（近畿直下地震）の各都道府県について、2000、2005、2010 年の小地域データの推計と 2015～2040 年の性別、年齢別人口の予測を完了した。また、人口予測結果と津波浸水地域、高放射線量地域を重ね合わせ、人口予測から見た地域の復興ポテンシャルを把握した。

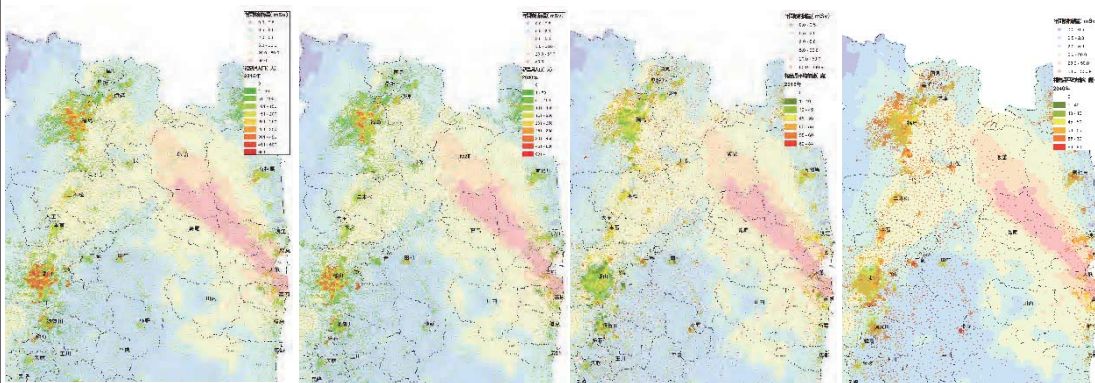
【図表】



浜松市周辺の
人口分布と津
波想定地域

(左:2015 年)

(右:2040 年)



福島県の人口
分布と放射線
量

左：人口

(2015 年、2040
年)

研究課題名	復興まちづくりと平時のまちづくりの相互関係に関する研究			種 目	拠点 B
研究代表者	姥浦道生			職 名	准教授
部 門	地域・都市再生研究部門	分 野	都市再生計画技術分野		

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の具体的な成果・波及効果】

【図表】

(図1) 東松島市のまちづくり

宮古市における復興まちづくりのスケジュール

研究課題名	震災復興・防災計画に向けた人口・土地利用に関する細密データベースの構築と活用			種目	拠点 B
研究代表者	花岡和聖			職名	助教
部 門	地域・都市再生研究部門	分野	都市再生計画技術分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

花岡和聖（都市再生計画技術）

石坂公一（都市再生計画技術）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

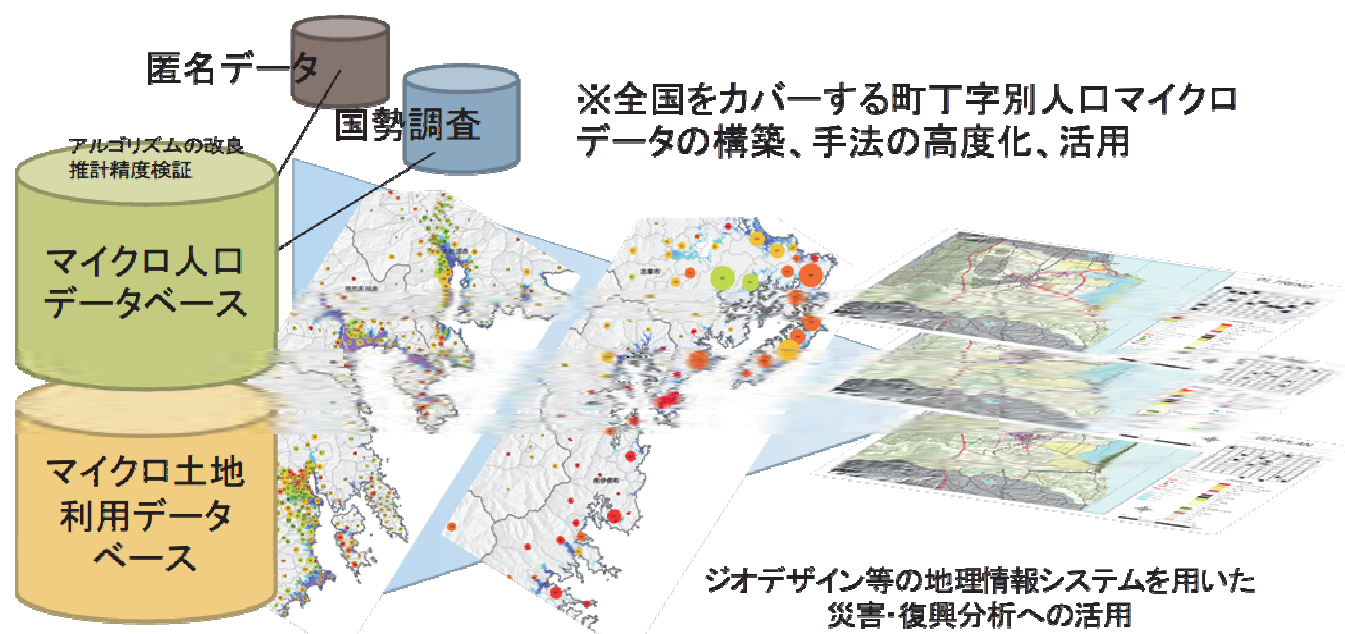
【研究の概要】

空間的マイクロシミュレーションとは、マクロな統計資料や社会調査等のマイクロデータ、基盤地図情報や国土数値情報等の地理空間情報を駆使して、詳細な空間単位でのマイクロデータを生成する手法である。本研究では、東北・東海地方の沿岸部を対象に同手法を適用することで、復興計画や被害想定の方策に利用可能な詳細な空間スケールでの人口・土地利用データベースの構築を目指した。

【研究の具体的な成果・波及効果】

本研究では、国勢調査の匿名データを用いた空間的マイクロシミュレーションを実行し、町丁目単位で詳細なクロス集計分析が可能な小地域人口マイクロデータを高い精度で構築できた。これを東北地方や東海地方の沿岸部を対象にマッピングし被災リスクの定量的評価を行った。さらに土地利用データ等も活用し、ジオデザイン手法を用いた将来的な復興計画への活用法と有用性を検討した。現在、得られた研究成果の論文投稿を進めている。今後、このデータを基盤とした多様な地域分析や実践的な復興・防災計画策定支援を期待できる。

【図表】



	遡上 造 連 見				B
	寺 賢二				
	都市再生			安全	

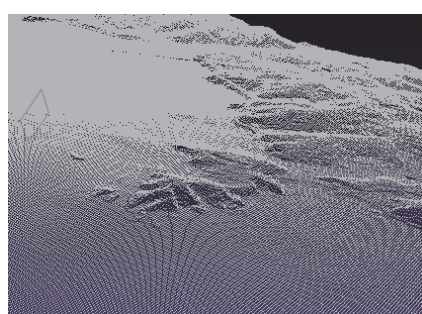
寺 賢二	森口周二	加藤準治	瀬慎介	安全	井 健太	檜山 男 央
	浅井光輝	九州		金子賢治	八戸	車谷麻緒 茨城

	2014	4	2015	3		850,000
--	------	---	------	---	--	---------

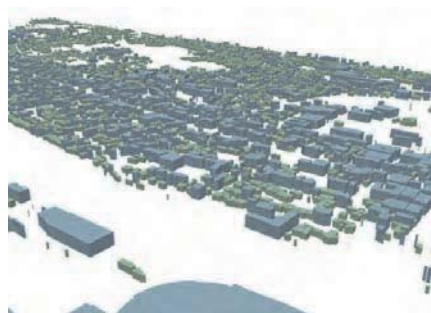
遡上	都市	造	損傷	メカ	ズ	造
材 漂流 伴 流	時空	影響	考慮	評価	連	法
導	れ 「 科	情報	多 元	合可視	テ 」	遡上 造 破壊
詳細	考察 可能			“見 ”	試み	

【研究の具体的な成果・波及効果】							遡上	造	破壊	漂流	造	二	現象
測	造 流	法	イ	浸水	予測だけ	流	建	予					
	示	際 広	デ	GIS	都市	屋	状	デ					
3 元	情報	利	街並み	再現	現象 直	け 視覚		待					
“見 ”		提示											

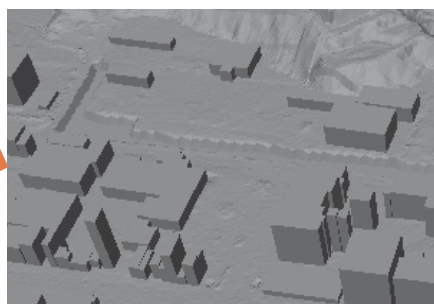
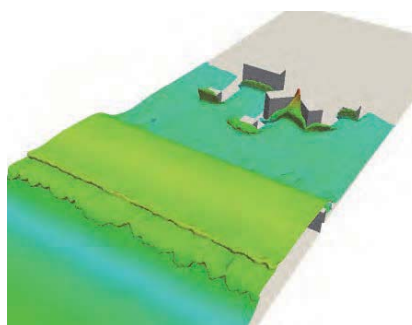
【図表】（印刷時は白黒）



数値標高モデル (DEM)

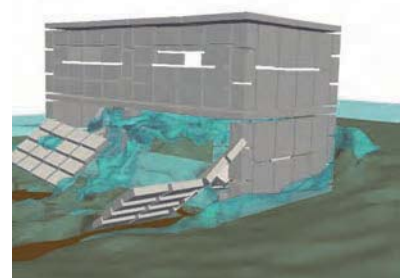
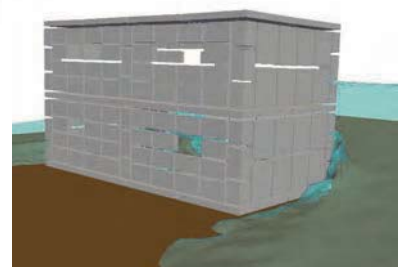


GIS上のSHPデータ(建物のみ)



STLデータ(標高+建物)

安定化有限要素法による津波遡上と流体力によるコンクリート構造物の破壊現象をシミュレート可能な構造・流体連成解析手法の開発



研究課題名	高精度津波シミュレーションに基づく確率論的津波ハザード評価			種目	拠点 B
研究代表者	森口 周二			職名	准教授
部 門	地域・安全再生研究部門	分野	地域安全工学研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））
森口周二、寺田賢二郎、（地域安全工学研究分野）、今村文彦、福谷陽（津波工学研究分野）、京谷孝史、加藤準治、高瀬慎介（工学研究科土木工学専攻）、大竹雄（新潟大学工学部 建設学科）、桜庭雅明、野島和也（日本工営株式会社）

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】
高精度な数値解析を主軸とする信頼性解析手法の枠組みを応用し、津波発生時の沿岸部における高精度な津波到達高さの確率論的評価を可能とする枠組みを提案する。また、東北地方太平洋沖地震に伴って発生した津波を対象として、提案する枠組みを適用することにより、その利点や問題点を明らかにする。

【研究の具体的な成果・波及効果】
東北地方太平洋沖地震で発生した津波を対象として、沿岸部における最大津波高さの評価に提案する枠組みを適用した。これまでに、考慮するバラツキの項目（断層のすべり角とすべり量）と解析条件（使用地形データ、断層モデル（Fujii-Satake モデル）、津波高さ評価地点）を決定し、予備解析（合計 25 ケース）を終えている。今後、本解析を実施し、応答関数を作成して提案する確率論的評価の有効性を示す。

【図表】

研究課題名	地震エネルギーを効率よく吸収する材料の最適微視的構造の開発			種目	拠点 B
研究代表者	加藤 準治			職名	助教
部 門	地域都市再生研究部門	分野	地域安全工学研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

加藤準治、寺田賢二郎、森口周二、高瀬慎介（地域安全工学研究分野）
京谷孝史（東北大学工学研究科土木工学専攻）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

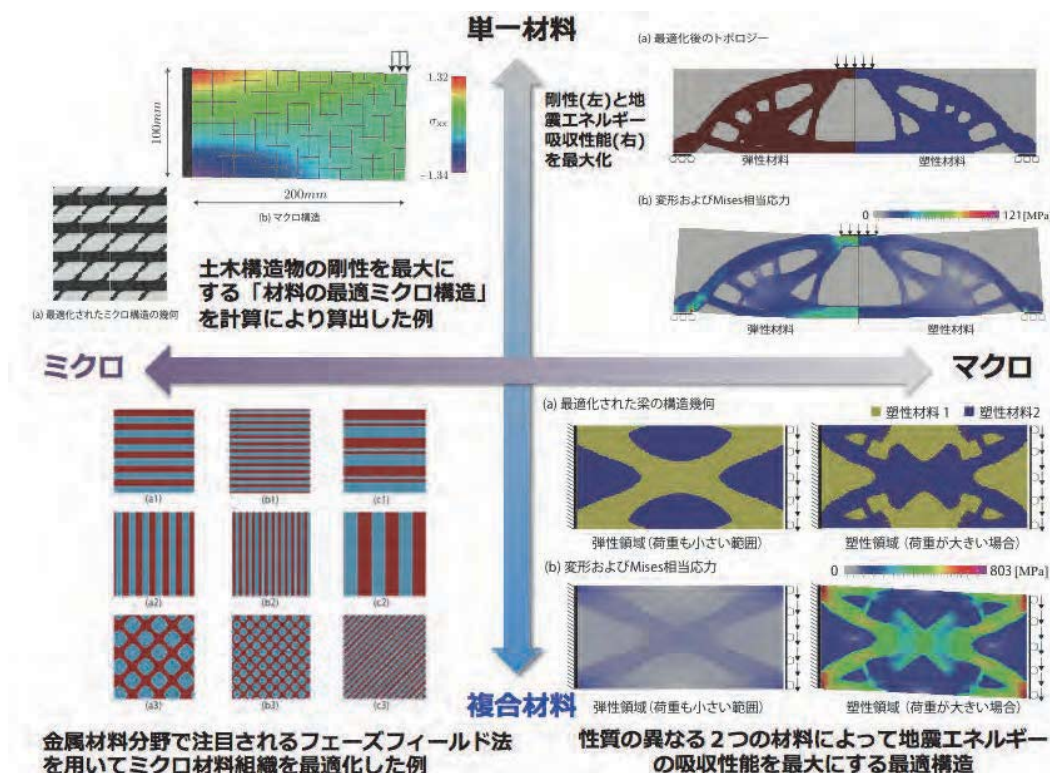
【研究の概要】

現在、材料の靱性性能を向上させる先端材料の研究開発が盛んに行われている。しかし、その材料の靱性性能を決定づける鍵は材料の微視的組織にあり、その最適構造を経験則による手法だけで発見することは不可能であるといつてよい。そこで本研究では、この複雑な力学問題をコンピュータ上の仮想数値実験によって解析し、その最適構造を発見するための手法を開発する。

【研究の具体的な成果・波及効果】

- [1]干場大也 他4名、弾塑性材料の繰り返し载荷を考慮したマルチフェーズトポロジー最適化および解析的感度の精度検証、土木学会応用力学論文集A2(応用力学)、Vol. 70, No. 2, I_317-I_328, 2014 掲載
- [2]加藤準治 他6名、フェーズフィールド法によるミクロ構造トポロジー最適化の基礎的研究、土木学会応用力学論文集A2(応用力学)、Vol. 70, No. 2, I_173-I_183, 2014 掲載

【図表】



研究課題名	小型飛行体による打音検査法に関する研究			種目	拠点 B
研究代表者	田所 諭			職名	教授
部 門	地域・都市再生研究部門	分野	災害対応ロボティクス研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

田所諭・災害対応ロボティクス研究分野
岡田佳都・大学院情報科学研究科
大野和則・未来科学技術共同センター

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

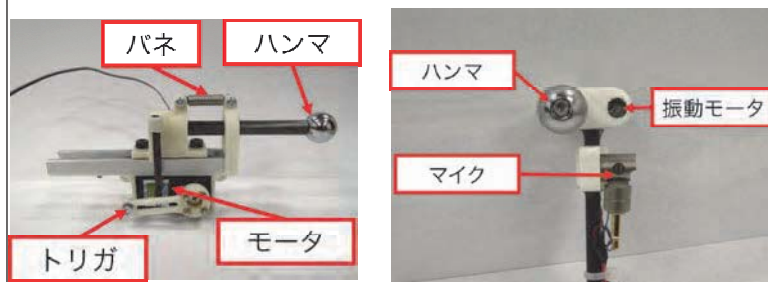
【研究の概要】

防災減災に役立つビル外壁タイルや橋梁の打音検査を、点検員用の足場にかかるコストや時間を必要としないマルチコプター（ドローン）により代替する研究を行う。点検員が従来行ってきた検査用ハンマーを用いた叩き動作や擦り動作を模擬する装置を開発し、マルチコプターに搭載できる大きさと重さに小型化する。実際の外壁タイルに対する実験を実施し、装置で発生させた打音により損傷を検出できるか評価する。

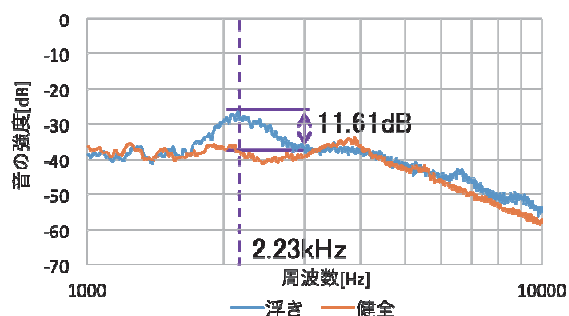
【研究の具体的な成果・波及効果】

人間による叩き動作を模擬するため、点検対象面に向かってバネでハンマーヘッドを打ち出す装置を開発した。また、人間による擦り動作を模擬するため、振動モータで小刻みに振動するハンマーヘッドを点検対象面に押し付ける装置を開発した。損傷を含む外壁タイルに対し、開発した装置を搭載したマルチコプターによる打音検査を試行し、打音の周波数解析によりタイルの浮きを検知できることを確認した。

【図表】



左：開発した打ち出し式打音装置，右：開発した振動式打音装置



左：マルチコプターによる外壁タイル点検の試行，右：周波数の解析結果の例

研究課題名	地物表面放射線源分布推定のための線量計の計測軌跡計画			種目	拠点 B
研究代表者	竹内 栄二郎			職名	助教
部 門	地域・都市再生研究部門	分野	災害対応ロボテックス研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

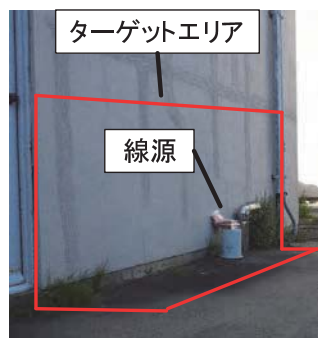
田所 諭（地域・都市再生研究部門）

竹内 栄二郎（地域・都市再生研究部門）

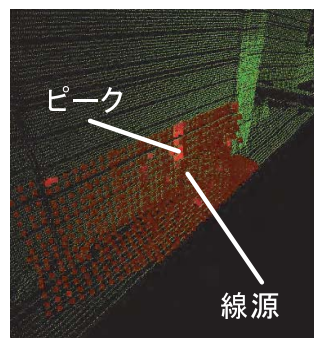
大野 和則（未来科学技術共同研究センター）

期 間	2014 4 2015 3		850000
-----	---------------	--	--------

【研究の概要】本研究は低感度な線量計を用いて広範囲の放射線源分布をより高精度に推定するためのものである。地物の3次元形状と移動しながら計測した空間線量情報を用いて、事後確率最大化手法による逆問題解析を行う事により地物表面の放射線源分布を推定する。その上で、どのような軌跡を計測することで、限られた時間で誤差を最小にすることができるかの計画問題を解くことで、広域の線源探索を効率化する。



実験環境

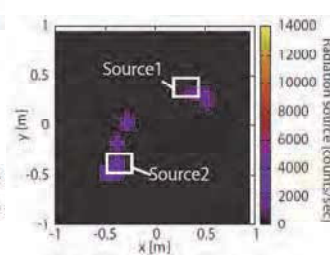


推定結果

計測の様子

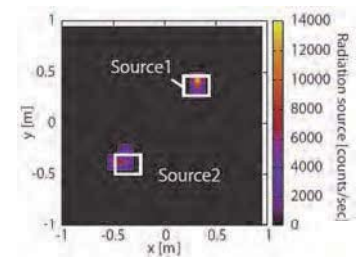


線量計移動装置



精度の低い推定結果

a_t



精度の高い推定結果

研究課題名	津波避難計画を考慮した住民主体のまちづくり支援			種目	拠点 B
研究代表者	村尾修			職名	教授
部 門	地域・都市再生研究部門	分野	国際防災戦略研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

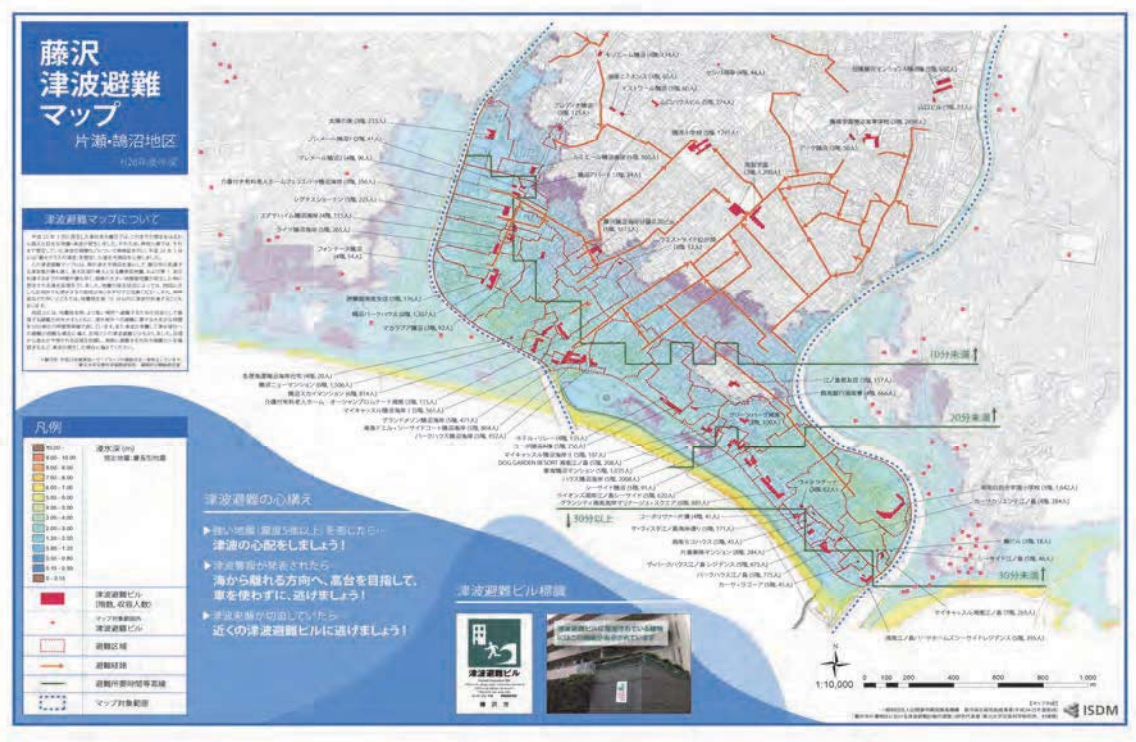
村尾修（国際防災戦略）、越村俊一、エリック・マス（広域被害把握）、諫川輝之（東京工業大学大学院総合理工学研究科）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】本研究は、東日本大震災の経験を踏まえるとともに、研究代表者による既往研究を発展させ、同地区の津波避難計画案を策定し、町内会住民とともにその現実的な活用方法を検討していく中で、津波被害軽減のための方策づくりを支援することを目的としている。また、本研究で得られた知見を活用すべく、南海トラフ地震による被害が懸念されている地域での防災まちづくり支援を行う。

【研究の具体的な成果・波及効果】片瀬西浜・鵜沼地区を対象として、地勢・都市構造・津波避難ビルの立地状況・居住状況などの地域特性を分析し、地区ごとの適切な津波避難計画と津波避難マップを作成し、地域を管轄する藤沢市および地域住民に対して提案した。現在、2011 年末に成立・施行された「津波防災地域づくりに関する法律」に基づき、沿岸地域では地域に応じた津波避難計画策定作業が進められている。本研究は、こうした活動に資することができる。

【図表】



研究課題名	気象データの気候地域モデルによるダウンスケーリングの手法の習得し、大災害による地域におけるリスク分析に適用する			種 目	拠点
研究代表者	C			職 名	助教
部 門	地域・都市再生研究部門	分 野	国際防災戦略研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

C ・ 国際防災戦略研究分野

• C C C C C

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月
-----	-----------------------

経費	799,000 円
----	-----------

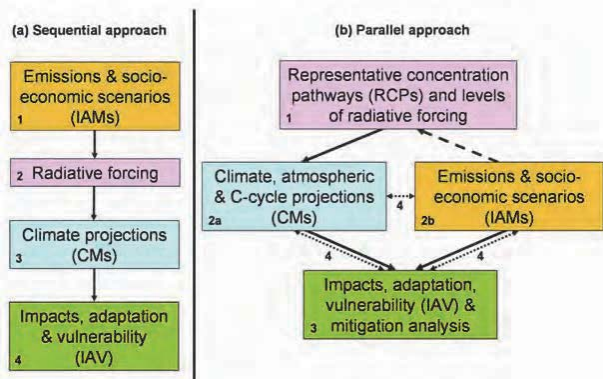
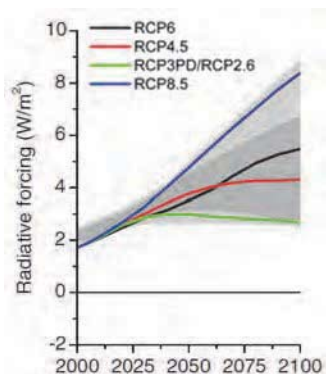
【研究の概要】

気候変動のメカニズムをより理解し、的確なシミュレーションの分析を行うために、事前処理として気候変動データのダウンスケーリングの手法を学び、災害の事例を通して、気候モデルとダウンスケーリングを遂行することで、災害による被害地域における災害リスク評価を行い、今後の研究を進める上で、基盤となるデータの科学的な加工・編集処理を的確に遂行することを目的とする。

【研究の具体的な成果・波及効果】

多様化し、長期化、頻発する異常気象が地域にもたらすリスクを分析するために、事前作業として全地球気象データのリージョンへのダウンスケーリングの手法を学んだ。第3回国連防災世界会議のパブリックフォーラムを開き、国際専門機関の研究者を招いて市民向けのセミナーを実施、気候変動による様々な角度からの災害リスクに関する議論を重ね、大災害の事例に適用法などについて意見交換、情報交換を行なった。

【図表】



研究課題名	海底間音響測距観測による日本海溝の海溝軸付近の挙動の検出			種目	拠点 B
研究代表者	木戸 元之			職名	准教授
部 門	災害理学研究部門	分野	海底地殻変動研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

木戸元之・日野亮太・飯沼卓史（海底地殻変動研究分野）

太田雄策・長田幸仁（東北大学理学研究科）

伊藤喜宏（京都大学防災研究所）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

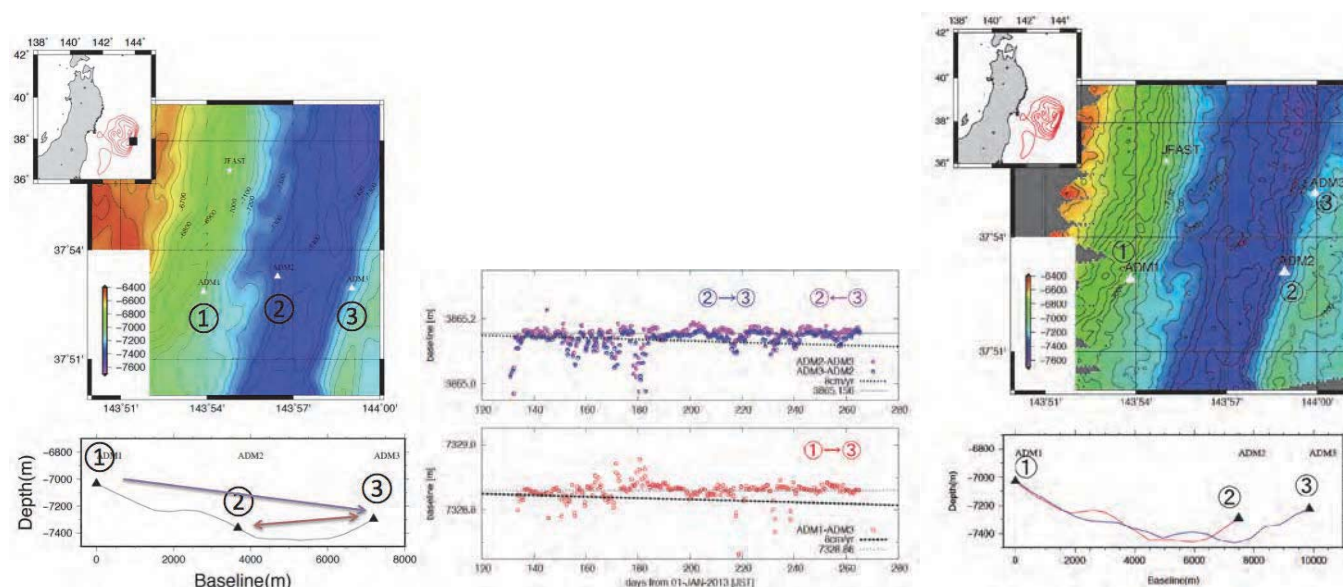
【研究の概要】

これまで観測が不可能であった、水深 7000m を超える日本海溝の海溝軸付近で、3km を超える基線長の伸縮をモニタリングできる海底間音響測距装置を開発し、実観測に用いることで、東北地方太平洋沖地震後のプレート境界浅部の起動を明らかにする。

【研究の具体的な成果・波及効果】

前年度、海溝軸をまたいで設置し収録したデータを本年度解析した結果、基線 8km での測距ができることを確認した。また、計測精度の範囲内で有意な伸縮は見られず、プレート先端部が固着していることを示唆する結果を得た。この試験観測データに基づき、更に装置に改良を加え、平成 27 年度までの約一年間の第 2 次長期試験観測を開始した。この試験観測により、確実に基線長変化をモニタリングできる目処がたった。

【図表】



H25 年のデータ計測サイト

海溝軸をまたいで計測された基線長

H26 年に計測を開始したサイト

研究課題名	東北地方太平洋沖地震以前のプレート間カップリングの再評価			種目	拠点 B
研究代表者	飯沼 卓史			職名	助教
部 門	災害理学研究部門	分野	海底地殻変動研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

飯沼卓史・海底地殻変動研究分野
内田直希・地震ハザード研究分野

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

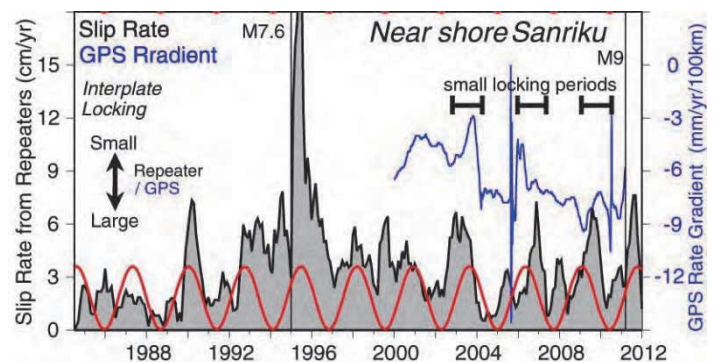
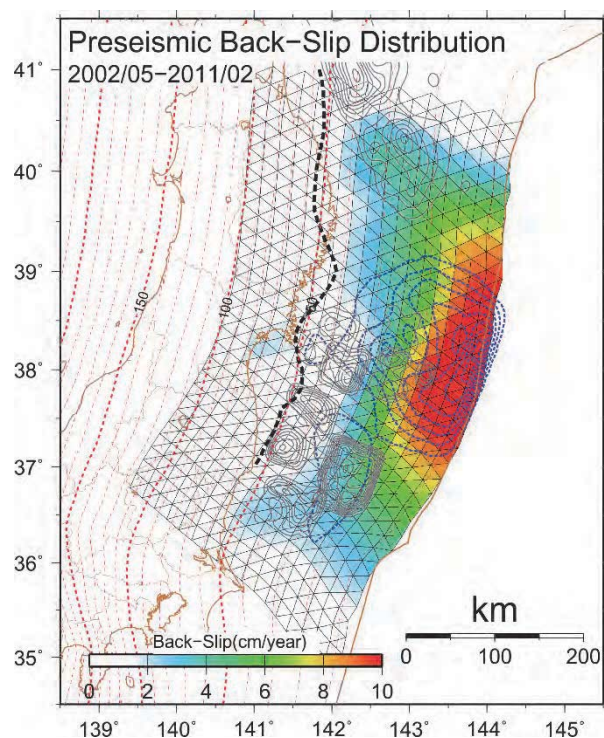
【研究の概要】

2011 年東北地方太平洋沖地震以前のプレート間の固着状態に関して再評価を行うため、GPS 観測に基づき計算される地表変位の空間勾配とプレート間固着の状態との関係を確立する。その際、小繰返し地震から推定される固着率の時空間変化との比較を行う。さらにこの関係を過去の水準測量データから計算した変位の空間勾配に適用することで、GPS 出現以前のプレート間固着の状態についての知見を得る。

【研究の具体的な成果・波及効果】

海陸の地殻変動観測データを用いて、2011 年東北地方太平洋沖地震で非常に大きなすべりを起こした領域での固着が、地震以前には常に強かったことを明らかにした。小繰返し地震の解析から求めた固着強度と、変位の空間勾配とがほぼ同一の周期で時間変化をしていることを示した。過去約 100 年分の水準観測データのデジタル化を行い、変位勾配を計算し、GPS 出現以降においては GPS 観測から求められる変位勾配と調和的であり、1978 年や 1936 年の宮城県沖地震以前にもプレート間の固着が強かったことを明らかにした。

【図表】



(上) 小繰返し地震から求めたプレート間のすべり
レートと GPS データから求めた地表の変位勾配との
比較図

(左) 海底地殻変動データも用いて推定した東北地方太平洋
洋沖地震以前のプレート間のすべり遅れの分布図

研究課題名	東北日本沈み込み帯プレート境界における温度及び間隙水圧の3次元的分布の推定			種目	拠点 B
研究代表者	和田育子			職名	助教
部 門	災害理学研究部門	分野	海底地殻変動研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

和田育子、日野亮太、木戸元之、飯沼卓史（災害研災害理学・海底地殻変動研究分野）、岡田知己、内田直希（災害研災害理学・地震ハザード研究分野）、Jiangheng He (Geological Survey of Canada)、Glenn Spinelli (New Mexico Tech)、中島淳一（東北大学大学院理学研究科）、伊藤善宏（京都大学防災研究所）

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

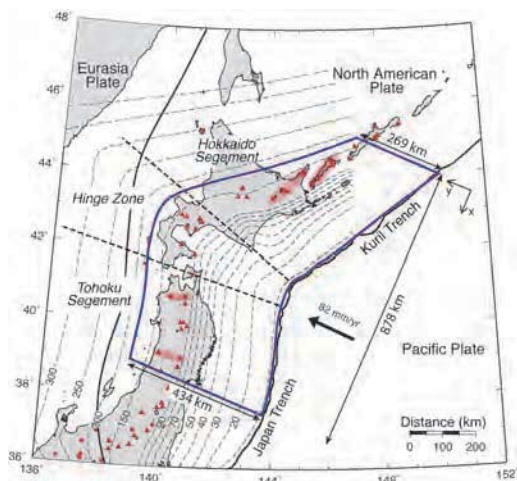
【研究の概要】

沈み込み帯における地震の発生および火山の生成を規定する物理的条件の把握を目的とし、熱流量及び地殻変動に関する観測データ、地震学的知見（地震波速度構造・震源分布など）を制約条件に含めて数値計算を行い、東北日本沈み込み帯の3次元的な温度構造を推定し、地震の分布とマグマの生成場所の物理的環境の理解を深める。

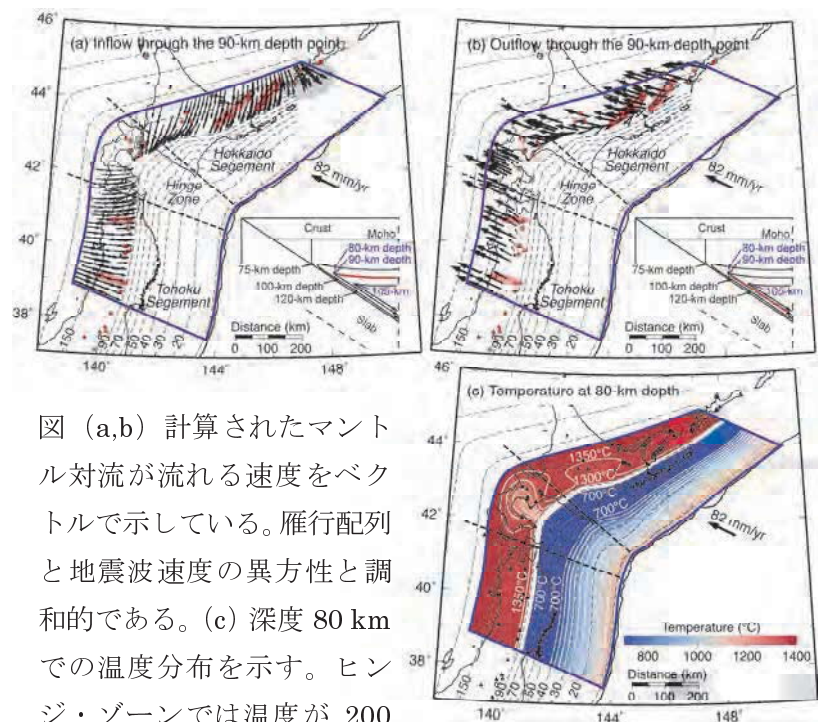
【研究の具体的な成果・波及効果】

3次元有限要素法の数値計算コードを用いて、現実的な沈み込むスラブの形状を取り入れた東北日本の沈み込み帯の3次元温度構造モデルの構築に成功し、マントルウェッジ内のマントル対流パターンと温度構造を推定した。火山の位置がマントル内の温度分布と調和的であり、火山の雁行配列がマントル対流の方向とほぼ並行している事が分かり、先行研究で得られた観測結果とともに、マントル対流と温度の影響を特定した。

【図表】



図（上）東北日本3次元温度構造モデルの対象領域を青線で示す。赤い三角は火山の位置、薄い赤の領域は火山の雁行配列を示す。黒い破線は沈み込むスラブの表面の等高線をします。



図（a,b）計算されたマントル対流が流れる速度をベクトルで示している。雁行配列と地震波速度の異方性と調和的である。(c) 深度 80 km での温度分布を示す。ヒンジ・ゾーンでは温度が 200 度程低くなっている。

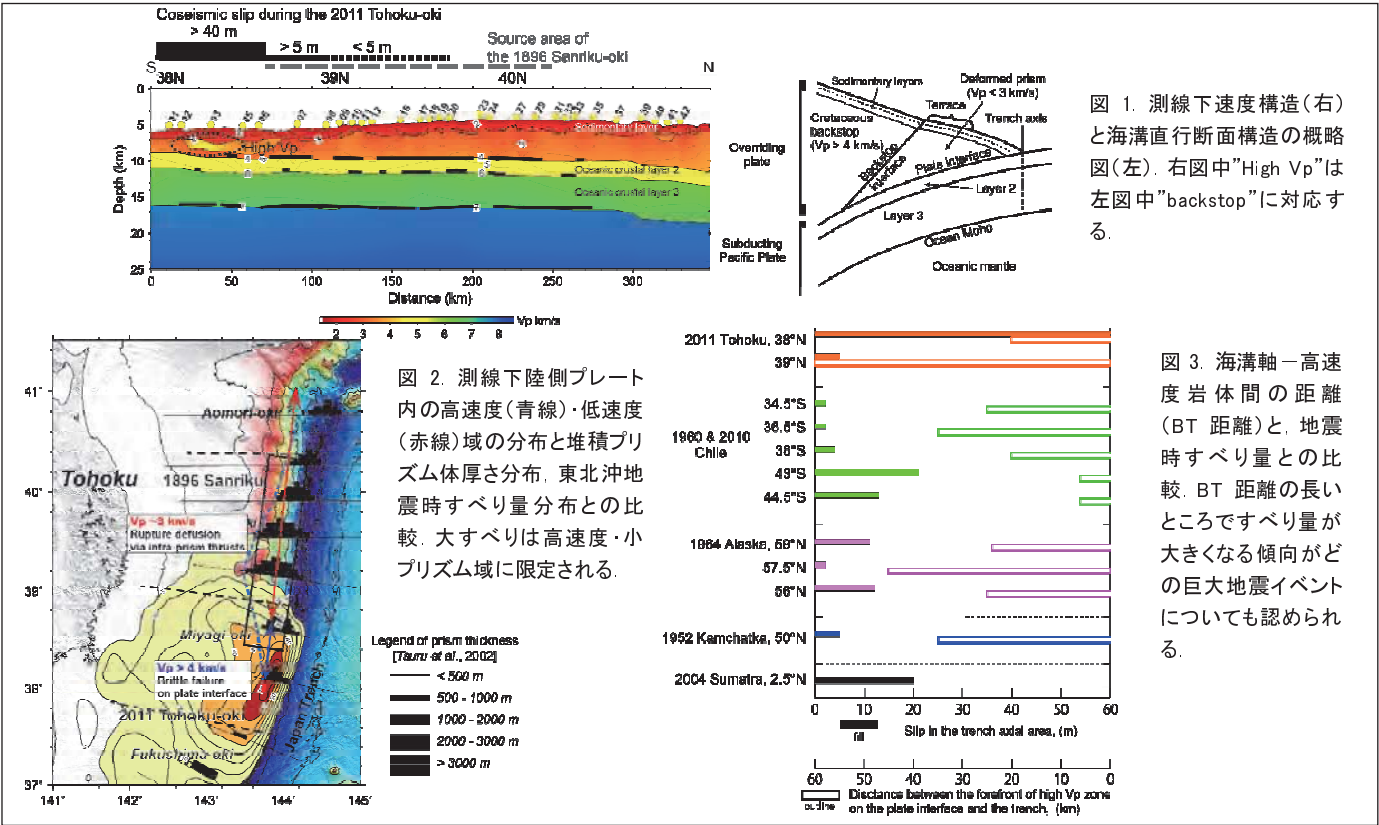
研究課題名	東北地方太平洋沖地震に伴う巨大津波の発生要因に関する研究			種目	拠点 B
研究代表者	東 龍介			職名	助教
部 門	災害理学部門	分野	海底地殻変動研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））
東龍介（海底地殻変動研究分野）

期間（西暦）	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
--------	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】
<p>東北地方太平洋沖地震ではプレート境界面の高速破壊に伴う陸側プレート先端部の大変位によって巨大津波が生じた。そうした海溝軸近傍の地震時大すべりは宮城県沖に集中し、三陸・福島沖に比べ極めて大きい。すべり量のこうした南北差の要因の一つに、海溝陸側斜面下の地殻構造が海溝沿いに不均質である可能性が考えられる。そこで本震震源域の地殻構造を明らかにし、構造の観点から巨大津波の発生メカニズム解明にアプローチする。</p>

【研究の具体的な成果・波及効果】
<div>P</div> <div>1960</div>



研究課題名	大地震に伴う活断層・火山周辺の地震活動変化の詳細な検討とモデル化 ー東北地方太平洋沖地震および国内外の大地震を対象にした比較研究			種目	拠点 B
研究代表者	岡田 知己			職名	准教授
部 門	災害理学	分野	地震ハザード		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

岡田知己・内田直希（地震ハザード）、三浦哲・山本希・市来雅啓（火山ハザード）、遠田晋次（国際巨大災害）、日野亮太・和田育子（海底地殻変動）、飯尾能久（京大防災研）、長橋良隆（福島大）、山本英和（岩手大）、松本聡（九州大）、Rick Sibson（オタゴ大）、松澤暢・矢部康男・中島淳一・長谷川昭（東北大・理）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	750,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

東北地方において、活断層周辺や火山周辺における地震活動に対する東北地方太平洋沖地震の影響について検討を行う。また、他の地震との比較検討を通して、地震発生モデルの高度化ならびに関係機関との連携強化を行うとともに、内陸地震に関して得られる知見を災害軽減につなげる方策についても議論を行う。

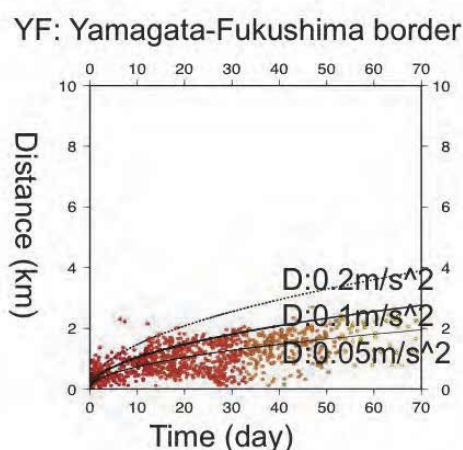
【研究の具体的な成果・波及効果】

秋田県北部・秋田県南部・福島/山形県境等の領域では、東北沖地震直後に活発になった（誘発された）群発地震群が分布する。群発地震の応力分布、震源分布や地殻構造の推定を行った結果、東北沖地震による応力擾乱や東北沖地震をトリガーとした流体の拡散によってそれらの群発地震群が発生した可能性を指摘した。また、2008 年岩手・宮城内陸地震や 2001 年福島県浜通の地震、ニュージーランドの地震などについても同様の検討を行った。

【図表】



左図：本研究によって設置・運営された臨時地震観測点。看板の付けているボックス等の中に、地震計とデータロガーが入っている。



右図：福島・山形県境付近の地震における震源域の拡大現象。色付きの小さな○はそれぞれの地震に該当する。横軸は最初の地震からの経過時間・縦軸は最初の地震からの距離を示す。線はそれぞれの拡散係数による理論的な拡散先端の位置を示す

研究課題名	東北地方太平洋沖地震後の地震発生メカニズムの解明			種目	拠点 B
研究代表者	内田直希			職名	助教
部 門	災害理学	分野	地震ハザード		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

内田直希・岡田知己（地震ハザード分野）・三浦哲（火山ハザード分野）・浅野陽一（防災科学技術研究所）・中島淳一・太田雄策・長谷川昭・豊国源知・矢部康男・松澤暢（理学研究科）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

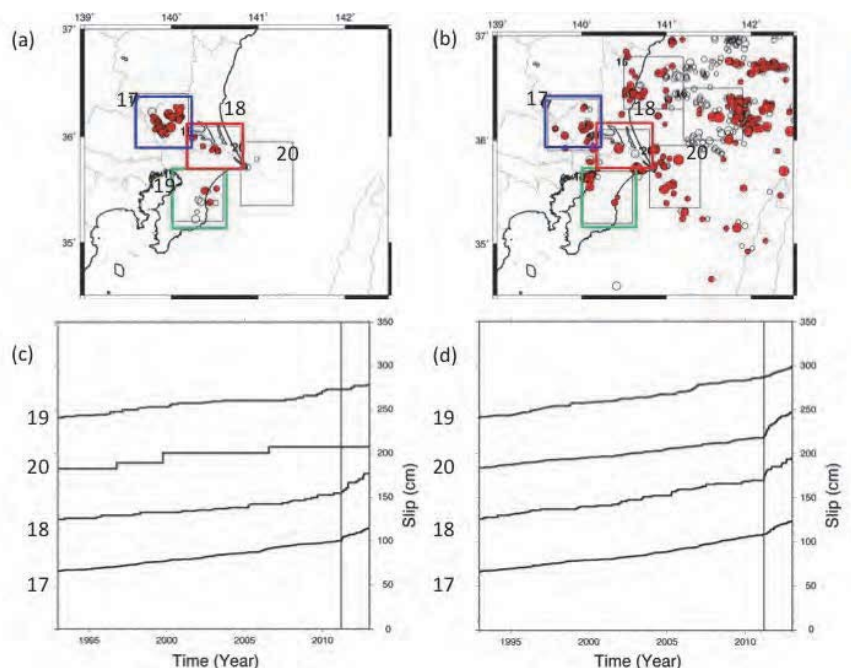
【研究の概要】

東北地方太平洋沖地震は、その周囲の地震発生様式を大きく変え、日本列島がこれまで経験したことがないような状況を生じさせた。新たな活動様式を明らかにし、その原因とそこから予想されるハザードを理解することが重要である。本研究では、小繰り返し地震を含む種々の地震、GPS 等のデータを用いて、関東地方および東北地方で現在起きている地震活動の原因を調べ得られた地震活動の特徴をハザード評価につなげる。

【研究の具体的な成果・波及効果】

関東地方の地震に関しては、フィリピン海プレートの上面と下面での非地震的なすべりを繰り返し地震データから推定した。また、メカニズム解からプレート境界でのすべり方向の時間変化を正確に推定するプログラム類を開発した。今後はその適用により、2011 年東北地方太平洋沖地震前後のすべり方向の変化の有無を調べる。東北地方においては、メカニズム解に基づく断層タイプの分類を進め、断層タイプ別の地震の分布について調べた。その結果、本震による応力変化に対応した地震の分布が見られることがわかった。これらは今後注意すべき地震タイプの予測に貢献する結果である。

【図表】



図：関東地方における繰り返し地震の分布（a、b）とそこから得られたプレート境界の17-20の領域における非地震性すべりの推移。（a）、（c）はフィリピン海プレート上面、（b）、（d）は下面に対応し、プレートの上下の面でのすべりが明らかになった。

研究課題名	火山体変形モニタリングに基づく噴火ポテンシャル評価手法の開発			種目	拠点 B
研究代表者	三浦 哲			職名	教授
部 門	災害理学部門	分野	火山ハザード分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

山本希（火山ハザード）、太田雄策（東北大学理学研究科）、大園真子（山形大学理学部）

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】火山噴火がどの場所で起こりうるかについて、ある程度事前に絞り込んでおくことができれば、火山災害の軽減にとって極めて有益な情報となる。本研究では、活発化した火山で観測される山体の変形等を高精度で把握することによって、噴火前のマグマの上昇・移動といった現象について可能な限り正確な推定を行い、噴火ポテンシャルの評価を行うための手法を開発する。

【研究の具体的な成果・波及効果】蔵王山周辺で断続的に発生している超長周期地震に伴う傾斜ステップ変化を抽出し（図1）、先験情報付非線型逆解析法によりその変動源を推定したところ、火口湖である御釜の北側の約1.8kmの深さに1km四方のダイクを仮定することで観測結果を概ね説明できることが明らかとなった（図2）。今後さらに観測事例を蓄積することにより、蔵王山直下における火山性流体の時空間分布とその力学的状態についての知見が得られることが期待できる。

【図表】

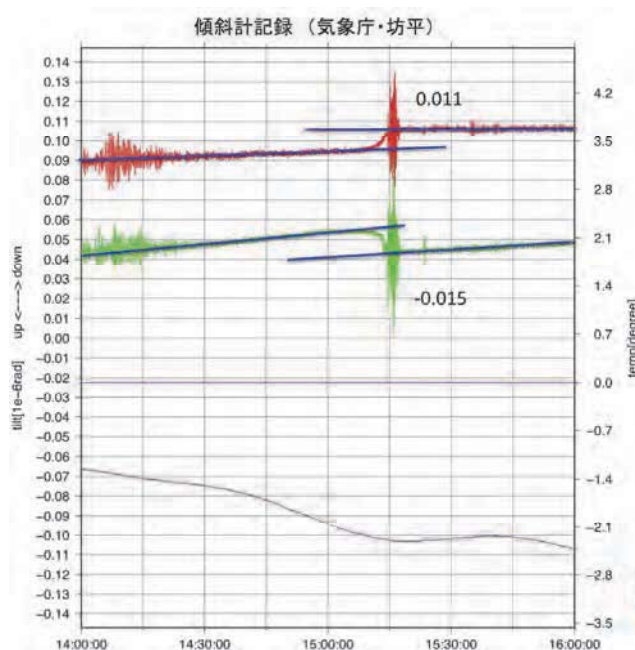


図 1. 気象庁坊平観測点において観測された傾斜ステップ.

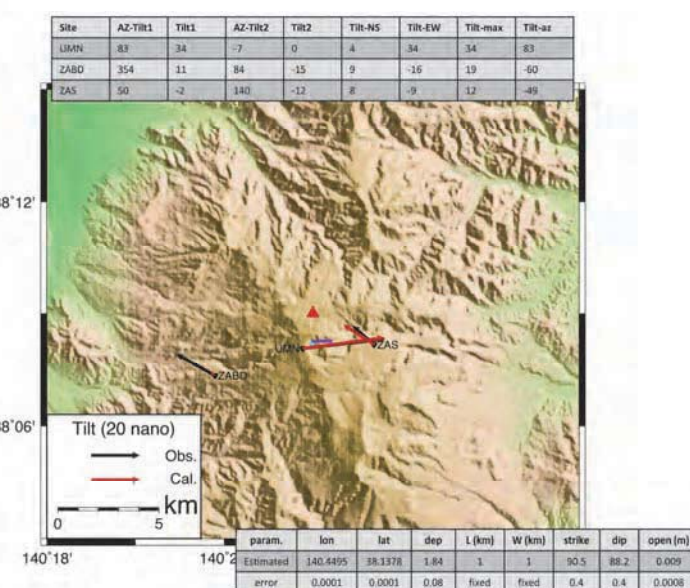


図 2. 傾斜ベクトルの観測値（黒矢印）と推定されたモデルからの計算値（赤矢印）。紫色は1km四方のダイクの位置、赤三角は熊野岳山頂.

研究課題名	噴火予測精度向上の為の全磁力繰り返し観測効率化の試み			種目	拠点 B
研究代表者	市来 雅啓			職名	助教
部 門	災害理学研究部門	分野	火山ハザード研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

橋本武志・北海道大学

山田尚幸(現気象庁)・仙台管区气象台

海田俊輝、鈴木秀市、立花憲司、出町知嗣、中山貴史、平原聡・大学院理学研究科

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

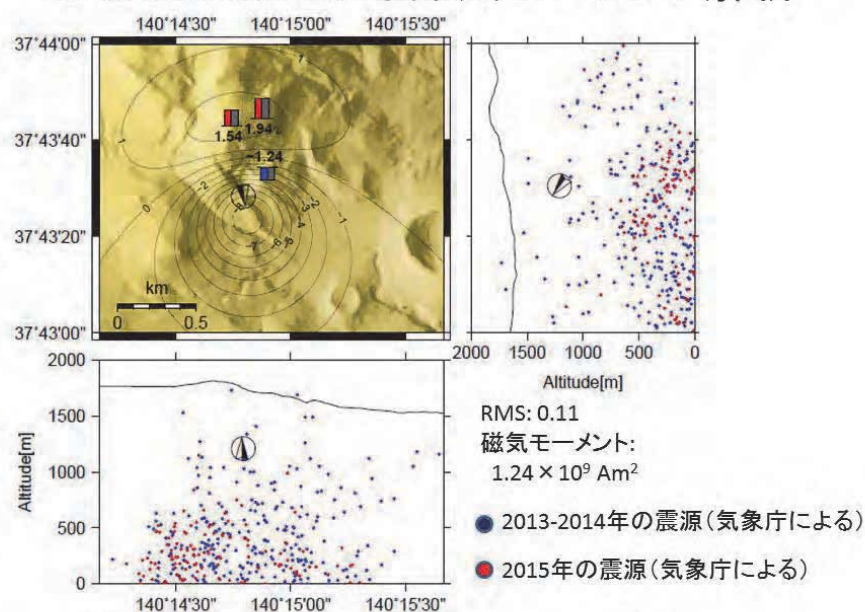
精度・再現性の高い光ポンピング型全磁力計の携帯歩行観測が火山体繰り返し全磁力観測に適用可能か技術的評価を行う。従来の全磁力観測実績が豊富な吾妻山での定量的比較を中心に研究を行い、東北太平洋沖地震後の噴火予測を睨みながら順次北日本の主要な活火山での広域全磁力変動場の蓄積に取り組む。より広域の全磁力変動場を高頻度でモニターすることで側噴火や地盤変動を伴わない噴火予測に貢献する。

【研究の具体的な成果・波及効果】

光ポンピング磁力計と同等のオーバーハウザー型磁力計により吾妻山全磁力測量を2014年6月と10月に行った。このデータを用いて4か月間における熱消磁領域の推定を行った。10月の測量時に携帯歩行による観測を計画していたが吾妻山の10月頃の活動の活発化を受け、噴火即自予測の為の全磁力連続記録計設置に計画を切り替え、現在も活動状況を監視している。連続記録計設置によって、吾妻山の地震・GNSS監視以外による噴火予測の取りこぼし防止が期待される。

【図表】

Grid Searchによる磁気モーメント解析



※謝辞: 地震データは気象庁のデータを使用させて頂きました。

研究課題名	仙台平野南部の活断層と苦竹伏在断層との連続性について			種目	拠点 B
研究代表者	岡田真介			職名	助教
部 門	災害理学研究部門	分野	地盤災害研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

岡田真介・今泉俊文（災害理学研究部門 地盤災害研究分野）
住田達哉・牧野雅彦（産業技術総合研究所 地質情報研究部門）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

仙台平野南部の伏在活断層は、既存の反射法地震探査データによると岩沼市街地を抜け、愛島丘陵の東縁を通り、北へ延長すると予想される。しかし、苦竹伏在断層（長町-利府断層の前縁の伏在断層）との関係は明らかになっていない。本研究では、精密な重力測定を複数測線において実施し、地下の活断層の連続性を空間的に追跡し、仙台平野南部の活断層と苦竹伏在断層との関係について明らかにする。

【研究の具体的な成果・波及効果】

愛島丘陵南部一名取川右岸にかけて東西方向に標準 200 m 間隔で 6 本の測線を設定し、合計 232 点において相対重力測定を実施した。本重力測定によって得られた重力値に、種々の補正を実施し、地質の密度に起因する情報のみを残したブーゲ重力異常を求めた結果、地下の活断層運動に起因する重力変化が愛島丘陵よりも北部には延長しないことから、仙台平野南部の伏在活断層は苦竹伏在断層とは連続しないことが明らかになった。

【図表】

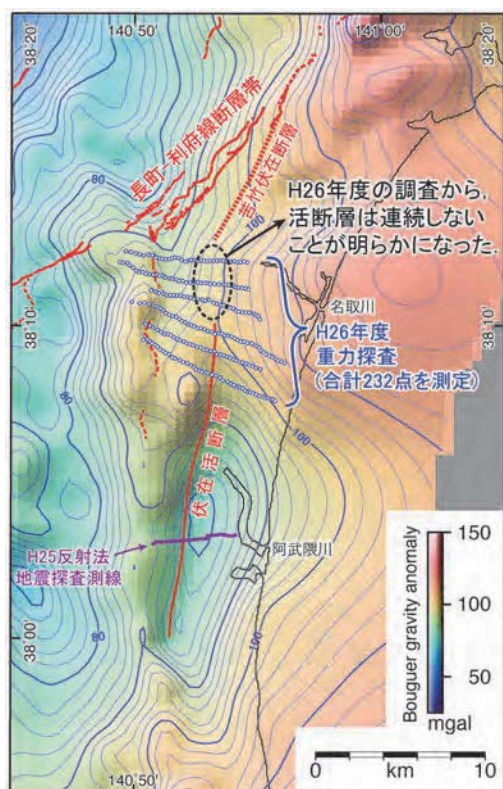


図 1. 仙台平野の活断層分布と H26 年度重力測定位置および周辺のブーゲ重力異常.

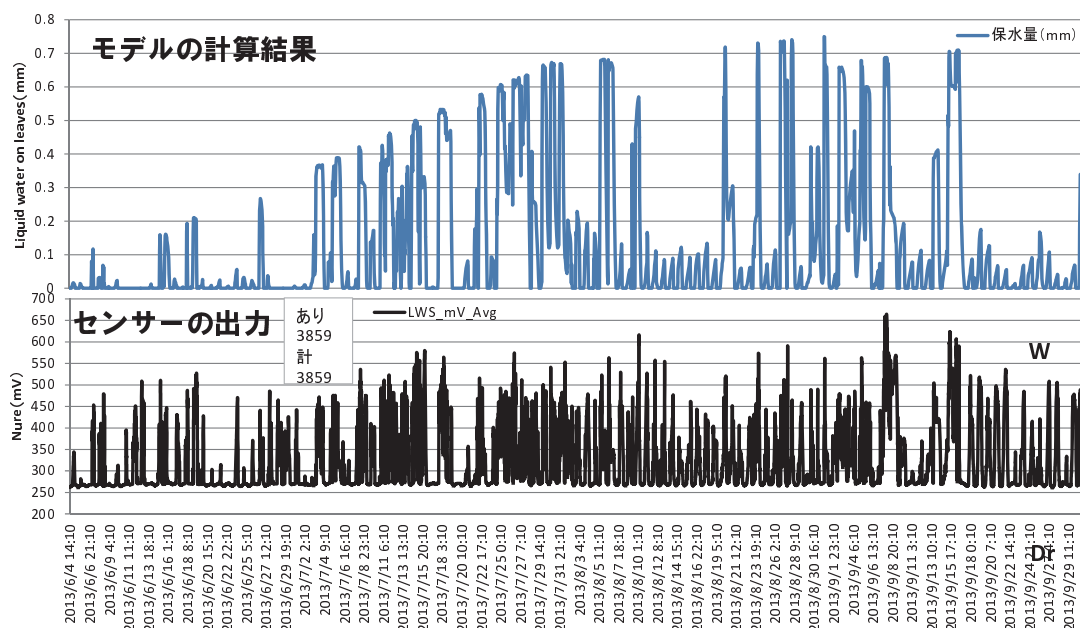
図 2. LaCoste & Romberg G 型重力計を用いた相対重力測定実施の様子. 重力測定と同時に標高および位置座標の取得のために、GPS 測量を実施した.



			B

	2014	4	2015	3		698,000
--	------	---	------	---	--	---------

698,000



センサーの出力

あり	3859
計	3859

— LWS_mV_Avg

水量 (mm)

27:1

陸面過程モデルによる葉面保水量の計算結果と誘電率を用いた葉面濡れセンサー出力の比較例
(2013 年大崎市古川)

研究課題名	数値モデルと衛星観測の比較による日本域の降水量の定量的評価			種 目	拠点 B
研究代表者	岩渕 弘信			職 名	准教授
部 門	災害理学研究部門	分 野	気象・海洋災害研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

岩渕弘信（気象海洋災害研究分野）

早坂忠裕・吉岡真由美・片桐秀一郎（東北大学大学院理学研究科）

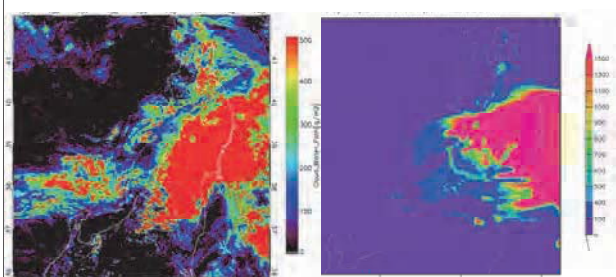
期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】雲解像モデルによる数値シミュレーション結果を最新の衛星観測データと比較し、日本周辺域における降水量の再現性を定量的に明らかにする。雲物理特性の時空間分布をモデルと衛星観測で比較し、雲微物理量分布の表現と地上降水量予測精度との関係を調べる。集中豪雨、豪雪等の事例を対象とし、再現実験を中心に数値実験を行い、モデルの性能向上と降水量予測の改良を目指す。

【研究の具体的な成果・波及効果】観測事例として、2013 年 7 月山形豪雨、8 月秋田・岩手豪雨、2014 年 2 月関東甲信・宮城豪雪について数値シミュレーションを行い衛星データとの比較を行った。これは雲解像モデルによる数値シミュレーションと衛星観測の物理量の比較検証、特に中高緯度に位置する日本域での検証と再現性の改良に役立つ。地上での時間積算降水量の情報は、土壌や河川への流入量の予測に役立つため、将来的に災害科学国際研究所の目指す防災・減災に役立つと考えられる。

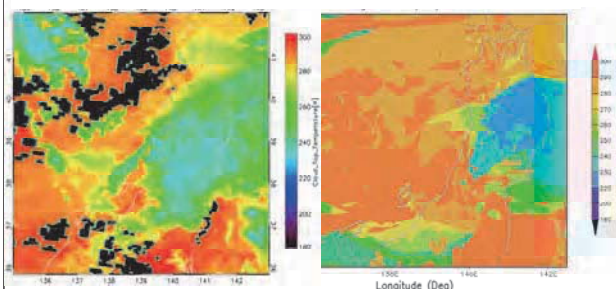
【図表】地表の豪雨をもたらした 3 次元的な水(雲)の分布は、衛星からとらえた気柱当りに含まれる量との比較ではほぼ一致し、その変化を動的にとらえることができた。

2013 年 7 月 18 日 01 UTC 山形豪雨最盛時
衛星 (MODIS) 水蒸気量 モデル積算水蒸気量

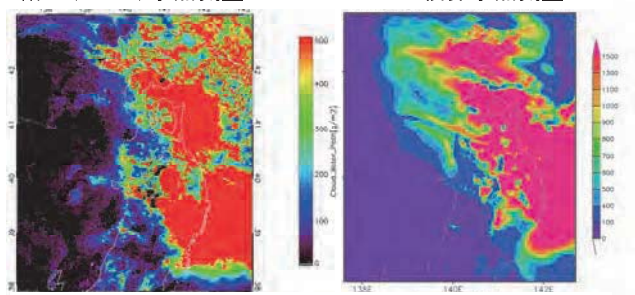


衛星 (MODIS) 雲頂輝度温度

モデル結果

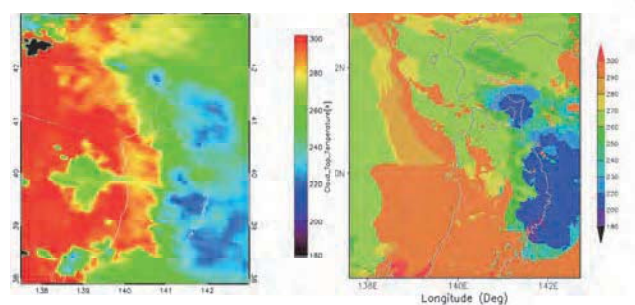


2013 年 8 月 9 日 02 UTC 秋田・岩手豪雨最盛時
衛星 (MODIS) 水蒸気量 モデル積算水蒸気量



衛星 (MODIS) 雲頂輝度温度

モデル結果



研究課題名	国際宇宙天気研究における COE 活動			種 目	拠点
研究代表者	小原 隆博			職 名	教授
部 門	災害理学部門	分 野	宙空災害分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））					
小原 隆博（宙空災害分野・教授） 土屋 史紀（宙空災害分野・助教） 吉川 顕正（九州大学・国際宇宙天気科学研究教育センター・講師）					

期 間	2014年4月～2015年3月	経 費	800,000円		
-----	-----------------	-----	----------	--	--

【研究の概要】宇宙環境のリスク要因と、とられている対策を調査した。主なリスク要因は、放射線粒子、高温プラズマ（荷電粒子）そして原子状酸素である。これらについて、衛星の部位（表面、内部など）毎に整理して、JAXAなどの宇宙機関からの情報に基づいて、対策などを詳しく考察した。結果は、地球電磁気・地球惑星圏学会、第 回宇宙環境シンポジウムで発表すると共に、JAXA特別資料（単行本）に発表した。					
---	--	--	--	--	--

【研究の具体的な成果・波及効果】2015年3月に福岡市で開催された国連 日本合同宇宙天気ワークショップにて、得られた結果を引用しつつ、国連が世界規模で進めている宇宙天気専門家会合の報告書について、本報告書を取りまとめている共同議長の立場で発表した（現在、論文準備中）。発表では7種類のガイドラインを提案したが、本研究の成果は、これらのガイドラインに反映されている。					
--	--	--	--	--	--

【図表】					
------	--	--	--	--	--

国連宇宙天気専門家会合で議論されている「ガイドライン（案）」

ガイドライン1	加盟国と同国内及び国際機関は宇宙天気の影響を考慮して、宇宙機の設計、打上、運用を行うべき。
ガイドライン2	重要な宇宙天気データは全ての加盟国が利用できるようにすべき。
ガイドライン3	高度な宇宙天気モデルと予報ツールの開発を支援し促進すべき。 宇宙天気モデルからの結果と予報に関する情報の共有と普及を支援し促進すべき。
ガイドライン4	宇宙機の異常等 <u>宇宙天気の影響に関する情報</u> の共有と普及を支援し促進すべき。
ガイドライン5	<u>宇宙天気の影響を低減するプラクティス情報</u> の共有と普及を支援し促進すべき。
ガイドライン6	地上ベース及び宇宙ベースの観測に関する協力と連携を促進すべき。
ガイドライン7	宇宙天気の影響を理解するために、世界気象機関（WMO）を通じた教育と訓練を促進すべき。

研究課題名	広帯域太陽電波常時観測による太陽活動危険状態の研究			種目	拠点 B
研究代表者	三澤 浩昭			職名	准教授
部 門	災害理学研究部門	分野	宙空災害研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

三澤浩昭、土屋史紀、小原隆博（宙空災害）、増田 智（名古屋大学太陽地球環境研究所）、岩井一正（国立天文台野辺山太陽電波観測所）

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	796,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】 太陽からはフレア等の爆発現象にともない、広帯域の電波が放出される。本研究では、まず、広帯域太陽電波を観測可能な装置を開発し、電波による太陽活動モニターの確立を目指す。次に、太陽電波データと太陽高エネルギー粒子現象(SPE)との比較を通じて、宇宙や高空での人間活動に影響を及ぼす高エネルギー粒子現象と電波現象との関連を精査し、電波観測による太陽活動危険状態監視の可能性を探る。

【研究の具体的な成果・波及効果】 地上からの宇宙電波観測下限周波数付近の 15MHz から 150MHz 迄を観測可能な装置を開発し、本学に既存の 150～500MHz の装置と組合せて、15～500MHz での太陽活動監視を 2014 年 9 月より開始した。開始以降、小規模の(準)SPE が数回発生したが、1)発生時刻が太陽可視時刻であった場合には Type-II 型電波が受信されており、電波が SPE 発生監視に役立つ可能性があること、一方、2)Type-II 型電波が出現しても(準)SPE が発生しない場合もあり、これは SPE が発生しても粒子が地球に到達しにくい領域が発生源であったと解釈され、電波による SP 発生監視は警戒の役割であることが示唆された。

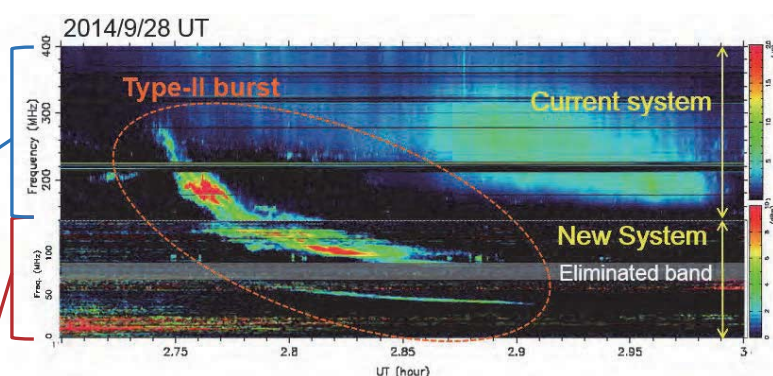
【図表】



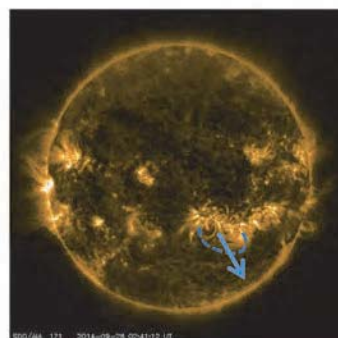
既存の 150～500MHz 電波観測装置[福島]



開発した 15～150MHz 新電波観測装置[蔵王]



上図：既存装置と新設した装置で 2014/9/28 のフレア発生時に観測された太陽 Type-II 型電波バースト。広帯域化によりバーストの全容が把握出来るようになった。



左図：上図の電波出現と同時刻帯に米国の SDO 衛星で撮像されたフレアの発生域。ループ状の磁場が矢印の方向に伝搬するコロナ質量放出が観測された。Type-II 電波はこの領域付近で発生したと考えられるが、SPE は発生せず、粒子は発生したものの地球に向かわなかった可能性が示唆される。

研究課題名	落雷電流波形の導出を目的とした低周波電磁界伝搬特性の研究			種目	拠点 B
研究代表者	土屋史紀			職名	助教
部 門	災害理学	分野	宙空災害		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

土屋史紀, 小原隆博, 三澤浩昭, 森永洋介・東北大学大学院理学研究科(宙空災害)
 本間規泰, 本郷保二, 東北電力(株)研究開発センター
 佐藤光輝, 北海道大学大学院理学研究院

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

落雷により発生する電磁波を低周波で観測すると、発生源の近傍では誘導界が卓越し、電磁波の波形は電流波形と相似となる。これを利用し、低周波(ELF 帯)電磁波観測から広範囲で発生する落雷エネルギー推定を行う。観測される電磁場波形混入する電離圏での反射成分を評価するため、観測点の多点化による落雷発生源からの距離依存性の調査と、電波伝搬の電磁界計算を開始した。

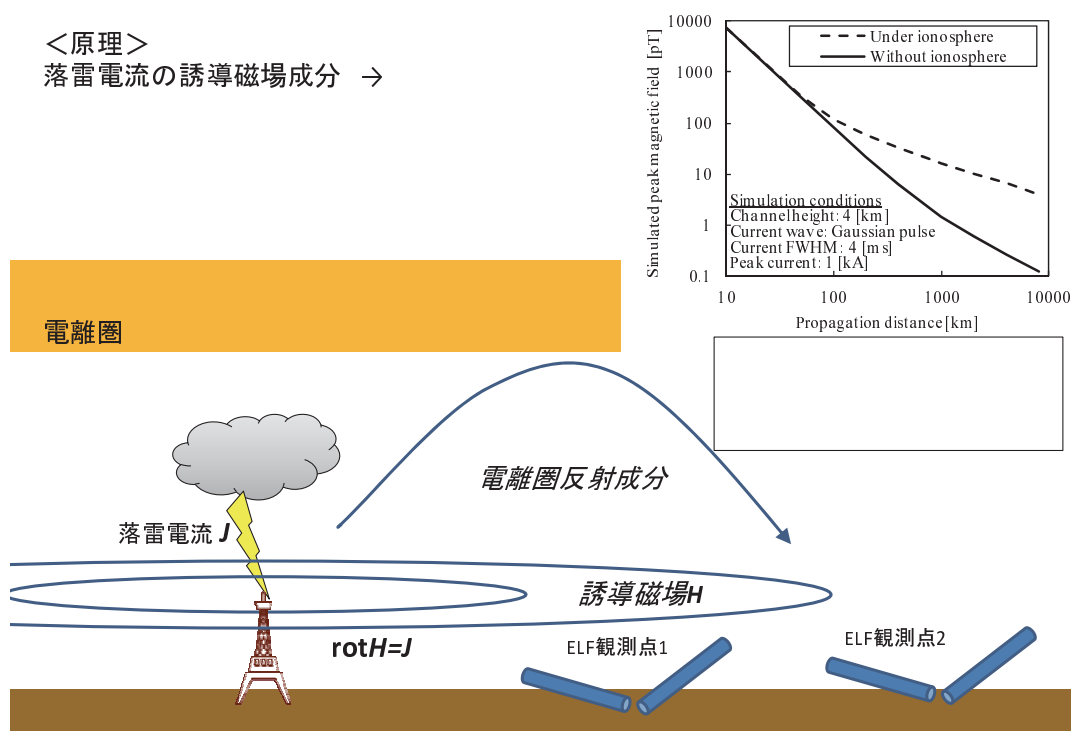
【研究の具体的な成果・波及効果】

落雷に伴い発生する電磁波の観測を国内 2 点(宮城、大分)のデータ記録システムを改良し、自動で安定に観測を継続する体制を整えるとともに、国内の多点観測を強化するため ELF 観測システム 1 式を新たに調達した。電磁界計算による電離圏反射効果の評価の結果、落雷地点からおよそ 100km を超えると、ELF 帯の波形の振幅は反射波の混入の効果で距離減衰が小さくなり、波形自身にも落雷電流の元波形にはないアンダーシュートが出現した。落雷エネルギーの評価においては電離圏反射の効果を評価する必要がある。

落雷のエネルギーの遠隔観測 → 雷害被害規模の推定

<原理>

落雷電流の誘導磁場成分 →



研究課題名	活断層端部の幾何形状と微小地震活動による地震ポテンシャル評価			種目	拠点 B
研究代表者	遠田晋次			職名	教授
部 門	災害理学研究部門	分野	国際巨大災害研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

石村大輔・丹羽雄一（災害理学研究部門国際巨大災害研究分野、助教）、岡田真介（災害理学研究部門地盤災害研究分野、助教）、片尾 浩（京都大学防災研究所、准教授）、Ross S. Stein (U.S. Geological Survey、 USA)

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

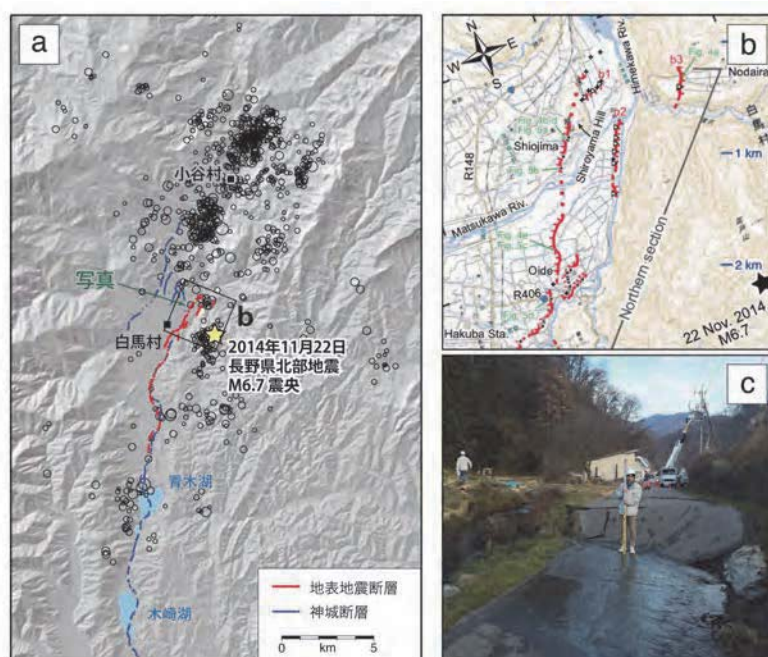
【研究の概要】

長大活断層による連動型大地震を予測するには、連動の鍵を握る断層不連続区間や断層端部の分布形態や応力、強度状態が重要となる。地形・地質学的データだけではなく、応力状態を示唆する微小地震活動等も取り入れて、将来の連動の可能性を検討する必要がある。本研究では、研究期間中に糸魚川-静岡構造線上に発生した 2014 年 11 月 22 日長野県北部地震（M6.7）を事例研究として、活断層末端部の評価を行った。

【研究の具体的な成果・波及効果】

長野県北部地震直後に現地踏査を行い、既知の糸魚川-静岡構造線神城断層沿いに地表地震断層を確認した。断層の長さは9 km、上下変位は最大 80cm におよぶ。断層北端部では分岐・並走・バックスラストなどの複雑な分布形態が認められた。分布の複雑性が動的破壊をコントロールしている可能性がある。余震はこの末端部以北に多い。断層端部の詳細事前調査によって地震規模を適確に予測できる可能性が示された。

【図表】



a) 糸魚川活断層系神城断層(青線)沿いに出現した地震断層(赤線). b) 北端部での複雑な断層分布(赤線). ケバが低下側. c) 地震断層沿いの約80cmの段差

研究課題名	東北地方太平洋岸における過去の巨大地震時の地殻変動検出の試み			種目	拠点 B
研究代表者	石村 大輔			職名	助教
部 門	災害理学研究部門	分野	国際巨大災害分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

石村大輔、遠田晋次、丹羽雄一（国際巨大災害）、宮内崇裕（千葉大学大学院理学研究科）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

三陸海岸における過去の巨大地震時の地殻変動の検出を目的として、完新世海成段丘および完新世低地上で掘削調査を行い、古環境の変化を読み取る。過去の巨大地震時における地殻変動の検出は、それら地震の破壊領域や津波波源の推定を行う上で重要な情報であり、さらには日本海溝の地震サイクルモデル構築に大きな知見を与える。

【研究の具体的な成果・波及効果】

三陸海岸北部（青森県八戸市～岩手県久慈市）では複数回、沿岸部を間欠的に隆起させるイベントがあったことが完新世海成段丘の標高とその年代から推定された。三陸海岸の中部に関しては完新世通してでは沈降傾向にあるが、その間に上下地殻変動が示唆される層準が岩手県山田町の掘削試料中に認められた。

【図表】

●岩手県山田町の結果



図 1. 掘削調査風景 左) ジオスライサーの叩き込み 右) 抜き取り試料

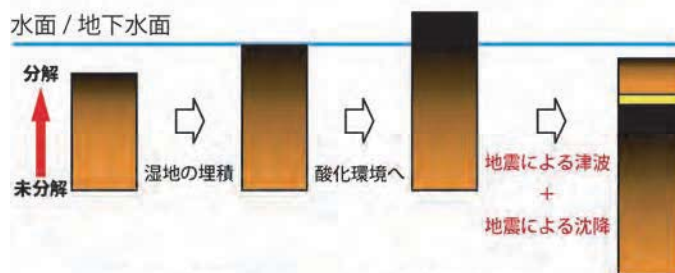


図 2. 湿地堆積物の津波堆積物とそれに伴う環境変化の模式図

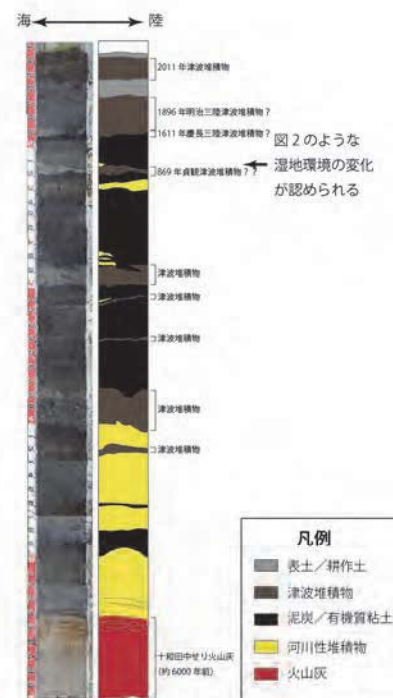


図 3. ジオスライサー試料の写真と柱状図

研究課題名	日本の医療機関における受援計画に関する調査			種目	拠点 B
研究代表者	佐々木宏之			職名	助教
部 門	災害医学研究部門	分野	災害医療国際協力学		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

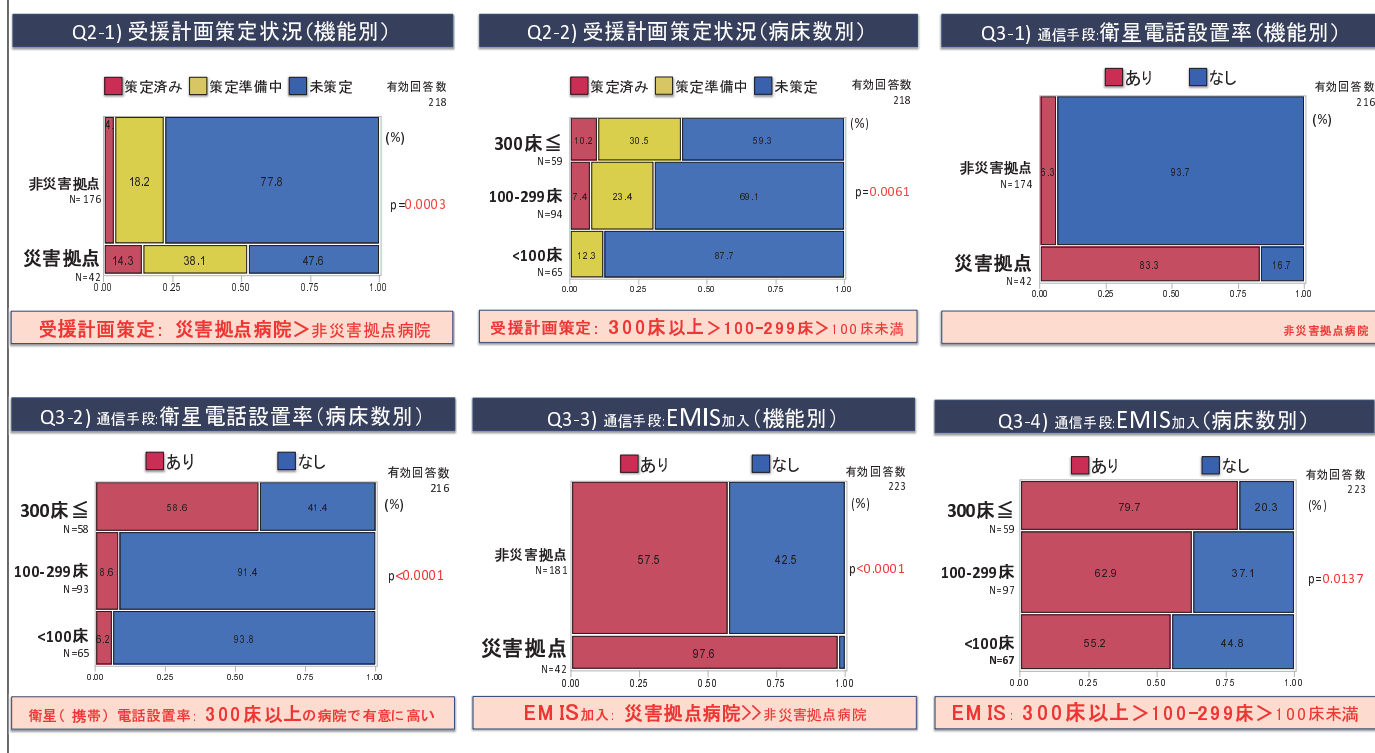
江川新一 災害医療国際協力学

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850000 円
-----	-----------------------	-----	----------

【研究の概要】平成 25 年 5 月に実施した東日本大震災被災地医療機関における受援計画に関するアンケート調査では、災害拠点病院といえども受援計画策定率は 14%にとどまった。本研究では研究対象を国内全体の医療機関に順次拡大し、受援計画策定状況調査及び受援計画策定の支援活動を行う。また得られた知見を海外の災害医療に活用できるよう、各国政府、国連関係機関、NPO 等と情報共有を図る。

【研究の具体的な成果・波及効果】平成 26 年 11-12 月に南海トラフ地震被災地域医療機関を対象とし、医療機関受援計画に関するアンケート調査を実施した。600 超の医療機関より回答を得、現在、結果を解析中である。また前回調査結果を日本集団災害医学会誌に投稿し採用（2015 年 6 月掲載予定）、さらに同結果は 2015 年 4 月に開催される第 115 回日本外科学会定期学術集会の特別企画演題として採用された。医療機関受援計画の用語は徐々に浸透し、2015 年 3 月 4 日には順天堂大学医学部で開催された研究会で同内容の講演を行った。

【図表】



研究課題名	災害関連発熱疾患の早期発見のためのバイオ・マーカー研究			種目	拠点 B
研究代表者	浩日勒			職名	助教
部 門	災害医学研究部門	分 野	災害感染症学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

浩日勒、岩崎紘子、Divya D.N.、Tareg Omer、Yue Chen（災害感染症学）、Elizabeth Telan(フィリピン・サンラザロ病院)、川瀬三雄（東北大学・医工学研究部門）、清元秀泰（東北大学メガバンク研究機構）、仁木敏朗（香川大学）、小泉信夫（国立感染症センター）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

災害の際の感染症は非特異的な症状が多く、早期診断または病態の把握が困難であり、初期対応の遅延は予後に直結する致死性のイベントへと繋がる。こちらでは災害関連発熱疾患の各種検体を用いて、Galectin-9、Osteopontinなどのタンパク測定に加え、Lumiex での解析を行うとともに、並行してプロテオミクス解析を用いた新たなマーカーの探求を行い、災害感染症の発症成因に迫るものとする。

【研究の具体的な成果・波及効果】

デング熱において、全長型のオステオポンチン(OPN)と切断型 OPN の双方を測定し、前者が急性期に、後者が回復期に上昇することを示し、OPN が免疫と凝固の活性の指標となるクロストークマーカーである可能性を示した。人獣共通感染症の早期及び鑑別診断法 (POCT)の確立及び応用で洪水の際に発症する災害感染症であるレプトスピラについて、従来の抗体測定法に加え迅速な LAMP アッセイまたは Real-time PCR で急性期のレプトスピラ遺伝子の測定が可能であることを分かった。これは尿検体でも確認できた。

【図表】

図 1

図 2

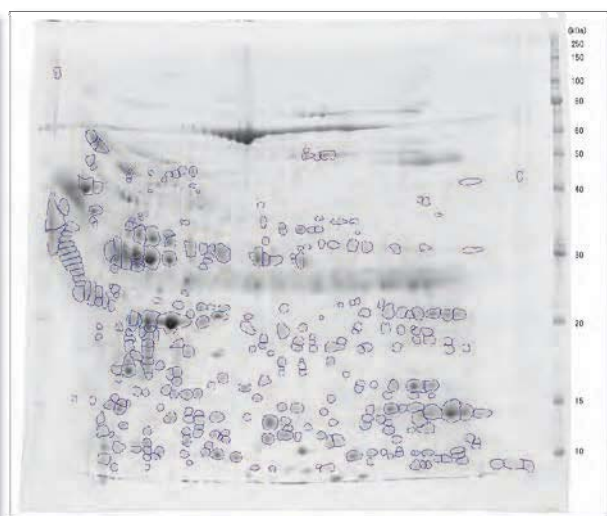
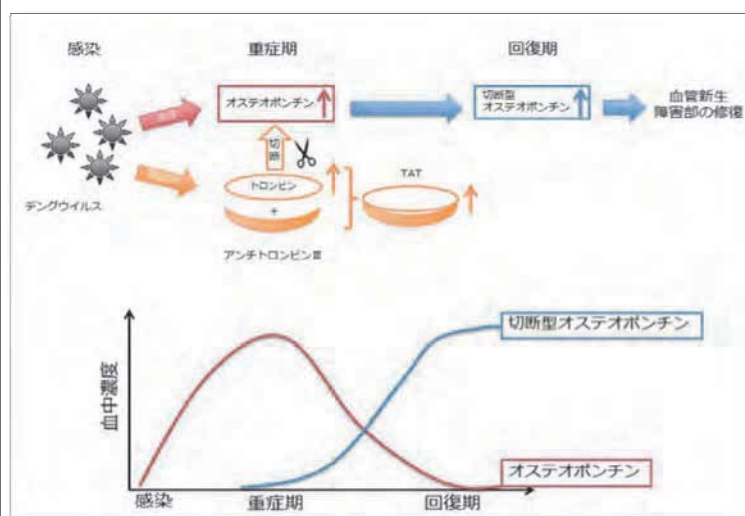


図 1：デング感染における炎症と凝固系マーカー変化の概念図

図 2：レプトスピラ患者尿検体を用いた二次元電気泳動解析による蛋白質の発現

研究課題名	災害医療時の X 線撮影のための高電圧装置に関する基礎的検討			種 目	拠点 B
研究代表者	千田 浩一			職 名	教授
部 門	災害医学研究部門	分 野	災害放射線医学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

千田浩一、稲葉洋平、小林亮太、八島幸子（災害放射線医学分野）、李昌一（神奈川歯科大学大学院）

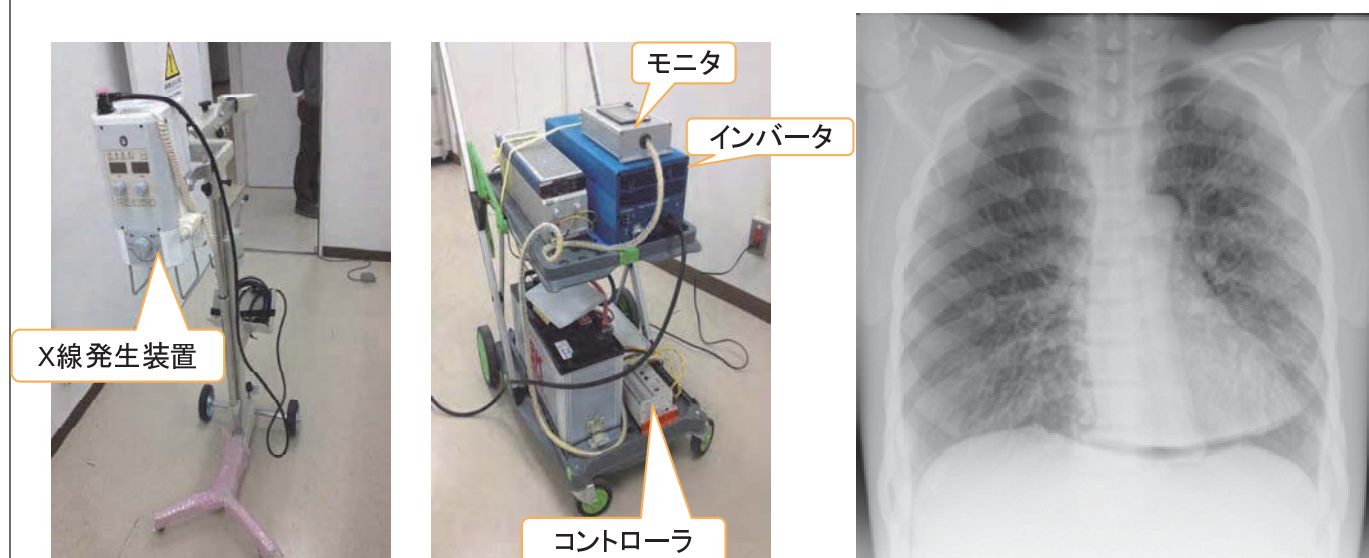
期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

災害医療現場での迅速かつ的確なトリアージの一助として、災害時 X 線撮影は大いに期待されている。しかし災害時 X 線撮影において、電源設備が損傷を受けた場合、X 線撮影が行えないことがあり、重大な課題となっている。そこで、電源設備損傷に対応するために、従来の家庭用電源に加えてバッテリーなどの多様化した電源を使用できる災害時 X 線撮影装置の高電圧装置の開発を目指す。

【研究の具体的な成果・波及効果】申請者らは、既に一般用の 100V 電源にて稼働する災害時用移動型 X 線発生装置の試作を行っている。本プロジェクト研究申請課題では、災害時電源設備損傷に対応するために、新たにバッテリーなどを用いて供給電源を多様化した災害時 X 線撮影装置の開発を行うことができた。装置外付けのバッテリー電源を開発し、胸部 X 線撮影を行うのに十分な電源供給能力があることを確認した。本成果は、ECR2014 等の一流の学会で研究発表を行わない、さらに特許出願を行うことができた。

【図表】



研究課題名	低線量・低線量率放射線被ばくによる脳梗塞・心筋梗塞発症の原因解明のための基礎的研究			種目	拠点 B
研究代表者	細井義夫			職名	教授
部 門	災害医学研究部門	分野	災害放射線医学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））					
<div>村 泰</div> <div>物</div> <div>物</div>					

	2014	4	2015	3		800,000
--	------	---	------	---	--	---------

【研究の概要】					
<p>福島原発事故を踏まえ、住民や作業員の放射線影響の軽減が急務である。放射線により心筋梗塞や脳梗塞のリスク増加が報告されており、そのリスク軽減を目的として研究を行った。培養ヒト血管内皮細胞を用いて放射線によるリスク増加の機序について研究し、心筋梗塞のリスクを増大することが報告されている非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)が放射線の影響を修飾するかどうかについて検討した。</p>					

量依存	ICAM-1		栓 形	接着因	ICAM-1	過剰	明
	ICAM-1		亢進	促進	因	NSAIDs	ICAM-1
	被ばく		亢進	明	結	服 避	被
			せ	せ	可	明	

<div>照 6 後</div> <div>ICAM-1</div> <div>亢進</div> <div>VCAM-1</div> <div>E-selectin</div>					
<div>10 Gy</div> <div>Time after irradiation</div> <div>ICAM-1</div> <div>VCAM-1</div> <div>E-selectin</div> <div>GAPDH</div> <div> <div>-</div> <div>+</div> <div>+</div> <div>+</div> <div>C</div> <div>6</div> <div>12</div> <div>24</div> </div>					

研究課題名	血液中フリーラジカル定量による低線量被曝スクリーニング法の開発			種目	拠点 B
研究代表者	稲葉 洋平			職名	助手
部 門	災害医学研究部門	分野	災害放射線医学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

稲葉洋平、千田浩一（災害放射線医学分野）、盛武敬（産業医科大学）、平山暁（筑波技術大学）

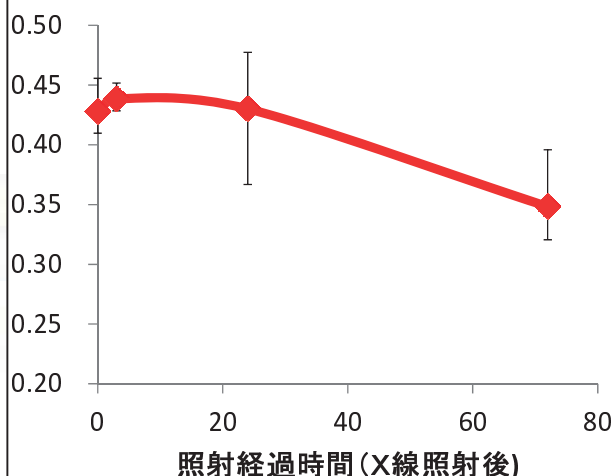
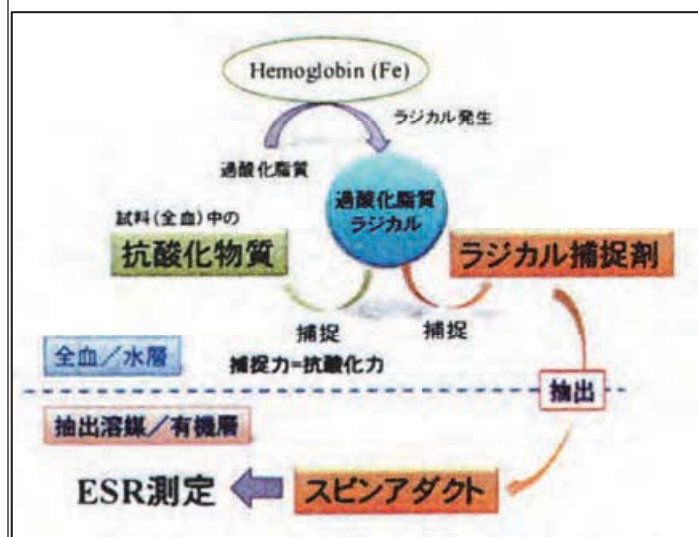
期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】原子力事故など放射線が関与する事故発生時には、多くの市民の中から直ちに治療措置が必要な被曝者の選定が必要である。しかし、大量のスクリーニングが可能なバイオドシメトリー法は存在しない。そこで本研究では、電子スピン共鳴(ESR)を利用し、血液サンプル中のフリーラジカルやラジカル消去能を総合的に定量することで、簡便に被曝をスクリーニングする今までにない新手法の開発を試みる。

【研究の具体的な成果・波及効果】X線3Gyを照射したマウスから経時的にわずか100μlの採血を行い、そのラジカル消去能の変化をi-Strap W.B.（同仁ローカル社）を用いて手法で測定した。ラジカル消去能は照射3時間後では減少傾向、照射後72時間後では増加傾向を見せた。今後、条件や検討数を増やしてより詳細に研究を進めていくことで、X線照射線量とラジカル消去能の相関から、被曝線量推定の可能性があると考えている。

【図表】 ☆i-Strap の測定原理

☆X線3Gy照射後のラジカル消去能の変化



研究課題名	免疫機能の活性化による災害ストレス関連精神疾患発症機構の研究			種目	拠点 B
研究代表者	愈志前			職名	
部 門	災害医学研究部門	分野	災害精神医学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

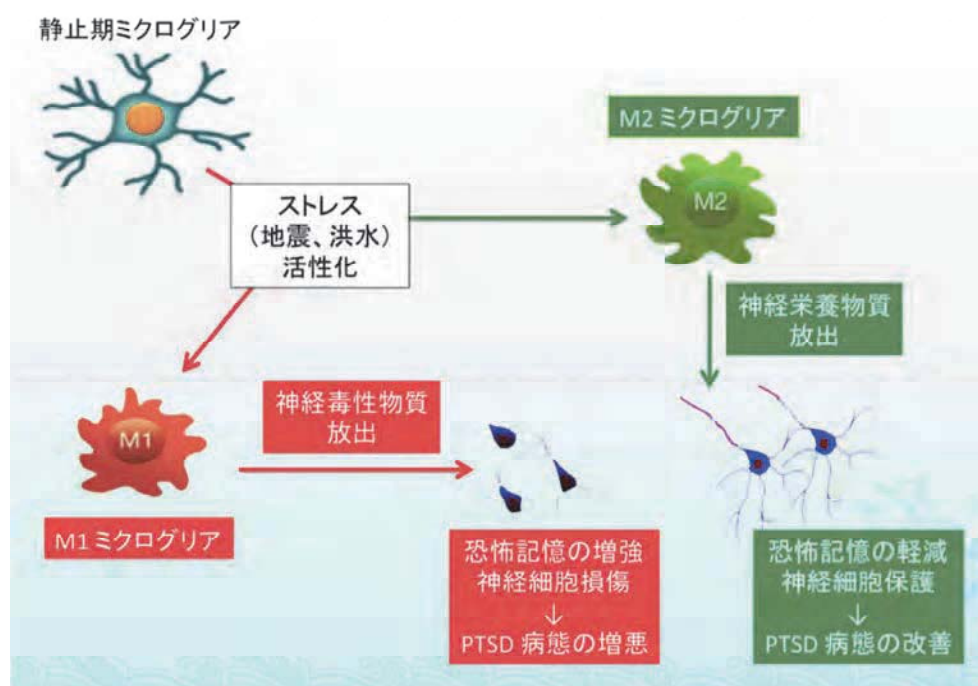
愈志前，富田博秋（災害精神医学），浩日勒（災害感染症学），喜田聡，福島穂高（東京農業大学・バイオサイエンス学科）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】心的外傷後ストレス障害（PTSD）は死に至るような事を体験することによって生じる精神障害である。恐怖記憶の消去不全が PTSD の病態モデルと考えられる。ミクログリアは中枢神経系における免疫担当細胞であり、ストレス傷害に対する免疫応答に重要な役割を果たすことが示唆されている。申請者らはミクログリアの活性化が恐怖記憶の消去を制御するメカニズムを見出すことを目的に研究を行う。

【研究の具体的な成果・波及効果】我々はマウス PTSD モデルを用いて恐怖記憶消去に伴う M1 ミクログリアの炎症性サイトカイン $\text{TNF}\alpha$ の産生の抑制および M2 ミクログリアの分化亢進が確認された。また、M1 ミクログリアの分化を抑制することによって、恐怖記憶消去の促進が確認された。さらに、恐怖記憶の消去に伴い、神経栄養因子 IGF1 および $\text{TGF}\beta 1$ の増加が確認された。本研究は、ミクログリア分化が恐怖記憶の消去に及ぼす影響を明らかにした。PTSD の病態解明や根本的な治療薬・予防法の開発に繋げる。

【図表】



研究課題名	災害ストレスによる精神神経疾患発症機序における内分泌機能解析			種目	拠点 B
研究代表者	笠原 好之			職名	助教
部 門	災害医学研究部門	分野	災害精神医学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

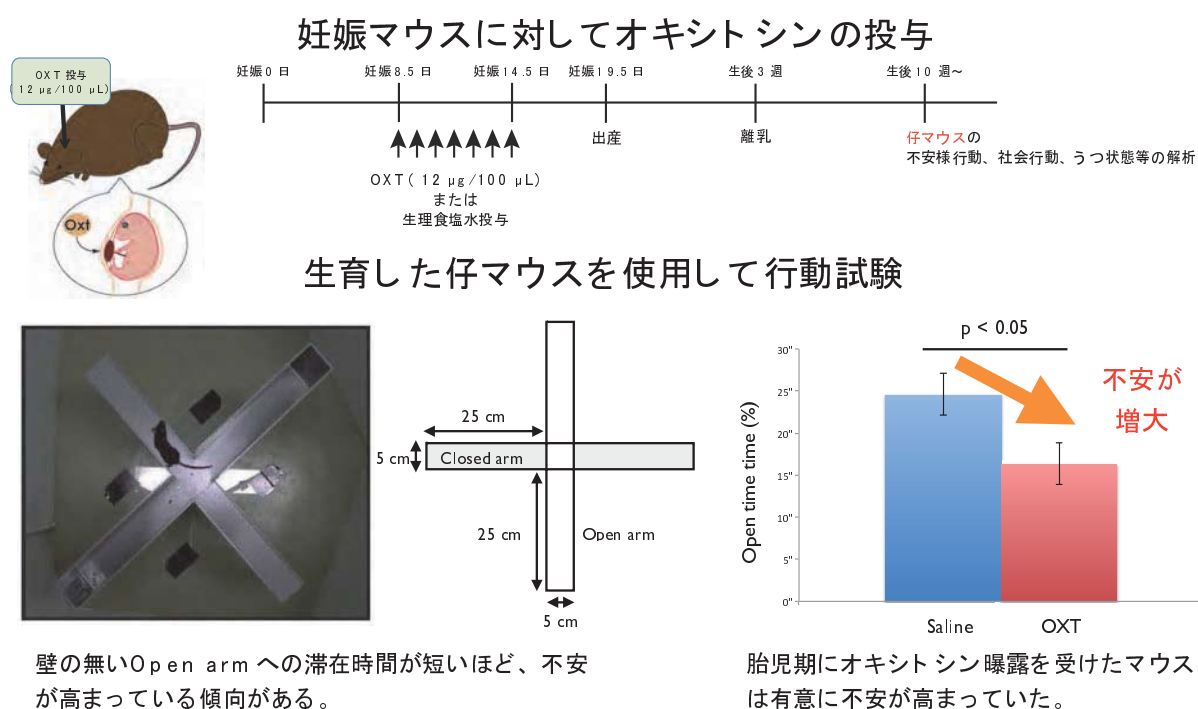
笠原好之、 富田博秋（災害精神医学）

期 間	2013 年 10 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	------------------------	-----	-----------

【研究の概要】大規模災害などによる強いストレスはうつ病や不安障害、心的外傷後ストレス障害（PTSD）などの精神神経疾患発症の引き金となり得る。胎児期に母体が受けるストレスによって惹起される内分泌応答が子の将来の精神神経疾患発症の脆弱性に繋がるのではないかと推察し、胎児期に受ける神経内分泌ホルモンのオキシトシン曝露が将来の不安行動、社会行動などに与える影響について検証を行った。

【研究の具体的な成果・波及効果】胎児の脳神経の形成時期に母体を通じてオキシトシンの曝露を受けることによって、子が生育後に不安行動が高まることを見出した。これは妊娠中に母体が受けるストレスによる内分泌応答が子の将来の精神神経疾患発症に関わる可能性を示すもので、今後はこの観点に立脚した研究・調査の必要性がある。

【図表】



研究課題名	災害ストレスによる婦人科疾患発症予測マーカーの確立			種目	拠点 B
研究代表者	三木 康宏			職名	講師
部 門	医学研究部門	分野	災害産婦人科学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

三木康宏、伊藤 潔（災害産婦人科学分野）、五十嵐勝秀（国立医薬品食品衛生研究所）、種村健太郎（東北大学大学院農学研究科）、鈴木 貴、高木清司（東北大学大学院医学系研究科）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

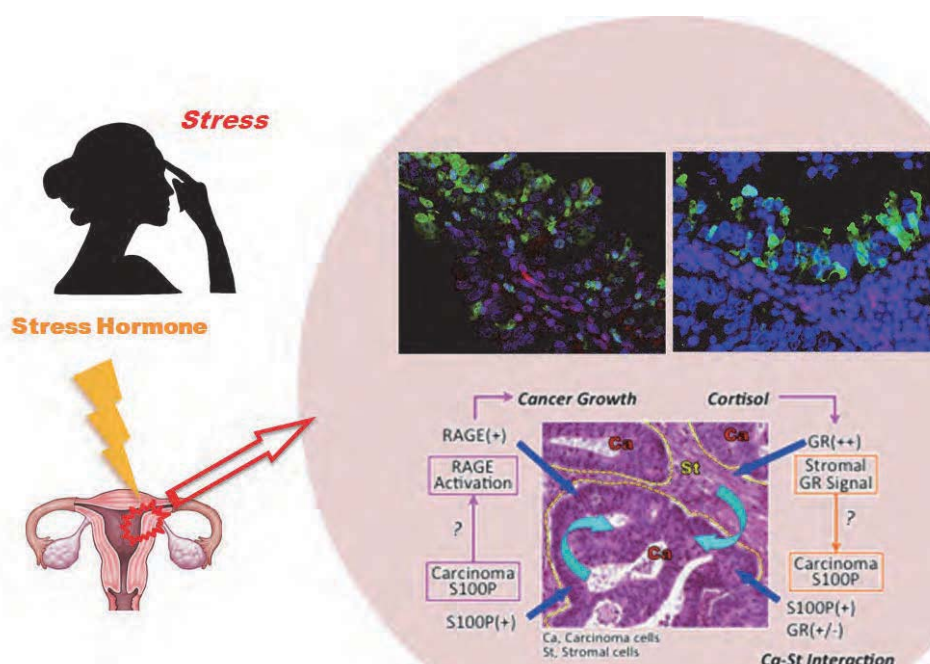
【研究の概要】

震災とその後の環境変化によるストレスは、長期にわたって身体に影響をおよぼすと考えられる。これまでの我々の研究では、ストレスホルモンであるコルチゾールが子宮組織に蓄積することを明らかにしてきた。今回コルチゾールの分子メカニズムとして、新たに S100P タンパクを誘導し、RAGE を介して細胞増殖などに関わっていることを明らかにした。

【研究の具体的な成果・波及効果】

代表的なストレスホルモンであるコルチゾールについて、子宮内膜癌に及ぼす分子メカニズムを検討した。コルチゾールは S100P タンパクの発現を誘導することを培養細胞で、コルチゾールシグナルと S100P の発現が相関することをヒト組織でそれぞれ確認した。S100P が RAGE を活性化させることで細胞増殖などを引き起こす可能性を見出した。本研究から、震災ストレス等によって分泌されるコルチゾールの女性生殖器へ影響を予測するバイオマーカーとして、今後さらに S100P 機能を明らかにしていきたい。

【図表】



子宮内膜癌における S100P (緑) とコルチゾール受容体 (赤) の発現 (青は細胞の核を示す)

コルチゾールはその受容体 (GR) を介して S100P の発現を誘導し、S100P は RAGE に結合する。結果、RAGE の下流にある増殖シグナルが活性化され则认为られる

研究課題名	被災地における国際標準化された災害時分娩取り扱い教育プログラムの展開			種目	拠点 B
研究代表者	齋藤 昌利			職名	助教
部 門					

	2014	4	2015	3		850,000
--	------	---	------	---	--	---------

【研究の概要】先の東日本大震災において災害弱者である妊産婦は医療アクセスが途絶した結果、極めて危険な状況下におかれた。このプロジェクトは妊娠分娩を守るために、分娩に携わる可能性のある幅広い職種に対し、国際標準化された分娩取り扱い教育プログラムを展開し、その教育効果を検証する。これらによって、被災地再生の礎となる妊娠分娩を庇護し、明るく希望に満ちた地域社会の復興を具現化する。

	2014	8	
44			

ALS0 - Advanced Life Support in Obstetrics

医師が、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を
発展・維持するための教育コース

BLS0 - Basic Life Support in Obstetrics

産科救急基礎コースとなるトレーニングコース
病院前の産科救急的対処を主とし、特に産科救急に突然遭遇
する可能性がある救急医、救急救命士などが対象のコース。

座学

実技

研究課題名	仮設住宅に住む小児アトピー性皮膚炎増加の原因解明			種目	拠点 B
研究代表者	栗山 進一			職名	教授
部 門	災害医学研究部門	分野	災害公衆衛生学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

相場節也、小澤麻紀（東北大学大学院 医学系研究科 皮膚科学分野）
 菊谷昌浩、目時弘仁、小原拓、石黒真美、佐藤ゆき、宮下真子、山中千鶴（東北メディカル・メガバンク機構）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】東日本大震災後、宮城県沿岸部に居住している小中学生では内陸部に居住している小中学生と比較してアトピー性皮膚炎の有症率が高いことが報告されている。特に仮設住宅に居住している小中学生ではアトピー性皮膚炎の所見が認められた割合は32%であり、仮設住宅以外に居住している小中学生より11%も高かった。本研究では、仮設住宅でアトピー性皮膚炎が増加している原因を検討することを目的とする。

【研究の具体的な成果・波及効果】小児のいる仮設住宅1軒、仮設以外の住宅7軒で調査にご協力いただき、調査票調査の実施及び寝室の空中真菌数、ダニ粗抗原量、総揮発性有機化合物（TVOC）濃度を測定した。仮設住宅では、真菌数が全世帯中2番目に高い数値を検出した。住宅の種類に関わらずカーペットや布団ではダニ粗抗原が多く検出された。TVOC 濃度は測定機器の不備により測定できなかった。参加世帯には結果の回付とともに皮膚トラブルを予防するパンフレットを配布し、子どものQOL向上に努めた。

【図表】

世帯		真菌数 [cfu/L]	ダニ粗抗原 量判定*1	過去1年間における 小児のアトピー性 皮膚炎症状の有無
仮設住宅		0.14	++ (カーペット)	児①：－ 児②：－
仮設以外の住宅	①	0.00	++ (カーペット)	児①：+ (既往歴有) 児②：－
	②	0.00	++ (カーペット)	
	③	0.03	－ (フローリング)	児①：－ 児②：－
	④	0.18	+－ (ベッド)	児①：－ (既往歴有) 児②：+ (既往歴有)
	⑤	0.08	++ (布団)	児①：－
	⑥	0.00	+－ (布団)	児①：－ 児②：－
	⑦	0.13	－ (畳)	児①：－ 児②：－

*1：ダニ粗抗原量目安

++ (>35µg)

+ (10µg)

+－ (5µg)

－ (<1µg)

※「リオンテック株式会社マイティチェッカー」使用

研究課題名	モバイル端末からの患者画像情報転送システムの開発			種目	拠点 B
研究代表者	中山 雅晴			職名	教授
部 門	災害医学研究部門	分野	災害医療情報学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

井上 隆輔（東北大学病院 メディカル IT センター）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

本研究において、必要な患者情報と画像の紐付けを行い、サーバーはじめ任意にデータ転送するアプリケーションを開発した。用途としては、災害時における被災者とトリアージタグの紐付け、外傷の記録などを簡易に記録することを目的としている。災害時においては、ネットワークインフラが十分でないことも多々あるため、2014年度は衛星回線との接続により通信網の確保まで含めた環境構築を行った。

【研究の具体的な成果・波及効果】

マスタ設定により、バーコードや手入力による患者リスト化、紐付けるべきデータ種別の設定やデータ名称などが容易に設定可能である。本アプリケーションによりモバイル端末で撮影した画像情報を医療関係者間で簡便に共有することができ、応用は災害時のみならず通常でも使用可能なソフトである。リストは暗号化され、本ソフトを利用したもののみが可視化できる。また、本年度は情報通信網が不十分な際でも対応できるよう衛星電話との接続を担保した。

【図表】

アプリケーション Medical Report



研究課題名	「地域包括ケアシステム」による災害対応地域コミュニティの構築			種目	拠点 B
研究代表者	小坂 健			職名	教授
部 門	災害医学部門	分野	災害口腔科学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

長 純一・石巻市地域包括ケアセンター 所長

池田昌弘・NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター理事長

植田信策・石巻日赤病院健診部長

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

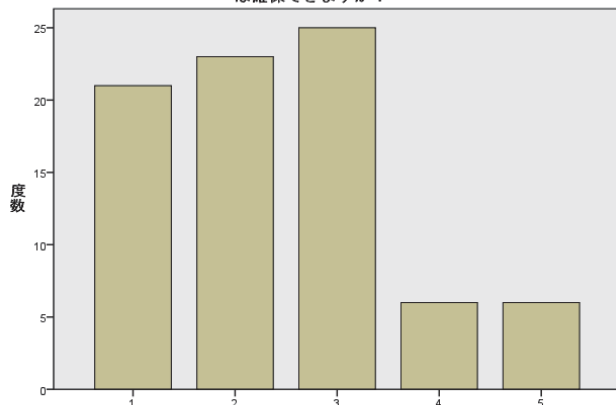
宮城県内の仮設住宅の健康調査の解析を実施し、地域差やソーシャルサポートの影響などを調べると共に、県内の地域包括支援センターを対象として、地域包括ケアの現状や災害対応について調査を行った。宮城県内の地域包括支援センター118カ所のうち85カ所から回答が得られた（回答率73%）。

【研究の具体的な成果・波及効果】

被災地の避難者の健康状況を明らかとなり、県庁のウェブサイトの詳細な報告書が掲載されるとともに、支援政策に大きな影響を与えた。地域包括の調査からは、医療や介護の連携は進んできたが、小中学校、スーパーや金融機関、消防、警察と行った保健以外のセクターの地域資源との連携はまだ進んでおらず今後の課題となっている。地域ケア会議などは実施されている。地域包括ケアシステムによる防災対応は肯定的な意見が多かった。

【図表】神経難病等医療ニーズが高い者の避難先の確保

Q17災害時に神経難病など医療ニーズが高い、要援護者の避難先（電源確保等）は確保できますか？



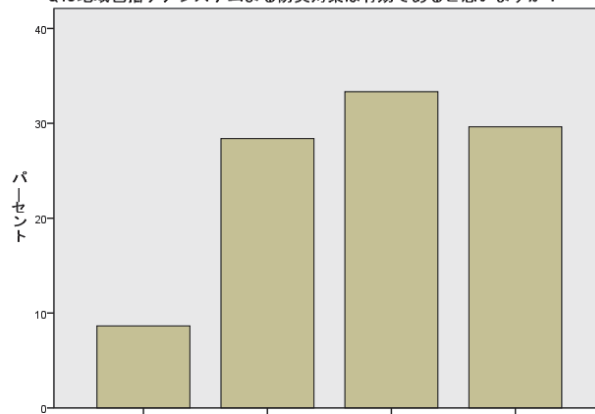
Q17災害時に神経難病など医療ニーズが高い、要援護者の避難先（電源確保等）は確保できますか？

平均2.42 SD=1.17

χ^2 乗検定	P値
1都市部とそれ以外	0.03*
2被災地区とそれ以外	0.91

地域包括ケアシステムによる防災対策は有効か？

Q19地域包括ケアシステムによる防災対策は有効であると思いますか？



Q19地域包括ケアシステムによる防災対策は有効であると思いますか？

平均3.84 SD=0.96

χ^2 乗検定	P値
1都市部とそれ以外	0.94
2被災地区とそれ以外	0.08

研究課題名	災害の記憶・記録に関する拠点間の連携を通じた災害アーカイブ学の探求			種目	拠点 B
研究代表者	佐藤 翔輔			職名	助教
部 門					

佐藤翔輔、今村文彦、柴山明寛（災害アーカイブ研究分野）、マリ・エリザベス（防災社会国際比較研究分野）
 平川新（宮城学院女子大学）、阿部恒之（東北大学大学院文学研究科）、林勲男（国立民族学博物館）、阪本真由美（名古屋大学減災連携研究センター）、宇田川真之、渡邊敬逸（人と防災未来センター）、山崎麻里子（長岡アーカイブセンター）

	2013	4	2015	3		850,000
--	------	---	------	---	--	---------

【研究の概要】

本研究は、災害の記録・記憶やアーカイブを取り巻く「学問化」を目指すために、東日本大震災に限らず、これまで設立されてきた様々な災害に関する記憶・記録に関する拠点間（ミュージアム、資料館、アーカイブ等）における交流と連携によって、以上を取り巻く収集・保管・活用に関する調査および整理を行い、災害アーカイブ学の構築について探索した。

27



藤 ， 2015，印刷

研究課題名	復興教育モデルの高度化と地域版復興情報共有プラットフォームの構築		種目	拠点 B
研究代表者	佐藤 健	職名	教授	
部 門	情報管理・社会連携部門	分野	災害復興実践学分野	

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

佐藤 健、桜井愛子、徳山英理子（災害復興実践学）、柴山明寛（災害アーカイブ）、小川和久（東北工業大学教職課程センター）、村山良之（山形大学大学院教育実践研究科）、長 幾朗（早稲田大学大学院国際情報通信研究科）、藤岡達也（滋賀大学教育学部）、片桐知彦（仙台市立長町中学校）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

東日本大震災で津波被災を受けた石巻市立鹿妻小学校において展開されている「災害復興教育モデル」の高度化に取り組んだ。また、継続的な実践によって蓄積された地域に根差した復興情報を「地域版復興情報共有プラットフォーム」に実装するための基本検討を行った。さらに、防災教育フォーラムの開催などを通して、防災教育や復興教育に関係する研究者や実践者による議論を深化させた。

【研究の具体的な成果・波及効果】

石巻市立鹿妻小学校での3年間にわたる「災害復興教育モデル」の実践により、地域に根差した復興情報を蓄積することができた。また、開発モデルの実践研究成果は、石巻市内の渡波小学校や湊小学校における教育実践に波及した。さらに、「防災フォーラム in 長町」や「防災教育に関する情報交流セミナー」を主催することにより、東日本大震災の被災地の学校における復興教育や防災教育の実践上の現状と課題を共有することができた。

【図表】



「地域版復興情報共有プラットフォーム」の構築イメージ

鹿妻小学校での災害復興教育モデルの実践



防災フォーラム in 長町「防災教育と地域連携」¹⁾

防災教育に関する情報交流セミナー²⁾

1) http://irides.tohoku.ac.jp/media/files/_u/topic/file1/20140805_report.pdf

2) http://irides.tohoku.ac.jp/media/files/_u/topic/file1/20150105_report.pdf

研究課題名	L1 津波防御とまちづくりの調整に関する実践的調査			種目	拠点 B
研究代表者	平野勝也			職名	准教授
部 門	情報管理・社会連携部門	分野	災害復興実践学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

平野勝也、小林徹平（災害復興実践学分野）

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

被災地の復興まちづくりにおいては、今回整備される L1 防潮堤が大きな問題の一つとなっている。防災面から必要なものが、まちづくり面では不要どころか障害物になりかねない。こうした防潮堤整備に関し、岩手、宮城の各地では、実践的にどのような調整が行われたのか、調査・整理することを通じて、今後の津波に対する防災まちづくりに資する知見を得るものである。

【研究の具体的な成果・波及効果】

反対運動などの調査から、キーとなる課題を抽出した。具体的には、防災・生業・持続可能性・歴史であり、その観点から、コンフリクトを統一的に解釈した。また、防潮堤の高さ決定に関わる問題についても論考を深め、その成果は土木学会海岸工学委員会・土木計画学委員会共催の減災アセスメント小委員会の議論に展開し、土木学会提言を目指してよりコンフリクトが小さく、効果的な方法論を目指して議論が進められている。

【図表】

石巻市雄勝地区でコンフリクト解決のために作成した防潮堤案



研究課題名	地域の記録・継承の研究及び実践活動			種目	拠点 B
研究代表者	小林 徹平			職名	助手
部 門	情報管理・社会連携部門	分野	災害復興実践学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

小林 徹平、平野勝也(災害復興実践学分野、土岐文乃(東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻)

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,0000 円
-----	-----------------------	-----	------------

【研究の概要】東日本大震災の被災地では、いかにして地域の記憶を継承するかが大きな課題である。本研究では、「まちの記憶の継承」－街区構成や街並要素を新たな住宅団地へ導入する方法－と、「くらしの記憶の継承」－地域独自の暮らし方や地域資源を新たな住宅団地に活かす方法－の2つの側面から研究を行い、今後起こりうる自然災害からの復興において、地域の記憶を継承する方法の一端を示すことを目的とする。

【研究の具体的な成果・波及効果】今まで携わってきた高台移転や防潮堤事業などに関する課題と成果に関する基礎資料を作成した。また、実務面では、地域の記憶や復興事業に関する情報発信を行う施設のコンセプトの立案・実務におけるプロジェクトマネージャや、外部支援者(アートディレクター・ランドスケープデザイナー)との協働から地域資源を活かした地場産材のリーフレットや、記憶を継承する地域像の計画案を作成し、計画案と関連する行政主体で進められている防潮堤の形態や低平地の土地利用などに関して、産官学で連携し進めている。

【図表】 情報発信施設



防潮堤代替案



地域資源を活かした地域持続性の検討・成果リーフレット



研究課題名	地域社会における生業活動の変遷と災害からの復興			種目	拠点 B
研究代表者	池田 菜穂			職名	助教

	2013	4	2015	3		850,000
--	------	---	------	---	--	---------



()

研究課題名	先進的な統計手法を用いた 2011 年東北津波の被害関数構築とその応用アプリケーションの作成			種目	拠点 B
研究代表者	サッパシー・アナワット			職名	准教授
部 門	寄附研究部門	分野	地震津波リスク評価（東京海上日動）		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

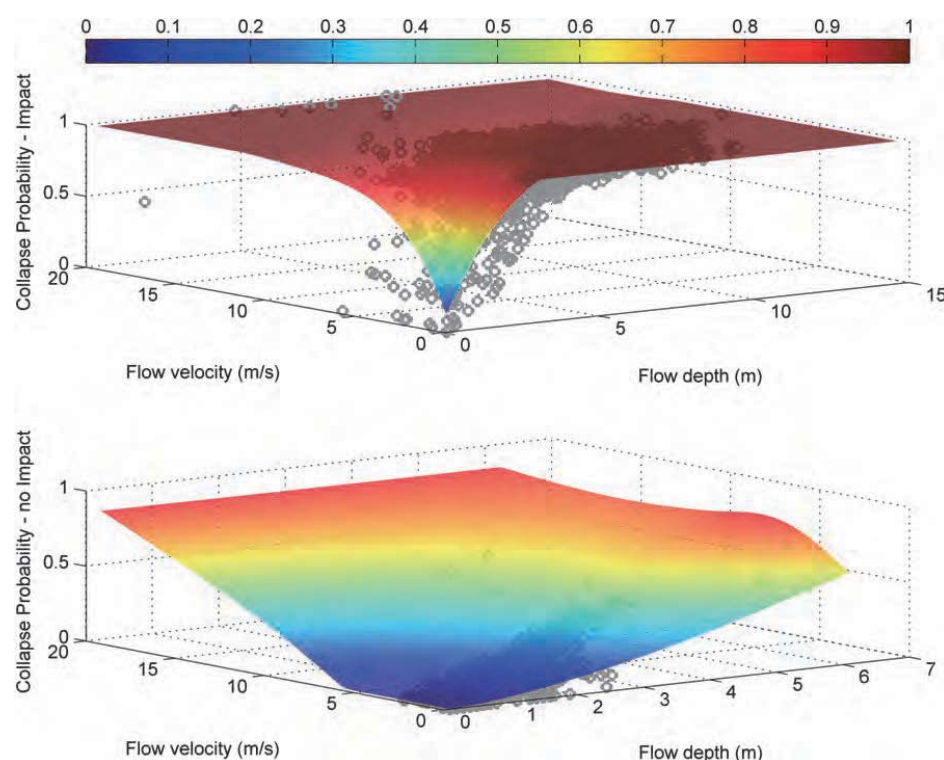
今村文彦、サッパシーアナワット福谷陽、安倍祥、保田真理（地震津波リスク評価（東京海上日動） 寄附研究部門）、Tiziana Rossetto、Ingrid Charvet（ロンドン大学）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】 東北地方太平洋沖地震津波における各自治体の被災データに基づいて、最先端の統計学技術を利用する事によって、より高い精度の津波被害関数を構築する。被災データは建物毎にある津波浸水深、建物の構造、階数など又は漁船の構造、トン数等を使用する。更には、津波数値解析による津波流速、漂流物の影響、被災メカニズム等を考察する。被害関数を解析するには、高い精度の統計方法を適用する。

【研究の具体的な成果・波及効果】 東北地方太平洋沖地震津波における津波による建物被害データ（構造・階数・海岸地形）と漁船被害データ（トン数・船質・海岸地形）を利用し、津波被害関数を構築した。構築した被害関数は、損害保険会社や防災対策などに活用されている。今後の津波リスク評価、避難施設設計、復興計画等に貢献する。研究成果を一般に広く活用してもらう目的で、スマートフォンやタブレット等のアプリケーションを開発している最中である。

【図表】



2011 年東北地方太平洋沖地震津波による建物 fragility・サーフェス（浸水深と流速・気仙沼市被害データ使用）。

上の図は漂流物効果を考慮した場合、下の図は漂流物効果を考慮しなかった場合。

研究課題名	地域特性と避難課題に対応した津波避難プログラムの構築と実践			種目	拠点 B
研究代表者	安倍 祥			職名	助手
部 門	寄附研究部門	分野	地震津波リスク評価（東京海上日動） 寄附研究部門		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

今村文彦，保田真理（津波工学），サッパシー・アナワット，福谷陽（地震津波リスク評価寄附）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】 ごく限られた時間に緊急的な避難行動をとらなければならない津波避難対策を地域において具体化し多様な避難課題を克服していくために、平時における備えのための地域防災の取り組みの方法を津波避難プログラムとして提案する。今年度は、地域ごとの特性に応じた津波避難計画の検討手法や、さまざまな状況・対象者に対応した避難訓練の実施手法を構築・提案しながら、各地でその実践と検証に取り組んだ。

【研究の具体的な成果・波及効果】 ①地域ごとの津波避難計画を住民参加のもとで検討・具体化するため、自治体の防災担当部局と連携して避難計画検討のワークショップ手法、そのための情報やツール類を整理し実践手法を構築した。その手法は、宮城県気仙沼市ならびに仙台市において自走的に展開されている。②高台のない平野部、来訪者の多い観光地や商業施設など、地域課題を踏まえた津波避難訓練手法を検討・構築し、避難訓練を企画・実践して、訓練を通じて得られた体験やデータに基づいて避難行動の実現性を検証した。

【図表】

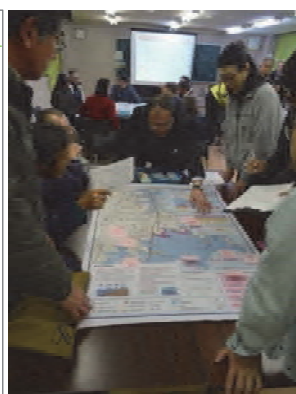
地域ごとの津波避難計画を検討するワークショップの実践

3～4回の連続ワークショップによる取組例

- ① 震災当時の避難方法や避難経路の聞き取り、情報共有
- ② 現時点の津波避難マップの検討
（避難場所、避難経路、地域独自の避難場所、など）
- ③ 地域における避難ルールの検討
 - 津波警報の伝達・入手方法
 - 避難目標地点までの「避難の目標時間」
 - 地域での声がけルール
 - 非常持出品の準備
 - 車による避難のルール
 - 避難場所周辺での車の駐車方法
 - 避難行動要支援者の支援方法 など
- ④ タウンウォッチング（まちあるき）による避難経路の確認、津波避難マップの内容再検討



気仙沼市における地域の津波避難計画検討
ワークショップ手法



ワークショップ実践事例
（宮城県気仙沼市）



観光客も対象とした津波避難・避難誘導
訓練実践事例（福島県いわき市）



大規模小売店を対象とした津波避難・避難誘導
訓練実践事例（岩手県陸前高田市）

研究課題名	不確実性を考慮した確率論的津波リスク評価に関する研究			種目	拠点 B
研究代表者	福谷 陽			職名	助手
部 門	寄附研究部門	分野	地震津波リスク評価（東京海上日動） 寄附研究部門		

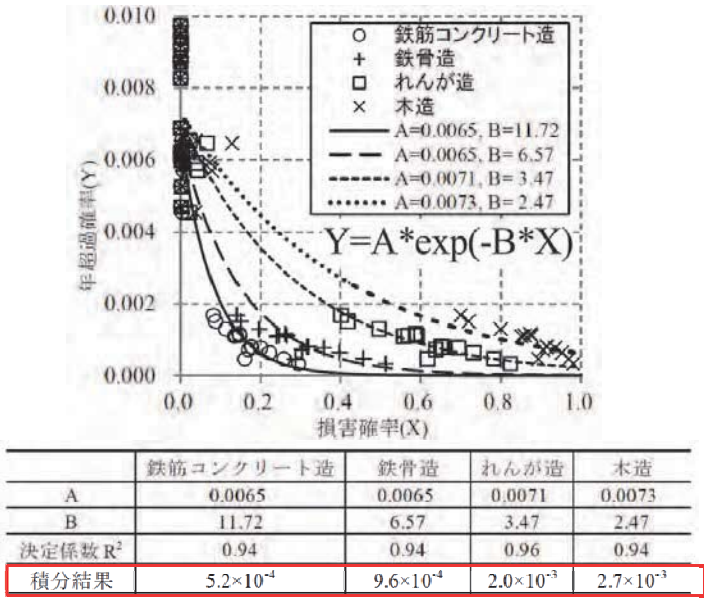
研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））
今村文彦、サッパシー・アナワット、安倍祥、福谷陽（地震津波リスク評価（東京海上日動） 寄附研究部門）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

<p>【研究の概要】</p> <p>本研究では、東北地方太平洋沖地震の知見を反映させた確率論的津波ハザードに関する研究成果を基に、東北地方太平洋沖地震の被害データを用いて評価された津波の脆弱性に関する研究成果を融合させることで、確率論的に津波リスクを評価することを目的とする。また、津波ハザード評価に包含される不確実性を可視化することで、不確実性を視覚的に伝達する手段を提案する。</p>
--

<p>【研究の具体的な成果・波及効果】</p> <p>研究成果は大きく分けて2つある。まず、昨年の成果である再現期間毎の津波遡上領域の評価結果と、津波脆弱性を融合させ、津波リスクカーブを評価し、津波リスクを定量化した。定量化した津波リスク指標を用いて、津波リスクを客観的に比較・検討することが可能となる。また、津波ハザード評価に包含される不確実性を津波ハザードマップ上に可視化し、評価の不確実性を視覚的に伝達する手段を提案した。</p>
--

【図表】



	鉄筋コンクリート造	鉄骨造	れんが造	木造
A	0.0065	0.0065	0.0071	0.0073
B	11.72	6.57	3.47	2.47
決定係数 R ²	0.94	0.94	0.96	0.94
積分結果	5.2×10 ⁻⁴	9.6×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻³	2.7×10 ⁻³

津波リスクの定量化(積分値)

図 1 津波リスクカーブと津波リスクの定量化

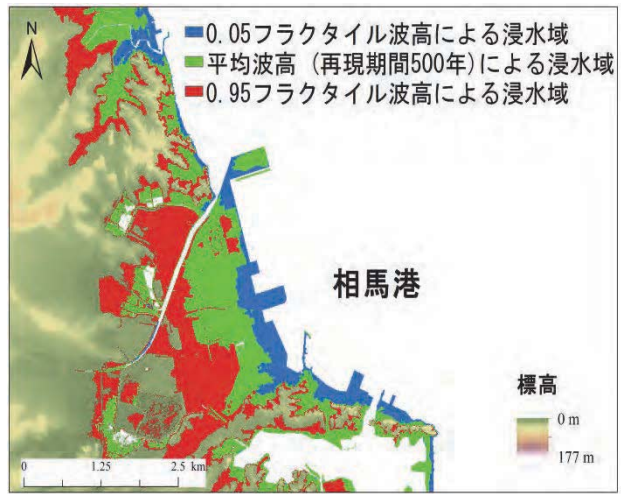


図 2 評価の不確実性を陽に表現した
津波ハザードマップ

研究課題名	モンゴル国におけるリアルタイム地震防災システム構築の技術支援			種目	拠点 B
研究代表者	源栄正人			職名	教授
部 門	災害リスク研究部門	分野	地域地震災害研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

大野晋,王欣・東北大学災害科学国際研究所（地域地震災害研究分野）
Dembrel Sodomsanbuu,（モンゴル科学アカデミー・天文地球物理研究所）
Tsamba Tsoggerel（モンゴル科学技術大学・土木建築学部（2015 年 2 月より））

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

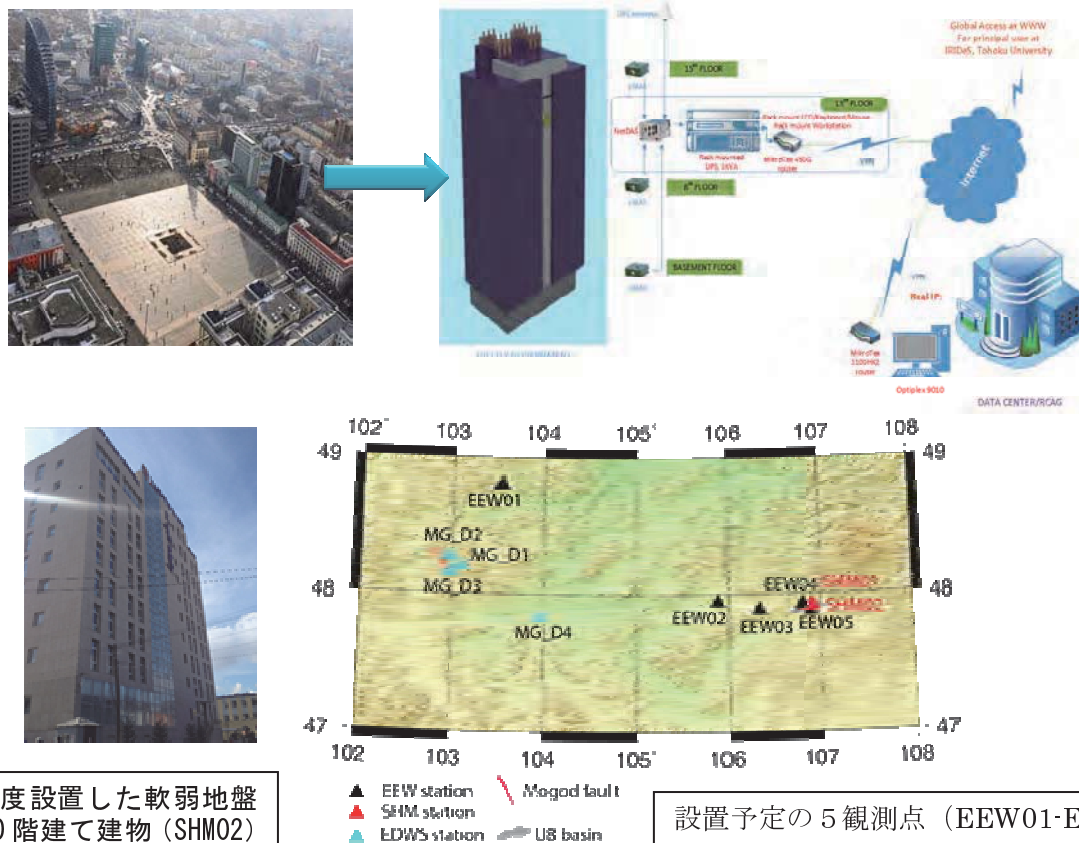
【研究の概要】

発展途上国であるモンゴル国ウランバートル市(U B 市)の地震災害軽減のための防災技術支援として、研究代表者らは、リアルタイム地震観測装置を現地に設置して、ウランバートル市を対象とした早期地震警報システムや重要建物の構造ヘルスマonitoringに供するための研究活動をモンゴル科学アカデミーおよびモンゴル科学技術大学共同で行う。

【研究の具体的な成果・波及効果】

周辺の高地震地帯からの伝播経路にあたる公共施設 5 点（3ch+GPS）と U B 市内の公共施設に構造ヘルスマonitoringを兼ねた観測装置（9ch+GPS）（別途予算措置された設備）を輸出し、逐次設置を始めるとともに、防災上最重要施設の一つである U B 市庁舎に設置したリアルタイム地震観測を行っている。観測データの分析に建物の振動特性の分析や地震防災教育への活用や技術支援による社会貢献、国際貢献が期待できる。

【図表】



研究課題名	低頻度極大地震動と長周期長継続時間地震動に対する都市・建築の高耐震化			種目	拠点 B
研究代表者	幸樹				

幸樹，張瑞甫，趙晨					
外	コ	チ	ッ	Richard Christenson,	ド Brian Phillips
工業	堀	則男，	院工	池永昌容	

	2014	4	2015	3	800,000
--	------	---	------	---	---------

【研究の概要】

低頻度極大地震動や長周期長時間地震動に対する免震構造物の過大変形抑制を目的とした振動制御法についての研究を展開した。具体的には既往のエネルギー消費デバイスでは得られなかった振動制御効果を得ることを目的として、回転慣性質量と粘性要素及びバネ要素の最適な組み合わせ及び特性値をメタ・ヒューリスティクスにより探索した。

主	新	ダ	ナ	ッ	マ	増幅	見	け)
持		手	多	化	間	定式化	実数	数	
多	遺	ズ	実	ま	規模実験		ハ	ブ	
ッド	レ	ヨ	化	向け	検討	今後			

多

遺

ズ

(MOGA)

見掛け

ダ

パ

付

パレ

解

oil damper

実

解

見

だ

来

.

実

数百倍

見掛け

増幅

革新

ダ

ナ

ッ

マ

ダ

パ

実

試

験

研究課題名	情報伝播と主観的幸福度に基づく復興戦略分析			種目	拠点 B
研究代表者	馬奈木俊介			職名	准教授
部 門	人間・社会対応研究部門	分野	防災社会システム研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

馬奈木俊介(所内) 防災社会システム研究分野

今村文彦(所内) 津波工学研究分野

堀江進也, 松本祐介, 観山恵理, Yang Jue: 東北大学大学院環境科学研究科

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800000 円
-----	-----------------------	-----	----------

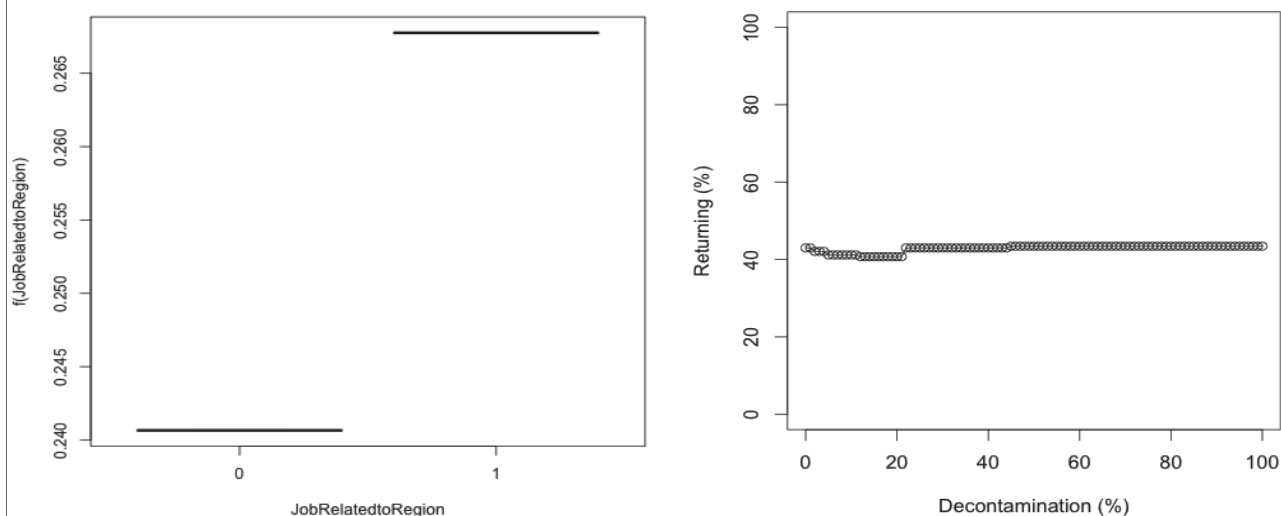
【研究の概要】

本研究は、情報伝播と個々人の災害後の意思決定との関係を考察するものである。地方間での移住を決定づける要素を、主観的幸福度のデータから考察する。これは、福島原発事故による長期的悪影響に当てはまり、地域の持続可能性を決定づける人口移動のインセンティブ設計にきわめて重要なものである。このような視点から包括的に、情報伝播のパターンと実経済を結びつける。

【研究の具体的な成果・波及効果】

逆向きの移住（一度移住した後にもとの居住地に戻る）という観点から、原子力発電所事故以降の、福島県における帰還行動とその要因について、独自のサーベイデータに基づき、マシン・ラーニングを用いた研究を行った。この結果、放射性物質の分布に関する情報は帰還確率を下げる要因の中で主要なものであるが、一定水準を上回る除染よりも、帰還先の主要産業(農林水産業)の復興が優先されることが分かった。

【図表】



(注：縦軸は帰還確率)

研究課題名	Post Disaster Housing Relocation and Land Use Planning: An International Comparison of Tohoku after the Great East Japan Earthquake and the U.S.A. after Hurricane Sandy			種目	拠点 B
研究代表者	マリ エリザベス			職名	助教
部 門	人間・社会対応研究部門	分野	防災社会国際比較研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

井内加奈子・マリ エリザベス（防災社会国際比較研究分野）

期間（西暦）	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
--------	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】 This research compares examples of post-disaster housing relocation in Tohoku after the Great East Japan Earthquake and recent housing reconstruction programs in the United States after Hurricane Sandy in the context of risk based planning for post-disaster land use. This year's focus was on clarifying the frameworks for residential buyouts/acquisitions in the U.S., and the current situation.

【研究の具体的な成果・波及効果】 After 2012 Hurricane Sandy, there are currently residential buyout/acquisition programs in NY State, NY City, and New Jersey, respectively. Enhanced buyouts in NY State (and on Staten Island), and provided in New Jersey through the existing Blue Acres program, preserve land as a buffer zone, while acquisitions in NY State (and planned for NY City) will allow redevelopment. While relocating residents away from hazardous areas, these programs' risk reduction impact is limited.

【図表】

Comparison of relevant policies for disaster mitigation in recovery

Japan after GEJE Collective Relocation for Disaster Mitigation	US after Hurricane Sandy Residential Buyouts for Disaster Mitigation
Used to move people away from future disaster risk areas. Existing Japanese policy, used at part of recovery projects, such as in Chuetsu.	Precedent: Hazard Mitigation Grant Program--used to purchase residential property at risk for future disasters, but requires a disaster declaration--part of recovery phase.
Includes designation of hazard risk area (former land) and provision of (new) land for rent or purchase, or public housing.	Focuses exclusively on the purchase of former land, no provision for relocation or new land. Various buyouts and acquisitions in Sandy-affected jurisdictions.

Residential buyout and acquisition programs in the three Sandy-affected jurisdictions

Recovery Program	New York City: Build it Back	New York State: NY Rising	New Jersey State: RREM
Buyouts	Buyout available in Staten Island (part of NYC) though NY State's program, not NYC.	Enhanced Buyouts , in targeted areas: - land owners paid pre-storm value, plus bonuses for target area, and relocating within the county. - land will be preserved as natural buffer zone	Buyouts available through the existing Blue Acres program, not RREM. - land purchased at pre-storm value, preserved as recreation/buffer zone -happening in riverine, not coastal area
Acquisition	Acquisition for Redevelopment - land purchased at post-storm value, to be redeveloped	Acquisition - - land purchased at post-storm value -resold at auction -can be redeveloped (according to code)	



研究課題名	巨大地震に伴う火山活動変化の検討と活動モニタリング			種目	拠点 B
研究代表者	山本 希			職名	准教授
部 門	災害理学研究部門	分野	火山ハザード研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

山本 希，三浦 哲，市來雅啓（火山ハザード），小菅正裕（弘前大学）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

東北地方太平洋沖地震は広範囲の応力分布・歪場の変化を引き起こし、火山噴火の誘発などの火山災害リスクの上昇が懸念されている。そこで、本研究では震源域に近い東北地方の活火山における過去の地震観測記録の系統的な再解析などを通じて大地震の火山活動に対する影響について検討を行うとともに、今後の火山活動変化・推移把握といった活動モニタリングに必要な観測網の検討および試験観測を行う。

【研究の具体的な成果・波及効果】

東日本太平洋沖地震以後に火山性地震活動の活発化が見られ始めた八甲田山などの東北地方の活火山において臨時地震観測点を設置し、火山浅部熱水系が関与した震動現象を検出し、その発生メカニズムを明らかにした。また既存データの整理・データ解析を進め、火山性流体の中長期的な挙動に関する知見を得た。これらの観測データや得られた知見は、気象庁など関係機関と共有を行い、火山活動推移把握・火山災害軽減に貢献することができた。

【図表】

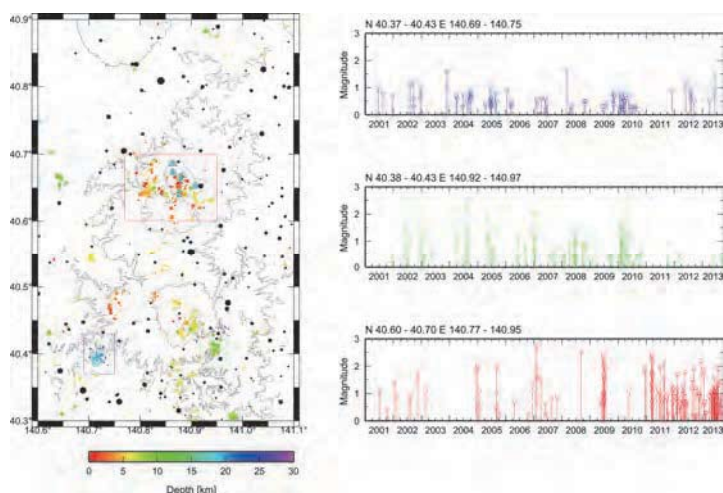


図1. 八甲田山・十和田湖周辺の地震活動（2001～2014年）．八甲田山・十和田湖周辺では、十和田湖近傍2か所（地図中青枠・緑枠部）における群発的地震活動などの地震活動が存在したが、2011年東北地方太平洋沖地震以後、八甲田山周辺（地図中赤枠）における地震活動が急増した．右図は、各領域における地震活動の時間推移．

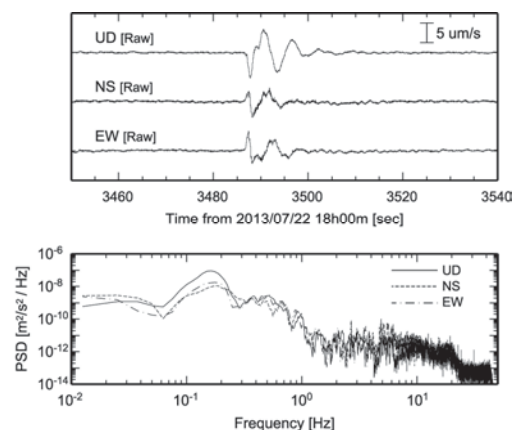


図2. 臨時設置した広帯域地震計によって観測された八甲田山長周期地震の波形・スペクトル例

研究課題名	被災地の災害感染症対策の経験とその共有の試み			種目	拠点 B
研究代表者	服部俊夫			職名	教授
部 門	災害医学研究部門	分野	災害感染症学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

服部俊夫・芦野有悟・ホルロ（災害感染症学分野）・江川新一（災害医療国際協力学分野）
佐藤寿夫（日本微生物研究所）・袴田康弘（静岡県立総合病院）・古賀震（静岡県立大学）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】

世界防災会議にむけて、被災地と将来被災する可能性の高い地域との災害感染症に対する研究と意識の共有を目指す。災害感染症に対する知識の共有と現状把握は常に共有をしておかなければならない。HIV 治療薬の服薬指導で、病原性大腸菌出現阻止、デング熱の病態マーカーなどの研究成果を共有し、災害対策に役立てたい。

【研究の具体的な成果・波及効果】

上記に関する災害感染症対策 in Miyagi

Point of care testing

H IV

100

7 4

【図表】

災害感染症対策セミナーin MIYAGI

【テーマ】「災害感染症対策」の強化

1. 災害感染症に必要とされる消化器系の検査
株式会社日本微生物研究所
常務取締役検査部長 佐藤寿夫
2. フィリピンの災害感染症
東北大学災害科学国際研究所
災害感染症学分野助教 浩日勒先生
3. 東北地方の HIV 感染症の実態
東北大学医学系研究科
感染病態学分野准教授 芦野有悟先生
4. 東日本大震災における医療対応
東北大学災害科学国際研究所
災害医療国際協力学教授 江川新一先生
5. 静岡県における災害医療の対策と準備状況
静岡県立総合病院
総合診療センター長 袴田康弘先生

【日時】平成 26 年 7 月 19 日（土）12:30～18:00（11:30 受付開始）



研究課題名	各種腎疾患および HIV 患者における潜在性結核感染症（LTBI）のスクリーニングと galectin-9 等のバイオマーカー・サイトカインの発現様式の検討			種目	拠点 B
研究代表者	芦野 有悟			職名	准教授
部 門	災害医学部門	分野	災害感染症		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

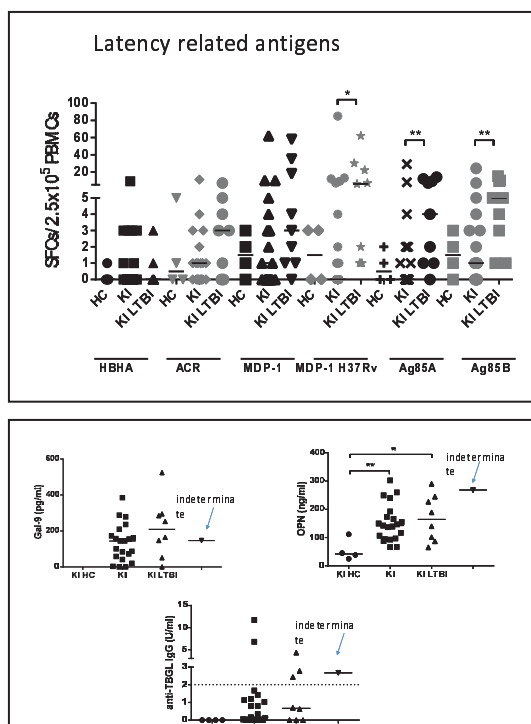
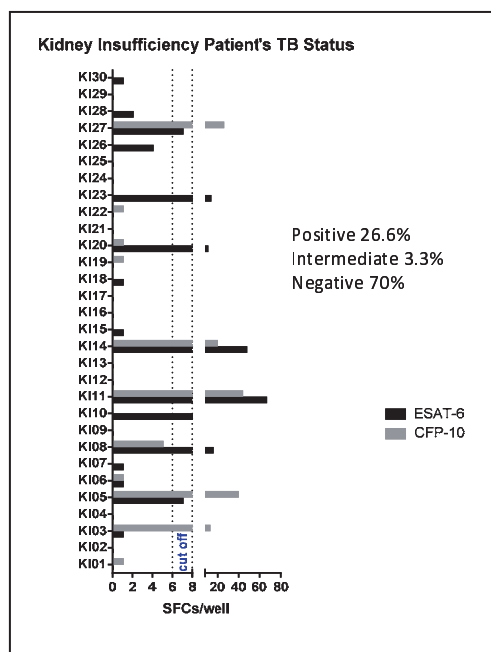
Haorile Chagan-Yasutan（災害科学国際研究所 助教）、白鳥ベアタ（産学連携研究員）、石井 直人（東北大学免疫学分野・教授）宮崎 真理子（東北大学病院腎臓内科）、松本真（大塚製薬微生物研究所）、Jingee Zhao（東北大学・感染病態学分野）、Bindongo Price Polycarpe Dembele（災害感染症学分野・大学院生）

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	1,000,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

【研究の概要】 潜在性結核感染（LTBI）者は災害時には、過酷な状況におかれ、結核の発症の危険が増すので、LTBI を事前に同定することは、発症を予見・予防する意味で重要である。我々は、災害時には特別なケアが必要な CKD（慢性腎不全患者）を対象に LTBI を同定し、さらに Galectin 9(Gal-9)が、感染症においては危機シグナル伝達因子として、免疫制御活性を持つことが提唱しているが、ここでは結核発症と Gal-9 と Osteopontin (OPN) の発現意義を特に検索する。

【研究の具体的な成果・波及効果】 T-SOPT による CKD 患者 30 名の LTBI を検討すると 26.6%が陽性を示した。これらに対し、結核休眠抗原である MDP-1H37Rv、Ag85A、Ag85B の T-SPOT 反応は、CKDLTBI で、高い傾向が見られたが、感度と特異度は低く、また、Gal-9、OPN の検討では、Gal-9 の上昇は見られなかったが、OPN は、CKD の両者で上昇が見られた。CKD 群では、LTBI が多く、経過観察が必要であり、OPN の上昇は、結核再燃機序に関与する可能性を示唆した。

【図表】



研究課題名	幼小児の脱落乳歯および成人の抜去歯を用いた内部・外部被曝歴の包括的評価			種目	拠点B
研究代表者	鈴木敏彦			職名	准教授
部 門	災害医学研究部門	分野	災害口腔科学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

鈴木敏彦，小坂健（災害口腔科学分野／歯学研究科）

相田潤，千葉美麗，清水良央，篠田壽（歯学研究科），高橋温（病院），福本学（加齢医学研究所）

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	800,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

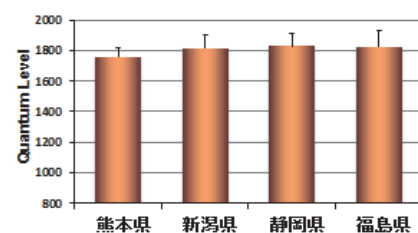
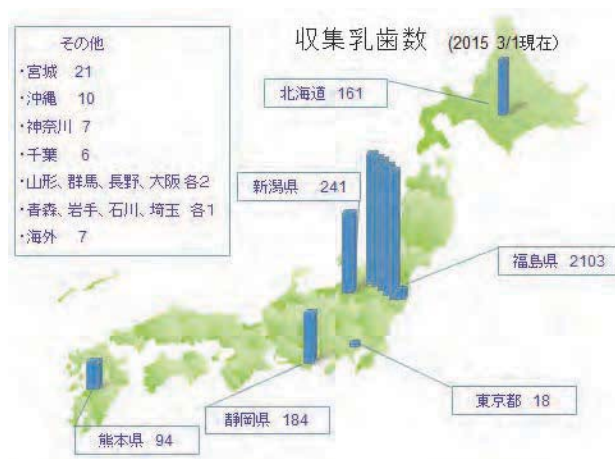
【研究の概要】

本研究は、福島県を中心に居住する幼小児を調査対象とし、永久歯列への交換課程で脱落する乳歯を十分なインフォームドコンセントのもとで収集し、これに蓄積した放射性物質やラジカルを各種の物理化学的手法によって測定・評価することで、資料提供者の内部・外部被曝量を個体レベルで明らかにするとともに地域毎の線量評価を行い、福島第一原子力発電所事故による放射線影響の客観的・科学的データを提供しようとするものである。

【研究の具体的な成果・波及効果】

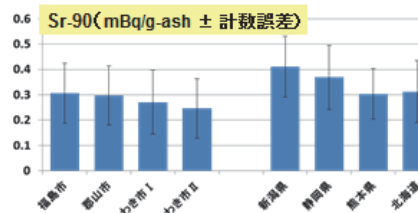
現在まで福島県在住の幼児を中心に 2800 本以上の乳歯を収集し、主にイメージングプレートを用いた内部被曝のスクリーニングを行い、福島県と他県との間で差は認められなかった。今年度までに収集した歯は発災以前に形成された乳歯なので、今後収集可能となる発災後に形成された歯の対象値として重要な意味をもつ。また外部被曝評価法としてのラジカル測定について、被災動物の歯を用いて基礎的検討を行った。

【図表】



県別乳歯QL値

いずれの歯も3.11以前に形成された歯であり、県間に差は認められない。



都市別および県別乳歯 Sr-90 測定値

いずれの歯も3.11以前に形成された歯であり、都市間、県間に差は認められない。
* Cs-134,137については検出限界以下

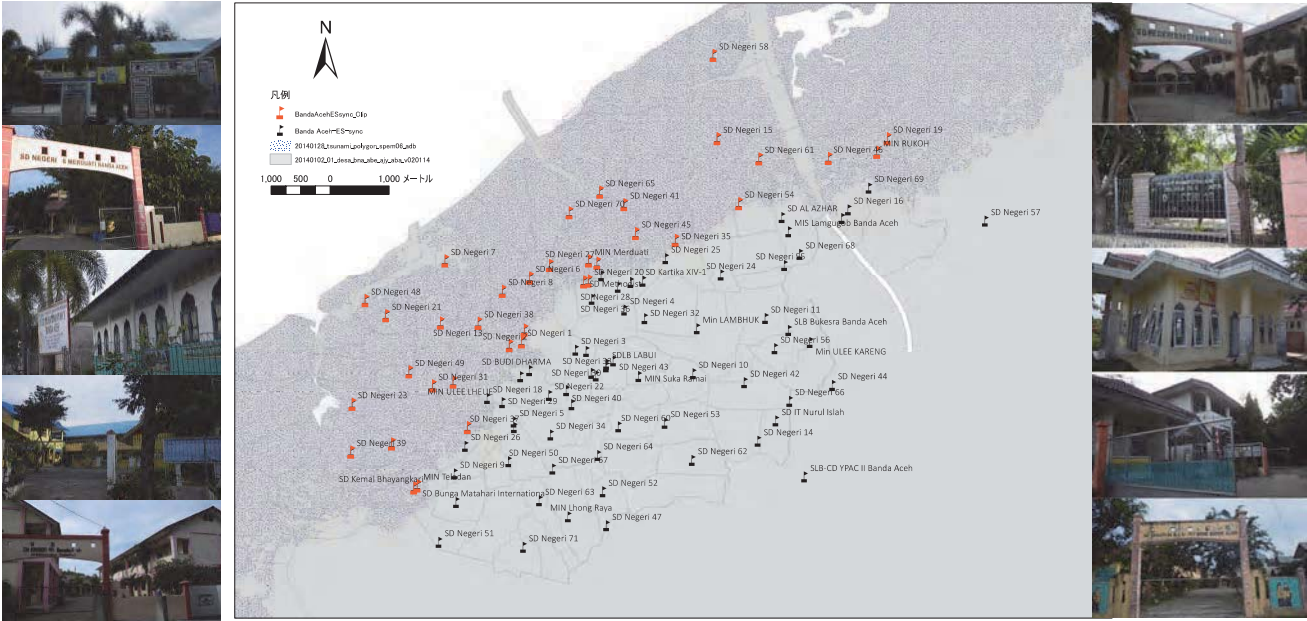
研究課題名	大震災被災地における持続発展可能なセーフスクール・モデルの構築に向けてー インドネシア、バンダ・アチェ市の教育復興と学校災害安全 10 年の取組の検証		種目	拠点 B
研究代表者	桜井 愛子		職 名	准教授
部 門	情報管理・社会連携部門	分 野	災害復興実践学分野	

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））
桜井 愛子、佐藤 健（災害復興実践学分野）、田中泰雄、Mizan Bisri（神戸大学）、 村山 良之（山形大学）、小田 隆史（宮城教育大学）、Khairul Munadi(シャークアラ大学)

期 間	2014 年 6 月～2015 年 3 月	経 費	850,000 円
-----	-----------------------	-----	-----------

【研究の概要】
本研究は、インド洋大津波災害から 10 年における被災地バンダ・アチェ市における教育復興と学校安全体制強化の取組を検証し、その成果と課題を明らかにする試みである。シャークアラ大学津波防災研究センターや GIS リモートセンシング開発センターと連携し、アチェ州教育局、災害管理局、バンダ・アチェ市教育局、災害管理庁、学校関係者への質問紙調査、インタビュー、データ収集等を行った。

【研究の具体的成果・波及効果】
①市内の学校関係者の防災意識、②小学校での防災教育の実態、③2004 年大津波時の浸水・学校位置データを活用した小学校の浸水状況等を明らかにした。大津波から 10 年を経て外部支援が終了した現在、自主財源による活動は継続されず、持続発展可能な現地化モデルの開発と環境整備に課題があることが示された。同研究により構築されたシャークアラ大学との関係に基づき、国連防災世界会議の防災教育フォーラムに同大学学長他を招聘、国内外の関係者にアチェの現状を広く発信した。

【図表】
<div>  </div>
<div> <p>図 2004 年大津波による浸水域とバンダアチェ市内小学校と浸水域内の学校建物写真</p> </div>

研究課題名	企業の防災における友好的な参加・貢献に関する研究：大学やNGOとの友好的な協力・連携モデルに関するアジアの事例を中心に			種目	拠点 B
研究代表者	泉貴子			職名	特任准教授
部 門	情報管理・社会連携部門	分野	社会連携オフィス		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

泉貴子、小野裕一（社会連携オフィス）、Dr. Jemilah Mahmood（ロンドンキングスカレッジ・国連人道問題調整事務所）、Prof. Krishna Pribadi（バンドン工科大学防災リサーチセンター）、Prof. Rajib Shaw（京都大学大学院地球環境学堂）

期 間	2014年4月～2015年3月	経 費	850,000 円
-----	-----------------	-----	-----------

【研究の概要】

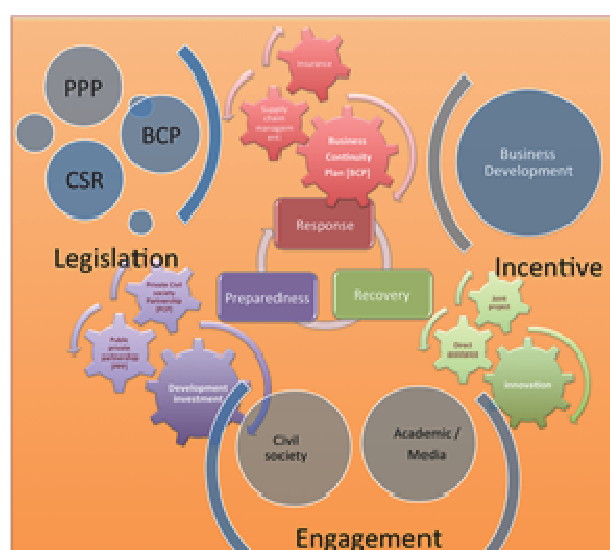
この研究では、特に東南アジアからインドネシア、南アジアからバングラデシュといった国々について、企業の防災への参加や貢献について調査を行い、様々な事例を基に今後の企業の役割への提言としてまとめる。特にアジアの災害頻発国がかかえる防災対策における問題、課題、解決策を、ステークホルダー間の協力・連携という観点から、調査・分析する。

【研究の具体的な成果・波及効果】 バングラデシュ、マレーシア、インドネシアなどから収集した様々な企業の防災への貢献に関する事例から、特に、途上国において、政府の役割を支援・補完するために、企業はより多様な役割を担う可能性・期待があることが分かった。収集された事例は、最近出版された論文や書籍の中で具体的に紹介されている。特にバングラデシュにおいては、従業員への安全に対する企業責任などの概念が、いまだ不十分で、その結果、防災といった概念も根付かずにいる。

【図表】

企業の防災への参加モデル

企業の防災への参加アプローチ、メカニズムと方法



研究課題名	災害余波における「メモリアル」を巡るポリティックス：記憶、追悼と死				種目	拠点 B
研究代表者	BORET SEBASTIEN					助
	情 管	連携		ブ		
柴山 明寛	アーカイブ		准			
今村 彦	アーカイブ					
佐藤 翔輔	アーカイブ		助			
	2013	4	2015	3		510,000

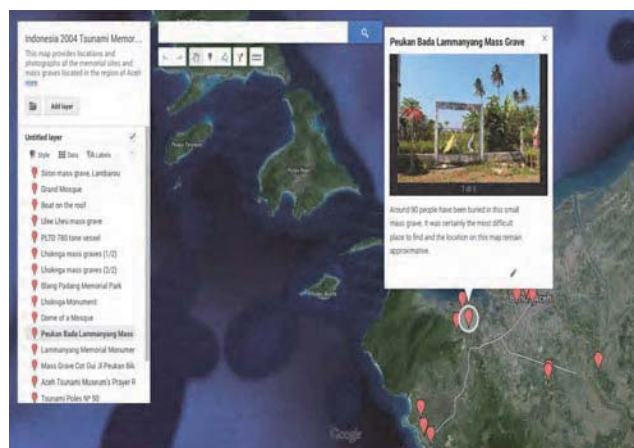
【研究の概要】

Since August 2011, we have been collecting a great quantity of qualitative data about the memorialization of the Great East Japan Disaster and the 2004 Sumatra Tsunami in Aceh. This research allows for the understanding of the ways in which people in Japan remember disasters and their victims. This project explores the relationship between memorialization and disaster recovery. It proposes that, from mourning to archival activities, remembering disasters is an essential step towards the recovery and the reconstruction of disaster-hit societies. Bringing examples from Japan Indonesia and other disaster communities, we aim at drawing lessons learned.

Data collection: In Japan, most of the micro and macro data was collected every week by carrying fieldwork in the area of Yuriage in Natori City and across Tohoku. Local governments and active NGOs were consulted. In Indonesia, fieldwork consists of two-week visits to Banda Aceh, Indonesia. We out interviews about memorial sites of the 2004 Sumatra Tsunami and recorded the 10th anniversary memorial ceremonies. Management of Data: The data were uploaded on a digital map using "Google maps" and to be stored on digital archives of IRIDeS. Moreover, Reports on the websites of IRIDeS, Michinoku Shinrokuden and rememberingdisasters.com. Discussion The result of this research was presented at international conferences in America, Europe and Asia including the UN World Conference on Disaster Risk Reduction, which took place in Sendai in March 14-18, 2015. Finally, several journal articles are being prepared for publication including the Journal of Disaster Research.



Japan 2011 Tsunami Memorials



Indonesia 2004 Tsunami Memorial Sites

Japan Google maps:

<https://mapsengine.google.com/map/edit?hl=en&authuser=0&mid=zOcO0WvuvuUQ.kfYO9X6CSnOs>

Indonesia 2004 Tsunami Memorial Sites:

<https://mapsengine.google.com/map/edit?hl=en&authuser=0&mid=zOcO0WvuvuUQ.k1GeFsPF2EQY>

研究課題名	津波堆積物順解析・逆解析の連携による先進的津波規模評価手法の構築			種目	連携
研究代表者	菅原 大助			職名	助教
部 門	災害リスク研究分門	分野	低頻度リスク評価研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

菅原大助・後藤和久（低頻度リスク評価研究分野）・Bruce Jaffe・Guy Gelfenbaum（米国地質調査所）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	1,700,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

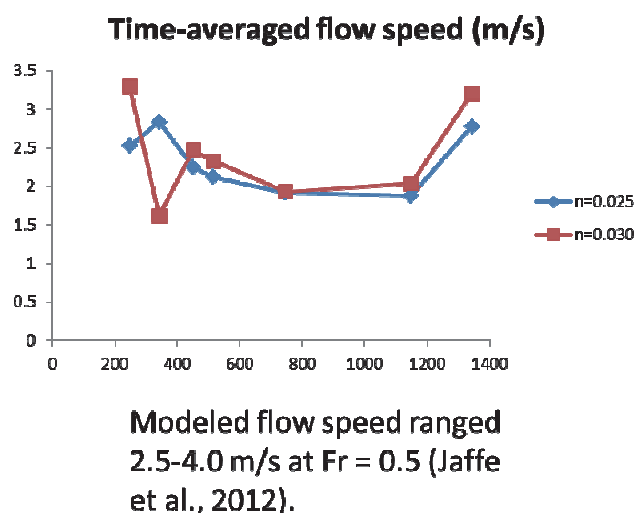
【研究の概要】

東北大学と米国地質調査所（USGS）による異なるアプローチの数値解析手法を連携することで、津波堆積物に基づく津波規模の推定手法の革新的な進歩を図り、東北地方における過去の巨大津波の実態を、規模の面から明らかにする。具体的には、東北大学による津波土砂移動の順解析と、USGS による津波堆積物の逆解析を組み合わせることで、それぞれの利点を相乗的に高めた新たな津波規模評価手法を構築する。

【研究の具体的な成果・波及効果】

連携先である USGS の研究者を当所に招聘して現地調査および研究会議を開催し、新手法の枠組を検討した。また、仙台平野での津波土砂移動の順解析を行って堆積物形成時の流れ場を解析し、津波堆積物の逆解析で推定した流速と比較・検証した結果、新手法が有効であることが明らかになった。本研究のこれまでの成果の一部は、2015 年 3 月にタイ・プーケットで開催された第 4 回 International Tsunami Field Symposium で発表した。

【図表】



図：（左）石巻市における USGS との津波堆積物共同調査の状況。（右）仙台平野での津波土砂移動順解析で決定した時間平均流速。津波堆積物逆数値解析（Jaffe et al., 2012）による流速推定値は 2.5－4.0m/s であり、両手法が津波堆積物形成時の流速を軸として結合できる可能性が明らかになった。

研究課題名	岩手県南部沿岸地域における被災歴史資料の修復と地域情報の収集			種目	連携
研究代表者	蝦名 裕一			職名	助教
部 門	人間・社会対応研究部門	分野	歴史資料保存研究分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

蝦名 裕一（歴史資料保存研究分野・助教） 安田 容子（歴史資料保存研究分野・特別教育研究員）
菅野 文夫（岩手大学教育学部・教授） 佐藤 由起男（岩手大学教育学部・教授）
大林 賢太郎（京都造形芸術大学・教授）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	1,700,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

【研究の概要】

東日本大震災で大きな被害をうけた岩手県大船渡市において、歴史資料の所蔵者を訪問して史料の所在および被災の有無を調査する。また、大船渡市三陸町で書が装丁された襖資料について、下張りとして使用されている古文書を保全するとともに、書の洗浄および襖としての修復を実施し、震災以前の状態を復元する。

【研究の具体的な成果・波及効果】

大船渡地域の歴史資料所在調査としては、気仙地域の古文書を長年調査してきた郷土史研究者と連携し、所蔵者 33 家を調査し、うち史料流失 6 件、史料被災 3 件、史料の所在確認 8 件に加え、新出史料 4 件を確認した。また京都造形芸術大学において、津波に被災した史料の一部の保全処置および、被災した襖資料の書の洗浄と襖の修復作業を実施した。

【図表】



表：2015 年 3 月時点の調査結果

字名	所在確認	史料新出	文書被災	文書流失
吉浜	3	1		
越喜来	3	2	1	2
綾里	1			
赤崎	4		2	5
日頃市	2	2		
末崎	1			1

研究課題名	ハワイ大との学際的連携研究推進のためのネットワーク構築			種目	連携
研究代表者	浩日勒			職名	助教
部 門	災害医学研究部門	分野	災害感染症学分野		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

浩日勒、服部俊夫（災害感染症学分野）

Lishomwa C. Ndhlovu、 Cecilia Shikuma、 Vivek R. Nerurkar、 Apichai Tuanyok（ハワイ大学医学部）

期 間	2014 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	1700,000 円
-----	-----------------------	-----	------------

【研究の概要】

災害リスク、感染症、防災研究に関する学際的なテーマについてのネットワークを構築する。さらに 2015 年国連防災世界会議に向けた協働の研究体制についても議論を行う。災害感染症として、蚊媒介感染症のデング熱、水によるレプトスピロシス、HIV 治療中の中枢神経症状がマクロファージを介した炎症分子による可能性についても共同研究を行う。

【研究の具体的な成果・波及効果】

1. ハワイ大学を訪問し、共同研究の打ち合わせ及び感染症の専門家らと今年度話題のエボラ出血熱、チクングニア熱などについてその対応を討論した。また、第三回世界防災の際に Lishomwa 助教及び Ivo 博士を招待し災害への対応または研究成果の講演を行った。
2. ハワイ大学熱帯医学部の Lishomwa 助教とはデング、エイズ、成人 T 細胞白血病など様々な感染症の共同研究が行われている。デング感染症における炎症凝固異常バイオマーカーについて共同研究の論文を発表した（*Thromb Res.* 2014;134(2):449-54.）。

【図表】

図 1. ハワイ大学医学部での感染症研究打ち合わせ及び討論

表 1. 東北大学医学部で開催された研究会

図 2. 東北大学での交流及び講演の様子



4 th Eco-Bio Forum		
Disaster-related Infectious Diseases, International Research Institute of Disaster Science (IRIDS)		
Department of Emerging Infectious Diseases, Graduate School of Medicine, Tohoku University		
March 11, 2015, 10:00-17:00		
Conference Room 1, Building 5, Sendai Campus, Tohoku University		
Time	Title	Speaker
Part I		
Chairman: Assistant Professor Naoki Chigane, Tohoku University		
10:00-10:05	Opening Remarks	Prof. Tetsuo Matsui, Tohoku University
10:05-10:20	STD/HIV Status in the Philippines	Dr. Blaswell D. Fiala, San Lazaro Hospital
10:20-10:45	Tracking HIV Drug Resistance Patterns in the Philippines during an Evolving Epidemic	Dr. Ivo N. Sah-Bender, Hanoi University
10:45-11:00	T Cell Inhibition in HIV Infection	Asst. Prof. Lishomwa Ndhlovu, Hanoi University
10:00-10:20	Coffee Break	
Part II		
Chairman: Associate Professor Yujiro Ashino, Tohoku University		
10:20-10:40	Expansion of Dysfunctional T _H 17-Expressing Effector Memory CD8 ⁺ T Cells During Simian Immunodeficiency Virus Infection in Rhesus Macaques	Dr. Tsuyoshi Fujita, Tohoku University
10:40-11:00	Extracellular Minc in Mycobacterium tuberculosis Infection	Dr. Senta Shintani, Tohoku University
11:00-11:20	Molecular Characterization of Multidrug-resistant Tuberculosis in Asian Countries	Prof. Yasuhiko Ishii, Hokkaido University
11:20-11:25	Closing Remarks	Prof. Naoki Ishii, Tohoku University

研究課題名	東日本大震災の被災地における「被災者目安箱システム」の開発		種目	連携
研究代表者	佐藤 翔輔	職名	助教	
部 門	情報管理・社会連携部門	分野	災害アーカイブ研究分野	

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

佐藤翔輔（災害アーカイブ研究分野）、今村文彦（津波工学研究分野）

井ノ口宗成、中野敬介（新潟大学災害・復興科学研究所）、阿部恒之（東北大学大学院文学研究科）

期 間	2013 年 4 月～2015 年 3 月	経 費	1,700,000 円
-----	-----------------------	-----	-------------

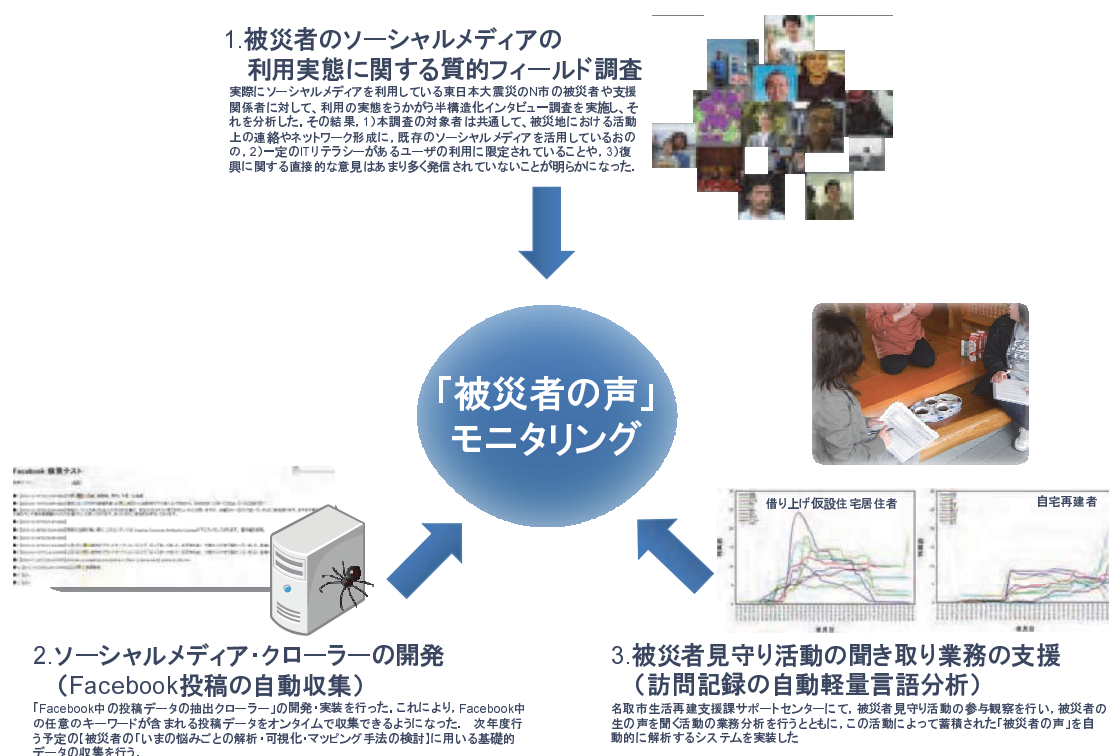
【研究の概要】

本研究では Web システムとして「被災者目安箱システム」を開発し、被災者の「いまの悩みごと」をリアルタイムで把握する仕組みを確立する。被災地内外や被害の有無等から投稿者の属性や発災時の状況、地域性が「被災者の悩みの変化」に与える影響を分析するとともに、成果を社会発信することで二次利用の可能性を広げ、被災地の復興の一助になることを目指した。

【研究の具体的な成果・波及効果】

Facebook 投稿データの抽出クローラーの開発・実装を行った。これにより、ソーシャルセンシングから任意のキーワードをもつテキストをオンタイムで収集できるようになった。また、名取市における被災者見守り活動の参与観察とプロジェクト支援により、被災者の声を分析することによって現状の課題を可視化した、加えて、被災自治体が行う復興広報に関する体系的な調査を行い、その現状と課題を明らかにした。

【図表】



研究課題名	グローバル自然災害研究に関する連携強化プロジェクトーロンドン大学との連携			種目	連携
研究代表者	サッパシー・アナワット			職名	准教授
部 門	寄附研究部門	分野	地震津波リスク評価（東京海上日動） 寄附研究部門		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名（所内は分野名））

今村文彦（津波工学），真野明（災害ポテンシャル），源栄正人（地域地震災害），奥村誠（被災地支援），富田博秋（災害精神医学），小野裕一（社会連携），遠田晋次（国際巨大災害），サッパシーアナワット（地震津波リスク評価），Peter Sammonds，Rosanna Smith，Tiziana Rossetto，Ingrid Charvet（ロンドン大学リスク減災研究所）

期 間	2014 4 2015 3		1,800,000
-----	---------------	--	-----------

【研究の概要】IRIDeS とロンドン大学リスク減災研究所（IRDR）は 2012 年 3 月から災害に関する共同研究の覚書の下、両研究所の各研究分野の日英学術交流を開始している。さらに、連携の強化を図るために、IRIDeS 側（災害リスク、人間・社会対応、災害理学、災害医学、情報管理・社会連携研究部門）の担当教員と IRDR のパートナーからの各研究課題を総合的な災害研究の観点から研究する。

		2014	3	
1 2013		3	2	1607
	9	3	2011	



: 2013
3
:
1607
9
: 2011

4 研究活動

(3) 専任教員の研究・教育・社会活動

源栄 正人 教授

Masato MOTOSAKA

災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	工学部			東北大学大学院	工学研究科			工学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				鹿島建設株式会社 武藤研究室	研究員
				鹿島建設株式会社 小堀研究室	研究員
				鹿島建設株式会社 小堀研究室	主任研究員
				鹿島建設株式会社 小堀研究室	主管研究員
				東北大学 工学研究科	助教授
				東北大学 工学研究科	教授
		現在		東北大学 災害科学国際研究所(兼工学研究科)	教授

所属学会

日本建築学会	日本地震工学会	日本自然災害学会	日本地震学会	日本安全教育学会
--------	---------	----------	--------	----------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本建築学会	理事会	理事・東北支部長	
日本建築学会	年建築学会賞選考委員会論文部会	専門委員	
独立行政法人建築研究所	国際地震工学研修・	委員	
土木学会東北支部	東日本大震災東北支部学術合同調査委員会	統括兼幹事	

研究分野・キーワード

地震工学	構造ヘルスマonitoring	地震早期警報システム	構造物と地盤の動的相互作用	建築構造工学
------	-----------------	------------	---------------	--------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	教育研究評議会	評議員	
全学	災害委員会転倒防止	長	

【研究活動】

研究活動の概要

東日本大震災の振動被害の実態と観測された地震記録に基づく地盤環境調和型地震対策としてマイクロゾーニングに向けた研究を行うとともに、上部構造と基礎構造のバランス、構造躯体と非構造・設備とのバランスのとれた都市・建築の総合的地震対策に向けた国内外への情報発信を行っている。また、構造ヘルスマonitoringと早期地震警報との融合技術として地域版リアルタイム地震観測システムを構築し、地域の地震防災に有効活用するための研究を行っている。また、このシステムを海外展開としてモンゴル国ウランバートル市への展開を行っている。さらに、これらの研究成果に基づく防災教育活動も行っている。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		地震工学、構造物と地盤の動的相互作用に関する研究	なし
			現在		地震動・地盤震動に関する研究	なし
			現在		構造ヘルスマonitoring機能を有する次世代早期地震警報システムの開発	なし
			現在		多点リアルタイム地震観測データを用いた地震防災システムの実用化	なし
			現在		モンゴル国におけるリアルタイム地震防災システム構築の技術支援	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	不整形な支持層に建つ杭基礎建物での観測記録の分析	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会東北支部研究報告集(第 号)						田所麻衣, 三辻和弥, 源栄正人, 太野 亘	共著	国内
	日本語	逆重畳法によるせん断波速度の抽出手法を用いた超高層ビルへのヘルスマonitoringの適用性検討	学術雑誌	無	いいえ	年度日本建築学会(近畿)学術講演梗概集						王欣, 正木和明, 入倉孝次郎, 源栄正人, 久田嘉章	共著	国内
	日本語	地盤振動特性を考慮した 年東北地方太平洋沖地震における仙台市の建物損傷評価	学術雑誌	無	いいえ	年度日本建築学会(近畿)学術講演梗概集						田附遼太, 三屋栄太, 太野亘, 源栄正人	共著	なし
	日本語	強震観測記録に基づく長周期構造物の累積応答変位の検討	学術雑誌	無	いいえ	年度日本建築学会(近畿)学術講演梗概集						源栄正人, 石井弘太郎	筆頭共著	なし
	英語		学術雑誌	無	いいえ	年度日本建築学会(近畿)学術講演梗概集						曹森, 源栄正人	共著	国内
	日本語	観測記録を用いた不整形地盤に建つ杭基礎建物の振動特性に関する検討 その1地震被害と常時微動観測の結果	学術雑誌	無	いいえ	年度日本建築学会(近畿)学術講演梗概集						田所麻衣, 源栄正人, 三辻和弥, 太野 亘	共著	国内

	日本語	観測記録を用いた不整形地盤に建つ杭基礎建物の振動特性に関する検討 その2地震観測の結果	学術雑誌	無	いいえ	年度日本建築学会(近畿)学術講演梗概集						三辻和弥, 源栄正人, 田所麻衣, 大野晋	共著	国内
	日本語	大学における教育研究用機器を対象とした地震対策の検討	学術雑誌	無	いいえ	第 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集						源栄正人, 本間誠, 小野一隆, 佐藤睦, 古川幸, 大野晋	筆頭共著	なし
	日本語	堆積盆地におけるやや長周期地震動に着目した構造物の累積応答と累積損傷	学術雑誌	無	いいえ	第 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集						源栄正人	単著	なし
	日本語	年東北地方太平洋沖地震の観測記録と地盤増幅特性を考慮した設計用入力地震動による比較	学術雑誌	無	いいえ	第 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集						田附遼太, 源栄正人	共著	なし
	日本語	大学研究室における室内物品地震対策ガイドラインの策定	学術雑誌	有	いいえ	環境と安全						本間誠, 三上恭順, 吉岡敏明, 斉藤宏秋, 久保百司, 源栄正人	共著	なし
	日本語	多点同時微動測定に基づく大破した 階建て C造建物の連層耐震壁の振動モード特性	学術雑誌	無	いいえ	第 回日本地震工学シンポジウム梗概集						鹿間裕行, 栗田哲, 源栄正人, 千葉一樹, 三辻和弥	共著	国内
	日本語	多点同時微動測定に基づく基礎被害を受け傾斜した建物の振動特性	学術雑誌	無	いいえ	第 回日本地震工学シンポジウム梗概集						山田健斗, 栗田哲, 源栄正人, 千葉一樹, 三辻和弥	共著	国内
	日本語	堆積盆地におけるやや長周期地震動に着目した構造物の累積応答と累積損傷	学術雑誌	無	いいえ	第 回日本地震工学シンポジウム梗概集						源栄正人	単著	なし
	日本語	超高層ビルの層間せん断波速度の抽出およびヘルスマニタリングへの応用	学術雑誌	無	いいえ	第 回日本地震工学シンポジウム梗概集						王欣, 正木和明, 入倉孝次郎, 源栄正人, 久田嘉章	共著	国内
	英語		国際会議	無	はい								単著	なし
	英語	C C C C	国際会議	無	いいえ	C							共著	国内
	英語		国際会議	無	いいえ	C						C	共著	なし

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著		単著		筆頭 共著		共著		合計		うち	国際		国内	
----------	--	----	--	----------	--	----	--	----	--	----	----	--	----	--

	記述 言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
	日本語	東日本大震災合同調査報告 建築編5 建築基礎構造 津波の特性と被害	単行本		東日本大震災合同調査報告書編集委員会	共著	一般社団法人 日本建築学会	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著		筆頭共著		その他の 共著		合計		うち	国際 査読有		国際 査読無		国内 査読有		国内 査読無	
----	--	------	--	------------	--	----	--	----	-----------	--	-----------	--	-----------	--	-----------	--

	記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区 分	学外 連携
	日本語	東日本大震災の実態と教訓: 次の地震への備えのために	その他	無	はい	C						源栄正人	単著	なし

学会発表

単名		筆頭		その他の		合計	
----	--	----	--	------	--	----	--

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内		その他の 連名	いいえ	横浜		ポスター(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ	C		口頭(一般)			なし
	国内	四国巨大災害危機管理フォーラム	単名	はい	高知市		口頭(招待・特別)	「東日本大震災における振動被害の実態と教訓	源栄正人	なし
	国内	年度日本建築学会(近畿)	筆頭 連 名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	強震観測記録に基づく長周期構造物の累積応答変位の検討	源栄正人, 石井弘太郎	なし
	国内	第 回日本自然災害学会	単名	いいえ	鹿児島市		口頭(一般)	堆積盆地におけるやや長周期地震動に着目した構造物の累積応答と累積損傷	源栄正人	なし
	国際	C	単名	はい	杭州市, C		口頭(招待・特別)			なし
	国内	日本活断層学会 年度秋季学術大会シンポジウム	単名	はい	仙台市		口頭(招待・特別)	「東北地方の内陸地震と地震防災一改めて考える地震動特性と被害の関係	源栄正人	なし
	国際	C	単名	はい	仙台市,		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル			なし

	国内	第一回工学地震学・地震工学談話会	単名	はい	東京都		口頭(招待・特別)	「求められる都市・建築の総合的地震対策～東日本大震災の振動被害の実態と教訓～」	源栄正人	なし
	国際	に関する国際ワークショップ	単名	はい	仙台市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	「地震及び津波について」	源栄正人	なし
	国内	第一回日本地震工学シンポジウム	単名	いいえ	千葉市		口頭(一般)	「堆積盆地におけるやや長周期地震動に着目した構造物の累積応答と累積損傷」	源栄正人	なし
	国内	会 年度地震研究所研究集	単名	いいえ	東京都		口頭(一般)	「次世代早期地震警報システムの開発・展開に向けて～予測からナビゲーションへ～」	源栄正人	なし
	国際	国連防災世界会議パブリックフォーラム・建築系五団体シンポジウム「いのちを守る まちづくり／家づくり」	単名	はい	仙台市		口頭(一般)	「東日本大震災を体験して 振動被害を中心として」	源栄正人	なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	日本建築学会東北支部、災害委員会	「災害に強いまちづくりシンポジウム―被災地からの発信―」			せんだいメディアテーク(宮城県仙台市)	市民向け講演会・セミナー	運営担当		なし	国内

【教育活動】

教育活動の概要

工学研究科の都市・建築学専攻と工学部の建築・社会環境工学科における講義と大学院生・学部学生や海外からの特別研究学生の研究指導を行うとともに、全学教育における「災害の科学」の講義、リーディング大学院における実践的防災学の講義を コマ担当した。また、短期留学生プログラム()の コマの英語の講義「地盤環境と地震災害」と名古屋大学との連携で行った国際展開ゼミ()における コマの英語の講義を担当した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学	コマ数
	災害の科学	東北大学	全学			セメ	
	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	地盤と都市・建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	構造動力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	実践的防災学Ⅴ	東北大学	全学			通年	
	地震災害制御学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	
	地盤環境と地震災害	東北大学	理工学系	短期留学生プログラム()		前期	
	建築構造工学特論(大学院後期課程集中講義)	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	
	国際展開ゼミ	東北大学	全学	留学生プログラム()		後期	

【社会活動】

社会活動の概要

一般向けの防災関連セミナーでの基調講演・招待講演として、東工大の都市地震工学センター、神奈川大学や豊橋技術科学大学の地域連携センター等で東日本大震災の実態と教訓に関する講演を行うとともに、世界防災会議のパブリックフォーラムでも講演した。また、小中高との連携として、仙台三校高校での防災に関する招待講演や仙台市教育委員会からの依頼による夏休み大学探検 で地震計を用いた防災教育を行った。毎年の防災士研修会等での講義も行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	「震災対策技術展」宮城 実行委員会／エグジビションテクノロジーズ 株式会社	震災対策技術展宮城			仙台市・	市民向け講演会・セミナー	運営担当		共催	
	国内	日本建築学会東北支部、災害委員会	「災害に強いまちづくりシンポジウム―被災地からの発信―」			仙台市・せんだいメディアテーク	市民向け講演会・セミナー	運営担当		なし	

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	防災士研修センター講師	講義			「地震のしくみと被害」	防災士研修センター	仙台市・東京エレクトロンホール宮城
	小中高との連携	宮城県仙台三校高校防災講演会	招待講演			「防災哲学～最新科学技術を利用した防災教育と考え方～」	宮城県仙台三校高校	仙台市・宮城県仙台三校高校
	講演会・セミナー	安全週間での講演会	招待講演			「東日本大震災における振動被害の実態と教訓～研究教育用機器の地震対策の強化促進に向けて～」	東北大学金属研究所	仙台市・東北大学金属研究所
	小中高との連携	平成 年度社会教育主事講習	特別講義			「東日本大震災の実態と教訓 今後の地震対策と防災教育のために」	東北大学教育学部	仙台市・東北大学
	小中高との連携	夏休み大学探検	講義			「地震時の建物や地盤の揺れを知ろう」	仙台市教育委員会	仙台市・東北大学青葉山キャンパス
	講演会・セミナー	震災対策技術展	招待講演			求められる都市・建築の総合的地震対策～東日本大震災の振動被害の実態と教訓を踏まえて～	震災対策技術展実行委員会	仙台市:
	講演会・セミナー	神奈川大学連続講演会	招待講演			「大都市仙台における 大震災を振り返る」	神奈川大学	横浜市・神奈川大学
	講演会・セミナー	平成 年度学校安全教育指導者研修会	講義			「地震の科学と防災教育」	宮城県教育委員会	大崎市・大崎合同庁舎

	講演会・セミナー	建築研究所国際地震工学研修	講義			「 C C 」	独立行政法人 建築研究所国 際地震工学セ ンター	仙台市・東北大学 災害科学国際研 究所
	講演会・セミナー	東工大地震工学談話会	招待講演	1128		求められる都市・建築の総合的地震対策 ～東日本大震災の振動被害の実態と教訓を踏まえて～	東工大都市地 震工学セン ター	東工大緑ヶ丘キャン パス
	講演会・セミナー	豊橋技術科学大学防災 シンポジウム	基調講演			東日本大震災の実態と教訓～求められる連携と協働～	豊橋技術科学 大学安全安心 地域共創リ サーチセン ター	豊橋市・豊橋商工 会議所
	講演会・セミナー	宮城ヘリテージマネー ジャ養成講座	講義			「防災計画」について	宮城県建築士 会	仙台市・みやぎ婦人 会館
	講演会・セミナー	国連防災会議パブリック フォーラム	招待講演			東日本大震災の実態と教訓～振動被害を中心として～	建築系5団体	仙台市民センター

大野 晋 准教授

Susumu OHNO

災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	工学部			東北大学大学院	工学研究科			博士(工学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				鹿島建設技術研究所	

所属学会

日本建築学会	日本地震工学会	日本自然災害学会	日本地震学会	土木学会
--------	---------	----------	--------	------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本建築学会	構造委員会振動運営委員会	幹事	
日本建築学会	構造委員会振動運営委員会地盤震動小委員会	委員	
日本建築学会	構造委員会振動運営委員会強震観測小委員会	委員	

研究分野・キーワード

地震工学	強震動地震学
------	--------

【研究活動】

研究活動の概要

東日本大震災における地震動特性と振動被害との関係を解明する研究を進め、単に上部構造だけでなく入力地震動の相違が被害に大きく影響すること、地震動と建物双方の振動特性の関係が重要であることを示した。同時に、青葉山キャンパスに新設された免震建物群について、継続的な耐震モニタリングのための竣工時の振動特性評価を実施した。さらに、国内外で東北地方太平洋沖地震に代表される超巨大地震の発生が危惧されており、超巨大地震の地震動予測手法の開発および、次世代早期地震警報システムのための観測システム整備を進めた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		強震動予測に関する研究	国内
			現在		建物振動特性評価に関する研究	国内
			現在		地下構造モデル評価手法に関する研究	なし
			現在		地震動分布の準リアルタイム評価手法に関する研究	なし
			現在		震災時避難に関する研究	なし
			現在		地震動特性と建物被害に関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
	英語	C C	国際会議	有	いいえ	C						_____	単著	なし
	英語	C	国際会議	有	いいえ	C						_____ _____ _____	共著	国内
	英語	C C C	国際会議	有	いいえ	C						_____	単著	なし
	日本語	徒歩と自動車を組み合わせた津波避難計画の策定－宮城県亘理町での実践－	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 (海岸工学)						佐藤翔輔, 今井健太郎, 大野晋, 齋正幸, 板原大明, 松尾敏彦, 今村文彦	共著	国内
	日本語	強震動パルスを重視した 年東北地方太平洋沖地震の仙台市における強震動シミュレーション	国際会議	無	いいえ	第 回日本地震工学シンポジウム論文集						石塚博基 大野晋 野津厚	共著	国内
	日本語	統計的グリーン関数法に基づく 年紀伊半島南東沖地震の強震波形のベンチマークテスト	国際会議	無	いいえ	第 回日本地震工学シンポジウム論文集						加藤研一 久田嘉章 眞鍋俊平 野津厚 野畑有秀 森川淳 大野晋 山本優	共著	国内
	日本語	東北地方太平洋沖地震の悉皆調査に基づく仙台市の地震動と建物振動被害の検討	国際会議	無	いいえ	第 回日本地震工学シンポジウム論文集						大野晋 柴山明寛 濱岡恭太 吉村真梧	筆頭共著	なし

	日本語	常時微動測定による東北大学青葉山免震建物群の振動特性	その他	無	いいえ	東北地域災害科学研究						大野晋 上野山裕之 鶴田涼介 石塚博基 小池梧	筆頭共著	なし
--	-----	----------------------------	-----	---	-----	------------	--	--	--	--	--	-------------------------	------	----

学会発表

単名	筆頭	その他の	合計
----	----	------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	第 回地盤工学研究発表会	その他の 連名	いいえ	北九州市		口頭(一般)	年東北地方太平洋沖地震における仙台市丘陵地造成宅地の被害分析	佐藤真吾, 風間基樹, 大野晋, 森友宏, 栗谷将晴, 南陽介	国内
	国内	第 回地盤工学研究発表会	その他の 連名	いいえ	北九州市		口頭(一般)	不整形な支持層に建つ杭基礎建物の基礎上での地震応答	三辻和弥, 源栄正人, 大野晋	国内
	国内	日本建築学会大会	筆頭 連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	東北地方太平洋沖地震の悉皆調査に基づく仙台市の地区別建物振動被害の分析	大野晋, 柴山明寛	なし
	国内	日本建築学会大会	その他の 連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	観測記録を用いた不整形地盤に建つ杭基礎建物の振動特性に関する検討 その 地震被観測の結果	三辻和弥, 源栄正人, 田所麻衣, 大野晋	国内
	国内	第 回日本自然災害学会学術講演会	その他の 連名	いいえ	鹿児島市		口頭(一般)	大学における教育研究用機器を対象とした地震対策の検討	源栄正人, 本間誠, 小野一隆, 佐藤健, 古川幸, 大野晋	なし
	国内	研究会「揺れの即時的予測システム 更なる高度化と新しい展開」	その他の 連名	いいえ	文京区		口頭(一般)	次世代早期地震警報システムの開発・展開に向けて一予測からナビゲーション	源栄正人, 大野晋, 王欣, 三辻和弥	国内
	国内	東北地域災害研究会	筆頭 連名	いいえ	鶴岡市		口頭(一般)	常時微動測定による東北大学青葉山免震建物群の振動特性	大野晋, 上野山裕之, 鶴田涼介, 石塚博基, 小池梧	なし

【教育活動】

教育活動の概要

東北大学の全学教育、工学部建築・社会環境工学科および工学研究科都市・建築学専攻において、地震災害、建築構造、地盤震動に関する計8科目の講義を担当した。その中で、東日本大震災の揺れおよび被害の実態と教訓に関する講義を行った。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	災害の科学	東北大学	全学			セメ	
	都市・建築エンジニアリング	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	建築・社会環境工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	建築構造の力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	建築数値基礎論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	
	建築応用システム開発論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	
	地震災害制御学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	

【社会活動】

社会活動の概要

日本建築学会東北支部の災害に強いまちづくりシンポジウムおよび国連防災世界会議パブリックフォーラム・建築系五団体シンポジウムに運営委員として参画した。また、福島高専で地震災害低減の枠組と技術に関する講義を行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRiDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	日本建築学会	災害に強いまちづくりシンポジウム 被災地からの発信			仙台メディアテーク(宮城県仙台市)	市民向け講演会・セミナー	運営委員		なし	
	国内	日本建築学会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会、日本建築家協会、日本建設業連合会	国連防災世界会議パブリックフォーラム・建築系五団体シンポジウム「いのちを守るまちづくり／家づくり」			仙台メディアテーク(宮城県仙台市)	学会・シンポジウム	運営委員		なし	

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	小中高との連携	産業技術論	講義			地震災害低減の枠組と技術	福島高専	福島高専

王 欣 助教

WANG Xin

災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
大連交通大学	土木工程学院			東南大学	土木工程学院			修士(工学)		
				愛知工業大学	工学研究科			博士(工学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
	4			愛知工業大学地域防災研究センター	研究員
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

学会活動

所属学会

日本建築学会	日本地震工学会	日本地震学会
--------	---------	--------

研究分野・キーワード

地震工学

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
建築学部	学部入試委員会	委員	
建築学部	入学試験実施本部	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

社会の発展と共に大都市圏において限られた土地に大きな収容力を求めるため、超高層ビルの需要が急速に増えている。従来の構造の健全性・損傷診断法は上部構造のみまたは各層の応答性能の評価が困難であるという問題がある。超高層ビルのヘルスマonitoringの高度化を目指し、地震計が設置されてない超高層ビルでも簡単な観測機器で常時微動を測定し、逆重畳法によりビルの各層に伝播するせん断波の速度を抽出する観測事例を示すとともに、その手法の適用性および適用条件を 次元フレームモデルに基づいて検討しようとしている。
--

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		常時微動観測に基づく超高層ビルのヘルスマonitoringの高度化	国内
			現在		構造ヘルスマonitoring機能を有する地域版早期地震警報システム開発とそば利活用	なし
			現在		スマートデバイスを用いる構造ヘルスマonitoringシステムの開発	国内
			現在		耐震補強建物の補強効果の検討	国内
			現在		年 中国昭通地震の建物被害と強震動特性の関係についての検討	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ								筆頭共著	なし
	日本語	超高層ビルの層間せん断波速度の抽出およびヘルスマonitoringへの応用	その他	無	いいえ	第 回日本地震工学シンポジウム						王欣、正木和明、入倉孝次郎、源栄正人、久田嘉章	筆頭共著	国内
	日本語	逆重畳法によるせん断波速度の抽出手法を用いた超高層ビルのヘルスマonitoringの適用性検討	その他	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集、						王欣、正木和明、入倉孝次郎、源栄正人、久田嘉章	筆頭共著	国内
	英語		国際会議	無	いいえ								筆頭共著	なし
	英語		国際会議	無	いいえ	C							筆頭共著	国内

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際	C	筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)		_____	国内
	国際		筆頭 連名	いいえ	C		口頭(一般)		_____	なし
	国内	日本建築学会大会(近畿)	筆頭 連名	いいえ	神戸		口頭(一般)	逆重量法によるせん断波速度の抽出手法を用いた 超高層ビルヘルスマonitoringの適用性検討	王欣、正木和明、入倉孝次 郎、源栄正人、久田嘉章	国内
	国内	第 回日本地震工学シンポジ ウム	筆頭 連名	いいえ	千葉		口頭(一般)	超高層ビルの層間せん断波速度の抽出およびヘル スマonitoringへの応用	王欣、正木和明、入倉孝次 郎、源栄正人、久田嘉章	国内
	国内		筆頭 連名	いいえ	横浜		ポスター(一般)			国内
	国内	東北地域自然災害研究集会	筆頭 連名	いいえ	鶴岡		口頭(一般)	中国マグニチュード 雲南省昭通地震現地調査報 告		

【社会活動】

社会活動の概要

地方新聞で平常時超高層ビルのヘルスマonitoringの重要性および自分の最新の研究成果を紹介した。
--

今村文彦 教授

Fumihiko IMAMURA

災害リスク研究部門 津波工学研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	工学部			東北大学大学院	工学研究科			工学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東北大学工学部土木工学科	助手
				東北大学工学部附属災害制御研究センター	講師
				東北大学工学部附属災害制御研究センター(年から大学院工学研究科へ)	助教授
				東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	教授
		現在		東北大学災害科学国際研究所	教授
		現在		東北大学災害科学国際研究所	所長

所属学会

土木学会	日本地震学会	日本自然災害学会	日本災害情報学会	日本地震工学会	(米国地球物理学会)
------	--------	----------	----------	---------	------------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本自然災害学会		理事・評議員	
日本地震学会		代議員	
土木学会東北支部		理事	

研究分野・キーワード

津波工学	自然災害科学	土木工学
------	--------	------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
大学本部		総長特別補佐	
大学本部		副理事	

【研究活動】

研究活動の概要

津波による被害軽減のために、災害サイクルの中で、実施できる実践的な研究を展開した。まず、事前に津波リスク評価を実施するために、津波痕跡データベースの改善・改良を行った。さらに、地震発生直後に人の被害軽減を図るための津波災害や避難情報をリアルタイムで提供するために「次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム」分野3 防災・減災に資する地球変動予測「地震・津波の予測精度の高度化に関する研究」を実施した。さらに、東日本大震災に関する記録・証言などの収集活動の現状把握と課題整理を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
		4	現在		「次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム」分野3 防災・減災に資する地球変動予測「地震・津波の予測精度の高度化に関する研究」	国内
		4	現在		南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト	国内
			現在		学際連携による三陸地方の古地震・古津波の実態解明	国内
					年慶長奥州地震津波の総合的調査およびデータベース構築	国内
			現在		津波評価モデル(ハザード・リスク)の開発	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	プレート間地震による津波の特性化波源モデルの提案	学術雑誌	有	いいえ	日本地震工学会論文集						杉野英治 岩淵洋子 橋本紀彦 松末和之 姥澤勝三 亀田弘行 今村文彦	共著	国内
	日本語	東日本大震災における「見える復興」を目指した復興広報活動に関する実態調査・分析ー宮城県内の被災自治体を対象にしてー	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集						佐藤翔輔 今村文彦	共著	国内
	日本語	災害時の「生きる力」に関する探索的研究ー東日本大震災の被災経験者の証言からー	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集						佐藤翔輔 杉浦元亮 野内類 邑本俊亮 阿部恒之 本多明生 岩崎雅宏 今村文彦	共著	国内
	日本語	人的・物的被害軽減に向けた実用的な津波ハザード・被害予測評価手法の提案	学術雑誌	有	いいえ	自然災害科学		特別号	1	12		今井健太郎 今村文彦 岩間俊二 サッパシー アナワット	共著	国内

英語		学術雑誌	有	いいえ	C C C						C _____	共著	国外
英語		学術雑誌	有	いいえ	C						C _____	共著	国外
英語		学術雑誌	有	いいえ	C C C						_____	共著	国外
英語		学術雑誌	有	いいえ			1				_____	共著	国外
英語		学術雑誌	有	いいえ							C _____	共著	国外
日本語	東日本大震災で発生した津波火災における地形的影響の考察と津波火災危険度評価指標の提案	学術雑誌	有	いいえ	自然災害科学						今津雄吾 野竹安彰 北後明彦 今村文彦	共著	国内
日本語	災害時の「生きる力」に関する探索的研究－東日本大震災の被災経験者の証言から－	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集						佐藤翔輔 杉浦元亮 野内類 呂本俊彦 阿部恒之 本多明生 岩崎雅宏 今村文彦	共著	国内
日本語	非線形長波モデルと流体粒子法による津波シミュレータの開発	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 海岸工学						諏訪多聞 今村文彦 菅原大助	共著	国内
日本語	年東北地方太平洋沖地震津波における日本列島太平洋沿岸の津波減衰過程	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 海岸工学						今井健太郎 田野辺睦 林豊 今村文彦	共著	国内
日本語	徒歩と自動車を組み合わせた津波避難計画の策定－宮城県亶理町における実践－	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 海岸工学						佐藤翔輔 今井健太郎 大野晋 齋正幸 松尾敏彦 板原大朗 今村文彦	共著	国内
日本語	確率論的津波遡上評価と津波リスクの定量化	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 海岸工学						福谷陽 安倍祥 今村文彦	共著	国内

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭 共著	共著	合計	うち	国際	国内
----------	----	----------	----	----	----	----	----

	記述 言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
	日本語	行動・安全・文化 C , 緊急時, 災害時の人間行動と欧州文化相互調査	単行本		今村文彦	共著	フォーラムエイト 株	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の 共著	合計	うち	国際 査読有	国際 査読無	国内 査読有	国内 査読無
----	------	------------	----	----	-----------	-----------	-----------	-----------

	記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻 号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区 分	学外 連携
	日本語	東日本大震災記録のアーカイブの現状と課題	学術雑誌	有	はい	情報の科学と技術					今村文彦, 柴山明寛, 佐藤翔輔	共著	国内
	日本語	巨大災害の時代を生きる	その他	無	はい	共済と保険					今村文彦	単著	国内

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月 日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際	C	単名	はい	仙台, 日本		口頭(基調)			国外
	国内	日本流体力学学会年会	単名	はい	仙台, 日本		口頭(基調)	年東日本大震災での津波およびその被害	今村文彦	国内
	国際	C	単名	はい	東京, 日本		口頭(招待・特別)			国外
	国内	東北獣医師会	単名	はい	仙台, 日本		口頭(招待・特別)	東日本大震災の教訓と今後の防災について	今村文彦	国内
	国内	神戸大学震災復興支援・災害科学研究推進室第3回シンポジウム	単名	はい	神戸, 日本		口頭(招待・特別)	東日本大震災後の防災・減災研究の展開ー実践的防災学を目指して	今村文彦	国内

【教育活動】

教育活動の概要

授業計画をしっかりとめる。レポート等課題を与え、個人・グループで発表の機会を設けた。講義材料としては、データそのものや最新でビジュアルな資料を提供している。特に、教科のテーマや意義を出来るだけ明確にすることを心がけ、かつ、自主的な学習態度を取れる支援を工夫した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	基礎ゼミ	東北大学	全学			セメ	
	水環境フロンティア	東北大学	工学部	建築・社会環境工学	2	セメ	
	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学	3	セメ	
	スペクトル解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	
	防災システム	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		後期	
	自然災害論	日本映画大学	全学		1	セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

東日本大震災での経験と教訓を国内外に発信し、各地域で実践的な防災・減災の取組を促すような活動を心掛けた。生きる力では、Cの実施やみんなの防災手帳が日本パブリックリレーションズ協会から受賞した。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	東北大学災害科学 国際研究所	第 回 巨大地震被害に関する合同研究集会			東北大学災害 科学国際研究 所棟 多目的 ホール	学会・シンポジウム	議長		主催	
	国際	東北大学災害科学 国際研究所・仙台 放送・仙台市	減災こども国際フォーラム、～世界とむす ぶ 未来へつなぐ 減災へのメッセージ～			東北大学青葉 山キャンパス カタールサイ エンス キャン パスホール	学会・シンポジウム	運営		共催	
	国内	東北大学災害科学 国際研究所・知の フォーラム・	知のフォーラム・周年シンポジウム・3 ド キュメンタリー映画特別試写会			東北大学川内 北キャンパス 萩ホール	学会・シンポジウム	運営		主催	
	国内	東北大学災害科学 国際研究所・防災 教育普及協会・国 連防災世界会議防 災教育日本連絡 会・内閣府(防災担 当)・文部科学省	防災教育交流国際フォーラムーレジリエン トな社会構築と防災教育・地域防災力の 向上を目指して、第3回国連防災世界会 議パブリックフォーラム			東北大学川内 北マルチメディア 教育研究棟 階	学会・シンポジウム	運営		共催	
	国内	東北大学災害科学 国際研究所	生きるカシンポジウム、第3回国連防災 世界会議パブリックフォーラム			東北大学川内 北キャンパス 教室	学会・シンポジウム	運営		主催	

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	内閣府	南海トラフの巨大地震モデル検討会委員	委員	
	独立行政法人海洋研究開発機構	評価助言委員会	委員長	
	内閣府	第 回国連防災世界会議 国内準備会合委員	委員	
	文部科学省	地震調査研究推進本部地震調査委員会委員	委員	
	株 仙台放送	仙台放送番組審議会委員	副委員長	

自治体・研究機関との協定締結実績(正・副担当の場合のみ)

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
		東北大学工学部キャンパス	国内	東北大学災害科学国際研究所との部局間学術交流協定	その他	福島高専		
		東北大学工学部キャンパス	国外	東北大学災害科学国際研究所との部局間学術交流協定	その他	フィリピン大学マニラ校		
		東北大学工学部キャンパス	国外	東北大学災害科学国際研究所との部局間学術交流協定	研究機関	ニュージーランド地質・核 科学研究所		
		東北大学災害科学国際研究所	国外	東北大学災害科学国際研究所との部局間学術交流協定	その他	国立台湾大学		
		ハーバード大学ライシャワー日本研究所	国外	東北大学災害科学国際研究所との部局間学術交流協定	研究機関	ハーバード大学ライシャ ワー日本研究所		
		フィリピン・アンヘラス大学	国外	東北大学災害科学国際研究所との部局間学術交流協定	その他	フィリピン・アンヘラス大学		

今井 健太郎 助教

Kentaro IMAI

災害リスク研究部門 津波工学研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
秋田大学	鉱山学部	2001	3	秋田大学大学院	工学資源学研究科	2003	3	博士(工学)	2008	3

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
2008	4	2008	5	東京大学地震研究所	特別研究員
2008	6	2010	9	東京大学大学院情報学環	特任研究員
2010	10	2012	4	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	助教
2012	5	2015	3	東北大学災害科学国際研究所	助教
2012	4	現在		高知工科大学	客員准教授

所属学会

日本土木学会	日本地震学会	歴史地震研究会	日本海岸林学会	アメリカ地球物理学会
--------	--------	---------	---------	------------

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本土木学会	津波小委員会	委員	20100000

研究分野・キーワード

津波	津波継続	歴史地震・津波	海岸林	土砂移動
----	------	---------	-----	------

【研究活動】

研究活動の概要

歴史時代に発生した津波の規模評価の高度化を目的として、津波痕跡情報による組み合わせ最適化手法を利用した波源推定法を開発した。本手法により、1611年慶長奥州地震などの津波波源再評価を行い、新しい波源像を提案した。また、慶長奥州地震から66年後に発生した延宝房総地震・延宝青森沖地震の史料を収集し、波源推定に資する情報収集を行った。津波は特殊な地形条件下においては、一定の津波振幅や周期を有したまま沿岸に到達する。相模湾に接続する東京湾では、比較的遠方からの津波に対してある一定の振幅と周期条件で到達することを観測波形や数値実験から示し、その成因は相模湾による共振動に起因することを定量的に示した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	4	現在		津波の継続特性評価	
2	2009	4	現在		歴史地震・津波の再評価	
3	2013	4	現在		津波土砂移動に関わる諸検討	

論文

単著	0	筆頭共著	4	その他の共著	7	合計	11	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	4	国内査読無	5
----	---	------	---	--------	---	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
1	日本語	人的・物的被害軽減に向けた実用的な津波ハザード・被害予測評価手法の提案	学術雑誌	有	いいえ	自然災害科学	33	特別号	1	12	20140900	今井健太郎, 今村文彦, 岩間俊二, サッパシー アナワット	筆頭共著	国内
2	日本語	東京湾における津波伝播特性の励起源ー観測と数値実験による検証ー	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	70	2	211	215	20141100	今井健太郎, 都司嘉宣, 林豊	筆頭共著	国内
3	日本語	2011年東北地方太平洋沖地震津波における日本列島太平洋沿岸の津波減衰過程	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	70	2	276	280	20141100	今井健太郎・田野邊 隆・林 豊・今村文彦	筆頭共著	国内
4	日本語	徒歩と自動車を組み合わせた津波避難計画の策定ー宮城県亘理町における実践ー	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集B2(海岸工学)	70	2	1371	1375	20141100	佐藤翔輔, 今井健太郎, 太野 晋一, 齋正 幸, 松尾敏彦, 板原大明, 今村文彦	共著	国内
5	英語	Method to Determine the Level 1 and Level 2 Tsunami Inundation Areas for Reconstruction in Eastern Japan and Possible Application in Pre-disaster Areas	学術雑誌	有	いいえ	Advances in Natural and Technological Hazards Research	44		133	155	20140000	Muhari, A., K. Imai, D. Sugawara, E. Imamura	共著	なし
6	英語	Developing fragility functions for the areas affected by the 2009 Samoa earthquake and tsunami	学術雑誌	有	いいえ	Natural Hazards Earth system Science	14		3231	3241	20140000	Gokon, H., S. Koshimura, K. Imai, M. Matsuoka, Y. Namegaya, Y. Nishimura	共著	国内
7	日本語	歴史津波研究における誤解されやすい地名についてーその2	その他	無	いいえ	津波工学研究報告	31		123	138	20140000	松岡祐也, 都司嘉宣, 今井健太郎, 今村文彦	共著	国内
8	日本語	史料や伝承に基づく1611年慶長奥州地震の津波痕跡調査	その他	無	いいえ	津波工学研究報告	31		139	148	20140000	暇名裕二, 今井健太郎	共著	なし

	日本語	種子島、および長崎での宝永地震津波（ ）の浸水高	その他	無	いいえ	津波工学研究報告						都司嘉宣, 今井健太郎, 佐藤雅美, 芳賀弥生, 松岡祐也, 今村文彦	共著	国内
	日本語	天保 年 月 日（ 年 月 日）出羽沖地震津波の山形県沿岸での津波高分布	その他	無	いいえ	津波工学研究報告						都司嘉宣, 今井健太郎, 馬淵幸雄, 岡田清宏, 畔柳陽介, 大家隆行, 栗本昌志, 木南孝博, 松岡祐也, 佐藤雅美, 芳賀弥生, 今村文彦	共著	国内
	日本語	組み合わせ最適化手法を利用した歴史津波の波源推定法 年慶長奥州地震の事例	学術雑誌	無	いいえ	東北地域災害科学研究						今井健太郎, 前田拓人, 飯沼卓史, 蝦名裕二, 菅原大助, 今村文彦, 平川新	筆頭共著	国内

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著		単著		筆頭 共著		共著		合計		うち	国際		国内	
----------	--	----	--	----------	--	----	--	----	--	----	----	--	----	--

	記述 言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
	日本語	東日本大震災合同調査報告書編集委員会(第 章主査および執筆), 東日本大震災合同調査報告 共通編 津波の特性と被害	単行本		東日本大震災合同調査報告書編集委員会	共編著	土木学会	国内

学会発表

単名		筆頭 連名		その他の 連名		合計	
----	--	----------	--	------------	--	----	--

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	海岸工学講演会	筆頭 連 名	いいえ	福岡市		口頭(一般)	東京湾における津波伝播特性の励起源 一観測と数値実験による検証一	都司嘉宣, 林豊	国内
	国内	日本地震学会	筆頭 連 名	いいえ	新潟市		ポスター(一般)	年天保出羽沖地震の波源再評価	都司嘉宣, 菅原大助	国内
	国内	歴史地震研究会	筆頭 連名	いいえ	名古屋市		口頭(一般)	津波痕跡高分布に基づく 年天保出羽沖地震の波源再評価	都司嘉宣	国内
	国内	東北地域災害科学研究集会	筆頭 連 名	いいえ	鶴岡市		口頭(一般)	組み合わせ最適化手法を利用した歴史津波の波源推定法 年慶長奥州地震の事例	前田拓人, 飯沼卓史, 蝦名裕二, 菅原大助, 今村文彦, 平川新	国内

【教育活動】

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
	建設・社会工学実験	東北大学	工学部	建設・社会環境工学科		セメ	
	水環境デザインⅠ	東北大学	工学部	建設・社会環境工学科		セメ	
	水環境デザインⅡ	東北大学	工学部	建設・社会環境工学科		セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

東日本大震災に甚大な津波被害を受けた宮城県石巻市（ 年 月～継続中）の津波避難計画策定のアドバイザーを行い、東日本大震災の教訓を活かし、かつ実践的な地域避難計画（大釜地区、鹿妻地区）を市職員、地域住民と協働して作成に取り組んだ。岩手県における想定波源を設定するための歴史津波や津波堆積物などの基礎情報収集に関するアドバイザーを行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDEsの 関与	備考
	国内	東北大学災害科学 国際研究所	巨大津波災害に関する合同研究会	開始年月日	終了年月日	東北大学災害 科学国際研究 所多目的ホー ル	学会・シンポジウム	運営担当		主催	

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
	小中高との連携		特別講義	開始年月日	終了年月日	津波に強くなるために知って欲しいあれこれ	磐城高校	東北大学青葉山 キャンパス総合研究 棟

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	岩手県	岩手県津波痕跡調査アドバイザー会議	津波防災アドバイザー	
	石巻市	石巻復興まちづくり推進会議	津波防災アドバイザー	
	一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所	漁業地域における水産物流通に関する C 策定委員会	津波防災アドバイザー	
	一般社団法人 寒地港湾技術研究センター	漁港に係る業務継続計画検討会	津波防災アドバイザー	

保田 真理 助手

Mari YASUDA

災害リスク研究部門 津波工学研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業	
		年	月
甲南大学	文学部		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				(株)関西総合電子計算センター 総務部	社員
				東北大学大学院工学研究科 附属災害制御研究センター	研究支援員
		現在		東北大学災害科学国際研究所	助手

所属学会

日本自然災害学会

研究分野・キーワード

自然災害科学	減災意識啓発	児童教育	国際連携	教育ツール開発
--------	--------	------	------	---------

【研究活動】

研究活動の概要

今年度の研究活動は減災意識啓発活動を中心に行いました。私が考案して制作された減災ポケット「結」を用いて、小学 年生を対象に実施した出前授業が東北大学本部の事業の一つになり、仙台市教育委員会と宮城県教育委員会との今日手も締結され、本部広報課の東北大学基金から支援を受けて、東北大学 減災ポケット「結」プロジェクト出前授業が始動しました。今年度は宮城県内 校を訪問しました。県外では福島県南相馬市で 校、山口県周防大島で 校に出前授業を行いました。海外ではタイのプーケットとバンコクで 校、フィリピンのルソン島で 校、インドネシアのアチェで 校、はわいのハワイ島ヒロで 校を訪問しました。この出前授業を通して、児童が理解しやすい教材開発も行いました。授業の中身もわかりやすくするために 部構成にする仕組みも整ってきました。授業前後でアンケート調査も実施し減災する意識の向上も数値で確認することができました。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		減災意識啓発ツール開発	なし
			現在		減災意識啓発ツールを用いた減災学習プログラム開発と実施	なし
			現在		自然災害から生延びる判断力向上のための減災学習ツールの開発と効果の検証	なし
			現在		減災意識啓発教育 減災ポケット「結」プロジェクト出前授業の実施(国内／国外被災地)	あり

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計
----	------	--------	----

うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	年スマトラ地震津波地域及び 年台風ハイエン被災地域への出前授業実施速報	学術雑誌	無	いいえ	東北地域災害科学研究 第 巻						保田真理 今村文彦 サッパシー アナワット 野内類 イケリーン	単著	なし

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計
----	------	--------	----

うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	災害の経験を減災意識に繋ぐー減災「結」プロジェクトの実践ー	会報誌	無		「女性の会通信」第41号						保田真理	単著	無

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際	C	連名	はい	ジャカルタ		口頭(一般)			国外
	国内	日本自然災害学会	連名	いいえ	鹿児島		口頭(一般)	自然災害から生き残るための認知力、判断力、行動力の育成を補助する教育プログラムの検証	保田真理 今村文彦 サッパシー アナワット	国内
	国内	東北地域災害科学研究集会	連名	いいえ	山形		口頭(一般)	年スマトラ地震津波地域及び 年台風ハイエン被災地域への出前授業実施速報	保田真理 今村文彦 サッパシー アナワット 野内類 イケリーン	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	減災意識啓発	減災こども国際フォーラム			東北大学カタール ホール	市民向けセミナー	運営		主催	国外
	国内	減災意識啓発	減災ハッカソン			東北大学カタール ホール	市民向けセミナー	審査委員長		共催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

全学教育の中で、災害意識啓発に関して、講義を行った。また東北大学のプロジェクトとして地域貢献を行っている減災ポケット「結」プロジェクトのなかで、全学的に学生ボランティアに、効果的な意識啓発授業の組み立てを指導した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分1コマ
	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

自然災害の多発と巨大化から、命を守る減災の意識啓発を行っている。これは世代別にアプローチを変えて、その世代の興味があり、日常性を持った課題の発見の仕方を助言をした。各自が自ら取り組みやすい状況を作るために、自然災害科学と人とのつながりを一般市民にもわかりやすい講座を行った。新しい試みとして、減災こども国際フォーラムを企画運営し、減災ハッカソンの企画にも参加、若い世代に減災意識を持ってもらうツール開発にも着手できた。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	仙台放送	減災こども国際フォーラム			東北大学カ タールホール	市民向け講演会・セ ミナー	企画、運営			
	国内	仙台放送	減災ハッカソン			東北大学カ タールホール	市民向け講演会・セ ミナー	企画、運営			

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	おやじの会日本全 国大会	招待パネリスト			実践的な防災教育の取り組み について	おやじの 会日本	渋谷区文化総合セ ンター大和田 さくら ホール
	講演会・セミナー	マルチハザードブ ログラム	招待講演			「津波への災害対応能力を向上させるための実践的災害教育プログ ラム」	東北大学	片平キャンパス片平 北門会館 階
	講演会・セミナー	あしなが育英会インター ンシッププログラム	招待講演			実践的な防災教育の取り組みについて	東北大学	工学研究科総合研 究棟
	講演会・セミナー	未来のとうほく創造フォー ラム	基調講演			減災教育が必要な理由	仙台放送	東京エレクトロン ホール

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	防災士会 みやぎ	絵本作製委員会		

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	ケンブリッジ大学	里見 学長		シンポジウム	ケンブリッジ	国外	発表	

真野 明 教授

Akira MANO

災害リスク研究部門 災害ポテンシャル研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	工学部	1972	3	東北大学大学院	工学研究科	1980	3	工学博士	1980	

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
1977	4	1981	6	東北大学 工学部	助手
1981	7	1990	12	東北大学 工学部	講師
1991	1	1997	3	東北大学 工学部	助教授
1997	4	1998	3	東北大学 大学院工学研究科	助教授
1998	4	2012	3	東北大学 大学院工学研究科	教授
1999	4	2002	3	東北大学 大学院工学研究科附属災害制御研究センター	センター長
2006	4	2008	3	東北大学 大学院工学研究科附属災害制御研究センター	センター長
2012	4	2015	3	東北大学 災害科学国際研究所	教授
2012	4	2013	3	東北大学	教育研究評議会委員

所属学会

土木学会	自然災害学会	水文水資源学会	
------	--------	---------	--

学会・委員会等での役職

土木学会東北支部など7学協会連合	東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会	委員長	20110325
------------------	-------------------------	-----	----------

研究分野・キーワード

水理学	土砂輸送	水災害	水資源
-----	------	-----	-----

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
工学研究科	学部入試対策検討委員会	委員長	20060401
工学研究科	国際交流室	室長	20120401

【研究活動】

研究活動の概要

津波の戻り流れによる構造物周辺の局所洗掘 植生を有する流れの乱流モデル
--

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
	2009		2015	3	熱帯氷河の融解と水資源に関する研究	
	2000		現在		海岸侵食に関する研究	
	1995		現在		洪水流出と土砂輸送に関する研究	
	2000		現在		地下水のヒ素汚染に関する研究	
	2012		現在		構造物周辺の局所洗掘に関する研究	

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C							共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C							共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C							共著	国外

	英語		学術雑誌	有	いいえ	C							共著	なし
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ	C			C				共著	国外
	日本語	インドネシア・ジャカルタ洪水を引き起こす様々な社会問題と 年 月洪水の特徴	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集（環境						呉 修一 福谷 陽 有働恵子 真野 明	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国外
	日本語	台風ハイエンに伴うレイテ島沿岸の人的被害状況	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集（海岸工学）						呉 修一 C 越村俊一 真野 明	共著	なし
	日本語	海面上昇に伴う砂浜侵食に対する適応策としての最適養浜量の推定手法の構築	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集（海岸工学）						吉田 惇 有働恵子 河野達仁 真野 明	共著	国内
	英語	C d C	学術雑誌	有	いいえ	C							共著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際		その他の連名	いいえ			口頭(一般)	C		なし
	国際		その他の連名	いいえ			口頭(一般)	C		国外
	国際		その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際		その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際		その他の連名	いいえ			口頭(一般)	c		国内
	国際		その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国外
	国際		その他の連名	いいえ			口頭(一般)	C		国外

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDEsの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
		土木学会、東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会	国連防災世界会議関連事業、パブリックフォーラム、「[あの日]から、土木技術者がしたこと」		20150316	宮城県庁講堂	国際フォーラム	主催者代表	430	なし	なし

【教育活動】

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	数値解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻	1	1	1
	流れのモデル化と数値解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻	1	1	1
	水理学 および同演習	東北大学	工学部	建築社会環境工学科	2	4	1
	資源とエネルギー	東北学院大学	教養学部	人間科学、言語文化、情報科学、地域構想の各学科	1ー4	前期	1
	資源とエネルギー	東北学院大学	教養学部	人間科学、言語文化、情報科学、地域構想の各学科	1ー4	後期	1

【社会活動】

社会活動の概要

東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会の委員長として、調査成果のとりまとめ、および成果の国内外の普及啓もう活動をおこなった。
--

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
		土木学会、東日本 大震災に関する東北 支部学術合同調査 委員会	国連防災世界会議関連事業、パブリック フォーラム、「「あの日」から、土木技術者 がしたこと」	20150316	20150316	宮城県庁講堂	国際フォーラム	主催者代表	430	なし	

有働 恵子 准教授

Keiko UDO

災害リスク研究部門 災害ポテンシャル研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
筑波大学	第三学群基礎工学類			筑波大学大学院	工学研究科			博士(工学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				独立行政法人港湾空港技術研究所	研究官
				東北大学 災害制御研究センター	助手・助教
				東北大学 災害制御研究センター	准教授
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

所属学会

土木学会	日本地球惑星科学連合
------	------------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
土木学会	海洋開発委員会 海洋開発論文集査読小委員会	委員	
土木学会	海岸工学委員会 編集小委員会	委員	
土木学会東北支部	東日本大震災に関する学術合同調査委員会	委員	
土木学会	海洋開発委員会	委員兼幹事	

研究分野・キーワード

海岸工学	水理学
------	-----

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
工学研究科	工学系女性研究者育成支援推進室()	副室長	
全学	男女共同参画委員会	委員	
工学研究科	大学院入試	電算班	
工学研究科	教育改善委員会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

年度前半は、 年から 年間行ってきた環境省からの受託研究の最終年度であったことから、気候変動による砂浜消失予測に関する研究を重点的に行った。また、これと並行して、年津波による宮城県山元海岸および岩手県高田海岸の大規模国土消失に関する研究と砂浜変形の素過程に関する研究を行った。特に 年度後半は、 年津波被災地における現地観測・現地観察を重点的に行った。これらの成果を含む研究活動および社会活動が認められ、第 回インテリジェント・コスモス奨励賞（研究課題「砂浜消失リスクに関する総合的研究」）を受賞した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		砂浜の地形変化と海岸植生の効果に関する研究	
			現在		飛砂計測の最先端技術を用いた飛砂メカニズムの解明と地形変化予測モデルの開発	
			現在		漂砂メカニズムの解明と漂砂による地形変化予測モデルの開発	
			現在		日本・タイにおける気候変動の砂浜への影響評価と適応策立案	
			現在		日本・タイにおける巨大津波前後の海浜変形およびその後の回復特性の解明	
					泥火山噴出物流入に伴うインドネシア・ボロン川の変化と河川環境の改善に関する研究	

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語	C C C C	学術雑誌	有	いいえ	C							共著	
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ	C							共著	
	英語	C C	学術雑誌	有	いいえ								共著	

	英語		学術雑誌	有	いいえ	C							共著	
	英語	C C	学術雑誌	有	いいえ								共著	
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C							共著	
	日本語	海面上昇に伴う砂浜侵食に対する適応策としての最適養浜量の推定手法の構築	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集（海岸工学）						吉田惇, 有働恵子, 河野達仁, 真野明	共著	
	日本語	インドネシア・ジャカルタ洪水を引き起こす様々な社会問題と 年 月洪水の特徴	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集（環境）						呉修一, 福谷陽, 有働恵子, 真野明	共著	
	日本語	宮城県山元海岸における東北地方太平洋沖地震津波前後の砂浜変形特性と土砂収支	学術雑誌	無	いいえ	第 回地球環境シンポジウム講演集						高村まや, 有働恵子, 武田百合子, 真野明	共著	
	日本語	海面上昇による全国の砂浜消失将来予測における不確実性評価	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集（環境）						有働恵子, 武田百合子	筆頭共著	
	英語	C C	国際会議	無	いいえ							C	共著	
	英語	C C	国際会議	無	いいえ							C	共著	
	英語	C C C C	国際会議	無	いいえ								共著	
	英語	C C	国際会議	無	いいえ								共著	
	英語	C C	国際会議	無	いいえ								共著	
	英語	C	国際会議	無	いいえ								共著	
	英語	C C C	国際会議	無	いいえ								共著	
	英語	C C C	国際会議	無	いいえ								共著	
	英語	C C	国際会議	無	いいえ								共著	
	英語		国際会議	無	いいえ								共著	
	日本語	年台風 号ハイエン被害に関するフィリピン現地調査	その他	無	いいえ	水文・水資源学会 年度研究発表会要旨集						呉修一, 地引泰人, サッパシー アナワト, 有働恵子, 真野明	共著	
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ	C							筆頭共著	

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際		筆頭 連 名				ポスター(一般)		_____	
	国内	第 回地球環境シンポジウム	単名		東京都千代田 区		口頭(一般)	海面上昇による全国の砂浜消失将来予測における 不確実性評価	有働恵子	
	国内	第 回海岸工学講演会	単名		名古屋市		口頭(一般)	海浜変形予測とその問題点	有働恵子	
	国内	平成 年度東北地域災害科 学研究集会	その他の 連名		鶴岡市		口頭(一般)	画像を用いた 作成とその被災前 後の変化特性に関する研究	武田百合子, 有働恵子	

【教育活動】

教育活動の概要

今年度、指導教員として指導した学生は、大学院生 名、学部生 名である。大学院生にはそれぞれ 件および 件の学会発表を、学部生には 件ずつの学会発表を経験させることができた。大学院の授業は 科目を担当した。研究室で毎週行っているゼミと、土木水理系研究室合同で毎週行っている博士ゼミ、修士ゼミを通して、学生指導を行った。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/1コマ
	数値解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	
	地球環境学	東北大学	建築・社会環境工学科			セメ	
	災害の科学	東北大学	全学			セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

環境省からの受託研究の研究成果(海面上昇による砂浜消失)についての社会的関心は高く、NHK視点・論点に出演して解説を行い、また、東北大学サイエンスカフェで講演を行うなど、研究成果の社会への還元に努めた。また、高校への出前講義や大崎市地域マガジンの原稿執筆を行った。自治体においては、東北地方整備局の委員を2件、仙台市の委員を1件務めた。

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	CC 創生 研究 交流会	講演			気候変動による将来の災害リスク評価 ～砂浜消失予測を中心に～	文部科学省気 候変動適応研 究推進プログ ラム事務局	東京都港区・リモ ートセンシング技術セ ンター本社会議室
	小中高との連携	出前講義	講義			「学びのその先へ～学問の社会的意義を考える～」 「消えゆく砂浜」	青森県立弘前 高校進路指導 部	弘前市・青森県立 弘前高等学校
	公開講座	東北大学 サイエンスカフェ	講演			消えゆく砂浜～砂浜の未来について考える～	東北大学 総務企画部 広報課	仙台市・東北大学 片平キャンパス北門 会館 階エスパス

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	国土交通省 東北地方整備局		リバーカウンセラー(名取川)	
	国土交通省 東北地方整備局	仙台湾南部海岸地区環境等検討懇談会	委員	
	仙台市	広瀬川清流保全審議会	委員	

坂巻 隆史 准教授

Takashi SAKAMAKI

災害リスク研究部門 災害ポテンシャル研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	工学部			東北大学大学院	工学研究科			博士(工学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東北大学大学院 経済学研究科	日本学術振興会特別研究員
				C	
				琉球大学 亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構	特命准教授
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

所属学会

土木学会	水環境学会	生態学会	
------	-------	------	--

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
土木学会	東北支部	幹事	

研究分野・キーワード

水環境工学	応用生態学	生物地球化学
-------	-------	--------

全学・他部局の委員会での役員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
工学部土木工学教室	コース長会議	水環境デザインコース副コース長	
工学部土木工学教室	教育改善委員会	委員	
工学部土木工学教室	学術広報・国際交流委員会	委員	
工学部土木工学教室	大学院入試	電算班	

【研究活動】

研究活動の概要

宮城・岩手沿岸の流域を対象として震災および流域開発が水環境に及ぼす影響の解析を行い、被災地域の新たな流域環境下での水環境管理方策の適正化に資する知見の提示を目指している。また、震災により大きな被害を受けた南三陸町沿岸を対象フィールドとして、沿岸環境管理方策の適正化を念頭に、物質動態と養殖漁業の相互関係の定量的理解、藻場や河口等エコトンの生態学的役割の把握を目指した生態工学的研究を展開している。当研究においては、南三陸町内の漁業従事者と連携を密にとりながら生物地球化学的環境や生物群集に関するデータ取得を進めており、これまでにその基礎的なデータの集積を行なった。
--

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		干潟底質性状の形成プロセスの解析	なし
			現在		生物地球化学的マーカーによる河川・沿岸域における物質動態と食物網の解析	国外
			現在		沿岸浅海域における生物群集の環境変動への応答解析	国内
			現在		東日本大震災後の沿岸環境の生態系動態と持続的利用に関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	震災による宮城県沿岸における生態系の変化	学術雑誌	無	いいえ	海洋開発シンポジウム論文集		C				坂巻隆史, 西村修	筆頭共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ							—	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C —	共著	国外

	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	— _____	共著	国外
--	----	--	------	---	-----	--	--	--	--	--	--	---	------------	----	----

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

第8版「平成」年代別・分野別統計（国米転載あり）				うち					
単著	筆頭共著	その他の 共著	合計	国際 査読有		国際 査読無		国内 査読有	国内 査読無
10	10	10	30	10		10		10	10

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
日本語	東北大学における震災復興支援への取組み	その他	無	はい	土木学会誌						坂巻隆史, 真野明	筆頭共著	なし

学会发表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
国際		筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)			国内
国内	日本水産学会春季大会	単名	はい	東京		口頭(招待・特別)	流域起源有機物の沿岸域における一次消費者への 蓄与の大きさは何でまえるのか	<u>坂巻隆史</u>	国外

【教育活動】

教育活動の概要

土木工学会の工学部・工学研究科の学生向け授業を通じて防災・災害科学とも関連した環境科学について教育活動を行った。また、土木工学会の学部学生・大学院生に対する卒論・修論・博論指導を通じて、開発・防災等との調和をはかりながらいかに水圏の生態系を保全するかをテーマに教育を行った。

担当授業科目

科目名	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	生態工学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	
	生態影響評価論	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		後期	
	環境学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	環境工学概論	東北大学	工学部	工学部共通		セメ	
	基礎生態工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	生物工学概論	東北大学	工学部	工学部共通(教職)		セメ	
	水環境創造のフロンティア	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	工学倫理	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

気仙沼分室 メンバーとしての活動を通じて、防災文化講演会の開催や分室の運営に係る業務を行った。また、国連防災会議等におけるゲストの受け入れに向けた気仙沼地域のフィールドアコースの設定などに関して他の分室メンバーとともに準備を行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	災害科学国際研究 所 気仙沼分室	第4回防災文化講演会			気仙沼市・海 の市	市民向け講演会・セ ミナー	運営担当		主催	気仙沼市との 共催
	国内	災害科学国際研究 所 気仙沼分室	第5回防災文化講演会			気仙沼市・海 の市	市民向け講演会・セ ミナー	運営担当		主催	気仙沼市との 共催
	国内	災害科学国際研究 所 気仙沼分室	第6回防災文化講演会			気仙沼市・海 の市	市民向け講演会・セ ミナー	運営担当		主催	気仙沼市との 共催

呉 修一 助教

Shuichi KURE

災害リスク研究部門 災害ポテンシャル研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
中央大学	理工学部			中央大学大学院	理工学研究科			博士(工学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				カリフォルニア大学デービス校 土木環境工学科	博士研究員
				北海道大学大学院 工学研究院	博士研究員
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

所属学会

土木学会	水文・水資源学会	日本自然災害学会	
------	----------	----------	--

研究分野・キーワード

水文学	水工水理学	水文気象学
-----	-------	-------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
工学研究科	大学院入試広報委員会	委員	

【研究活動】

研究課題

期間				研究課題(内容)	学外連携
開始年	月	終了年	月		
		現在		東北地方河川における水害調査手法の標準化および洪水予測手法の開発	国内
				インドネシア・スラバヤにおける泥火山の噴出が河川環境に与えた影響評価	国外
		現在		タイ・チャオプラヤ川流域における大ダム貯水池の治水・利水にとって有効な最適運用手法の開発	国外
		現在		インドネシア・ジャカルタの洪水メカニズムの解明と地球温暖化に伴う将来の洪水リスクの算定・適応策の提案	国外
		現在		フィリピン台風ハイエンによる被害拡大要因の解明	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____ _____ _____	共著	国外
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ	C						_____ _____ _____	共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C						_____ _____ _____	筆頭共著	国外
	英語	C C	国際会議	有	いいえ	C						_____ _____ _____	共著	国外
	英語	C C C	国際会議	有	いいえ	C						_____ _____ _____	共著	国外
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ							_____ _____ _____	共著	国外
	日本語	インドネシア・ジャカルタ洪水を引き起こす様々な社会問題と 年 月洪水の特徴	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集G 環境						呉修一, 堀谷陽, _____, _____, 有働恵子, 真野 明	筆頭共著	国外
	英語	C	国際会議	有	いいえ	C						_____ _____ _____	共著	国外
	英語		国際会議	有	いいえ	C						_____ _____ _____	共著	国外

英語	C	国際会議	有	いいえ	C							_____	共著	国外
英語	ε	国際会議	有	いいえ	C							_____	共著	なし
英語		国際会議	有	いいえ	C							_____	共著	なし
英語	C	国際会議	有	いいえ	C							_____	筆頭共著	なし
英語		国際会議	無	はい								_____	筆頭共著	国外
英語		学術雑誌	有	いいえ	C C							_____	共著	国外
英語		学術雑誌	有	いいえ	C C							_____	共著	国外
日本語	台風ハイエンに伴うレイテ島沿岸部の人的被害状況	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 海岸工学							呉修一, _____, C _, _____, 越村俊一, 真野 明	筆頭共著	国外
英語	C C	学術雑誌	有	いいえ								_____	共著	国内
日本語	台風 号ハイエンに対するフィリピン・レイテ島河川の洪水応答特性	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 水工学							呉 修一 _____ 真野 明	筆頭共著	国外
日本語	タイ国チャオプラヤー川流域内の大規模ダム貯水池の新しい簡便な運用方法の提案と検証	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 水工学							道谷健太郎・手計太一・呉修一・スヴァンビモルボンサコーン	共著	国外
日本語	泥火山の噴火がインドネシア・ボロン川および周辺に与えた影響	学術雑誌	無	いいえ	東北地域災害科学研究							呉 修一 梅田 信 田中 仁 有働恵子 真野 明	筆頭共著	国外
日本語	台風 号 によるフィリピン・レイテ島の人・建物被害の定量的評価	学術雑誌	無	いいえ	東北地域災害科学研究							加藤圭悟 呉 修一 有働恵子 真野 明	共著	国外

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際	C	筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)		_____	国外
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C C	_____ C	国外
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C C C C	_____	国外
	国内	土木学会地球環境シンポジウム	筆頭 連 名	いいえ	東京		口頭(一般)	インドネシア・ジャカルタ洪水を引き起こす様々な社会問題と 年 月洪水の特徴	呉修一, _____, 福 谷陽, _____, 明, _____, 有働恵子, 真野	国外
	国内	水文・水資源学会研究発表会	筆頭 連 名	いいえ	宮崎		口頭(一般)	年台風 号ハイエン被害に関するフィリピン現地調査	呉修一, 地引泰人, サッパシー アナワット, 有働恵子, 真野明	国外
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C	_____	国外
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		_____	国外
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C	_____	国外
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	ε	_____	なし
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		_____	なし
	国際	C	筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)	C	_____	国外

	国際		筆頭 連名	はい	C		口頭(招待・特別)		――	国外
	国内	第 回海岸工学講演会	その他の連名	いいえ	名古屋		口頭(一般)		―― C	国外
	国内	第 回海岸工学講演会	その他の連名	いいえ	名古屋		口頭(一般)		―― C	国外
	国内	第 回海岸工学講演会	筆頭 連名	いいえ	名古屋		口頭(一般)	台風ハイエンに伴うレイテ島沿岸部の人的被害状況	呉修一, C, , , 越村俊一, 真野明	国外
	国際	C	筆頭 連名	はい			口頭(招待・特別)		――	国外
	国内	第 回水工学講演会	筆頭 連名	いいえ	東京		口頭(一般)	台風 号ハイエンに対するフィリピン・レイテ島河川の洪水応答特性	呉修一 真野 明	国外
	国内	第 回水工学講演会	その他の連名	いいえ	東京		口頭(一般)	タイ国チャオプラヤー川流域内の大規模ダム貯水池の新しい簡便な運用方法の提案と検証	道谷健太郎, 手計太一, 呉修一, スヴァンビモルボンサコーン	国外

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1	件
----	---	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内		年フィリピン台風調査報告会			せんたいメディア テーク(宮城県仙台市)	市民向け講演会・セミナー	運営担当		主催	国外
	国内		東南アジアにおける大規模水災害から得られた教訓 命をいかに守るか, 第 回国連防災世界会議パブリックフォーラム			東北大学川内北 キャンパス(宮城県仙台市)	市民向け講演会・セミナー	運営担当		主催	国外

【教育活動】

教育活動の概要

東北大学工学部講義の、建築・社会環境工学演習（セメ）、社会環境工学実験（セメ）、水環境デザイン演習Ⅰ（セメ）、水環境デザイン演習Ⅱ（セメ）を担当するとともに、災害ポテンシャル研究室所属の学部、修士、博士学生の研究指導・補助等を精力的に行っている。また水環境デザインコースの水理系で組織するゼミ、ゼミ等へ積極的に参加している。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	建築・社会環境工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	社会環境工学実験	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	水環境デザイン演習Ⅰ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	水環境デザイン演習Ⅱ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
		茨城大学	農学部			集中講義	

【社会活動】

社会活動の概要

年 月山形豪雨災害において緊急調査団を結成し、緊急調査およびその後の解析、継続調査を精力的に行った。また、一般市民向けの講演会やセミナーで講演等を実施している。

セミナー・講演・講義等

合計	1	件
----	---	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	公開講座	第 回地盤工学講座	招待講演			豪雨と災害、河川洪水氾濫	地盤工学会	多賀城市・東北学院大学
	小中高との連携	仙台市立中学校「総合的な学習の時間」	招待講演			地球温暖化で将来の水災害は増加するのか？	仙台市中学校	仙台市・仙台市中学校

越村 俊一 教授

Shunichi KOSHIMURA

災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	工学部			東北大学大学院	工学研究科			博士(工学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				日本学術振興会(東京大学地震研究所, 米国海洋大気局)	特別研究員
				阪神・淡路大震災記念協会 人と防災未来センター	専任研究員
				東北大学大学院工学研究科 災害制御研究センター	准教授
		現在		東北大学災害科学国際研究所	教授
		現在		神戸大学大学院 海事科学研究科 国際海事研究所	客員教授

所属学会

日本土木学会	地域安全学会	日本計算工学会	日本地震学会	米国地球物理学連合
--------	--------	---------	--------	-----------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本土木学会	海岸工学委員会	委員	
日本土木学会	C	副編集長	
地域安全学会		理事	
日本地震工学会	耐津波工学委員会	幹事	
	C	委員	

研究分野・キーワード

津波工学	リモートセンシング	空間情報科学	シミュレーション
------	-----------	--------	----------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
工学研究科	大学院教務委員会	委員	
工学研究科	土木工学専攻	水環境デザインコース長	
工学研究科	土木工学専攻	就職担当	
工学研究科	土木工学専攻・教育改善委員会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

東日本大震災における教訓を踏まえ、我が国が持つ最先端のシミュレーション・センシング・Cを統合し、津波発生直後のきめ細かな津波情報や迅速な被害情報の推計・把握と配信を通じて被災地を支援し、災害に対するレジリエンスの向上と我が国の国土強靱化に資する、新しい広域被害把握技術の体系の構築に取り組んだ。本学サイバーサイエンスセンターや産学連携により、地震発生後から 分以内で の分解能での浸水・被害予測が可能であることを実証した。また、ソーシャルセンシング・ビッグデータ解析との融合による、新しい災害シミュレーションの創出にも取り組んだ。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
					大洋を伝わる津波の伝播, 大規模海底地形に捕捉される津波の特性に関する理論的研究	国外
					津波による被害予測手法および減災策に関する研究	国外
					津波浸水および被害の即時的予測技術とリモートセンシングによる被害把握技術の融合に関する研究	国外
			現在		東日本大震災の被害全貌の解明と, 震災の教訓を踏まえた次世代災害予測・減災システムに関する研究	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国外
	日本語	海洋ブイ係留系の長期耐久特性に関する実証調査	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 (海洋開発)						寺田 幸博 永井 紀彦 加藤 照之 越村 俊一 川口 浩二 松下 泰弘	共著	国内

英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
英語	C	国際会議	有	いいえ	C	C						共著	国外
英語		国際会議	有	いいえ							C	共著	国外
英語		国際会議	有	いいえ								共著	国外
英語		国際会議	有	いいえ								共著	国内
英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
英語		学術雑誌	有	はい								筆頭共著	なし
英語	C	単行本 (論文掲載)	有	いいえ								共著	なし
日本語	橋梁上部構造に作用する津波波力特性に関する基礎的研究	学術雑誌	有	いいえ	日本地震工学会論文集						奥野峻也 登柳 正夫 山口亮 山本 治貴 越村俊一	共著	なし
日本語	東北地方太平洋沖地震の津波被害現地調査結果に基づく非住家建物を対象とした津波損傷度曲線	学術雑誌	有	いいえ	構造工学論文集						林 秀和 青木圭一 四條利久磨 鈴木俊光 越村俊一	共著	なし
日本語	津波入射波の形状が橋梁上部構造への作用津波波力に及ぼす影響	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 海岸工学						四條利久磨 青木圭一 広瀬泰之 鈴木俊光 横山 薫 越村俊一	共著	なし
日本語	建物破壊を考慮した陸域遡上モデルの構築による津波数値計算手法の高精度化	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 海岸工学						林 里美 越村 俊一	共著	なし
日本語	合成開口レーダー画像による津波浸水ラインの半自動抽出ツールの開発	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 海岸工学						郷右近 英臣 越村俊一 松岡 昌志	共著	国外
日本語	画像のオブジェクトベース解析による建物被害推計技術の開発	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 海岸工学						郷右近 英臣 越村俊一 松岡 昌志	共著	国外
日本語	台風ハイエンに伴うレイテ島沿岸部の人的被害状況	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 海岸工学						呉 修一 C 越村 俊一 真野 明	共著	国外
英語		学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 海岸工学						C	共著	国外

	英語		学術雑誌	有	はい							C	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国外
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国外
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国外
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国外

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭 共著	共著	合計	うち	国際	国内
----------	----	----------	----	----	----	----	----

	記述 言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
	日本語	東日本大震災合同調査報告 共通編 津波の特性と被害	単行本		東日本大震災合同調査報告書編集委員会	編著	土木学会	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の 共著	合計	うち	国際 査読有	国際 査読無	国内 査読有	国内 査読無
----	------	------------	----	----	-----------	-----------	-----------	-----------

	記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区 分	学外 連携
	日本語	リモートセンシングによる津波被災地の広域被害把握	その他	無	はい							越村俊一	単著	国内

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			なし
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	その他の 連名	いいえ	横浜市		ポスター(一般)	C		国外
	国内	日本リモートセンシング学会第 回学術講演会	その他の 連名	はい	つくば市		口頭(一般)	C 被害の検出	リュウウエン、松岡昌志、アドリアノブルーノ、マスエリック、越村俊一	国外
	国内	日本船舶海洋工学会 平成 年春季講演会	その他の 連名	はい	仙台市		口頭(招待・特別)	シミュレーションと空間情報学を融合した津波被災地の被害把握	越村俊一 郷右近英臣	なし

	国内	日本船舶海洋工学会 平成 年春季講演会	その他の 連名	いいえ	仙台市		口頭(一般)	新想定津波下での大阪湾における船舶の避難海域 について	村山雅子 小林英一 谷口裕 樹 越村俊一	国内
	国内	日本船舶海洋工学会 平成 年春季講演会	その他の 連名	いいえ	仙台市		口頭(一般)	津波来襲時の緊急離脱操船シミュレーション	米田翔太 小林英一 越村俊 一 浦東弘武	国内
	国内	安全・安心な生活のための情 報通信システム研究会	単名	はい	仙台市		口頭(招待・特別)	シミュレーション・リモートセンシング・ソーシャルセン シングの融合による津波被災地の広域被害把握	越村俊一	なし
	国内	東日本大震災合同報告書 共 通編 編 刊行記念シンポジウ ム	単名	はい	東京都		口頭(招待・特別)	津波の特性と被害, その教訓	越村俊一	なし
	国際	C	単名	はい	バンコク, タイ		口頭(招待・特別)			なし
	国内	第 回性能に基づく橋梁等の 耐震設計法に関するシンポジウ ム	その他の 連名	いいえ	東京都		口頭(一般)	津波ハザードを受ける橋梁の損傷確率の算定およ びその地震時損傷確率との比較	小川 耀 高熊 秀 秋山 充良 越村俊一	なし
	国際	C C C	その他の 連名	いいえ	C		ポスター(一般)			なし
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		C	国外
	国際	C C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C		国外
	国際	C	単名	はい	バンダアチエ, インドネシア		口頭(招待・特別)	C		国外
	国際		単名	はい	ヤンゴン, ミヤ ンマー		口頭(招待・特別)			国外
	国内	日本船舶海洋工学会 平成 年秋季講演会	その他の 連名	いいえ	長崎市		口頭(一般)	新想定津波下での明石海峡における船舶の避難に ついて	村山雅子 小林英一 谷口裕 樹 越村俊一	国内
	国内	日本船舶海洋工学会 平成 年秋季講演会	その他の 連名	いいえ	長崎市		口頭(一般)	津波による大阪湾での底質巻き上げ発生条件の推 定	鈴木鑑人 林 美鶴 中田聡史 小林栄一 越村俊一	国内
	国内	日本船舶海洋工学会 平成 年秋季講演会	その他の 連名	いいえ	長崎市		口頭(一般)	重合格子型 法を用いた津波襲来時の船体動 揺予測の基礎検討	米田翔太 小林英一 田原裕 介 橋本博公 越村俊一	国内
	国内	日本船舶海洋工学会 平成 年秋季講演会	その他の 連名	いいえ	長崎市		口頭(一般)	津波来襲時の錨泊船舶の挙動にかかる錨鎖モデル の検討	米田翔太 小林英一 世良 亘 越村俊一 白川裕太	国内
	国内	日本船舶海洋工学会 平成 年秋季講演会	その他の 連名	いいえ	長崎市		口頭(一般)	大阪湾における津波来襲時の船舶の定点停留に関 する研究	川端拓郎 世良 亘 小林英一 越村俊一	国内
	国際	C	単名	はい	ジャカルタ, イ ンドネシア		口頭(招待・特別)			国外
	国内	回日本地震工学シンポジウ ム	その他の 連名	いいえ	千葉市		口頭(一般)			国外
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			なし
	国際		筆頭 連 名	はい			口頭(招待・特別)			国内
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(招待・特別)		C	国外

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計	件
----	---

	種別	国内 国外	発明の名称	発明者 (申請者)	出願番号 (特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	学外 連携
	特許	国内	津波浸水予測システム、制御装置、津波 浸水予測の提供方法及びプログラム	越村俊一	特願				学外共同の成果	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国際	災害科学国際研究所	国連防災世界会議パブリックフォーラム「シミュレーション・センシング・空間情報の融合による減災力の強化」			東北大学川内キャンパス	学会・シンポジウム	代表者		主催	国外

【教育活動】

教育活動の概要

東日本大震災の教訓を踏まえ、学生と協働するという意識の元、広域被害把握技術の枠組みを構築した。学生には、研究成果の発信の重要性を伝え、国内外での積極的な発表を心がけるよう指導した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	数学物理学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	基礎ゼミ(水と環境)	東北大学	全学			セメ	
	基礎ゼミ(災害の科学)	東北大学	全学			セメ	
	基礎設計	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	沿岸環境海洋工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	防災システム論	東北大学	大学院工学研究科	土木工学専攻		前期	
	リーディング大学院 C 研修	東北大学	大学院工学研究科			前期	

【社会活動】

社会活動の概要

災害科学国際研究所の理念に則り、被災地の復興への貢献と東日本大震災の教訓の発信、新しい減災研究のパラダイムを創成するという目標のもと、社会活動を行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国際	ドイツ航空宇宙センター				・ドイツ	学会・シンポジウム	企画・運営担当		協力	
	国際	東北大学災害科学国際研究所	国連防災世界会議パブリックフォーラム「シミュレーション・センシング・空間情報の融合による減災力の強化」			仙台市・東北大学	学会・シンポジウム	企画・運営担当		主催	

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	展示会	東北	展示			広域被害把握技術の展開	国土交通省	仙台市
	講演会・セミナー	第 回建設技術講習会	招待講演			今後の地震・津波防災のあり方について	全日本建設技術協会、岩手県、盛岡市	盛岡市
	講演会・セミナー	C 国際研修交流協会国際セミナー	招待講演				C 国際研修交流協会	福島県耶麻郡
	講演会・セミナー	情報通信審議会最終答申を受けたワークショップ	特別講演			リアルタイム津波浸水・被害予測・災害情報配信システムの開発と自治体・国民の減災力強化	総務省	東京都
	講演会・セミナー	土木学会東北支部懇談会	招待講演			災害発生直後の救援活動に資する広域被害把握技術	土木学会東北支部	仙台市
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブリックフォーラム「東日本大震災からの多重防御によるまちづくり」	基調講演			社会のための津波科学技術ー津波に強い社会づくりに向けてー	宮城県	仙台市
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブリックフォーラム「津波が沿岸域の船舶や海洋環境に与える影響」	特別講演				神戸大学	仙台市
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブリックフォーラム「 」	パネリスト				環境省	仙台市
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブリックフォーラム「災害に強くなやかな社会の創造を目指して」	招待講演			大規模・高分解能数値シミュレーションの連携とデータ同化による革新的地震・津波減災ビッグデータ解析基盤の創出		仙台市

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	大規模災害衛星画像解析ワーキンググループ	委員	
	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	観測衛星を利用した防災利用実証活動水害ワーキンググループ	委員	
	原子力環境整備促進・資金管理センター	巨大地震・津波等の対策技術検討委員会	委員	
	東北電力	津波評価に関する技術検討会	委員	
	損害保険料率算出機構	災害科学研究会委員	委員	
	宮城県	津波検討委員会	委員	
	文部科学省	地震調査研究推進本部	専門委員	
	気象庁	津波予測技術勉強会	委員	
	内閣府	防災関連調査研究の戦略的推進ワーキンググループ	委員	
	国土交通省	海岸技術懇談会	委員	
	国土交通省	南海トラフ地震等災害対策検討委員会	委員	
	高知県	石油基地等地震・津波対策検討会	委員	
	福島県	技術検討会	委員	
	茨城県	茨城県原子力安全対策委員会	委員	
	特定非営利活動法人・大規模災害対策研究機構		理事	

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	(インドネシア)	講師		学術交流協定(研究目的)		国外	講演・発表	
	ドイツ航空宇宙センター (ドイツ)			学術交流協定(研究目的)		国外	運営	

マス サマネス エリック アルトゥロ 助教

Erick Arturo MAS SAMANEZ

災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
国立工科大学(ペルー)	土木工学部			東北大学大学院	工学研究科土木工学専攻			博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				カヤオ県庁(ペルー国)	津波防災公務員
				カヤオ県庁(ペルー国)	災害防災研修コース担当者
				ラ・プンタ市役所(ペルー国)	市長の災害防災アドバイザー
				カヤオ県庁(ペルー国)	津波防災公務員
				東北大学(日本国)	大学院生(博士)
		現在		東北大学 災害科学国際研究所 (日本国)	助教

所属学会

C C			C C		C C
--------	--	--	--------	--	--------

研究分野・キーワード

津波工学	災害リスク管理	地理情報システム
------	---------	----------

【研究活動】

研究活動の概要

エージェントベース津波避難シミュレーション導入することにより避難者の行動支援のため複数の避難シナリオを検討し、東日本大震災の避難の教訓に用いて様々の避難の課題を分析した。例えば、避難者の避難開始時間の検討し、避難所の空間的と容量の問題を推定した。(2)津波被害関数及び建物被害推定に関しては、津波数値計算と地理情報システムの技術を統合し、津波ハザード評価と被害把握を解析した。(3)また、世界中で災害緊急際に社会対応ため、リアルタイム津波シミュレーションの研究を行った。特に遠地津波が発生したら自動的に津波高さと到達時間を予測した。(4)平成 年度の被害現地調査に参加した。これで、台風や津波の影響をもっと深く理解した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		エージェントベース津波避難シミュレーション	国外
			現在		津波被害関数・津波建物被害推定	国内
			現在		リアルタイム津波シミュレーション	なし

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	筆頭共著	国内
	英語		単行本(論文掲載)	有	いいえ	C							共著	国内
	英語		国際会議	有	いいえ	C							共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C						C	筆頭共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C						C	共著	国内

日本語		学術雑誌	有	いいえ	C							C	共著	国内
日本語		学術雑誌	有	いいえ	C								共著	国内
英語		国際会議	有	いいえ	C								共著	国内
英語		単行本 (論文掲載)	有	はい									筆頭共著	国外
英語	C	学術雑誌	有	はい									筆頭共著	国内
英語	C	学術雑誌	有	はい								C	共著	国外
英語		学術雑誌	有	はい								C	共著	国外
英語		学術雑誌	有	はい									共著	国内

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際	C	筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	筆頭 連名	いいえ	横浜市, 日本		ポスター(一般)	C		国内
	国内		単名	はい			口頭(招待・特別)			国内
	国際	C	筆頭 連名	いいえ	C		ポスター(一般)			国内
	国際	C	筆頭 連名	いいえ	C		口頭(一般)			国内
	国際		筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)		C	国外
	国際		筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)	C		国内
	国際		筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)			国内

	国際	C	筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)	C	_____	国内
	国際	C	筆頭 連名	はい			口頭(招待・特別)		_____	国内
	国際		筆頭 連名	はい			口頭(一般)		_____	国内
	国際		筆頭 連名	はい	C		口頭(招待・特別)		_____	国内
	国際		筆頭 連名	はい	C		口頭(基調)		_____	国内
	国内	回日本地震工学シンポジウム	筆頭 連名	いいえ	千葉市, 日本		口頭(一般)		_____	国内
	国際		筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)		_____	国内
	国際	C	筆頭 連名	はい			口頭(招待・特別)		C _____	国内
	国際	C	筆頭 連名	はい			口頭(招待・特別)		_____	国内
	国内	平成 年度土木学会東北支部技術研究発表会	筆頭 連名	いいえ	多賀城市, 日本		口頭(一般)		_____	国内
	国内	平成 年度土木学会東北支部技術研究発表会	筆頭 連名	いいえ	多賀城市, 日本		口頭(一般)		_____	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	日本地球惑星科学 連合 年大会				パシフィコ横浜(横 浜市)	学会・シンポジウム	C C		なし	国内

五十子 幸樹 教授

Kohju IKAGO

災害リスク研究部門 最適減災技術研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
京都大学	工学部		3	京都大学大学院	工学研究科			博士 工学		

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
					株 日建設計	構造設計部員
					株 日建設計	構造設計主管
					東北大学大学院 工学研究科	准教授
			現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

所属学会

日本建築学会

研究分野・キーワード

最適設計	免震構造	制震構造	耐震工学	構造制御
------	------	------	------	------

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
	工学部	カリキュラム委員会(都市・建築学専攻)	委員長	
	工学部	工学部教務委員会	委員	
	工学部	エネルギー安全科学国際研究センター運営委員会	委員	
	全学	全学入試実施委員会	委員	
	全学	自然科学系学生交流実施委員会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

主として免震構造物を対象に、新しい振動制御要素としてダイナミック・マス 増幅された見かけ質量要素 と、粘性要素、支持バネ要素の最適な特性値の組み合わせを探索する手法を、多目的最適化問題の定式化と実数変数多目的遺伝アルゴリズムの開発により実現した。また、振動制御装置の大規模実験のためのリアルタイムハイブリッドシミュレーション技術の高度化へ向けた検討を行った。これら研究は今後の発展性が期待できる。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		同調粘性マスダンパー制震システムの開発	国内
			現在		回転慣性質量ダンパーを用いた免震制御技術の開発	国内
			現在		高層建築物の地震時下層部変形集中現象の解明と制御技術の開発	国内
			現在		多目的遺伝アルゴリズムによる免震制御デバイスの創生	国内
			現在		振動制御デバイスのリアルタイムハイブリッドシミュレーション技術の高度化	国外
			現在		力学変分原理の逆問題定式化と構造最適化	なし

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	粘性 マス直列型ダンパーによる免震建物の地震応答制御に関する研究	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会東北支部研究報告集						菊地淳哉, 掛本啓太, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
	日本語	ダンパーを用いた免震建物用複素剛性ダンパーの実現手法の検討	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会東北支部研究報告集						中村俊介, 熊谷成晃, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
	日本語	軸力制限機構にビンガム流体を用いた粘性マスダンパーの免震構造物への適用性	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会東北支部研究報告集						池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
	日本語	粘性マスダンパーの緩衝支持部材が免震構造物において応答に及ぼす影響の実験的検討	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会東北支部研究報告集						護法亜弥, 菊地淳哉, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
	日本語	軸力制限が同調粘性マスダンパーを有する制振構造物に及ぼす影響とその評価手法	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会東北支部研究報告集						新城季樹, 菊地建人, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
	日本語	高層建物の曲げ変形が同調粘性マスダンパー付き多層構造物のモード性状に与える影響	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会東北支部研究報告集						楊瀚, 上條祐人, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
	日本語	免震建物における粘性マスダンパーの軸力制限と緩衝ばねの効果	学術雑誌	有	いいえ	日本建築学会構造系論文集						中南滋樹, 木田英範, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし

英語		国際会議	無	いいえ	C C							筆頭共著	なし
日本語	パルス性地震動に対する同調粘性マスダンパーの有効性の検討	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						村上有, 荒木慶一, 五十子幸樹	共著	なし
日本語	繰り返し水平載荷を受ける高層骨組の下層部変形集中現象に関する一考察	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						高橋秀治, 前田周作, 五十子幸樹, 池永昌容, 鈴木裕介	共著	なし
日本語	ダンパーを用いた免震建物用複素剛性ダンパーの実現手法の検討 (その1) フィルタ処理を用いた制御則の提案とその概要	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						熊谷成晃, 中村俊介, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
日本語	ダンパーを用いた免震建物用複素剛性ダンパーの実現手法の検討 (その2) 提案制御の有効性の検討	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						中村俊介, 熊谷成晃, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
日本語	粘性 マス直列型ダンパーによる免震建物の地震応答制御に関する研究 (その1) ダンパー概要とその基本応答性状	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						菊地淳哉, 掛本啓太, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
日本語	粘性 マス直列型ダンパーによる免震建物の地震応答制御に関する研究 (その2) システムの最適制御法と実建物への適用例	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						掛本啓太, 菊地淳哉, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
日本語	粘性マスダンパーの緩衝支持材が免震構造物において応答に及ぼす影響の実験的検討	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						護法亜弥, 菊地淳哉, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
日本語	最適な履歴型ダンパーに基づく多段方式連結機構摩擦ダンパーの特性設定	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						堀則男, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
日本語	軸力制限が同調粘性マスダンパーを有する制振構造物に及ぼす影響 (その1) 軸力制限に伴う制振性能の劣化メカニズム	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						新城季樹, 菊地建人, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
日本語	軸力制限が同調粘性マスダンパーを有する制振構造物に及ぼす影響 (その2) 軸力制限に伴う性能低下の評価手法	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						菊地建人, 新城季樹, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
日本語	同調粘性マスダンパー付き制振構造物の入力地震動特性による制振効果の違い (その1) 定常応答およびインパルス応答	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
日本語	同調粘性マスダンパー付き制振構造物の入力地震動特性による制振効果の違い (その2) 繰返し型地震動およびパルス型地震動に対する応答変位抑制効果	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						五十子幸樹, 池永昌容, 井上範夫	筆頭共著	なし
日本語	高層建物の曲げ変形が同調粘性マスダンパー付き多層構造物のモード性状に与える影響 (その1) 同調粘性マスダンパー付き曲げせん断型多層モデルのモード性状	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						, 上條祐人, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
日本語	高層建物の曲げ変形が同調粘性マスダンパー付き多層構造物のモード性状に与える影響 (その2) 実用的応答評価法の曲げせん断型多層モデルへの適用性	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						上條祐人, , 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
日本語	入れ子型多重同調粘性マスダンパー制振システムの地震応答性状	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集						木田英範, 中南滋樹, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
英語	C	国際会議	無	いいえ	C C							筆頭共著	なし
英語	C	国際会議	無	いいえ	C C							共著	なし
日本語	集中配置型同調粘性マスダンパー制振システムの等価縮約二自由度置換	学術雑誌	無	いいえ	第14回日本地震工学シンポジウム論文集						新城季樹, 池永昌容, 五十子幸樹, 井上範夫	共著	なし
英語		学術雑誌	無	いいえ							C C	共著	なし

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭 共著	共著	合計	うち 国際	国内
----------	----	----------	----	----	-------	----

記述 言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
日本語	やさしくわかる建物振動制御	単行本		日本建築学会	共編著	日本建築学会	なし

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	第 回日本建築学会東北支部研究報告会	その他の 連名	いいえ	郡山市		口頭(一般)	軸力制限機構にビンガム流体を用いた粘性マスダンパーの免震構造物への適用性	池永昌容, <u>五十子幸樹</u> , 井上範夫	なし
	国際	C	筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)		_____	なし
	国際	C	筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)	C	_____	なし
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C	_____	なし
	国内	年度日本建築学会大会 [近畿]	その他の 連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	パルス性地震動に対する同調粘性マスダンパーの有効性の検討	村上宥, 荒木慶一, <u>五十子幸樹</u>	なし
	国内	年度日本建築学会大会 [近畿]	その他の 連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	ダンパーを用いた免震建物用複素剛性ダンパーの実現手法の検討 (その1) フィルタ処理を	熊谷成晃, 中村俊介, 池永昌容, <u>五十子幸樹</u> , 井上範夫	なし
	国内	年度日本建築学会大会 [近畿]	その他の 連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	粘性 マス直列型ダンパーによる免震建物の地震応答制御に関する研究 (その2) システムの最適	掛本啓太, 菊地淳哉, 池永昌容, <u>五十子幸樹</u> , 井上範夫	なし
	国内	年度日本建築学会大会 [近畿]	その他の 連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	最適な履歴型ダンパーに基づく多段方式連結機構摩擦ダンパーの特性設定	堀則男, 池永昌容, <u>五十子幸樹</u> , 井上範夫	なし
	国内	年度日本建築学会大会 [近畿]	その他の 連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	軸力制限が同調粘性マスダンパーを有する制振構造物に及ぼす影響 (その2) 軸力制限に伴う性能低下の評価手法	菊地建人, 新城幸樹, 池永昌容, <u>五十子幸樹</u> , 井上範夫	なし
	国内	年度日本建築学会大会 [近畿]	その他の 連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	同調粘性マスダンパー付き制振構造物の入力地震動特性による制振効果の違い (その1) 定常応答およびインパルス応答	池永昌容, <u>五十子幸樹</u> , 井上範夫	なし
	国内	年度日本建築学会大会 [近畿]	筆頭 連 名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	同調粘性マスダンパー付き制振構造物の入力地震動特性による制振効果の違い (その2) 繰返し型地震動およびパルス型地震動に対する応答変位抑制効果	<u>五十子幸樹</u> , 池永昌容, 井上範夫	なし
	国内	年度日本建築学会大会 [近畿]	筆頭 連 名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	高層建物の曲げ変形が同調粘性マスダンパー付き多層構造物のモード性状に与える影響 (その2) 実用的応答評価法の曲げせん断型多層モデルへの適用性	上條祐人, _____, 池永昌容, <u>五十子幸樹</u> , 井上範夫	なし
	国内	年度日本建築学会大会 [近畿]	その他の 連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	入れ子型多重同調粘性マスダンパー制振システムの地震応答性状	木田英範, 中南滋樹, <u>五十子幸樹</u> , 井上範夫	なし
	国際		単名	はい	C		口頭(招待・特別)		_____	なし

【教育活動】

教育活動の概要

全学、工学部、大学院工学研究科、リーディング大学院の講義を担当した他、工学部の卒業研修生、工学研究科博士前期課程および後期課程学生を指導した。災害科学国際研究所提供の科目としては全学教育科目である「災害と科学」、工学部専門教育科目としては、「創造工学研修」、「都市・建築エンジニアリング」、「建築・社会環境工学演習E」、「建築設計AⅠ」、「建築設計」を博士課程では前期課程の「最適減殺技術学」を後期課程では「災害制御特論」を担当した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	災害と科学	東北大学	全学			セメ	
	社会環境工学演習	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科		セメ	
	創造工学研修	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科		セメ	
	建築設計Ⅰ	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科		セメ	
	災害制御特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			
	最適減災技術学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	
	建築設計	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	
	実践防災学Ⅴ	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			

【社会活動】

社会活動の概要

社会貢献活動としては、宮城県および福島県の耐震診断判定委員会および耐震改修計画評価委員会の委員として、各県の既存不適格建築物の耐震化促進に貢献している。新築建築物については、宮城県土木部および福島県建築安全機構の構造計算適合性判定委員として、構造計算の法令適合性の判定作業を行った。特に、福島県では震災復興に関連して免震構造で設計された原子力災害対策センターの構造計算適合性の判定を実施した。その他、独立行政法人建築研究所国際地震工学センターで制震構造の国際地震工学セミナー講義を実施した。

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	小中高との連携	藤枝東高校模擬授業	模擬授業			建築物を地震から守る免震構造	災害科学国際研究所	災害科学国際研究所
	講演会・セミナー	基礎から学べる基礎セミナーS造基礎Iコース	講演			鋼材・鋼構造の特徴と荷重・応力	日本建築センター	東京・吉野石膏虎ノ門ビル
	講演会・セミナー	独立行政法人 建築研究所 国際地震工学セン	講演			制震構造	独立行政法人 建築研究所	つくば市・独立行政法人 建築研究所

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	福島県建築士事務所協会	耐震診断判定委員会・評価委員会	委員	
	宮城県建築住宅センター	耐震診断判定委員会・評価委員会	委員	
	福島県建築安全機構	構造計算適合性判定委員会	委員	
	宮城県土木部	構造計算適合性判定委員会	委員	

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	蘭州大学			講演	蘭州市・蘭州大学	国外	講演・発表	
	同済大学			講演	上海市・同済大学	国外	講演・発表	
	広州大学			会議	広州市・広州大学	国外	企画	

鈴木 裕介 助教

Yusuke SUZUKI

災害リスク研究部門 最適減災技術研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
日本大学	工学部			日本大学大学院	工学研究科			工学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				日本大学大学院 工学研究科	研究生
				京都大学大学院 工学研究科	研究員
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

所属学会

日本建築学会	コンクリート工学会	土木学会
--------	-----------	------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
一般社団法人 構造技術研究会	遮蔽コンクリートボット研究委員会		
一般社団法人 日本建築防災協会	機械式定着工法研究委員会 実験ワーキンググループ		

研究分野・キーワード

鉄筋コンクリート構造・材料	遮蔽コンクリート
---------------	----------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
工学研究科 都市・建築学専攻	学部入試委員会		
工学研究科 都市・建築学専攻	カリキュラム委員会		
工学研究科 都市・建築学専攻	実験所運営委員会		

【研究活動】

研究活動の概要

(1)「放射線遮蔽コンクリートに関する研究」では、汚染物の各処分場でのリスク評価体系構築を目指し、コンクリートが損傷を受けた際の損傷度とガンマ線遮蔽性能劣化の定量化に関する基礎的事項について遮蔽実験及び解析を通じ検討した。(2)「鉄筋コンクリート建造物の安全性及び修復性評価手法の高度化」では、縮小モデルの部分架構実験や実大レベルの骨組架構実験及び数値解析を通じ、地震力に対する応答推定及び損傷推定手法について検討した。
--

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		放射線遮蔽コンクリートに関する研究	国内
			現在		超早期復旧コンクリート系複合材料及び構造システムの開発	国内
			現在		鉄筋コンクリート造形柱梁接合部の構造性能評価に関する研究	国内
			現在		建物及び地震動特性を考慮した鉄筋コンクリート造建物の安全性及び修復性評価の高度化に関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語	C	国際会議	無	はい	C							共著	国内
	日本語	C造形柱梁接合部の構造性能に及ぼす定着工法及び横補強筋量の影響	学術雑誌	有	いいえ	コンクリート工学年次論文集						伊藤衛, 太田哲郎, 鈴木裕介, 前田匡樹	共著	国内
	日本語	高層 C造建物の地震時応答評価の検証と損傷推定手法	学術雑誌	有	いいえ	コンクリート工学年次論文集						梨本優也, 鈴木一希, 鈴木裕介, 前田匡樹	共著	なし
	日本語	鉄粒粉骨材を用いた高密度モルタルの基礎物性とγ線遮蔽性能評価	学術雑誌	有	いいえ	コンクリート工学年次論文集						鈴木裕介, 木村健一, 荒木慶一	筆頭共著	国内

	英語	C C	学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国内
	英語	C	国際会議	有	いいえ	C C						C	共著	国内

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	第 回日本建築学会東北支部研究報告会	筆頭 連名	いいえ	郡山市		口頭(一般)	鉄粒粉を用いた高密度モルタルのγ線遮蔽容器適用性評価	鈴木裕介, 木村健一, 荒木慶一, 藤倉裕介	国内
	国内	年度日本建築学会大会(近畿)	その他の連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	様々な遮蔽条件に対する高密度モルタルのγ線遮蔽性能評価に関する実験的研究 ―その 放射能汚染レベル及び遮蔽容器形状が異なる場合のγ線遮蔽性能比較―	木村健一, 鈴木裕介, 荒木慶一, 藤倉裕介	国内
	国内	年度日本建築学会大会(近畿)	その他の連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	様々な遮蔽条件に対する高密度モルタルのγ線遮蔽性能評価に関する実験的研究 ―その 損傷を有する高密度モルタルのγ線遮蔽性能劣化―	木村健一, 鈴木裕介, 荒木慶一, 藤倉裕介	国内
	国内	年度日本建築学会大会(近畿)	その他の連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	繰返し水平載荷を受ける高層骨組みの下層部変形集中現象に関する一考察	高橋秀治, 前田周作, 五十子幸樹, 池水昌容, 鈴木裕介	なし
	国内	年度日本建築学会大会(近畿)	その他の連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	応答スペクトルに基づく震災 C造建物の残存耐震性能評価 ―その 評価法の基本概念と架構の性能低下の影響―	姚健健, 郝森罪, 伊藤淑絃, 鈴木裕介, 前田匡樹	なし
	国内	年度日本建築学会大会(近畿)	その他の連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	C C C C		なし
	国内	年度日本建築学会大会(近畿)	筆頭 連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	C造形柱梁接合部の構造性能に及ぼす横補強筋及び軸力の影響 ―その 実験概要―	鈴木裕介, 太田哲郎, 伊藤衛, 足立智弘, 迫田丈志, 前田匡樹	国内
	国内	年度日本建築学会大会(近畿)	その他の連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	C造形柱梁接合部の構造性能に及ぼす横補強筋及び軸力の影響 ―その 荷重変形関係, 破壊経過及び各部材の変形成分割合―	伊藤衛, 太田哲郎, 鈴木裕介, 足立智弘, 迫田丈志, 前田匡樹	国内
	国内	年度日本建築学会大会(近畿)	その他の連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	C造形柱梁接合部の構造性能に及ぼす横補強筋及び軸力の影響 ―その 接合部横補強筋と軸力の影響―	太田哲郎, 伊藤衛, 鈴木裕介, 足立智弘, 迫田丈志, 前田匡樹	国内
	国内	年度日本建築学会大会(近畿)	その他の連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	耐力低下部材を含む鉄筋コンクリート造架構の崩壊点推定に関する研究	劉秀, 梨本優也, 前田匡樹, 鈴木裕介	なし
	国内	年度日本建築学会大会(近畿)	その他の連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	縮小 層 C造架構の振動実験を用いた損傷推定手法の検討 ―その 解析対象実験概要及び結果―	前田匡樹, 梨本優也, 鈴木裕介	なし
	国内	年度日本建築学会大会(近畿)	その他の連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	縮小 層 C造架構の振動実験を用いた損傷推定手法の検討 ―その 損傷推定手法概要と推定結果の考察―	梨本優也, 前田匡樹, 鈴木裕介	なし

【教育活動】

教育活動の概要

「創造工学研修」の講義で、国際トラスコンテスト(決められた重量及び材料を用いてトラス橋を製作し、国内外複数の大学によるトラス橋の強さを競いあうコンテスト)を取り入れ、座学のみでは学べない実践的な思考力を養うこと、更には、トラス橋の製作からコンテストまでのグループワーキングを経験させるとともに、国内外を通じた競争力を意識させることに注力した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	創造工学研修	東北大学	工学部			セメ	
	建築・社会環境工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	鉄筋コンクリート構造	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

「創造工学研修」にも取り入れている、国際トラスコンテストを通し、海外の大学との国際交流活動を実施した。

後藤 和久 准教授

Kazuhisa GOTO

災害リスク研究部門 低頻度リスク評価研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	理学部			東京大学大学院	理学系研究科			博士(理学)		

職歷

期 間				勤 務 先	職 名
開始年	月	終了年	月		
				東京大学	研究拠点形成特任研究員
				東北大学 大学院工学研究科	助教 助手
				千葉工業大学 惑星探査研究センター	上席研究員
				現職	

所属学会

日本地質学会	日本堆積学会	地球惑星科学連合		
--------	--------	----------	--	--

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本地質学会	理事会	理事	
土木学会	原子力土木委員会津波評価部会	委員	
地球惑星科学連合	地球人間科学ボード	委員	
地球惑星科学連合	環境・災害対応委員会	委員	

研究分野・キーワード

低頻度災害	津波堆積物	巨大地震	天体衝突
-------	-------	------	------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	学生生活協議会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

本年度は、年東北地方太平洋沖地震津波における侵食・堆積現象についてこれまでの成果を整理し、誌の特集号に複数の論文を発表した。また、東北地方や島嶼部において古津波堆積物調査を行い、過去の津波の履歴と規模を推定する研究を実施した。特に、八丈島、ハワイ島（米国）、チャタム島（ニュージーランド）において現地調査を実施し、これら島嶼部で津波痕跡が見つかった場合、津波波源精度をどのように向上させるかについて検討を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		年東北地方太平洋沖地震津波の地質学的研究	国外
			現在		島嶼部における津波堆積物調査と波源推定	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち 国際 査読有	国際 査読無	国内 査読有	国内 査読無
----	------	--------	----	-----------------	-----------	-----------	-----------

	記述 言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行 年月日	著者氏名 (共著者含)	共著 区分	学外 連携
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ							—— C	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ							——	共著	国外
	英語	C	学術雑誌	有	はい							—— — —	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ							——	共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ							—— ——	筆頭共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C C	共著	国外
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ							——	共著	国内

	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	C	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ									筆頭共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ									共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ									共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ									共著	国内

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭 共著	共著	合計	うち	国際	国内
----------	----	----------	----	----	----	----	----

	記述 言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
	日本語	週刊 地球 億年の旅 号	その他		後藤和久(監修)	監修書	朝日新聞出版社	なし
	日本語	巨大津波 地層からの警告	単行本		後藤和久	単著	日本経済新聞出版社	なし

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の 共著	合計	うち	国際 査読有	国際 査読無	国内 査読有	国内 査読無
----	------	------------	----	----	-----------	-----------	-----------	-----------

	記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻 号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区 分	学外 連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ						C	C	筆頭共著 国外

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	地球惑星科学関連学会 年合同大会	筆頭 連 名	いいえ	横浜		口頭(一般)	岩手県野田村における津波堆積物調査結果に基づく三陸地方北部の津波履歴の検討	後藤和久・飯嶋耕崇・西村裕一・菅原大助・横山祐典・宮入陽介・沢田近子・中村有吾	国内
	国際		筆頭 連 名	いいえ	札幌		口頭(一般)			国内
	国内	日本地質学会	単名	いいえ	鹿児島		口頭(一般)			なし
	国内	第四紀学会	筆頭 連 名	はい	柏		口頭(招待・特別)	津波堆積物を用いた古津波規模の推定にむけて	後藤和久, 菅原大助	なし
	国際		単名	はい	ブーケット, タイ		口頭(基調)			なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	災害科学国際研究所, 日本学術会議, 産業技術総合研究所	ジオハザード軽減に向けた地球科学の人材育成: 防災国際ネットワーク構築			東北大学	学会・シンポジウム	運営担当		主催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

地学専攻の大学院生および学部学生を受け入れ、指導教員として研究指導を行った。授業では、オムニバス形式の講義を複数担当した。また、熊本大学および高知大学で集中講義を行った。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
	地球システム科学	東北大学	理学部			セメ	
	地球システム科学	東北大学	医・歯・農・薬学部			セメ	

	地球システム科学	東北大学	工学部			セメ	
	基礎ゼミ	東北大学	全学			セメ	
	災害の科学	東北大学	全学			セメ	
	津波災害と地球惑星科学(集中講義)	熊本大学	自然科学研究科	理学専攻			
	地球科学概論 (集中講義)	高知大学	全学				

【社会活動】

社会活動の概要

一般講演として、国連防災世界会議のサイドイベントを含め 件の講演を国内外で行った。また、国や地方自治体の委員会において、津波・津波堆積物研究の専門家として助言を行った。

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	講座「宇宙(そら)から降ってくる」	依頼講演			恐竜絶滅の隕石衝突の痕跡を探索	千葉市科学館	千葉市・千葉市科学館
	講演会・セミナー	講演会	依頼講演					ヒロ市・
	講演会・セミナー	第 回「環境サイエンスカフェ」	依頼講演			巨大津波 一歴史・先史時代の津波痕跡を探るー	日立環境財団	千代田区・サロン・ド・富山房
	講演会・セミナー	太平洋地域の津波災害痕跡・経験と知恵の継承	依頼講演			近地津波と遠地津波のメカニズム	仙台市教育委員会	仙台市・ ガーデンシティ仙台
	講演会・セミナー	太平洋地域の津波災害痕跡・経験と知恵の継承	依頼講演			環太平洋沿岸の津波痕跡と災害	仙台市教育委員会	仙台市・ ガーデンシティ仙台

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	科学技術動向研究センター		専門調査員	
	岩手県	津波痕跡アドバイザー	アドバイザー	
	文部科学省	地震調査委員会・津波評価部会	委員	
	静岡県	防災・原子力学会議	津波分科会委員	

菅原 大助 助教

Daisuke SUGAWARA

災害リスク研究部門 低頻度リスク評価研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	理学部			東北大学大学院	理学研究科			理学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東北大学大学院 理学研究科	C フェロー
				東北大学大学院 理学研究科	研究支援者
				東北大学大学院 理学研究科	C フェロー
				東北大学大学院 工学研究科 附属災害制御研究センター	産学官連携研究員
				東北大学災害科学国際研究所	助教

所属学会

日本地質学会	日本堆積学会	日本自然災害学会	日本地球惑星科学連合	
--------	--------	----------	------------	--

研究分野・キーワード

津波	地層	数値モデリング
----	----	---------

【研究活動】

研究活動の概要

東日本大震災および過去の巨大津波による土砂（堆積物）の輸送・地形変化の実態についてのデータ収集を目的に、東北地方の太平洋および日本海沿岸で現地調査を行った。また、仙台平野沿岸部を対象に津波土砂移動数値シミュレーションを行い、津波来襲時の土砂移動特性およびメカニズムについて詳細な再現に成功した。それぞれの成果は、各学術雑誌や国内外の学会で発表した。土砂移動シミュレーションについては、米国地質調査所との共同研究として、レビュー論文を出版した他、解析手法の高度化を目的とした共同研究を実施中である。「京コンピュータ」を用いた津波予測の高度化の一環として富士通研究所との共同研究を実施中であり、成果の一部が論文として出版された。
--

研究課題

	期間				研究課題（内容）	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		貞観地震の津波に関する地質学的研究	国内
			現在		東日本大震災の津波による土砂移動の研究	国内
			現在		津波による土砂移動の数値シミュレーションによる調査研究	国内
			現在		東日本太平洋沿岸の古津波に関する地質学的調査研究	国内
			現在		日本海の古津波に関する調査研究	国内
			現在		津波堆積物数値解析の高度化	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 （原語）	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 （原語）	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 （共著者含）	共著区分	学外連携
	日本語	津波堆積物と津波の規模について	学術雑誌	有	いいえ	地学雑誌						菅原大助	単著	なし
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ								筆頭共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ								筆頭共著	国外
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内

	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	C		共著	国外
--	----	--	------	---	-----	--	--	--	--	--	--	---	---	--	----	----

学会発表

単名		筆頭 連名		その他の 連名		合計	
----	--	----------	--	------------	--	----	--

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	連合大会	筆頭 連 名	いいえ	横浜市		口頭(一般)	宮城県石巻市鮫浦における 年東北沖津波および古津波による堆積物とその形成過程	菅原大助, 西村裕一, 後藤和久, C, C, 横山祐典, 宮入陽介, 沢田近子	国外
	国内	日本地質学会	単名	いいえ	鹿児島市		口頭(招待・特別)			なし
	国際		筆頭 連 名	いいえ	米国・サンフランシスコ		ポスター(一般)			国外
	国際		筆頭 連 名	いいえ	タイ・ブーケット		口頭(一般)			国外
	国際		筆頭 連 名	いいえ	札幌市		口頭(一般)	C	C C	国外
	国内	日本地震学会秋季大会	その他の 連名	いいえ	新潟市		ポスター(一般)	年天保出羽沖地震津波の波源再評価	今井 健太郎・都司 嘉宣・菅原大助	国内
	国内	日本地質学会	その他の 連名	いいえ	鹿児島市		口頭(一般)	海溝型地震の予後:津波痕跡による変動の評価	箕浦幸治・菅原大助・山野井徹・山田 努	国内

【教育活動】

教育活動の概要

全学および工学部での講義を コマ担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/1コマ
	基礎ゼミ	東北大学	全学			セメ	
	水環境創造のフロンティア	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

小中高との連携として、東京学芸大附属高校の生徒を対象に模擬授業を行った。また、スーパーサイエンスハイスクール事業に関連して開催されたみずものがたり研究会において、高校生を対象に講演を行った。歴史津波の調査研究について、 の取材を受け、番組で放映された。スーパーコンピュータ「京」による成果のプレスリリースに際して 局の取材を受け、資料(C)の提供を行った。

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	小中高との連携	東京学芸大学附属高校	講演			津波について	東北大	東北大
	小中高との連携	水ものがたり研究会	講演			津波堆積物の調査・研究 ―特に東日本大震災による意義・役割の変化について	東北大	東北大

他研究機関・協定締結校との交流実績(E-2との重複可)

合計	件
----	---

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	米国地質調査所			共同研究	東北大	国外	企画	

ブリッカー ジェレミー 准教授

Jeremy D. BRICKER

災害リスク研究部門 国際災害リスク研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
ニュージャージー州立大学 ラトガーズ校	工学部			スタンフォード大学	工学研究科					

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				神戸大学大学院 工学研究科	助手
				ハワイ大学 海洋資源工学専攻	ポスドク
				C 水理部	土木技術者
				東京工業大学 土木工学専攻	客員准教授

所属学会

土木学会	米国土木学会	国際水理工学会
------	--------	---------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
水文水資源学会	編集委員会	副編集者	

研究分野・キーワード

水理工学	海岸工学
------	------

【研究活動】

研究活動の概要

台風ハイヤンの高潮・高波により起こった被害を調査した。数値シミュレーションを実行、被害の原因を解明した。それに、高潮と違う、サマル島に上陸津波形段波の原因(サーフビート)も解明した。別の課題に、津波浸水シミュレーションが利用べき粗度(マニング係数)についての研究も実行した。

研究課題

	期間			研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年		
			現在	東日本大震災津波よりの構造物被害メカニズムを解明するシミュレーション	国内
	2013	1	現在	インドネシアジャカルタ堤防決壊よりの洪水についての現地調査・シミュレーション	国外
	2013		現在	台風ハイヤンによる高潮・高波についての現地調査・シミュレーション	国外
		4	現在	歴史津波被害についての統計学的な研究	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語		学術雑誌	有	いいえ	C	59					_____	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C						_____	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C C						_____	筆頭共著	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国際	災害科学国際研究所	第2回水災害軽減のための流体力学の活用 台風シミュレーション及び被害評価			仙台市市民会館	学会・シンポジウム	議長・幹事・運営担当		主催	国外

【教育活動】

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	実践的防災学Ⅱ	東北大学	リーディング大学	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		前期	7

【社会活動】

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国際	災害科学国際研究 所	第2回水災害軽減のための流体力学の 活用 台風シミュレーション及び被害評価		7	仙台市民会館	学会・シンポジウム	議長・幹事・運 営担当	22	主催	

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	第 回「震災対策技術展」 宮城・セミナー	招待講演			海岸線構造物被害の原因と対策：東日本大震災及びフィリピン台風 ハイヤンの場合	建設コンサル タント	仙台市・AERビル

ローバー フォルカ 助教

Volker ROEBER

災害リスク研究部門 国際災害リスク研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
					C					

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		

所属学会

土木学会	
------	--

研究分野・キーワード

水理工学	海岸工学
------	------

【研究活動】

研究活動の概要

--

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在			国外
	1		現在			国内
			現在			国外
			現在			国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C C						C	筆頭共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C C						C	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国外

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際	C	単名	いいえ			口頭(一般)		C	国外
	国際		筆頭連名	いいえ			口頭(一般)		C	国外
	国際		筆頭連名	いいえ			口頭(一般)		C C	国外

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDeSの関与	学外連携
				開始年月	終了年月						
	国際	災害科学国際研究所	第2回水災害軽減のための流体力学の活用 台風シミュレーション及び被害評価			仙台市民会館	学会・シンポジウム	議長・幹事・運営担当		主催	国外

【教育活動】

教育活動の概要

--

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	実践的防災学Ⅱ	東北大学	リーディング大学	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		前期	7

【社会活動】

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国際	災害科学国際研究所	第2回水災害軽減のための流体力学の活用 台風シミュレーション及び被害評価		7	仙台市民会館	学会・シンポジウム	議長・幹事・運営担当		主催	

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	公開講座		招待講演					仙台市・

邑本 俊亮 教授

Toshiaki MURAMOTO

人間・社会対応研究部門 災害情報認知研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
北海道大学	文学部			北海道大学大学院	文学研究科			博士(行動科学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				北星学園大学 文学部心理学研究室	非常勤助手
				北海道大学 文学部	助手
				北海道教育大学 教育学部札幌校	講師
				北海道教育大学 教育学部札幌校	助教授
				東北大学 大学院情報科学研究科	助教授(～准教授)
				東北大学 大学院情報科学研究科	教授
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

所属学会

日本心理学会	日本教育心理学会	日本認知科学会	日本認知心理学会	日本基礎心理学会	日本読書学会	東北心理学会	北海道心理学会
--------	----------	---------	----------	----------	--------	--------	---------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本心理学会		代議員	
日本心理学会	教育研究委員会	委員	
日本心理学会	教育研究委員会 講演・出版等企画小委員会	委員	
日本読書学会		理事・編集委員	
日本認知心理学会		理事	
日本基礎心理学会		理事	

研究分野・キーワード

認知心理学	言語心理学	教育心理学
-------	-------	-------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
情報科学研究科	入試委員会	委員	
高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター	大学教員準備プログラム()・新任教員プログラム()	先達教員	

【研究活動】

研究活動の概要

物語の読み手が、物語中に明示されていない「テーマ」を自動的に抽出しながら読解していることを、心理実験によって明らかにし、学会発表を行った。 津波防災教育教材「稲むらの火」に対して、学習者がそれをどのように理解し、そこから何を学ぶのかについて、中国人と日本人を対象とした心理実験データに基づいて分析を進めている。 東日本大震災の被災者の体験談の分析を開始している。今年度は、語られる出来事に対して語り手がどのような意味づけを行っているかを中心に分析を進めた。
--

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		人間の言語理解に関する認知心理学的研究	なし
			現在		文章からの学習に関する教育心理学的研究	なし
			現在		大学教育における授業づくりと授業運営に関する実践的研究	なし
			現在		災害時の人間の認知・判断・行動に関する研究	なし
			現在		災害体験談の認知科学的分析と防災教育への展開	なし

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	意味的バイアスを持つ日本語両義文の処理に及ぼすカンマの影響	学術雑誌	有	いいえ	心理学研究						新国佳祐 邑本俊亮	共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	なし
	日本語	災害時の「生きる力」に関する探索的研究－東日本大震災の被災経験者の証言から－	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集(電子ジャーナル論文)						佐藤翔輔 杉浦元亮 野内類 邑本俊亮 阿部恒之 本多明生 岩崎雅宏 全村文彦	共著	なし

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	日本心理学会第 回大会	その他の 連名	いいえ	京都		ポスター(一般)	高齢者の震災体験談の語りに関する研究ー意味づけ方略の視点からの東日本大震災の語りの分析ー	細川彩 呂本俊亮	国内
	国内	日本心理学会第 回大会	筆頭 連 名	いいえ	京都		ポスター(一般)	物語理解におけるテーマ推論	呂本俊亮 龔妍玲	なし
	国内	日本教育心理学会第 回総 会	筆頭 連 名	いいえ	神戸		ポスター(一般)	中国人は「稲むらの火」をどのように理解するのか	呂本俊亮 崔長英	なし

【教育活動】

教育活動の概要

全学教育では、心理学、言語表現の世界、災害の科学、科学と情報と、多様な科目を担当した。今年度はとくに心理学において、 を活用した授業運営を新たに試みた。大学院教育では、学習情報学と人文情報科学概論およびゼミナールを担当した。他大学でも、教育心理学、コミュニケーション、心理言語学と幅広い領域の教育を行っている。どの授業でも、学生の主体的な学び(アクティブラーニング)を促す工夫を徐々に増やしている。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
	科学と情報	東北大学	全学			セメ	
	言語表現の世界(水)	東北大学	全学			セメ	
	言語表現の世界(木)	東北大学	全学			セメ	
	災害の科学	東北大学	全学			セメ	
	心理学(火)	東北大学	全学			セメ	
	心理学(木)	東北大学	全学			セメ	
	人文情報科学概論	東北大学	情報科学研究科	全専攻		前期	
	学習情報学	東北大学	情報科学研究科	人間社会情報科学専攻・応用情報科学専攻		後期	
	人間社会情報科学ゼミナール	東北大学	情報科学研究科	人間社会情報科学専攻		通年	
	教育心理学特殊講義	宮城教育大学	教育学部	学校教育講座	～	前期	
	コミュニケーション論	東北文化学園大学	医療福祉学部	保健福祉学科		前期	
	コミュニケーション論Ⅰ	東北文化学園大学	医療福祉学部	リハビリテーション学科・看護学科		前期	
	心理言語学	北星学園大学	文学部	心理・応用コミュニケーション学科		前期	

【社会活動】

社会活動の概要

小学生、高校生、一般向けの心理学関連セミナー・シンポジウムの開催に尽力した。とくに小学生対象の公開講座(ひらめき☆ときめきサイエンス「ことば・心・コミュニケーション」)は 年連続の開催となった。また、件の講演依頼を受け、心理学、授業づくり、コミュニケーション、防災・減災、学習支援など、多様な聴衆に対する多様な内容の社会教育を行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRiDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	東北大学、日本学 術振興会	ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～「ことば・心・コミュニケーション」			仙台市・東北大学情報科学研究科、青葉山体育館	市民向け講演会・セミナー	実施代表者(企画・広報・運営・講義・統括)		なし	
	国内	公益社団法人日本 心理学会	高校生のための心理学講座シリーズ(北海道地区)			札幌市・北海道大学学術交流会館	市民向け講演会・セミナー	企画・広報・運営・司会		なし	
	国内	公益社団法人日本 心理学会	高校生のための心理学講座シリーズ(東北地区)			仙台市・東北大学川内北キャンパス講義棟 棟	市民向け講演会・セミナー	企画・広報・運営・司会		なし	
	国内	公益社団法人日本 心理学会	日本心理学会公開シンポジウム「心理学の神話をめぐる冒険」			仙台市・東北大学川内北キャンパス マルチメディアホール	市民向け講演会・セミナー	広報・運営・司会		なし	
	国内	公益社団法人日本 心理学会	日本心理学会公開シンポジウム「心理学の神話をめぐる冒険」			東京都・東京大学弥生講堂 一条ホール	市民向け講演会・セミナー	運営協力		なし	

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	駿台予備校仙台北校 東北大学教授講演会	講演			最高の環境に自分の身を置くことの大切さ ～心理学者からのメッセージ～	駿台予備校仙台北校	仙台市・駿台予備校仙台北校
	公開講座	宮城教育大学附属中学校 公開研究会	コーディネーター			学校教育と言語活動	宮城教育大学附属中学校	仙台市・宮城教育大学附属中学校
	講演会・セミナー	東北文化学園大学 研修会	講演			魅力ある授業づくりとは	東北文化学園大学	仙台市・東北文化学園大学
	講演会・セミナー	東北大学 教育関係 共同利用拠点提供プログラム	講演			授業づくり:準備と運営	東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター	仙台市・東北大学川内北キャンパス講義棟C棟C

	小中高との連携	山形県立鶴岡南高等学校 校鶴翔アカデメイア	出前授業(指名・回講義)			防災のための心理学	山形県立鶴岡南高等学校	鶴岡市・山形県立鶴岡南高等学校
	小中高との連携	宮城一高1・2年次普通科CC (コスモスカレッジインターンシップ)	出前授業(指名)			言葉と心とコミュニケーション	宮城県宮城第一高等学校	仙台市・宮城県宮城第一高等学校
	小中高との連携	東北大学減災教育事業「減災ポケット『結』プロジェクト」	出前授業			減災ってなあに	東北大学	仙台市・仙台市立川前小学校
	講演会・セミナー	東北・北海道地区国立大学病院 課長・実務担当者会議	特別講演			言葉・心・コミュニケーション ～医療の現場に向けて～	東北大学病院	仙台市・ホテルメトロポリタン仙台
	講演会・セミナー	宮城野区防災セミナー	講演			災害と人間の心理 ～災害対応力を高めるために～	仙台市宮城野区	仙台市・宮城野区文化センター
	小中高との連携	東北大学減災教育事業「減災ポケット『結』プロジェクト」	出前授業			減災ってなあに	東北大学	仙台市・仙台市立鶴谷東小学校
	その他	減災ハッカソン～身近な減災を考える～	ゲストスピーカー			人間の情報認知特性と学習支援	東北大学災害科学国際研究所、仙台放送、ドコモ	仙台市・東北大学カタールサイエンスキャンパスホール

野内 類 助教

Rui NOUCHI

人間・社会対応研究部門 災害情報認知研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
明治学院大学	文学部			中央大学	文学研究科			博士 心理学		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
		現在		中央大学 人文科学研究所	客員研究員
				中央大学 文学部	兼任講師
				淑徳大学 総合福祉学部	兼任講師
				目白大学 人間学部	兼任講師
				聖心女子大学 文学部	兼任講師
				実践女子大学 人間社会学部	兼任講師
				東北大学 加齢医学研究所	産学連携研究員
				日本学術振興会	特別研究員
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

所属学会

日本心理学会	日本応用心理学会	日本認知心理学会	多文化間精神医学会		
--------	----------	----------	-----------	--	--

研究分野・キーワード

認知心理学	脳科学	災害教育	加齢科学
-------	-----	------	------

【研究活動】

研究活動の概要

装置を用いて日常こころの働きと脳形態の関係を調べた。さらに、災害教育や災害認知科学についての理論的考察と実験を行った。ゲームを用いた災害教育を実践し、効果を調べた。
--

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		生涯発達視点から感情と記憶の関係を明らかにする研究	
			現在		若年者と高齢者を対象に認知トレーニングなどの生活介入が心身に与える影響を認知実験と脳機能画像研究を用いた研究	
			現在		加齢と感情が記憶に及ぼす影響の脳内基盤を明らかにする研究	
			現在		若年者と高齢者を対象に記憶を向上させる脳内機構の解明や認知機能を向上させる原理を明らかにする研究	
			現在		災害時のヒトの認知処理過程に関する研究	
			現在		ゲームを用いた災害教育ツールの開発と実証に関する研究	

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	なし

	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____	C	共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____	C	共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____		筆頭共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____		共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____	C	共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____		共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____	C	共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____		共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____	C	共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____		共著	なし
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ							_____	C	共著	なし

	英語	C	学術雑誌	有	いいえ								C	共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ									共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ									筆頭共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ									単著	なし

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著		筆頭共著		その他の共著		合計		うち	国際査読有		国際査読無		国内査読有		国内査読無	
----	--	------	--	--------	--	----	--	----	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	脳トレゲームは認知機能を向上させることができるのか?	学術雑誌	有	はい	高次脳機能研究						野内類 川島隆太	筆頭共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ								筆頭共著	なし

学会発表

単名		筆頭連名		その他の連名		合計	
----	--	------	--	--------	--	----	--

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際		その他の連名	いいえ	C		ポスター(一般)	C	C	なし
	国際		その他の連名	いいえ			ポスター(一般)		C	なし
	国内	第 回日本心身医学会東北地方会	その他の連名	いいえ	仙台		ポスター(一般)	乳がん手術前後の脳構造変化および認知機能障害～縦断研究による検討	佐藤千穂 関口敦 事崎由佳 野内類 竹内光 瀧靖之 河合賢朗 多田寛 石田孝宣 川島隆太 大内憲明	なし
	国内	日本認知心理学会第 回大会	単名	はい	仙台		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	学際連携のメリット・デメリット: 日常認知研究の立場から	野内類	なし
	国内	第 回日本神経科学大会	その他の連名	いいえ	横浜		ポスター(一般)	読書習慣の白質形態に及ぼす影響: 横断と縦断解析	竹内光 瀧靖之 橋爪寛 浅野孝平 浅野路子 佐々祐子 横田晋務 事崎由佳 野内類 川島隆太	なし
	国内	第 回安全・安心な生活のための情報通信システム(C)研究会	その他の連名	いいえ	仙台		口頭(一般)	緊急時と平常時のリスク判断と安全判断の認知プロセスの違いー時間制限法を用いた認知心理学的検討ー	野内類	なし

【教育活動】

教育活動の概要

修士と博士の学生に	を用いた脳計測の方法と解析方法と論文のまとめ方を指導した。
-----------	-------------------------------

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	脳画像から見るヒト・脳の加齢、疾患、認知力	東北大学	全学			前期	

【社会活動】

社会活動の概要

災害と食事にに関する講演を行い、病院職員や栄養士や管理栄養士に災害時の職に関する知識を伝えた。

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	第 回女子栄養大学栄養学講座エキスパートスクエア	招待講演			食事とこころの働きの関係:心理学と脳科学の最新知見	女子栄養大学	東京・女子栄養大学
	講演会・セミナー	東京精神科病院協会研修会	招待講演			災害時のこころの働き:食事とこころの働きの最前線		

奥村 誠 教授

Makoto OKUMURA

人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
京都大学	工学部			京都大学大学院	工学研究科修士課程			博士(工学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				京都大学 工学部	助手
				京都大学 工学部	講師
				広島大学 工学部	助教授
				広島大学大学院 工学研究科	助教授
				東北大学 東北アジア研究センター	教授
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

学会活動

所属学会

土木学会	日本地域学会	応用地域学会	日本計画行政学会	日本都市計画学会		
------	--------	--------	----------	----------	--	--

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
土木学会	土木学会論文集 分冊編集小委員会	委員長	
土木学会	土木計画学研究委員会都市間旅客交通研究小委員会	委員長	
日本都市計画学会	東北支部	副支部長	
応用地域学会	編集委員会	委員	

研究分野・キーワード

社会システム工学・安全システム	交通工学・国土計画	都市間交通	都市計画
-----------------	-----------	-------	------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	安全保障・輸出入管理委員会	委員	
全学	キャンパス計画委員会・運輸交通専門委員会	副委員長	
工学研究科	キャンパスマスタープラン検討委員会	委員	
国際高等研究機構	運営委員会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

被災地への人的・物的支援を効果的に行うために、事前の基礎データ準備、協定等の締結、備蓄、時中の情報交換、意思決定のあり方について、人口などの地理情報と最適化などのオペレーションズリサーチ手法の活用方法に関する研究を進めた。特に、災害ロジスティクスに関する研究、確実な避難の実行可能性の研究、災害時の不確実性に対応できる危機管理、運営体制に関する研究を行った。同時に、ボリビアの水資源管理に関する国際共同研究、土木学会研究小委員会を軸とする都市間旅客交通計画の共同研究を継続的に進めた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		交通の途絶と地域の孤立に関する研究	国内
			現在		都市間交通ネットワークの計画方法の研究	国内
			現在		巨大災害時の被災地支援方法に関する研究	なし

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行 年月日	著者氏名 (共著者含)	共著 区分	学外 連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____	共著	なし
	日本語	震災時における消費者のガソリン購入行動に関する研究	学術雑誌	有	いいえ	応用地域学研究						大窪和明 奥村誠 河本憲	共著	国内
	日本語	関連産業の存在が生産性に与える影響一拡張された産業間の関連性概念を用いて	学術雑誌	有	いいえ	都市計画論文集						奥村誠 金進英	筆頭共著	なし
	日本語	低炭素化政策が都市間旅客交通ネットワークの構造に与える影響	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 土木計画学)						山口 裕通 奥村誠 金進英	共著	なし
	日本語	ダム貯水池の渇水軽減効果のアウトカム評価方法	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 土木計画学)						奥村誠 田中 大司 大窪 和明	筆頭共著	国内
	日本語	更新・廃止計画のための多時点最適施設配置モデル	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 土木計画学)						大窪 和明 奥村誠 吾妻 樹	共著	国内

	日本語	東日本大震災による産業部門への経済被害の推計方法に関する研究	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 土木計画学)						古橋 隆行 多々納 裕一 梶谷 義雄 玉置 哲也 奥村 誠	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国内

著書(監修・編著・単著・共著)

監修		単著		筆頭共著		共著		合計		うち	国際		国内	
----	--	----	--	------	--	----	--	----	--	----	----	--	----	--

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	英語	C	単行本		C 編, 著 共	共著		国内
	日本語	第 一章【シベリアの水環境変動と社会適応—東日本大震災との対比から見たリスクへの対応】 シベリア:温暖化する極北の水環境と社会	単行本		増山哲哉・藤原潤子編著, 奥村誠	共著	京都大学出版会	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著		筆頭共著		その他の共著		合計		うち	国際 査読有		国際 査読無		国内 査読有		国内 査読無	
----	--	------	--	--------	--	----	--	----	-----------	--	-----------	--	-----------	--	-----------	--

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻 号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	座談会 交流をひろげ、多様性を楽しむ社会を	学術雑誌	無	いいえ	土木学会誌					土井勉 奥村誠 佐々木邦明 榊原弘之	共著	国内
	日本語	インタビュー 人口減少時代における地域公共交通のあり方	その他	無	はい	開発こうほう, マルシェノルド 地域経済レポート特集号					奥村誠・小磯修二	筆頭共著	国内

学会発表

単名		筆頭連名		その他の連名		合計	
----	--	------	--	--------	--	----	--

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際		筆頭連名	いいえ			口頭(一般)			なし
	国内	日本認知心理学会第 回大会～地域連携シンポジウム～	単名	はい	仙台市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネルディスカッション	被災地支援の有効性をどう高めるか: 支援者と被災者とのコミュニケーション	奥村誠	なし
	国際	C	筆頭連名	いいえ			口頭(一般)			なし
	国際	C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)			なし
	国内	第 回土木計画学研究発表会	その他の連名	いいえ	鳥取市		口頭(一般)	都市間交通ネットワークの強靱化計画モデル	奥村 誠 山口 裕通	なし
	国内	第 回日本都市計画学会学術論文発表会	筆頭連名	いいえ	東広島市		口頭(一般)	関連産業の存在が生産性に与える影響—拡張された産業間の関連性概念を用いて	奥村誠 金進英	なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDEsの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国際	災害科学国際研究所	レジリエンス・シンポジウム			東北大学川内キャンパス(宮城県仙台市)	市民向け講演会・セミナー	企画・パネルディスカッションコーディネーター担当		主催	国内
	国内	土木学会土木計画学研究委員会	土木計画学ワンディセミナー「都市間交通研究のフロンティア」			土木学会講堂(東京都新宿区)	学会・シンポジウム	企画 運営委員		なし	国内

【教育活動】

教育活動の概要

兼務先である大学院工学研究科土木工学専攻の学生の指導を行った。また講義は、同専攻の専門科目、演習科目のほか、リーディング大学院グローバル安全学トップリーダー育成プログラムの専門科目、工学部建築・社会環境工学科の専門科目と演習科目の担当のほか、災害研に割り当てられている全学教育オムニバス科目の日程・成績管理を行った。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	計量行動分析	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻, グローバル安全学		後期	
	スペクトル解析	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		前期	
	実践的防災学	東北大学大学院	工学研究科	グローバル安全学		後期	
	災害の科学(災害の波及と対応)	東北大学	全学			セメ	
	建築・社会環境工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	

地域・都市計画	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
都市システム計画演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

研究活動の目的である、災害に強く、支援しやすい地域づくりを行うための基礎として、交通基盤、地域・都市計画の行政・実務への協力を継続的に行っている。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内		シンポジウム「災害時の安全性と復旧のための技術」			仙台市・東北大学	学会・シンポジウム	パネルディスカッションコーディネーター担当		なし	
	国際		第 回国連防災世界会議パブリックフォーラム「レジリエンス・シンポジウム」			仙台市・東北大学	市民向け講演会・セミナー	企画・パネルディスカッションコーディネーター担当		主催	

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	災害科学国際研究所金曜フォーラム	話題提供			空間的な燃料不足実態の推定と携帯電話位置データによる検証	東北大学災害科学国際研究所	仙台市・東北大学工学部
	講演会・セミナー	地域社会福祉リーダー研修会	特別講演			人口減少・高齢化にどう備えるか	泉区社会福祉協議会	仙台市・イズミティ
	講演会・セミナー	仙台市建設技術職員研修会	特別講演			統計にみる仙台市の特徴と都市経営の方向性	仙台市	仙台市・仙台市役所講堂

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	国土交通省東北運輸局	東北地方交通審議会	委員長代理	
	国土交通省	社会資本整備審議会道路分科会	専門委員	
	国土交通省東北地方整備局	事業評価監視委員会	委員	
	宮城県	大規模公共事業評価委員会	専門委員	
	宮城県	国土利用審議会	委員長代理	
	山形県	総合政策審議会	委員	
	仙台市	都市計画審議会	会長	
	仙台市	大規模小売店立地専門委員会	委員	
	仙台市	大規模事業監視委員会	委員長	

金 進英 助教

Jinyoung KIM

人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
	C			京都大学大学院	工学研究科			博士(工学)		

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
					京都大学大学院 工学研究科都市社会工学専攻	研究員
					京都産業大学 経済学部	ポスドク研究員
					京都大学大学院 工学研究科都市社会工学専攻	研究員
					交通システム研究所	主任研究員
					東北大学大学院 情報科学研究科	特任助教
					東北大学 災害科学国際研究所	助教
			現在		交通システム研究所	主任研究員

所属学会

土木学会	交通工学	日本都市計画学会	
------	------	----------	--

研究分野・キーワード

交通工学	都市計画	
------	------	--

【研究活動】

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
					巨大災害時の被災地支援方法に関する研究	なし
					大規模災害に対応する地域交通システムのデザインに関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	関連産業の存在が生産性に与える影響－拡張された産業間の関連性概念を用いて	学術雑誌	有	いいえ	都市計画論文集						奥村誠 金進英	共著	なし
	日本語	低炭素化政策が都市間旅客交通ネットワークの構造に与える影響	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 土木計画学)						山口 裕通 奥村 誠 金 進英	共著	なし

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際	C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)		_____	なし
	国際	C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)		_____	なし
	国内	第 回土木計画学研究発表会	筆頭連名	いいえ	仙台市		口頭(一般)	交通シミュレーションを用いた自治体の避難計画の評価	奥村誠 片岡侑美子 金進英	なし
	国内	第 回日本都市計画学会学術論文発表会	その他の連名	いいえ	東広島市		口頭(一般)	関連産業の存在が生産性に与える影響－拡張された産業間の関連性概念を用いて	奥村誠 金進英	なし

佐藤 大介 准教授

Daisuke SATO

人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	文学部			東北大学大学院	文学研究科			文学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東北大学大学院 文学研究科	C フェロー
				東北大学大学院 文学研究科	専門研究員
				郡山女子大学 短期大学部	非常勤講師
				東北学院大学 文学部	非常勤講師
				東北大学東北アジア研究センター	教育研究支援者
				東北大学東北アジア研究センター	助教
				東北大学災害科学国際研究所	助教
		継続中		東北大学災害科学国際研究所	准教授
		継続中		東北大学大学院環境科学研究所	協力教員
		継続中		東北大学大学院文学研究科	兼務教員

所属学会

東北史学会	日本歴史学会	歴史学研究会	宮城歴史科学研究会
-------	--------	--------	-----------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
東北アジア研究センター	上廣歴史資料科学研究部門運営諮問委員会	委員	
学術資源研究公開センター	運営専門委員会 史料館部会	委員	
附属図書館	斎藤養之助家史料運用委員会	委員	
埋蔵文化財調査室	運営委員会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

1、江戸時代の災害対策における「協働」と「公共」の研究
江戸時代の仙台藩領（現在の宮城県・岩手県南部）を事例に、地域リーダーが実施した備荒貯蓄対策について、領主や村との役割分担を踏まえた「協働」の意識を持って実施したことを明らかにした。あわせて、受益者としての住民の負担忌避や不正利用の事実を指摘し、「公共」意識の共有の難しさについて論じた。
2、地域の歴史資料保全を通じた歴史学の社会的役割に関する研究
災害や地域社会の変動により、各地でその歴史的歩みを語る歴史資料が失われる状況において、その活用を通じた歴史叙述の意義と歴史研究者の役割について、歴史学自体における積極的な位置づけの必要性も含めて論じた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		旧仙台藩領 東北地方における実践を踏まえた歴史資料保全学の構築	国外
			現在		仙台藩領における地域リーダー層の社会活動の研究	国内
			現在		世紀仙台藩領における災害と社会史 政治史の研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	災害対策をめぐる「協働」と「公共」天明飢饉後の仙台藩領における備荒貯蓄対策から	学術雑誌	無	はい	人民の歴史学						佐藤大介	単著	国内
	日本語	歴史資料保全と「ふるさとの歴史」叙述－宮城での経験から－	学術雑誌	無	はい	歴史学研究						佐藤大介	単著	国内
	日本語	天保七年の伊達騒動－飢饉下の仙台藩主・伊達斉邦と重臣「世論」	単行本(論文掲載)	有	いいえ	平川新編『江戸時代の政治と地域社会 第一巻 藩政と幕末政局』清文堂出版						佐藤大介	単著	国内

著書(監修・編著・単著・共著)

監修	編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
----	----	----	------	----	----	----	----	----

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	日本語	よみがえる江戸時代の村田－山田家文書からのメッセージ－	単行本		高橋陽一・佐藤大介・小関悠一郎	共編著	東北大学東北アジア研究センター	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の 共著	合計	うち	国際 査読有	国際 査読無	国内 査読有	国内 査読無
----	------	------------	----	----	-----------	-----------	-----------	-----------

記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区 分	学外 連携
英語		大学紀要	無	いいえ							佐藤大介	単著	国内
日本語	災害「前」の歴史資料保全活動と東日本大震災	大学紀要	無	いいえ	東北大学災害科学 国際研究所 年東日 本大震災から見え てきたこと						佐藤大介	単著	国内
英語	δ C	その他	無	はい	C C						佐藤大介	単著	国外
日本語	村田町、生い立ちの頃ー山田家文書の概観からー	大学紀要	無	はい	東北大学東北アジア 研究センター叢 書『よみがえる江戸 時代の村田ー山田 家文書からのメッ セージ』						佐藤大介	単著	国内

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	東京歴史科学研究会第 回 大会委員会企画	単名	はい	東京都新宿区		口頭(招待・特別)	災害対策をめぐる「協働」と「公共」天明飢饉後の仙 台藩領における備荒貯蓄対策から	佐藤大介	国内
	国内	年度歴史学研究会大会 特設部会	単名	はい	東京都世田谷 区		口頭(招待・特別)	歴史資料保全と「ふるさとの歴史」叙述—宮城での 経験から—	佐藤大介	国内
	国際	第4回東アジア史料研究編纂 機関協議会	単名	はい	果川 市		口頭(招待・特別)	災害から地域の歴史資料を守り、伝える 日本・宮城 県での取り組み	佐藤大介	国外
	国内	歴史資料ネットワーク創立 周年記念 全国史料ネット研 究交流集会	単名	はい	神戸市中央区		口頭(招待・特別)	宮城での歴史資料保全活動 —これまでの歩み・これからに向けて—	佐藤大介	国内

【教育活動】

教育活動の概要

全学教育では、受講する一年生が 年間生活する仙台の歴史を中心に講義し、地域への関心を高めることを意図した。兼務教員を務める文学研究科では、前年度に引き続き宮城県丸森町での歴史資料保全活動の実践を通じて、災害その他から歴史資料を守る活動の意義について、受講者 名と共に実際に学習した。環境科学研究科では、江戸時代の災害や、自然環境を生かした生業の歴史について講義し、人間の営みを環境のなかで理解する視座を提供した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	歴史と人間社会	東北大学	全学	文・教・法・保		セメ	コマ
	博物館実習Ⅱ	東北大学	文学部・大学院文学研究科			セメ	コマ
	史料管理学Ⅰ	東北大学	大学院文学研究科			前期	コマ
	史料管理学Ⅱ	東北大学	大学院文学研究科			後期	コマ
	日本史実習Ⅰ	東北大学	文学部			セメ	コマ
	日本史実習Ⅱ	東北大学	文学部			セメ	コマ
	日本社会史論	東北大学	大学院環境科学研究科			後期	コマ
	地域環境・社会システム学コース概論	東北大学	大学院環境科学研究科			後期	コマ
	実践的防災学Ⅲ	東北大学	リーディング大学院			後期	コマ
	復興と文化財	復興大学	復興人材教育育成コース			前期	コマ

【社会活動】

社会活動の概要

東日本大震災での知見を踏まえ、地域に残された歴史資料を保存し将来に継承するための社会的な課題について考えるシンポジウムを開催し、活動理念や方法の普及を図った。また、自治体などの依頼を受け、これまで行ってきた地域での歴史資料保全活動をふまえ、地域の歴史を素材にした講演会を通じて、「ふるさとの歴史」の史実を市民と共有する活動を行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	宮城資料ネット、法人 世紀アーカイブ仙台、亘理町郷土資料館	映像に残された 年前の荒浜—フィルム『我等が郷土荒浜』を見て、語る会			亘理町荒浜地区交流センター	市民向け講演会・セミナー	運営担当		共催	
	国内	地域歴史資料研究会、東北大学災害科学国際研究所、宮城資料ネット	シンポジウム「ふるさとの歴史と記憶をつなぐ—東日本大震災の日・史料保全の「いま」と「これから」—」			仙台市・仙台市博物館	市民向け講演会・セミナー	運営担当		共催	
	国内	東北大学日本史研究室、丸森町教育委員会	宗祇院の史料は語る 2			丸森町・館矢間まちづくりセンター	市民向け講演会・セミナー	企画・運営担当		なし	

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	いしづみ会主催 市民特別講演会	招待講演			「検断屋敷」の記憶 東昌寺門前町・菊田源兵衛の軌跡	いしづみ会	仙台市・中央市民センター
	講演会・セミナー	映像に残された 年前の荒浜—フィルム『我等が郷土荒浜』を見て、語る会	招待講演			フィルム「我等が郷土荒浜」保全の経緯について	宮城資料ネット、法人 世紀アーカイブ仙台、亘理町郷土資料館	宮城県亘理町・荒浜地区交流センター
	講演会・セミナー	せんだい豊齢学園ふるさと歴史文化コース	招待講演			少年藩主と天保の危機	仙台市シルバーセンター	仙台市・仙台市シルバーセンター
	講演会・セミナー	シンポジウム「ふるさとの歴史と記憶をつなぐ—東日本大震災の日・史料保全の「いま」と「これから」—」	招待講演			東日本大震災での歴史資料保全活動 宮城県での活動を中心に	地域歴史資料研究会、東北大学災害科学国際研究所、宮城資料ネット	仙台市・仙台市博物館
	講演会・セミナー	宗祇院の史料は語る 2	基調講演			宗祇院文書の保全活動について	東北大学日本史研究室、丸森町教育委員会	丸森町・館矢間まちづくりセンター
	講演会・セミナー	丸森町文化財講演会	招待講演			みんなで守ろう「ふるさとの歴史」—宮城地区・宗祇院での歴史資料全活動	丸森町教育委員会	丸森町・館矢間まちづくりセンター

自治体・民間等での委員

組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
法人宮城歴史資料保全ネットワーク		理事	
石巻市近代建築保存整備調査研究専門委員会		専門委員	

蝦名 裕一 助教

Yuichi EBINA

人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
岩手大学	教育学部			東北大学大学院	国際文化研究科			博士(国際文化)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				福島県双葉郡双葉町立双葉中学校	常勤講師
				宮城学院高等学校	非常勤講師
		7		岩沼市教育委員会 市史編纂室	嘱託職員
				東北大学東北アジア研究センター	教育研究支援者
				東北大学災害科学国際研究所	助教

所属学会

東北史学会	岩手史学会	歴史学研究会	宮城歴史科学研究会	地方史研究協議会	歴史地震研究会
-------	-------	--------	-----------	----------	---------

研究分野・キーワード

日本近世史	歴史災害研究	歴史資料保全研究
-------	--------	----------

【研究活動】

研究活動の概要

歴史災害研究においては、年に発生した慶長奥州地震津波を中心に、東北地方太平洋沿岸部で発生した過去の歴史地震津波について、明治三陸地震津波直後に岩手県沿岸部を調査した山奈宗真の関係史料をはじめ、従来の研究で用いられてこなかった新出史料について所在を確認するとともに解説・分析をおこなった。また、資料保全研究においては、東京大学史料編纂所と連携して襖・屏風の下張り文書の保全における効果的な剥離方法を考案するとともに、大船渡地域における被災歴史資料の所在調査を実施した。

研究課題

	期間			研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月	
	4		現在	盛岡藩における儒学受容をめぐる藩政改革と政治抗争の研究	国内
	4		現在	近世社会における大名評判記の受容にみる「明君」像の研究	国内
	4		現在	仙台藩における支藩・内分大名の成立過程に関する研究	国内
	4		現在	災害時における歴史資料・下張り文書の保全に関する研究	国内
	4		現在	年慶長奥州地震津波の歴史資料における記述に関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	史料や伝承に基づく年慶長奥州地震の津波痕跡調査	学術雑誌	無	いいえ	津波工学研究報告						蝦名裕一・今井健太郎	筆頭共著	なし
	日本語	『ビスカイノ報告』における年慶長奥州地震津波の記述について	学術雑誌	有	いいえ	歴史地震						蝦名裕一・高橋裕史	筆頭共著	国内
	日本語	東日本大震災における下張り文書の剥離作業と保全活動の展開	学術雑誌	有	いいえ	災害・復興と資料						蝦名裕一・山口悟史	筆頭共著	国内
	日本語	大名の「明君」志向と藩政―伊達政宗と第二の伊達騒動―	単行本 (論文掲載)	無	いいえ	江戸時代の政治と地域社会	1					蝦名裕一	単著	なし

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
----------	----	------	----	----	----	----	----

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	日本語	よみがえるふるさとの歴史2 慶長奥州地震津波と復興―四〇〇年前にも大地震と大津波があった	単行本		蝦名 裕一	単著	蕃山房	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外連携
	国内	第 回歴史地震研究会	筆頭 連名	いいえ	名古屋		口頭(一般)	山奈宗真『岩手県沿岸大海嘯取調書』に記される近代以前の津波痕跡について	蝦名裕一	国内
	国内	第 回歴史地震研究会	単名	いいえ	名古屋		ポスター(一般)	年慶長奥州地震津波に関する新出史料とその分析	蝦名裕一・今井健太郎・首藤伸夫	国内

	国内	第2回前近代歴史地震史料研究会	単名	いいえ	新潟		口頭(一般)	綱吉政権における災害対応と復旧・復興事業―元禄・宝永地震と富士山噴火をめぐって	蝦名裕一	国内
	国内	第 回巨大津波災害に関する合同研究会	筆頭 連名	いいえ	仙台		口頭(一般)	山奈宗真資料に記される近代以前の歴史津波痕跡について	蝦名裕一・今井健太郎・首藤伸夫	国内

【社会活動】

社会活動の概要

慶長奥州地震津波に関する文理融合研究の成果や新たに発見された歴史資料、またこれらと並行して実施した被災史料などの歴史資料保全作業について、日本各地およびケンブリッジ大学において報告・発表した。また、研究で得られた知見について、岩手県が実施している津波痕跡調査のアドバイザーとして将来的な防災対策への活用をはかった。

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	第 回歴博フォーラム	招待講演			東日本大震災からの歴史資料保存と歴史災害研究	国立歴史民俗博物館	佐倉市・国立歴史民俗博物館
	講演会・セミナー	郷土資料館開館 周年記念報告会よみがえるふるさととの歴史～海運と製塩の町・亘理～	招待講演			慶長奥州地震津波と亘理町の製塩	亘理町教育委員会	亘理町・悠里館
	講演会・セミナー	川崎町歴史文化講座	講師			かわさき歴史文化講座・古文書初級入門講座	川崎町教育委員会	川崎町・川崎町公民館
	講演会・セミナー	弘前大学防災社会研究会第 回公開研究会	招待講演			東日本大震災からの史料保全と災害研究	弘前大学大学院理工学研究科	弘前市・弘前大学
	講演会・セミナー	C	報告				C	C
	講演会・セミナー	C	報告				C 学 大	C
	講演会・セミナー	C	ポスター報告				C 学 大	C
	講演会・セミナー	地震・火山噴火予知研究協議会成果報告会準備会合	報告			東北地方太平洋沿岸地域における歴史災害史料の収集と分析	東京大学地震研究所	東京都・東京大学
	講演会・セミナー	地震・火山噴火予知研究協議会成果報告会準備会合	ポスター報告			東北地方太平洋沿岸地域における歴史災害史料の収集と分析	東京大学地震研究所	東京都・東京大学
	講演会・セミナー	第 回人間文化研究情報資源共有化研究会	招待講演			文理融合による災害研究と史料保全	大学共同利用期間法人人間文化研究機構	京都市・京都リサーチパーク

自治体・民間等での委員

組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
法人宮城歴史資料保全ネットワーク		事務局	
相馬市教育委員会	相馬市史編さん委員会	編さん執筆委員	
岩手県	岩手県河川課	岩手県津波痕跡調査アドバイザー	
人間文化研究機構国立歴史民俗博物館		共同研究員	

天野 真志 助教

Masashi AMANO

人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
富山大学	人文学部			東北大学大学院	文学研究科			博士(文学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
		現在		東北大学 東北アジア研究センター	教育研究支援者
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教
		現在		東北学院大学 歴史学科	非常勤講師
		現在		宮城学院女子大学 学芸学部人間文化学科	非常勤講師

所属学会

日本古文書学会	明治維新史学会	文化財保存修復学会	日本アーカイブズ学会	日本史研究会	歴史学研究会	情報処理学会	東北史学会	日本歴史学会	史学会
---------	---------	-----------	------------	--------	--------	--------	-------	--------	-----

研究分野・キーワード

日本近世・近代史	歴史資料保存	古文書学	震災資料
----------	--------	------	------

【研究活動】

研究活動の概要

(1)津波被害を受けた被災した民間所在歴史資料の一時保管時における経過観察および劣化要素の除去・修補に焦点をあて、現在の歴史情報を可能な限り維持するために有効な手段として、純水を用いた洗浄法やスチームクリーナーによる固着展開法の可能性を検証している。(2)大規模自然災害発生時における水損歴史資料の救済法として注目される真空凍結乾燥法について、そのシステム構築および活用方法を構築している。(3)岩沼市における避難所関連資料の保存・活用に向けた調査を実施し、避難所関連資料と関係者との聞き取り記録を照合・検討することで、当該期に発生した避難所運営の状況について検討している。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		近世・近代日本における政治・思想史的研究	国内
			現在		地域歴史資料の保存・活用に関する研究	国内
			現在		大規模災害関係資料(震災資料)に関する研究	国内
			現在		近世文書料紙の形態・紙質に関する系譜論的研究	国内
			現在		被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	王政復古前後における秋田藩と気吹舎―慶応年の内勅をめぐる政治的背景―	単行本(論文掲載)	有	いいえ	平川新編『江戸時代の政治と地域社会 藩政と幕末政局』清文堂出版							単著	なし

著書(監修・編著・単著・共著)

監修	編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
----	----	----	------	----	----	----	----	----

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	日本語	災害を超えて ―宮城における歴史資料保全 2003―2013―	単行本		天野真志, 佐藤大介	共編著	法人宮城歴史資料保全ネットワーク	国内
	日本語	東北文化資料叢書第 集 平元貞治 献芹録	単行本		天野真志	編著	東北大学大学院文学研究科東北文化研究室	なし

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	年目の歴史資料保全	単行本(論文掲載)	無	はい	『災害を超えて 宮城における歴史資料保全』						天野真志	単著	国内

	日本語	ボランティア活動の全国的展開 資料保全ネットワークの活動	単行本 (論文掲載)	無	はい	『大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト 安定化処理』(津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会						天野真志	単著	国内
	英語	C	単行本 (論文掲載)	無	はい								単著	国内

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	第 回文化財保存修復学会大会	筆頭 連名	いいえ	東京都		ポスター(一般)	被災歴史資料保存の普及に向けた実践的研究―市民参加型ワークショップの取り組み―	天野真志, 内田俊秀, 竹原万雄, 吉川圭太, 吉原大志	国内
	国内	年度東北史学会大会	単名	いいえ	福島市		口頭(一般)	攘夷と馭戎―平田延胤著『馭戎論』をめぐる幕末木	天野真志	国内
	国内	基盤研究()「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立―東日本大震災を踏まえて―」(神戸大学)主催シンポジウム「「ふるさとの歴史と記憶をつなぐ―東日本大震災 日・史料保全の「いま」と「これから」―」	単名	はい	仙台市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	コメントおよびパネルディスカッション	天野真志	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	基盤研究()「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立―東日本大震災を踏まえて―」(神戸大学)	シンポジウム「ふるさとの歴史と記憶をつなぐ―東日本大震災 日・史料保全の「いま」と「これから」―」			仙台市博物館(宮城県仙台市)	学会・シンポジウム	運営担当		共催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

東北学院大学において、古文書読解および歴史的背景の検討、さらに古文書の被災と復旧にかかわる実習をおこない、民間所在の古文書が置かれる社会的状況についての実習を提供した。また宮城学院女子大学においては、古文書をととした歴史像の構築と政治・社会の描かれ方について講義し、東北像の再検討にむけた話題提供をおこなった。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/1コマ
	日本史専門講読	東北学院大学	文学部	歴史学科		通年	
	日本社会の歴史	宮城学院女子大学	学芸学部	人間文化学科		後期	

【社会活動】

社会活動の概要

静岡県において「第 回文化財防災意見交換会」を開催し、静岡県の文化財関係者を交えた意見交換会の代表をつとめた。また、神戸市において「トークイベント 資料保全の現場」を開催し、その代表を務めた。さらに、九州国立博物館が中心に実施する平成 年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんなであまるミュージアム」の協力者会議として調査・協議をおこなった。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	東北大学災害科学国際研究所特定プロジェクト研究「地域歴史資料の防災・減災体制の構築にむけた広域連携研究」(代表:天野真志)	文化財防災意見交換会 静岡			静岡市・静岡県庁	行政との連携	代表		なし	
	国内	東北大学災害科学国際研究所特定プロジェクト研究「地域歴史資料の防災・減災体制の構築にむけた広域連携研究」(代表:天野真志)	トークイベント 資料保全の現場			神戸市・野村證券神戸支店アネックスホール	市民向け講演会・セミナー	代表		なし	

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	平成 年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんなでまもるミュージアム」	協力者会議	委員	

丸谷 浩明 教授

Hiroaki MARUYA

人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東京大学	経済学部							博士(経済学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				建設省 住宅局 住宅政策課	係員
				建設省 都市局 区画整理課	法規係長
				建設省 建設経済局 調査情報課	情報政策係長
				経済企画庁 調査局 内国調査第一課	専門調査員、主査
				外務省 赴任研修、在シンガポール日本国大使館	二等書記官、一等書記官
				建設省 住宅局 住宅政策課	課長補佐
				建設省 建設経済局 国際課 国際企画室	課長補佐
				阪神高速道路公団 計画部	企画課長
				建設省 建設経済局 建設業課	建設市場アクセス推進室長
				国土交通省 総合政策局 建設振興課	労働資材対策室長
				内閣府政策統括官(防災担当)付	企画官
				京都大学 経済研究所 先端政策分析研究センター	教授
				財 建設経済研究所	研究理事
				兼務(非常勤) 東京工業大学 都市地震工学センター	特任教授
				内閣府政策統括官(防災担当)付	参事官
				国土交通省 国土交通政策研究所	政策研究官
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

所属学会

地域安全学会	都市住宅学会	日本建築学会	日本不動産学会	地区防災計画学会	国際危機管理学会 (日本支部)
--------	--------	--------	---------	----------	--------------------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
都市住宅学会	東北支部	常議員	

研究分野・キーワード

事業継続マネジメント(C)	防災計画	災害ボランティア	防災法制	首都直下地震
-----------------	------	----------	------	--------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	災害対策推進室	アドバイザー	

【研究活動】

研究活動の概要

企業の事業継続マネジメント(C)の研究では、科研費を活用して東日本大震災の被災地の企業11社を訪問し、被災当時の早期復旧の取組、その後の事業継続力の維持・改善の状況等について現地ヒアリングを行った。大学の C の研究としては、先進的な取組をしている香川大学と連携して研究を進め、東北大学本部の C 及び災害科学国際研究所の C の策定の準備に研究成果を活かした。防災の産官学連携としては、東北各県、経済団体、有志企業等が参加する「東北連合復興会議」で研究成果発表、運営方針の議論への参画へを行いった。また、仙台での産官学による勉強会として、「企業・組織の C ／防災勉強会(仙台)」を主宰し、毎月会合を開いて意見交換を行った。広域連携の研究では、神戸大学と広域連携研究の共同セミナーを大阪で行った。学会活動は、地域安全学会、都市住宅学会を中心に行った。

研究課題

	期間			研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年		
			現在	事業継続マネジメント(C)、事業継続計画(C)の研究	国内
			現在	企業・公的組織の防災対策の研究	
			現在	災害ボランティアの研究	
			現在	防災計画、防災法制の研究	
			現在	首都直下地震(特に、帰宅困難者の一時滞在施設)の研究	
			現在	産官学民連携による防災の研究	
			現在	防災の広域連携の研究	
			現在	大学の業務継続計画(C)の研究	

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行 年月日	著者氏名 (共著者含)	共著 区分	学外 連携
	日本語	南海トラフ巨大地震による電力供給制約下の地域間電力融通における経済被害軽減対策効果の評価	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集						寅屋敷哲也、河田恵昭、丸谷浩明	共著	国内

	日本語	首都直下地震発生時の都心部企業の事業継続の困難性要因の考察	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集						丸谷浩明	単著	なし
	日本語	企業の事業継続計画の復旧経過と課題～求められる事業継続マネジメントとしての展開と改善～	学術雑誌	無	はい	都市住宅学						丸谷浩明	単著	なし
	日本語	企業の事業継続計画と連携	学術雑誌	無	はい	世紀ひょうご						丸谷浩明	単著	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	ビル経営に求められる事業継続マネジメントとは	その他	無	はい			月				丸谷浩明	単著	なし
	日本語	災害の発生を防ぎきる「防災」から被害を最小化する「減災」へ～災害に直面する地域の持続可能性の確保に向けて～	その他	無	はい	地銀協月報 年月号		月				丸谷浩明	単著	なし

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国内	第 回(年度)地域安全学会研究発表会(春季)	単名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	首都直下地震発生時の都心部企業の事業継続の困難性要因の考察	丸谷浩明	なし
	国内	第 回(年度)地域安全学会研究発表会(春季)オーガナイズドセッション型公開研究会テーマ :事業継続計画	単名	はい	神戸市		口頭(基調)	未来の大震災に備えて、企業に求められる対策とは	丸谷浩明	国内
	国内	C	単名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国内	メモリアル・コンファレンス・イン神戸	単名	はい	神戸市		口頭(招待・特別)	企業の事業継続と連携の重要性と教訓	丸谷浩明	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRiDeSの関与	学外連携
				開始年月	終了年月						
	国内	神戸大学・東北大学災害科学国際研究所	神戸大・東北大 ジョイントシンポジウム「巨大地震に備えた地域間連携体制を考える」			大阪淀屋橋(大阪府大阪市)	学会・シンポジウム	共同責任者		主催	国内
	国内	災害科学国際研究所 丸谷研究室	「大学の業務継続計画」に関する講演・意見交換会			東北大学青葉記念会館	学会・シンポジウム	主催、運営		協力	国内
	国内		C			東北大学災害科学国際研究所(宮城県仙台市)	学会・シンポジウム	分科会座長		主催	国外

【教育活動】

教育活動の概要

全学教育での「東日本大震災等の災害と社会の対応」の授業、兼務先の法学研究科公共政策大学院での「防災法」の授業及び「防災政策論演習」の授業、リーディング大学院での授業等を行った。また、公共政策大学院の修士学生の論文指導を行った。特に、全学教育の授業は 名を超える学生の履修を得られた。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	防災政策論演習	東北大学	法学研究科	公共政策専攻		通年	
	経済と社会(東日本大震災等の災害と社会の対応)	東北大学	全学			後期	
	防災法	東北大学	法学研究科	公共政策専攻		前期	
	実践的防災学VI	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学コース		後期	
	災害と科学	東北大学	全学			後期	
	事業継続計画策定演習	香川大学	西国防災・危機管理特別プログラム			前期	
	公共政策論	東北大学	全学			前期	

【社会活動】

社会活動の概要

産官学が参加する「企業・組織の C /防災勉強会(仙台)」を設置し、登録メンバー 名程度を集めることができ、月 回のペースで開催を続けている。また、事業継続計画や防災の内容の講演を年間 回にわたり行った。政府・地方自治体の公的委員会の委員等を 件務めた。 活動としては、事業継続推進機構による事業継続計画(C)の普及活動を、国連防災世界会議のパブリックフォーラムを含めて行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	法人事業継続 推進機構、東北大 学災害科学国際研 究所	国連防災世界会議パブリック・フォーラム 「日本の事業継続マネジメントの現状と今 後～東日本大震災も踏まえて～」			仙台市・ ガーデン シティ仙台	市民向け講演会・セミ ナー	運営責任者		共催	
	国内	東北大学災害科学 国際研究所丸谷研 究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@ 仙 台) 第 回			仙台市・東北 大学片平キャン パス	その他	主宰者		なし	産官学による 定期開催勉強 会
	国内	東北大学災害科学 国際研究所丸谷研 究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@ 仙 台) 第 回			仙台市・東北 大学片平キャン パス	その他	主宰者		なし	産官学による 定期開催勉強 会
	国内	東北大学災害科学 国際研究所丸谷研 究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@ 仙 台) 第 回			仙台市・ ガーデンシ ティ仙台勾当 台	その他	主宰者		なし	産官学による 定期開催勉強 会
	国内	東北大学災害科学 国際研究所丸谷研 究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@ 仙 台) 第 回			仙台市・東北 大学片平キャン パス	その他	主宰者		なし	産官学による 定期開催勉強 会
	国内	東北大学災害科学 国際研究所丸谷研 究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@ 仙 台) 第 回			仙台市・ ガーデンシ ティ仙台勾当 台	その他	主宰者		なし	産官学による 定期開催勉強 会
	国内	東北大学災害科学 国際研究所丸谷研 究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@ 仙 台) 第 回			仙台市・東北 大学青葉山 キャンパス	その他	主宰者		なし	産官学による 定期開催勉強 会
	国内	東北大学災害科学 国際研究所丸谷研 究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@ 仙 台) 第 回			仙台市・東北 大学片平キャン パス	その他	主宰者		なし	産官学による 定期開催勉強 会
	国内	東北大学災害科学 国際研究所丸谷研 究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@ 仙 台) 第 回			仙台市・東北 大学片平キャン パス	その他	主宰者		なし	産官学による 定期開催勉強 会
	国内	東北大学災害科学 国際研究所丸谷研 究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@ 仙 台) 第 回			仙台市・東北 大学片平キャン パス	その他	主宰者		なし	産官学による 定期開催勉強 会
	国内	東北大学災害科学 国際研究所丸谷研 究室	企業・組織のBCP／防災勉強会 (@ 仙 台) 第 回			仙台市・東北 大学片平キャン パス	その他	主宰者		なし	産官学による 定期開催勉強 会

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	東京土建世田谷支部主 催講演会	招待講演			建設企業の事業継続計画(BCP)の必要性とポイント	東京土建世田 谷支部	東京都世田谷区・ 東京土建世田谷支 部会館
	講演会・セミナー	日本ナレッジセンター セミナー	招待講演			最新情報を踏まえた首都直下地震に備える企業の防災・事業継続	日本ナレッジ センター	東京都中央区・銀 座フェニックスプラ ザ(紙パルプ会館)
	講演会・セミナー	法人 事業継続推進 機構総会講演会	講師			最新情報を踏まえた首都直下地震に備える企業の防災・事業継続	法人 事 業継続推進機 構	東京都渋谷区・国 立オリンピック記念 青少年総合センタ ー
	講演会・セミナー	地域問題研究所 市町 村ゼミナール	招待講演			地方自治体の業務継続計の策定と運用～ C から C へ	(一社)地域問 題研究所	名古屋市・名古屋 栄ビルディング
	講演会・セミナー	事業継続推進機構 月度 月例会講演会	講師			首都直下地震の新たな被害想定と事業継続のあり方	法人 事 業継続推進機 構	東京都渋谷区・国 立オリンピック記念 青少年総合センタ ー
	講演会・セミナー	第 回「震災対策技術展」 宮城	講師			東日本大震災の教訓を活かした企業・組織の事業継続	エグジビション テクノロジーーズ 株式会社	仙台市・ ビル
	講演会・セミナー	「大学の業務継続計画」 に関する講演・意見交換 会	講師			東北大学における業務継続計画(C	東北大学災害 科学国際研究 所 丸谷研究 室	東北大学青葉折念 会館
	講演会・セミナー	京都府主催 市町村 C 策定研究会	招待講演			市町村の業務継続計 C の策定と運用のポイント	京都府庁	京都市・京都府庁 会議室
	講演会・セミナー	オフィスビルの耐震化推 進講演会	招待講演			ビル経営に求められる 事業継続マネジメントとは	(一社)日本ビルヂ ング協会連合会 (一社)東京ビルヂ ング協会	東京都千代田区・ 日本工業倶楽部
	講演会・セミナー	平成 年度 環境施設 総括管理士資格認定研 修会	招待講演			災害事故発生時の廃棄物処理の事業継続と社会的責任	(一社)環境衛 生施設維持管 理業協会	東京都港区・メルバ ルク
	講演会・セミナー	内閣府主催防災スペシャ リスト研修	講師			BCM(事業・業務継続マネジメント)	内閣府	東京都江東区・そな エリア東京
	講演会・セミナー	事業継続推進機構 月 度月例会講演会	講師			行政の業務継続計画、業務継続マネジメントの整備の方向性	法人 事 業継続推進機 構	東京都港区・国立 オリンピック記念青 少年総合センター
	講演会・セミナー	博士課程交流セミナー	招待講演			工学博士人材への官庁と企業の期待と イライラ	東北大学大 学院工学研究科	仙台市・東北大学 青葉山キャンパス

	展示会	東北大学イノベーション フェア	展示参加			災害科学国際研究所の展示代表者。自分野の展示「災害を乗り越える企業・組織の事業継続（BCP、BCM）」	東北大学	仙台市・仙台国際 会議場
	講演会・セミナー	平成 年度危機管理士 講座 級 自然災害	講師			BCM(事業・業務継続マネジメント)	法人 日 本危機管理士 機構	東京都千代田区・ 明治大学
	講演会・セミナー	新潟市役所 C 講演会	招待講演			地方自治体の業務継続計画（C）の必要性和重点	新潟市役所	新潟市・新潟市役 所
	講演会・セミナー	内閣府主催防災スペシャ リスト研修	講師			BCM(事業・業務継続マネジメント)	内閣府	東京都江東区・そな エリア東京
	講演会・セミナー	日本建設業連合会 C 部会講演会	招待講演			首都直下型地震対策を中心に C 及び C について	(一社)日本建 設業連合会	東京都中央区・東 京建設会館
	講演会・セミナー	(公社)仙台市防災安全 協会宮城野地区 防災 講演会	招待講演			企業・組織の事業継続計画（C）へ必要性和とすぐに行うべきことへ	(公社)仙台市 防災安全協会 宮城野地区	仙台市・メルパルク 仙台
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブ リックフォーラム「災害ボラ ンティアフォーラム」	招待講演・鼎 談			東日本大震災における災害ボランティア活動の意義と課題	仙台市・仙台 市社会福祉協 議会	仙台市・仙台市シル バーセンター
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブ リックフォーラム「災害時 における支援調整の仕組 みを考える」	パネリスト			日本における支援調整機能検討に求められる視点・論点～官民連 携の支援調整機能をどのように構築すべきかへ	仮称 全国災 害 セン ター（ ） 準備会	仙台市・仙台市シル バーセンター
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブ リックフォーラム「防災と ボランティアのつどい 」	招待講演			防災とボランティアのつどい メッセージ	仙台市・仙台 市社会福祉協 議会	仙台市・仙台市シル バーセンター
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブ リックフォーラム「日本の 事業継続マネジメントの 現状と今後」	講師、パネリス ト			東日本大震災等の災害と C 、 C の見直し	法人 事 業継続推進機 構（ 共 催）	仙台市・ ガーデンシティ仙台
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブ リックフォーラム「東北内 外の連携・相互協力によ る災害対応力強化に向 けて」	招待講演			東北内外の協力・産官学民連携による災害対応力強化に向けて	東北復興連合 会議(事務局: 日本政策投資 銀行)	仙台市・ ガーデ ンシティ仙台勾当台

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	内閣府(防災担当)	事業継続計画策定促進方策に関する検討会	委員	
	内閣府(防災担当)	防災ボランティア活動検討会	有識者委員	
	内閣府(防災担当)	『防災スペシャリスト要請研修』企画検討会	委員	
	内閣府(防災担当)	政府業務継続に関する評価等有識者会議	委員	1
	内閣府(防災担当)	地方公共団体の業務継続の手引き改訂に関する検討会	委員	
	内閣府(防災担当)・東京都	一時滞在施設の確保に関するワーキンググループ	委員	1
	内閣府(防災担当)	国連防災世界会議国内準備委員会	アドバイザー	
	内閣官房地域再生統合事務局	防災ワーキング	委員	
	埼玉県	埼玉県防災会議	有識者委員	
	京都府		危機管理アドバイザー	
	鳥取県	鳥取県版業務継続計画(BCP)策定推進会議	アドバイザー	
	法人 事業継続推進機構		副理事長	

他研究機関・協定締結校との交流実績(E-2との重複可)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	神戸大学社会科学系教 育研究府	紅谷昇平淳教授		共同研究	大阪市・ 大阪淀屋橋	国内	講演・発表	
	香川大学工学部	白木渡教授		共同研究	仙台市東北大学青葉祈念会館	国内	講演・発表	

川島 秀一 教授

Shuichi KAWASHIMA

人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
法政大学	社会学部							文学博士		

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
					東北大学附属図書館	司書
					気仙沼市 総務部 市史編さん室	主幹
					気仙沼市図書館	司書
					リアス・アーク美術館	副館長
					神奈川大学 日本常民文化研究所	特任教授
					現職	

所属学会

日本民俗学会	日本口承文芸学会	日本カトオ学会	東北民俗の会
--------	----------	---------	--------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本民俗学会	例会委員会	理事	
日本口承文芸学会		理事	
日本カトオ学会	広域的地域間共助推進委員会	委員長	
東北民俗の会	例会委員会	常任委員	

研究分野・キーワード

海洋民俗研究	民間信仰研究	口承文芸研究	災害文化研究
--------	--------	--------	--------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	附属図書館商議会	商議員	

【研究活動】

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究	国内
			現在		汽水の生活環境史の研究	国内
			現在		災害復興における在来知の研究	国内
			現在		東日本大震災被災地域における生活文化研究の復興と博物館型研究統合の研究	国内
			現在		列島における津波碑の民俗学的研究	

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	震災年のカトオ漁	単行本	無	いいえ	安さんのカトオ漁						川島秀一	単著	なし
	日本語	カトオ漁の風土と災害	単行本	無	いいえ	安さんのカトオ漁						川島秀一	単著	なし
	日本語	三陸沿岸における津波と漁業の伝承―三陸の漁撈文化から探る復興への道―	学術雑誌	無	はい	水産振興						川島秀一	単著	なし
	日本語	「東北」の過去から未来へ向けて―津波と三陸沿岸をめぐって	学術雑誌	無	はい	歴史地理教育		増刊				川島秀一	単著	なし
	日本語	災害伝承と自然観	学術雑誌	無	はい	口承文芸研究						川島秀一	単著	なし

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
----------	----	------	----	----	----	----	----

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	日本語	安さんのカトオ漁	単行本		川島秀一	単著	富山房インターナショナル	なし

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	第 回日本口承文芸学会	単名	はい	仙台市 北大学		口頭 学会・シンボ ジウム	災害伝承と自然観	川島秀一	なし
	国内	日本カツオ学会 第3回カツオ セミナー	単名	はい	高知市 高知大学		口頭 学会・シンボ ジウム	カツオ漁の風土と災害	川島秀一	なし
	国内	第 回日本村落研究学会	単名	はい	宮古市 グリーンピア三 陸みやこ		口頭 学会・シンボ ジウム	自然災害から復興する集落の諸相—東日本大震災 と三陸漁村	川島秀一	なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月日	終了年月日						
	国内	日本口承文芸学会	シンポジウム「災害と口承文芸」			東北大学 宮城県仙 台市	学会・シンポジウム	運営担当		IRID S共催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

年度から、東北大学文学研究科の宗教学の講義「宗教学特論Ⅰ」を担当することになり、「自然災害と海の信仰」というテーマで前期半年間を教育活動に宛てた。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
	宗教学特論Ⅰ 自然災害と海の信仰	東北大学	文学部	宗教学	学 ～	前期	

【社会活動】

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	東北大学災害科学 国際研究所 気仙 沼サテライト	第4回防災文化講演会			気仙沼市・海 の市	市民向け講演会・セミ ナー	運営担当		主催	
	国内	東北大学災害科学 国際研究所 気仙 沼サテライト	第5回防災文化講演会			気仙沼市・海 の市	市民向け講演会・セミ ナー	運営担当		主催	
	国内	東北大学災害科学 国際研究所 気仙 沼サテライト	第6回防災文化講演会			気仙沼市・海 の市	市民向け講演会・セミ ナー	運営担当		主催	

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	津波対策講演会	招待講演			災害の記憶と生活文化	上ノ加江自主 防災会	中土佐町・上ノ加江 農業改善センター
	講演会・セミナー	市民公開講演会	招待講演			災害の記憶と生活文化	仙台市防災安 全協会	仙台市・フォレスト・仙 台ビル
	講演会・セミナー	第4回防災文化講演会				地域の生活文化を守るために—「災害文化」から考えられること—	東北大学災害 科学国際研究 所 気仙沼サ テライト	気仙沼市・海の市
	講演会・セミナー	シンポジウム「海のまちと 希望の帆船」	招待講演			三陸地方における船の歴史と民俗	サン・ファン館	気仙沼市・リアス アーケ美術館
	講演会・セミナー	第4回みなとのがっこう	招待講演			気仙沼とマゴロ	「みなとのがっ こう」事務局	気仙沼市・南町か どっこ
	講演会・セミナー	伝承文化フォーラム	招待講演			海の生活文化を伝える—儀礼・年中行事・祭礼のあいだ—	伝承文化支援 研究センター	山形市・霞城セント ラル
	講演会・セミナー	「みちのく巡礼」防災講演 会	招待講演			津波常習地の生活文化	みちのく巡礼	仙台市・フォレスト・仙 台ビル

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	宮城県文化財保護課	宮城県文化財保護審議会	副委員長	
	気仙沼市文化振興係	気仙沼市文化財保護審議会	委員	
	リアス・アーケ美術館	リアス・アーケ美術館協議会	委員	
	気仙沼市震災復興課	震災遺構検討委員会	委員長	

井内 加奈子 准教授

Kanako IUCHI

人間・社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
筑波大学	第三学群社会工学類			コーネル大学大学院	都市・地域計画学科			地域計画		
				イリノイ大学大学院	都市・地域計画学科			地域計画)		

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
					株式会社バシフィックコンサルタンツインターナショナル 開発計画部	上級技師
					コーネル大学 都市・地域計画学科	授業・研究助手
					イリノイ大学 都市・地域計画学科	研究助手
					世界銀行 金融・経済・都市開発部	都市専門家
			現在		東北大学 災害科学国際研究所 人間社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野	准教授

所属学会

	日本都市計画学会	地域安全学会
--	----------	--------

研究分野・キーワード

都市計画・政策	復興計画	国際開発	まちづくり
---------	------	------	-------

【研究活動】

研究活動の概要

災害管理サイクルの復興フェーズを対象とし、政策・計画の策定・実施過程、及び、政策・計画に関わる意志決定者とコミュニティとの相互作用について研究を行っている。 年度は、リスク配慮と復興計画・実施をテーマに、①東日本大震災の被災地域(東北)、②ハリケーンサンディの被災地域(米国東海岸)、③アチェ津波・中部ジャワ地震の被災地域(インドネシアアチェ・ジョグジャカルタ地域)、④台風ハイアンの被災地域(フィリピンレイテ島)での復興過程を探究した。また、災害に強靱な空間を構築するための土地利用政策に関する国際比較を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		リスク配慮型地域再建政策と生活再建プロセスに関する研究	国外
			現在		災害対応型都市計画の実態に関する国際比較研究	国外
			現在		災害からの回復力強化等に関する領域横断的研究	国外
			現在		フィリピンにおける台風ハイエン被害実態の調査および復興支援の研究	その他
			現在		被災コミュニティの再定住政策と計画決定過程の研究;アチェ・中部ジャワ地域事例研究	国外
			現在		米国ハリケーンサンディ後の復興計画と実施の実態に関する研究	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		国際会議	有	いいえ	C						_____	単著	その他
	英語		国際会議	有	いいえ	C						_____	共著	その他
	英語		国際会議	無	いいえ	C						_____	単著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____	単著	国外

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
----------	----	------	----	----	----	----	----

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	英語		単行本		_____	共著		国外

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		大学紀要	無	いいえ								共著	国外
	英語		その他	無	いいえ								筆頭共著	国内
	英語		大学紀要	無	いいえ								筆頭共著	その他

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際		単名	はい	C		口頭(一般)			国外
	国際	C	単名	いいえ			口頭(一般)	C		国外
	国際	C C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国外
	国際	国際都市計画シンポジウム	単名	いいえ			口頭(一般)			国外
	国際	C	単名	はい			口頭(一般)	C		なし
	国際		単名	はい			口頭(一般)	C		国外

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDeSの関与	学外連携
				開始年月	終了年月						
	国際	世界銀行(世界銀行(ワシントンC、米国	学会・シンポジウム	運営担当		協力	国外
	国際	東北大学災害科学国際研究所	国連防災世界会議 プレイベント 東北大学 知のフォーラム 東日本大震災メモリアル 震災4周年シンポジウム&3D映画「大津波 未来への記憶」上映			東北大学 川内萩ホール	学会・シンポジウム	運営担当		主催	国内
	国際	東北大学災害科学国際研究所	第二回国際シンポジウム 巨大災害からの復興 人、コミュニティと計画			東北大学 川内キャンパス	学会・シンポジウム	主催・運営担当		主催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

リーディング大学院の「実践的防災学」の講義では、国際防災政策の現状を理解するために、海外(特に途上国)における防災の実態について具体的な写真や事例を交えながら説明した。基礎ゼミ「国際開発計画と防災」では、国際開発の世界を防災の観点から理解することを目標に「国際社会の組織・機関」「国際開発計画における防災(政策)」の理解を自発的研究スタイルで行うことで促した。
--

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数90分/コマ
	実践的防災学 分野横断:国際機関、キャリアパス)	東北大学	グローバル安全学トップリーダー養成プログラム			セメ	
	国際開発計画と防災	東北大学	全学		1	セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

国内外での復興過程を、各国・地域の実態・ニーズに合わせて講演を行う事で、復興への取り組みの紹介・知識の共有を図った。活動国は、日本、インドネシア、米国で、行政、学生、一般など幅広い人材を対象とした。国連防災世界会議関連では、プレイベントの段階から講演を広く行い、市民教育に取り組んだ。また、国際協力機構の復興に関わる調査幹事を務め、東日本大震災からの復興過程をまとめるための調査や検討を行った。

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	第3回国連防災世界会議に向けた 市民セミナー	講演			国連防災世界会議と からみた東日本大震災：優先行動1 ガバナンス(制度的基盤)		仙台市・せんだいメディアテーク
	講演会・セミナー	年フィリピン台風調査報告	講演			に向けて：台風 後の復興への取り組み		仙台市・せんだいメディアテーク
	講演会・セミナー	あしなが育英会インターンシップ	講演					仙台市・東北大学工学部
	講演会・セミナー	インドネシア国国家防災庁及び地域防災局の災害管理能力強化プロジェクト本邦研修	招待講演				C	東京・住友不動産西新宿ビル
	講演会・セミナー		招待講演				インドネシア政府	ジャカルタ
	講演会・セミナー		招待講演				コロンビア大学(米国)	ニューヨーク市・コロンビア大学
	講演会・セミナー	第6回防災文化講演会被災から 年の中越・アチエより東北へのメッセージ	講演			インド洋津波からアチエ 年の歩み		気仙沼市・「海の市」2Fコミュニティ・スペース

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	国際協力機構 C	震災復興における支援アプローチ調査	調査幹事	

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
		牧野 由佳		講演	仙台市・東北大学工学部	国外	講演・発表	
				会議	コシチェ・コシチェ技術大学	国外	講演・発表	
				会議	コシチェ・コシチェ技術大学	国外	講演・発表	

マリエリザベス 助教
Elizabeth MALY

【基本情報・略歴】
出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
	C					建築					
					神戸大学大学院工学部	建築			学術博士(建築)		

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
					C (建築都市計画事務所)	オフィスマネージャー、建築事務
					、横浜市	外国語指導助手
					ワシントン大学 大学ジャーナル紙 編集委員	編集委員
						アシスタント研究員
					人と防災未来センター	研究員 (主任研究員)
			現在		東北大学 災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野	助教

所属学会

日本建築学会	日本都市計画学会	日本住宅会議	国際社会学会(
--------	----------	--------	---------

研究分野・キーワード

住宅復興	住まい環境	国際比較	土地利用	災害復興政策
------	-------	------	------	--------

【研究活動】

研究活動の概要

C

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
	4		現在		東日本大震災後の木造仮設住宅	国内
	4		現在		東日本大震災後の復興計画と高台移転や土地利用	国内
			現在		自然災害の復興に関する土地利用や移転の国際比較研究	国外
			現在		ハリケーンサンディ後の住宅復興と土地利用 (アメリカ)	国外
			現在		メラビ火山噴火後の住宅復興 (インドネシア)	国外
	4		現在		ハリケーンサンディ後の住宅復興 (アメリカ)	国外
					仮設住宅の国際比較研究	国外
			現在		インド洋津波後のアチェの住宅復興 (インドネシア)	国外
			現在		台風ハイヤンの復興 (フィリピン)	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語	C	学術雑誌	有	はい							—	筆頭共著	国内
	英語	C	国際会議	無	いいえ	C						—	筆頭共著	国内
	英語	C C	国際会議	無	いいえ	C						—	筆頭共著	国内
	英語	C	国際会議	無	いいえ	C						—	共著	国外
	英語	C C	国際会議	無	いいえ	C						—	筆頭共著	国内

	日本語	震災アーカイブコンテンツの英語化と震災学習の両立をねらいとしたワークショップ手法の設計と試行	学術雑誌	無	いいえ							佐藤翔輔, 櫻井敬佑, 日置友智, 柴山明寛, 今村文彦	共著	国内
--	-----	--	------	---	-----	--	--	--	--	--	--	------------------------------	----	----

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著		単著		筆頭 共著		共著		合計		うち	国際		国内	
----------	--	----	--	----------	--	----	--	----	--	----	----	--	----	--

	記述 言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
	英語	Human Security and Disasters C	単行本		_____	単著		国内
	英語	Post Tsunami Hazards; Reconstruction and Restoration C	単行本		_____	共著		国外
	英語	C Introduction to International Disaster Management, 3rd Edition.	教科書		_____	単著		国外

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著		筆頭共著		その他の 共著		合計		うち	国際 査読有		国際 査読無		国内 査読有		国内 査読無
----	--	------	--	------------	--	----	--	----	-----------	--	-----------	--	-----------	--	-----------

	記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外 連携
	英語		大学紀要	無	いいえ	神戸大学都市安全研究センター研究報告						_____	筆頭共著	国内
	英語		大学紀要	無	いいえ							_____	共著	その他

学会発表

単名		筆頭 連名		その他の 連名		合計	
----	--	----------	--	------------	--	----	--

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月 日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際	C	筆頭 連 名	はい	横浜市		口頭(一般)		_____	国内
	国際	C	筆頭 連 名	はい			口頭(一般)	C C	_____	国内
	国際	C	その他の 連名	はい			口頭(一般)	C	_____	国外
	国際	C	筆頭 連 名	はい	C		口頭(招待・特別)	C	_____	国内
	国際	C	筆頭 連 名	はい			口頭(一般)	C C	_____	国内
	国際	日本災害情報学会・日本災害復興学会合同大会 長岡	単名	はい	長岡市		口頭(一般)	震災アーカイブコンテンツの英語化と震災学習の両立をねらいとしたワークショップ手法の設計と試行	佐藤翔輔, 柴山明寛, 今村文彦	国外
	国際	C	単名	はい	仙台市		口頭(一般)	C	_____	国外
	国際	地域フォーラム「震災から四年―震災復興のこれまでと今後―」	単名	はい	いわき市		口頭(一般)		_____	国外
	国際	C	単名	はい	仙台市		口頭(一般)	C	_____	国外

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国際	世界銀行()	C			世界銀行(ワシントン C アメリカ)	学会・シンポジウム	運営担当		協力	国外
	国際		シンポジウム「人、コミュニティ、計画」の国連防災会議 パブリックフォーラム			東北大学川内キャンパス	学会・シンポジウム	運営担当		主催	国外

【教育活動】
教育活動の概要

C	C
---	---

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分1コマ
	防災論	神戸大学国際協力	C	C		セメ	1

【社会活動】
社会活動の概要

--

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	4 件
----	-----

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国際		あしなが育英会インターンシッププログラム			仙台市・	その他	運営担当		主催	
	国際		研究会と意見交換会			仙台市・	その他	運営担当		主催	
	国際	ム、知のフォー	知のフォーラム分科会4		8	仙台市・	学会・シンポジウム	運営担当		主催	
	国際					仙台市・	学会・シンポジウム	運営担当		主催	

セミナー・講演・講義等

合計	4 件
----	-----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー		招待講演			C		仙台市・国際センター
	講演会・セミナー	「 」勉強会	招待講演			C	C 大学	ニューヨーク市
	講演会・セミナー	神戸大学都市安全センター オ penセミナー	招待講演				神戸大学都市安全センター	神戸市危機管理
	講演会・セミナー	地域フォーラム 「災害から4年―災害復興のこれまでと今度」	招待講演				東北大学・福島高専	いわき市、福島高専

石坂 公一 教授

Koichi ISHIZAKA

地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東京工業大学	工学部							工学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				建設省住宅局住宅計画課	
				国土庁計画・調整局調整課	
				建設省建築研究所企画調査課	
				建設省建築研究所研究員・主任研究員・住環境計画研究室長・住宅計画研究室長	
				東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻助教授	
				東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻教授	
				東北大学災害科学国際研究所地域・都市再生研究部門都市再生計画技術分野教授	

所属学会

日本建築学会	日本都市計画学会	都市住宅学会	日本マンション学会
--------	----------	--------	-----------

研究分野・キーワード

居住計画	都市計画	地域住宅市場の特性分析	被災地の居住復興方策
------	------	-------------	------------

【研究活動】

研究活動の概要

効果的な復興のためには地域の特性を十分に取込んだ計画策定と事業実施が欠かせない。そのため、ミクロナ地域レベルにおける地域特性を的確に把握する手法を開発し、被災地域における効果的な復興支援方策と地域別、方策別の支援必要量を明らかにするための研究を実施した。また、東海、東南海地震による被災想定地域についても被災推計と被災者特性を踏まえた支援必要量の推計を行うとともに、東日本大震災被災地域の被災直前時点の詳細な居住者特性および住民意向調査の結果を踏まえて、被災地における今後の居住復興策の方向性について検討した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		小地域データを活用した被災地支援方策および想定大地震事前対策に関する研究	なし
			現在		被災地における居住復興方策に関する研究	なし

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	被災地の居住復興の展望と課題	学術雑誌	無	はい	都市住宅学						石坂公一	単著	なし
	日本語	小地域データから見る居住復興の課題	その他	無	はい	消防科学と情報						石坂公一	単著	なし
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ								共著	なし

著書(監修・編著・単著・共著)

監修	編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
----	----	----	------	----	----	----	----	----

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	日本語	都市の空地地空家を考える	単行本		浅見泰司、浅田正彦 寺田徹、山口幹幸、雨宮護、阪井暖子、瀬下博之、吉田友彦、横張真、石坂公一 富永麻倫、清水千弘、平山洋介、斎藤広子、周藤利一、大本祐悟、野島瀬秀樹	共著	プログレス	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	空き家の現状と課題－マクロデータとケーススタディを通じて見てきたもの－	その他	無	はい							石坂公一 富永麻倫	筆頭共著	国内

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	日本建築学会大会(近畿)建築社会システム部門研究協議会	単名	はい	神戸市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	住宅セーフティネットの再構築を考える	石坂公一	なし
	国内	都市住宅学会東日本大震災復興住政策特別研究委員会	単名	はい	仙台市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	人口予測から見た被災地域の復興ポテンシャル	石坂公一	なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDEsの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	日本マンション学会	年日本マンション学会学術大会			東北工業大学(宮城県仙台市)	学会・シンポジウム	東北支部長として全体総括		なし	なし

【教育活動】

教育活動の概要

「居住計画論」のなかで仮説住宅の供給等の応急対策、災害公営住宅の供給、防災集団移転等の恒久的対策の両面から災害からの居住復興のあり方について解説するとともに地域の特性を踏まえた復興計画の重要性について講義した。また、「都市分析学」では地域特性を的確に把握するためのデータの推計および分析手法と実際の被災地域を対象とした分析結果を示し、被災地における今後の居住復興の方向性について講義した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
	居住計画論	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	都市分析学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	

【社会活動】

社会活動の概要

宮城県建築審査会長として、建築行政の推進に協力するとともに、仙台市、岩手県の居住政策関連委員会に委員として参画し、地域の居住政策の方向について提言した。また、日本マンション学会の仙台大会開催に当たっては東北支部長として全体を統括するとともに、被災地の現状と課題についての情報の発信を行った。

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	宮城県	建築審査会	会長	
	仙台市	仙台市における高齢者のすまい方を考える懇談会	委員	
	岩手県	住宅政策懇話会	委員	

花岡 和聖 助教

Kazumasa HANAOKA

地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
立命館大学	文学部			英国リーズ大学	地理学部					
				立命館大学大学院	文学研究科			修士(文学)		
				立命館大学大学院	文学研究科			博士(文学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				立命館大学衣笠総合研究機構	ポストドクトラルフェロー
				立命館大学文学部	助教
		現在		東北大学災害科学国際研究所	助教

所属学会

日本地理学会	人文地理学会	東京地学協会	地理情報システム学会	日本都市計画学会	地域安全学会	経済地理学会	東北地理学会	立命館地理学会
--------	--------	--------	------------	----------	--------	--------	--------	---------

研究分野・キーワード

小地域人口推計	地理情報システム	マイクロデータ分析	都市計画
---------	----------	-----------	------

【研究活動】

研究活動の概要

本年度は、①国勢調査・匿名データを活用した空間的マイクロシミュレーションによる小地域人口推計手法の高度化と、東海・東南海地震の被害想定区域における人的被害予測に関する国内外での成果発表、②フィリピン・台風ハイエンの被災地を対象とした現地被害調査及び災害と社会的脆弱性の関連についての統計分析結果の論文発表、③チェルノブイリと福島原発事故被災地の地域変容と復興課題に関するハンガリー科学アカデミー・カラチョニ研究員との国際的な共同研究、④理学研究科・磯田弦准教授と共同でジオデザインを用いた三陸沿岸部における土地利用計画に関する教育プログラムの開発と集中講義を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		空間的マイクロシミュレーションによる小地域人口推定	
			現在		ジオデザインを用いた復興計画策定手法の構築	国内
			現在		フィリピン・台風ハイエンにおける災害被害と脆弱性分析	国内
			現在		福島及びチェルノブイリ被災地を対象とした地域人口分析	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	年フィリピン台風 号ハイエンの被災復興状況報告― 年時点での国家対応及びセブ島サマル島における住宅復興支援―	その他	有	いいえ	地域安全学会梗概集						杉安和也 村尾修 葉袋奈美子 花岡和聖	共著	国内
	日本語	数理・計量・地理情報	学術雑誌	無	いいえ	人文地理						花岡和聖	単著	なし
	英語		国際会議	有	いいえ							――	筆頭共著	国内
	日本語	フィリピン 台風ハイエンによる住宅及び人的被害の特性―災害被害と脆弱性の関連性―	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集						花岡和聖 村尾修 杉安和也	筆頭共著	国内

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
----------	----	------	----	----	----	----	----

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	日本語	災害と地理学・ミクロな地理スケールでの地震被害想定シミュレーションの可能性	単行本		吉越昭久編	共著	文理閣	国内
	日本語	ジオデザインのフレームワーク―デザインで環境を変革する―第 章 不確実性とジオデザイン	訳書		カール・スタイニッツ 著 石川幹子・矢野桂司 編訳	共著	古今書院	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国内	地域安全学会春季研究発表会	その他の連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	年フィリピン台風 号ハイエンの被災・復興状況報告― 年 月辞典での国家対応およびセブ島・サマル島における住宅復興支援―	杉安和也 村尾修 葉袋奈美子 花岡和聖	国内

	国内	年国連防災世界会議に 向けて からみた東日本大震災 の教訓	単名	いいえ	仙台市		指名 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル	地域における脆弱性と台風被害	花岡和聖	
	国内	平成 年度リカレント講座(東 日本大震災被災地の未来を考 える―学術的知見を復興にど う活かすか―)	単名	いいえ	仙台市		その他	データからみる震災復興:復興マネジメントにデータ をどう活用できるか	花岡和聖	
	国内	年日本地理学会秋季学 術大会	筆頭 連 名	いいえ	富山市		口頭(一般)	チェルノブイリ原発事故被災地の人口変化―福島 の復興に向けて―	花岡和聖_カラチヨニイ デイ ヴィッド	国外
	国際		筆頭 連 名	いいえ	ウィーン		口頭(一般)		_____	国内
	国内	地域安全学会秋季研究発表 会	筆頭 連 名	いいえ	静岡市		口頭(一般)	フィリピン・台風ハイエンによる住宅及び人的被害の 特性―災害被害と脆弱性の関連性―	花岡和聖 村尾修 杉安和也	
	国内		単名	いいえ	ワシントン C		口頭(一般)		花岡和聖	
	国内	公的統計のマイクロデータ等を用 いた研究の新展開	単名	いいえ	立川市		公募 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル	国勢調査・匿名データを利用した小地域人口マイク ロデータの推定と災害分野での活用	花岡和聖	

【教育活動】

教育活動の概要

創造工学研修及びリーディング大学院の講義を共同で担当し、地理情報システムに関する講義・実習を担当した。

担当授業科目

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分1コマ
創造工学研修	東北大学	工学部				
安全工学フロンティア研修	東北大学	リーディング大学院				

【社会活動】

社会活動の概要

本年度は、公開セミナー・リカレント講座での講演を行った。

セミナー・講演・講義等

合計	1	件
----	---	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	平成 年度リカレント講 座(東日本大震災被災地 の未来を考える―学術的 知見を復興にどう活かす か―)	講演			データからみる震災復興:復興マネジメントにデータをどう活用でき るか	都市・建築学 専攻	仙台市・メディア テーク

寺田 賢二郎 教授

Kenjiro TERADA

地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
名古屋大学	工学部			米国ミンガン大学	工学部					

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東京大学 大学院工学系研究科 船舶海洋工学専攻	助手
				東北大学 大学院情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	講師
				東北大学 大学院工学研究科 土木工学専攻	助教授(一准教授)
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

所属学会

土木学会	日本計算工学会	日本機械学会	地盤工学会	材料学会	日本鉄鋼協会	非線形C 協会	C
------	---------	--------	-------	------	--------	---------	---

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
土木学会	応用力学委員会	委員長	
土木学会	応用力学委員会 編集小委員長	委員長	
日本計算工学会		副会長	
日本計算工学会	表彰委員会 候補者選考小委員会	委員長	
C			
C	C		
C	C		
非線形C 協会		理事長	
非線形C 協会	非線形C 勉強会実行委員会	委員長	
C			

研究分野・キーワード

計算力学	応用力学	構造工学
------	------	------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	研究教育基盤センター運営専門委員会	委員	
工学部	創造工学センター運営委員会	委員	
工学部	学生相談委員会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

遡上津波と建造物の相互作用評価のためのマルチスケール数値実験法の研究においては、構造物被害に焦点をあて、現象を空間的に階層化したうえで、相対的に小さい空間スケールでの現象に対して無用な近似を極力排除した高精度の流体 構造連成解析を行い、広域での災害時物理現象の特徴づけと構造物被害予測のための方法論を提示しようとしている。 構造と材料の劣化プロセス・強度発現機構の解明に関する研究では、社会基盤構造物・構成材料の高性能 高機能化を目指して、製造過程や使用環境を考慮したうえで、力学的応答解析に基づく剛性 強度の経時的な変化を評価するための理論や方法論を構築している。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		マルチスケール C ソフトウェアの開発	国内
			現在		コンクリート材料の強度発現機構に対する非均質性の影響再考	国内
			現在		偏微分方程式に基づく数値解析による化学反応 熱流体連成解析の手順の構築	国内
			現在		合金の双晶／転位相互作用の研究	国内
			現在		構造と材料の劣化プロセス・強度発現機構の解明と最適設計	国内
			現在		マルチスケール・マルチフィジックス解析手法の開発とC の高度化	なし
			現在		地域・都市の安全性評価のための重層的連成解析手法の開発	なし
			現在		遡上津波と建造物の相互作用評価のためのマルチスケール数値実験	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____	共著	国内

	日本語	弾塑性・クリープ・損傷複合モデルによる繊維強化プラスチックの分離型マルチスケール解析	学術雑誌	有	いいえ	計算工学会論文集							新宅 勇一 村松 眞由 堤 成一郎 寺田 賢二郎 京谷 孝史 加藤 準治 森口 周二	共著	なし
	日本語	微細ひび割れの形成と接触を考慮した準脆性材料の圧縮破壊シミュレーション	学術雑誌	有	いいえ	計算工学会論文集							神野 真弥, 車谷 麻緒, 寺田 賢二郎, 京谷 孝史, 樫山 和男	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C								筆頭 共著	国内
	日本語	弾塑性複合材料のトポロジー最適化における解析的感度の精度検証	学術雑誌	有	いいえ	計算工学会論文集							加藤 準治 干場 大也 高瀬 慎介 寺田 賢二郎 京谷 孝史	共著	国内
	日本語	損傷変数を導入した結合モデルによる多結晶金属の疲労き裂進展解析	学術雑誌	有	いいえ	計算工学会論文集							新宅 勇一 村松 眞由 堤 成一郎 寺田 賢二郎 京谷 孝史 加藤 準治 森口 周二	共著	国内
	日本語	複合板の線形マルチスケール解析のための数値平板試験	学術雑誌	有	いいえ	計算工学会論文集							寺田 賢二郎, 平山 紀夫, 山本 晃司, 松原 成志朗	筆頭 共著	国内
	日本語	フェーズフィールド法によるミクロ構造トポロジー最適化の基礎的研究	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 (応用力学)							加藤 準治, 加茂 純宜, 高瀬 慎介, 森口 周二, 車谷 麻緒, 寺田 賢二郎, 京谷 孝史	共著	国内
	日本語	安定化有限要素法を用いたハイブリッド手法による津波解析	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 (応用力学)							高瀬 慎介, 加藤 準治, 森口 周二, 寺田 賢二郎, 京谷 孝史, 野島 和也, 樫庭 雅明, 樫山 和男	共著	国内
	日本語	弾塑性材料の繰り返し載荷を考慮したマルチフェーズトポロジー最適化および解析的感度の精度検証	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 (応用力学)							干場 大也, 加藤 準治, 高瀬 慎介, 寺田 賢二郎, 京谷 孝史	共著	国内
	日本語	個別要素法を用いた落石シミュレーションにおける形状精度と解析精度の定量的関連付け	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 (応用力学)							橋一光, 森口 周二, 寺田 賢二郎, 高瀬 慎介, 京谷 孝史, 加藤 準治	共著	国内
	日本語	斜面近傍に位置する逆字型送電鉄塔基礎の引揚支持力解析	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集C(地圈工学)							山川 優樹 溝江 弘樹 千田 大 戸田 丈 池田 清宏 田村 洋 寺田 賢二郎	共著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際	C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)	C		国内
	国際	C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)	C		なし
	国際	C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内

	国際	C	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国内	第	回計算工学講演会	その他の 連名	いいえ	広島		口頭(一般)	法を用いたマイクロ構造のトポロジー最適化 の検討	加藤 準治, 加茂 純宜, 高瀬 慎介, 寺田 賢二郎, 京谷 孝 史, 森口 周二	なし
	国内	第	回計算工学講演会	その他の 連名	いいえ	広島		口頭(一般)	繊維長分布を考慮した射出成形品のマルチスケール 解析	山本 晃司, 平山 紀夫, 寺田 賢二郎	国内
	国内	第	回計算工学講演会	その他の 連名	いいえ	広島		口頭(一般)	球要素 を用いた落石挙動予測におけるモデル 化誤差	森口 周二, 橋 一光, 寺田 賢 二郎, 高瀬 慎介, 京谷 孝史, 加藤 準治	なし
	国内	第	回計算工学講演会	その他の 連名	いいえ	広島		口頭(一般)	集团的降下法のためのアダプティブ領域探索法の 提案	荒井 邦晴, 飯野 敦資, 上野 雄太, 平山 紀夫, 寺田 賢二 郎	国内
	国内	第	回計算工学講演会	その他の 連名	いいえ	広島		口頭(一般)	マイクロポーラ弾性体を対象とした均質化法	佐藤 綾美, 山田 崇恭, 泉井 一浩, 西脇 真二, 寺田賢二郎	国内
	国内	第	回計算工学講演会	その他の 連名	いいえ	広島		口頭(一般)	安定化有限要素法を用いた津波遡上の ハイ ブリッド計算	高瀬 慎介, 加藤 準治, 森口 周二, 寺田 賢二郎, 京谷 孝 史, 桜庭 雅明, 野島 和也, 車 谷 麻央, 浅井 光輝, 樫山 和 男	国内
	国内	第	回応用力学シンポジウム	その他の 連名	いいえ	沖縄		口頭(一般)	安定化有限要素法を用いた ハイブリット手法 による津波解析	高瀬慎介, 加藤準治, 森口周 二, 寺田賢二郎, 京谷孝史, 野島和也, 桜庭雅明, 樫山和 男	国内
	国内	第	回応用力学シンポジウム	その他の 連名	いいえ	沖縄		口頭(一般)	フェーズフィールド法によるマイクロ構造トポロジー最適 化の基礎的研究	加藤準治, 加茂純宜, 高瀬慎 介, 寺田賢二郎, 京谷孝史	なし
	国内	第	回応用力学シンポジウム	その他の 連名	いいえ	沖縄		ポスター(一般)	個別要素法を用いた落石シミュレーションにおける 形状精度の基準	森口周二, 橋一光, 寺田賢二 郎, 高瀬慎介, 京谷孝史, 加 藤準治	なし
	国際	C	C CC	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	C CC	筆頭 連 名	はい			口頭(一般)			なし
	国際	C	C CC	その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			なし
	国際	C	C CC	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	C CC	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	C CC	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	C CC	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			なし
	国際	C	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			なし
	国際	C	C	筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	C	筆頭 連 名	いいえ	C		口頭(一般)			国内
	国際	C	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内

	国際	C CC	筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)	C		国内
	国内	第 回計算力学講演会 (C)	その他の 連名	いいえ	岩手		口頭(一般)	フェーズフィールド法によるマルチスケルトボロ ジー最適化手法の提案	加藤進治 加茂純宜 高木知 弘 寺田賢二郎 京谷孝史	国内
	国内	第 回計算力学講演会 (C)	その他の 連名	いいえ	岩手		口頭(一般)	酸化物固体燃料電池の起動停止を想定した多孔質 電極の電気化学・変形連成解析	村松真由 高橋健 高瀬慎介 川田達也 寺田賢二郎	なし
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C	C	国内
	国際	C C	筆頭 連 名	はい			口頭(一般)			国内
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C C	C	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国際	C C	C C			C	学会・シンポジウム			共催	国外
	国際	C	C				学会・シンポジウム	C		なし	国外

【教育活動】

教育活動の概要

リーディング大学院における「実践的防災学」の講義では、安全で安心な社会を創造するために、コンピュータを使った数値シミュレーションの役割と、その手法開発の意義を解説した。また、同大学院「C 研
修」でも、災害の物理化学的メカニズムを解明したり、信頼性の高い予測を行うことで被害の最小化したりするための解析および可視化技術を紹介するとともに、その一連の流れを習得する演習課題を提供した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
	計算力学及び同演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	計算固体力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	
	非均質材料の力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		後期	
	計算固体力学	中央大学	理工学研究科	都市環境学専攻		前期	
	災害の科学	東北大学	全学			セメ	
	実践的防災学	東北大学	工学研究科	リーディング大学院		前期	

【社会活動】

社会活動の概要

国連防災世界会議におけるパブリックフォーラム「レジリエンスワークショップ」の企画・運営委員会の代表を務めた。また、C 技術者を対象とした勉強会を企画・運営したり、有限要素法を中心とした解析理論・技
術のセミナーの講師を務めるなど、社会人教育に取り組んだ。さらに、松島町総合計画審議会および松島町都市計画審議会委員を務め、町の総合計画の調整その他その実施の促進のために必要な調査および
審議を行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月	終了年月						
	国内	法人・非線形 C 協会	第 期非線形C 勉強会(1・2回)			東海大学高輪 キャンパス, 東 京	その他	実行委員長		なし	
	国内	法人・非線形 C 協会	第 期非線形C 勉強会(3・4回)			中央大学駿河 台記念館, 東 京	その他	実行委員長		なし	
	国内	日本計算工学会	サマースクール 名古屋「非線形 有限要素法による弾塑性解析の理論と実 践」			名古屋工業大 学・号 館, 名古屋	その他	実行委員長		なし	

	国内	C 法人・非線形協会	第 期非線形C 勉強会(3・4回)			トヨタ産業技術記念会館, 名古屋	その他	実行委員長		なし	
	国内	C 法人・非線形協会	第 期非線形C 勉強会(3・4回)			トヨタ産業技術記念会館, 名古屋	その他	実行委員長		なし	
	国内	東北大学災害科学国際研究所・流体科学研究所・日本アイ・ピー・エム	国連防災世界会議パブリックフォーラム「レジリエンスワークショップ」			東北大学川内北キャンパス, 仙台	市民向け講演会・セミナー	代表		主催	流体科学研究所・日本東京基礎研究所共催

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	第 期非線形C 勉強会(3・4回)	講師			複合板のマルチスケール解析	法人・非線形C 協会	東京都・中央大学駿河台記念館
	講演会・セミナー	C ユニバーシティ	講師			原理	サイバネットシステム	東京都・富士ソフトビル
	講演会・セミナー	C ユニバーシティ	講師			原理実習	サイバネットシステム	東京都・富士ソフトビル
	講演会・セミナー	C ユニバーシティ	講師			C 強度設計のための力学講座	サイバネットシステム	東京都・富士ソフトビル
	講演会・セミナー	教育講座	講師			計算力学の基礎から応用までコース: 初級計算力学	財 神奈川科学技術アカデミー	川崎市高津区
	講演会・セミナー	第 回 C技術セミナー開催案内	講師			Cのシミュレーション技術	C研究会	仙台市・東北大学青葉山キャンパス
	講演会・セミナー	第 期非線形C 勉強会(3・4回)	講師			材料力学と構造力学の小クイズ	法人・非線形C 協会	名古屋市・トヨタ産業技術記念会館
	講演会・セミナー	C ユニバーシティ	講師			原理	サイバネットシステム	東京都・富士ソフトビル
	講演会・セミナー	C ユニバーシティ	講師			原理実習	サイバネットシステム	東京都・富士ソフトビル
	講演会・セミナー	C ユニバーシティ	講師			C 強度設計のための力学講座	サイバネットシステム	東京都・富士ソフトビル

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	松島町	都市計画審議会	委員	
	松島町	総合計画審議会	委員	

森口 周二 准教授

Shuji MORIGUCHI

地域・都市再生研究部門 地域安全工学研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
岐阜大学	工学部			岐阜大学大学院	工学研究科			博士(工学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				岐阜大学 工学部	学術研究補佐員
				東京工業大学 原子炉工学研究所	特別研究員
				東京工業大学(日本学術振興会特別研究員)	日本学術振興会特別研究員
				(日本学術振興会特別研究員 期間中)	
				岐阜大学 工学部	学術研究補佐員
				岐阜大学 工学研究科	助教
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

所属学会

地盤工学会	日本計算工学会	日本機械学会	土木学会	日本自然災害学会	地質リスク学会
-------	---------	--------	------	----------	---------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
土木学会	応用力学委員会	幹事	
土木学会	応用力学委員 離散体の力学小委員会	幹事	
土木学会	応用力学委員 小委員会	幹事	
地盤工学会	地盤工学会	幹事長	
地盤工学会	C 国内委員会	幹事長	
地盤工学会	「アカデミックロードマップ・発展史」の委員会	幹事	
地盤工学会	出版企画委員会	委員	

研究分野・キーワード

地盤工学	計算工学
------	------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	学生生活協議会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

個別要素法を用いた落石および土砂流動のシミュレーションに関して、模型実験と一連のシミュレーション結果を分析し、解析パラメータや各種解析条件が解析結果に与える影響について整理した。落石と津波を対象として、数値解析を効果的に活用できる確率論的危険度評価の枠組みを提案し、実際のフィールドを対象としてその枠組みを適用した。津波の流体力による構造物の破壊を表現するための数値解析手法の高度化を進めた。土砂流動や雪崩を対象とした連続体モデルに基づく数値解析の改良を進めた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		数値流体解析による雪崩危険度評価に関する研究	
			現在		個別要素法による落石危険度評価に関する研究	
			現在		数値解析に基づく災害の確率論的危険度評価	
			現在		津波による構造物の破壊に関する数値解析手法の開発	
			現在		個別要素法による土砂流動危険度評価に関する研究	

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	弾塑性・クリープ・損傷複合モデルによる繊維強化プラスチックの分離型マルチスケール解析	学術雑誌	有	いいえ	計算工学会論文集						新宅 勇一 村松 眞由 堤 成一郎 寺田 賢二郎 京谷 孝史 加藤 準治 森口 周二	共著	なし
	日本語	損傷変数を導入した結合力モデルによる多結晶金属の疲労き裂進展解析	学術雑誌	有	いいえ	計算工学会論文集						新宅 勇一 村松 眞由 堤 成一郎 寺田 賢二郎 京谷 孝史 加藤 準治 森口 周二	共著	国内

	英語		国際会議	有	いいえ								筆頭共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ						C		共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ						C		共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	日本語	フェーズフィールド法によるマイクロ構造トポロジー最適化の基礎的研究	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集（応用力学）						加藤準治, 加茂純宜, 高瀬慎介, 森口周二, 車谷麻緒, 寺田賢二郎, 京谷孝史	共著	国内
	日本語	個別要素法を用いた落石シミュレーションにおける形状精度と解析精度の定量的関連付け	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集（応用力学）						橋一光, 森口周二, 寺田賢二郎, 高瀬慎介, 京谷孝史, 加藤準治	共著	なし
	日本語	安定化有限要素法を用いたハイブリット手法による津波解析	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集（応用力学）						高瀬慎介, 加藤準治, 森口周二, 寺田賢二郎, 京谷孝史, 野島和也, 桜庭雅明, 樫山和男	共著	国内

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著		単著		筆頭 共著		共著		合計		うち	国際		国内	
----------	--	----	--	----------	--	----	--	----	--	----	----	--	----	--

	記述 言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
	日本語	落石対策工の設計法と計算例	単行本		上野将司 鷲見武富 川瀬貢一 浅野憲雄 右城猛 楠本雅博 森口周二 加賀山肇 高森秀次 加藤十良 筒井秀樹 木下尚樹 有木剛 吉田博 小島明德 松山哲也 吉田真輝 西田陽一 井上昭一	共編著	地盤工学会	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著		筆頭共著		その他の 共著		合計		うち	国際 査読有		国際 査読無		国内 査読有		国内 査読無
----	--	------	--	------------	--	----	--	----	-----------	--	-----------	--	-----------	--	-----------

	記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区 分	学外 連携
	日本語	個別要素法の適用例ー斜面災害シミュレーションと粒子流体連成解析ー	学術雑誌	有	いいえ	地盤工学会誌						森口周二	単著	国内

学会発表

単名		筆頭 連名		その他の 連名		合計	
----	--	----------	--	------------	--	----	--

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際	C C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国内	第 回応用力学シンポジウム	その他の 連名	いいえ	沖縄		口頭(一般)	安定化有限要素法を用いたハイブリット手法による津波解析	高瀬慎介, 加藤準治, 森口周二, 寺田賢二郎, 京谷孝史, 野島和也, 桜庭雅明, 樫山和男	国内
	国内	第 回応用力学シンポジウム	その他の 連名	いいえ	沖縄		口頭(一般)	フェーズフィールド法によるマイクロ構造トポロジー最適化の基礎的研究	加藤準治, 加茂純宜, 高瀬慎介, 寺田賢二郎, 京谷孝史	なし

	国内	第 回応用力学シンポジウム	筆頭 連名	いいえ	沖縄		ポスター(一般)	個別要素法を用いた落石シミュレーションにおける形状精度の基準	森口周二, 橋一光, 寺田賢二郎, 高瀬慎介, 京谷孝史, 加藤準治	なし
	国内	第 回計算工学講演会	その他の連名	いいえ	広島		口頭(一般)	法を用いたミクロ構造のトポロジー最適化の検討	加藤 準治, 加茂 純宜, 高瀬 慎介, 寺田 賢二郎, 京谷 孝史, 森口周二	なし
	国内	第 回計算工学講演会	筆頭 連名	いいえ	広島		口頭(一般)	球要素法を用いた落石挙動予測におけるモデル化誤差	森口周二, 橋一光, 寺田賢二郎, 高瀬 慎介, 京谷孝史, 加藤 準治	なし
	国内	第 回計算工学講演会	その他の連名	いいえ	広島		口頭(一般)	安定化有限要素法を用いた津波遡上のハイブリッド計算	森口周二, 寺田賢二郎, 京谷孝史, 桜庭 雅明, 野島 和也, 車谷 麻央, 浅井 光輝, 樫山和男	国内
	国際	C CC	その他の連名	はい			口頭(一般)			なし
	国際	C CC	筆頭 連名	いいえ			ポスター(一般)			なし
	国際	C CC	その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C CC	その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C CC	その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C C	筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)			なし
	国際	C C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)		C	国外
	国際	C C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際	C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)	C C C		国内

【教育活動】

教育活動の概要

リーディング大学院における「実践的防災学」の講義では、地盤災害について解説し、現状の課題や今後の防災の方向性などの情報を提供した。また、同大学院「C 研修」では、土砂災害シミュレーションやその結果を用いた可視化技術を紹介するとともに、その一連の流れを習得する演習課題を提供した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	情報処理演習	東北大学	全学		1	セメ	
	計算力学及び同演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	実践的防災学	東北大学	工学研究科	リーディング大学院		前期	

【社会活動】

社会活動の概要

土砂災害に関する防災教育を目的として、セミナーでの講演や、中学校での出前講義などを行うとともに、新聞やを通じて土砂災害に関する情報を発信した。また、個別要素法による災害シミュレーションを中心として、講習会等の講師を務めた。

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	第 回「震災対策技術展」 宮城	招待講演			斜面災害の危険度評価技術	「震災対策技術展」事務局 ／エグジビションテクノロジー株式会社	仙台市・ビル
	小中高との連携	防災教育研修会	招待講演			土砂災害の基礎	仙台市教育委員会	仙台市立吉成中学校
	公開講座	地盤に関する解析技術 (個別要素法)講習会	講師			個別要素法と粒子法との違い～離散体モデルと連続体モデルの違い～	地盤工学会	東京都文京区

加藤 準治 助教

Junji KATO

地域・都市再生研究部門 地域安全工学研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
関西大学	工学部	1994	3	ドイツ国立シュツツガルト大学	建設工学科	2010	2	Dr.-Ing.	2010	2

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
1994	4	2002	5	日本技術開発株式会社	設計技師
2004	12	2010	5	ドイツ国立シュツツガルト大学 建設工学科	助手
2010	6	2012	3	東北大学 大学院工学研究科 土木工学専攻	助教
2012	4	2014	12	東北大学 災害科学国際研究所	助教
2015	1	現在		東北大学 大学院工学研究科 土木工学専攻	准教授

研究経歴

期間				研究内容
開始年	月	終了年	月	
2004	12	2010	5	繊維補強複合材料の靱性を向上させるための有限要素法を用いた構造最適化手法の研究
2010	6	2012	3	トンネル用ロックボルトの最適化設計
2012	4	現在		複合材料の弾塑性変形挙動を考慮したトポロジー最適化および感度の高精度化手法の開発
2012	4	2013	3	動弾性体積積分法を用いたクラック特性の同定
2012	4	2014	3	マクロ構造の剛性最大化を目的とした材料微細構造のトポロジー最適化手法の提案
2013	4	現在		超弾性変形を考慮したマルチスケールトポロジー最適化
2013	4	現在		フェーズフィールド法を用いたマルチスケールトポロジー最適化
2013	4	現在		逆均質化法を活用した材料微細亀裂の同定手法の構築
2013	4	現在		フェーズフィールド法を用いたマルチスケールトポロジー最適化
2014	4	現在		熱応力を考慮したトポロジー最適化手法の基礎的検討

学会活動

土木学会	日本計算工学会	日本機械学会	地盤工学会	建築学会	非線形CAE協会	Internatioanl Association for Computational Mechanics	建築学会
------	---------	--------	-------	------	----------	---	------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
土木学会	応用力学委員会	地区幹事	20130000
土木学会	応用力学委員計算力学小委員会	委員	20120000
日本計算工学会	計算工学講演会	副会計担当	20140000
日本計算工学会	国際計算力学ワークショップ IWACOM-III	実行委員および会計担当	20140000
日本建築学会	構造設計・解析の最適化理論応用小委員会	委員	20120000

研究分野・キーワード

計算力学	応用力学	構造工学
------	------	------

【研究活動】

研究活動の概要

(1)構造あるいは材料を最適なものにするための構造最適化手法の確立を目指している。ここでは、有限要素法を基本とした数値的アプローチの開発を基本としている。(2)巨大地震から構造物を守るために、地震エネルギーを低減させる制震デバイス、ダンパー機構などがある。これらの機構およびその材料の特性がその性能に大きく影響するため、それらの機構、あるいは材料を最適化するための手法の提案を行っている。(3)材料微視組織の内在するひび割れは、後の構造物の寿命に大きな影響を与えることから、それを計測する非破壊検査装置の開発が進められているが、微細亀裂を測定できるものは未だ存在しない。そのため、コンピュータを用いた数理的手法によって、それを可能にする手法の開発を行っている。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2004	12	2010	5	繊維補強複合材料の靱性を向上させるための有限要素法を用いた構造最適化手法の研究	国内
2	2010	6	2012	3	トンネル用ロックボルトの最適化設計	国内
3	2012	4	現在		複合材料の弾塑性変形挙動を考慮したトポロジー最適化および感度の高精度化手法の開発	国外
4	2012	4	2013	3	動弾性体積積分法を用いたクラック特性の同定	国内
5	2012	4	2014	3	マクロ構造の剛性最大化を目的とした材料微細構造のトポロジー最適化手法の提案	国内
6	2013	4	現在		超弾性変形を考慮したマルチスケールトポロジー最適化	国内
7	2013	4	現在		フェーズフィールド法を用いたマルチスケールトポロジー最適化	国外
8	2013	4	現在		逆均質化法を活用した材料微細亀裂の同定手法の構築	国内
9	2013	4	現在		フェーズフィールド法を用いたマルチスケールトポロジー最適化	国内
10	2014	4	現在		熱応力を考慮したトポロジー最適化手法の基礎的検討	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	12	合計	12	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	9	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
1	日本語	確率論的断層変位ハザード解析の信頼性向上	学術雑誌	有	いいえ	日本地震工学会論文集	14	2	16	36	20140000	高尾誠, 上田圭一, 安中正, 栗田哲史, 中瀬仁, 京谷孝史, 加藤準治	共著	なし
2	日本語	弾塑性・クリープ・損傷複合モデルによる繊維強化プラスチックの分離型マルチスケール解析	学術雑誌	有	いいえ	日本計算工学会論文集				20140004	20140415	松原成志朗, 荒川裕介, 加藤準治, 寺田賢二郎, 京谷孝史, 上野雄太, 宮永直弘, 平山紀夫, 山本晃司	共著	なし
3	英語	Layout design of rockbolts for natural ground reinforcement	学術雑誌	有	いいえ	INTERNATIONAL JOURNAL FOR NUMERICAL AND ANALYTICAL	38		236	255	20140000	Junji Kato, Keiichiro Ishii, Kenjiro Terada and Takashi Kyoya	共著	なし
4	日本語	EFITによる数値実験に基づく均質体表面のひび割れ深さ評価法の提案	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2 (応用力学)	70	1	10	21	20140000	河西亮輔, 加藤準治, 中畑和之, 京谷孝史, 小川淳	共著	なし
5	英語	Applicability of micro-macro decoupling scheme to two-scale analysis of fiber-reinforced plastics	学術雑誌	有	いいえ	Advanced Composite Materials	23	5-6	421	450	20140512	Kenjiro Terada, Norio Hirayama, Keji Yamamoto, Junji Kato, Takashi Kyoya, Seishiro Matsubara, Yusuke Arakawa, Yuta Ueno and Naohiro Miyanaga	共著	なし
6	英語	Topology optimization of micro-structure for composites applying a decoupling multi-scale analysis	学術雑誌	有	いいえ	Structural and Multidisciplinary Optimization	49		595	608	20140401	Junji Kato, Daishun Yachi, Kenjiro Terada, Takashi Kyoya, Topology optimization of micro-structure for composites applying a decoupling multi-scale analysis	共著	なし
7	日本語	弾塑性複合材料のトポロジー最適化における解析的感度の精度検証	学術雑誌	有	いいえ	日本計算工学会論文集				20140012	20140929	加藤準治, 干場大也, 高瀬慎介, 寺田賢二郎, 京谷孝史	共著	なし
8	日本語	損傷変数を導入した結合モデルによる多結晶金属の疲労き裂進展解析	学術雑誌	有	いいえ	日本計算工学会論文集				20140014	20141019	新宅 勇一, 村松 真由, 堤 成一郎, 寺田賢二郎, 京谷孝史, 加藤 準治, 森口 周二	共著	なし
9	日本語	フェーズフィールド法によるマイクロ構造トポロジー最適化の基礎的研究	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2 (応用力学)	70	2	I_173	I_183	20150200	加藤準治, 加茂純宜, 高瀬慎介, 森口周二, 車谷麻緒, 寺田賢二郎, 京谷孝史	共著	なし
10	日本語	安定化有限要素法を用いた2D-3Dハイブリット手法による津波解析	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2 (応用力学)	70	2	I_307	I_315	20150200	高瀬慎介, 加藤準治, 森口周二, 寺田賢二郎, 京谷孝史, 野島和也, 桜庭雅明, 樫山和男	共著	なし
11	日本語	弾塑性材料の繰り返し載荷を考慮したマルチフェーズトポロジー最適化および解析的感度の精度検証	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2 (応用力学)	70	2	I_317	I_328	20150200	干場大也, 加藤準治, 高瀬慎介, 寺田賢二郎, 京谷孝史	共著	なし
12	日本語	個別要素法を用いた落石シミュレーションにおける形状精度と解析精度の定量的関連付け	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集A2 (応用力学)	70	2	I_519	I_530	20150200	橋一光, 森口周二, 寺田賢二郎, 高瀬慎介, 京谷孝史, 加藤準治	共著	なし

学会発表

単名	0	筆頭連名	6	その他の連名	22	合計	28
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外連携
1	国際	The 1st International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems	筆頭連名	いいえ	Sendai, Japan	20140414	口頭(一般)	Topological Design Considering Elastoplastic Behavior for Structural Toughness	J. Kato, H. Hoshiba, S. Takase, K. Terada and T. Kyoya	国内

2	国際	The 1st International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems	その他の連名	いはい	Sendai, Japan	20140414	口頭(一般)	Numerical Design for Rubber Materials toward High Performance in Energy Absorption	D. Yachi, J. Kato, S. Takase, K. Terada and T. Kyoya	国内
3	国際	The 1st International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems	その他の連名	いはい	Sendai, Japan	20140414	口頭(一般)	A Method for Two-Scale Analysis for Crack Propagation in Polycrystalline Metals	Y. Shintaku, K. Terada, J. Kato, T. Kyoya, S. Moriguchi, S. Takase and S. Tsutsumi	国内
4	国際	The 1st International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems	その他の連名	いはい	Sendai, Japan	20140414	口頭(一般)	Multi-Scale Iso-Geometric Analyses for Heterogeneous Membranes	S. Matsubara, K. Terada, J. Kato, T. Kyoya, S. Moriguchi, S. Takase, F. Fujii, N. Hirayama and I. Temizer	国内
5	国際	The 1st International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems	その他の連名	いはい	Sendai, Japan	20140414	口頭(一般)	2D-3D Hybrid Method for Tsunami Simulation Based on Stabilized Finite Element Method	S. Takase, J. Kato, S. Moriguchi, K. Terada, T. Kyoya, M. Kurumatani, M. Asai, K. Kashiwama, S. Sakuraba and K. Nojima	国内
6	国際	The 1st International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems	その他の連名	いはい	Sendai, Japan	20140414	口頭(一般)	A Study on Impact Force of Rockfalls against Shock-Absorbers for Retaining Walls	Y. Sato, S. Takase, S. Moriguchi, K. Terada, J. Kato, T. Kyoya and M. Kurumatani	国内
7	国際	The 1st International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems	その他の連名	いはい	Sendai, Japan	20140414	口頭(一般)	An Effect of Accuracy of Shape Representation in Rockfall Simulations Using DEM	I. Tachibana, S. Moriguchi, S. Takase, K. Terada, J. Kato, and T. Kyoya	国内
8	国際	International Conference on Engineering and Applied Sciences Optimization (OPTI2014)	筆頭連名	いはい	Kos Island, Greece	20140604	口頭(一般)	Topology optimization of microstructure for material design of composites assuming hyperelasticity model	J. Kato, D. Yachi, S. Takase, K. Terada, T. Kyoya	国内
9	国際	11th World Congress on Computational Mechanics (WCCM XI)	その他の連名	いはい	Barcelona, Spain	20140720	口頭(一般)	Topology optimization of composite structure considering elastoplastic deformation	Junji Kato, Hiroya Hoshiba, Shinsuke Takase, Kenjiro Terada, Takashi Kyoya	国内
10	国際	11th World Congress on Computational Mechanics (WCCM XI)	その他の連名	いはい	Barcelona, Spain	20140720	口頭(一般)	Topology optimization for microstructure of hyperelastic composites	Daishun Yachi, Junji Kato, Shinsuke Takase, Kenjiro Terada, Takashi Kyoya	国内
11	国際	11th World Congress on Computational Mechanics (WCCM XI)	その他の連名	いはい	Barcelona, Spain	20140720	口頭(一般)	Multi-scale crack propagation analysis for strength assessment of polycrystalline materials	Shinsuke Takase, Junji Kato, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada, Takashi Kyoya, Mao Kurumatani, Mitsuteru Asai, Kazuo Kashiwama	国内
12	国際	11th World Congress on Computational Mechanics (WCCM XI)	その他の連名	いはい	Barcelona, Spain	20140720	口頭(一般)	Two-scale plate model with in-plane periodic microstructures	Seishiro Matsubara, Kenjiro Terada, Junji Kato, Takashi Kyoya, Shuji Moriguchi, Shinsuke Takase, Fumio Fujii, Ilker Temizer	国外
13	国際	11th World Congress on Computational Mechanics (WCCM XI)	その他の連名	いはい	Barcelona, Spain	20140720	口頭(一般)	A relation between calculation error and modeling resolution of DEM	Shuji Moriguchi, Ikko Tachibana, Kenjiro Terada, Shinsuke Takase, Takashi Kyoya, Junji Kato	国内
14	国際	11th World Congress on Computational Mechanics (WCCM XI)	その他の連名	いはい	Barcelona, Spain	20140720	口頭(一般)	Multi-scale crack propagation analysis for strength assessment of polycrystalline materials	Yuichi Shintaku, Kenjiro Terada, Junji Kato, Takashi Kyoya, Shuji Moriguchi, Shinsuke Takase, Seiichi Tsutsumi	国内
15	国際	11th World Congress on Computational Mechanics (WCCM XI)	その他の連名	いはい	Barcelona, Spain	20140720	口頭(基調)	Multi-scale computations diversified: From material to disaster sciences	Kenjiro Terada, Shinsuke Takase, Junji Kato, Shuji Moriguchi, Takashi Kyoya	国内
16	国際	8th Asian Rock Mechanics Symposium (ARMS2014)	その他の連名	いはい	Sapporo, Japan	20141014	口頭(一般)	Two-scale analysis of tensile and compressive strengths of alternate layers of inclined rock masses	T. Kyoya, T. Ishida, K. Terada, J. Kato, S. Moriguchi, S. Takase	国内
17	国際	The 14th International, tri-annual, Conference of the International Association for Computer Methods & Advances in Geomechanics (14th IACMAG)	その他の連名	いはい	Kyoto, Japan	20140922	口頭(一般)	Two-scale analysis of tensile and compressive strengths of heterogeneous rock mass	K. Terada, T. Kyoya, T. Ishida, J. Kato, S. Moriguchi, S. Takase, S. Koumura	国内
18	国際	The 3rd German-Japanese Workshop on Computational Mechanics	筆頭連名	いはい	Munich, Germany	20150331	口頭(一般)	Material design applying topology optimization	J. Kato, D. Yachi, S. Takase, K. Terada, T. Kyoya	国内
19	国内	第69回土木学会年次学術講演会	その他の連名	いはい	Osaka, Japan	20140910	口頭(一般)	フェース「フィード」法によるマイクロ構造トポロジー最適化の基礎的研究	加茂純宜, 加藤 準治, 高瀬慎介, 森口周二, 寺田賢二郎, 京谷孝史	国内
20	国内	第69回土木学会年次学術講演会	その他の連名	いはい	Osaka, Japan	20140910	口頭(一般)	弾性波動を利用した非破壊検査における粒子フィルタ適用性の検討	鶴之沢 均・加藤 準治・高瀬 慎介, 森口周二, 寺田賢二郎, 京谷孝史	国内
21	国内	第17回応用力学シンポジウム	その他の連名	いはい	Okinawa, Japan	20140510	口頭(一般)	個別要素法を用いた落石シミュレーションにおける形状精度の基準	森口周二, 橋一光, 寺田賢二郎, 高瀬慎介, 京谷孝史, 加藤 準治	国内
22	国内	第17回応用力学シンポジウム	その他の連名	いはい	Okinawa, Japan	20140510	口頭(一般)	安定化有限要素法を用いた2D-3Dハイブリッド手法による津波解析	高瀬慎介, 加藤 準治, 森口周二, 寺田賢二郎, 京谷孝史, 野島和也, 桜庭雅明, 櫻山和男	国内

23	国内	第17回応用力学シンポジウム	筆頭 連名	いいえ	Okinawa, Japan	20140510	口頭(一般)	フェーズフィールド法によるミクロ構造トポロジー最適化の基礎的研究	加藤準治, 加茂純宜, 高瀬慎介, 森口周二, 寺田賢二郎, 京谷孝史, 車谷麻緒	国内
24	国内	第17回応用力学シンポジウム	その他の連名	いいえ	Okinawa, Japan	20140510	口頭(一般)	弾塑性変形を考慮したマルチフェーズトポロジー最適化の提案	干場大也, 加藤準治, 高瀬慎介, 寺田賢二郎, 京谷孝史	国内
25	国内	第17回応用力学シンポジウム	その他の連名	いいえ	Okinawa, Japan	20140510	口頭(一般)	複合板の非線形マルチスケール解析	松原成志朗, 青葉勇樹, 高瀬慎介, 寺田賢二郎, 加藤準治, 京谷孝史, 森口周二, 平山紀夫	国内
26	国内	第27回計算力学講演会 (CMD2014)	筆頭 連名	いいえ	Iwate, Japan	20140510	口頭(一般)	フェーズフィールド法を用いたマルチスケールトポロジー最適化手法の提案	加藤準治, 加茂純宜, 高木知弘, 寺田賢二郎, 京谷孝史	国内
27	国内	第43回岩盤力学に関するシンポジウム	筆頭 連名	いいえ	Tokyo, Japan	20150108	口頭(一般)	マルチスケール解析による非均質岩盤の力学特性評価	加藤準治, 寺田賢二郎, 京谷孝史	国内
28	国内	平成26年度土木学会東北支部技術研究発表会	その他の連名	いいえ	Sendai, Japan	20150307	口頭(一般)	熱変形を考慮した熱弾性体のトポロジー最適化	市川智, 加藤準治, 高瀬慎介, 寺田賢二郎, 京谷孝史	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDEsの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
1	国際	Japan Association for Computational Mechanics, The Japan Society for Computational Engineering and Science, International Research Institute of Disaster Science	Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems (COMPSAFE 2014)	20140430	20140416	Sendai International Center, Sendai, Japan Techni	学会・シンポジウム	Local comitte	440	IRIDEs共催	国外

【教育活動】

教育活動の概要

授業に関しては、基礎設計Aという、設計の基礎を学ぶ授業の担当を行った。ここでは、災害のみならず、都市計画や水環境、そして構造学の観点から設計の基礎を学ぶものである。研究関係の教育について、有限要素法基礎と構造最適化を用いた内容の研究・教育指導を行った。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/1コマ
1	基礎設計A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	15

【社会活動】

社会活動の概要

NEXCO東日本で創設された高速道路に関する諸問題を検討する技術勉強会の委員として参加し、調査および技術検討会議にて専門家としての意見および助言を行った。

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	NEXCO東日本	トンネル技術検討委員会	委員	20140400
2	NEXCO東日本	土構造物の予防保全に関する技術検討委員会	委員	20140400

村尾 修 教授

Osamu MURAO

地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
横浜国立大学	工学部	1989	3	横浜国立大学大学院	工学研究科	1992	3	博士(工学)(東京大学)	1999	12

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
1995	4	1996	11	(株)防災都市計画研究所	研究員
1996	11	2000	11	東京大学生産技術研究所	助手
2000	12	2005	12	筑波大学 社会工学系(大学院 システム情報工学研究科)	講師
2005	12	2013	3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	助教授・准教授
2013	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

所属学会

日本建築学会	日本都市計画学会	地域安全学会	日本自然災害学会	日本地震工学会	日本リスク研究学会	Earthquake Engineering Research Institute
--------	----------	--------	----------	---------	-----------	---

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
地域安全学会		理事	20010500
地域安全学会	東日本大震災特別委員会	幹事	20110500
地域安全学会	広報委員会	委員長	20110500
日本建築学会	気候変動による災害防止特別調査委員会		20140400
日本建築学会	東日本大震災調査報告編集委員会	幹事	20120000

研究分野・キーワード

都市防災	都市復興
------	------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	環境マネジメント専門委員会委員	委員	20140401
全学	学務審議会委員	委員	20140401
全学	学友会役員職員委員	委員	20140401
全学	国連防災世界会議企画展示タスクフォース	委員	20141200
工学部人間・環境系	低温センター運営委員会	委員	20140401

【研究活動】

研究活動の概要

(1)20世紀の東日本大震災被災地における住宅地変遷過程を把握するとともに、被災後復興計画、津波避難施設についての比較研究を行った。(2)東日本大震災後の企業のBCP活動についてアンケート調査を実施し、分析した。(3)日本国内に点在している災害に対応した都市と建築についての調査を行い、災害種別、減災機能について整理を行った。(4)岩手県と宮城県において、東日本大震災後のインフラ被害による生活支障に関するアンケートを実施した。(5)2004年インド洋津波により被災したスリランカおよびバンダ・アチェにおいて、被災後に内陸部に移転した被災者を対象に調査を行い、生活復興上の支障について分析した。(6)2007年ペルー地震によるビスコの復興過程について分析するとともに、リマにおける今後の防災政策と土地利用についてシミュレーションを行った。(7)藤沢市における津波避難計画に関する提案を行った。
--

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	4	2015	3	ペルーにおける地震・津波減災技術の向上に関する研究	国外
2	2011	4	現在		インド洋津波後の都市復興計画の検証と地球温暖化によるアジア都市の津波リスク評価	国外
3	2012	4	2014	3	藤沢市片瀬地区における津波避難計画の提案	なし
4	2012	4	現在		地震津波複合災害時におけるライフラインの被害推計と応急復旧過程のモデル化	国内
5	2013	4	現在		デジタルアースを用いた都市リスク変遷の視覚化と災害対応建築空間アーカイブズの構築	なし
6	2013	4	現在		東日本大震災復興システムのレジリエンスと沿岸地域における津波に対する脆弱性評価	国内
7	2014	4	2015	3	フィリピンにおける台風の被害実態の調査を踏まえた実践的防災学の構築	国外

論文

単著	2	筆頭共著	2	その他の共著	10	合計	14	うち	国際査読有	3	国際査読無	2	国内査読有	2	国内査読無	7
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
1	日本語	2013年フィリピン台風30号ハイエンの被災・復興状況報告 -2014年2月時点での国家対応およびセブ島、サマール島における住宅復興支援-	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集		34	55	58	20140500	杉安和也, 村尾修, 葉袋奈美子, 花岡和聖	共著	国内
2	英語	Comparative Study of the Post-tsunami Recovery Plans after the 2011 Great East Japan Earthquake	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	9	Special Edition	743	751	20140900	Osamu MURAO, Tomoyo HOSHI	筆頭共著	国内

3	日本語	2013年フィリピン台風30号ハイエン復興状況報告 2014年2月時点におけるセブ島北部・サマール島バセイを対象として	学術雑誌	無	いいえ	2014年度日本建築学会大会(近畿)学術講演梗概集		F-1	783	784	20140900	杉安和也, 村尾修, 葉袋奈美子	共著	国内
4	日本語	2014年2月時点における2004年インド洋津波被災地スリランカ南西部の復興状況調査報告	学術雑誌	無	いいえ	2014年度日本建築学会大会(近畿)学術講演梗概集		F-1	785	786	20140900	村尾修, 杉安和也	筆頭共著	なし
5	日本語	東日本大震災体験後における住民の津波避難意識 ―千葉県御宿町を対象として―	学術雑誌	無	いいえ	2014年度日本建築学会大会(近畿)学術講演梗概集		F-1	653	654	20140900	諫川輝之, 大野隆造, 村尾修	共著	国内
6	日本語	HFA IRIDeS Review Report「2011年東日本大震災から見えてきたこと」の制作	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集	3		61	62	20141000	村尾修	単著	なし
7	英語	Ten-year Post-tsunami Living Conditions in Southwestern Coastal Area Resettlements of Sri Lanka after 2004 Indian Ocean Tsunami	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of the 13th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia (USB)	13			5p	20141100	Murao, O.	単著	なし
8	日本語	フィリピン・台風ハイエンによる住宅及び人的被害の特性 -災害被害と脆弱性の関連性	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集		24	1	10	20141100	花岡和聖, 村尾修, 杉安和也	共著	なし
9	日本語	藤沢市片瀬西浜・鵠沼地区における津波避難ビル収容能力を考慮した津波避難計画	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集		24	123	132	20141100	関脩大, 村尾修, 杉安和也	共著	なし
10	英語	A Simulation Model for Forecasting Urban Vulnerability to Earthquake Disasters in Lima, Peru: "LIMA-UIVEQ"	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	9	6	1069	1077	20141200	Kaji, H., Murao, O., Fujioka, M., Kanegae, H., Yamazaki, F., Estrada, M., and Bisbal, A.	共著	国外
11	英語	Post-Disaster Urban Recovery Monitoring in Pisco After the 2007 Peru Earthquake Using Satellite Image	学術雑誌	有	いいえ	Journal of Disaster Research	9	6	1059	1068	20141200	Hoshi, T., Murao, O., Yoshino, K., Yamazaki, F., and Estrada, M.	共著	国外
12	英語	Analysis of Influential Factors on Building Damage from the 2004 Indian Ocean Tsunami: A case study of Sri Lanka	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Proceedings of The 14th Japan Earthquake Engineering Symposium (DVD)	14		1633	1638	20141200	Leelawati, N., Suppasri, A., Murao, O., and Imamura, F.	共著	国内
13	日本語	衛星画像解析を用いた2007年ペルー地震後のビスコにおける建物再建過程	学術雑誌	無	いいえ	第14回日本地震工学シンポジウム論文集(DVD)	14		2538	2547	20141200	星知世, 村尾修, 吉野邦彦, 山崎文雄, ミゲル・エストラダ	共著	国外
14	日本語	シミュレーションモデルによる地震に対する都市の脆弱性予測 -ペルーリマ市を対象にした"LIMA-UIVEQ"の開発-	学術雑誌	無	いいえ	第14回日本地震工学シンポジウム論文集(DVD)	14		1211	1220	20141200	梶秀樹, 村尾修, 藤岡正樹, 鐘ヶ江秀彦, 山崎文雄, ミゲル・エストラダ, アルベルト・ビスバル	共著	国外

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	0	単著	0	筆頭 共著	4	共著	0	合計	4	うち	国際	3	国内	1
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述 言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
1	英語	"Post-tsunami Urban Recovery Process and Current Conditions in Sri Lanka, Thailand, and Indonesia," Recovery from the Indian Ocean Tsunami: A Ten Years Journey	単行本	20141000	Osamu MURAO, Rajib SHAW (Editor)	共著	Springer	なし
2	英語	"Regional Comparison of Temporary Housing Construction Processes after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami," Tohoku Recovery: Challenges, Potentials and Future	単行本	20141100	Osamu MURAO, Rajib SHAW (Editor)	共著	Springer	なし
3	英語	"Recovery after Sanriku Tsunamis in 1896 and 1933, and Transition of Housing Location before the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami," Tohoku Recovery: Challenges, Potentials and Future	単行本	20141100	Osamu MURAO, Rajib SHAW (Editor)	共著	Springer	なし
4	日本語	施設を用いた津波避難対策の経緯と東日本大震災被災地における津波避難施設の利用状況 (第7章 津波避難施設の現状と今後の課題), 東日本大震災合同調査報告, 建築編5 津波の特性と被害	単行本	20150300	村尾修	共著	日本建築学会	なし

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	5	うち	国際査読有	0	国際査読無	1	国内査読有	0	国内査読無	4
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
1	英語	Hyogo Framework for Action 2005-2015 Building the Resilience of Nations and Communities to Disasters, HFA IRIDeS Review Report Focusing on 2011 Great East Japan Earthquake	大学紀要	無	いいえ	HFA IRIDeS Review Report			1	67	20140500	Osamu MURAO (Chief Editor)	共著	なし
2	日本語	兵庫行動枠組み2005-2015 ―災害に強い国・地域の構築― HFA IRIDeS Review Report 2011年東日本大震災から見えてきたこと	大学紀要	無	いいえ	HFA IRIDeS Review Report			1	65	20140600	村尾修(監修)	共著	なし
3	日本語	名取市閑土地区の復興の現在	学術雑誌	無	いいえ	日本地震工学会会誌		22	37	38	20140600	村尾修	単著	なし
4	日本語	藤沢市片瀬地区における津波避難計画の提案(概要)	その他	無	いいえ	アーバンスタディ	58		59	78	20140600	村尾修, 杉安和也	共著	なし
5	日本語	「災害対応を考慮した都市・建築空間に関する一連の研究」受賞所感	学術雑誌	無	はい	建築雑誌	129	1661	47	47	20140800	村尾修	単著	なし

学会発表

単名	13	筆頭連名	1	その他の連名	6	合計	20
----	----	------	---	--------	---	----	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
1	国内	2014年度地域安全学会大会(春季)	その他の連名	いいえ	神戸市	20140516	口頭(一般)	2013年フィリピン台風30号ハイエンの被災・復興状況報告 -2014年2月時点での国家対応およびセブ島・サマール島における住宅復興支援-	杉安和也, 村尾修, 薬袋奈美子, 花岡和聖	国内
2	国際	6th Asian Ministerial Conference on Disaster Risk Reduction	単名	はい	Bangkok, Thailand	20140622	口頭(招待・特別)	Lessons Learnt from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami with HFA Review	Murao, O	なし
3	国際	6th Asian Ministerial Conference on Disaster Risk Reduction	単名	はい	Bangkok, Thailand	20140624	口頭(招待・特別)	Harnessing the Roles of Universities and Research Centers in Building Community Resilience	Murao, O	なし
4	国内	HFA市民セミナー 2015年国連防災世界会議に向けて - Hyogo Framework for Action からみた東日本大震災の教訓 -, 第3回国連防災世界会議ブレイクイベント	単名	はい	仙台市	20140718	口頭(基調)	わが国の災害対策と国連防災世界会議	村尾修	なし
5	国内	HFA市民セミナー 2015年国連防災世界会議に向けて - Hyogo Framework for Action からみた東日本大震災の教訓 -, 第3回国連防災世界会議ブレイクイベント	単名	はい	仙台市	20140718	口頭(招待・特別)	HFAからみた東日本大震災の教訓	村尾修	なし
6	国際	APRU-IRIDeS Multi-Hazards Program 2014 Summer School	単名	はい	仙台市	20140722	口頭(招待・特別)	Hyogo Framework for Action 2005-2015 Review from a Viewpoint	Murao, O	なし
7	国内	2014年度日本建築学会大会(近畿)	単名	はい	神戸市	20140913	口頭(招待・特別)	災害対応を考慮した都市・建築空間に関する一連の研究	村尾修	なし
8	国内	2014年度日本建築学会大会(近畿)	その他の連名	いいえ	神戸市	20140913	口頭(一般)	東日本大震災体験後における住民の津波避難意識 ―千葉県御宿町を対象として―	諫川輝之, 大野隆造, 村尾修	国内
9	国内	2014年度日本建築学会大会(近畿)	その他の連名	いいえ	神戸市	20140914	口頭(一般)	2013年フィリピン台風30号ハイエンの被災・復興状況報告 2014年2月時点におけるセブ島北部・サマール島バセをを対象として	杉安和也, 村尾修, 薬袋奈美子	国内
10	国内	2014年度日本建築学会大会(近畿)	筆頭連名	いいえ	神戸市	20140914	口頭(一般)	2014年2月時点における2004年インド洋津波被災地スリランカ南西部の復興状況調査報告	村尾修, 杉安和也	なし
11	国内	地域安全学会 東日本大震災連続ワークショップ2014 in 宮古	単名	いいえ	宮古市	20141018	口頭(一般)	HFA IRIDeS Review Report「2011年東日本大震災から見えてきたこと」の制作	村尾修	なし
12	国内	地域安全学会 津波防災の日シンポジウム	単名	はい	宮古市	20141019	口頭(基調)	三陸沿岸部における津波災害と復興「津波防災に関する各地の取り組み」	村尾修	なし
13	国際	4th Annual International Conference (AIC2014) in conjunction with 9th Annual International Workshop and Expo on Sumatra Tsunami Disaster and Recovery (AI-WEST-DR)	単名	はい	Banda Aceh, Indonesia	20141023	口頭(基調)	Lessons Learnt from the 2011 Great East Japan Earthquake and HFA IRIDeS Review Report	Murao, O	なし
14	国際	13th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia	単名	いいえ	Yangon, Myanmar	20141103	口頭(一般)	Ten-year Post-tsunami Living Conditions in Southwestern Coastal Area Resettlements of Sri Lanka after 2004 Indian Ocean Tsunami	Murao, O	なし

15	国内	2014年度地域安全学会大会(秋季)	その他の連名	いいえ	静岡市	20141107	口頭(一般)	フィリピン・台風ハイエンによる住宅及び人的被害の特性 -災害被害と脆弱性の関連性	花岡和聖, 村尾修, 杉安和也	国内
16	国際	10th International Symposium on Multi-Hazards around the Pacific Rim	単名	はい	Santiago, Chile	20141118	口頭(基調)	Post-tsunami Urban Recovery Plans after the 2011 Great East Japan Earthquake	Murao, O	なし
17	国際	10th International Symposium on Multi-Hazards around the Pacific Rim	単名	はい	Santiago, Chile	20141119	口頭(基調)	Land Use Planning and Current Conditions in Areas Devastated by Tsunamis in the World	Murao, O	なし
18	国内	第14回日本地震工学シンポジウム	その他の連名	いいえ	千葉市	20141204	口頭(一般)	シミュレーションモデルによる地震に対する都市の脆弱性予測 -ペルーリマ市を対象にした“LIMA-UVEQ”の開発-	根秀樹, 村尾修, 藤岡正樹, 崎江秀彦, 山崎文雄, ミゲル・エストラダ, アルベルト・ビスバル	国外
19	国内	第14回日本地震工学シンポジウム	その他の連名	いいえ	千葉市	20141206	口頭(一般)	衛星画像解析を用いた2007年ペルー地震後のビスコにおける建物再建過程	星知世, 村尾修, 吉野邦彦, 山崎文雄, ミゲル・エストラダ	国外
20	国際	"Resilient Communities: Our Homes, Our Communities, Our Recovery," Public Forum in the 3rd World Conference on Disaster Risk Reduction	単名	はい	仙台市	20150316	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Resilient Communities: Our Homes, Our Communities, Our Recovery	Murao, O	なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 4 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
1	国内	東北大学災害科学国際研究所	HFA市民セミナー 2015年国連防災世界会議に向けて -Hyogo Framework for Actionからみた東日本大震災の教訓-	20140718	20140718	せんだいメディアテーク(宮城県仙台市)	市民向け講演会・セミナー	企画・統括・運営	150	IRIDeS主催	国内
2	国内	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 都市・建築計画学講座	平成26年度リカレント講座「東日本大震災被災地の未来を考える -学術的知見を復興にどう活かすか-」	20140804	20140804	せんだいメディアテーク(宮城県仙台市)	市民向け講演会・セミナー	企画・統括・運営	60	なし	国内
3	国内	地域安全学会	東日本大震災連続ワークショップ 2014 in 宮古	20141018	20141019	岩手県立大学宮古短期大学部	学会・シンポジウム	企画・統括・運営	120	IRIDeS共催	国内
4	国際	東北大学災害科学国際研究所	国連防災世界会議パブリックフォーラム Resilient Communities: Our Homes, Our Communities, Our Recoveries	20150316	20150316	東北大学川内北キャンパス	学会・シンポジウム	企画・統括・運営	100	IRIDeS主催	国外

【教育活動】

教育活動の概要

工学部建築・社会環境工学科の教育に携わり、「防災・復興空間論」の講義を行い、4名の学生(含研修生)の研究指導をした。また工学研究科都市・建築学専攻の教育に関わり、「都市・建築デザイン学特論」等の講義を担当し、1名の修士学生の研究指導を実施した。さらに、論文博士1名の副査を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	防災・復興空間論	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
2	都市・建築デザイン学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	1

【社会活動】

社会活動の概要

研究活動による知見を社会に還元するために、国際協力機構(JICA)および川崎市における復興および防災に関する委員会に専門家として参加した。また部局間学術交流協定を結んでいるインドネシアのジャカルタ大学で開催された国際シンポジウムにて基調講演を行った。

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	独立行政法人国際協力機構(JICA)	「震災復興における支援アプローチ調査」有識者委員会	委員	20131100
2	川崎市	川崎市防災会議専門委員会	委員	20020401
3	川崎市	川崎市都市計画審議会防災都市計画のあり方検討小委員会	副委員長	20121029

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20140600	ジャカルタ大学(インドネシア)	国外	災害科学国際研究所との部局間学術交流協定	研究機関	ジャカルタ大学数理学部(インドネシア)	20140600	5

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	ジャクアラ大学数理学部 (インドネシア)			講演	ジャクアラ大学数理学部(インドネシア)	国外	講演・発表	

イケリーン チョンヨン 助教
Carine J. YI

地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東義大学校	生物学科			筑波大学	システム情報工学研究科					

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				、	造園デザイン
				株式会社ミカミ	都市計画 地域再生デザイン
				不二造園株式会社	造園デザイン・データベース管理 C
				交通事故分析センター	交通事故データテクニシャン
				C C	C
				C C	
				筑波大学、システム情報工学研究科	ティーチングフェロー
				筑波大学、システム情報工学研究科	リティーチング サーチ・アシスタント
				国立環境研究所、地域環境研究センター	リサーチ・アシスタント

所属学会

	地理情報システム学会	日本リモートセンシング学会	土木学会
--	------------	---------------	------

研究分野・キーワード

大規模災害の空間分析	気候変動	
------------	------	--

【研究活動】

研究活動の概要

本年度においては、本来予定をしていた気候変動データのダウンスケーリングに関する研究以外にも東日本大震災関連の研究に加え、海外の災害地調査を行った。気候変動データは、グローバル規模のデータをいかに地域レベルの分析にあったダウンスケーリングの背景を学ぶことにしていた。福島県阿武隈川流域における、土壌の侵食による放射性物質の移動や拡散のシミュレーションを行った。なお、ソーシャルメディアによる災害コミュニケーションに関する研究の報告を国際会議で行ない、論文として提出して査読中である。フィリピンのレイテ島における台風ハイエンの被害調査を数回行い、その解析結果をジャーナルに投稿し、現在再査読中である。フィリピン調査の結果に関して一筆を書き、災害研究所の報告書として発表された。

研究課題

期間				研究課題(内容)	学外連携
開始年	月	終了年	月		
				大災害時の の活用からリスクコミュニケーションの考察	なし
		現在		福島県阿武隈川流域における、土壌の侵食による放射性物質の移動や拡散のシミュレーション	なし
				フィリピン台風 号の物理的、社会的被害調査と教育	国外
		現在		気候変動データのダウンスケーリングに関する研究	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C						C	共著	なし
	日本語	台風ハイエンに伴うレイテ島沿岸の人的被害状況	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 (海岸工学)						眞修一 C 越 村俊一 真野明	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C C						C	共著	なし
	日本語	年スマトラ地震津波被災地域および年台風ハイエン被災地域への出前授業実施速報	学術雑誌	有	いいえ	東北地域災害科学研究						保田真理 今村文彦 サッパシーア ナワット 野内類、イケリーン	共著	なし

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

[illegible]

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際	C	筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)		C	国外
	国際		単名	いいえ			ポスター(一般)		C	国外

【社会活動】

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	研究会	レクチャー参加			「高解像度地形情報シンポジウム」での、 ハンズオン&レクチャー	総合 防災科学技術 研究所	東京大学柏の葉 キャンパス
	その他	災害科学国際研究所;特定プロジェクト・連携(サブパシー アナウツ)	被災地において 年津波被災地の復興調査			年津波被災地の復興調査	東北大学災害 科学国際研究 所	気仙沼、石巻、名取
	講演会・セミナー	研究会	新技術の討論			衛星画像、航空測量、 、3 などの新技術と	防災科学技術 研究所	東京大学フュー チャーセンター
	ボランティア	減災こども国際フォーラム	ハワイからの参加 学生の通訳			世界とむすぶ 未来へつなぐ 減災へのメッセージ〜「世界の自然災害・地震津波とその脅威」減災授業「減災教育出前授業の振り返り」	東北大学災害 科学国際研究 所	東北大学カタール サイエンスキャンパスホール

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計	件
----	---

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	福島県立福島高等学校	田代公啓校長		その他	松島町・フィールドワーク	国内	その他	

日野 亮太 教授

Ryota HINO

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	理学部			東北大学大学院	理学研究科			博士(理学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東北大学 理学部	助手
				東北大学 大学院理学研究科	助手
				東北大学 大学院理学研究科	助教授(年より准教授)
				東北大学 災害科学国際研究所	教授

所属学会

日本地震学会	日本測地学会	米国地球物理学連合	日本地球惑星科学連合
--------	--------	-----------	------------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本地震学会		理事	
日本自然災害学会東北支部		幹事長	
自然災害研究協議会東北地区部会		幹事長	

研究分野・キーワード

海底地震学	海底測地学		
-------	-------	--	--

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
学術資源研究公開センター	運営専門委員会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

年東北地方太平洋沖地震後の海底地殻変動の解析を進め、同地震の震源域における地震後地殻変動の主要因が粘弾性緩和によることを明らかにするとともに、この影響を考慮してプレート境界断層上での余効すべり分布を推定した。また、ニュージーランド・ヒ克蘭ギ沈み込み帯における海底地殻変動観測に着手したが、中規模な非地震性すべりイベントが発生したことからこの現象の発生機構を理解する上で有用な情報を提供するものと期待される(年度に回収予定)。さらに、あらたに考案した手法で、南海トラフ・熊野灘の付加体内部の地震波減衰構造を推定し、南海トラフ付加帯の形成過程との関係を考察した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		プレート境界浅部すべりの履歴と発生機構に関する研究	国外
			現在		ニュージーランド・ヒ克蘭ギ沈み込み帯におけるプレート境界すべりに関する研究	国外
			現在		海底地殻変動観測のリアルタイム化のための研究	国内
			現在		沈み込み帯で発生する地震の発生ダイナミクスに関する研究	国外
			現在		島弧海溝系の地震波速度構造に関する研究	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計
----	------	--------	----

うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	はい								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内

	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								筆頭共著	国外
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内

学会発表

単名		筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	--	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月 日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	稠密海底地震計アレイ観測データを用いた 年東北沖地震発生前後の震源南限域における地震活動に関する研究	仲谷 幸浩・望月 公廣・篠原 雅尚・山田 知朗・日野 亮太・伊藤 喜宏・村井 芳夫・佐藤 利典	国内
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	ハイパフォーマンスコンピューティングが拓く固体地球科学の未来:導入	堀 高峰・日野 亮太・本蔵 義守・金田 義行・有川 太郎・市村 強・等々力 賢	国内
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	筆頭 連 名	いいえ	横浜		口頭(一般)	ハイパフォーマンスコンピューティングが拓く固体地球科学の未来 ―総合討論	日野 亮太・堀 高峰・本蔵 義守・金田 義行・有川 太郎・市村 強・等々力 賢	国内
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	海底地殻変動観測による東北地方太平洋沖地震の余効変動検出	富田 史章・木戸 元之・長田 幸仁・東 龍介・藤本 博己・日野 亮太・飯沼 卓史・太田 雄策・和田 育子	国内
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	リアルタイム解析システム()の全国対応	矢萩 智裕・宮川 康平・川元 智司・大島 健一・山口 和典・村松 弘規・太田 雄策・出町 知嗣・三浦 哲・日野 亮太・齊田 優一・道家 友紀	国内
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	高潮流域下におけるリアルタイム津波・地殻変動観測ブイシステムの海域試験	高橋 成実・石原 靖久・福田 達也・越智 寛・田原 淳一郎・森 尚仁・木戸 元之・太田 雄策・日野 亮太・武藤 勝彦・橋本 剛正・本橋 修・金田 義行	国内
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	年東北地方太平洋沖地震の発生直後に震央域で観測された海底水温の急上昇について	稲津大祐・伊藤喜宏・日野亮太	国外
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	海陸地殻変動観測に基づく 年東北地方太平洋沖地震の余効変動モデル	飯沼卓史・日野亮太・木戸元之・太田雄策・長田幸仁・藤本博己・稲津大祐	国内
	国内		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			国内

	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際		筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)	C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C C		国内
	国際		筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)	C C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C C	C	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国内	日本測地学会第 回講演会	その他の 連名	いいえ	つくば市		口頭(一般)	海底地殻変動観測による 年東北沖地震後の太平洋プレートにおける高変位速度の検出	富田史章・木戸元之・長田幸仁・飯沼卓史・日野亮太・太田雄策	国内
	国内	日本測地学会第 回講演会	その他の 連名	いいえ	つくば市		口頭(一般)	東北地方太平洋沖地震後の日本海溝沿いの海底地殻変動	木戸元之・富田史章・長田幸仁・藤本博己・日野亮太・太田雄策・飯沼卓史・東龍介・和田育子・今野美芽・中山貴史・三浦 哲	国内
	国内	日本測地学会第 回講演会	その他の 連名	いいえ	つくば市		ポスター(一般)	リアルタイム データを用いたC 解の推定手法	平田雄一朗・平田雄一朗・川元 智司・太田雄策・日野 亮太	国内
	国内	日本測地学会第 回講演会	その他の 連名	いいえ	つくば市		口頭(一般)	津波監視および海底地殻変動観測用係留ブイにおける データの精度評価	太田雄策・木戸元之・日野亮太・今野美芽・高橋成実・石原靖久・福田達也・越智 寛・田原淳一郎・森尚仁・出口充康・武藤勝彦・橋本剛正・本橋 修	国内
	国内	日本測地学会第 回講演会	その他の 連名	いいえ	つくば市		口頭(一般)	海陸地殻変動観測に基づく 年東北地方太平洋沖地震の余効変動の解析	飯沼卓史・日野亮太・木戸元之・長田幸仁・王 克林・孫田昊哲・太田雄策・三浦 哲	国内
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の 連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	観測による 年東北沖地震以降の宮城沖日本海溝海溝軸周辺および海溝海側の地震活動	尾鼻浩一郎・藤江剛・中村恭之・山本揚二郎・高橋努・佐藤 壮・三浦誠一・小平秀一・日野亮太・篠原雅尚	国内
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の 連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	年東北地方太平洋沖地震の地震時すべりと余効すべりの空間的相補性	飯沼卓史・日野亮太・木戸元之・長田幸仁・王克林・孫田昊哲・太田雄策・三浦哲	国内

	国内	日本地震学会 大会	年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)		C	国内
	国内	日本地震学会 大会	年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	地震活動から見る 年東北沖地震の震源域南限	仲谷幸浩・望月公廣・篠原雅尚・山田知朗・日野亮太・伊藤喜宏・村井芳夫・佐藤利典	国内
	国内	日本地震学会 大会	年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	年東北沖地震で発生した最大余震周辺の微小地震活動		国内
	国内	日本地震学会 大会	年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	白鳳丸 次航海による 年東北沖地震震源域北限周辺における人工震源構造調査(序報)	望月公廣・石原健・山田知朗・山下裕亮・篠原雅尚・東龍介・日野亮太・佐藤利典・八木原寛・白鳳丸 次航海乗船研究者	国内
	国内	日本地震学会 大会	年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	巨大地震発生域の固着回復過程の解明にむけた日本海溝軸を挟む海底間音響測距観測	長田幸仁・木戸元之・伊藤嘉宏・飯沼卓史・日野亮太・藤本博己	国内
	国内	日本地震学会 大会	年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	音響結合方式によって計測された東北沖地震後の太平洋プレートにおける高変位速度	富田史章・長田幸仁・太田雄策・木戸元之・日野亮太	国内
	国内	日本地震学会 大会	年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟市		ポスター(一般)	自己浮上式海底水圧計データを用いた 年東北地方太平洋沖地震の津波波源の推定	対馬弘晃・日野亮太・稲津大祐・伊藤喜宏・長田幸仁・鈴木秀市・飯沼卓史	国内
	国内	日本地震学会 大会	年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	日本海溝沿いの東北沖地震後の余効変動検出に向けた海底地殻変動繰り返し観測	木戸元之・日野亮太・飯沼卓史・東龍介・和田育子・富田史章・長田幸仁・太田雄策・今野美冴・中山貴史・三浦哲	国内
	国内	日本地震学会 大会	年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟市		ポスター(一般)	係留フ イを用いた 音響測距結合方式によるリアルタイム 海底地殻変動連続観測の精度評価と実用化に向けた課題	今野美冴・木戸元之・太田雄策・日野亮太・高橋成実・石原靖久・福田達也・越智 寛・田原純一郎・森 尚仁・出口允康・武藤勝彦・橋本剛正・本橋 修	国内
	国内	日本地震学会 大会	年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	リアルタイム 解析によって推定された震源断層解の不確実性にもとづいた津 波浸水予測精度の評価	久保田達矢・日野亮太・太田雄策・越村俊一・齊藤電彦	国内
	国際			その他の連名	はい			口頭(招待・特別)			国内
	国際			その他の連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際			その他の連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際			その他の連名	いいえ			ポスター(一般)	C		国内
	国際			その他の連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際			その他の連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際			その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際			その他の連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際			その他の連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際			その他の連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際			その他の連名	いいえ			ポスター(一般)			国内

	国際		その他の 連名	はい			口頭(招待・特別)			国内
	国際		筆頭 連 名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国内	平成26年度東北地域災害科学 研究集会	その他の 連名	いいえ	鶴岡市		口頭(一般)	年東北地方太平洋沖地震の余効変動	飯沼卓史・日野亮太・木戸元之・長田幸仁・富田史章・太田雄策・三浦 哲	国内
	国内	平成27年度東北地域災害科学 研究集会	筆頭 連 名	いいえ	鶴岡市		口頭(一般)	地殻変動観測を応用した津波即時予測の試み	日野亮太・木戸元之・飯沼卓史・太田雄策・久保田達矢・今野美弥	国内

【教育活動】

教育活動の概要

博士課程後期1年の大学院生に対して、海底圧力計で捉えられた近地津波波形解析に基づく地震震源モデルの推定や、即時津波予測手法の精度に関する研究指導を行った。エチオピアから博士課程前期に入学した留学生の指導にあたり、東アフリカ地溝帯における地震テクトニクスに関する論文の精読を通して、地震学の基礎を指導した。理学部3年次と大学院生を対象とした地殻構造探査に関する講義を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
	地殻物理学	東北大学	理学部	宇宙地球物理学科		セメ	
	地殻物理学特論	東北大学	理学研究科	地球物理学専攻		後期	

【社会活動】

社会活動の概要

参加校の生徒を対象とした固体地球物理学の基礎に関する講義と地震・噴火予知研究観測センターの施設見学を行った。また、大学の教員が企画した2回の夏の学校に参加し、地震学研究の最先端に関する研究を講師として紹介した。一方で、一般向けの講演会として、津波予測の最新技術の紹介を行ったほか、東北大学復興シンポジウムにおいては、東日本大震災で得られた教訓の一環として理学的研究への課題に関する講演を行った。

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	小中高との連携	スーパーサイエンスハイスクール国内研修	講義			巨大地震発生のメカニズム	清真学園高等学校	仙台市・東北大学地震・噴火予知研究観測センター
	講演会・セミナー	第5回震災対策技術展	招待講演			次世代津波予測の基盤―地震・地殻変動・津波観測網の役割―	震災対策技術展実行委員会	仙台市・
	講演会・セミナー	地球と海洋の学校	招待講演			年東北地方太平洋沖地震の実像とその沈み込みダイナミクスの意義	地球と海洋の学校実行委員会	仙台市・東北大学片平キャンパス
	講演会・セミナー	地震学夏の学校	招待講演			「3・11」に海底下で何がおこったのか？	日本地震学会	岩手県山田町・岩手県立陸中海岸青少年の家
	講演会・セミナー	東北大学復興シンポジウム	招待講演			大地震の発生予測はできるのか― 年東北地方太平洋沖地震が教えてくれたこと―	東北大学	仙台市・東京エレクトロンホール宮城

木戸 元之 准教授

Motoyuki KIDO

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
青山学院大学	理工学部			東京大学大学院	理学系研究科			博士(理学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				チェコ共和国チャールズ大学 数学物理学部 地球物理学科	研究員
				東京大学 海洋研究所	中核の研究機関研究員
				アメリカ合衆国ミネソタ大学 スーパーコンピューター研究所	研究員
				東京大学 海洋研究所	中核の研究機関研究員
				東京大学 海洋研究所	日本学術振興会 特別研究員
				海洋科学技術センター	科学技術振興事業団 科学技術特別研究員
				海洋科学技術センター	日本学術振興会 特別研究員
				アメリカ合衆国ミネソタ大学 スーパーコンピューター研究所	研究員
				神戸大学 地球惑星科学科	非常勤職員
				神戸大学 内海域機能教育研究センター	科学技術研究員
				東北大学大学院 理学研究科	産学官連携研究員
				東北大学大学院 理学研究科	教育研究支援者
				東北大学大学院 理学研究科	産学官連携研究員
				東北大学大学院 理学研究科	准教授(外部資金雇用)
				東北大学大学院 理学研究科	教育研究支援者
				東北大学大学院 理学研究科	准教授(外部資金雇用)
				東北大学大学院 理学研究科	准教授
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

所属学会

日本地震学会	日本測地学会	米国地球物理連合
--------	--------	----------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本測地学会	編集委員会	委員	
日本測地学会		評議員	
日本地震学会		代議員	

研究分野・キーワード

固体地球惑星物理学	海底測地学
-----------	-------

【研究活動】

研究活動の概要

東北北地方太平洋沖地震の地震時震源過程震源過程、および地震後の余効変動を、海底地殻変動観測技術を高度化して正確に計測することにより、海溝型巨大地震の全体像を捉え、今後の周辺領域への波及の可能性、南海トラフでの巨大地震発生予測に役立てる。
--

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
					マントルダイナミクスに関する研究	国外
					マントル粘性構造に関する研究	国外
					海底電磁気探査に関する研究	国内
			現在		海底地殻変動観測に関する研究	国内
			現在		ニュージーランド・ヒクランギ沈み込み帯に関する測地学的研究	国外
			現在		トルコ・マルマラ海における海底断層活動のモニタリング	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	海陸統合測地観測に基づく太平洋沖地震に関する研究	年東北地方	学術雑誌	有	はい	測地学会誌					藤本博己 旦野亮太 木戸元之 伊藤喜宏 太田雄策 飯沼卓史 長田幸仁 稲津大祐 鈴木秀市 佐藤俊也 立花憲司 出町知嗣 三浦哲	共著	なし

英語		学術雑誌	有	いいえ									共著	国内
英語		学術雑誌	有	いいえ									共著	国内
英語		学術雑誌	有	いいえ									共著	国外

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	海底地殻変動観測による東北地方太平洋沖地震の 余効変動検出	富田史章・木戸元之・長田幸 仁・東龍介・藤本博己・日野亮 太・飯沼卓史・太田雄策・和田 育子	国内
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	高潮流域下におけるリアルタイム津波・地殻変動観 測ブイシステムの海域試験	高橋成実・石原靖久・稲田達 也・越智寛・田原淳一郎・森尚 仁・木戸元之・太田雄策・日野 亮太・武藤勝彦・橋本剛正・本 橋修・金田義行	国内
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	海陸地殻変動観測に基づく 年東北地方太平 洋沖地震の余効変動モデル	飯沼卓史・日野亮太・木戸元 之・ ・太田雄策・長田幸仁・ 藤本博己・稲津大祐	国外
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		ポスター(一般)	リアルタイム津波・地殻変動観測ブイシステムを用い た海底地殻変動観測	今野美芽・木戸元之・太田雄 策・稲田達也・越智寛・高橋成 実	国内
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		ポスター(一般)	海底地殻変動データ解析の高精度化・自動化に向 けた測距信号走時読み取り手法の検討	東龍介・富田史章・飯沼卓史・ 木戸元之・藤本博己・藤本博 己・長田幸仁・太田雄策・和田 育子	国内
	国内	日本地球惑星科学連合連合大会2014年大会	筆頭 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	受託研究「海底地殻変動観測の高度化」における 東北大学の研究成果	木戸元之・藤本博己・日野亮 太・太田雄策・長田幸仁・飯沼 卓史・東龍介・和田育子・鈴木 秀市・富田史章・今野美芽	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際		筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C		国外

	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)				国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C	C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)				国外
	国内	日本測地学会第 回講演会	その他の 連名	いいえ	つくば市		口頭(一般)	海底地殻変動観測による 年東北沖地震後の太平洋プレートにおける高変位速度の検出	富田史章・木戸元之・長田幸仁・飯沼卓史・日野亮太・太田雄策		国内
	国内	日本測地学会第 回講演会	筆頭 連名	いいえ	つくば市		口頭(一般)	東北地方太平洋沖地震後の日本海溝沿いの海底地殻変動	木戸元之・富田史章・長田幸仁・藤本博己・日野亮太・太田雄策・飯沼卓史・東龍介・和田育子・今野美芽・中山貴史・三浦哲		国内
	国内	日本測地学会第 回講演会	その他の 連名	いいえ	つくば市		口頭(一般)	津波監視および海底地殻変動観測用係留ブイにおける データの精度評価	太田雄策・木戸元之・日野亮太・今野美芽・高橋成実・石原靖久・福田達也・越智 寛・田原淳一郎・森尚仁・出口充康・武藤勝彦・橋本剛正・本橋 修		国内
	国内	日本測地学会第 回講演会	その他の 連名	いいえ	つくば市		口頭(一般)	海陸地殻変動観測に基づく 年東北地方太平洋沖地震の余効変動の解析	飯沼卓史・日野亮太・木戸元之・長田幸仁・王克林・孫田昊哲・太田雄策・三浦哲		国内
	国内	日本測地学会第 回講演会	その他の 連名	いいえ	つくば市		ポスター(一般)	係留ブイを用いたリアルタイム津波・海底地殻変動連続観測において 音響結合方式により得られたデータの精度評価	今野美芽・太田雄策・木戸元之・高橋成実・福田達也・越智 寛		国内
	国内	日本測地学会第 回講演会	その他の 連名	いいえ	つくば市		口頭(一般)	東北沖地震後の海底地殻変動	渡邊俊一・石川直史・横田裕輔・佐藤まりこ・木戸元之		国内
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の 連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	年東北地方太平洋沖地震の地震時すべりと余効すべりの空間的相補性	飯沼卓史・日野亮太・木戸元之・長田幸仁・王克林・孫田昊哲・太田雄策・三浦哲		国外
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の 連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	巨大地震発生域の固着回復過程の解明にむけた日本海溝軸を挟む海底間音響測距観測	長田幸仁・木戸元之・伊藤嘉宏・飯沼卓史・日野亮太・藤本博己		国内
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	筆頭 連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	日本海溝沿いの東北沖地震後の余効変動検出に向けた海底地殻変動繰り返し観測	木戸元之・日野亮太・飯沼卓史・東龍介・和田育子・富田史章・長田幸仁・太田雄策・今野美芽・中山貴史・三浦哲		国内
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の 連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	音響結合方式によって計測された東北沖地震後の太平洋プレートにおける高変位速度	富田史章・長田幸仁・太田雄策・木戸元之・日野亮太		国内
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の 連名	いいえ	新潟市		ポスター(一般)	係留ブイを用いた 音響測距結合方式によるリアルタイム 海底地殻変動連続観測の精度評価と実用化に向けた課題	今野美芽・木戸元之・太田雄策・日野亮太・高橋成実・石原靖久・福田達也・越智寛・田原純一郎・森 尚仁・出口充康・武藤勝彦・橋本剛正・本橋修		国内
	国際		その他の 連名	はい			口頭(招待・特別)				国外
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)				国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)				国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)				国内
	国際		筆頭 連名	いいえ			ポスター(一般)				国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)				国内
	国内	平成26年度東北地域災害科学研究会	その他の 連名	いいえ	鶴岡市		口頭(一般)	年東北地方太平洋沖地震の余効変動	飯沼卓史・日野亮太・木戸元之・長田幸仁・富田史章・太田雄策・三浦哲		国内
	国内	平成26年度東北地域災害科学研究会	その他の 連名	いいえ	鶴岡市		口頭(一般)	地殻変動観測を応用した津波即時予測の試み	日野亮太・木戸元之・飯沼卓史・太田雄策・久保田達夫・今野美芽		国内

【教育活動】

教育活動の概要

修士2年の学生に、地殻変動観測およびそのデータ解析を指導し、成果を修士論文にまとめた。修士1年の学生に、係留ブイによる海底地殻変動観測システムの開発・改良の指導をした。実質的に指導している学部4年の学生に、計算機の使いかた、および海底間音響測距観測の原理、データ解析の仕方を習得させた。また、地球物理学専攻向けに地震火山計測学特論、全学教育で工学部の学部生向けに地球惑星物理学の講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	地球惑星物理学	東北大学	全学			セメ	
	地震火山計測学特論	東北大学	理学研究科	地球物理学専攻		前期	
	災害の科学	東北大学	全学			後期	1

【社会活動】

社会活動の概要

共同研究協定を締結している海上保安庁らと勉強会を開催し、研究の協力体制を強くした。

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計	1	件
----	---	---

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	海上保安庁	石川直史 地震調査官 他		学術交流協定(研究目的)	東北大学災害科学国際研究所	国内	企画	

飯沼 卓史 助教

Takeshi IINUMA

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東京大学	理学部			東京大学大学院	理学系研究科			博士(理学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東京大学地震研究所	産学官連携研究員
				東京大学地震研究所	特別研究員
				東北大学大学院 理学研究科	産学官連携研究員
				東北大学大学院 理学研究科	助教
				東北大学災害科学国際研究所	助教

研究経歴

期間				研究内容
開始年	月	終了年	月	
				地殻変動データに基づいた応力及び構成則逆解析手法の開発
				コスタリカ・ニコヤ半島周辺における 連続観測に基づくプレート間カップリングの評価に関する研究
				年 月 日の宮城県沖の地震の余効変動に関する研究
				年新潟県中越沖地震の余効変動に関する研究
		現在		年岩手・宮城内陸地震の余効変動に関する研究
		現在		東北日本沈み込み帯広域におけるプレート間カップリングのモニタリングに関する研究
		現在		年東北地方太平洋沖地震の地震時・地震後地殻変動に関する研究

所属学会

日本測地学会	日本地震学会	日本地球惑星科学連合	アメリカ地球物理学連合
--------	--------	------------	-------------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本測地学会	評議会	評議員	
日本地震学会	地震編集委員会	委員	
日本測地学会	庶務委員会	幹事	

研究分野・キーワード

固体地球物理学	測地学	地震学
---------	-----	-----

【研究活動】

研究活動の概要

東北地方太平洋沖地震後に発生している、プレート境界面上での余効すべりによる地表変位を、地殻下部から上部マントルにかけての粘性緩和による地表変位を有限要素法を用いたモデル計算により見積もること観測された変位から分離し、余効すべりの分布を推定した。また、構築したモデルから、今後の沿岸部の隆起・沈降の見込みを定量的に見積もることに成功した。また、海陸の地殻変動データに基づく地殻変動源の推定精度向上のため、観測誤差の共分散を考慮した解析手法の必要性を示し、その開発を行っている。また、過去の水準測量データからその時期のプレート間カップリングの状態を見積もる手法の開発にも着手した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		年岩手・宮城内陸地震の余効変動に関する研究	国内
			現在		東北日本沈み込み帯広域におけるプレート間カップリングのモニタリングに関する研究	国内
			現在		年東北地方太平洋沖地震の地震時・地震後地殻変動に関する研究	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____ _____ _____	共著	国内
	日本語	海陸統合測地観測に基づく 年東北地方太平洋沖地震に関する研究	学術雑誌	有	はい	測地学会誌						藤本博己・旦野亮太・水戸元之・伊藤喜宏・太田雄策・飯沼卓史・長田幸仁・稲津大祐・鈴木秀市・佐藤俊也・立花憲司・出町知嗣・三浦 哲	共著	国内

	英語		学術雑誌	有	いいえ							共著	国外
--	----	--	------	---	-----	--	--	--	--	--	--	----	----

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		ポスター(一般)	年東北沖地震後の東北日本弧の粘弾性変形 過程のモデル化	芝崎文一郎 中井仁彦 武藤 潤 飯沼卓史	国内
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	筆頭 連 名	はい	横浜		口頭(招待・特別)	海陸地殻変動観測に基づく 年東北地方太平 洋沖地震の余効変動モデル	飯沼卓史 日野亮太 木戸元 之 太田雄 策 長田幸仁 藤本博己 稲津 大祐	国外
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	受託研究「海底地殻変動観測の高度化」における 東北大学の研究成果	木戸元之 藤本博己 日野亮 太 太田雄策 長田幸仁 飯沼 卓史 東 龍介 和田育子 鈴木 秀市 富田史章 今野美苅	国内
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	海底地殻変動観測による東北地方太平洋沖地震の 余効変動検出	富田史章 木戸元之 長田幸 仁 東 龍介 藤本博己 日野亮 太 飯沼卓史 太田雄策 和田 育子	国内
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	海底測地観測を用いた巨大地震発生域の固着回 復過程の解明	長田幸仁 伊藤喜宏 木戸元 之 日野亮太 飯沼卓史	国内
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	その他の 連名	いいえ	横浜		ポスター(一般)	海底地殻変動データ解析の高精度化・自動化に向 けた測距信号走時読み取り手法の検討	東 龍介 富田史章 飯沼卓史 日野亮太 木戸元之 藤本博 己 長田幸仁 太田雄策 和田 育子	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C	――	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)		――	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)		――	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)		――	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C	――	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		――	国内
	国際		筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)	C	――	その他
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C	――	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		――	国内
	国際		筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)	C	――	国外
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C	――	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		――	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		――	その他
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C C	――	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		――	国外

	国際		筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)		_____	その他
	国内	「地殻ダイナミクスー東北沖地震後の内陸変動の統一的理解ー」全体キックオフ会議	単名	いいえ			口頭(一般)	海陸地殻変動観測に基づく東北地方太平洋沖地震の余効変動モデリング	飯沼卓史	国内
	国内	日本測地学会第 回講演会	その他の連名	いいえ	つくば		口頭(一般)	海底地殻変動観測による 年東北沖地震後の太平洋プレートにおける高変位速度の検出	富田史章 長田幸仁 太田雄策 木戸元之 飯沼卓史 日野亮太	その他
	国内	日本測地学会第 回講演会	その他の連名	いいえ	つくば		口頭(一般)	東北地方太平洋沖地震後の日本海溝沿いの海底地殻変動	木戸元之 日野亮太 飯沼卓史 東龍介 和田育子 今野美冴 中山貴史 三浦 哲 富田史章 長田幸仁 太田雄策 藤本博己	国内
	国内	日本測地学会第 回講演会	筆頭 連名	いいえ	つくば		口頭(一般)	海陸地殻変動観測に基づく 年東北地方太平洋沖地震の余効変動の解析	飯沼卓史 日野亮太 木戸元之 長田幸仁 太田雄策 三浦 哲	国外
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟		口頭(一般)	日本海溝軸を挟んだ海底間音響測距観測: 年東北地方太平洋沖地震の地震時大すべり域直近での結果	長田幸仁 木戸元之 伊藤喜宏 飯沼卓史 日野亮太 藤本博己	国内
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟		口頭(一般)	日本海溝沿いの東北沖地震後の余効変動検出に向けた海底地殻変動繰り返し観測	木戸元之 日野亮太 飯沼卓史 東龍介 和田育子 富田史章 長田幸仁 太田雄策 今野美冴 中山貴史 三浦 哲 藤本博己	国内
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟		口頭(一般)	音響結合方式によって計測された東北沖地震後の太平洋プレートにおける高変位速度	富田史章 長田幸仁 太田雄策 木戸元之 日野亮太 飯沼卓史	その他
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟		口頭(一般)	自己浮上式海底水圧計データを用いた 年東北地方太平洋沖地震の津波波源の推定	辻馬弘晃 日野亮太 稲津大祐 伊藤喜宏 長田幸仁 鈴木秀市 飯沼卓史	国内
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟		口頭(一般)	東北地方太平洋沖地震後の奥羽脊梁山脈沿いの余効ひずみ異常域	三浦 哲 太田雄策 飯沼卓史 出町知嗣 立花憲司 佐藤俊也 大園真子	国内
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟		口頭(一般)	東北日本弧の 次元レオロジー構造と 年東北沖地震後の粘弾性変形過程	芝崎文一郎 武藤潤 松本拓己 飯沼卓史 大園真子	国内
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟		口頭(一般)	東北日本沈み込み帯の周期的スロースリップと地震活動	内田直希 飯沼卓史 日野亮太	国外
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	筆頭 連名	いいえ	新潟		口頭(一般)	年東北地方太平洋沖地震の地震時すべりと余効すべりの空間的相補性	飯沼卓史 日野亮太 木戸元之 長田幸仁 太田雄策 三浦 哲	国外
	国際		筆頭 連名	いいえ			ポスター(一般)	C	_____	その他
	国際		その他の連名	いいえ			ポスター(一般)	C	_____	国内
	国際		その他の連名	はい			口頭(招待・特別)		_____	国内
	国際		その他の連名	いいえ			ポスター(一般)		_____	その他
	国際		その他の連名	いいえ			ポスター(一般)		_____	その他
	国際		その他の連名	いいえ			ポスター(一般)		_____	国内
	国際		その他の連名	はい			口頭(招待・特別)		_____	国外
	国際		その他の連名	いいえ			ポスター(一般)		_____	国内
	国内	平成 年度 東北地域災害科学研究集会	筆頭 連名	いいえ	鶴岡		口頭(一般)	年東北地方太平洋沖地震の余効変動	飯沼卓史 日野亮太 木戸元之 長田幸仁 富田史章 太田雄策 三浦 哲	その他
	国内	平成 年度 東北地域災害科学研究集会	その他の連名	いいえ	鶴岡		口頭(一般)	地殻変動観測を応用した津波即時予測の試み	日野亮太 木戸元之 飯沼卓史 太田雄策 久保田達矢 今野美冴	その他
	国内	平成 年度 東北地域災害科学研究集会	その他の連名	いいえ	鶴岡		口頭(一般)	組み合わせ最適化手法を利用した歴史津波の波源推定法 年慶長奥州地震の事例	今井健太郎 前田拓人 飯沼卓史 蝦名佑一 菅原大助 今村文彦 平川 新	国内
	国内	科研費(特別推進) 研究集会	筆頭 連名	いいえ	東京		口頭(一般)	年東北地方太平洋沖地震の余効すべり分布について	飯沼卓史 日野亮太 木戸元之 長田幸仁 太田雄策 三浦 哲	国外

【教育活動】

教育活動の概要

理学部宇宙地球物理学科の兼任教員として、理学部物理系 年生を対象とした物理現象解析の基礎となる質点の運動・単振動・ケプラー運動等についての問題演習科目「力学演習」を担当した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	力学演習	東北大学	理学部	物理系		セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

公益社団法人 日本地震学会の主催の元、大学院理学研究科所属の教員と共同で、 年度の「地震学夏の学校」を岩手県山田町で開催した。参加者募集のポスターの作成や各所への後援申請、申込受付や集金等の参加者対応を担当した。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	公益社団法人 日本 地震学会	地震学夏の学校 「津波を知る」			山田町・岩手 県立陸中海岸 青少年の家	その他	世話人		後援	

和田 育子 助教

Ikuko WADA

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
カナダ プリティッシュ・コロンビア州 ビクトリア大学	理学部			カナダ プリティッシュ・コロンビア州 ビクトリア大学院	地球海洋科学研究科			理学博士		

職歴

期間				勤務先				職名
開始年	月	終了年	月					
				C	C	C	C	研究員
				東北大学 災害科学国際研究所				助教

所属学会

日本地球惑星科学連合	日本地震学会	
------------	--------	--

研究分野・キーワード

固体地球物理学	沈み込み帯ダイナミクス
---------	-------------

【研究活動】

研究活動の概要

昨年度から継続している災害研特定プロジェクトにおいて、東北日本の3次元温度構造モデルを完成し、計算結果と地震・火山に関する観測結果を基に、これらの現象の温度依存性を検証し、論文にまとめた（現在国際学術雑誌において査読中）。科研費若手 の研究課題である沈み込み帯温度構造グローバル研究の一端として、カスケーディア沈み込み帯の温度構造計算結果と火山岩の化学組成等と比較し、メルトの生成過程モデルを構築した（国際学術誌にて出版中）。また、関東地方における地震の分布がどのように温度に影響されているかを検証する為、3次元温度構造モデルの構築にとりかかり、また、継続中である沈み込み帯における流体の流動パターンと沈み込むスラブの形状の進化を計算するためのコードの改良に携わり、これらの数値計算を継続している。

研究課題

	期間				研究課題（内容）	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		沈み込み帯のマントルウェッジ内の流体の流動パターンの研究	
			現在		沈み込み帯のスラブの形状の進化の研究	
					東北日本沈み込み帯三次元温度構造の推定の研究	
					カスケーディア沈み込み帯の火山下でのメルト生成に関する研究	
			現在		関東地方沈み込み帯三次元温度構造の推定の研究	

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名（原語）	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名（原語）	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名（共著者含）	共著区分	学外連携
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ								共著	国外
	英語	C	単行本（論文掲載）	有	いいえ								筆頭共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ								筆頭共著	その他

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名（原語）	連名者名（発表者に下線）	学外連携
	国内	日本地球惑星科学連合年大会	筆頭連名	はい	横浜市		口頭（招待・特別）			その他
	国内	日本地球惑星科学連合年大会	筆頭連名	はい	横浜市		口頭（招待・特別）	鉱物の粒径分布が及ぼすマントルウェッジ内の水の流動パターン	和田育子・	国外
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	単名	はい	新潟市		口頭（一般）	関東地方の3次元温度構造	和田育子	なし
	国内	京都大学防災研究所研究集会	筆頭連名	はい	宇治市		口頭（招待・特別）	マントルウェッジ内の水の流動パターン：結晶粒径分布の影響	和田育子・	国外
	国際		単名	はい			口頭（招待・特別）			なし

【教育活動】

教育活動の概要

東北大学・理学研究科における地球物理学セミナーの担当として、理学研究科の大学院生の指導を行った。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	地球物理学セミナー	東北大学	理学研究科			前期・後期	

東 龍介 助教

Ryosuke AZUMA

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
北海道大学	理学部			東北大学大学院	理学研究科			理学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				北海道大学 大学院理学研究院 地震火山研究観測センター	非常勤研究員
				東北大学 災害科学国際研究所	助教
		現在		東北大学 大学院理学研究科 地球物理学専攻	助教

所属学会

日本地震学会	日本地球惑星科学連合	米国地球物理学会
--------	------------	----------

研究分野・キーワード

地震学	海洋底物理学
-----	--------

【研究活動】

研究活動の概要

東北地方太平洋沖地震ではプレート境界面の高速破壊に伴う陸側プレート先端部の大変位によって巨大津波が生じた。そうした海溝軸近傍の地震時大すべりは宮城県沖に集中し、三陸・福島県沖に比べ極めて大きい。すべり量のこうした南北差の要因の一つとして、海溝陸側斜面下の地殻構造が海溝沿いに不均質である可能性が考えられる。そこで本震震源域の地殻構造を明らかにし、構造の観点からすべり量の空間不均質さの要因を検討することによって、巨大津波の発生メカニズムの解明を目指している。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		東北地方太平洋沖地震大すべり域における地殻構造に関する研究	国内
			現在		「東北沖タイプ」の大すべり域の予測・把握に向けた地殻構造的視点からのアプローチ	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	年に発生した北海道北部中川町付近の群発地震活動	大学紀要	無	いいえ	北海道大学地球物理学研究報告						一柳昌義・高橋浩晃・山口照寛・東龍介・山田卓司・大園眞子・真城亮成・笠原稔・谷岡雄一郎	共著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際	日本地球惑星科学連合年大会	筆頭連名	いいえ	横浜市		ポスター(一般)	海底地殻変動データ解析の高精度化・自動化に向けた測距信号走時読み取り手法の検討	東龍介・富田史章・飯沼卓史・日野亮太・木戸元之・藤本博巳・長田幸仁・太田雄策・和田育子	国内
	国際		筆頭連名	いいえ	宮城県松島町		ポスター(一般)			国内
	国際		その他の連名	いいえ	宮城県松島町		口頭(一般)			国内
	国際		その他の連名	いいえ	宮城県松島町		口頭(一般)			国内
	国際		筆頭連名	いいえ	札幌市		口頭(一般)			国内

	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	白鳳丸 次航海による 年東北沖地震震源域北限周辺における人口震源構造調査(序報)	望月公廣・石原健・山田知朗・山下裕亮・篠原雅尚・東龍介・日野亮太・佐藤利典・八木原寛・白鳳丸 次航海乗船研究者	国内
	国内	日本地震学会 年度秋季大会	その他の連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	日本海溝沿いの東北沖地震後の余効変動検出に向けた海底地震変動繰り返し観測	木戸元之・日野亮太・飯沼卓史・東龍介・和田育子・富田史章・長田幸仁・太田雄策・今野美冴・中山貴史・三浦哲・藤本博巳	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	日本地震学会	地震学夏の学校 「津波を知る」			岩手県立陸中海岸 青少年の家	その他	運営担当		後援	国内

岡田 真介 助教

Shinsuke OKADA

災害理学研究部門 地盤災害研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
金沢大学	理学部			東京大学大学院	理学系研究科			理学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				独立行政法人 産業技術総合研究所 地質情報研究部門	特別研究員
				東北大学大学院 理学研究科	助教
		現在		東北大学災害科学国際研究所 災害理学研究部門	助教

所属学会

日本地震学会	日本活断層学会	日本地質学会	日本地質学会	日本地理学会	東北地理学会		日本写真測量学会
--------	---------	--------	--------	--------	--------	--	----------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本活断層学会	総務員	委員	
国土地理院	全国活断層帯情報整備検討委員	委員	
日本活断層学会	年度秋季学術大会実行員会	委員	

研究分野・キーワード

変動地形学	地球物理学	
-------	-------	--

【研究活動】

研究活動の概要

本年度は仙台平野南部に伏在する活断層の連続性を明らかにするために、重力探査を実施し、伏在断層が北部へ連続しないこと観測事実を基に明らかにした。これまでの調査および本年度の調査の結果をまとめ、日本活断層学会 年度秋季学術大会にて発表し、若手優秀講演賞を受賞した。また、日本活断層学会および地震学夏の学校の企画・運営を行った。日本活断層学会の巡検では、仙台市を通る長町 利府線断層の形成する変動地形を中心に巡検案内を学会員及び一般参加者に対して実施した。 年 月 日に発生した長野県北部の地震に伴う地表地震断層に関しては、翌 日から緊急調査グループを組織し、調査グループ長として合計 日間の緊急調査を実施した。

研究課題

	期間			研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年 月		
			現在	年 月に発生した長野県北部の地震に伴う地表地震断層とその変位量分布	国内
			現在	山形盆地北部ー新庄盆地における活構造と地下地質構造	国内
			現在	仙台平野南部の伏在活断層とその地下地質構造	なし

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	糸魚川ー静岡構造線とその周辺地域の浅部地殻構造と鮮新世ー第四紀テクトニクス	学術雑誌	有	はい	地球科学						池田安隆・岡田真介	共著	国内

著書(監修・編著・単著・共著)

監修	編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
----	----	----	------	----	----	----	----	----

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	日本語	都市圏活断層図「背振山」	その他		後藤秀昭・岡田真介・中田 高・八木浩司	共著	国土地理院	国内
	日本語	都市圏活断層図「福岡」改訂版	その他		千田 昇・石村大輔・岡田真介・堤 浩之・平川一臣	共著	国土地理院	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	巡検「長町 利府線断層の地形と 年東北地方太平洋沖地震による津波被害」案内書	その他	無	いいえ	日本活断層学会 年秋季学術大会巡検案内書・日本の活断層百景 見学シリーズ						岡田真介	単著	なし

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	筆頭 連名	いいえ	パシフィコ横浜		ポスター(一般)	山形盆地断層帯北部における反射法地震探査 データ取得	岡田真介・今泉俊文・楳原京 子・越後智雄・八木浩司・松原 由和・三輪敦志・小坂英輝	国内
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	その他の 連名	いいえ	パシフィコ横浜		口頭(一般)	吉野ヶ里遺跡周辺の活断層	楳原京子・吉田春香・副田宜 男・岡田真介・松多信尚・戸田 茂・今泉俊文・長岡信治	国内
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	その他の 連名	いいえ	パシフィコ横浜		ポスター(一般)	立体地形解析図上の活断層と地形面	今泉俊文・宮内崇裕・楳原京 子・岡田真介・白澤道生・横山 隆三・佐々木達哉	国内
	国内	東北地理学会 年度春季 学術大会	筆頭 連名	いいえ	仙台市戦災復興 記念館		口頭(一般)	仙台南部の反射法地震探査と重力探査	岡田真介・寺地将史・今泉俊 文	なし
	国内	東北地理学会 年度春季 学術大会	その他の 連名	いいえ	仙台市戦災復興 記念館		口頭(一般)	仙台南部の伏在断層と平野地形	今泉俊文・岡田真介・寺地将 史・楳原京子・越後智雄・戸田 茂・池田安隆・宮内崇裕・松原 由和・三輪敦志	国内
	国際	C	筆頭 連名	いいえ	C		指名 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル			なし
	国際	C	筆頭 連名	いいえ	C		指名 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル			国外
	国際	C	その他の 連名	いいえ	C		指名 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル			国内
	国際	C	その他の 連名	いいえ	C		指名 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル			国外
	国内	年度東北地理学会秋季 学術大会	筆頭 連名	いいえ	山形大学		口頭(一般)	山形盆地西縁断層帯北部を横断する反射法地震 探査および重力探査	岡田真介・今泉俊文・楳原京 子・越後智雄・八木浩司・和田 茂樹・澤田明宏・平松良浩	国内
	国内	年度東北地理学会秋季 学術大会	その他の 連名	いいえ	山形大学		口頭(一般)	山形盆地西縁断層帯の活構造とセグメント区分	今泉俊文・岡田真介・楳原京 子・八木浩司	国内
	国内	日本活断層学会 年度秋 季学術大会	筆頭 連名	いいえ	東北大学片平 さくらホール		口頭(一般)	仙台平野南部の伏在活断層と地形発達	岡田真介・今泉俊文・寺地将 史・住田達哉・牧野雅彦	国内
	国際		筆頭 連名	いいえ	C		口頭(一般)			国内
	国際		筆頭 連 名	いいえ	C		ポスター(一般)			なし
	国内	日本地理学会 年春季学 術大会	その他の 連名	いいえ	日本大学文理 学部		ポスター(一般)	年長野県北部の地震によって出現した地表地 震断層の分布とその特徴	丹羽雄一・岡田真介・石村大 輔・遠田晋次	なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	日本地震学会	地震学夏の学校			岩手県下閉伊郡山 田町	その他	運営および巡検案内者		後援	国内
	国内	日本活断層学会	日本活断層学会 年度秋季学 術大会			片平キャンパス・さく らホール	学会・シンポジウム	運営担当		なし	国内
	国内	日本活断層学会	シンポジウム「東北の活断層と地震 災害」			片平キャンパス・さく らホール	学会・シンポジウム	運営担当		後援	国内
	国内	日本活断層学会	日本活断層学会 年度秋季学 術大会巡検「長町 利府線断層の地 形と 年東北地方太平洋沖地震 による津波被害」			仙台市一互理町	その他	巡検企画・案内者		なし	国内

【教育活動】

教育活動の概要

東北大学理学研究科地学専攻地理学教室の兼務教員として、セミナー等に参加し教育活動を行った。また同教室の授業および野外実習を分担した。大学院修士の学生には、修士論文の一部となる地形・地質データの取得およびその解析手法に関して調査地域で指導を行った。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	地図学	東北大学	理学部	地圏環境学科		セメ	
	野外調査Ⅵ・Ⅶ	東北大学	理学部	地圏環境学科		セメ	
	地形学演習Ⅰ	東北大学	理学部	地圏環境学科		セメ	
	地形学演習Ⅱ	東北大学	理学部	地圏環境学科		セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

本年度では日本活断層学会を東北大学片平キャンパスで開催し、学術大会、シンポジウムおよび巡検案内を企画し運営を行った。シンポジウムおよび巡検は、一般参加者も募り実施した。地震学会が主催する地震学夏の学校についても学部学生・大学院生を対象にセミナーおよび巡検を企画し、実施した。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	日本地震学会	地震学夏の学校			岩手県下閉伊郡山田町	その他	運営および巡検案内者		後援	
	国内	日本活断層学会	シンポジウム「東北の活断層と地震災害」			片平キャンパス・さくらホール	市民向け講演会・セミナー	運営担当		後援	
	国内	日本活断層学会	日本活断層学会 年度秋季学術大会 巡検「長町 利府線断層の地形と 年 東北地方太平洋沖地震による津波被害」			仙台市一互理町	市民向け講演会・セミナー	巡検企画・案内者		なし	

遠田 晋次 教授

Shinji TODA

災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
鹿児島大学	理学部			東北大学大学院	理学研究科			理学博士		

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
					(財)電力中央研究所 立地部	研究員
					東京大学 地震研究所	助手
					(独)産業技術総合研究所 活断層研究センター	研究員
					京都大学 防災研究所	准教授
					現職	

所属学会

日本地震学会	日本活断層学会	日本応用地質学会	日本第四紀学会	日本地質学会	米国地球物理学連合	米国地震学会
--------	---------	----------	---------	--------	-----------	--------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本応用地質学会	東北支部	副支部長	

研究分野・キーワード

活断層	地震ハザード	内陸地殻内地震	誘発地震	余震
-----	--------	---------	------	----

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	六ヶ所村センター構想検討委員会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

活断層による内陸地震発生ポテンシャルを評価するため、近畿・中部地方を中心に現在の微小地震活動・分布を整理し、トレンチ調査等で明らかになっている活動間隔・最新活動時期などと比較し、地震サイクル中の地震活動の時空間変化の共通性をとりまとめた。また 年 月に発生した長野県北部地震によって既知の神城断層上に生じた地震断層（地表のずれ）を調査し、活断層による地震規模および発生確率予測に関する今後の課題をまとめた。東北地方太平洋沖地震に関しては、その広義の余震（誘発地震）の継続期間が、地域によって異なり、応力蓄積速度に反比例することを見出した。今後数年～数十年というスケールで同地震の影響を考慮した地震ハザード評価が重要となる。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		活断層と内陸地震ハザードの研究	
			現在		静的応力変化を考慮した余震 誘発地震の研究	
			現在		東北地方太平洋沿岸域の長期地殻変動と巨大地震との関係	

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	陸前高田平野完新統の堆積相・堆積速度、および推定される地殻変動傾向	学術雑誌	有	いいえ	第四紀研究						丹羽雄一・遠田晋次・須貝俊彦・松島義章	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	はい								共著	国外

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	座談会パート1:科学の不定性と東日本大震災	学術雑誌	無	はい	科学技術社会論研究						遠田晋次・松澤 暢・宮内崇裕	筆頭共著	国内
	日本語	座談会パート2:科学の不定性と東日本大震災	学術雑誌	無	はい	科学技術社会論研究						本堂 毅・松澤 暢・宮内崇裕・遠田晋次	筆頭共著	国内

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	その他の 連名	いいえ	横浜市・パシ フィコ横浜		ポスター(一般)	段丘地形・沖積平野地下地質の特徴に基づいた三 陸海岸南部・陸前高田の長期地殻変動	丹羽雄一・遠田晋次・須貝俊 彦	国内
	国際		筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)		_____	国外
	国際		単名	いいえ			口頭(一般)	C	_____	なし
	国内	第5回研究会集 日本にお ける地震発生予測検証実験	筆頭 連名	いいえ	仙台・東北大		口頭(一般)	余震継続時間を決定づける要素:東北地方太平洋 沖地震からのフィードバック	遠田晋次・	国外
	国内	平成 年度京都大学防災研 究所一般研究会集() 「活断層とノンテクトニック断 層:起震断層の正しい認識と 評価基準を探る」	単名	いいえ	京都・京大防 災研		口頭(一般)	地表面地震断層と震源断層	遠田晋次	なし
	国内	日本活断層学会 年度秋 季学術大会	単名	はい	仙台・東北大		口頭(招待・特別)	東北地方太平洋沖地震後の内陸地震の危険度	遠田晋次	なし
	国内	日本活断層学会 年度秋 季学術大会	その他の 連名	はい	仙台・東北大		ポスター(一般)	陸前高田沖積平野の発達過程から推定した完新世 の地殻変動	丹羽雄一・遠田晋次・須貝俊 彦	なし
	国内	日本地震学会 年度秋季 大会	単名	いいえ	新潟市・朱鷺 メッセ		口頭(一般)	活動履歴からみた糸魚川 静岡構造線活断層系の セグメンテーション	遠田晋次・丸山正・奥村晃史	国内
	国内	日本地震学会 年度秋季 大会	その他の 連名	いいえ	新潟市・朱鷺 メッセ		ポスター(一般)	沖積平野地下地質に基づく三陸海岸南部の完新世 地殻変動ー陸前高田平野における調査結果ー	丹羽雄一・遠田晋次・須貝俊 彦	なし
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C C C	_____	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C	_____	国外
	国際		筆頭 連名	はい			口頭(招待・特別)		_____	国外
	国際		筆頭 連名	いいえ			口頭(一般)	C C C	_____	国外
	国際		筆頭 連名	はい			口頭(招待・特別)		_____	国外
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C	_____	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)		_____	なし
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)		_____	なし

【教育活動】

教育活動の概要

兼任する理学研究科地球物理学専攻において、 C1名、 C1名、 C2名の地震活動および地震ハザードに関する研究・論文指導を行い、同専攻での「固体地球物理学特殊講義」講義や各種セミナーにおいて大学院生への指導を行った。また、理学研究科地学専攻でも C1名の海岸段丘の長期地殻変動に関する修士論文指導を行った。さらに全学教育「災害の科学（災害の発生と波及）」を担当した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
	固体地球物理学特殊講義	東北大学		理学研究科地球物理学専攻		前期	
	災害の科学	東北大学	全学			後期	
	自然災害論・地震減災研究	関西大学	社会安全学部	社会安全研究科		前期	
	地震の長期評価	建築研究所		国際地震工学センター(留学生)			

【社会活動】

社会活動の概要

災害や防災関連への社会貢献として、石川県原子力安全専門委員会委員、総合資源エネルギー調査会臨時委員、地質環境長期安定性評価確証技術開発委員会委員、我が国周辺水域二酸化炭素貯留適地検討会委員、など国・地方自治体、民間団体の委員会にて専門的立場から意見を述べた。さらに、各種マスコミへの取材協力等を通じて地震現象や地震防災に関する啓蒙活動を行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国際	東北大学災害科学 国際研究所・ 防災科学技術研究 所・応用地質株式 会社	(オープンクエイ クとアジアの地震リスク評価)			仙台市・東北 大学災害科学 国際研究所多 目的ホール	学会・シンポジウム	幹事		主催	
	国際	北淡国際活断層シ ンポジウム実行委員 会	北淡国際活断層研究シンポジウム			淡路市・ウエス ティンホテル	学会・シンポジウム	運営委員会		後援	
	国内	日本活断層学会	日本活断層学会 年秋季大会(仙台 大会)			仙台市・東北 大学片平キャン パスさくら ホール	学会・シンポジウム	幹事・運営委 員会		後援	
	国内	京都大学防災研究 所一般研究集会	一般研究集会 活断層とノンテクトニック 断層:起震断層の正しい認識と評価基準 をさぐる			京都大学宇治 キャンパスきは だホール	学会・シンポジウム	研究代表者		なし	
	国内	東京大学地震研究 所	日本における地震発生予測検証実験 C 第5回研究集会			東北大学・地 震噴火予知研 究観測セン ター	学会・シンポジウム	幹事		なし	

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	石川県	石川県原子力安全専門委員会	委員	
	経済産業省	総合資源エネルギー調査会	臨時委員	
	経済産業省・環境省	経済産業省・環境省連携事業 平成 年度二酸化炭素 貯留適地調査事業に係わる有識者委員会	委員	
	鳥取県	鳥取県津波対策検討委員会	委員	
	(独)日本原子力研究開発機構	地質環境長期安定性評価検証技術開発委員会	委員	

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
		C		学術交流協定(研究目的)	仙台市・東北大学工学部青葉記念 会館	国外	企画	

丹羽 雄一 助教

Yuichi NIWA

災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東京大学	理学部			東京大学大学院	新領域創成科学研究科			博士 環境学		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東京大学大学院 新領域創成科学研究科	日本学術振興会特別研究員 C
				東京大学大学院 新領域創成科学研究科	日本学術振興会特別研究員
				関東学院大学 経済学部	非常勤講師
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教
				明治大学大学院 教養デザイン研究科	兼任講師

所属学会

日本地理学会	日本第四紀学会	日本活断層学会	日本地球惑星科学連合	米国地球物理学連合	東北地理学会	日本地震学会
--------	---------	---------	------------	-----------	--------	--------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本地理学会	企画専門委員会	委員	

研究分野・キーワード

地形学	第四紀学	古地震学	沖積層研究
-----	------	------	-------

【研究活動】

研究活動の概要

超巨大地震繰り返しメカニズム解明に向けた基礎データ取得の一環として、三陸海岸において地形地質調査を実施した。三陸海岸南部に位置する陸前高田平野と気仙沼大川平野ではボーリング調査を実施し、過去 万年間の詳細な古環境変化を復元した。さらに、復元した古環境に基づいて地殻変動を推定したところ、当該地域では従来想定されていた長期的隆起傾向とは異なり、過去 万年間全体としてみると沈降が卓越していることを明らかにした。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		三陸海岸の海岸地形の編年と長期地殻変動・超巨大地震繰り返しに関する研究	国内
			現在		リアス湾奥に分布する沖積平野の発達過程に関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	陸前高田平野完新統の堆積相・堆積速度および推定される地殻変動傾向	学術雑誌	有	いいえ	第四紀研究						丹羽雄一・遠田晋次・須貝俊彦・松島義章	筆頭共著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際	第4回北淡活断層国際シンポジウム	筆頭連名	いいえ	日本・兵庫県淡路市		ポスター(一般)		_____	国内
	国際		筆頭連名	いいえ	アメリカ・サンフランシスコ		ポスター(一般)	C	_____	国内
	国内	年日本地理学会春季学術大会	筆頭連名	いいえ	東京		口頭(一般)	気仙沼大川平野完新統の堆積過程と推定される地殻変動	丹羽雄一・須貝俊彦・松島義章	国内
	国内	年日本地理学会春季学術大会	筆頭連名	いいえ	東京		ポスター(一般)	年長野県北部の地震によって出現した地表地震断層の分布とその特徴	丹羽雄一・岡田真介・石村大輔・遠田晋次	国内
	国内	年日本地震学会秋季大会	筆頭連名	いいえ	新潟		ポスター(一般)	沖積平野地下地質に基づく三陸海岸南部の完新世の地殻変動―陸前高田平野における調査結果―	丹羽雄一・遠田晋次・須貝俊彦	国内
	国内	年日本活断層学会秋季学術大会	筆頭連名	いいえ	仙台		ポスター(一般)	陸前高田平野沖積層の発達過程から推定した完新世の地殻変動	丹羽雄一・遠田晋次・須貝俊彦	国内
	国内	日本第四紀学会 年大会	筆頭連名	いいえ	柏		ポスター(一般)	陸前高田平野完新統の堆積過程と推定される地殻変動	丹羽雄一・遠田晋次・須貝俊彦	国内

	国内	東北地理学会 年春季大会	筆頭 連名	いいえ	仙台		口頭(一般)	陸前高田平野の形成過程と地殻変動	丹羽雄一・遠田晋次	国内
	国内	日本地球惑星科学連合年大会	筆頭 連名	いいえ	横浜		ポスター(一般)	段丘地形・沖積平野地下地質の特徴に基づいた三陸海岸南部・陸前高田の長期地殻変動	丹羽雄一・遠田晋次	国内
	国際	第4回北淡活断層国際シンポジウム	その他の連名	いいえ	日本・兵庫県淡路市		ポスター(一般)			国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1	件
----	---	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDEsの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	日本活断層学会	日本活断層学会 年度秋季学術大会・一般公開シンポジウム「東北の活断層と地震災害」			東北大学片平さくらホール	学会・シンポジウム	大会実行委員 会場担当		後援	国内

【教育活動】

教育活動の概要

兼務先である理学研究科地学専攻において、地理学教室および地形分野のセミナーに参加し、学生への質疑・コメントを通じて学生の研究をサポートした。また、同専攻修士課程 年の学生のアドバイザーボードとして研究の進め方など指導の補助を行った。その他に東京大学大学院新領域創成科学研究科で「自然環境学最前線」の講義を担当し、自然科学の成果をを災害軽減にどう生かすか、というテーマで話題を提供した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/1コマ
	自然環境学最前線	東京大学	大学院新領域創成科学研究科	自然環境学専攻		前期	

石村 大輔 助教

Daisuke ISHIMURA

災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
九州大学	理学部			京都大学	理学研究科			理学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				千葉大学大学院 理学研究科	特任研究員
				千葉大学大学院 理学研究科	技術補佐員
				千葉大学大学院 理学研究科	特任研究員
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

所属学会

日本第四紀学会	日本地震学会	日本活断層学会	東北地理学会	東京地学協会	日本地球惑星連合
---------	--------	---------	--------	--------	----------

研究分野・キーワード

第四紀地質学	変動地形学	古地震学
--------	-------	------

【研究活動】

研究活動の概要

三陸海岸における長期間の地殻変動検出および同地域の古津波堆積物の年代の高精度化をおもに研究した。前者に関しては、段丘地形および地下地質情報に基づき、 万年および 万年スケールでの地殻変動検出を行った。結果、三陸海岸の北部に関しては隆起傾向にあり、三陸海岸の中部～南部に関しては沈降傾向にあることがわかった。後者に関しては、岩手県山田町と宮城県南三陸町にて掘削された試料を対象とし、放射性炭素年代測定とテフラ分析に基づき、津波堆積物の年代を明らかにした。結果、岩手県山田町では、複数の歴史津波堆積物が見出され、津波の頻度および規模に関する情報を得ることができた。宮城県南三陸町では、歴史津波堆積物が 層、それ以前の津波堆積物が複数見出された。現在はそれらの論文化を行っている。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		三陸海岸における長期間の地殻変動に関する研究	
			現在		古地震学的研究に基づく古地震履歴情報の高精度化	

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	近江盆地の東西に分布する段丘面の編年とその形成過程	学術雑誌	有	いいえ	地学雑誌						石村大輔	単著	なし
	日本語	三陸海岸の完新統に挟在するテフラの特徴	学術雑誌	有	いいえ	地学雑誌						石村大輔,山田圭太郎,宮内崇裕,早瀬亮介	筆頭共著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際		筆頭連名	いいえ	C		ポスター(一般)	C		国内
	国際		その他の連名	いいえ	C		ポスター(一般)			なし
	国際		筆頭連名	いいえ			ポスター(一般)	C		国内
	国内	年度日本地震学会秋季大会	筆頭連名	いいえ	新潟市		ポスター(一般)	三陸海岸における最近数千年間の古津波堆積物：岩手県山田町小谷島と宮城県南三陸町大沼における調査結果	石村大輔, 宮内崇裕	国内
	国内	日本活断層学会 年度秋季学術大会	筆頭連名	いいえ	仙台市		ポスター(一般)	群列ハンディジョスライサー調査による古津波堆積物の追跡とその連続性 岩手県山田町小谷島を例にして	石村大輔, 市原季彦, 阪田知洋, 大畑雅彦, 高田裕哉	国内
	国内	東北地理学会 年度秋季大会	単名	いいえ	山形市		口頭(一般)	西南日本における河成段丘の形成過程：近江盆地と伊勢湾西岸地域を例として	石村大輔	なし
	国内	歴史地震研究会	筆頭連名	いいえ	名古屋市		口頭(一般)	三陸海岸における古津波堆積物の認定と歴史津波との対比：岩手県山田町小谷島と宮城県南三陸町大沼におけるトレンチ調査	石村大輔, 宮内崇裕, 早瀬亮介	国内
	国内	日本第四紀学会 年大会	筆頭連名	いいえ	柏市		口頭(一般)	岩手県山田町小谷島に分布する古津波堆積物と歴史津波との対比	石村大輔, 宮内崇裕, 早瀬亮介	国内

	国内	日本第四紀学会 年大会	筆頭 連 名	いいえ	柏市		ポスター(一般)	宮城県南三陸町大沼に分布する古津波堆積物とその規模に関する予察	石村大輔 宮内崇裕	国内
	国内	東北地理学会 年度春季大会	筆頭 連 名	いいえ	仙台市		口頭(一般)	三陸海岸中部における古津波堆積物	石村大輔 宮内崇裕	国内
	国内	日本地球惑星科学連合 年大会	筆頭 連 名	いいえ	横浜市		口頭(一般)	三陸海岸における古津波堆積物の認定とその年代:岩手県山田町小谷島トレンチ調査	石村大輔 宮内崇裕 早瀬亮介	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1	件
----	---	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	日本活断層学会	日本活断層学会 年度秋季学術大会			東北大学片平さくらホール	学会・シンポジウム	運営担当		後援	国内

【教育活動】

教育活動の概要

私が兼務している理学研究科地学専攻の地理学教室や地形分野で開催されるゼミに参加し、質疑応答を通じて学生への助言を行っている。また、一部の学生のアドバイザーボードに加わり、研究全般のサポートを行っている。

【社会活動】

社会活動の概要

河北新報の「防災・減災のページ」に寄稿し、私の研究内容についての紹介を行った。愛媛県立川之江高等学校の防災教育講演会において「大震災に学ぶ低頻度巨大災害のリスク」というタイトルでの講演を行い、東北大震災の話に加え、逼迫する南海トラフでの地震・津波についてのリスクについて紹介した。

セミナー・講演・講義等

合計	1	件
----	---	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	防災教育講演会	講演			大震災に学ぶ低頻度巨大災害のリスク	愛媛県立川之江高等学校	愛媛県・四国中央市・川之江高校体育館

江川 新一 教授

Shinichi EGAWA

災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	医学部							医学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				竹田綜合病院 外科	医師
				医療法人 永仁会 永野病院 外科	医員
				医療法人 永仁会 永野病院 外科	医員
				高萩協同病院 外科	医員
				高萩協同病院 外科	医員
				東北大学医学部 第一外科(この間、 年 月から 月まで高萩協同病院に医員派遣として出張)	医員
				国立がんセンター研究所 細胞増殖因子研究部	リサーチレジデント
				国立がんセンター研究所 細胞増殖因子研究部	研究員(厚生技官)
				東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
				米山町国保病院 外科	医長
				東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
				丸森町国保病院 外科	医長
				東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
				アメリカ合衆国ペンシルバニア州ピッツバーグ大学 腫瘍外科学	客員研究員(助手休職)
				東北大学医学部附属病院 肝胆膵外科	助手(文部教官)復職
				東北大学病院 肝胆膵外科	助手(配置換)
				独立行政法人化に伴い東北大学病院・肝胆膵外科	助手(病院)
				東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	講師
				東北大学大学病院 肝胆膵外科	講師
				東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	助教授
				東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	准教授(職制変更)
		現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野	教授
		現在		災害医学研究部門長	

所属学会

日本集団災害医学 会	日本臓臓学会	日本外科学会	日本消化器外科 会	日本消化器病学会	日本肝胆膵外科学 会	日本嚥治療学会	アメリカ外科学会	アメリカ臓臓学会	国際臓臓学会
---------------	--------	--------	--------------	----------	---------------	---------	----------	----------	--------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本臓臓学会	編集委員会、膵癌登録委員会、膵癌取扱規約委員会	評議員	
日本消化器病学会		学会評議員	
日本肝胆膵外科学会	編集委員会	評議員	

研究分野・キーワード

被災地医療ニーズ	災害保健医療コーディネーター	病院 C	オールハザードアプローチ	クラスターアプローチ
----------	----------------	------	--------------	------------

【研究活動】

研究活動の概要

第 回国連防災世界会議にむけてワシントンで災害時の保健医療管理に関する国際シンポジウムを開催し、 名以上の専門家によるコンセンサスをまとめた。また、それをアジア防災閣僚会議、国際リスクフォーラム、東北大学知のフォーラムにおいて発信し、兵庫行動枠組に保健・医療の観点が抜けていることを指摘。 など協力して仙台防災枠組に健康を大幅に取り入れる原動力となった。被災地の医療ニーズをデータベース化する作業を進め、被災地の医療ニーズの解析の準備をしている。災害保健医療コーディネーターの全都道府県調査を 年度につづいて再度実施し、国立保健医療科学院での指導教育を行った。フィリピン台風ハイエンによる保健医療機関の被災の現地調査を行い、被災 カ月後と 年 カ月後の比較を行い、災害に強い保健医療機関のあり方についてフィリピン政府に提言を行った。災害医療教育の樹立に関して、ヒューマンセキュリティコースおよび医学系研究科・医学部と共同で、学生・大学院生教育のあり方について研究を行った。

研究課題

期間				研究課題(内容)	学外 連携
開始年	月	終了年	月		
		現在		被災地における保健医療ニーズの解析	国内
		現在		災害保健医療コーディネーターの全都道府県調査	国内
		現在		国連の防災枠組に対する保健医療クラスターのあり方の研究	国外
		現在		フィリピン・アンヘラス大学と共同での災害医学教育の構築	国外
		現在		災害医学の樹立に関する研究	国内

論文

単著		筆頭共著	その他の共著	合計	うち		国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無				
	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
	英語	C	学術雑誌	有	はい							C	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	はい							C	筆頭共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	はい							C	共著	国内
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	日本語	膵癌に対する術前化学療法の有効性評価	学術雑誌	無	はい	消化器内科						元井冬彦、岡田良、川口桂、益田邦洋、青木豪、藪内伸一、深瀬耕二、水間正道、坂田直昭、森川孝則、林洋毅、中川圭、岡田恭徳、吉田寛、内藤剛、片寄友、江川新一、海野倫明	共著	国内
	日本語	慢性膵炎に対する手術	学術雑誌	無	はい	日本外科学会雑誌						元井冬彦、江川新一、海野倫明	共著	国内
	英語		国際会議	有	いいえ	C							共著	国外

著書(監修・編著・單著・共著)

監修 編著	單著	筆頭 共著	共著	合計	国際	国内
----------	----	----------	----	----	----	----

記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
英語		単行本			共著	東北大学災害科学国際研究所	国外

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際		単名	はい			口頭(招待・特別)			国外
	国内	フィリピン台風調査報告会	単名	はい	仙台市		口頭(招待・特別)	フィリピンの台風 による病院被害と 災害保健医療対応		国内
	国内	災害感染症対策セミナー	単名	はい	仙台市		口頭(招待・特別)	東日本大震災における医療対応		国内
	国際		単名	はい			口頭(招待・特別)			国外
	国際	C C	単名	はい			口頭(招待・特別)			国外
	国際	C	単名	はい	仙台市		口頭(招待・特別)			国内
	国際	C	筆頭 連名	いいえ	東京都		公募 シンポジウム・ワークショップ・パネル		_____	国内
	国際	C	単名	はい	仙台市		口頭(基調)			国外
	国際	C	単名	はい	仙台市		口頭(招待・特別)			国外
	国内	緊急被ばく医療セミナー	単名	はい	仙台市		口頭(招待・特別)	災害医療に対する災害科学国際研究所の役割		国内
	国内	こころの防災市民フォーラム	単名	はい	仙台市		口頭(招待・特別)	防災と災害医療支援		国外
	国内	第 回日本集団災害医学会	筆頭 連名	はい	立川市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	健康を中心にした災害リスク軽減の行動枠組みへ	江川新一、佐々木宏之	国外
	国内	第 回日本集団災害医学会	筆頭 連名	はい	立川市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	東北大学の災害医療教育	江川新一、佐々木宏之、細井義夫、服部俊夫、石井 正、石井直人	国外
	国際	C	単名	はい	仙台市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル			国外
	国際		単名	はい	仙台市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル			国外
	国際		筆頭 連名	いいえ	福岡市		公募 シンポジウム・ワークショップ・パネル		_____	国外
	国際	C	筆頭 連名	いいえ	東京都		ポスター(一般)	C	_____	国外

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国際	C C				C	学会・シンポジウム	議長、幹事、運営担当		主催	国外
	国際	C				東北大学川内北 キャンパス(宮城県 仙台市)	学会・シンポジウム	議長、運営担当		主催	国外
	国内	災害科学国際研究 所 災害感染症学 分野	災害感染症セミナー			フォレスト仙台(宮城 県仙台市)	市民向け講演会・セ ミナー	運営担当		主催	国内
	国内	災害科学国際研究 所 災害放射線医 分野	緊急被ばく医療セミナー			トラストシティカン ファレンス・仙台(宮 城県仙台市)	市民向け講演会・セ ミナー	運営担当		主催	国内
	国内	災害科学国際研究 所 災害精神医学 分野	こころの防災市民フォーラム			メディアテーク(宮城 県仙台市)	市民向け講演会・セ ミナー	運営担当		主催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

全学教育において 年生を対象に災害医療の授業を行った。医学部 年生、医学研究科修士課程・博士課程を対象に災害医療の講義を行った。臨床研修指導医講習会において災害医療を研修医に指導するためのカリキュラム立案を指導した。ヒューマンセキュリティコースにおいて、医学系研究科、農学研究科、環境科学研究科、国際文化研究科の修士留学生を対象に災害医学に関する連続講義を行った。リーディング大学院生に対して、災害医療の講義を行った。フィリピンのアンヘラス大学と部局間協定を締結し、回の特別講義を行った。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
		東北大学	医学系研究科	ヒューマンセキュリティーコース		セメ	
	災害医療の基礎知識	東北大学	医学部	医学科		セメ	
		アンヘラス大学(フィリピン)	公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻		セメ	
	終末期医療	東北大学	医工学研究科	医の倫理		セメ	
		東北大学				セメ	
	災害の科学	東北大学	全学			セメ	1
	実践的防災学	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学		セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

第 回国連防災世界会議に合わせて、3つのプレセミナーシリーズを企画・開催した。災害における保健医療対応の現状と、課題を一般の医療従事者、他の分野の関係者にもわかりやすく講演し、相互理解を深める工夫をした。放射線災害や、感染症をはじめとするオールハザード、また、メンタルヘルスを含めて全人的な健康の備えと災害時の対応について啓発した。臨床研修指導医講習会や国立保健医療科学院における保健所長の健康危機管理研修において災害保健医療をテーマに研修を行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	災害科学国際研究 所 災害感染症学 分野	災害感染症セミナー			フォレスト仙台 (宮城県仙台 市)	市民向け講演会・セ ミナー	運営担当		主催	
	国内	災害科学国際研究 所 災害放射線医 分野	緊急被ばく医療セミナー			トラストシティ カンファレン ス・仙台(宮城 県仙台市)	市民向け講演会・セ ミナー	運営担当		主催	
	国内	災害科学国際研究 所 災害精神医学 分野	こころの防災市民フォーラム			メディアテーク (宮城県仙台 市)	市民向け講演会・セ ミナー	運営担当		主催	
	国内	会 法人良陵協議 会	平成26年度第 回 法人良陵協議会 臨床研修指導医講習会			東北大学医学 号館	市民向け講演会・セ ミナー	プログラム責 任者		なし	
	国内	会 法人良陵協議 会	平成26年度第 回 法人良陵協議会 臨床研修指導医講習会			東北大学医学 号館	市民向け講演会・セ ミナー	プログラム責 任者		なし	

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	災害感染症対策セミナー	招待講演			東日本大震災における医療対応	東北大学 災 害科学国際研 究所	仙台市・フォレスト仙 台

	講演会・セミナー	緊急被災医療セミナー	招待講演			災害医療に対する災害科学国際研究所の役割	東北大学 災害科学国際研究所	仙台市・トラスティ・カンファレンス・仙台
	講演会・セミナー	こころの防災市民フォーラム	招待講演			防災と災害医療支援	東北大学 災害科学国際研究所	仙台市・メディアテーク
	講演会・セミナー	平成26年度短期研修健康危機管理研修(高度技術編)	招待講演			公衆衛生、医療、メンタルヘルス基盤の復旧活動支援	国立保健医療科学院	和光市・国立保健医療科学院

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	法人 良陵協議会		理事、事務局長	
	法人 外科臨床研究推進機構		副理事長	

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
		C	国外	C C C	研究機関			
		東北大学・宮城県仙台市	国外	C	研究機関			

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計	1	件
----	---	---

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
		C		講演	C	国外	講演・発表	
		C		講演	C	国外	講演・発表	
		C		共同研究	C	国外	企画	

佐々木 宏之 助教

Hiroyuki SASAKI

災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
山形大学	医学部			東北大学大学院	医学系研究科			医学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				山形県立中央病院 外科	前期・後期研修医
				東北大学病院胃腸外科	医局員
				東北大学大学院 医学系研究科 生体調節外科学分野	大学院生
				独立行政法人労働者健康福祉機構 東北労災病院 外科	副部長
				茨城県厚生連 県北医療センター高萩協同病院 外科	科長
				東北大学病院 胃腸外科	特任助手
				東北大学病院 胃腸外科	助教
				同上(兼東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野)	助教
		現在		東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野 (兼東北大学病院 胃腸外科)	助教

学会活動

所属学会

日本集団災害医学会	日本外科学会	日本消化器外科学会	日本消化器病学会	日本大腸肛門病学会	日本大腸癌研究会	日本癌学会	日本癌治療学会	日本臨床外科学会	日本内視鏡外科学会
-----------	--------	-----------	----------	-----------	----------	-------	---------	----------	-----------

研究分野・キーワード

災害医療	受援計画	消化器外科学
------	------	--------

【研究活動】

研究活動の概要

(1)平成 年度プロジェクト研究課題である南海トラフ地震被災地域医療機関を対象とした医療機関受援計画に関するアンケート調査を実施し、 を越える医療機関より回答を得、結果を解析している。
(2)東日本大震災時の宮城県における防ぎ得る災害死の病院訪問調査を東北大学病院救命救急センター山内聡助教と実施し、調査結果を共同調査者、共著者として学会、論文報告を行った。(3)災害医療に関する各研修会に参加し、国内の災害医療制度・教育に関する調査研究を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		日本の医療機関における受援計画に関する調査	国内
			現在		東日本大震災時の宮城県の医療機関における防ぎ得る災害死の調査	国内

論文

単著		筆頭共著		その他の共著		合計		うち		国際査読有		国際査読無		国内査読有		国内査読無			
	記述言語	論文題目名 (原語)				種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)		巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)		共著区分	学外連携
	英語					学術雑誌	有	いいえ										筆頭共著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際	第 回アジア太平洋災害医学学会	筆頭連名	いいえ	東京、		ポスター(一般)			なし
	国内	第 回日本集団災害医学会	筆頭連名	いいえ	立川市		口頭(一般)	上手に助けてもらうために「受援力」の向上をー東日本大震災被災地域における病院機能・規模別にみた病院受援計画の現状ー	佐々木宏之、児玉光也、村上綾、江川新一	なし
	国内	第 回日本臨床外科学会総会	その他の連名	いいえ	郡山市		口頭(一般)	巨大直腸 の治療戦略	木村俊一、大沼忍、唐澤秀明、青木豪、佐々木宏之、工藤克昌、渡辺和宏、田中直樹、長尾宗紀、阿部友哉、武者宏昭、元井冬彦、片寄友、内藤剛、海野倫明	なし
	国内	第 回日本臨床外科学会総会	その他の連名	いいえ	郡山市		公募 シンポジウム・ワークショップ・パネル	局所再発直腸癌に対する治療戦略	大沼忍、内藤剛、木村俊一、唐澤秀明、青木豪、工藤克昌、佐々木宏之、渡辺和宏、田中直樹、長尾宗紀、阿部友哉、武者宏昭、元井冬彦、片寄友、海野倫明	なし
	国内	第 回日本救急医学会総会	その他の連名	いいえ	福岡市		口頭(一般)	防ぎえる災害死を減らすためにはー東日本大震災における宮城県の防ぎえる災害死の調査からー	山内聡、佐々木宏之、久志本成樹	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国際	C 他					学会・シンポジウム	運営担当		主催	国外
	国際	東北大学	知のフォーラム			東北大学災害研	学会・シンポジウム	運営担当		主催	なし
	国際	国連他	第3回国連防災世界会議パブリック フォーラム：巨大災害に対する保 健医療の備え			東北大学川内北 キャンパス	学会・シンポジウム	運営担当		主催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
		東北大学	全学				

【社会活動】

社会活動の概要

当所の業績を学内外・社会一般に広く公開する 金曜フォーラム及び特定プロジェクト研究成果報告会を 長として積極的に企画・運営し、所内外研究活動の連携、また当所のアウトリーチに貢献した。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	東北大学災害科学 国際研究所	金曜フォーラム			仙台市・東北 大学災害科学 国際研究所	市民向け講演会・セミ ナー	長、企画・ 運営担当	毎回 名 前後	主催	年8回運営
	国内	東北大学災害科学 国際研究所	特定プロジェクト研究成果報告会			仙台市・東北 大学さくらホー ル	市民向け講演会・セミ ナー	長、企画・ 運営担当	名前 後	主催	

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	災害対策について「伴 に」考える研究会第1回 定例会	招待講演			上手に助けってもらうために「受援力」向上をー東日本大震災被災地 域における病院機能・規模別にみた病院受援計画の現状ー	災害対策につ いて「伴に」考 える研究会	東京都文京区本 郷・順天堂大学医 学部

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	人と防災未来センター	高田洋介		共同研究	神戸市・人と防災未来センター	国内	企画	

服部 俊夫 教授

Toshio HATTORI

災害医学研究部門 災害感染症学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
京都大学	医学部			京都大学大学院	医学部			医学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				京都大学 医学部附属病院内科	研修医
				静岡県立病院 内科	研修医
				米国国立衛生研究所(客員研究員
				熊本大学医学部 第二内科	助手
				熊本大学医学部 第二内科	講師
				京都大学 ウイルス研究所免疫不全ウイルス施設	助教授
				東北大学大学院 感染症態学分野	教授
				東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門・災害感染症学分野	教授

学会活動

日本免疫学会	日本呼吸器学会	米国呼吸器学会	米国微生物学会	米国免疫学会	国際エイズ学会	日本感染症学会	日本内科学会	日本血液学会	日本結核病学会
--------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	--------	--------	---------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本感染症学会		評議委員	
日本血液学会		運営委員	
日本免疫学会		評議委員	

研究分野・キーワード

血液内科学	感染症学	ウイルス学	免疫学
-------	------	-------	-----

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
医学部	国際交流委員会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

将来災害が予想される地域と被災地との共有の試みを行った。その準備として、昨年度災害感染症セミナー静岡を開催した。今年度は災害感染症セミナーみやぎを仙台で開催した。特に災害後の 感染者の治療の問題点、熱帯地方の災害感染症である、デング熱や、病原性大腸菌の検出方法などについての発表が行われた。それらの簡易検出法の研究を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
					災害地域での被災経験の共有に関する研究	国内
					日本と周辺アジアにおける多剤耐性結核の実態調査とその対策の研究	国外
					アジアに広がる結核菌とその病態の解析 及び炎症蛋白の産生機序	国外
					熱帯感染症のマトリセルラー蛋白の病態における役割	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C C _____	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C _____	共著	国外

	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国外
	日本語	マトリセルラータンパク質と感染症	単行本 (論文掲載)	有	いいえ	化学療法の領域						芦野有悟、ホルロ、 齊藤弘樹、服部俊夫	共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C C						C	共著	なし

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著		単著		筆頭 共著		共著		合計		うち	国際		国内	
----------	--	----	--	----------	--	----	--	----	--	----	----	--	----	--

	記述 言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
	英語		単行本		C	単著		国内
	日本語	厚生労働科学研究委託費新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業多剤耐性結核の分子疫学的解析、診断・治療法の開発に関する研究平成 年度委託業務成果報告書	単行本		服部俊夫、加藤誠也、小林信之、切替照雄、鈴木定彦、野内英樹、下内昭、露口一成、慶長直人、永井英明	単著	笹気出版	国外

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著		筆頭共著		その他の 共著		合計		うち	国際 査読有		国際 査読無		国内 査読有		国内 査読無
----	--	------	--	------------	--	----	--	----	-----------	--	-----------	--	-----------	--	-----------

	記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区 分	学外 連携
	日本語	発表、『早期治療を行った幼児からを検出』にコメント	学術雑誌	有	はい	C						服部俊夫、芦野有悟	共著	国内

学会発表

単名		筆頭 連名		その他の 連名		合計	
----	--	----------	--	------------	--	----	--

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際	学会	筆頭 連 名	いいえ			ポスター(一般)	C		国外
	国内	第 回日本感染症学会学術講演会・第 回日本化学療法学会総会合同学会	その他の 連名	いいえ	福岡		口頭(一般)	急性発熱患者におけるサイトカイン	芦野有悟 齊藤弘樹、服部俊夫、賀来満夫	国内
	国内	年度 海外学術調査フォーラムプログラム	その他の 連名	いいえ	東京		ポスター(一般)	デングウイルス感染症における炎症及び凝固関連マーカー研究	C	国外
	国内	平成 年度 特定プロジェクト研究成果報告会仙台	単名	いいえ	仙台		口頭(一般)	「人間の安全保障」に基づく国際的災害医学教育研究連携体制構築	服部俊夫	国外
	国内	平成 年度 特定プロジェクト研究成果報告会	その他の 連名	いいえ	仙台		ポスター(一般)	潜在性結核患者と結核患者の 発現様式の相違の検討	芦野有悟 服部俊夫	国内
	国内	平成 年度 特定プロジェクト研究成果報告会	その他の 連名	いいえ	仙台		ポスター(一般)	災害関連発熱疾患の早期発見のためのバイオ・マーカー研究	浩日勲 服部俊夫	国外
	国内	平成 年度 特定プロジェクト研究成果報告会	単名	いいえ	仙台		ポスター(一般)	「人間の安全保障」に基づく国際的災害医学教育研究連携体制構築	服部俊夫	国外
	国内	平成 年度 特定プロジェクト研究成果報告会	その他の 連名	いいえ	仙台 日本		ポスター(一般)	ハワイ大との学際的リスク研究推進のためのネットワーク構築	浩日勲 服部俊夫	国外
	国際	C	単名	いいえ	長春 中国		口頭(一般)			国外
	国際	C	筆頭 連 名	いいえ	長春 中国		口頭(一般)		C	国外
	国内	C	その他の 連名	いいえ	東京 日本		口頭(一般)		C C	国外

	国内		その他の連名	いいえ	京都 日本		ポスター（一般）	C	C	国内
	国内		その他の連名	いいえ	京都 日本		ポスター（一般）	C		国内
	国内	第 回エンドトキシン血症救命治療研究会	その他の連名	いいえ	仙台 日本		口頭（一般）	は重症敗血症の免疫・炎症反応に関連する可能性がある	ホルロ、服部俊夫	国内
	国内	第 回日本集団災害医学会	単名	いいえ	立川 日本		口頭（一般）	血漿中のマトリセルラー蛋白質はデングウイルス感染症の重症度マーカーである	ホルロ、服部俊夫	国外
	国際		単名	いいえ	ジャカルタインドネシア		ポスター（一般）	C	C	国外
	国際		筆頭 連名	いいえ	ジャカルタインドネシア		口頭（一般）	C		国外
	国内		その他の連名	いいえ	仙台 日本		口頭（一般）	C	C	国外
	国内	第 回日本結核病学会総会	その他の連名	いいえ	長崎 日本		ポスター（一般）	慢性腎臓病患者における潜在性結核感染症	白鳥ベアタ 宮澤恵実子 青木聡 宮崎真理子 芦野有悟 服部俊夫	国内
	国内	第 回日本結核病学会総会	その他の連名	いいえ	長崎 日本		ポスター（一般）	空洞及び気管支拡張症に伴う肺結核や腸結核における抗 抗体価	植景格、芦野有悟、服部俊夫	国外

特許・実用新案・その他の産業財産権（国内・海外）

合計 1 件

	種別	国内 国外	発明の名称	発明者 （申請者）	出願番号 （特願 or PCT）	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	学外 連携
	特許	国内	ジクチオピロン誘導体又はジヒドロジクチオピロン誘導体を有効成分とするオステオポンチン産生阻害剤	服部俊夫	特願				学外共同の成果	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国際	東北大学				東北大学	学会・シンポジウム	運営担当		主催	国外
	国内	東北大学	災害感染症対策セミナー			宮城県教育会館	市民向け講演会・セミナー	運営担当		主催	国内
	国際	東北大学	第 回国連防災世会議			東北大学	学会・シンポジウム	運営担当		主催	国外

【教育活動】

教育活動の概要

修士学生について、レプトスピロシス、マラリアなどの熱帯感染症の診断及び病態解析の研究を行った。博士課程の学生については北京型結核菌特異的な変異に対する免疫応答を解析した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/1コマ
	講義 現代学問論	東北大学	全学			セメ	
	系統講義	東北大学	医学部	血液感染症		前期	
		東北大学	医学部	公衆衛生		前期	
	臨床医学講義	東北大学	薬学部	現代臨床医学		後期	

【社会活動】

社会活動の概要

被災地の経験を将来被災する可能性のある地方と共有する試みを行った。災害感染症セミナーみやぎを仙台にて開催し、様々な災害感染症の診断・予防法や、静岡県の病院における災害対策の現況を学んだ。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	東北大学	災害感染症対策セミナー			仙台市・宮城県教育会館	市民向け講演会・セミナー	運営担当		共催	
	国際	東北大学	第 回国連防災世会議			仙台市・東北大学	学会・シンポジウム	運営担当		共催	

セミナー・講演・講義等

合計	1	件
----	---	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	北大阪感染症セミナー	招待講演			災害感染症およびデング熱・エボラ出血熱	北大阪感染症研究会	北野病院

自治体・研究機関との協定締結実績(正・副担当の場合のみ)

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
		中国・ハルビン医科大学	国外	中国・ハルビン大学と東北大学医学系研究科における学術国際交流協定	研究機関	中国・ハルビン		
		フィリピン・サンラザロ病院	国外	フィリピン・サンラザロ病院と東北大学医学系研究科における学術国際交流協定	研究機関	フィリピン・サンラザロ病院		
		クワズールー＝ナタール大学(南アフリカ共和国)	国外	南アフリカ共和国・クワズールー＝ナタール大学と東北大学医学系研究科における学術国際交流協定	研究機関	クワズールー＝ナタール大学(南アフリカ共和国)		
		バジャジャラン大学医学部(インドネシア)	国内	インドネシア・バジャジャラン大学医学部と東北大学医学系研究科における学術国際交流協定	研究機関	バジャジャラン大学医学部(インドネシア)		
		フィリピン大学マニラ校 フィリピン	国外	フィリピン大学マニラ校と東北大学災害科学国際研究所における学術国際交流協定	研究機関	フィリピン大学		

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計	1	件
----	---	---

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	フィリピン大学マニラ校 フィリピン	服部俊夫 教授		講演	フィリピン大学マニラ校 フィリピン	国外	講演・発表	
	フィリピン・サンラザロ病院	服部俊夫 教授		共同研究	フィリピン・サンラザロ病院	国外	講演・発表	
	中国・ハルビン医科大学	服部俊夫 教授		共同研究	中国・ハルビン医科大学	国外	その他	
	ハワイ大学医学・熱帯医学部	服部俊夫 教授		共同研究	ハワイ大学医学・熱帯医学部	国外	講演・発表	
	バジャジャラン大学医学部(インドネシア)	服部俊夫 教授		会議	ジャカルタ・	国外	講演・発表	
	フィリピン・サンラザロ病院	服部俊夫 教授		共同研究	フィリピン・サンラザロ病院	国外	講演者招聘	
	ハワイ大学医学・熱帯医学部	服部俊夫 教授		共同研究	ハワイ大学医学・熱帯医学部	国内	講演者招聘	

浩 日 勒 助教

Haorile CHAGAN-YASUTAN

災害医学研究部門 災害感染症学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
	内モンゴル医学院	臨床医学部			東北大学大学院	医学系研究科			医学博士		

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
			現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

所属学会

日本免疫学会	米国免疫学会	国際エイズ学会	日本感染症学会	日本血液学会	日本集団災害医学会
--------	--------	---------	---------	--------	-----------

研究分野・キーワード

感染症内科

【研究活動】

研究活動の概要

熱帯災害感染症におけるマトリセルラータンパク質の臨床的意義に関する研究を行った。 Deng熱において、全長型のオステオポンチン と切断型 の双方を測定し、前者が病初期に、後者が回復期に上昇することを示し、 が免疫と凝固の活性の指標となるクロストークマーカーである可能性を示した。人獣共通感染症の早期及び鑑別診断法 C の確立及び応用で洪水の際に発症する災害感染症であるレプトスピロシスについて、従来の抗体測定法に加え迅速な アッセイまたは C で急性期のレプトスピラ遺伝子の測定が可能であることが分かった。これについて災害の際に簡単に取れる尿検体でも確認ができた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
					東北大学医学系研究科 感染症の病態解析研究	国内
			現在		東北大学災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害関連感染症学の診断、予防、病態解析の研究	国際

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C C	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C C	共著	国外
	日本語	マトリセルラータンパク質と感染症	単行本(論文掲載)	無	いいえ	化学療法領域						芦野有祐、浩日勒、齊藤弘樹、服部俊去	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国内

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
----------	----	------	----	----	----	----	----

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	英語		単行本		C	共著		国外

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際	学会	その他の 連名	いいえ	ボストン		ポスター(一般)	C	C	国外
	国内	年度 海外学術調査 フォーラム	筆頭 連 名	いいえ	東京		ポスター(一般)	デングウイルス感染症における炎症及びび関連 マーカー研究	C	国内
	国内	平成 年度 特定プロジェクト 研究成果報告会	筆頭 連 名	いいえ	仙台		ポスター(一般)	災害関連発熱疾患の早期発見のためのバイオ・ マーカー研究	浩日勒 服部俊夫	国外
	国内	平成 年度 特定プロジェクト 研究成果報告会	筆頭 連 名	いいえ	仙台		ポスター(一般)	ハワイ大との学際的リスク研究推進のためのネット ワーク構築	浩日勒 服部俊夫	国外
	国際	C	筆頭 連 名	いいえ	長春 C		口頭(一般)		C	国外
	国内	C	筆頭 連 名	いいえ	東京		口頭(一般)		C	国外
	国際		その他の 連名	いいえ	ワシントン C		ポスター(一般)	C	C	国外
	国内		その他の 連名	いいえ	東京		口頭(一般)		C	国外
	国際		その他の 連名	いいえ	ウィーン		ポスター(一般)		C	国外
	国内	第76回日本血液学会学術集 会	筆頭 連 名	いいえ	大阪市		口頭(一般)		C	国外
	国際		その他の 連名	いいえ	バンコク、		口頭(一般)		C	国外
	国内		その他の 連名	いいえ	京都		ポスター(一般)	C	C	国内
	国内		その他の 連名	いいえ	京都		ポスター(一般)		C	国内
	国内	第 回エントキシシ血症救命 治療研究会	筆頭 連 名	いいえ	仙台		口頭(一般)	は重症敗血症の免疫・炎症反応に関連 する可能性がある	浩日勒、服部俊夫	国内
	国内	第 回日本集団災害医学会	筆頭 連 名	いいえ	立川		口頭(一般)	血漿中のマトリセルラー蛋白質はデングウイルス感 染症の重症度マーカーである	浩日勒、服部俊夫	国外
	国際		その他の 連名	いいえ	ジャカル タ		ポスター(一般)		C	国外
	国内		筆頭 連 名	いいえ	仙台		口頭(一般)	C	C	国外

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国際	東北大学				東北大学星陵キャン パス	学会・シンポジウム	運営委員		主催	国外

【教育活動】

教育活動の概要

修士学生について、デングウイルス体外感染実験系の確立、レプトスピロシスまたはマラリアなどの熱帯感染症にてその診断及び病態解析の実験と研究を指導した。
--

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
		東北大学	医学部	公衆衛生		前期	1
	体と健康	東北大学	全学		1	後期	1

【社会活動】

社会活動の概要

国外でフィリピンサンラザロ病院やハワイ大学、国内では北海道大学、香川大学などの医師、研究者らと災害関連疾患への迅速診断アッセイの確立または病態解明への共同研究を行ってきた。また、ハイアン台風被災地を訪問し、災害関連感染症について勉強した。これらの結果を災害感染症セミナーみやまたは国連防災会議のパブリックフォーラムにて発表した。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	東北大学	災害感染症対策セミナー			仙台市・宮城県教育会館	市民向け講演会・セミナー	運営担当		共催	
	国内	東北大学	世界防災会議パブリックフォーラム:			仙台市・東北大学北キャンパス	市民向け講演会・セミナー	運営担当		共催	感染症セッション
	国内	東北大学				仙台市・東北大学	学会・シンポジウム	運営担当		共催	

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	フィリピン・サンラザロ病院			共同研究	マニラ・サンラザロ病院	国外	講演・発表	
	ハワイ大学医学・熱帯医学部	C		共同研究	ホノルル・ハワイ大学医学・熱帯医学部	国外	講演・発表	
	ハワイ大学医学・熱帯医学部	C		共同研究	仙台・東北大学川内北キャンパス	国内	講演者招聘	
	ハワイ大学医学・熱帯医学部	C		共同研究	仙台・東北大学星陵キャンパス	国内	講演者招聘	
	フィリピン・サンラザロ病院			共同研究	仙台・東北大学星陵キャンパス	国内	講演者招聘	
	ハワイ大学医学・熱帯医学部			共同研究	仙台・東北大学星陵キャンパス	国内	講演者招聘	
	マヒドール大学			共同研究	バンコク・センタラグラント	国外	講演・発表	

千田 浩一 教授

Koichi CHIDA

災害医学研究部門 災害放射線医学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
				東北大学大学院	医学系研究科			博士 障害科学)		

【職歴】

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東北大学医療技術短期大学部 診療放射線技術学科	助手
				東北大学医学部保健学科 放射線技術科学専攻	助手
				東北大学大学院医学系研究科 放射線技術科学専攻	准教授
				東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻放射線技術科学コース	准教授
				東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻放射線技術科学コース	教授
				東北大学災害科学国際研究所 教授兼任	教授
		現在		東北大学災害科学国際研究所 教授(東北大学大学院医学系研究科兼任)	教授

所属学会

日本放射線技術学会	日本医学放射線学会	日本医学物理学会	医用画像情報学会	日本アイソトープ協会	医学物理士会
-----------	-----------	----------	----------	------------	--------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本放射線技術学会	評議員	評議員	
日本放射線技術学会	計測分科会	委員	
日本放射線技術学会	広報委員会	委員	
日本放射線技術学会	東北部会	理事	
医学物理学会	試験委員会	委員	
日本血管撮影 インターベンション専門診療放射線技師認定機構	試験委員会	委員	
	査読委員	査読委員	

研究分野・キーワード

放射線医科学	放射線技術科学	災害放射線医学	医用工学	内部障害学
--------	---------	---------	------	-------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	放射線取扱主任者専門部会	専門部員	
医学系研究科	安全衛生委員会	委員	
医学系研究科	放射線障害予防委員会	および 線取扱主任者	
医学系研究科	ラジオアイソトープセンタ運営委員会	委員	
メディカルメガバンク	運営委員会	委員	
保健学科	放射線管理実務部会	責任者	
保健学科	放射線技術科学専攻キャリア支援	担当者	

【研究活動】

研究活動の概要

当分野教授の千田は、大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同医学部保健学科を兼務し、研究教育等を担当している。患者・術者等の被曝評価防護研究、放射線機器の最適化研究、災害放射線医学関連研究、特に「医療被曝関連研究」を多く行っている。医学に利用される放射線は、大部分が低線量被曝であるため、よって医療被曝関連研究は原子力災害時における低線量被曝研究を行う上で重要な基盤となると考える。さらに「災害放射線医学関連研究」として、①福島原発事故に起因した医用X線写真上に生じた黒点に関する研究。②原発事故相談窓口での電話相談内容の分析や対応策の検討。など。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		放射線被曝研究	国内
			現在		医用機器 C	国内
			現在		リン 研究	国内
			現在		災害放射線医学研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	看護学生の放射線に関する意識調査からみた放射線教育の重要性	学術雑誌	有	いいえ	日本放射線安全管理学会誌						森島貴顕 繁泉和彦 藤村重文 瀬戸初江 千田浩一	共著	国内

	英語	C	学術雑誌	有	いいえ		ライオンライン版	オンライン版	オンライン版		C	共著	国内
	日本語	線出力測定器による診断用 線装置の線量測定に関する基礎検討	大学紀要	有	いいえ	東北大学医学部保健学科紀要					小林亮太 千田浩一 稲葉洋平 芳賀喜裕	共著	なし
	日本語	平面検出器搭載型 線装置用 CファントムとCデータ管理ソフトウェアの開発	学術雑誌	有	いいえ	映像情報					芳賀喜裕, 千田浩一, 加賀勇治	共著	国内
	日本語	心血管撮影領域における患者被曝線量測定用装置の開発	学術雑誌	有	いいえ	日本放射線技術学会雑誌					加藤守 千田浩一	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ						C	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ						C	共著	国内
	日本語	多施設における 基準点線量縦断調査	学術雑誌	有	いいえ	臨床放射線					稲葉洋平 千田浩一 小林亮太	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ						C	共著	国内
	日本語	福島第 原子力発電所事故における一般住民に対する電話被ばく相談	大学紀要	有	いいえ	東北大学医学部保健学科紀要					八島幸子 千田浩一	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ						C	筆頭共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ		ライオンライン版	オンライン版	オンライン版		C C	共著	国内

著書(監修・編著・単著・共著)

監修		単著		筆頭共著		共著		合計		うち	国際	国内
編著												

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	日本語	放射線医療技術学叢書 防護と被ばく	線 教科書		千田浩一, 坂本肇, 水谷宏	共著	日本放射線技術学会	国内

学会発表

単名		筆頭連名		その他の連名		合計	
----	--	------	--	--------	--	----	--

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国内	第 回日本放射線技術学会秋季学術大会	単名	はい	札幌市		口頭(招待・特別)	実用量と防護量	千田浩一	なし
	国内	第 回日本放射線技術学会秋季学術大会	その他の連名	はい	札幌市		その他	温熱療法における効率的な加温技術の構築	高田健太, 千田浩一	国内
	国内	第 回日本放射線技術学会秋季学術大会	その他の連名	はい	札幌市		その他	心臓インターベンション時の皮膚入射線量実測による多施設線量評価—診断参考レベル作成のための検討—	加藤守, 千田浩一	国内
	国内	第 回日本放射線技術学会秋季学術大会	その他の連名	いいえ	札幌市		口頭(一般)	心血管造影時の線量測定方法の違いによる入射線量差の要因についての検討	加藤守, 千田浩一	国内
	国内	C	その他の連名	いいえ	横浜市		口頭(一般)		加藤守, 千田浩一	国内
	国内	C	その他の連名	いいえ	名古屋市		口頭(一般)	心血管造影及び心臓C 時の患者皮膚線量を用いた被曝管理の検討	加藤守, 千田浩一	国内
	国際		その他の連名	いいえ	C c		ポスター(一般)		C	国内
	国内	第70回日本放射線技術学会総会学術大会	その他の連名	いいえ	横浜市		口頭(一般)	多施設の心血管 装置における入射表面線量縦断調査	稲葉洋平, 千田浩一	国内
	国内	第 回日本放射線技術学会秋季学術大会	その他の連名	いいえ	札幌市		口頭(一般)	心血管 装置間における線量と画質の関係	稲葉洋平, 千田浩一	国内
	国内	第 回日本心血管インターベンション治療学会東北地方会	その他の連名	いいえ	盛岡市		口頭(一般)	心血管 装置間における画質を考慮したの初期検討	稲葉洋平, 千田浩一	国内
	国内	第 回東北放射線医療技術学術大会	その他の連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	装置用リアルタイム 温度計測システムの試作	永坂竜男, 千田浩一	国内
	国内	第 回東北放射線医療技術学術大会	その他の連名	いいえ	新潟市		口頭(一般)	マンモグラフィ領域における非接続形 線測定器の性能評価	千葉陽子, 斎政博, 千田浩一	国内

	国内	第 回新潟アンギオ画像研究 会	単名	はい	新潟市		口頭(招待・特別)	血管造影 における被ばくと画質	千田浩一	なし
--	----	--------------------	----	----	-----	--	-----------	--------------------	------	----

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計	1	件
----	---	---

	種別	国内 国外	発明の名称	発明者 (申請者)	出願番号 (特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	学外 連携
	特許	国内	電源システム及び医用 線システム	千田浩一	特願				単独の成果	なし
	特許	国内	線量計	千田浩一	特願		特開		学外共同の成果	国内

【教育活動】

教育活動の概要

14名の大学院生を直接指導している。東北大学大学院講義の放射線検査学特論(集中講義)にて、災害放射線に関する講義を毎年行っている。東北大学大学院講義の放射線検査学セミナー(集中講義)にて、災害放射線に関する講義を毎年行っている。千田は、大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同医学部保健学科を兼務し、多数の大学院講義や学部講義や学生実験などを担当している。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分1コマ
	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	15
	カレントトピックス	東北大学	全学		1	1セメ	1
	応用セミナーI	東北大学	医学系研究科				
	分野セミナー	東北大学	医学系研究科				
	分野特論	東北大学	医学系研究科				
	放射線計測学I	東北大学	医学部	保健学科		4セメ	15
	放射線計測学II	東北大学	医学部	保健学科		5セメ	15
	放射線基礎医学 物理	東北大学	医学部	保健学科		3セメ	3
	医用工学	東北大学	医学部	保健学科		7セメ	2
	放射線計測学実験I	東北大学	医学部	保健学科		5セメ	15
	放射線計測学実験II	東北大学	医学部	保健学科		6セメ	15
	医用工学実習	東北大学	医学部	保健学科		7セメ	2
	放射線機器工学I	東北大学	医学部	保健学科		4セメ	15
	放射線機器工学II	東北大学	医学部	保健学科		5セメ	15
	放射線機器工学実験I	東北大学	医学部	保健学科		5セメ	15
	放射線機器工学実験II	東北大学	医学部	保健学科		8セメ	15
	基礎セミナー	東北大学	医学系研究科				
	応用セミナー	東北大学	医学系研究科				
		東北大学	医学系研究科				
		東北大学	医学系研究科				
	C	東北大学	医学系研究科				
		東北大学	医学系研究科				
	C	東北大学	医学系研究科				
		東北大学	医学系研究科				
		東北大学	医学系研究科				
		東北大学	医学系研究科				
		東北大学	医学系研究科				
	放射線関係法規	東北大学	医学部	保健学科		6セメ	
	卒業研究	東北大学	医学部	保健学科		8セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)として、防災計画作成活動を行っている。
また放射線の正しい知識の普及のための講演活動等を行っている。さらに放射線等に対する正しい知識の普及などのための「パンフレット」の作成と改良を行った。

セミナー・講演・講義等

合計	1	件
----	---	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	放射線計測入門講座	講演			放射線の単位「防護量と実用量」	日本放射線技術学会	札幌市
	講演会・セミナー	第 回新潟アンギオ画像研究会	講演			血管造影 における被ばくと画質	新潟アンギオ画像研究会	新潟市

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)	仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)	委員	

稲葉 洋平 助手

Yohei INABA

災害医学研究部門 災害放射線医学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	医学部保健学科			東北大学大学院	医学系研究科保健学専攻			保健学博士		

職歷

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東北大学病院診療技術部放射線部門	診療放射線技師
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	助手

所属学会

日本放射線技術学会	日本放射線安全管理学会	日本磁気共鳴医学会	日本医学物理学会
-----------	-------------	-----------	----------

研究分野・キーワード

放射線科学	災害放射線
-------	-------

【研究活動】

研究活動の概要

原子力事故など、放射線が関与する事故や災害の発生時には、多くの市民の中から直ちに治療措置が必要な被曝者の選定が必要である。しかし、大量のスクリーニングが可能なバイドシメリー法(生物学的線量測定法)は存在しないのが現状である。そこで本研究では、電子スピン共鳴を利用し、血液サンプル中のフリーラジカルやラジカル消去能を総合的に定量することで、簡便に被曝をスクリーニングする今までにない新手法の開発を試みている。

研究課題

期間				研究課題(内容)	学外連携
開始年	月	終了年	月		
		現在		各種放射線線量計を用いた患者及び術者の線量測定に関する研究	国内
		現在		多施設心臓血管 における患者及び術者の被曝線量調査に関する研究	国内
		現在		血液中フリーラジカル定量による低線量被曝スクリーニング法の開発	国内
		現在		C ガイド下生検における術者被曝線量に関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際 査読有	国際 査読無	国内 査読有	国内 査読無
----	------	--------	----	----	-----------	-----------	-----------	-----------

記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行 年月日	著者氏名 (共著者含)	共著 区分	学外 連携
英語		学術雑誌	有	いいえ							C	筆頭共著	なし
日本語	多施設における 基準点線量縦断調査	学術雑誌	有	いいえ	臨床放射線						稲葉洋平、千田浩二、小林亮太	筆頭共著	国内
日本語	線出力測定器による診断用 線装置の線量測定に関する基礎研究	大学紀要	有	いいえ	東北大学医学部保健学会紀要						小林亮太、小田浩二、稲葉洋平、芳賀喜裕、加賀勇治、洞口正之	共著	なし

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者以下線)	学外 連携
国内	第70回日本放射線技術学会 総会学術大会	筆頭 連 名	いいえ	横浜		口頭(一般)	多施設の心血管 装置における入射表面線量縦 断調査	稲葉洋平、千田浩二、小林亮 太、加賀勇治、梁川功	国内
国内	第70回日本放射線技術学会 総会学術大会	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭(一般)	災害時診断用携帯型 線発生装置の試作	小林亮太、稲葉洋平、千田浩 二	国内
国内	東北大学災害科学国際研究 所 平成 年度特定プロジェク ト研究成果報告会	筆頭 連 名	いいえ	仙台		ポスター(一般)	血液中フリーラジカル定量による低線量被曝スク リーニング法の開発	稲葉洋平、千田浩二、盛武 敬、平山暁	国内
国内	第42回日本放射線技術学会 秋季学術大会	その他の 連名	いいえ	札幌		口頭(一般)	心血管 装置間における線量と画質の関係	稲葉洋平、千田浩二、小林亮 太、加賀勇治、梁川功	国内
国内	第42回日本放射線技術学会 秋季学術大会	その他の 連名	いいえ	札幌		口頭(一般)	太陽光発電システムを用いた災害時診断用携帯型 線発生装置の開発	小林亮太、稲葉洋平、千田浩 二	国内
国内	第42回日本放射線技術学会 秋季学術大会	その他の 連名	いいえ	札幌		口頭(一般)	新しい非接続形 線測定器の線量測定精度の基 礎検討	伊藤拓木、稲野理徳、三瓶 司、松田拓馬、小林亮太、稲 葉洋平、千田浩二	国内

	国内	第4回東北放射線医療技術学術大会	その他の連名	いいえ	新潟		口頭(一般)	血管造影 装置の空間散乱X線量の多施設比較	松田拓馬、三瓶司、稲野理徳、伊藤拓木、稲葉洋平、小林亮太、千田浩二	国内
	国内	第4回東北放射線医療技術学術大会	その他の連名	いいえ	新潟		口頭(一般)	新しい非接続形 線アナライザの性能評価(管電圧測定等に関する検討)	三瓶司、伊藤拓木、稲野理徳、松田拓馬、小林亮太、稲葉洋平、千田浩二	国内
	国内	第4回東北放射線医療技術学術大会	その他の連名	いいえ	新潟		口頭(一般)	新しい非接続形 線アナライザの性能評価第二報 撮影時間測定やその他の特性に関する検討	稲野理徳、伊藤拓木、三瓶司、松田拓馬、小林亮太、稲葉洋平、千田浩二	国内
	国内	第 回日本心血管インターベンション治療学会東北地方会	筆頭 連名	いいえ	盛岡		口頭(一般)	心血管 装置間における画質を考慮したの初期検討	稲葉洋平、千田浩二、小林亮太、加藤守	国内
	国際	C	その他の連名	いいえ			ポスター(一般)		C	国内

【教育活動】

教育活動の概要

東北大学医学部保健学科放射線技術科学専攻 年時に対する放射線に関する学生実験や 年時の放射線検査学領域における卒業研究に関わった。自分の診療放射線技師としての臨床経験から、主に学生たちには今後訪れる国家試験や臨床現場で必要となる知識・技術を提供した。

富田 博秋 教授

Hiroaki TOMITA

災害医学研究部門 災害精神医学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
岡山大学	医学部			岡山大学大学院	医学研究科			医学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
			4	岡山大学医学部神経精神医学教室	研修医 大学院生
				社会保険広島市民病院	研修医 大学院生
				岡山大学 医学部 神経精神医学教室	精神科医 大学院生
				医療法人 三十会 倉敷神経科病院	精神科医 大学院生
				医療法人 恵風会 高岡病院	精神科医 大学院生
				医療法人 恵風会 高岡病院	精神科医
				医療法人社団 英仁会 有明保養院 長崎大学 医学部 人類遺伝学教室	精神科医 博士研究員
				長崎大学 医学部 人類遺伝学教室	助手
				カリフォルニア大学アーバイン校 医学部 生理学講座	トラスデール研究員
				カリフォルニア大学アーバイン校 医学部 精神医学及び人間行動学講座	デラ・マーチン研究員
				カリフォルニア大学アーバイン校 医学部 精神医学及び人間行動学講座	助教授相当研究員
				東北大学 大学院医学系研究科 神経・感覚器病態学講座 精神・神経生物学分野	助教授
				東北大学 大学院医学系研究科 神経・感覚器病態学講座 精神・神経生物学分野	准教授
		現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害精神医学分野	教授

所属学会

日本精神神経学会	日本集団災害医学 会	日本精神神経薬理 学会	日本生物学的精神 医学会	日本統合失調症学 会	日本精神行動遺伝 医学会	日本人類遺伝学会	神経科学会(米国)	世界精神神経薬理 学会	世界精神科遺 伝学会
----------	---------------	----------------	-----------------	---------------	-----------------	----------	-----------	----------------	---------------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本精神神経学会	災害支援委員会	委員	
日本精神神経学会	精神神経学雑誌編集委員会	委員	
日本精神神経学会	C (C)編集委員会	委員	
日本生物学的精神医学会		評議員	
日本生物学的精神医学会	将来計画委員会	委員	
日本生物学的精神医学会	ブレインバンク委員会	委員	
日本精神神経薬理学会・		評議員	
日本統合失調症学会・評議員		評議員	
日本精神行動遺伝医学会・評議員		評議員	
日本人類遺伝学会・評議員		評議員	

研究分野・キーワード

災害精神医学	精神医学	分子遺伝学	疫学	ゲノム研究
--------	------	-------	----	-------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
医学部・医学研究科	厚生委員会	委員	
医学部・医学研究科	共通機器室管理委員会	委員	
東北メディカル・メガバンク機構	メンタルヘルスクエア推進室	室長	

【研究活動】

研究活動の概要

①東日本大震災発災以来、毎年継続している被災者健康調査、仮設住宅での茶話会、個別支援を継続して行い、災害後の中長期的精神面への影響の詳細な実態把握、回復の促進因子、阻害因子の解析を行った。②被災3県の精神科医療機関で災害が及ぼした影響とそこからの復興のプロセスを評価・分析した。③災害ストレス関連精神疾患の動物モデルを用いて病態形成関連候補分子の特定を行った。④東日本大震災後のメンタルヘルスクエア活動に関して各種団体へのアンケート調査を行った。⑤第 回国連防災世界会議に向け、専門家国際会議、市民フォーラム等を行い、議論・検討・情報発信を行った。
--

研究課題

	期間			研究課題(内容)	学外 連携
	開始年	月	終了年 月		
			現在	東日本大震災が被災住民の心身に及ぼす影響の実態解明	
			現在	東日本大震災が精神科医療機関に及ぼした影響の実態解明	
			現在	東日本大震災以降のメンタルヘルス支援活動に関する情報の集積と分析	
			現在	精神疾患病態への精神神経免疫学的現象の関与メカニズムの解明	
			現在	胎生期ストレス暴露が成長後の精神活動・行動に及ぼす影響の分子遺伝学的メカニズム解明	
			現在	精神疾患病態形成の分子遺伝学的メカニズム解明	
			現在	ゲノム多型が中枢神経の形態・機能に及ぼす影響の解明を通じた精神疾患エンドフェノタイプの特定	

論文

論文				うち		国際		国際		国内		国内		
単著	筆頭共著	その他の共著	合計	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	国内査読有	国内査読無	国内査読有	国内査読無	国内査読有	国内査読無	
	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	無	はい							_____	筆頭共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____C_____	筆頭共著	なし
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ							_____C_____	筆頭共著	国内
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ							_____C_____	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____	共著	なし
	日本語	自然災害の諸要因が高校生の心理状態に及ぼす影響の検討―東日本大震災から 年 カ月後の高校生実態調査―	学術雑誌	有	いいえ	精神神経学雑誌						船越俊一 大野高志 小高晃 奥山純子 本多奈美 井上貴雄 佐藤祐基 宮島真貴 富田博秋 傳田健三 松岡洋夫.	共著	国内

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
日本語	精神的サポート、糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニュアル	単行本		富田博秋、東海林 渉 共著)、日本糖尿病学会(監修)	共著	文光堂	国内
日本語	遺伝子—環境相関— に関する双生児研究と遺伝子研究—、ハンドブック—科学と実践。	訳書		富田博秋 単著)、金吉晴(監修)	共著	金剛出版	国外
日本語	災害精神医学	訳書		フレデリック・スタッガード、アナン・バーンディヤ、クレイグ・L・カット(編著)、富田博秋、高橋祥友、丹羽真一(監訳)	監修書	星和書店	国外

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著				筆頭共著		その他の共著		合計		うち									
										国際査読有		国際査読無		国内査読有		国内査読無			
記述言語		題目名(原語)		種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日		著者氏名(共著者含)		共著区分	学外連携		
日本語		災害精神医学に関する研究の課題、東日本大震災からの復興に向けて～災害精神医学・医療の課題と展望～。		学術雑誌	無	はい	精神神経学雑誌							富田博秋		単著	なし		
日本語		東日本大震災から4年目を控えて感じること。		学術雑誌	無	はい	精神医学							富田博秋		単著	なし		
日本語		東日本大震災後の災害精神医学の課題と展望		学術雑誌	無	はい	東北医学会雑誌							富田博秋		単著	なし		

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際	C	単名	はい			指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル			国外
	国際	C	単名	はい			指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル			国外
	国際		単名	はい			指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル			国外
	国際		その他の連名	いいえ	C		ポスター (一般)		C	国外
	国際		その他の連名	いいえ	C		ポスター (一般)			国外
	国際		その他の連名	いいえ	C		ポスター (一般)			国外
	国内	第 回日本トラウマティック・ストレス学会、シンポジウム「複雑性悲嘆の日本における実態と治療介入の実践」	単名	はい	福島市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	東日本大震災被災者にみられる喪失の影響、第 回日本トラウマティック・ストレス学会シンポジウム	富田博秋、	国内
	国内	第 回日本精神神経学会学術総会ワークショップ「災害時精神医療の経験と備え（災害支援委員会）」	単名	はい	横浜市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	災害精神医学 1	富田博秋、	国内
	国内	第 回日本自殺予防学会総会、シンポジウム「東日本大震災後の自殺対策を考えるー当事者の就労問題、支援者の労働環境も考えてー」	単名	はい	北九州市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	復興途上における被災者と支援者のメンタルヘルスと自殺予防ー宮城県の現状と課題ー	富田博秋、	国内
	国内	平成 年度包括脳ネットワーク冬のシンポジウム、新学術領域研究「精神神経疾患研究の現状と展望：新学術5領域の相互理解・連携を目指して」	単名	はい	東京都		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	精神神経免疫相関が関与する精神疾患病態のマイクロエンドフェノタイプの解明、	富田博秋、	国内
	国内	第 回日本集団災害医学学会・学術集会、シンポジウム『兵庫行動枠組み（ ）1から へ』、	単名	はい	立川市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	心理社会的影響という観点からの災害への備えーからみた東日本大震災の教訓ー、	富田博秋、	国内
	国内	第 回日本トラウマティック・ストレス学会	その他の連名	いいえ	福島市		ポスター (一般)	東日本大震災の被災者における心的外傷後ストレス反応ーメディア視聴との関連についての考察ー、	工藤古都美 庄子朋香 北田友子 賀澤篤 富田博秋、	国内
	国内	第 回日本神経科学大会	その他の連名	いいえ	横浜市		ポスター (一般)		C	国内
	国内	第 回日本神経科学大会	その他の連名	いいえ	横浜市		ポスター (一般)	μ		国内
	国内	第 回日本神経科学大会	その他の連名	いいえ	横浜市		ポスター (一般)			国内
	国内	第 回日本生物学的精神医学学会、第 回日本神経化学学会大会 合同大会	その他の連名	いいえ	奈良市		ポスター (一般)	アポリボロタン の健康青少年海馬の体積への影響、	國時 景子 橋本 照男 横田 晋務 橋爪 寛 井上 健太郎 竹内 光 関口 敦 荒井 啓行 富田 博秋 川島 龍太 瀧 靖之、	国内
	国内	第 回日本生物学的精神医学学会、第 回日本神経化学学会大会 合同大会	その他の連名	いいえ	奈良市		ポスター (一般)	早期社会的隔離ストレスにおけるアルコール摂取量変化へのμオピオイド受容体の関与	森屋由紀 笠原好之 曾良一郎 富田博秋	国内

	国内	第 一回日本生物学的精神医学学会、第 一回日本神経化学会大会 合同大会	その他の連名	いいえ	奈良市		ポスター（一般）	ドーパミントランスポーター欠損マウスの様行動における発達段階特異的な薬剤応答性	久保有美子 笠原好之 有銘 預世布 曾良一郎 富田博秋	国内
	国内	第 一回日本公衆衛生学会総会	その他の連名	いいえ	宇都宮市		ポスター（一般）	東日本大震災の被災地における慢性疾患治療と就労の関連：セキ浜健康増進プロジェクト。	中谷直樹、中村智洋、土屋 菜歩、辻一郎、實澤篤、富田博秋。	国内
	国内	第 一回日本公衆衛生学会総会	その他の連名	いいえ	宇都宮市		ポスター（一般）	東日本大震災における笑いの規定要因の検討と精神的な健康度の推測について：セキ浜健康増進プロジェクト。	中村智洋、中谷直樹、土屋 菜歩、辻一郎、實澤篤、富田博秋。	国内
	国内	C ・ 合同年会	その他の連名	いいえ	名古屋		ポスター（一般）	胎生期ストレスが「胎児のエピゲノム変化および「精神行動に及ぼす影響の特定	愈志前、舟山亮、植野和子、成相直樹、小島要、小野千晶、笠原好之、菊地淑恵、長崎正朗、中山啓子、富田博秋。	国内
	国内	平成 年度包括脳ネット ワーク冬のシンポジウム	その他の連名	いいえ	東京都		ポスター（一般）	C C C	C	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1 件
----	-----

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDEsの関与	学外連携
				開始年月	終了年月						
	国際	C				C	学会・シンポジウム	議長		共催	国外
	国内	脳神経科学コアセンター 新学術領域マイクロエンドフェノタイプ 加齢研 脳科学センター 災害精神医学分野	恐怖記憶制御基盤から見た心的外傷後ストレス障害(PTSD)のマイクロエンドフェノタイプ 喜田聡 東京農大)			東北大学スマートエ イジング棟1階国際会議室	学会・シンポジウム	運営担当		主催	国内
	国際						その他	運営担当		主催	国外
	国内	リソース・技術開発支援拠点	リソース・技術開発支援拠点「包括脳精神疾患拠点・神経疾患拠点合同死後脳研究チュートリアル」. 東京医科歯科大学			東急医科歯科大学	学会・シンポジウム	運営担当		共催	国内
	国内	東北大学「コンダクター型総合診療医」養成プログラム	病院職員対象せん妄マネージメント研修会			東北メディカル・メガバンク研究棟 階大会議室	その他	運営担当		共催	国内
	国内	東北大学「コンダクター型総合診療医」養成プログラム	在宅医療従事者対象せん妄マネージメント研修会			石巻地域包括支援センター	その他	運営担当		共催	国内
	国際	C	C			C C	学会・シンポジウム	運営担当		共催	国外
	国内	日本臨床精神神経薬理学会・日本神経精神薬理学会 合同年会	第 一回日本臨床精神神経薬理学会・第 一回日本神経精神薬理学会 合同年会			名古屋国際会議場	学会・シンポジウム	座長		なし	国内
	国内	厚生労働省科学研究費：松岡班	厚生労働省科学研究費：松岡班 第2回公開シンポジウム			ガーデンシティ 仙台	その他	座長		なし	国内

【教育活動】

教育活動の概要

大学院博士課程 年生 名を指導し、うち 名は日本学術振興会特別研究員として国際学会で 件、国内学会で 件の発表を行い、研究内容を誌に掲載し、博士課程修業年限短縮の制度を用いて修了した。もう 名も国際学会で 件、国内学会で 件の発表を行い、辛西優秀学生賞をはじめ つの賞を受賞した。他に社会人博士課程大学院生、修士課程保健学専攻、学生、ルース基金による留学生の受け入れを行っている。
--

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	災害の科学講義	東北大学	全学	全学	1	後期	1
	臨床薬理学講義	東北大学	医学部	医学科		後期	
	門戸開放	東北大学	医学部	医学科		後期	
	保健学科災害メンタルヘルス	東北大学	医学部	保健学科		通年	
	医学部高次修練	東北大学	医学部	医学科		前期	

【社会活動】

社会活動の概要

東日本大震災以来、被災地の自治体における健康調査と支援活動を継続して行うとともに、今後の災害時メンタルヘルス支援体制の整備や第3回国連防災世界会議に向けての、研究者間の会合、市民向けセミナーの開催を行った。また、被災地域の精神医療保健を支援するための活動や、精神疾患の病態解明研究体制整備や若手研究者育成のための取り組みを行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内		こころの防災市民フォーラム～第3回国連防災世界会議に向けて～			仙台市・メディアテーク	市民向け講演会・セミナー	運営担当		主催	

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	法人岡山県精神科医会・岡山県医師会精神科部会・岡山市医師会精神科医会 講演会	招待講演			災害精神医学と被災地発の次世代精神医療の未来図	法人岡山県精神科医会・岡山県医師会精神科部会・岡山市医師会精神科医会	岡山市・岡山衛生会館
	講演会・セミナー	第 回東北医学会総会 教授就任記念講演会	招待講演			東日本大震災後の災害精神医学の課題と展望	良陵同窓会	仙台市・良陵会館 記念ホール
	講演会・セミナー	死後脳バンク賛助会「つばめ会」・バンク賛助会「レインボー・ブリッジクラブ」合同総会	招待講演			米国のブレインバンクでの経験～ より良い精神医療に向けて ～	死後脳バンク賛助会「つばめ会」・バンク賛助会「レインボー・ブリッジクラブ」	福島市・福島県立医科大学 光が丘会館
	その他	平成 年度第1回障害者対策総合研究事業 被災地) 班会議	研究報告			精神科医療機関は災害に如何に備えるべきか	障害者対策総合研究事業 被災地) 班	東京都・フクラシア 東京ステーション
	講演会・セミナー	年度年輪の会講演会	招待講演			米国における精神疾患ブレインバンクと本邦の精神医療保健の向上に向けてバイオバンクが果たすべき役割	年輪の会	東京都・スクエア荏原(品川区立荏原平塚総合区民会館)
	講演会・セミナー		講演				東北大学	仙台市・東北大学 星陵キャンパス
	講演会・セミナー	C宮城セミナー「ベシック・コース」前夜祭・プレセミナー	招待講演			被災地域でのプライマリケア現場におけるメンタルヘルスについての留意点	坂総合病院	仙台市・ハーネル仙台
	講演会・セミナー	東北大学災害科学国際研究所平成 年度特定プロジェクト研究成果報告会	講演			災害関連精神疾患への支援体制整備のための基礎研究		仙台市・東北大学 片平キャンパス さくらホール
	講演会・セミナー	市民セミナー 年国連防災世界会議に向けて	講演			からみた東日本大震災の教訓～身体・こころの健康の問題～		仙台市・せんだいメディアテーク
	講演会・セミナー	新学術領域「マイクロ精神病態」班会議	研究報告			神経免疫相関が関与する疾患病態のマイクロエンドフェノタイプの解明	新学術領域「マイクロ精神病態」班	宮城蔵王ロイヤルホテル
	講演会・セミナー	坂総合病院物忘れ外来セミナー	講演			うつ病診療と	坂総合病院	坂総合病院
	講演会・セミナー	東北大学医学部オープンキャンパス模擬講義	講演			災害ストレスと心の健康	東北大学医学部	仙台市・東北大学 星陵キャンパス
	講演会・セミナー	第 回身体疾患と不安・抑うつ研究会	招待講演			災害ストレス・トラウマの心身への影響～如何に備え、対応するか～	身体疾患と不安・抑うつ研究会	東京都・ホテル椿山荘東京
	講演会・セミナー		講演					
	講演会・セミナー	坂総合病院物忘れ外来カンファレンス	講演			メンタルヘルスに関する講義	坂総合病院	坂総合病院
	講演会・セミナー	第 回 神経救急カンファレンス	講演			救急現場におけるメンタルヘルス評価・介入の課題と展望	神経救急カンファレンス	医学部臨床中講堂
	講演会・セミナー	七ヶ浜町仮設住宅茶話会「だん・だん」	講演			「七ヶ浜健康調査結果と回復のためのヒント」「上手な病院へのかかりかた」	七ヶ浜町	七ヶ浜町仮設住宅コミュニティースペース

	講演会・セミナー	七ヶ浜町仮設住宅茶話会「だん・だん」	講演			「七ヶ浜健康調査結果と回復のためのヒント」「上手な病院へのかかりかた」	七ヶ浜町	七ヶ浜町仮設住宅コミュニティースペース
	講演会・セミナー	女川交番の遺構保存に関するヒアリング	講演			災害ストレスと心の健康の観点から	東北大学東北メディカル・メガバンク機構3階小会議室	東北メディカル・メガバンク機構3階小会議室
	講演会・セミナー	坂総合病院物忘れ外来カンファレンス	講演			メンタルヘルスに関する講義	坂総合病院	坂総合病院
	講演会・セミナー	第 回 実践的 研修会	講演			を如何に日常精神医療に用いるか？	宮城県精神医療センター	宮城県精神医療センター小会議室
	講演会・セミナー	第 回神経化学の若手研究者育成セミナー	講演			ミクログリアと精神疾患	神経化学の若手研究者育成セミナー	奈良県文化会館、奈良県新公会堂
	講演会・セミナー	七ヶ浜町仮設住宅茶話会「だん・だん」	講演			「七ヶ浜健康調査結果と回復のためのヒント」「上手な病院へのかかりかた」	七ヶ浜町	七ヶ浜町仮設住宅コミュニティースペース
	講演会・セミナー	七ヶ浜町仮設住宅茶話会「だん・だん」	講演			「七ヶ浜健康調査結果と回復のためのヒント」「上手な病院へのかかりかた」	七ヶ浜町	七ヶ浜町仮設住宅コミュニティースペース
	講演会・セミナー	七ヶ浜町仮設住宅茶話会「だん・だん」	講演			「七ヶ浜健康調査結果と回復のためのヒント」「上手な病院へのかかりかた」	七ヶ浜町	七ヶ浜町仮設住宅コミュニティースペース
	講演会・セミナー	厚生労働省科学研究費：松岡班 第2回公開シンポジウム	研究報告			震災復興に係る他県他市町村派遣職員等のメンタルヘルス	厚生労働省科学研究費：松岡班	ガーデンシティ仙台
	講演会・セミナー		講演					C
	講演会・セミナー	坂総合病院物忘れ外来カンファレンス	講演			認知症に伴う抑うつ薬物療法	坂総合病院	坂総合病院
	講演会・セミナー	第 回 実践的 研修会	講演			アメリカ食品医薬品局()でリストされている精神科診療のバイオマーカー	宮城県精神医療センター	宮城県精神医療センター小会議室
	講演会・セミナー	第 回 金曜 フォーラム	講演			災害前・中・後のリスク・コミュニケーションとメディアー災害精神医学的観点からー		東北大学工学部総合研究棟 講義室()
	講演会・セミナー	第 回 実践的 研修会	講演			難治性・治療抵抗性統合失調症へのアプローチ	宮城県精神医療センター	宮城県精神医療センター小会議室
	講演会・セミナー	平成 年度第 回障害者対策総合研究事業 被災地) 班会議	研究報告			精神科医療機関の被災状況と被災地メンタルヘルス支援多様性の実態把握	障害者対策総合研究事業	トラストシティカンファレンス・丸の内
	講演会・セミナー	第 回 実践的 研修会	講演			難治性・治療抵抗性統合失調症へのアプローチ2	宮城県精神医療センター	宮城県精神医療センター小会議室
	講演会・セミナー		招待講演					
	講演会・セミナー	坂総合病院物忘れ外来セミナー	講演			認知症・高齢者への非薬理学的アプローチ	坂総合病院	坂総合病院
	講演会・セミナー	第 回 実践的 研修会	講演			救命救急センターのメンタルヘルス 統合失調症・双極性障害の予後と客観的病状評価	宮城県精神医療センター	宮城県精神医療センター小会議室
	講演会・セミナー	七ヶ浜町仮設住宅茶話会「だん・だん」	講演			「こころの健康に良いこと」	七ヶ浜町	七ヶ浜町仮設住宅コミュニティースペース
	講演会・セミナー	七ヶ浜町仮設住宅茶話会「だん・だん」	講演			「こころの健康に良いこと」	七ヶ浜町	七ヶ浜町仮設住宅コミュニティースペース
	講演会・セミナー	七ヶ浜町仮設住宅茶話会「だん・だん」	講演			「こころの健康に良いこと」	七ヶ浜町	七ヶ浜町仮設住宅コミュニティースペース
	講演会・セミナー	七ヶ浜町仮設住宅茶話会「だん・だん」	講演			「こころの健康に良いこと」	七ヶ浜町	七ヶ浜町仮設住宅コミュニティースペース
	講演会・セミナー	東日本大震災アーカイブ語りベシンポジウム「かたりつぎ」	基調講演			こころの健康と震災体験を語ること		多賀城市文化センター
	講演会・セミナー	東北大学東北メディカル・メガバンク機構コホート調査結果報告会	講演			こころの健康を守るために	東北大学東北メディカル・メガバンク機構	大崎市民センター
	講演会・セミナー	平成 年度 第1回 災害科学国際研究所倫理講習会	講演			災害科学国際研究所倫理講習会		災害研研究棟1階多目的ホール
	講演会・セミナー	第 回 実践的 研修会	講演			第 回国連防災世界会議とメンタルヘルス	宮城県精神医療センター	宮城県精神医療センター小会議室
	講演会・セミナー	平成 年度 第 回 災害科学国際研究所倫理講習会	講演			被災者の心理的侵襲に配慮した研究のあり方 倫理申請の進め方		災害研研究棟1階多目的ホール

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	みやぎ心のケアセンター		顧問	

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
		七ヶ浜町役場	国内	七ヶ浜町における震災ストレス調査と保健衛生の向上に向けた取り組みに関する協定	自治体	七ヶ浜町		

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	東京農業大学	喜田聡		講演	仙台市・星陵キャンパス	国内	講演者招聘	
	東京都健康長寿医療センター	村山繁雄		講演	東京都・東京医科歯科大学	国内	講演者招聘	
	福島県立医科大学	國井泰人		講演	東京都・東京医科歯科大学	国内	講演者招聘	
	名古屋大学	入谷 修司		講演	東京都・東京医科歯科大学	国内	講演者招聘	
	筑波大学	新井哲明		講演	東京都・東京医科歯科大学	国内	講演者招聘	
	香川大学	池田研二		講演	東京都・東京医科歯科大学	国内	講演者招聘	
	みやぎ心のケアセンター センター長	白澤 英勝		講演	仙台市・メディアテーク	国内	講演者招聘	
	岩手県こころのケアセン ター	大塚 耕太郎		講演	仙台市・メディアテーク	国内	講演者招聘	
	福島県立医科大学医学 部 災害こころの医学講座	藤井 千太		講演	仙台市・メディアテーク	国内	講演者招聘	
	一般社団法人からころス テーション	原 敬造		講演	仙台市・メディアテーク	国内	講演者招聘	
	筑波大学 災害精神支援 学講座	高橋 晶		講演	仙台市・メディアテーク	国内	講演者招聘	
	宮城県子ども総合セン ター	本間 博彰		講演	仙台市・メディアテーク	国内	講演者招聘	
	大正大学人間学部	鶴川 晃		講演	仙台市・メディアテーク	国内	講演者招聘	
	防衛医科大学校 精神科 学講座	重村 淳		講演	仙台市・メディアテーク	国内	講演者招聘	
	国立精神・神経医療研究 センター 成人精神保健 研究部	金 吉晴		講演	仙台市・メディアテーク	国内	講演者招聘	
	岡山大学病院精神神経 科	井上真一郎		講演	仙台市・東北大学星陵キャンパス	国内	講演者招聘	
	C	C		講演	仙台市・川内キャンパス	国内	講演者招聘	
	C			講演	仙台市・川内キャンパス	国内	講演者招聘	
	C	C		講演	仙台市・川内キャンパス	国内	講演者招聘	
	C			講演	仙台市・川内キャンパス	国内	講演者招聘	
	C			講演	仙台市・川内キャンパス	国内	講演者招聘	

俞 志前 助教

Zhiqian YU

災害医学研究部門 災害精神医学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
首都医科大学	歯学部			東北大学大学院	歯学研究科			歯科博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東北大学大学院 歯学研究科 口腔診断学分野	博士研究員
				東北大学 先進医工学研究機構	特任助教
				東北大学大学院 医学研究科 精神神経生物学分野	博士研究員
		現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害精神医学分野	助教

所属学会

日本免疫学会	統合失調症学会	日本神経精神薬理学会	日本神経科学学会	日本生物学的精神医学会	
--------	---------	------------	----------	-------------	--

研究分野・キーワード

精神神経免疫学

【研究活動】

研究活動の概要

心的外傷後ストレス障害（ ）は死に至るような事を体験することによって生じる精神障害である。恐怖記憶の消去不全が の病態モデルと考えられる。一方、ミクログリアは中枢神経系における免疫担当細胞であり、急性ストレス傷害に対する免疫応答に重要な役割を果たすことが示唆されている。活性化したミクログリアは炎症誘導性 フェノタイプと抗炎症性フェノタイプが存在し、 は神経細胞に毒性があり、 は神経組織の修復などを促す作用を持っている。申請者はマウス モデルを用い、恐怖記憶消去に伴う ミクログリア活性化の抑制および ミクログリアの活性化の増加が観察された。また、 ミクログリアの抑制剤であるミノサイクリンをマウスに投与することによって、恐怖記憶の消去を有意に誘導したことを見出し、恐怖記憶の消去に伴うミクログリアの分化における恐怖記憶への影響が明らかになった。
--

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
					免疫機構における血小板およびヒスタミンの役割	国内
					透析における毒素除去量測定方法およびサンプリング装置の開発	国内
					リチウムによる樹状細胞および「ミクログ」リアにおける遺伝子発現への影響	国内
			現在		免疫機能の活性化による災害ストレス関連精神疾患発症機構の研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
	英語	C C	学術雑誌	有	いいえ							—	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C — — — —	共著	国内
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ							— C — —	筆頭共著	国内

[illegible]

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	第 回リチウム研究会	筆頭 連 名	いいえ	東京		口頭(一般)	リチウムによる樹状細胞および“ミクロ”リアにおける遺伝子発現への影響	愈志前 小野千晶 相場節也 菊地淑恵 曽良一郎 松岡洋夫 富田博秋	国内
	国内	新学術領域「マイクロ精神病 態」班会議	筆頭 連 名	いいえ	仙台		ポスター(一般)		C _____ _____ _____	国内
	国際	第 回日本神経科学大会	筆頭 連 名	いいえ	横浜		ポスター(一般)		_____ C _____ _____ _____	国内
	国際		筆頭 連 名	いいえ	C		ポスター(一般)		_____ C _____ _____ _____	国内
	国内	第 回日本臨床精神神経薬 理学会 第 回日本神経精神 薬理学会	筆頭 連 名	いいえ	名古屋		ポスター(一般)	胎生期ストレスか“胎児のエピ”ゲノム変化およ び“精神行動に及ぼす影響の特定	_____ C _____ _____ _____	国内
	国内	包括脳チュートリアル	筆頭 連 名	いいえ	東京		ポスター(一般)	治療域濃度リチウムによる樹状細胞および“ミクロ” リアにおける遺伝子発現への影響	愈志前 小野千晶 相場節也 菊地淑恵 曽良一郎 松岡洋夫 富田博秋	国内
	国内	第 回統合失調症学会	筆頭 連 名	いいえ	東京		ポスター(一般)	胎生期免疫ストレスか“エピ”ゲノムを介して精 神行動に及ぼす影響の特定	愈志前 小野千晶 笠原好之 橋本謙二 富田博秋	国内

【教育活動】

【教育活動】 教育活動の概要

アメリカの	大学の	学科を卒業された	さんがアジア財団ルース奨学生／研究生として	年 月から半年程当分野に所属し、災害ストレスによる免疫機能の活性化に関連する研究を指導している。
-------	-----	----------	-----------------------	--

【社会活動】

社会活動の概要

新学術領域「マイクロ精神病態」班会議、包括脳チュートリアルおよび心の防災市民フォーラムの会場運営・企画・提案などまで携われた。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	東京農業大学・東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野	新学術領域「マイクロ精神病態」班会議			蔵王ホテル	学会・シンポジウム	運営担当		協力	
	国内	東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野	包括脳チュートリアル			東京医科歯科大学	学会・シンポジウム	運営担当		協力	
	国内	東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野	こころの防災市民フォーラム			せんだいメディアテーク	市民向け講演会・セミナー	会場セッティング		主催	

笠原 好之 助教

Yoshiyuki KASAHARA

災害医学研究部門 災害精神医学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	農学部			東北大学大学院	農学研究科			博士(農学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東北大学大学院 医学系研究科 医科学専攻 神経・感覚器病態学講座 精神・神経生物学分野	助手(C フェロー)
				東北大学大学院 医学系研究科 医科学専攻 神経・感覚器病態学講座 精神・神経生物学分野	助教(C フェロー)
				東北大学大学院 医学系研究科 医科学専攻 神経・感覚器病態学講座 精神・神経生物学分野	助教
		現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害精神医学分野	助教

所属学会

日本農芸化学会	日本生化学会	日本生理学会	日本神経内分泌学会	日本神経科学会	日本神経精神薬理学会	
---------	--------	--------	-----------	---------	------------	--

研究分野・キーワード

神経内分泌学	神経科学	分子生物学	精神生物学	災害精神医学
--------	------	-------	-------	--------

【研究活動】

研究活動の概要

大規模災害によるストレスはうつ病や不安障害、心的外傷後ストレス障害()などの神経精神疾患の引き金となり得る。ストレス時には内分泌応答が惹起されることからこの応答が精神神経疾患の発症について大きな役割を果たすと考え、その中でも特に神経内分泌ホルモンのオキシトシンに着目し研究を進めている。ストレスのうち、妊娠期に受けるストレスは母体のみならず胎児の将来の精神神経疾患に影響をおよぼすことが知られるため、妊娠期のストレスによって引き起こされるオキシトシン応答が、子の将来の精神神経疾患の脆弱性に繋がるのではないかと推察し、検証を進めた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		神経内分泌ホルモンオキシトシンのエネルギー恒常性維持機構に関する研究	国内
			現在		モノアミン機構の破綻が脳機能および精神疾患に果たす役割についての研究	国内
			現在		胎児期のストレスによるホルモン曝露が精神神経疾患に与える影響に関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国内
	英語	μ	学術雑誌	有	いいえ								共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国外

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	新学術領域「マイクロ精神病 態」班会議	筆頭 連 名	いいえ	宮城		ポスター(一般)	胎児期のオキシトシン曝露による社会行動・情動行 動への影響の検討	笠原好之 吉田彩夏 俞志前 小野千晶 富田博秋	国内
	国内	第 回鎮痛薬・オピオイドペプ チドシンポジウム	その他の 連名	いいえ	東京		ポスター(一般)	画像解析によるμオピオイド受容体欠損マウスの 大脳灰白質体積の変化	曽良一郎 佐々木一益 住吉 晃 野中博意 笠原好之 池田 和隆 渡辺雅彦 川島隆太	国内
	国際		筆頭 連 名	いいえ	C		ポスター(一般)			国外

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	東北大学脳神経科 学コアセンター	恐怖記憶制御基盤から見た心的外 傷後ストレス障害(PTSD)のマイク ロエンドフェノタイプ			加齢医学研究所 ス マートエイジング棟 国際会議室(宮 城県仙台市)	学会・シンポジウム	運営担当		共催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

医学系研究科博士課程 名、医学部保健学科学部生 名に研究指導を行った。マウスを用いての行動解析試験、生化学的および組織学的な解析の実験について指導を行い、当該学生の研究についてディス カッションを行いながら遂行した。また博士 名については学士審査のための論文執筆について指導をした。
--

【社会活動】

社会活動の概要

気仙沼分室ワーキンググループの一員として、気仙沼市における分室活動を共同で遂行するとともに、「防災文化講演会」を企画運営した。今年度は 回の防災文化講演会を主催し、そのうち 回について運営面 にて関わった。また、当研究分野が企画した国連防災世界会議のプレイベントである「こころの防災市民フォーラム」において運営に携わった。
--

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	東北大学災害科学 国際研究所、気仙 沼市	第 回防災文化講演会			気仙沼市・海 の市	市民向け講演会・セミ ナー	運営担当		主催	
	国内	東北大学災害科学 国際研究所、気仙 沼市	第 回防災文化講演会			気仙沼市・海 の市	市民向け講演会・セミ ナー	運営担当		主催	
	国内	東北大学災害科学 国際研究所	こころの防災市民フォーラムー第 回国連 防災会議に向けてー			仙台市・せん だいメディア テーク	市民向け講演会・セミ ナー	運営担当		主催	

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	神戸大学「先端医学ト ピックス」	招待講演			遺伝子改変動物モデルによる精神神経疾患研究	神戸大学	神戸市・神戸大学 大学院医学研究科

伊藤 潔 教授

Kiyoshi ITO

災害医学研究部門 災害産婦人科学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	医学部							医学博士		

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
					東北大学医学部産科婦人科	医員
					福島県郡山市太田綜合病院産婦人科	医員 研修医
					東北大学医学部産科婦人科	助手
					米国ジョージワシントン大学病理学教室	客員研究員
					米国ヴァージニア医科大学病理学教室	客員研究員
					東北大学産科婦人科	助手
					青森県八戸市立市民病院 産婦人科	医長
					青森県十和田市立中央病院 産婦人科	科長
					東北大学 産科婦人科	講師
					宮城県対がん協会細胞診センター所長(兼務 年 月まで)	所長(兼務)
					東北大学大学院医学系研究科(婦人科学分野)	助教授
					東北大学大学院医学系研究科(産科学分野)	准教授
			現在		東北大学災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害産婦人科学分野	教授

所属学会

C	C	C	C	日本産科婦人科学会	日本婦人科腫瘍学会	日本臨床細胞学会	日本癌学会	日本癌治療学会	日本内分泌学会
---	---	---	---	-----------	-----------	----------	-------	---------	---------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本産科婦人科学会		代議員	
日本婦人科腫瘍学会		評議員	
日本婦人科がん検診学会		理事	
日本臨床細胞学会		理事	
日本臨床細胞学会 東北支部連合会		理事	
日本臨床細胞学会 宮城県支部		副会長	
日本がん検診・診断学会		評議員	
ホルモンと癌研究会		理事	
日本婦人科腫瘍学会	ガイドライン作成委員会	小委員長	
日本産科婦人科学会	産婦人科診療ガイドライン作成委員会	委員	

研究分野・キーワード

災害産婦人科学	婦人科腫瘍学	婦人科内分泌学	がん疫学	婦人科病理学
---------	--------	---------	------	--------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
医学部	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン	コース責任者	
医学部	地域がん医療推進センター運営委員会	委員	
医学部	がんプロフェッショナル養成プラン運営専門委員会	委員	
医学部	施設整備委員会	委員	
医学部	予算委員会	委員	
医学部	男女共同参画委員会	副委員長	

【研究活動】

研究活動の概要

東日本大震災が宮城県での婦人科がん検診体制に及ぼした影響の解析 子宮がん検診受診者数は、被災地での受診率は低迷し、震災年度よりさらに減少した地域が見られた。この傾向が続けば、将来的に被災地の女性の健康状態へ影響する可能性が危惧され、HPV併用検診の導入によるアナウンス効果など喫緊の対策が必要であることを明らかにした。 2. 震災時ストレスとその後の生活環境変化が婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響の解析 婦人科悪性疾患のうち子宮体がんは近年、急激に増加している。環境因子や女性ホルモンが、がんの発症や増悪に関与するが、ストレスホルモンに関連する因子も、体ががん治療後の患者さんの再発や予後に関与し得る可能性を、初めて明らかにし、論文として公表した C。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		婦人科腫瘍におけるホルモン調節機構の研究	国外
			現在		婦人科がん検診の精度管理・受診率向上などに関する研究	国内
			現在		災害時およびそれ以降の婦人科がん検診の精度管理・受診率向上などに関する研究	国内
			現在		災害ストレスが婦人科腫瘍のホルモン調節機構に及ぼす影響に関する研究	国内

		現在	災害時の母子保健に関する研究	なし
		現在	災害後の産婦人科疾患発生の動向に関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行 年月日	著者氏名 (共著者含)	共著 区分	学外 連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C						――	共著	なし
	英語	C C	学術雑誌	有	いいえ	C						――	共著	なし
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ	C						――	共著	国内
	英語	α	学術雑誌	有	いいえ	C						C ――	共著	なし

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
----------	----	------	----	----	----	----	----

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
	日本語	著書名:子宮頸癌のトータルマネジメント 担当執筆題目: ○産婦人科実地医家における予防対策○異形成、子宮頸癌のインフォームドコンセント○検査と治療方針の理解	単行本		伊藤 潔	共著	メディカルレビュー社	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著 区分	学外 連携
	日本語	子宮体がん治療後の患者へのホルモン補充療法 施行に関するアンケート調査概要報告	学術雑誌	無	はい	第 回婦人科悪性腫瘍研究機構年次会議(総会)記録集						伊藤 潔	単著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	日本産科婦人科学会 第 回学会講演会	その他の連名	いいえ	東京		口頭(一般)	Cトランスポーターからみた子宮体部漿液性腺癌の薬剤獲得耐性メカニズム	鈴木史彦、永瀬智、佐藤いずみ、宇都宮裕貴、海法道子、徳永英樹、伊藤潔、新倉仁、高野忠夫、渡部洋、笹野公伸、八重樫伸生	なし

	国内	日本産科婦人科学会 第 回学術講演会	その他の 連名	いいえ	東京		口頭（一般）	子宮体部漿液性腺癌薬剤耐性株におけるマイクロ の網羅的発現解析および の発 現解析	佐藤いずみ、永瀬智、鈴木史 彦、永井智之、田中創太、海 法道子、徳永英樹、高野忠 夫、新倉仁、伊藤澪、渡部洋、 八重樫伸生	なし
	国内	第 回日本臨床細胞学会総 会（春期大会）	その他の 連名	はい	横浜		指名 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル	宮城県の子宮がん検診の将来像	田勢亨、伊藤澪、及川洋恵、 小澤信義、八重樫伸生	国内
	国内	第 回日本臨床細胞学会総 会（春期大会）	その他の 連名	いいえ	横浜		口頭（一般）	Cにおける子宮体がん推定の検討	渡辺康子、鈴木由香、板橋育 子、鈴木ひろ子、秀城浩司、 及川洋恵、伊藤澪、田勢亨	国内
	国内	第 回公益社団法人 日本 婦人科腫瘍学会学術講演会	その他の 連名	いいえ	宇都宮		口頭（一般）	当科におけるロボット支援腹腔鏡下子宮体癌手術 の検討	橋本千明、永井智之、徳永英 樹、海法道子、永瀬智、高野 忠夫、新倉仁、伊藤澪、渡部 洋、八重樫伸生	なし
	国内	第 回公益社団法人 日本 婦人科腫瘍学会学術講演会	その他の 連名	いいえ	宇都宮		口頭（一般）	安全な縮小手術を目指した子宮体癌リンパ節郭清 の検討	永井智之、新倉仁、海法道 子、徳永英樹、永瀬智、高野 忠夫、伊藤澪、渡部洋、八重 樫伸生	なし
	国内	第 回日本臨床細胞学会秋 期大会	筆頭 連 名	はい	下関		指名 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル	新時代の子宮頸がん検診の精度を検証する—細胞 採取法の変化と精度、そして注意点	伊藤澪、及川洋恵、田勢亨	国内
	国内	第 回日本婦人科がん検診 学会総会・学術集会	その他の 連名	はい	大阪		指名 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル	子宮頸がん検診の精度管理—受診率とプロセス指 標の向上を目指して— 宮城県における現状と展望	及川洋恵、田勢亨、藤原しの ぶ、渡辺康子、佐藤朋晴、小 澤信義、伊藤澪、八重樫伸生	国内
	国際	C	その他の 連名	いいえ	C		ポスター（一般）		—— ——	なし
	国際	C	その他の 連名	いいえ			ポスター（一般）	C	—— —— ——	なし
	国内	第 回ホルモンと癌研究会	その他の 連名	はい	仙台		公募 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル	子宮内膜癌におけるNUCB2の意義	高木清司、三木康宏、田中創 太、八重樫伸生、笹野公伸、 伊藤澪、鈴木貴	なし
	国内	第 回ホルモンと癌研究会	その他の 連名	はい	仙台		公募 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル	類内膜型の子宮内膜癌における腫瘍組織中 濃度に関連した αリダクターゼ1の意義	田中創太、三木康宏、橋本千 明、高木清司、鈴木貴、八重 樫伸生、伊藤澪	なし
	国内	第 回ホルモンと癌研究会	その他の 連名	はい	仙台		口頭（招待・特別）	ストレスホルモンと子宮内膜癌	三木康宏、高木清司、鈴木 貴、笹野公伸、伊藤澪	なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	ホルモンと癌研究会	第 回ホルモンと癌研究会			仙台市貝陵会館 （宮城県仙台市）	学会・シンポジウム	会長		共催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

医学部学生に対して産婦人科の講義を行うとともに、平成 年4月開始された東北がんプロフェッショナル推進養成プランの、婦人科コース責任者として活動しているが、いずれにおいても災害と産婦人科疾患あ
るいはがん検診との関連を講義に取り入れて教育活動を行っている。また、災害産婦人科に特化した授業として 年 月には後期全学科目：科目名：災害の科学（災害の発生と波及）題目：産婦人科医療・医学と
大震災 を講義している。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
	ライフステージの診断技術論「更・老年期の生理、更・老 年期の診断・技術」	医療法人社団スズキ病院付属助産 学校		助産科		後期	
	災害の科学（災害の発生と波及）題目：産婦人科医療・医 学と大震災	東北大学	全学			後期	
	チュートリアル	東北大学	医学部	医学系研究科		通年	
	腫瘍外科トレーニングコースI 女性特有の腫瘍の診断・ 治療の概要	東北大学	医学部	医学系研究科		通年	
	腫瘍外科トレーニングコース 女性特有の腫瘍の診断・ 治療の概要	東北大学	医学部	医学系研究科		通年	
	腫瘍外科トレーニングコース 婦人科腫瘍の診断・治 療・予防に関する知識と経験を積む	東北大学	医学部	医学系研究科		通年	
	腫瘍専門医コース 先進的婦人科腫瘍医	東北大学	医学部	医学系研究科		通年	
	腫瘍専門医コース 地域婦人科腫瘍医	東北大学	医学部	医学系研究科		通年	

	基本手技（細胞診・組織診採取法）	東北大学	医学部	医学系研究科	研修医	前期	
--	------------------	------	-----	--------	-----	----	--

【社会活動】

社会活動の概要

震災後の婦人科がんを中心としたがん検診事業を再構築すべく、宮城県や仙台市のがん検診対策委員会あるいは宮城県対がん協会を始めとした多くの委員会で役職を務め、積極的に活動した。また 年 月には国連防災世界会議パブリックフォーラム「震災時のがん医療」において、「東日本大震災が子宮がん検診に及ぼした影響と対策」と題した講演を行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国際	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン	国連防災世界会議パブリックフォーラム「震災時のがん医療」			仙台市・東北大学川内キャンパス	市民向け講演会・セミナー	運営団体の委員として参画		なし	講演も行った

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブリックフォーラム「震災時のがん医療」	招請講演			東日本大震災が子宮がん検診に及ぼした影響と対策	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン	仙台市・東北大学川内キャンパス

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	宮城県対がん協会		理事	
	宮城県対がん協会	婦人科検診診断委員会	委員長	
	宮城県医師会		予備代議員	
	宮城県医師会	子宮がん検診精度管理委員会	委員	
	宮城県医師会	細胞診検査精度管理委員会	委員	
	仙台市医師会	子宮がん検診委員会	委員	
	法人婦人科腫瘍関連支援機構		副理事長	
	日本産婦人科医会宮城県支部		理事	
	婦人科悪性腫瘍研究機構		理事	
	婦人科悪性腫瘍研究機構	子宮体がん委員会	委員	
	婦人科悪性腫瘍研究機構	教育委員会	副委員長	

三木 康宏 講師

Yasuhiro MIKI

災害医学研究部門 災害産婦人科学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
酪農学園大学	獣医			東北大学大学院	医学系研究科			博士(医学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				ボソリサーチセンター 第3研究部	研究員
				東北大学大学院 医学系研究科	助教
				東北大学大学院 歯学研究科	助教
		現在		東北大学病院	兼務
		現在		東北大学 薬学部	非常勤講師
		現在		仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション科	非常勤講師

所属学会

日本内分泌学会	日本ステロイドホルモ ン学会	日本癌学会	日本乳癌学会	日本病理学会	日本組織細胞化学 会	日本生殖内分泌学 会	科学技術社会論学 会	災害救助犬ネット ワーク	米国内分泌学 会
---------	-------------------	-------	--------	--------	---------------	---------------	---------------	-----------------	-------------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本ステロイドホルモン学会	評議員会	評議員	
日本内分泌学会	評議員会	評議員	

研究分野・キーワード

腫瘍学	内分泌学	毒性学
-----	------	-----

【研究活動】

研究活動の概要

震災とその後の環境変化によるストレスは、長期にわたって身体に影響をおよぼすと考えられる。生体はストレスを受けるとストレスホルモンを分泌し、生体の防御へと適応するが、過剰かつ長期に渡るストレスホルモンの暴露は全身臓器に悪影響をおよぼす。これまでにストレスホルモンであるコルチゾールが子宮組織に蓄積すること、癌の悪性度にもなってその濃度が増加することを明らかにした。さらにコルチゾールがタンパクを誘導し、を介して剤某増殖などに関わっていることを明らかにした。これらの結果はストレスホルモンの子宮への影響の経路に過ぎず、今後さらに多岐にわたる影響を一つ一つ明確にする必要があると考えている。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
					カニクイザルを用いた安全性試験及びその評価に関する研究と輸入検疫に関する感染症の研究	
			現在		ヒト組織および疾患(乳癌、肺癌)におけるステロイドホルモン合成・代謝に関する研究	
					骨組織における内分泌攪乱物質の影響に関する研究、骨粗鬆症とステロイドホルモンに関する研究	
			現在		口腔腫瘍における薬剤耐性に関する研究	
			現在		ストレスホルモンの婦人科疾患におよぼす影響に関する研究	
			現在		基礎研究者の研究モチベーションに対する震災の影響に関する研究	
			現在		災害とワーキング・ドッグに関する研究	

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C						_____	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ							_____	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C						_____	共著	国内

	英語		学術雑誌	有	いいえ	C								共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C								共著	国内
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ									共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								CC	共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ									共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C								共著	国内
	英語	C C	学術雑誌	有	いいえ	C								共著	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	肺癌における喫煙とエストロゲン	その他	無	はい	医学のあゆみ						三木康宏、笹野公伸	筆頭共著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際	C C — —	筆頭連名	いいえ	C		ポスター(一般)	C C C	— — —	国内
	国際	C C — —	その他の連名	いいえ	C		ポスター(一般)	C	— — —	国内
	国際	C C — —	その他の連名	いいえ	C		ポスター(一般)	C	— — —	国内

	国際	C C — —	— — —	その他の 連名	いいえ	C		ポスター(一般)	β C α C C	— C	国内
	国内	第 回ホルモンと癌研究会		筆頭 連 名	はい	仙台市		指名 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル	ストレスホルモンと癌:子宮内膜癌におけるコルチ ゾール代謝	三木康宏、高木清司、鈴木 貴、笹野公伸、伊藤 潔	国内
	国内	第 回ホルモンと癌研究会		その他の 連名	いいえ	仙台市		公募 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル	子宮内膜癌における C の発現意義	高木清司、三木康宏、田中創 太、八重樫伸生、笹野公伸、 伊藤 潔、鈴木 貴	国内
	国内	第 回ホルモンと癌研究会		その他の 連名	いいえ	仙台市		公募 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル	類内膜型の子宮内膜癌における腫瘍組織中 濃度に関連した α リダクターゼ の意義	田中創太、三木康宏、橋本千 明、高木清司、鈴木 貴、八重 樫伸生、伊藤 潔	国内
	国内	第 回日本癌学会学術総会		その他の 連名	いいえ	横浜市		ポスター(一般)		C —	国内
	国内	第 回日本癌学会学術総会		その他の 連名	いいえ	横浜市		ポスター(一般)	C	— — —	国内
	国内	第 回日本癌学会学術総会		その他の 連名	いいえ	横浜市		口頭(一般)		— —	国内
	国際			その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)		— —	国外
	国内	公益財団法人ひと・健康・未来 研究財団 第 回助成研究発 表会		単名	はい	京都市		その他	喫煙によるエストロゲン環境の攪乱に関する研究	三木康宏	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	ホルモンと癌研究会	第 回ホルモンと癌研究会			良陵会館(宮城県 仙台市)	学会・シンポジウム	事務局		後援	国内

【教育活動】

教育活動の概要

医学部保健学科卒業研究および医学科基礎修練の学生に対し、災害ストレスと婦人科疾患に関する研究を指導した。この研究を通して災害医学研究のあり方について、教授することができた。
--

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/1コマ
	病理学総論	東北大学	歯学部			セメ	
	病理学	東北大学	薬学部			セメ	
	病理学	仙台青葉学院短期大学		リハビリテーション学科		後期	
	理学療法演習Ⅱ・作業療法演習Ⅱ	仙台青葉学院短期大学		リハビリテーション学科		後期	

栗山 進一 教授

Shinichi KURIYAMA

災害医学研究部門 災害公衆衛生学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
大阪市立大学	医学部医学科							医学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				大阪市立大学医学部付属病院第3内科	医師
				大同生命保険相互会社	産業医(診査医長)
				東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	助手
				東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	講師
				東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	助教授
				東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	准教授
				東北大学大学院医学系研究科環境遺伝医学総合研究センター 分子疫学分野	教授
				現在	教授
				東北大学災害科学国際研究所災害公衆衛生学分野	教授

所属学会

日本疫学会	日本公衆衛生学会	日本小児神経学会	日本人類遺伝学会	日本乳癌検診学会
-------	----------	----------	----------	----------

学会・委員会等での役職

学会名		委員会名		役職名	役職開始年月日
日本疫学会		評議員会		委員	
日本乳癌検診学会		評議員会		委員	

研究分野・キーワード

生活習慣病の疫学	神経疾患の分子疫学研究	大規模災害と健康に関する疫学研究
----------	-------------	------------------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
東北メディカル・メガバンク機構	建物管理委員会	委員長	
医学部	環境遺伝医学総合研究センター運営委員会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

大規模災害が健康に与える中長期的影響を、大規模疫学調査の手法を用いて研究している。子どもの健康と環境に関する全国調査においては、妊娠中に東日本大震災を経験した妊婦から生まれた児の追跡調査を実施している。東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究及び地域子ども長期健康調査では、被災の経験のある幼児では、アトピー性皮膚炎や気管支喘息の有病率が高いことを見出した。さらに大規模災害が中長期的健康に与える影響に関する大規模疫学調査(三世代コホート調査)によって、震災後数年後の沿岸部と内陸部の健康状態を比較し、自治体等に健康向上に関する政策提言を行っている。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		生活習慣とがんに関する疫学研究	
			現在		自閉症とビタミン 反応性に関する分子疫学研究	
			現在		緑茶摂取と健康に関する前向きコホート研究(掛川スタディ)	
			現在		子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	
			現在		妊娠中の大規模災害罹災が児の健康に与える大規模疫学調査	
			現在		東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究(厚生労働科学研究費補助金)	
			現在		東日本大震災後の小中学生の健康に関する実態調査(東北メディカル・メガバンク計画・地域子ども長期健康調査)	
			現在		大規模災害が中長期的健康に与える影響に関する大規模疫学調査(東北メディカル・メガバンク計画・三世代コホート調査)	

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ	C							共著	国内

	英語		学術雑誌	有	いいえ							共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ							共著	国内

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	第 回日本小児科医会総合 フォーラム 岩手	その他の 連名	いいえ	盛岡市民文化 ホール(マリオ ス)		その他	東日本大震災の小児保健への影響に関する調査 研究	呉繁夫, 千田勝, 細矢光亮, 山縣然太郎, 栗山進一, 奥山 真紀子, 藤原武男, 増子博 文, 本間博彰, 八木淳子	国内
	国内	第 回日本医薬品情報学会 総会・学術大会	その他の 連名	いいえ	鹿児島県民交 流センター		口頭(一般)	乳癌検診の評価と	石田孝宣, 鈴木昭彦, 祖父江 友孝, 栗山進一, 山本精一 郎, 河合賢朗, 成川洋子, 鄭 迎芳, 福田護, 大内恵明	国内
	国内	第 回日本医薬品情報学会 総会・学術大会	その他の 連名	いいえ	鹿児島県民交 流センター		口頭(一般)	妊娠中の医薬品使用と児の先天奇形との関連:レセ プトデータに基づく検討	小原拓, 佐藤倫広, 西郡秀 和, 目時弘仁, 大久保孝義, 赤沢学, 八重樫伸生, 栗山進 一, 眞野成康	国内
	国内	第 回 研究会学術集 会	その他の 連名	いいえ	国立成育医療 研究センター		ポスター(一般)	レセプトデータに基づく妊娠中の医薬品使用と児の 先天奇形との関連に関する検討	小原拓, 西郡秀和, 目時弘 仁, 眞野成康, 八重樫伸生, 栗山進一	国内
	国内	第 回 研究会学術集 会	その他の 連名	いいえ	国立成育医療 研究センター		ポスター(一般)	東北メディカル・メガバンク事業 三代コホート調 査の進捗について	目時弘仁 石黒真美 小原拓 佐藤ゆき 菊谷昌浩 栗山進 一 寶澤篤 大隅典子 清元秀 泰 菅原進一 鈴木洋一 富永 憐二 布施昇男 峯岸直子 辻 一郎 呉繁夫 八重樫伸生 山 本雅之	国内
	国内	第 回 研究会学術集 会	その他の 連名	いいえ	国立成育医療 研究センター		ポスター(一般)	エコチル調査・宮城ユニットセンターにおける妊婦の 医薬品使用状況の評価ー宮城ユニットセンター薬 剤詳細調査よりー	西郡秀和, 小原拓, 目時弘 仁, 石黒真美, 水野聖土, 櫻 井香澄, 岩間憲之, 村井ユリ 子, 杉山隆, 菅原進一, 眞野 成康, 栗山進一, 八重樫伸生	国内
	国内	第 回日本成長学会学術集 会	その他の 連名	いいえ	日本赤十字北 海道看護大学		口頭(一般)	被災地域を中心とした全国保育所入所児童の身体 発育に関する検討	加藤則子 磯島豪 横谷進 田 中敏章 山縣然太郎 田中総 一郎 呉繁夫 松原博子 石黒 真美 菊谷昌浩 栗山進一	国内
	国内	第 回日本成長学会学術集 会	その他の 連名	いいえ	日本赤十字北 海道看護大学		口頭(一般)	東北 県における大震災前後の幼児の体格変化	田中敏章 磯島豪 横谷進 加 藤則子 山縣然太郎 田中総 一郎 呉繁夫 松原博子 石黒 真美 菊谷昌浩 栗山進一	国内
	国内	第 回日本成長学会学術集 会	その他の 連名	いいえ	日本赤十字北 海道看護大学		口頭(一般)	乳幼児期の スコアと肥満度の縦断的推移	磯島豪, 横谷進, 加藤則子, 田中敏章, 山縣然太郎, 田中 総一郎, 呉繁夫, 松原博子, 栗山進一	国内
	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		公募 シンポジウ ム・ワークショップ・ パネル		C	国内

	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		口頭(一般)	C		国内
	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		口頭(一般)	C C	C	国内
	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		口頭(一般)	C		国内
	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		口頭(一般)	C C		国内
	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		口頭(一般)	C C		国内
	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		口頭(一般)	C C		国内
	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		口頭(一般)	C C		国内
	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		口頭(一般)	C C		国内

	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		口頭(一般)			国内
	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		口頭(一般)			国内
	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		口頭(一般)		C	国内
	国内	第 回日本疫学会学術総会	その他の 連名	いいえ	ウインクあいち		口頭(一般)	C		国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C C C		国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1	件
----	---	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	宮城県公衆衛生学 会	第 回宮城県公衆衛生学会学術 総会			TKPガーデン シティ仙台勾当台 ホール2	学会・シンポジウム	学会長		なし	国内
	国内	宮城県公衆衛生協 会	平成 年度一般財団法人宮城県 公衆衛生協会研修会			TKPガーデン シティ仙台勾当台 ホール	行政との連携	運営担当		なし	国内

【教育活動】

教育活動の概要

教育活動については、医学部から医学系研究科まで、「体と健康」、「災害の科学」、「公衆衛生学」、「臨床推論・演習・医療統計」、「社会医学」、「疫学トレーニングⅠ」、「社会・環境医学」、「健康栄養 特別講義」などの講義を行い、大学院生2名の学位取得指導を行った。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/1コマ
	体と健康	東北大学	全学			セメ	
	災害の科学	東北大学	全学			セメ	
	公衆衛生学	東北大学	医学部	医学科		通年	
	臨床推論・演習・医療統計	東北大学	医学部	医学科		通年	
	社会医学	東北大学	大学院医学系研究科	医科学専攻修士課程		前期	
	疫学トレーニングⅠ	東北大学	大学院医学系研究科	医科学専攻博士課程(医学履修課程)		通年	
	社会・環境医学	東北大学	大学院医学系研究科	医科学専攻博士課程(医学履修課程)		通年	
	健康栄養 特別講義	仙台白百合女子大学	健康栄養学科				

【社会活動】

社会活動の概要

宮城県公衆衛生学会の学会長として、東日本大震災後の県民の健康状態の実態把握と健康向上施策の立案、および政策提言を行っている。厚生労働科学研究並びに東北メディカル・メガバンク計画等で得られた被災と健康に関する知見を、地域の皆様に説明会でお伝えし、メディアや講演会等を通じて幅広く情報発信している。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	東北大学東北メディカル・メガバンク機構(地域こども長期健康調査事業)	～震災後に増えた子どもの疾患とその対策～「宮城県小・中学生の健康アンケート調査」の結果より			岩沼市中央公民館	市民向け講演会・セミナー	運営担当		なし	
	国内	宮城県公衆衛生学会	第 回宮城県公衆衛生学会学術総会			TKPガーデンシティ仙台勾当台 ホール2	学会・シンポジウム	運営担当		なし	
	国内	宮城県公衆衛生協会	平成 年度一般財団法人宮城県公衆衛生協会研修会			TKPガーデンシティ仙台勾当台 ホール1	行政との連携	運営担当		なし	
	国内	東北大学東北メディカル・メガバンク機構	未来の医療の不思議～家族とゲノムがにぎる鍵～			東北メディカル・メガバンク棟	市民向け講演会・セミナー	特別講演講師		なし	

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	第 回元氣！健康！フェア どうほく	講演			増加懸念のアレルギー疾患～震災に打ち勝つ全人的地域医療～	東北大学・河北新報社・東北放送	仙台市・仙台国際センター
	講演会・セミナー	東北メディカル・メガバンク機構(地域こども長期健康調査事業)市民講演会	講演			震災後に増えた子どもの疾患とその対策～「宮城県小・中学生の健康アンケート調査」の結果より	東北大学東北メディカル・メガバンク機構	岩沼市・中央公民館
	講演会・セミナー	第 回富士通病院経営戦略フォーラム	基調講演			東北メディカル・メガバンク事業とその目指すもの～今の医療と未来の医療～	富士通株式会社	東京都・東京国際フォーラム
	講演会・セミナー	平成 年度宮城県栄養士設置市町村連絡協議会総会	講演			肥満と闘おう～明日の笑顔のために～	宮城県栄養士設置市町村連絡協議会	仙台市・仙台市戦災復興記念館
	講演会・セミナー	第 回白石市食生活改善推進委員会(ヘルスメイト白石)中央講習会	講演			肥満と闘おう～明日の笑顔のために～	白石市	白石市健康センター
	講演会・セミナー	東北メディカル・メガバンク()を考える市民フォーラム	講演			について	フォーラム実行委員会	仙台市・アエル 階ホール ・ 研修室
	講演会・セミナー	平成 年度 全国保健師教育機関協議会 夏期教員研修会	講演			保健活動において重要な疫学的視点と技術	一般社団法人全国保健師教育機関協議会	仙台市・フォレスト仙台
	公開講座	東北大学脳科学センター市民講座 脳・神経の病気の解明はどこまで進んでいるのか	講演			大規模疫学調査から見えてきた認知症予防法	東北大学重点戦略支援プログラム、東北大学包括的脳科学研究・教育推進センター	仙台市・東京エレクトロンホール宮城
	講演会・セミナー	がん講演会	講演			がんの危険を減らす確実な方法とあなたに最適ながん予防法	宮城県・仙台市・公益財団法人宮城県対がん協会	仙台市・仙台市シルバーセンター
	講演会・セミナー		ワークショップ				国際シンポジウム事務局	
	講演会・セミナー	第 回発達障害支援医学研修	講義			自閉症スペクトラムの感覚過敏の特徴と対応	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール	小平市・国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール
	講演会・セミナー	未来の医療の不思議～家族とゲノムがにぎる鍵～	特別講演			家族でつくる今と未来の健康	東北大学東北メディカル・メガバンク機構	仙台市・東北メディカル・メガバンク棟

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	公益財団法人 宮城県対がん協会	宮城県新生物レジストリー委員会	委員兼実務委員	
	独立行政法人国立成育医療研究センター	成育医療研究開発費評価部会委員会	委員	

中山 雅晴 教授

Masaharu NAKAYAMA

災害医学研究部門 災害医療情報学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	医学部			東北大学大学院	医科学系研究科			医学博士		

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
					岩手県立中央病院	研修医
					仙台国立病院（現:仙台医療センター） 循環器内科	医員
					東北大学病院 循環器内科	医員
					バスイスラエルディーコスメディカルセンター	ポストドクター
			現在		東北大学病院 循環器内科	医員
			現在		東北大学病院メディカルITセンター	助教・講師を経て副部長
			現在		東北大学災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害医療情報学分野	教授

所属学会

日本医療情報学会	日本バイオインフォマティクス学会	日本内科学会	日本循環器学会	日本心臓病学会		日本心不全学会	日本心血管インターベンション治療学会
----------	------------------	--------	---------	---------	--	---------	--------------------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
第 回日本医療情報学会春季学術大会	実行委員会	委員長	

研究分野・キーワード

災害医療情報	データベース	病院情報システム	標準化	循環器病態学
--------	--------	----------	-----	--------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
医学部	医療情報基盤統合センター運営委員会	委員	
医学部	情報基盤室	委員	
病院	災害対策委員会	委員	
病院	情報電子化委員会	委員	
病院	医療安全推進委員会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

1) 宮城県モバイルアセスメントシステム事業により、避難所のアセスメントをモバイル上で入力、管理ができるツールを開発した。
2) みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会に協力し、医療情報のバックアップおよびデータ活用について方向性を定めた。
3) 東北大学病院メディカル センターの電子カルテ責任者として、電子カルテ導入を完遂させ、システム更新も大過なく終了させた。
4) 心電図や心臓超音波などのレポート形式を日本循環器学会（C）標準フォーマットとして標準ストレージ形式（ ）拡張ストレージ用に定めた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		国立大学病院診療情報バックアップ事業	国内
			現在		センチネルプロジェクト(医療情報データベース基盤整備事業) 大学病院担当者として活用方法の検討	国内
			現在		みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会(実運用へ向けたシステム構築	国内
			現在		災害時情報システムの構築(プロトコルガイドラインの整備)	国内
			現在		標準ストレージ形式である 拡張ストレージの構造化・整備	国内
			現在		心電図情報のQRコード化のための研究	国内
			現在		電子カルテと機能充実	国内
			現在		患者プロフィールとしてのアレルギー情報の標準化	国内
			現在		モバイル端末を利用した被災状況、ニーズについて情報収集・アセスメントに関する研究	国内
			現在		全県型医療情報連携ネットワークを用いた農村・離島住民の健康管理サポートの実践に関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無						
	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C							筆頭共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C							共著	国内
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ	C							共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ								筆頭共著	なし

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計							
	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	第 回日本循環器学会学術集会	筆頭 連名	いいえ	東京		公募 シンポジウム・ワークショップ・パネル	循環器病データベース構築のための医療機器データ連携の有用性	中山雅晴、竹花一哉、小山武彦、大関毅	国内
	国内	第 回日本循環器学会学術集会	単名	いいえ	東京		口頭(一般)		_____	国内
	国内	日本遠隔医療学会	単名	はい	長崎		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	遠隔医療、施設間で共有すべき臨床情報のあり方	中山雅晴	国内
	国内	第 回日本不整脈学会学術大会・第 回日本心電学会学術集会合同学術大会	単名	はい	東京		口頭(招待・特別)	循環器データベース構築とその実務的課題	中山雅晴	国内
	国際		筆頭 連名	いいえ			ポスター(一般)		_____	国内
	国内	第 C 回	単名	いいえ	東京		ポスター(一般)		_____	国内
	国内	第 回医療情報学会連合大会	単名	はい	千葉		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	アレルギー情報の入力・出力様式の現状 全国アンケート調査の結果から	中山雅晴	国内
	国際		単名	いいえ	C		ポスター(一般)	C	_____	国内
	国内	平成 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議	筆頭 連名	いいえ	岐阜		ポスター(一般)	電子カルテ導入に伴う組織改善	中山雅晴、井上隆輔、橘美紀、後閑智春、菅原綾子、末永洋子、中谷純	なし

【教育活動】

教育活動の概要

本学においては、医学部3年生を対象にした『基礎修練』においてメディカル センターで1名を預かり、クリニカルパスを中心として指導を行った。また、毎年東北福祉大学において医療情報学を2時間講義している。

担当授業科目

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
医療情報学	東北福祉大学	健康科学部	医療経営管理学科		前期	

【社会活動】

社会活動の概要

医療情報についての講演を依頼され行った。また、行政との連携として、県と災害医療ACT研究所主催の災害医療コーディネート研修会へ講師として参加した。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	みやぎ医療連携の 会	第 回みやぎ医療連携の会			仙台市・ホテ ル シティー 仙台	企業との連携	記念講演		なし	
	国内	エーザイ株式会社	第 回仙台心臓血管研究会			仙台市・良陵 会館	企業との連携	特別講演の座 長		なし	
	国内	第一三共㈱東北支 店	第一三共㈱ 研修「医療情報につい て」			仙台市・第一 三共㈱東北支 店	企業との連携	研修の講 師		なし	
	国内	新潟県・災害医療A CT研究所	平成 年度新潟県災害医療コーディ ネート研修会			新潟・新潟県 庁	行政との連携	講師		なし	
	国内	大塚製薬㈱仙台支 店	第 回宮城心腎利尿研究会			モントレ仙台	企業との連携	講演		なし	
	国内	高知県・災害医療A CT研究所	平成 年度高知県災害医療コーディ ネート研修会			高知・高知共 済会館	行政との連携	講師		なし	
	国内	モリーオ㈱	循環器診断機器の標準化の勉強会			モリーオ㈱仙 台支社	企業との連携	講演		なし	
	国内	熊本県・災害医療A CT研究所	平成 年度熊本県災害医療コーディ ネート研修会			熊本・熊本赤 十字病院	行政との連携	講師		なし	
	国内	国連防災世界会議 パブリックフォーラム	巨大 災害に対する保健医療の備え			宮城・東北大 学川内北キャン パス	学会・シンポジウム	パネリスト		共催	

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	宮城県・日本総研・東北大学	宮城災害医療・救護情報化委員会	委員	

柴山 明寛 准教授

Akihiro SHIBAYAMA

情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東海大学	工学部	1999	3	工学院大学大学院	工学研究科	2006	3	博士(工学)	2006	3

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
2006	4	2007	3	東北大学大学院 工学研究科 附属災害制御研究センター	教育研究支援者
2007	4	2008	11	独立行政法人情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター 防災・減災基盤技術グループ	専攻研究員
2008	12	2012	3	東北大学大学院 工学研究科 附属災害制御研究センター	助教
2012	4	2012	5	東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野	助教
2012	6			東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野	准教授

所属学会

日本建築学会	日本地震工学会	自然災害学会
--------	---------	--------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
自然災害学会	編集委員会	委員	20100401

研究分野・キーワード

災害アーカイブ	災害情報	地震工学	地域防災	建築防災
---------	------	------	------	------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	災害対策推進室	副室長補	20130000
工学研究科建築学専攻	カリキュラム委員会		20140000
工学研究科建築学専攻	ネットワーク・ホームページ管理		20080000
工学研究科建築学専攻	入学試験実施本部		20140000
全学	国連防災世界会議デザインTF		20150000

【研究活動】

研究活動の概要

研究活動としては、東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」を中心的に実施した。また、昨年度に引き続き、多賀城市などの震災アーカイブの支援や他自治体や他機関の震災アーカイブ構築支援など势力的を行った。学術論文に関しては、単著1編、共著5編の執筆を行った。また、国際学会での基調講演を1件行った。科研費については、「津波浸水域の建物被災度判定の自動化に向けた被災度判定支援技術に関する研究」が採択され、研究を実施した。

論文

単著	1	筆頭共著		その他の共著	5	合計	6
----	---	------	--	--------	---	----	---

うち	国際査読有		国際査読無		国内査読有		国内査読無	6
----	-------	--	-------	--	-------	--	-------	---

	記述言語	論文題目名 (原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区分	学外連携
1	日本語	東日本大震災アーカイブ「みちのく震録伝」の展開	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演会		構造Ⅱ	67	68	20140912	柴山明寛	単著	なし
2	日本語	東北地方太平洋沖地震の悉皆調査に基づく仙台市の地震動と建物振動被害の検討	学術雑誌	無	いいえ	第14回日本地震工学シンポジウム			924	930	20141204	大野 晋・柴山明寛・濱岡恭太・吉村真悟	共著	なし
3	日本語	仙台市地域防災リーダーの養成プログラムの開発	学術雑誌	無	いいえ	第14回日本地震工学シンポジウム			1283	1292	20141204	佐藤 健・増田 聡・柴山明寛	共著	なし
4	日本語	東日本大震災記録のアーカイブの現状と課題<特集>震災アーカイブ	学術雑誌	無	いいえ	情報の科学と技術	64	9	338	342	20140901	今村文彦・柴山明寛・佐藤翔輔	共著	なし
5	日本語	東北地方太平洋沖地震の悉皆調査に基づく仙台市の地区別建物振動被害の分析	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演会		構造Ⅱ	207	208	20140912	大野 晋・柴山明寛	共著	なし
6	日本語	東日本大震災の振動被害悉皆調査のデータベース化と被害要因の検討	学術雑誌	無	いいえ	第33回日本自然災害学会学術講演会講演概要集			85	86		濱岡恭太・大野晋・柴山明寛・吉村真悟・佐藤健	共著	なし

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	1	単著		筆頭共著		共著		合計	1
----------	---	----	--	------	--	----	--	----	---

うち	国際		国内	1
----	----	--	----	---

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
1	日本語	あの時を忘れない震災の記憶：地域の絆づくり推進事業	その他	20150300	柴山明寛(監修)	監修書	仙台市七郷市民センター	国内

学会発表

単名	1	筆頭 連名		その他の 連名		合計	1
----	---	----------	--	------------	--	----	---

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
1	国際	ICADL 2014 – The International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries	単名	はい	Chiang Mai, Thailand	20141107	口頭(基調)	Digital Archive Project “Michinoku-Shinrokuden” of The 2011 Great East Japan Earthquake Disaster	Akihiro Shibayama	なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1 件
----	-----

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
1	国内	災害科学国際研究所	東日本大震災アーカイブシンポジウムー4年目の震災アーカイブの現状と今後の未来(世界)へ繋ぐためにー	20150111	20150111	災害科学国際研究所(宮城県仙台市)	学会・シンポジウム	運営担当	200	IRIDeS主催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

教育活動については、兼任である都市・建築学専攻の授業の実施や1年生を対象とした基礎ゼミを実施した。基礎ゼミでは、ハーバード大学と連携したJDArchiveのシステムを利用した授業などを行った。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/1コマ
1	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	3
2	災害危機管理論	東北大学	工学研究科	都市・建築専攻		前期	6

【社会活動】

社会活動の概要

社会活動としては、国連防災世界会議を多数のイベントの企画運営に関わり、自らも講演等を行った。また、震災アーカイブ関連の講演を自治体や市民向けに複数実施した。協定関係としては、ハーバード大学ライシャワー日本研究所とのMOUを結んだ。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	7 件
----	-----

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
1	国内	多賀城市	減災市民会議2015-減災都市に向けた歩み	20150319	20150319	多賀城市、市民活動サポートセンター	行政との連携	運営担当及び講演	100	IRIDeS後援	
2	国内	災害科学国際研究所	国連防災世界会議パブリックフォーラム 災害教訓の伝承～アーカイブとメモリアルの役割とは～	20150316	20150316	仙台市、東北大学川内北キャンパス	市民向け講演会・セミナー	運営担当	65	IRIDeS主催	
3	国内	東北大学災害復興 新生研究機構	国連防災世界会議 東北大学復興アクション展示「東北復興・日本新生の先導」を目指して	20150314	20150318	仙台市、東北大学川内萩ホール会議室	その他	企画運営担当	1,400	IRIDeS展示	
4	国内	仙台市	国連防災世界会議 復興パビリオン	20150314	20150318	仙台市、メディアアーク1階	その他	監修	10000	IRIDeS展示	
5	国内	災害科学国際研究所	語りベシンポジウム「かたりつぎ」	20150305	20150305	多賀城市文化センター(宮城県多賀城市)	その他	運営担当	1100	IRIDeS主催	
6	国内	東北大学災害科学 国際研究所・流体 科学研究所・日本アイ・ビー・エム	国連防災世界会議パブリックフォーラム「レジリエンスワークショップ」	20150316	20150316	仙台市、東北大学川内北キャンパス	市民向け講演会・セミナー	企画運営	100	IRIDeS主催	
7	国内	キャンノンマーケティングジャパン、東北大学、電通国際情報サービス	国連防災世界会議パブリックフォーラム 産学連携による最新のVirtual Reality技術を活用した震災3Dアーカイブと防災教育	20150314	20150314	仙台市、TKPガーデンシティ仙台(アエル内)ホールC	市民向け講演会・セミナー	企画運営	150	IRIDeS共催	

セミナー・講演・講義等

合計	6 件
----	-----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
1	講演会・セミナー	第5回DAN(Digital Archive Network)ワークショップ	招待講演	20140919	20140919	大学や自治体等の東日本大震災アーカイブの構築について	総務省、筑波大学知的コミュニティ基礎研究センター	岡山県立図書館
2	講演会・セミナー	第6回DAN(Digital Archive Network)ワークショップ	招待講演	20150220	20150220	大学や自治体等の東日本大震災アーカイブの構築について	総務省、筑波大学知的コミュニティ基礎研究センター	東北大学災害科学国際研究所棟2階演習室B
3	展示会	東北映像機器フェスティバル2014	招待依頼	20140604	20140605	東日本大震災アーカイブ「みちのく震録伝」	一般社団法人東北映像製作社協会	仙台市、仙台サンプラザホール

4	講演会・セミナー	《未来への伝言―七郷を語り継ぐ》第7回目荒浜・七郷地区の証言記録についての考察	招待講演	20141129	20141129	荒浜・七郷地区の証言記録についての考察	(公財)仙台ひとまち交流財団 仙台七郷市民センター	仙台市, 七郷市民センター
5	講演会・セミナー	《未来への伝言―七郷を語り継ぐ》第6回目荒浜・七郷地区の建物被害と津波による被災状況について	招待講演	20141025	20141025	荒浜・七郷地区の建物被害と津波による被災状況について	(公財)仙台ひとまち交流財団 仙台七郷市民センター	仙台市, 七郷市民センター
6	講演会・セミナー	産学連携による最新のVirtual Reality技術を活用した震災3Dアーカイブと防災教育	講演	20150315	20150315	「みちのく震録伝」震災データアーカイブの重要性と次世代教育システムへのMR活用	キャンノマーケティングジャパン、東北大学、電通国際情報サービス	仙台市, TKPガーデンシティ仙台(アエル内) ホールC

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20140517	ハーバード大学ライシャワー日本研究所・マサチューセッツ州	国外	国立大学法人東北大学災害科学国際研究所とハーバード大学ライシャワー日本研究所と部局間 学術協定の締結	研究機関	ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所	20140517	5

佐藤 翔輔 助教

Shosuke SATO

情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
長岡工業高等専門学校専攻科	環境都市工学専攻			京都大学大学院	情報学研究科			博士(情報学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				日本学術振興会(京都大学防災研究所巨大災害研究センター付)	特別研究員(C)
				東北大学 大学院工学研究科 附属災害制御研究センター	助教

所属学会

地域安全学会	日本自然災害学会	日本災害情報学会	土木学会	電子情報通信学会
--------	----------	----------	------	----------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
地域安全学会	社会に役立つ防災情報システム研究小委員会	委員	
電子情報通信学会	安全・安心な生活のための情報通信システム時限研究専門委員会	幹事補佐	

研究分野・キーワード

災害社会情報学	社会システム工学 安全システム	自然災害科学・防災学	復旧・復興工学
---------	-----------------	------------	---------

【研究活動】

研究活動の概要

）災害情報に関する研究として、災害アーカイブ（みちのく震録伝）やテキストデータを始めとするビッグデータを応用した災害対応支援システムに関する研究を行っている。）災害文化に関する研究として、災害の記憶の場、伝承知メディア（津波碑、地名等）が滅災に及ぼす効果に関する研究を行っている。）災害復興に関する研究として、東日本大震災における復興計画・復興事業に関する体系的な調査、被災者の生活再建に関する研究を行っている。）防災・滅災の啓発に関する研究として、「みんなの防災手帳」をはじめとした啓発ツールや社会システムの開発に関する研究を行っている。その他、実践的な津波避難訓練手法の開発も行っている。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
					震災時の生活支障と収容避難所需要に関する研究	国内
		現在			災害の言語資料の可視化・活用に関する研究	国内
		現在			災害アーカイブ学の構築(みちのく震録伝)の開発	国内
		現在			被災自治体の災害対応過程の解明	国内
		現在			マスメディアが災害対応に及ぼす影響に関する研究	国内
		現在			津波避難訓練手法の開発	国内
		現在			災害時の「生きる力」の解明	国内
		現在			復興計画・復興事業に関する研究、被災者の生活再建に関する研究	国内
		現在			防災・滅災啓発ツールの開発、ブランディング戦略	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	災害時の「生きる力」に関する探索的研究－東日本大震災の被災経験者の証言から－	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集						佐藤翔輔, 杉浦元亮, 野内類, 邑本俊亮, 阿部恒之, 本多明生, 岩崎雅宏, 今村文彦	筆頭共著	国内
	日本語	徒歩と自動車を組み合わせた津波避難計画の策定－宮城県亘理町での実践－	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 (海岸工学)						佐藤翔輔, 今井健太郎, 大野晋, 齋正幸, 板原大明, 松尾敏彦, 今村文彦	筆頭共著	国内
	英語	C	国際会議	有	いいえ	C C							筆頭共著	国内
	日本語	東日本大震災における「見える復興」を目指した復興広報活動に関する実態調査・分析－宮城県内の被災自治体を対象にして－	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文集						佐藤翔輔, 今村文彦	筆頭共著	なし

	英語		国際会議	有	いいえ	C												共著	国内
	英語	C C	国際会議	有	いいえ	C C												共著	国内
	日本語	乳幼児家庭を対象にした災害食ワークショップの設計・実装－仙台圏域の親子を対象にした実践とその特徴－	学術雑誌	有	いいえ	日本災害食学会誌											佐藤美嶺, 佐藤翔輔	共著	国内
	日本語	借上げ仮設住宅施策を事例とした被災者の住宅再建に関する研究－恒久住宅への円滑な以降を目的とした住環境の分析－	学術雑誌	有	いいえ	住総研研究論文集											重川希志依, 田中聡, 河本尋子, 佐藤翔輔	共著	国内
	日本語	佐藤翔輔:「災害を伝える」活動の最新動向－「災害かたりつぎ研究塾」の合宿活動をもとにして－	学術雑誌	有	はい	口承文芸研究											佐藤翔輔	単著	国内
	日本語	まちづくり協議会主導による被災後の地域防災力向上の取組み－宮城県石巻市中心市街地における事例－	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集											佐藤翔輔, 阿部紀代子, 尾形和昭, 中川政治, 大塚友子, 阪本真由美, 山崎麻里子, 渡邊敬逸	筆頭共著	国内
	日本語	東日本大震災における被災者の生活再建の現状－名取市被災者生活再建ワークショップをもとに－	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集											松川杏奈, 松本亜沙香, 水田恵三, 柄谷友香, 佐藤翔輔, 河本尋子, 田中聡, 重川希志依, 立木茂雄	共著	国内
	日本語	津波常襲地における防災に関する教訓継承の取り組み－岩手県大船渡市綾里地区の事例－	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集											池田浩敬, 饗庭伸, 木村周平, 佐藤翔輔, 馬場拓夫, 原木典子, 上岡洋平, 白井くるみ, 藤谷幹, 大橋由美, 山本裕文, 河野正治, 辻本佑生, 岡田朋子	共著	国内
	日本語	石巻市中心市街地における「防災行政無線の間こえ方」調査	学術雑誌	無	いいえ	安全・安心な生活のための情報通信システム研究会講演論文集											佐藤翔輔, 中川政治, 岩崎雅弘	筆頭共著	国内
	日本語	乳幼児家庭を対象にした災害食ワークショップの設計・実装－仙台圏域の親子を対象にした実践とその特徴－	学術雑誌	無	いいえ	日本災害食学会第 回研究発表会講演集											佐藤美嶺, 佐藤翔輔	共著	国内
	日本語	東日本大震災復興交付金事業に関する分析－発災から 年間に岩手県・宮城県の沿岸市町村に適用された事業について－	学術雑誌	無	いいえ	津波工学研究報告											佐藤翔輔, 坪田亜由子, 今村文彦	筆頭共著	なし
	日本語	わが国における災害伝承に関する量的分析の試み	学術雑誌	無	いいえ	日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集											佐藤翔輔, 今村文彦, 川島秀二, 今井健太郎, 首藤伸夫	筆頭共著	なし
	日本語	中小規模の災害対応プロジェクトに対する活動過程の体系的な記録手法の開発－七ヶ浜町ボランティアセンターの活動を事例として－	学術雑誌	無	いいえ	日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集											永村美奈, 佐藤翔輔, 今村文彦	共著	国内
	日本語	名取市における「被災者見守り活動」の実態に関する一次的分析	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集											佐藤翔輔, 立木茂雄, 重川希志依, 田中聡	筆頭共著	国内
	日本語	日本災害復興学会・若手人材交流会の実施報告－実務者と研究者のネットワーク構築をねらいにして－	学術雑誌	無	いいえ	日本災害復興学会年長圓大会講演論文集											佐藤翔輔, 石塚直樹, 杉安和也, 永松伸吾	筆頭共著	国内
	日本語	震災アーカイブコンテンツの英語化と震災学習の両立をねらいにしたワークショップ手法の設計と試行	学術雑誌	無	いいえ	日本災害情報学会第 回研究発表大会予稿集											佐藤翔輔, 櫻井敬佑, 日置友智, C , 柴山明寛, 今村文彦	筆頭共著	国内
	日本語	被災地の震災伝承における 技術活用の取り組み－石巻市における「防災まちあるき」実践事例－	学術雑誌	無	いいえ	日本災害情報学会第 回研究発表大会予稿集											中川政治, 尾形和昭, 宇田川真之, 阪本真由美, 佐藤翔輔	共著	国内

	日本語	災害時における子どもの「生きる力」に関する一考察－東日本大震災を経験した宮城県立多賀城高校生徒を対象にしたワークショップ調査から－	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集						佐藤翔輔, 小野敬弘, 岡田正己, 小林由夏, 今村文彦	筆頭共著	国内
	日本語	岩手・宮城・福島における津波由来地名の整理・分類－刊行書籍を対象にして－	その他	無	いいえ	第 回巨大津波災害に関する合同研究会講演集						鹿島七洋, 佐藤翔輔, 今村文彦	共著	なし
	日本語	互理町における全町一斉学校避難訓練の試みとその考察	その他	無	いいえ	第 回巨大津波災害に関する合同研究会講演集						佐藤翔輔	単著	なし
	日本語	東日本大震災の発生から 年間の被災者の心情－宮城県の被災者を対象にした東北大・河北新報合同継続調査から－	学術雑誌	無	いいえ	平成 年度東北地域災害科学研究集会						佐藤翔輔, 今村文彦	筆頭共著	なし
	日本語	震災復興における無形民俗文化財データベースの役割	その他	無	いいえ	東北大学第4期研究所連携プロジェクト平成年度成果報告会『ヒューマンサイエンス&テクノロジー』						高倉浩樹, 及川高, 佐藤翔輔	共著	なし
	日本語	東日本大震災における津波伝承知の減災効果	学術雑誌	無	いいえ	平成 年度土木学会東北支部技術研究発表会			IV			鹿島七洋, 佐藤翔輔, 今村文彦	共著	なし

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭 共著	共著	合計	うち	国際	国内
----------	----	----------	----	----	----	----	----

	記述 言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
	日本語	災害フィールドワーク論』(「 C 百万人のフィールドワーカー」シリーズ第 巻) 担当執筆題目: 超広域災害に立ち向かうー東日本大震災での住民参加・組織型フィールドワークの試みー	単行本		柄谷友香, , 澤田雅浩, 木村周平, 林能成, 佐藤翔輔, 田中聡, 大矢根淳, 杉戸信彦, 嶋野岳人, 齋庭伸, 山本博之	共著	古今書院	国内
	日本語	料理店の震災談義～被災体験から災害対応を考え直す～	その他		石巻芽生会, コンパクトシティのまき・街なか・創生協議会	監修書	ー	国内
	日本語	ともに前へ！ 東日本大震災 七ヶ浜町ボランティアセンター 活動の記録	その他	5	社会福祉法人 七ヶ浜町社会福祉協議会	監修書	ー	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の 共著	合計	うち	国際 査読有	国際 査読無	国内 査読有	国内 査読無
----	------	------------	----	----	-----------	-----------	-----------	-----------

	記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	共著区 分	学外 連携
	日本語	東日本大震災記録のアーカイブの現状と課題	その他	有	はい	情報の科学と技術「震災アーカイブ」特集						今村文彦, 柴山明寛, 佐藤翔輔	共著	なし

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	第 回(年度)地域安全学会研究発表会(春季)	筆頭 連 名	いいえ	神戸		口頭(一般)	まちづくり協議会主導による被災後の地域防災力向上の取組みー宮城県石巻市中心市街地における事例ー	佐藤翔輔, 阿部紀代子, 尾形和昭, 中川政治, 大塚友子, 阪本真由美, 山崎麻里子, 渡邊敬逸	国内
	国内	第 回日本口承文芸学会大会	単名	はい	仙台		口頭(基調)	「災害の経験を伝える」活動の最新動向ー災害かたりつき研究塾の宿泊活動からー	佐藤翔輔	なし
	国内	電子情報通信学会・第 回安全・安心な生活のための情報通信システム研究会	筆頭 連 名	いいえ	仙台		口頭(一般)	石巻市中心市街地における「防災行政無線の聞こえ方」調査	佐藤翔輔, 中川政治, 岩崎雅弘	国内
	国内	第 回日本自然災害学会年次学術講演会	筆頭 連 名	いいえ	鹿児島		口頭(一般)	わが国における災害伝承に関する量的分析の試み	佐藤翔輔, 今村文彦, 川島秀二, 今井健太郎, 首藤伸夫	なし
	国際	C	筆頭 連 名	いいえ			ポスター(一般)	C		国内
	国内	東日本大震災特別委員会ワークショップ 宮古	筆頭 連 名	いいえ	宮古		口頭(一般)	名取市における「被災者見守り活動」の実態に関する一次的分析	佐藤翔輔, 立木茂雄, 重川希志依, 田中聡	国内
	国内	日本災害情報学会 第 回学会大会(日本災害情報学会・日本災害復興学会合同大会長岡)	筆頭 連 名	いいえ	長岡		口頭(一般)	震災アーカイブコンテンツの英語化と震災学習の両立をねらいにしたワークショップ手法の設計と試行	佐藤翔輔, , 櫻井敬佑, 日置友智, C , 柴山明寛, 今村文彦	国内
	国内	日本災害復興学会 年度長岡大会(日本災害情報学会・日本災害復興学会合同大会長岡)	筆頭 連 名	いいえ	長岡		口頭(一般)	若手人材交流会の実施報告ー実務者と研究者のネットワーク構築をねらいにしてー	佐藤翔輔, 石塚直樹, 杉安和也, 永松伸吾	国内
	国内	第 回(14年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	筆頭 連 名	いいえ	静岡		口頭(一般)	東日本大震災における「見える復興」を目指した復興広報活動に関する実態調査・分析ー宮城県内の被災自治体を対象にしてー	佐藤翔輔, 今村文彦	国内

	国内	第 回海岸工学講演会	筆頭 連名	いいえ	名古屋		口頭(一般)	徒歩と自動車を組み合わせた津波避難計画の策定ー宮城県亘理町での実践ー	佐藤翔輔, 今井健太郎, 大野晋, 齋正幸, 板原大明, 松尾敏彦, 今村文彦	国内
	国内	第 回巨大津波災害に関する合同研究会	単名	いいえ	仙台		口頭(一般)	亘理町における全町一斉学校避難訓練の試みとその考察	佐藤翔輔	なし
	国内	平成 年度東北地域災害科学研究会	筆頭 連名	いいえ	山形		口頭(一般)	東日本大震災の発生から 年間の被災者の心情ー宮城県の被災者を対象にした東北大・河北新報合同継続調査からー	佐藤翔輔, 今村文彦	なし
	国内	第 回(年度)地域安全学会研究発表会(春季)	その他の連名	いいえ	神戸		口頭(一般)	津波常襲地における防災に関する教訓継承の取り組みー岩手県大船渡市綾里地区の事例ー	池田浩敬, 饗庭伸, 木村周平, 佐藤翔輔, 馬場拓夫, 原木典子, 上岡洋平, 白井くるみ, 藤谷幹, 大橋由美, 山本裕文, 河野正治, 辻本侑生, 岡田朋子	国内
	国内	第 回(年度)地域安全学会研究発表会(春季)	その他の連名	いいえ	神戸		口頭(一般)	東日本大震災における被災者の生活再建の現状ー一名取市被災者生活再建ワークショップをもとにー	松川杏奈, 松本亜沙香, 水田恵三, 柄谷友香, 佐藤翔輔, 河本尋子, 田中聡, 重川希志依, 立木茂雄	国内
	国内	日本災害食学会第 回研究発表会	その他の連名	いいえ	東京		口頭(一般)	乳幼児家庭を対象にした災害食ワークショップの設計・実装ー仙台圏域の親子を対象にした実践とその特徴ー	佐藤美嶺, 佐藤翔輔	国内
	国際	C	その他の連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国内	第 回日本自然災害学会年次学術講演会	その他の連名	いいえ	鹿児島		口頭(一般)	中小規模の災害対応プロジェクトに対する活動過程の体系的な記録手法の開発ー七ヶ浜町ボランティアセンターの活動を事例としてー	永村美奈, 佐藤翔輔, 今村文彦	国内
	国際	C C	その他の連名	いいえ			ポスター(一般)	C		国内
	国内	日本災害情報学会 第 回学会大会(日本災害情報学会・日本災害復興学会合同大会(長岡))	その他の連名	いいえ	長岡		口頭(一般)	被災地の震災伝承における 技術活用への取り組みー石巻市における「防災まちあるき」実践事例ー	中川政治, 尾形和昭, 宇田川真之, 阪本真由美, 佐藤翔輔, 山崎麻里子	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRiDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	電子情報通信学会	電子情報通信学会・第 回安全・安心な生活のための情報通信システム研究会			東北大学(宮城県仙台市)	学会・シンポジウム	幹事		後援	国内
	国内	「生きる力」市民運動化プロジェクト(東北大学災害科学国際研究所ほか)	被災訓練プログラム「C ～あなたの 生きる力 を高めよう!～」			勾当台公園(宮城県仙台市)	その他	幹事		共催	国内
	国内	時間テレビ, 「生きる力」市民運動化プロジェクト(東北大学災害科学国際研究所ほか)	時間テレビ「みんなの防災手帳」 使い方講座 釜石			釜石・大槌地域産業育成センター(岩手県釜石市)	市民向け講演会・セミナー	運営担当, 講師		共催	国内
	国内	時間テレビ, 「生きる力」市民運動化プロジェクト(東北大学災害科学国際研究所ほか)	時間テレビ「みんなの防災手帳」 使い方講座 宮古			宮古市文化会館(岩手県宮古市)	市民向け講演会・セミナー	運営担当, 講師		共催	国内
	国内	時間テレビ, 「生きる力」市民運動化プロジェクト(東北大学災害科学国際研究所ほか)	時間テレビ「みんなの防災手帳」 使い方講座 久慈			久慈市防災センター(岩手県久慈市)	市民向け講演会・セミナー	運営担当, 講師		共催	国内
	国際	「生きる力」市民運動化プロジェクト(東北大学災害科学国際研究所ほか)	第 回国連防災世界会議パブリックフォーラム: 「生きる力」市民運動化プロジェクト推進のためのシンポジウム			東北大学(宮城県仙台市)	学会・シンポジウム	幹事, 司会, 報告		共催	国内
	国内	高鍋町, 東北大学災害科学国際研究所, 宮崎放送局	「みんなの防災手帳」使い方講座 高鍋			高鍋町立高鍋西小学校(宮崎県高鍋町)	市民向け講演会・セミナー	講師, ファシリテーター		共催	国内
	国内	高鍋町, 東北大学災害科学国際研究所, 宮崎放送局	「みんなの防災家族会議」			高鍋町立高鍋西小学校(宮崎県高鍋町)	小中高との連携	講師, ファシリテーター		共催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

工学研究科土木工学専攻(工学部建築・社会環境工学科)の専任教員として、津波工学研究室の学部 年生 名の卒業論文の研究指導教員をつとめた(卒業論文のタイトル:東日本大震災における津波伝承メ
ディアの減災効果―地名と津波碑を対象として―)。また、他大学の卒業論文について指導を求められ、 件について研究助言を行った(卒業論文のタイトル:震災報道がボランティア人数に与えた影響に関する
分析、災害ミュージアムにおける展示方法に関する研究 ※いずれも関西大学社会安全学部)。

【社会活動】

社会活動の概要

石巻市、東松島市、亘理町、名取市で地域防災計画に関するアドバイザーや委員等をつとめている。地域安全学会と電子情報通信学会にて、安全・安心領域に関する学際的な情報研究に関する委員会の委員
をつとめている。東北大学災害科学国際研究所の社会連携プロジェクトとして行っている『『生きる力』市民運動化プロジェクト』に関連するシンポジウムや講座を主催するとともに、災害伝承にも関するイベントにも
数多く参加した。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	1	件
----	---	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	日本地震工学会	第 回「震災対策技術展」宮城、セミ ナー:「次の津波からどう逃げるか ～渋 滞リスクを減らす作戦を考える～」			ビル(宮 城県仙台市)	市民向け講演会・セミ ナー	司会		なし	
	国内	「生きる力」市民運 動化プロジェクト(東 北大学災害科学国際 研究所ほか)	被災訓練プログラム「 C ～ あなたの 生きる力 を高めよう!～」			勾当台公園 (宮城県仙台 市)	その他	幹事		共催	宿泊型ワーク ショップ、屋外 イベント
	国内	時間テレビ、「生 きる力」市民運動化 プロジェクト(東北 大学災害科学国際研 究所ほか)	時間テレビ「みんなの防災手帳」使い 方講座 釜石			釜石・大槌地 域産業育成セ ンター(岩手県 釜石市)	市民向け講演会・セミ ナー	運営担当、講 師		共催	
	国内	時間テレビ、「生 きる力」市民運動化 プロジェクト(東北 大学災害科学国際研 究所ほか)	時間テレビ「みんなの防災手帳」使い 方講座 宮古			宮古市文化会 館(岩手県宮 古市)	市民向け講演会・セミ ナー	運営担当、講 師		共催	
	国内	時間テレビ、「生 きる力」市民運動化 プロジェクト(東北 大学災害科学国際研 究所ほか)	時間テレビ「みんなの防災手帳」使い 方講座 久慈			久慈市防災セ ンター(岩手県 久慈市)	市民向け講演会・セミ ナー	運営担当、講 師		共催	
	国際	「生きる力」市民運 動化プロジェクト(東 北大学災害科学国際 研究所ほか)	第 回国連防災世界会議パブリック フォーラム:「生きる力」市民運動化プロ ジェクト推進のためのシンポジウム			東北大学(宮 城県仙台市)	学会・シンポジウム	幹事、司会、 報告		共催	
	国内	高鍋町、東北大学 災害科学国際研究 所、 宮崎放送 局	「みんなの防災手帳」使い方講座 高鍋			高鍋町立高鍋 西小学校(宮 崎県高鍋町)	市民向け講演会・セミ ナー	講師、ファシリ テーター		共催	
	国内	高鍋町、東北大学 災害科学国際研究 所、 宮崎放送 局	「みんなの防災家族会議」			高鍋町立高鍋 西小学校(宮 崎県高鍋町)	小中高との連携	講師、ファシリ テーター		共催	

セミナー・講演・講義等

合計	1	件
----	---	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	宮城県 平成 年度 津波 防災シンポジウム「実践 的防災のススメ～津波か ら生き残る～」	基調講演			災害と向き合う2つのキーワード:「多重防御」と「実践的防災」の意 味とその実際	宮城県	岩沼市・岩沼市民 会館
	小中高との連携	新潟日報こども新聞「ふ むむむ」:にいがたぼうさ い出前授業	講演、ワーク ショップファシ リテーター			災害から「自分の命」を守るには? ワークショップ「ぼうさい家族会議」	新潟日報、新 潟市立新潟小 学校	新潟市・新潟市立 新潟小学校
	公開講座	第 回日本口承文芸学 会大会 公開講演	基調講演			「災害の経験を伝える」活動の最新動向ー災害かたりつぎ研究塾の 合宿活動+αをもとにしてー	日本口承文芸 学会	仙台市・東北大学
	講演会・セミナー	亘理町防災主任者会・亘 理町自主防災会連絡協 議会研修会	講演			防災・減災の最先端をいく亘理町ー過去2回の町総合防災訓練か ら得られたものー	宮城県亘理 町、宮城県亘 理町教育委員 会	亘理町・亘理町立 荒浜中学校

講演会・セミナー	「新しい東北」官民連携推進協議会 平成 年度 第 回 会員交流会	講演			被災訓練プログラム C ～あなたの 生きる力を高めよう！～ (プレゼンテーション)	復興庁	盛岡市・ホテル東日本盛岡
その他	「新しい東北」官民連携推進協議会 平成 年度 第 回 会員交流会	パネリスト			パネルディスカッション「官民連携による災害予防対策」	復興庁	盛岡市・ホテル東日本盛岡
講演会・セミナー	東日本大震災復興技術支援フォーラム－国連防災世界会議に向けて－	講演			東日本大震災アーカイブ(みちのく震録伝)を活用した防災・減災に係る社会技術開発	河北新報社, 一般社団法人東北地域づくり協会, 東日本大震災復興技術支援フォーラム実行委員会	仙台市・ウエスティンホテル仙台
講演会・セミナー	第 回東北広報サミット 東松島	講演			「見える復興」を目指す震災復興広報の最新動向－宮城県沿岸被災自治体を対象にした事例調査から－	東北広報サミット 東松島実行委員会	東松島市・東松島市コミュニティセンター
講演会・セミナー	第 回東北広報サミット 東松島	パネルディスカッションコーディネーター			自治体広報は震災をどう伝えたか、そして復興をどのように伝え復興のチカラになれるか	東北広報サミット 東松島実行委員会	東松島市・東松島市コミュニティセンター
講演会・セミナー	年度日本災害復興学会大会分科会「震災学習とそのための手法の構築－東北・中越・阪神の比較より－」	パネリスト			報告内容: 災害かたりつぎ研究塾 夏合宿 東北・デジタルアーカイブ	日本災害復興学会	長岡市・アオーレ長岡
公開講座	第 回 金曜フォーラム「災害とコミュニケーション」	講演			復興過程のなかのコミュニケーション－復興過程の「見える化」と被災者見守り活動の事例調査－	東北大学災害科学国際研究所	仙台市・東北大学
講演会・セミナー	気仙沼市滝ノ入地区防災講演会	講演			土砂災害にどう備えるか－気仙沼市滝ノ入地区－	滝ノ入地区自主防災会, 宮城県気仙沼市	気仙沼市・滝の入二地区公民館
公開講座	震災メモリアル～震災資料アーカイブと活用・展示～	パネリスト			報告内容: 東日本大震災アーカイブの今	公益社団法人中越防災安全推進機構	長岡市・きおくみらい長岡震災アーカイブセンター
公開講座	福祉・介護・健康フェア－いま、できること、明日のために知っておきたいこと－地域包括ケアと防災・減災	講演			地域包括ケアと防災・減災の接点－新潟と東日本の被災経験から学ぶ－	新潟日報, 新潟県社会福祉協議会, 新潟市社会福祉協議会	新潟市・朱鷺メッセ
講演会・セミナー	時間テレビ「みんなの防災手帳」使い方講座 釜石	講師			「みんなの防災手帳」使い方講座	時間テレビ, 「生きる力」市民運動化プロジェクト(東北大学災害科学国際研究所ほか)	釜石市・釜石・大槌地域産業育成センター
講演会・セミナー	時間テレビ「みんなの防災手帳」使い方講座 宮古	講師			「みんなの防災手帳」使い方講座	時間テレビ, 「生きる力」市民運動化プロジェクト(東北大学災害科学国際研究所ほか)	宮古市・宮古市文化会館
講演会・セミナー	時間テレビ「みんなの防災手帳」使い方講座 久慈	講師			「みんなの防災手帳」使い方講座	時間テレビ, 「生きる力」市民運動化プロジェクト(東北大学災害科学国際研究所ほか)	久慈市・久慈市防災センター
小中高との連携	古川黎明高等学校総合的な学習の時間(総合Ⅰ)エビログ講演会	講師			災害・防災・減災の科学とは何か－課題研究の「実践的防災学」化に向けて－	宮城県古川黎明高等学校(スーパーサイエンスハイスクール)	古川黎明高等学校

	講演会・セミナー	防災シンポジウム 仙台	基調講演			災害対応における「災害情報」	東北河川技術 研修実行委員 会	仙台市・ウエスディ ンホテル仙台
	講演会・セミナー	第 回国連防災世界会議 パブリックフォーラム:被災 地でのジオパークを考 える～大地の災いと恵み ～	パネリスト			パネルディスカッション「大地の災いに備え、恵みを満喫する」 報告内容: 東日本大震災における災害伝承の後方支援	時間テレ ビ, 「生きる力」 市民運動化プ ロジェクト(東 北大学災害科 学国際研究所 ほか)	久慈市・久慈市防 災センター
	講演会・セミナー	「みんなの防災手帳」使 い方講座 高鍋	講師			「みんなの防災手帳」使い方講座	高鍋町, 東北 大学災害科学 国際研究所, 宮崎放送 局	高鍋町・高鍋町立 高鍋西小学校
	小中高との連携	「みんなの防災家族会 議」	講師, ファシリ テーター			「みんなの防災家族会議」	高鍋町, 東北 大学災害科学 国際研究所, 宮崎放送 局	高鍋町・高鍋町立 高鍋西小学校

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	石巻市	石巻復興まちづくり推進会議	震災復興計画推進事業アドバイザー	
	東松島市	東松島市防災会議	防災会議委員	
	亶理町	亶理町防災会議専門委員会	防災会議専門委員	
	名取市	名取市防災会議	防災会議委員	
	亶理町	亶理町防災主任者会(防災教育推進研修会)	アドバイザー	
	多賀城市	多賀城市立小・中学校防災主任会	アドバイザー	
	防災教育団体ゆりあげかもめ		参与	

自治体・研究機関との協定締結実績

年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
						開始年月日	年数
	多賀城市役所・宮城県多賀城市	国内	東北大学災害科学国際研究所と多賀城市との包括的協定	自治体	多賀城市		
	亶理町悠里館・宮城県亶理町	国内	東北大学災害科学国際研究所と亶理町との包括的協定	自治体	亶理町		
	東松島市役所・宮城県東松島市	国内	東北大学災害科学国際研究所と東松島市との包括的協定	自治体	東松島市		

ボレー ペンメレン セバスチャン

助教

Sébastien Penmellen BORET

情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
					C					

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		

所属学会

					東北民俗の会
--	--	--	--	--	--------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
	C		

研究分野・キーワード

--	--	--	--	--

【研究活動】

研究活動の概要

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在			国内
			現在			国内
			現在		C	国外
			現在			国外

著書(監修・編著・単著・共著)

監修		単著		筆頭共著		共著		合計		うち	国際		国内	
編著														

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	英語	C	単行本			単著		国外

学会発表

単名		筆頭連名		その他の連名		合計	
----	--	------	--	--------	--	----	--

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国際		単名	いいえ			口頭(一般)			国外
	国際		単名	いいえ			口頭(一般)			国外
	国内	C	単名	いいえ	C		口頭(一般)			国外
	国内	C	単名	いいえ			口頭(一般)			国外
	国内	C	単名	いいえ			口頭(一般)		——	国外
	国内	C	単名	いいえ			公募 シンポジウム・ワークショップ・パネル	「行き力生きるシンボ」のパネルディスカッション	今村文彦, 佐藤翔、——	国外
	国際		単名	いいえ			口頭(一般)	C		国内

	国際		単名	はい			口頭(一般)			国外
--	----	--	----	----	--	--	--------	--	--	----

【社会活動】

社会活動の概要

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国際	国連防災会議の参 会者、東北大学職 員、市民団体	シンポジウム「 」			仙台市・東北 大学	学会・シンポジウム			主催	
	国内	美田園幼稚園の両 親や子供	防災キャンプ			名取市・美田 園幼稚園	市民向け講演会・セ ミナー	運営担当		なし	

佐藤 健 教授

Takeshi SATO

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
豊橋技術科学大学	建設工学課程			東北大学大学院	工学研究科			修士(工学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				株式会社フジタ 建築設計部	研究
				株式会社フジタ 技術研究所	研究
				宮城工業高等専門学校建築学科	助手
				宮城工業高等専門学校建築学科	講師
				宮城工業高等専門学校建築学科	助教授
				東北大学大学院工学研究科	講師
				東北大学大学院工学研究科	准教授
		現在		東北大学災害科学国際研究所	教授
		現在		静岡大学防災総合センター	客員教授
		現在		大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター	共同研究員

所属学会

日本建築学会	日本自然災害学会	日本安全教育学会	日本集団災害医学会	日本地震工学会	地域安全学会	日本災害情報学会	歴史地震研究会
--------	----------	----------	-----------	---------	--------	----------	---------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本安全教育学会		常任理事	
日本地震工学会	編集委員会	委員	
日本安全教育学会	安全教育学研究第 巻第 号編集委員会	委員長	
日本安全教育学会	特別研究委員会	委員	
日本建築学会		代議員	

研究分野・キーワード

自然災害科学	構造工学・地震工学・維持管理工学	応用健康科学 安全教育学
--------	------------------	--------------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	災害対策推進室	副室長(総長特別補佐)	
全学	新たな地震対策アクションプラン作成検討プロジェクト・チーム	委員	
全学	教育研究用機器転倒防止ガイドライン策定ワーキンググループ	委員	
工学部	入試検討委員会	委員	
工学部	入試広報企画室運営委員会	委員	
工学部 人間・環境系	学部入試委員会	委員長	
工学研究科 都市・建築学専攻	入学試験実施本部	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

自然科学と社会科学の融合に基づいた防災教育モデルの開発、被災地における復興教育モデルの実践、防災教育支援システムの開発など、都市・建築学を基盤とし周辺学問領域との学際的研究に取り組んでいる。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		復興教育モデルの開発と実践	国内
			現在		東日本大震災における避難者の発生と推移に関する空間分析	国内
			現在		東日本大震災における学校の被害と対応に関する調査研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	家庭における障害を持つ子の防災教育の実態と教育の手法	学術雑誌	有	いいえ	安全教育学研究						堀 清和, 村上佳司, 佐藤 健	共著	国内
	日本語	出雲神話「スサノオとヤマタノオロチ」を用いた防災教材に関する研究開発ー自然の災害と恵恵の二面性からの追究ー	学術雑誌	有	いいえ	安全教育学研究						佐藤 健, 佐藤喜代, 戸田芳雄	共著	国内

	日本語	石巻市の小学校における「復興マップづくり」の実践	学術雑誌	有	いいえ	安全教育学研究						桜井愛子, 徳山英理子, 佐藤 健, 村山良之	共著	国内
	日本語	災害復興教育プログラムと学習指導案の開発ー石巻市立鹿妻小学校での「復興マップづくり」の実践をふまえてー	学術雑誌	有	いいえ	安全教育学研究						桜井愛子, 佐藤 健, 村山良之, 徳山英理子	共著	国内
	日本語	宮古市内の学校の津波に対する防災管理・防災教育と東日本大震災からの教訓	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集						佐藤健、村山良之	共著	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	石巻市の沿岸被災地の小学校における復興教育	学術雑誌	無	いいえ	日本地震工学会誌						佐藤 健	単著	無

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国内	日本安全教育学会 第 回宮城大会(共同研究)	連名	いいえ	仙台市		口頭(一般)	自然災害、防災教育に関する新教科設置の意義と課題ー被災地の文科省開発学校における実践的研究への期待ー	藤岡達也、佐藤 健、五十嵐素子	国内
	国内	日本安全教育学会第 回宮城大会	連名	いいえ	仙台市		口頭(一般)	都立防災教育推進校に実施した災害教育でみえてきた社会的リスク要因	坪内睦子、内藤俊夫、大槻公一、佐藤 健、上野隆、新井一	国内
	国内	第 回日本自然災害学会学術講演会	連名	いいえ	鹿児島市		口頭(一般)	紙芝居による要援護者との地震リスクコミュニケーション	高田至郎、佐藤健	国内
	国内	第 回日本自然災害学会学術講演会	連名	いいえ	鹿児島市		口頭(一般)	大学における教育研究用機器を対象とした地震対策の検討	源栄正人、本間誠、小野一隆、佐藤健、古川幸、大野晋	国内
	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ 宮古	連名	いいえ	宮古市		口頭(一般)	宮古市内の学校の津波に対する防災管理・防災教育と東日本大震災からの教訓	佐藤健、村山良之	国内
	国内	第 回日本地震工学シンポジウム	連名	いいえ	千葉市		口頭(一般)	仙台市地域防災リーダーの養成プログラムの開発	佐藤 健、増田 聡、柴山明寛	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDeSの関与	学外連携
				開始年月	終了年月						
	国内	日本安全教育学会	日本安全教育学会 第 回宮城大会「東北から発信する学校防災教育と学校安全～実践上の課題を乗り越えるために～」			東北工業大学(宮城県仙台市)	学会・シンポジウム	実行委員会 幹事		共催	国内
	国内	日本安全教育学会	日本安全教育学会 第 回宮城大会オプショナル企画 仙台ワークショップ「防災教育 復興教育の研究と実践」			仙台市情報・産業プラザ 階セミナールーム()	学会・シンポジウム	企画運営主担当		共催	国内
	国内		防災教育に関する情報交流セミナー			IRIDeS多目的ホール	セミナー	企画運営主担当		主催	国内
	国際	IRIDeS、防災教育普及協会等	国連防災世界会議パブリックフォーラム防災教育交流国際フォーラム			東北大学マルチメディアホール	シンポジウム	運営委員長		主催	国外

【教育活動】

教育活動の概要

兼務先の工学研究科都市・建築学専攻の大学院生および工学部建築・社会環境工学科の学部学生に対して研究指導と講義を行った。また、静岡大学、東北福祉大学、仙台高専(名取)の非常勤講師も担当した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	建築統計解析	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	構造力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	災害危機管理論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			
	建築構造工学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			
	グローバル安全学	東北大学	リーディング大学院				
	実践的防災学Ⅷ	東北大学	リーディング大学院				
	建築防災学	静岡大学		ふじのくに防災フェロー養成講座			
	地域減災論Ⅰ	東北福祉大学					
	建築構造学Ⅱ	仙台高専(名取キャンパス)		建築デザイン学科			

【社会活動】

社会活動の概要

文部科学省、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会等による学校防災関連の各種委員会に対して、委員長、座長の任を含め学校における防災管理と防災教育の充実と強化に向けた検討や推進に協力した。また、地域防災リーダーや学校の安全担当教員向けの講習会の講師を担うとともに、国連防災世界会議を含む関連したシンポジウムやセミナーの企画運営に積極的に関わった。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	長町中学校区小中 連携協議会「防災 教育連携部会」等	防災教育フォーラム 長町「防災教育と 地域連携」			仙台市・太白 中央市民セン ター楽楽楽 ホール	市民向け講演会・セミ ナー	実行委員		主催	
	国内	第 回震災対策技 術展(宮城)実行委 員会	第 回震災対策技術展 宮城			仙台市・アエ ル	市民向け講演会・セミ ナー	実行委員		共催	
	国内	文部科学省、宮城 県教育委員会、IRI DeS	平成 年度学校安全教育指導者研修会			仙台市等・仙 台合同庁舎他 会場	行政との連携	運営委員		IRIDeS主催	
	国際	文部科学省、日本 ユネスコ国内委員 会、宮城教育大学	第 回国連防災世界会議総合フォーラム 「持続可能な開発のための教育を通じた 防災・減災の展開～より良い子どもたち の未来に向けて～」			仙台市・東北 大学蔵ホール	市民向け講演会・セミ ナー	連携担当		共催	
	国際	仙台市	第 回国連防災世界会議パブリック フォーラム 第 回災害に強いコミュニ ティのための市民フォーラム			仙台市・東京 エレクトロン ホール宮城	市民向け講演会・セミ ナー	実行委員会事 務局長		共催	

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	復興・防災に役立つ優良 建設資材を普及する会	講演			「災害に強い学校施設づくり」	復興・防災に 役立つ優良建 設資材を普及 する会	仙台市・KKRホテ ル仙台
	講演会・セミナー	年度仙台南高第・ 学年地震防災講話	講演			「地域理解が防災 減災の第一歩～地域理解のために必要となる幅 広い知識～」	宮城県仙台南 高等学校	仙台市・宮城県仙 台南高等学校
	講演会・セミナー	平成 年度小・中・高等 学校 年経験者研修会	講演			「これからの防災教育」	宮城県総合教 育センター	名取市・宮城県総 合研究センター
	講演会・セミナー	東京大学安全の日	招待講演			「大学における災害時対応について」	東京大学	東京都・東京大学
	講演会・セミナー	市民セミナー	講演			「 年東日本大震災から見えてきたこと～ 優先行動 ()について～」	仙台市	仙台市・せんだいメ ディアテーク
	講演会・セミナー	仙台市立七郷小学校研 修会	講演			「地域素材を活用した防災教育」	仙台市教育委 員会	仙台市・七郷小学 校
	小中高との連携	防災フォーラム 長町	パネルディス カッション			パネルディスカッションテーマ「防災教育と地域連携」	長町中学校区 小中連携協議 会「防災教育 連携部会」等	仙台市・太白区文 化センター楽楽 ホール
	講演会・セミナー	第 回震災対策技術展 (宮城)セミナー	講演			「自然愛・畏敬の念に基づいた防災教育」	震災対策技術 展 事務局	仙台市・アエル
	講演会・セミナー	神戸市危機管理室防災 カフェプログラム第 回語 り部会～希望と絆の集い ～	講演			「東日本大震災後の学校防災と地域防災」	NPO法人防 災白熱アカデ ミー	神戸市・神戸市危 機管理センター
	講演会・セミナー	宮城県多賀城高等学校 講演会	講演			「防災・減災に必要な自然科学と社会科学の融合」	宮城県多賀城 高等学校	多賀城市・宮城県 多賀城高等学校
	講演会・セミナー	仙台市地域防災リーダー 養成講習会	講師			「自分の住んでいる地域の特性の理解」	仙台市危機管 理室	仙台市・若林消防 署
	講演会・セミナー	仙台市地域防災リーダー 養成講習会	講師			「自分の住んでいる地域の特性の理解」	仙台市危機管 理室	仙台市・太白消防 署
	講演会・セミナー	仙台市地域防災リーダー 養成講習会	講師			「自分の住んでいる地域の特性の理解」	仙台市危機管 理室	仙台市・宮城野消 防署
	講演会・セミナー	仙台市地域防災リーダー 養成講習会	講師			「自分の住んでいる地域の特性の理解」	仙台市危機管 理室	仙台市・青葉消防 署
	講演会・セミナー	仙台市貝ヶ森市民セン ター主催講座	講演			「防災情報発信講座～防災マップをつくってみよう～」	仙台市貝ヶ森 市民センター	仙台市・貝ヶ森小学 校
	講演会・セミナー	東北大学生協情報機器 展示会	講演			「震災復興及び減災・防災」	東北大学生協	仙台市・東北大学
	講演会・セミナー	宮城県泉館山高等学校 2学年対象総合学習	講演			「都市・建築学の研究分野と災害科学国際研究所の活動」	宮城県泉館山 高等学校	仙台市・宮城県泉 館山高等学校

	講演会・セミナー	平成 年度学校安全教育指導者研修会	講師			「災害安全～防災管理・防災教育のレッスンとヒント」	宮城県教育委員会	大河原町・大河原合同庁舎
	講演会・セミナー	平成 年度学校安全教育指導者研修会	講師			「災害安全～防災管理・防災教育のレッスンとヒント」	宮城県教育委員会	登米市・登米合同庁舎
	講演会・セミナー	東北大学知のフォーラム(分科会)	講演			「学校の防災管理に関する東日本大震災からの教訓()」	IRIDeS	仙台市・災害研
	小中高との連携	多賀城市立山王小学校東北大学プロジェクト「結」出前授業	講演			「地震危険予知アンテナを持っていますか？(室内の巻)」	東北大学	多賀城市・山王小学校
	小中高との連携	東北大学出前授業	講演			「地震危険予知アンテナを持っていますか？(室内の巻)」	仙台市教育委員会	仙台市・高砂中学校
	講演会・セミナー	「防災読本」研究集会	講演			「学校の災害危機管理～事前対策から学校再開まで～」	防災読本出版委員会	宇治市・京都大学
	小中高との連携	丸森町立丸森小学校東北大学プロジェクト「結」出前授業	講演			「地震危険予知アンテナを持っていますか？(室内の巻)」	東北大学	丸森町・丸森小学校
	講演会・セミナー	平成 年度文部科学省委託事業「体験活動推進プロジェクト」体験的に学ぶ防災教育推進フォーラム	講演			「防災教育で災害に強い地域をつくる」	宮城県教育委員会	松島町・文化観光交流館
	講演会・セミナー	せんだい豊齢学園講座	講演			「災害に備えて～ 万人の 防災人 づくりに向けて～」	せんだい豊齢学園	仙台市・せんだい豊齢学園
	講演会・セミナー	名取市商工観光課主催講演会	講演			「東日本大震災からの教訓」	名取市商工観光課	名取市・名取市商工観光課
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブリックフォーラム	講演			「東日本大震災の被害実態と教育復興」	IRIDeS	仙台市・東北大学川内北キャンパス
	講演会・セミナー	国連防災世界会議総合フォーラム	講演			「市民協働による仙台 万人の防災人づくり」	文部科学省	仙台市・東北大学蔵ホール
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブリックフォーラム	基調講演			「災害に強い地域づくりと持続可能な地域づくりの両立を目指して」	仙台市連合町内会長会	仙台市・シルバーセンター
	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブリックフォーラム	基調講演			「市民フォーラムの誕生とこれから～地域の 防災人 を育てるために～」	仙台市	仙台市・東京エレクトロンホール宮城
	講演会・セミナー	気仙沼市自主防災組織連絡協議会設立総会記念講演	講演			「学校防災と地域防災との融合～学校とともにある防災まちづくりに向けて～」	気仙沼市	気仙沼市・気仙沼市民健康センターすこやか

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	文部科学省	災害に強い学校施設づくり検討部会	委員	
	文部科学省	中央教育審議会スポーツ 青少年分科会	臨時委員	
	宮城県石巻市	石巻市学校防災推進会議	委員長	
	河北新報社	「むすび塾」ワークショップ	ワークショップアドバイザー	
	宮城県教育委員会	松島自然の家再建に係る懇話会	委員	
	宮城県大崎市教育委員会	みやぎ防災教育推進協力校事業(大崎市防災教育アドバイザー)	アドバイザー	
	宮城県教育委員会	宮城県防災専門教育アドバイザー	アドバイザー	
	仙台市教育委員会	仙台市新たな学校防災教育推進協議会委員	座長	
	宮城県教育委員会	平成 年度「実践的防災教育総合支援事業」推進委員会	委員	
	宮城県石巻市	石巻市平成 年度石巻市公募型買取市営住宅制度(建物提案型)選定委員会(湊東地区・湊北地区)	副委員長	
	仙台市	研究開発学校(七郷小学校)運営指導委員会	委員長	
	NPO法人防災白熱アカデミー		理事	
	国連防災世界会議防災教育日本連絡会	運営委員会	委員長	

平野 勝也 准教授

Katsuya HIRANO

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東京大学	工学部			東京大学大学院	工学系研究科			博士(工学)		

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
					北海道開発局 札幌開発建設部 札幌道路事務所 工事一課 工務二係	係員
					北海道開発局 石狩川開発建設部 札幌河川事務所 工務一課 計画係	係員
					東北大学 工学部 土木工学科	助手
					英国マンチェスター大学 人文学部 計画・造園学科	客員研究員
					東北大学 大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	講師
					東北大学 大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	准教授
					東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門	准教授

所属学会

土木学会	日本都市計画学会	造園学会	C
------	----------	------	---

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
土木学会	土木学会論文集委員会 分冊編集小委員会	幹事長	
土木学会	日本土木史編集委員会	総括幹事	
土木学会	景観・デザイン委員会 防災・復興小委員会	委員	
土木学会	土木計画学委員会・海岸工学委員会 減災アセスメント小委員会	委員	
土木学会	東北支部 選奨土木遺産選考委員会	委員	

研究分野・キーワード

都市景観	土木デザイン	復興まちづくり
------	--------	---------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
工学研究科土木工学専攻	ネットワーク委員会	委員	
工学研究科土木工学専攻	就職担当	インターンシップ担当委員	
工学研究科土木工学専攻	新棟WG	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

震災前から培ってきた、都市空間認識や土木デザインの蓄積、さらには行政経験を元に、復興まちづくりに対して、そのあるべき姿を論考しつつ、制度的な問題・課題を実体的に把握し、その解決策を現実の復興計画に反映させ、復興計画のクオリティーを高めるとともに、実践的な復興まちづくりのあり方を探求している。また、その基礎となる都市空間の認識研究も継続している。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
					街並みメッセージ論による街路景観に関する研究	国内
					記憶から見た街路空間認識に関する研究	国内
		現在			相対性の観点から見た街路空間イメージに関する研究	国内
		現在			復興まちづくりにおける実践的研究	国内
		現在			防潮堤の計画論に関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	街並イメージの相対性 街路景観における文脈効果とその認知スタイル	学術雑誌	無	いいえ	土木学会 土木計画学研究講演集				C		白柳洋俊, 森杉司, 平野勝也	共著	なし
	英語		国際会議	無	いいえ	C				C		_____	共著	なし
	日本語	津波被災地における防潮堤問題からみた今後の防潮堤事業の課題	学術雑誌	無	いいえ	土木学会 景観・デザイン研究講演集						平野勝也	単著	なし
	日本語	防潮堤デザインと課題	学術雑誌	無	いいえ	土木学会 景観・デザイン研究講演集						小林徹平・平野勝也・小野田泰明	共著	なし
	日本語	街並の認知スタイルへ場依存・場独立に着目して～	学術雑誌	無	いいえ	土木学会 景観・デザイン研究講演集						森杉司, 白柳洋俊, 平野勝也	共著	なし
	日本語	戦前の鉄道駅における等級制度	学術雑誌	無	いいえ	土木学会 景観・デザイン研究講演集						加藤優平, 平野勝也	共著	なし

	日本語	和風建造物を対象にした手がかりによる想起	学術雑誌	無	いいえ	土木学会 景観・デザイン研究講演集						河田泰明, 平野勝也	共著	なし
--	-----	----------------------	------	---	-----	-------------------	--	--	--	--	--	------------	----	----

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著		筆頭共著		その他の共著		合計		うち	国際査読有		国際査読無		国内査読有		国内査読無	
----	--	------	--	--------	--	----	--	----	-------	--	-------	--	-------	--	-------	--

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	宮城県における津波防災まちづくりの合意形成と防潮堤問題	学術雑誌	無	はい	土木学会誌					平野勝也	単著	なし
	日本語	四度目の春	その他	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価年月号			記事	記事	平野勝也	単著	なし
	日本語	想像力	その他	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価年月号			記事	記事	平野勝也	単著	なし
	日本語	愚痴	その他	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価年月号			記事	記事	平野勝也	単著	なし

学会発表

単名		筆頭連名		その他の連名		合計	
----	--	------	--	--------	--	----	--

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国内	第10回土木学会 景観・デザイン研究発表会	単名	いいえ	大阪市		口頭(一般)	津波被災地における防潮堤問題からみた今後の防潮堤事業の課題	平野勝也	なし
	国際	C C	単名	はい	ジャカルタ市		口頭(一般)			なし
	国内	第 回日本集団災害医学会総会(年)	単名	はい	立川市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	東日本大震災の復興まちづくりから見た防災まちづくりの課題	平野勝也	なし
	国内	第 回海岸工学講演会	単名	はい	名古屋市		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	宮城県の津波復興まちづくりと防潮堤事業のコンフリクトに関する一考察	平野勝也	なし
	国内	日本リスク研究学会 第 回シンポジウム	単名	はい	新宿区		指名 シンポジウム・ワークショップ・パネル	防潮堤と復興まちづくりの相克とその解決の糸口	平野勝也	なし
	国内	第10回土木学会 景観・デザイン研究発表会	その他の連名	いいえ	大阪市		口頭(一般)	防潮堤デザインと課題 石巻市における実践的検討	小林徹平・平野勝也・小野田泰明	なし

【教育活動】

教育活動の概要

景観工学・土木デザインを中心に、統合的試行が可能な人材育成を行っている。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数90分/コマ
	土木史	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	基礎設計A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	都市と交通のシステム	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	景観デザイン演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	都市システム計画演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	都市システム計画研修A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	都市システム計画研修	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		セメ	
	都市景観論	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		前期	
	地域システム学セミナー	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		通年	
	実践的防災学	東北大学	リーディング大学院			前期	
	C 研修	東北大学	リーディング大学院			前期	
	復興の科学技術	復興大学				前期	

【社会活動】

社会活動の概要

復興まちづくりの実践を中心に、景観まちづくり及び土木デザインの実践を展開している。また、積極的に土木の魅力を若者に伝える活動も行っている。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDeSの関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	景観開花実行委員会	土木設計競技「景観開花。 11」			仙台市・東北大学工学部人間環境系教育研究棟	その他	実行委員会委員長			若き土木デザイナー向けのデザインコンペティションです

セミナー・講演・講義等

合計	1	件
----	---	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	小中高との連携	「SSH総合の時間」(1学年)東北大学訪問研修について	模擬講義			津波被災地のまちづくり～復興に向けて～	福島県立磐城高等学校	東北大学
	その他	導入ゼミナール(1年生期)における技術者レクチャー	講義			復興まちづくりのいま	法政大学デザイン工学部 都市環境デザイン工学科	法政大学デザイン工学部 都市環境デザイン工学科
	その他	仙台スクールオブデザイン「メディア軸」	講義			土木構造物の見方・楽しみ方	せんだいスクールオブデザイン	
	講演会・セミナー	早稲田まちづくりシンポジウム「都市を計画する力を取り戻す」	パネルディスカッション			復興まちづくりから見たこの国の防災まちづくりの課題	早稲田大学	早稲田大学国際会議場・井深大記念ホール
	小中高との連携	東京学芸大学附属高等学校 訪問講義	模擬講義			防潮堤とまちづくりのコンフリクトとその実践的解決	学芸大付属高校	東北大学工学部
	小中高との連携	進路指導行事	模擬講義			復興、そして豊かな社会のために	岩手県立盛岡第三高等学校	岩手県立盛岡第三高等学校
	講演会・セミナー	インフラ研究会	招待講演			防潮堤と復興まちづくりの相克とその解決の糸口	建設コンサルタント協会	建設コンサルタント協会
	小中高との連携	ジョイントセミナー	模擬講義			次世代まちづくり ～復興・防災と景観デザインの両立～	北海道立苫小牧東高等学校	北海道立苫小牧東高等学校
	講演会・セミナー	品川チャットチャットアワー	パネルディスカッション			まちづくりに思うこと	(株)ワークビジョンズ	(株)ワークビジョンズ 品川オフィス
	小中高との連携	講義・見学	模擬講義			災害に強い街を考える	静岡県立藤枝東高等学校	東北大学災害科学国際研究所

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	東北地方整備局	道路計画研究会	座長	
	東北地方整備局	最上川水系流域委員会専門小委員会	委員	
	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	旧北上川かわまちづくり検討会	委員	
	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	旧北上川かわまちづくり検討会ワーキンググループ	委員	
	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	旧北上川かわまちづくり検討会市民検討部会	アドバイザー	
	宮城県	景観審議会	委員	
	宮城県	環境影響評価技術審査会	委員	
	宮城県	再生可能エネルギー等導入地方公共団体支援基金事業に係る有識者評価会	委員	
	宮城県	海岸保全基本計画に関わる宮城県沿岸懇談会	委員	
	宮城県	行政評価委員会部会	委員	
	東北地方整備局・宮城県	宮城県沿岸域河口部・海岸環境等検討委員会	委員	
	宮城県・東北地方整備局	三陸南・石巻地区環境等検討懇談会	委員	
	東北地方整備局・宮城県	仙台湾南部海岸地区環境等検討懇談会	委員	
	宮城県気仙沼土木事務所	中島海岸検討会	委員	
	岩手県	河川・海岸構造物の復旧等における環境・景観検討委員会	委員	
	岩手県一関土木センター	無量光院地区検討部会	部会長	
	岩手県一関土木センター	平泉駅前検討部会	部会長	
	仙台市	土地利用審査会	委員	
	石巻市	石巻市復興まちづくり推進会議	委員	
	石巻市	石巻市復興まちづくり推進会議半島部WG	座長	
	石巻市	石巻市復興まちづくり推進会議中心市街地WG	委員	
	石巻市	中央二丁目11番地区市街地再開発事業(観光交流施設整備に係る)デザイン部会	委員	
	石巻市	中瀬公園検討会	委員	
	石巻市	石巻市二子地区まちづくり協議会	アドバイザー	
	石巻市	復興まちづくりマネジメント業務プロポーザル選定委員会	委員長	
	石巻市	新蛇田南地区被災市街地復興土地区画整理審議会	会長	
	石巻市	新蛇田南第二地区被災市街地復興土地区画整理審議会	会長	
	女川町	復興まちづくりデザイン会議	委員長	
	女川町	復興まちづくりデザイン会議高台検討部会	委員	
	女川町	復興まちづくりデザイン会議シンボル空間検討部会	委員	
	女川町	公共施設町民会議	委員長	
	南三陸町	復興基本計画推進会議	副委員長	
	平泉町	景観形成審議会	委員	
	平泉町	重要公共施設デザイン会議	会長	
	平泉町	道の駅「平泉(仮称)」施設設備検討委員会委員	委員長	

	石巻まちなか創成協議会		委員	
	エンジニア・アーキテクト協会	東北支部	支部長	
	デザイン会議		運営幹事	
	鹿島建設他	石巻地区災害廃棄物処理業務「技術助言委員会」	委員	
	岩手県	閉伊川河口水門デザイン	デザイン監修	
	国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所	釜谷水門デザイン	デザイン監修	
	国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所	野蒜水門デザイン	デザイン監修	
	国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所	月浜第二水門デザイン	デザイン監修	
	国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所	(仮称)石井水門デザイン	デザイン監修	
	国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所	新浜水門デザイン	デザイン監修	
	国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所	閑上水門デザイン	デザイン監修	

桜井 愛子 准教授

Aiko SAKURAI

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

【基本情報・略歴】
出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
慶応義塾大学	法学部	1992	3	慶応義塾大学大学院	法学研究科	1994	3	法学修士	1994	3
				米国コロンビア大学大学院	国際公共関係大学院	2002	5	Master of Public Administration	2002	5
				神戸大学大学院	国際協力研究科	2008	9	学術博士	2008	9

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1994	04	2000	07	社団法人 日本経済団体連合会	企画調査職
2	1997	09	1999	12	国際復興開発銀行 (世界銀行)	国際機関職員
3	2002	09	2005	03	株式会社プライシエマ・ヒラード・ジャパン	コンサルタント
4	2005	05	2009	10	株式会社パデコ	開発コンサルタント
5	2009	10	2011	03	内閣官房 国家戦略室長付	政府職員
6	2011	11	2012	03	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 東日本大震災復興支援プログラム	NPO職員
7	2012	04	2014	03	大阪大学 日本語日本文化研究センター	非常勤講師
8	2012	04	2014	04	神戸大学大学院 国際協力研究科	特命准教授
9	2015	05	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

所属学会

日本安全教育学会	国際開発学会	日本比較教育学会
----------	--------	----------

研究分野・キーワード

防災教育	国際教育開発	教育社会学	災害後の教育復興	学校と地域の連携
------	--------	-------	----------	----------

【研究活動】

研究活動の概要

東日本大震災の被災地における災害復興実践学として、2012年度より取り組んできた石巻市の小学校における災害復興教育プログラムに関する成果を2本の査読論文にまとめ発表した。これに対して、日本安全教育学会の優秀実践賞が授与された。今年度より新たに2004年スマトラ大地震の被災地インドネシア国アチェ州における教育復興、防災教育に関する研究を開始するとともに、科研基盤Cの開始年として、第3回国連防災世界会議に関する国際戦略の変更や教育分野の国際協力の枠組み変更に関する政策研究にも着手した。これら成果を、国内外の学会や国際会議で発表した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	3	現在		大震災後の教育復興支援に関する研究	国内
2	2011	12	現在		石巻市の教育復興と災害復興／防災教育モデルの構築に関する研究	国内
3	2012	4	現在		持続発展可能な防災教育の推進に向けた国際教育モデル構築に関する基礎的研究	国外
4	2014	6	現在		大震災被災地における持続発展可能なセーフスクール・モデルの構築に向けてインドネシア、バンダ・アチェ市の教育復興と学校災害安全に向けた10年の取り組み検証	国外

論文

単著	2	筆頭共著	3	その他の共著	0	合計	5	うち	国際査読有	1	国際査読無	2	国内査読有	2	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
1							1		47	61	2014	桜井愛子		国内
2	日本語	災害復興教育プログラムと学習指導案の開発～石巻市鹿妻小学校での「復興マップづくり」の実践をふまえて～	学術雑誌	有	いいえ	安全教育学研究	1		63	72	2014			
3		Implementation of a School-Based Disaster Education Program by the Fourth Grade Students at the 2011 Tsunami Affected Elementary School	Proceedings			Book Abstracts of The 9th Annual International Workshop and Expo on Sumatra Tsunami Disaster and Recovery AINSTR 2014			11	12	2014	Aiko Sakurai, Takeshi Sato, and Yoshiyuki Mizuyama		
4		Exploring Sustainable Disaster Risk Reduction (DRR) in Education Sector and Role of Education For Building a Culture of Safety	Proceedings			2014 CAM PUS Asia Kobe Symposium: Enhancing International Cooperation in Risk Management			17		2014	Aiko Sakurai		
5		Disaster recovery education program in Ishinomaki, Miyagi	Proceedings						28	29	2015			

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	1	単著	2	筆頭 共著		共著		合計	3	うち	国際		国内	3
----------	---	----	---	----------	--	----	--	----	---	----	----	--	----	---

	記述 言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外 連携
1	日本語	HFA IRIDeS Review Report 2011年東日本大震災から見えてきたこと 16 津波の被害を受けた小学校における「復興マップづくり」プログラムの 開発と実践	その他	201406	桜井愛子	単著	東北大学災害科学国際 研究所	なし
2	英語	HFA IRIDeS Review Report 2011年Focusing on 2011 Great East Japan Earthquake "Development of the Reconstruction Mapping Program at the Tsunami-affected Elementary School"	その他	201405	Aiko Sakurai	単著	東北大学災害科学国際 研究所	なし
3	日本語	レジリエントな社会構築と防災教育・地域防災力の向上を目指して	その他	201503	防災教育国際協働センター	編著	東北大学災害科学国際 研究所	国内

学会発表

単名	3	筆頭 連名	0	その他の 連名	1	合計	4
----	---	----------	---	------------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
1	国内	東北地理学会春季学術大会	その他の 連名	いいえ	仙台市	20140519	口頭(一般)	バンダ・アチエにおける防災教育の展開	小田隆史、 <u>桜井愛子</u> 、村山良 之	国内
2	国内	日本比較教育学会第30回全 国大会	単名	いいえ	名古屋市	201407	口頭(一般)	学校と地域の連携を通じた災害危機管理体制の充 実に向けてーニュージーランドにおけるセーフコミュ ニティ、セーフスクールの取り組みに学ぶ	<u>桜井愛子</u>	国外
3	国内	日本安全教育学第15回宮城 大会仙台ワークショップ2014 『防災教育／復興教育の研究 と実践』	単名	いいえ	仙台市	20140915	口頭(一般)	大震災からの復興と学校防災ーインドネシア・ア チエにおけるスマトラ沖地震から10年の現状ー	<u>桜井愛子</u>	国外
4	国際	The 9th Annual International Workshop and Expo on Sumatra Tsunami Disaster and Recovery AIWST-DR 2014	筆頭 連 名	いいえ	Banda Aceh, Indonesia	20141023	口頭(一般)	Implementation of a School-Based Disaster Education Program by the Fourth Grade Students at the 2011 Tsunami Affected Elementary School	<u>Aiko Sakurai</u>	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2 件
----	-----

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
1	国際	東北大学災害科学 国際研究所	IRIDeS International Workshop 知 のフォーラム分科会1 災害教育と災 害デジタル・アーカイブ	20141107	20141110	東北大学災害科学 国際研究所	学会・シンポジウム	運営担当	30	IRIDeS主催	国外
2	国際	東北大学災害科学 国際研究所、防災 教育普及協会、内 閣府、文科省	国連防災世界会議パブリックフォー ラム「レジリエントな社会構築と防災 教育・地域防災力の向上を目指し て」	20150314	20150314	東北大学マルチメ ディアホール	学会・シンポジウム	事務局長	430	IRIDeS主催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

東北大学全学教育科目の中の カレントトピックス科目群「災害の科学: 災害の波及と対応」における2コマ(防災教育)担当、兼業として上智大学グローバル教育センターの提供する全学教育科目「東日本大震災
とグローバル社会」(1.5コマ)を担当した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/1コマ
1	災害の科学: 災害の波及と対応	東北大学	全学		1-4	後期	2
2	東日本大震災とグローバル社会	上智大学	グローバル教育センター		1-4	前期	1.5

【社会活動】

社会活動の概要

1) 防災教育、被災地復興実践として、宮城県、石巻市(学校防災推進会議委員)、仙台市等の学校並びに教育関係者への講義セミナー等を実施、2) 国際防災協力として神戸大学、UNESCO等の主催する国際
シンポジウム、ワークショップ等で講演を実施、3) 第三回国連防災世界会議に関連して、国際シンポジウムの主催／共催イベントの企画運営実施に関与した。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	4 件
----	-----

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
1	国際	東北大学災害科学 国際研究所	Tohoku International Risk and Recovery Hub	20151215	20151215	仙台市東北大 学災害科学国 際研究所	学会・シンポジウム	幹事	30	IRIDeS主催	
2	国際	神戸大学	Community Based Reconstruction of Society and University Involvement	20150315	20150315	仙台市 情報 産業プラザ多 目的ホール	市民向け講演会・セミ ナー	東北大学側運 営責任者	150	IRIDeS共催	
3	国際	神戸大学	座談会 巨大災害からの復興と連携	20150316	20150316	仙台市 災害 科学国際研究 所	その他	東北大学側運 営責任者	30	なし	
4	国際	宮城教育大学	総合フォーラム	20150316	20150316	仙台市 東北 大学萩ホール	市民向け講演会・セミ ナー	実行委員会委 員	1000	IRIDeS共催	

セミナー・講演・講義等
合計 9 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
1	講演会・セミナー	平成26年度 JICA研修「防災意識の啓発テーマ:防災教育の有効性」	講演	20140722	20140722	防災教育の有効性ー東日本大震災の教訓から	JICA／ADRC	東北大学総合研究棟
2	講演会・セミナー	学校安全教育指導者研修会	講演	20141112	20141112	災害安全「災害後の復興・防災教育プログラム」	文部科学省・宮城県教育委員会・東北大学災害科学国際研究所	石巻市 宮城県東部教育事務所
3	講演会・セミナー	名取市立防災研修「防災教育や地域防災に関わる地域連携の組織づくり」	講演	20141117	20141117	学校防災と地域連携の在り方	名取市立ゆりが丘小学校	名取市立ゆりが丘小学校
4	講演会・セミナー	Emergency Psychosocial Support for Secondary School-aged Students Affected by Typhoon Yolanda in the Philippines, National Stakeholders Meeting	講演	20141128	20141128	Education for Disaster Risk Reduction: Japanese Experiences	UNESCO Jakarta Office, Embassy of Japan, the Philippines	フィリピン国マニラ市
5	小中高との連携	減災ポケット結プロジェクト出前授業	授業	20141211	20141211	減災ポケット結プロジェクト出前授業	東北大学・仙台放送	仙台市立榴岡小学校
6	講演会・セミナー	International Workshop on Gender and Disaster Reduction	基調講演	20141217	20141217	Women's Leadership at school and community: A case of the 2011 Great East Japan Earthquake	神戸大学男女共同参画推進室	神戸市・神戸大学
7	講演会・セミナー	防災教育に関する情報交流セミナー	講演	20150105	20150105	国連防災世界会議パブリックフォーラムについて	東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所
8	講演会・セミナー	文部科学省・日本・ユネスコパートナーシップ事業宮城教育大学第3回国連防災世界会議プレイベント	講演	20150128	20150128	HF A2と防災教育に関する“仙台宣言”発出に向けて	宮城教育大学	仙台市 宮城教育大学萩原会館
9	講演会・セミナー	国連防災世界会議パブリックフォーラム「レジリエントな社会構築と防災教育・地域防災力の向上を目指して」	講演	20150314	20150314	宮城県石巻市の小学校における災害復興教育プログラム	東北大学災害科学国際研究所、防災教育普及協会、内閣府、文科省	東北大学マルチメディアホール

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	石巻市教育委員会	石巻市学校防災推進会議	委員	20150501
2	NPOシーズアジア		理事	20141001
3	国連防災世界会議防災教育日本連絡会		事務局長	

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 2 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
1	神戸大学	北後明彦 都市安全センター所長、田中康雄名誉教授、塩崎賢明名誉教授、豊田利彦名誉教授	20150315	会議	仙台市／産業情報プラザ	国内	企画	150
2	神戸大学	北後明彦 都市安全センター所長、田中康雄名誉教授、塩崎賢明名誉教授、豊田利彦名誉教授	20150316	共同研究	災害科学国際研究所	国内	運営	50

小林 徹平 助手

Teppei KOBAYASHI

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
早稲田大学	理工学部			早稲田大学大学院	創造理工学研究科			修士工学		

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
					株式会社国際開発コンサルタンツ	

所属学会

日本建築学会	土木学会
--------	------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本建築学会	学会編集委員会	委員	

研究分野・キーワード

景観・デザイン	震災復興
---------	------

【研究活動】

研究活動の概要

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた被災地では、住宅地の移転にともない、地域の記憶をいかにして継承するかが大きな課題となっている。本研究では、被災地域において、「まちの記憶の継承」一街区構成や街並要素を新たな住宅団地へ導入する方法と、「くらしの記憶の継承」一地域独自の暮らし方や地域資源を新たな住宅団地に活かす方法の2つの側面から研究を行った。いくつかの被災地の比較研究から得られる知見と実践活動から得られる知見をまとめ、今後起こりうる災害の復興において、地域の記憶を継承する方法の一端を示すことを目的とする。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		震災復興事業における大学の役割および実践的支援に関する研究	国内
			現在		地域の記録および継承の研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	防潮堤デザインと課題	学術雑誌	無	いいえ	土木学会景観デザイン講演集						小林徹平・平野勝也・小野田泰明	筆頭共著	なし

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国内	景観・デザイン研究発表会	筆頭連名	いいえ	大阪		口頭(一般)	防潮堤デザインと課題 石巻市における実践的検討	小林徹平・平野勝也・小野田泰明	なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDeSの関与	学外連携
				開始年月	終了年月						
	国内	筑波大学 東北大学大学院都市・建築学専攻 東北大学災害科学国際研究所	学術領域連携から考える復興山水学地域型復興住宅と漁師学校			片平さくらホール 宮城県仙台市	市民向け講演会・セミナー	運営委員		主催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

復興の実践的プロジェクトの一環において、学生に での都市条件の整理や住民説明会用の模型製作、住民協議とのワークショップにおける各班のファシリテーションなどに従事してもらい、現場における作業の意図や思考を学び、学生の研究にフィードバックできる実体験の機会を提供している。

【社会活動】

社会活動の概要

平成 年度 月より石巻市の復興支援活動を都市・土木・建築の視点から行い、事業計画の策定及び実施に係る総合的な助言および図面などによる提案を行っている。また、行政主導の復興事業と市民の活動を連携させることや、石巻市雄勝町波板地区では市民の自発的な活動と連携し「ナミタ・ラボ」を立ち上げ、企画・運営に参画し専門的見地から協働している。

セミナー・講演・講義等

合計	1	件
----	---	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	第 回みやぎ地域復興支援会	招待講演			ナミイタ・ラボによる地域交流拠点づくり	宮城県	石巻市・石巻専修大学

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	ナミイタ・ラボ		サポートメンバー	
	石巻市河北地区住民まちづくり協議会		運営	
	石巻市復興まちづくり情報交流館 設置ワーキンググループ		運営	

小野 裕一 教授

Yuichi ONO

情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
宇都宮大学	教育学部			米国ケントステイト大学大学院	地理学研究科			地理学博士		

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
					米国ケントステイト大学	非常勤講師
					世界気象機関(スイス・ジュネーブ) 世界気象観測部	アソシエート・エキスパート
					国連国際防災戦略事務局本部(スイス・ジュネーブ)	プログラム・オフィサー
					国連国際防災戦略事務局早期警戒事務所(ドイツ・ボン)	所長補
					国連国際防災戦略事務局本部(スイス・ジュネーブ) 防災科学技術担当	プログラム・オフィサー
					国連アジア太平洋経済社会委員会本部(タイ・バンコク)	防災課・課長
					東北大学災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス	教授 年4月より所長補佐兼任)
					京都大学防災研究所 水資源環境センター	客員教授

所属学会

日本地理学会	アメリカ地理学会	日本風工学会	地域安全学会
--------	----------	--------	--------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本学術会議	国際委員会防災・減災に関する国際研究のための東京会議分科会	特任連携会員	
日本学術会議	土木工学・建築学委員会 分科会	特任連携会員	
日本地理学会	交流専門委員会	委員	

研究分野・キーワード

国際防災政策	竜巻災害	早期警報システム
--------	------	----------

【研究活動】

研究活動の概要

災害研の研究成果を国際的に発信するにあたって、第三回国連防災世界会議の仙台開催は渡りに船の好機であった。本会議の最終文書となった「仙台防災枠組」策定の過程で、東日本大震災からの教訓を反映させることと目標の設置を推進することにおいて成果を出すことができた。会議期間中には、災害研のシンポジウムや展示をする環境づくりをするために国連防災世界会議準備室を設置した。期間中には、「世界防災フォーラム構想の発表」および、ハイレベルの参加者を招いて「災害統計グローバルセンターの設置」など、会議後にも仙台や東北に残すものについて戦略を練り、それらを発表することができた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
					災害科学国際研究所の実践的防災学の知見を国際防災政策に反映させるための研究	

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ							C _____ _____ _____	共著	なし
	英語		国際会議	無	いいえ							_____ _____ _____ _____	共著	なし

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	第 回東北水工学研究会	単名	はい	花巻市		口頭(招待・特別)	東北で第三回国連防災世界会議をホストすることの意義	小野裕一	なし
	国際		単名	はい	神戸市			C	小野裕一	なし
	国際	第 回台風委員会	単名		ソウル市,			C	小野裕一	
	国際	世界経済フォーラム東アジア 地区会議	単名		マニラ市, フィリピン			C C C	小野裕一	
	国際	C	単名		北京市, 中国				小野裕一	
	国際	C	単名		ダボス, スイス				小野裕一	

【教育活動】

教育活動の概要

東北大学リーディング大学院の「実践的防災学」(分野横断:国際防災政策)を担当し、1.「兵庫行動枠組」などの国際防災政策について2. 国際防災の意義と、現況・課題について実践的に把握し、即戦力となる人材の育成につとめた。京都大学防災研究所水資源環境センターでは、セミナー形式で第三回国連防災世界会議の展望、及び会議終了後に得られた成果について教職員・大学院生に講義をおこなった。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
	水資源分布評価・解析論	京都大学	防災研究所	水資源環境センター	教職員・ 大学院	通年	7
	実践的防災学	東北大学	リーディング大学院	リーディング大学院	大学院	通年	

【社会活動】

社会活動の概要

第二回国連防災世界会議を国連事務局側として経験したことを活かして、第三回国連防災世界会議の準備会合(国連、日本政府、日本学術会議、学内、所内の様々なレベル)に積極的に参加し、東日本大震災から得た教訓や科学が担うべき役割について情報の発信につとめ、特に「目標の設定」にあたっては、準備会合が充足する以前から論陣を張り、会議の1年前に開かれた国連の専門家会合での強力な発言がひとつのきっかけとなって、仙台防災枠組に目標を設置することに貢献できた。他に、内外の様々な機関と連携をはかり、研究所の知見を発信し、実践的防災学的重要性を主張した。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国際	世界経済フォーラム	世界経済フォーラム 東アジア会合			マニラ市,	行政との連携	モデレーター		なし	
	国内	世界経済フォーラム	世界経済フォーラム日本会合			東京都, アカ デミーヒルズ六 本木	行政との連携	ファシリテ ーター		なし	
	国際	災害科学国際研究 所、世界経済フォー ラム、電通、 国際航業、東京海 上日動火災保険	第6回アジア防災閣僚会議			バンコク・バン コクコンベン ションセンター	企業との連携	運営		主催	
	国際	外務省、 C 仙台 市、陸前高田市、災 害科学国際研究所	C C会議			ニューヨーク、 国連本部会議 棟	行政との連携	企画・運営		展示	
	国内	災害科学国際研究 所、第 回国連防災 世界会議仙台開催 実行委員会、仙台 市	国連防災世界会議に向けた 市民セ ミナー			仙台市、せん だいメディア テーク	市民向け講演会・セミ ナー	運営・講演		主催	
	国際	C	C ワークショップ			仙台市、東北 大学片平キャン パス北門会 館	その他	運営		共催	
	国際	災害科学国際 研究所	第2回マルチハザードプログラムサマース クール			仙台市、東北 大学片平キャン パス北門会 館	その他	運営		共催	
	国際	災害科学国際 研究所	マルチハザードプログラム コアグループ会合			仙台市、東北 大学片平キャン パス北門会 館	その他	運営		共催	
	国際	C	C			ダボス、 C C	学会・シンポジウム	運営		主催	

国際	知の創設センター	知のフォーラム			仙台市, 災害科学国際研究所	学会・シンポジウム	モデレーター		主催	
国際		C			ワシントン C	その他	モデレーター		主催	
国際	C				仙台市, 東北大学青葉山キャンパス総合研究棟	その他	運営・モデレーター		主催	
国内	メディアテクノロジー、	東日本大震災メモリアル『震災 周年シンポジウム& 映画「大津波 未来への記憶上映」』			仙台市, 萩ホール	市民向け講演会・セミナー	モデレーター		主催	
国際	国際風工学会	第 回国連防災世界会議パブリックフォーラム「風関連災害低減のための大規模施設の必要性と有効性」			仙台市, 東北大学川内北キャンパス	学会・シンポジウム	モデレーター		主催	
国際		第 回国連防災世界会議パブリックフォーラム「マルチハザード早期警報システムとサービス提供に係る国際シンポジウム」			仙台市, 災害科学国際研究所多目的ホール	学会・シンポジウム	運営		共催	
国際	C	第 回国連防災世界会議パブリックフォーラム「過去の災害から災害について学ぶ」			仙台市, 仙台市民会館	学会・シンポジウム	モデレーター		なし	
国際	災害科学国際研究所と環太平洋大学協会()	第 回国連防災世界会議パブリックフォーラム「科学と実践的防災学: 防災における大学の役割」			仙台市, 東北大学川内北キャンパス	学会・シンポジウム	モデレーター		主催	
国際	国連アジア太平洋経済社会委員会 (C)	第 回国連防災世界会議パブリックフォーラム「第2回アジア太平洋地域における国連災害統計専門家会議～ ～」			仙台市, 東北大学川内北キャンパス	その他	コーディネーター		なし	

セミナー・講演・講義等

合計	1 件
----	-----

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
			開始年月日	終了年月日			
講演会・セミナー	C	講演			「 」	台風委員会	中国 南京
その他	C C	招待講演			「 」	経済協力開発機構 (C)	ノルウェー,
講演会・セミナー	第 回防災文化講演会	講演			「第 回国連防災世界会議のみどころ」	災害科学国際研究所	気仙沼市, 気仙沼「海の市」コミュニティスペース
講演会・セミナー	公益目的支出計画事業「国際開発入門コース」	講師			「防災科学」	一般財団法人国際開発機構 ()	東京都, メソニックビル
その他	国際復興プラットフォーム会議「国際復興フォーラム」	講演			世界防災フォーラムと国際災害統計センターの構想について	日本政府, 事務局, 兵庫県, アジア防災センター, 国連国際防災戦略事務局	神戸市, ホテルオークラ神戸
講演会・セミナー	第 回 東京水工会	講演			東北で第 回国連防災世界会議を-host-することの意義	東北水工会	花巻市, 花巻温泉郷観光荘
講演会・セミナー	外務省委託事業「派遣候補者研修」	講師			「国際機関におけるプログラム作成・実施管理・評価」	一般財団法人国際開発機構 ()	東京都, メソニックビル
公開講座	こころの防災市民フォーラムー第3回国連防災世界会議に向けてー	座長			「第3回国連防災世界会議に向けてー防災・減災への取り組みと心の健康ー」	東北大学災害科学国際研究所	仙台市・仙台メディアテーク

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	第三回国連防災世界会議研究会	内閣府政策統括官(防災担当)	アドバイザー	
	トタル・トレーディング・インターナショナル 東京支社	リスク管理研修運営委員	セミナーリーダー	
	法人陸前高田市支援連絡協議会		理事	

泉 貴子 特任准教授

Takako IZUMI

情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
西南学院大学	国際文化学部		3	九州大学大学院	比較社会文化研究科			比較社会文化修士		
				京都大学大学院	地球環境学堂			地球環境学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
	8			国連ハビタットアジア・太平洋事務所	広報・渉外担当
				国連人道問題調整事務所 (C)	人道問題調整官
	1			国連国際防災戦略事務局 (兼任)	国連防災世界会議調整官
				国連アジェンダ・ニアス復興調整官事務所 (C)	シミュルウ事務所代表
				国連人道問題調整事務所 (C)	情報・パブリックアウトリーチユニット チーフ
				国際 C	
	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	特任准教授

研究分野・キーワード

国際防災	国際人道支援
------	--------

【研究活動】

研究活動の概要

1) APRU-IRID マルチハザードプログラムの推進 主にAPRU加盟大学から学生・教員を招き、日間のサマースクールを実施した。か国より名の参加があった。また、大学においてキャンパスセーフティのコンセプトを根付かせるため、まずは、現状把握のためにアンケート調査・分析を行い、今後の活動のベースラインデータとして報告書を作成した。国連世界防災会議において、APRUとが主催するパブリックフォーラムセッション「科学と実践防災学～防災における大学の役割～」を開催した。さらに、APRUマルチハザードコアグループメンバーによるStatement Academic Contributionsをまとめ、発表した。

2) 企業と災害マネジメントに関する研究：主な研究対象国をインドネシア、マレーシア、バングラデシュとし、それぞれの国で事例収集のための現地調査やヒアリングを行った。また、その結果をまとめた論文を執筆し（アメリカのジャーナルに掲載）、様々な国から集めた事例を含めた書籍を編集・出版した。

研究課題

開始年	月	終了年	月	研究課題(内容)	学外連携
				冷戦期のH. S. トルーマン政権による公民権政策に関する研究	なし
	10	現在		NGOやコミュニティの防災における役割に関する研究、国際防災枠組みや国の防災政策に関する研究	国外
		現在		防災における大学の役割に関する研究	国外
		現在		大学間のマルチハザードプログラムの推進～APRU加盟大学を中心に～に関する研究	国外
		現在		防災における企業の役割に関する研究	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C							共著	国外

著書(監修・編著・単著・共著)

監修 編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
----------	----	------	----	----	----	----	----

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	英語	(担当執筆題目: C C)	単行本			共編著	Springer	国外

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		国際会議	無									共著	国外
	英語	C	その他	無									共著	国外
	英語	C	その他	無									共著	国外

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際		単名	はい	ワシントンDC、		口頭(一般)			国外
	国際	C	単名	はい	バンコク		口頭(一般)			国外
	国際		単名	はい	ジャカルタ		口頭(一般)	C		国外
	国際		単名	はい	サンティアゴ、C		口頭(一般)			国外
	国際	C	単名	はい	ジャカルタ		口頭(一般)	C		国外
	国際		単名	はい	仙台市		口頭(一般)	C		国外

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDEsの関与	学外連携
				開始年月	終了年月						
	国際		C C C			東北大学片平北門会館	その他	運営担当		主催	国外
	国際					東北大学片平北門会館	その他	運営担当		主催	国外
	国際		C			東北大学片平北門会館	その他	運営担当		主催	国外
	国際					東北大学災害科学国際研究所	学会・シンポジウム	運営担当		主催	国外

【教育活動】

教育活動の概要

リーディング大学院の「実践的防災学VII」では、国際社会による災害対応のメカニズムと国際機関やNGOの災害対応における役割について講義し、自身の国連機関や国際NGOでの経験などを学生にも共有した。また、「災害と科学」においても、国際人道支援の役割とそのメカニズム、また、人道支援を支える国際的枠組みや政策についても講義した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	実践的防災学VII	東北大学	リーディング大学院			前期	コマ
	災害と科学（国際社会と災害への対応）	東北大学	全学			後期	コマ

【社会活動】

社会活動の概要

国連防災世界会議の一環として、二つのパブリックフォーラムを企画・開催した。また、この会議のプレイベントであるHFA市民セミナーにおいて、優先順位5:災害対応への備えについて、東日本大震災からの教訓と経験を基に行ったレビューの結果をまとめ、発表した。さらに、加盟大学学長、シニアスタッフ、APRU事務局との交流、また、のメンバー機関とも、主にAPRUマルチハザードプログラムについて意見交換などを行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDEsの関与	備考
				開始年月	終了年月						
	国際		東日本大震災メモリアル:震災周年シンポジウム&3D映画「大津波 未来への記憶」上映			東北大学萩ホール	市民向け講演会・セミナー	運営担当		主催	

	国際	京都大学	C			東北大学川内 キャンパス	市民向け講演会・セミ ナー	運営担当		主催	
	国際		C			東北大学川内 キャンパス	市民向け講演会・セミ ナー	運営担当		主催	

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会・セミナー	HFA市民セミナー： 年国連防災世界会議に 向けて～Hyogo Fram ework for Actionから 見た東日本大震災の教 訓～				から見た東日本大震災の教訓:Priority 5		せんだいメディア テーク
	その他	あしなが育英会インター ンシッププログラム				C		東北大学青葉山工 学研究科総合棟
	その他	C						東北大学川内キャン パス
	その他	C				C		東北大学川内キャン パス

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
				会議	バンコク、	国外	その他	
				会議	キャンベラ、オーストラリア	国外	その他	
				会議	バンコク、	国外	その他	
				会議	シンガポール	国外	その他	

池田 菜穂 助教

Naho IKEDA

情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
筑波大学	芸術専門学群			北海道大学大学院	地球環境科学研究科			博士(地球環境科学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				独立行政法人防災科学技術研究所 地震防災フロンティア研究センター	特別研究員
				国連国際防災戦略事務局	C (併任)
				京都大学 防災研究所	研究員
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

所属学会

日本地理学会	日本文化人類学会	民族自然誌研究会	日本自然災害学会	国際総合防災学会(
--------	----------	----------	----------	-----------

研究分野・キーワード

ヒマラヤ地域研究	山地研究	生業活動研究	地域社会	災害対応力
----------	------	--------	------	-------

【研究活動】

研究活動の概要

(1) 山岳地域かつ乾燥地域であるインド・ヒマラヤ西部のラダーク地方において、集中豪雨によるフラッシュフラッド等の水害と、米河湖決壊洪水を対象として、最近の災害被害や現在の災害リスクについて現地調査等により明らかにしている。また、水害と水害対策に関わる地域住民の知識・認識や、現地社会の防災体制についても調査をおこなっている。(新潟大学他との共同研究)
(2) 三陸地方の生業活動について、家族(世帯)の単位に着目し、その経営の成り立ちと変容を研究している。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		インド・ヒマラヤ、ラダーク地方における水害と水害対策に関する研究(豪雨災害、米河湖決壊洪水、山岳高所における水害対策)	国外
			現在		三陸地方の生業活動と地域社会の変容に関する研究	なし

【社会活動】

社会活動の概要

(1) 東日本大震災による被災自治体と災害科学国際研究所との連携協定に関連し、協定締結済み自治体との関係のフォローアップと新たな自治体との協定締結に向けて、情報収集や交渉役を担当した。
(2) 災害科学国際研究所の気仙沼サテライト(分室)の運営に参加し、地域住民を対象とした防災文化講演会の開催等の活動に貢献した。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	東北大学災害科学 国際研究所	年フィリピン台風調査報告会			仙台市・せんだいメディアテーク	市民向け講演会・セミナー	司会担当		主催	
	国内	東北大学災害科学 国際研究所	第6回防災文化講演会「被災から10年の 中越・アチエより東北へのメッセージ」			気仙沼市・気仙沼「海の市」	市民向け講演会・セミナー	運営担当		主催	

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	独立行政法人国際協力機構(C	震災復興における支援アプローチ調査	調査幹事(兼調査ワーキンググループメンバー)	

サッパシー アナワット 准教授

Anawat SUPPASRI

寄附研究部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
チュラーロンコーン大学	工学部			東北大学大学院	工学部研究科			博士(工)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東北大学大学院工学研究科附属 災害制御研究センター	リサーチ・フェロー
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

所属学会

日本土木学会	日本地球惑星科学連合	米国地球物理学連合	欧州地球物理学連合	アジア・オセアニア地球科学学会	タイ工学会
--------	------------	-----------	-----------	-----------------	-------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
土木学会	海岸工学委員会 CEJ小委員会	会員	

研究分野・キーワード

津波工学	海岸工学	防災学	リスク研究	
------	------	-----	-------	--

【研究活動】

研究活動の概要

東北地方太平洋沖地震津波における石巻市や気仙沼市等を始めとする各自治体の被災データに基づいて、最先端の統計学技術を利用する事によって、より高い精度の津波被害関数を構築する。被災データは建物毎にある津波浸水深、建物の構造、階数など又は漁船の構造、トン数等を使用する。更には、津波数値解析による津波流速、漂流物の影響、被災メカニズム等を考察する。被害関数を解析するには、今までの統計方法「
」より高い精度の統計方法「
」を適用する。得られた結果は一般の方が使いやすくする為にスマートフォンやタブレットのアプリケーションを作成する。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		インド洋・太平洋における津波ハザードマップ研究	国外
			現在		津波被害関数構築に関する研究	国外
			現在		津波避難に関する研究	国外
			現在		防災教育に関する研究	国外
			現在		年に発生したハイエン台風に関する研究	国外

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	筆頭共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ	C							筆頭共著	国外
	英語	C	学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国外
	英語		学術雑誌	有	いいえ								共著	国内
	英語		学術雑誌	有	いいえ							C	共著	国外

英語		単行本 (論文掲載)	有	はい	C								筆頭共著	国内
英語		単行本 (論文掲載)	有	はい	C								筆頭共著	国外
英語	C	単行本 (論文掲載)	有	はい	C								共著	国外
英語		単行本 (論文掲載)	有	はい									筆頭共著	国内
英語		単行本 (論文掲載)	有	はい									共著	国外
日本語		単行本 (論文掲載)	無	いいえ									共著	国内
英語		単行本 (論文掲載)	無	いいえ									共著	国内
英語		単行本 (論文掲載)	無	いいえ									筆頭共著	国外
英語		単行本 (論文掲載)	無	いいえ									共著	国内

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)			国内
	国内		筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国内		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国外
	国際		筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)	C		国外
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)	C		国外
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国内		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国内		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国内		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国外
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)	C		国外
	国内	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国内
	国内	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)			国外

	国内	C C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		_____C _____	国外
	国内		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		_____	国外
	国際	C	その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		C _____	国外
	国際	C	単名	はい			口頭(招待・特別)		_____	国外
	国際		単名	はい			口頭(招待・特別)	C	_____	国外
	国際		筆頭 連 名	はい	C		口頭(招待・特別)		_____C _____	国外
	国際		その他の 連名	いいえ	C		口頭(一般)		_____	国内
	国際		その他の 連名	いいえ	C		口頭(一般)		_____	国外
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		_____	国内
	国際		筆頭 連 名	いいえ			ポスター(一般)		_____C _____	国外
	国際		筆頭 連 名	はい			口頭(基調)		_____	国内

【社会活動】

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計 : 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRiDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国際		C				学会・シンポジウム			なし	

セミナー・講演・講義等

合計 : 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	小中高との連携	防災講演会	招待講演			近年発生した国内外の自然災害を例とした様々な防災研究	古川黎明高校	古川市・古川黎明 高校
	講演会・セミナー	防災講演会	招待講演				在東京タイ王 国大使館	名古屋市
	講演会・セミナー	防災講演会	招待講演				在東京タイ王 国大使館	宇都宮市
	講演会・セミナー	防災講演会	招待講演				在東京タイ王 国大使館	東京都・在東京タイ 王国大使館

自治体・研究機関との協定締結実績

年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
						開始年月日	年数
	ケンブリッジ大学・ケンブリッジ	国外	東北大学とケンブリッジ大学との包括的協定	研究機関	ケンブリッジ大学		

安倍 祥 助手

Yoshi ABE

寄附研究部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	工学部			東北大学大学院	工学研究科			修士(工学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				株式会社社会安全研究所	研究員
				株式会社社会安全研究所 災害情報研究部	研究員
				株式会社社会安全研究所 災害復興研究部	研究員
		現在		東北大学 災害科学国際研究所	助手

所属学会

土木学会	日本建築学会	日本自然災害学会	地域安全学会	日本災害情報学会	日本地震工学会	日本災害復興学会
------	--------	----------	--------	----------	---------	----------

研究分野・キーワード

津波工学	防災・危機管理	避難行動
------	---------	------

【研究活動】

研究活動の概要

地域における津波避難対策の具体化のために、地域ごとの津波避難計画を検討する手法や、津波避難訓練の実践および検討手法について研究し、実施への適用・実践を進めている。東日本大震災をはじめとする津波災害やその他の自然災害における緊急的な避難行動の実態、被害想定とその対策、防災計画ならびに避難計画の策定手法を分析し、津波避難におけるさまざまな課題や地域特性に対応した防災対策・避難方策の構築に取り組んでいる。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		津波避難対策、避難計画、避難訓練に関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	確率論的津波遡上評価と津波リスクの定量化	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 (海岸工学)						稲谷陽 安倍祥 今 村文彦	共著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国内	第4回巨大津波災害に関する合同研究会	単名	いいえ	仙台市		口頭(一般)	地域の津波避難計画を検討するワークショップ活動の実践報告	安倍祥	国内

【教育活動】

教育活動の概要

学部1年生を対象とした基礎ゼミ「津波災害と減災・防災を考える」では、東日本大震災における津波避難行動の実態と、津波災害における人的被害最小化のため避難対策の方法論を解説しディスカッションした。また、リーディング大学院グローバル安全学トップリーダー育成プログラムの教員・学生らと共同で福島県いわき市において津波避難訓練の現地調査を実施し、住民や観光客の避難行動を計測・分析した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	基礎ゼミ 津波災害と減災・防災を考える	東北大学	全学			セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

第 10 回国連防災世界会議では、仙台市ほか関係団体と多様な津波避難対策について情報発信を企画しシンポジウム形式のパブリックフォーラムを企画した。災害科学国際研究所が主催する防災文化講演会を気仙沼市において3回開催し、災害科学研究や防災・復興に関する情報発信に努めた。このほか、学校教育現場には講義や研究指導、教職員への安全教育の機会を通じ、災害への備え方や東日本大震災の実態等について情報発信を行った。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDeSの関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	災害科学国際研究所	第4回防災文化講演会			気仙沼市・海の市	市民向け講演会・セミナー	話題提供者、運営担当		主催	

	国内	災害科学国際研究所	第5回防災文化講演会			気仙沼市・海の市	市民向け講演会・セミナー	運営担当		主催	
	国内	災害科学国際研究所	第6回防災文化講演会			気仙沼市・海の市	市民向け講演会・セミナー	運営担当		主催	
	国内	仙台市、一般社団法人東北地域づくり協会、「カケアガレ！日本」企画委員会(東北大学災害科学国際研究所・河北新報社・電通グループ)	第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム「重層的な津波避難対策の展開」シンポジウム			仙台市・情報・産業プラザ	市民向け講演会・セミナー	運営担当		主催	

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	小中高との連携	防災出前授業	講師			災害の多い日本 いのちを守るために	気仙沼市立気仙沼中学校	気仙沼市
	小中高との連携	校外学習	講師			被災地域における行政の現状と課題	宮城県古川黎明高校	仙台市・東北大学工学研究科中央棟
	小中高との連携	災害研究における生徒研究課題研究の指導助言等	講師				宮城県仙台第一高等学校	仙台市若林区
	講演会・セミナー	平成26年度宮城県学校安全教育指導者研修会	講師			災害安全 風水害・土砂災害	宮城県教育庁・災害科学国際研究所	栗原市・宮城県栗原合同庁舎
	講演会・セミナー	内閣府・浜中町合同「地震・津波防災訓練」	講師			防災学習 地震・津波から命をまもろう	内閣府(防災担当)・浜中町	北海道浜中町・霧多布温泉ゆうゆう
	講演会・セミナー	平成26年度東北地方津波防災支援システム利用者講習会	講師			津波防災支援システムの災害訓練への活用	東北地方整備局	仙台市・八戸市・秋田市
	講演会・セミナー	第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム防災教育交流国際フォーラム	発表者			産官学で取り組む津波防災プロジェクト「カケアガレ！日本」	災害科学国際研究所・防災教育普及協会・国連防災世界会議防災教育日本連絡会・内閣府(防災担当)・文部科学省	仙台市・東北大学川内北キャンパス
	講演会・セミナー	第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム東北大学・東京海上日動産学連携研究成果発表会	発表者			津波から身を守るためにー避難計画・訓練の取組実践ー	災害科学国際研究所	仙台市・東北大学川内北キャンパス
	その他	Cサービス	講師			東日本大震災を科学する 第4週:実践的な防災学と防災啓発・教育 津波避難の対策と計画 地域ごとの津波避難計画 津波避難訓練の取り組み	株式会社ドコモ・ナレッジ・スクウェア株式会社	ウェブサービス
	講演会・セミナー	東日本大震災を科学するセミナー	ワークショップコーディネーター			ワークショップ(グループディスカッション)	災害科学国際研究所	仙台市・東北大学災害科学国際研究所

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	独立行政法人防災科学技術研究所	津波ハザード情報の利活用に関する委員会	委員	
	「カケアガレ！日本」企画委員会(河北新報社・電通グループ・災害科学国際研究所)	津波避難プログラム等の作成に向けた検討委員会	委員	

福谷 陽 助手

Yo FUKUTANI

寄附部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
東北大学	理学部			東京大学大学院	理学系研究科			修士(理学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 企業財産事業部	研究員
				東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 企業財産事業部	主任研究員
		現在		東北大学災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	助手

所属学会

土木学会	日本自然災害学会	日本地球惑星科学連合	日本気象学会
------	----------	------------	--------

研究分野・キーワード

津波工学	確率論的災害リスク評価
------	-------------

【研究活動】

研究活動の概要

主に東北地方太平洋沖地震の知見を反映させた確率論的津波リスク評価に関する研究を行った。津波リスク評価においては、確率論的津波ハザード評価の研究成果と東北地方太平洋沖地震の被害データを用いて評価された津波のフランチティに関する研究成果を用いた。こうすることで、東北地方太平洋沖地震の知見を最大限に生かした津波リスク評価が可能となる。これまで、ある地点に立地する建物の津波リスクを定量化する手法等を提案した。また、確率論的津波ハザード評価に包含される不確実性を定量的に算出し、抽出・定量化した不確実性を津波ハザードマップ等に可視化することで、評価の不確実性を分かりやすく視覚的に伝達する手段を提案した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
					不確実性を考慮した確率論的津波リスク評価に関する研究	なし
			現在		巨大津波への備えに向けた適切な漁船リスク評価と防災対策の高度化	国外
			現在		高精度津波シミュレーションに基づく確率論的津波ハザード評価	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語	C	国際会議	有	いいえ	C							共著	なし
	英語		学術雑誌	有	いいえ								筆頭共著	なし
	日本語	確率論的津波遡上評価と津波リスクの定量化	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 (海岸工学)						福谷陽 安倍 祥 今 村 文彦	筆頭共著	なし
	日本語	インドネシア・ジャカルタ洪水を引き起こす様々な社会問題と 年 月洪水の特徴	学術雑誌	有	いいえ	土木学会論文集 (環境)						呉 修一 福谷陽 C 有働 恵子 真野 明	共著	国外

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	英語		その他	無	いいえ							今村文彦 他	共著	なし

学会発表

単名	筆頭 連名	その他の 連名	合計
----	----------	------------	----

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年 月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	日本地球惑星科学連合大会	その他の 連名	いいえ	横浜市		口頭(一般)			なし
	国内	日本地球惑星科学連合大会	筆頭 連 名	いいえ	横浜市		ポスター(一般)	不均質すべり発生モデルを用いた津波波高の確率的解析と不確実性評価	福谷 陽 サッパシーアナワット 今村 文彦	なし
	国際		筆頭 連 名	いいえ	札幌市		ポスター(一般)			なし
	国内	日本建築学会大会	その他の 連名	いいえ	神戸市		口頭(一般)	津波を考慮した地震 の提案	佐藤一郎, 福谷陽	国内
	国内	日本自然災害学会	筆頭 連 名	いいえ	鹿児島市		口頭(一般)	不確実性を明示した津波ハザードマップの提案	福谷陽, サッパシーアナワット 今村文彦	なし
	国内	土木学会海岸工学講演会	筆頭 連 名	いいえ	名古屋市		口頭(一般)	確率論的津波遡上評価と津波リスクの定量化	福谷 陽 サッパシーアナワット 安倍 祥 今村 文彦	なし
	国際		筆頭 連 名	いいえ			口頭(一般)			なし
	国際		その他の 連名	いいえ			ポスター(一般)		C	国外
	国内	巨大津波災害合同研究会	単名	いいえ	仙台市		口頭(一般)	確率論的津波ハザード評価とフラジリティ評価を用いた津波リスク量の把握	福谷 陽	なし
	国際		その他の 連名	はい			口頭(基調)			なし
	国際	C	筆頭 連 名	いいえ	東京		ポスター(一般)			なし

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国際	東北大学災害科学 国際研究所	東北大学・東京海上日動産学連携 研究成果発表会～津波リスク研究と 防災啓発活動～			東北大学川内北 キャンパス 教 室	学会・シンポジウム	運営担当		主催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

平成 年度東北大学全学教育基礎ゼミ科目「津波災害と減災・防災を考える 東日本大震災からの教訓」の講義を一部担当した。
--

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/1コマ
	基礎ゼミ	東北大学	全学			セメ	

【社会活動】

社会活動の概要

国連防災世界会議におけるパブリックフォーラム「東北大学・東京海上日動産学連携研究成果発表会～津波リスク研究と防災啓発活動～」の企画・運営を務めた。また、 グループが展開する大規模オンライン講座「東日本大震災を科学する」の講義を一部担当した。
--

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国際	東北大学災害科学 国際研究所・東京 海上日動火災保険 株式会社	国連防災世界会議パブリックフォーラム 「東北大学・東京海上日動産学連携研究 成果発表会～津波リスク研究と防災啓発 活動～」			仙台市・東北 大学川内北 キャンパス	学会・シンポジウム	運営担当		主催	

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	公開講座	大規模オンライン講座 「東日本大震災を科学する」	講義			リスク評価と今後の減災対策 津波ハザード評価の考え方 (確定論的評価) 津波ハザード評価の考え方 (確率論的評価) 津波リスク評価の考え方	NTTドコモ 社、NTTナ レッジ・スクウェ ア社	オンライン講座

松本 行真 准教授

Michimasa MATSUMOTO

リーディング大学院

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
中央大学	理工学部			東北大学大学院	情報科学研究科		3	博士(情報科学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				株式会社 生活総合研究所	
				福島工業高等専門学校 コミュニケーション情報学科	専任講師
				福島工業高等専門学校 コミュニケーション情報学科	准教授
		現在		東北大学 災害科学国際研究所 リーディング大学院	准教授

所属学会

日本都市学会	地域社会学会	東北都市学会	東北社会学会	土木学会	日本都市計画学会	地域安全学会	中小企業学会
--------	--------	--------	--------	------	----------	--------	--------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
東北都市学会	編集委員会・事務局		

研究分野・キーワード

社会学	マーケティング	都市計画
-----	---------	------

【研究活動】

研究活動の概要

震災前から地域住民組織(町内会など)の実態と課題を見いだし調査研究を行っており、具体的なフィールドは福島県浜通り地方(いわき市、双葉郡楢葉町・富岡町)の被災コミュニティ、東北六県における主要都市の町内会・自治会などである。また、地域活性化の一手段としての直売所のマーケティング戦略と組織形態のあり方に関する調査・研究と提案を行っている。更にインドネシア・バリ島において形成されている日本人社会で展開される現地向けメディア(主にフリーペーパー)の変遷に関する調査を進めている。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		「場所」の喪失と創出に関する社会経済学的考察	国内
			現在		まちづくりへのマーケティング手法適用に関する研究	国内
			現在		地域住民組織の実態、変容、活性化に関する社会学的研究	国内
			現在		による営利活動上の諸問題に関する組織論的考察	国内
			現在		インドネシア・バリ島におけるメディア環境と日本人社会の変容	国外
			現在		長期避難者で形成されるコミュニティの実態と変容に関する社会学的研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	東日本大震災復興に向けた組織の現状とその類型	学術雑誌	有	いいえ	日本都市学会年報						菅野瑛大、松本行真	共著	あり
	日本語	復旧・復興過程におけるコミュニティの諸相と変容	学術雑誌	無	はい	東北都市学会年報						松本行真	単著	なし

著書(監修・編著・単著・共著)

監修	編著	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
----	----	----	------	----	----	----	----	----

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	日本語	都市と相互作用の世界(吉原・堀田編「交響する空間と場所 開かれた都市空間」)	単行本		松本行真	分担執筆	法政大学出版局	あり
	日本語	被災コミュニティの実相と変容	単行本		松本行真	単著	御茶の水書房	あり
	日本語	長期避難者コミュニティとリーダーの諸相—福島県双葉郡楢葉町・富岡町を事例に—(吉原直樹、仁平義明、松本行真編著「東日本大震災と被災・避難の生活記録」)	単行本		松本行真	共編著	六花出版	あり
	日本語	原発事故避難者による広域自治会の形成と実態—福島県双葉郡富岡町を事例に—(吉原直樹、仁平義明、松本行真編著「東日本大震災と被災・避難の生活記録」)	単行本		松本行真	共編著	六花出版	あり
	日本語	震災まちづくりにおける官民連携の課題—福島県いわき市平豊間地区を事例に—(吉原直樹、仁平義明、松本行真編著「東日本大震災と被災・避難の生活記録」)	単行本		磯崎匡、松本行真	共編著	六花出版	あり
	日本語	東日本大震災復興に向けた組織の現状とその類型—いわき市被災沿岸部豊間・薄磯・四倉地区を事例に—(吉原直樹、仁平義明、松本行真編著「東日本大震災と被災・避難の生活記録」)	単行本		菅野瑛大、松本行真	共編著	六花出版	あり

	日本語	沿岸被災地における安全・安心の社会実装に向けた課題—福島県いわき市平豊間地区を事例に—(吉原直樹、仁平義明、松本行真編著「東日本大震災と被災・避難の生活記録」)	単行本		山田修司、松本行真	共編著	六花出版	あり
--	-----	--	-----	--	-----------	-----	------	----

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	書評 佐々木保幸、番場博之編著「地域の再生と流通・まちづくり」白桃書房	大学紀要	無	はい	中小企業季報(大阪経済大学)						松本行真	単著	
	日本語	新施設開業後の道の駅のマーケティング戦略の課題	高専紀要	有	いいえ	福島高専紀要						杉山武史、班日佳小里、松本行真	共著	国内
	日本語	「被災自治体における防災 防犯コミュニティ構築とローカルナレッジ形成に関する研究」報告書	報告書	無	いいえ							松本行真		国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国内	関東都市学会秋季いわき大会	単名	はい	いわき市		口頭	津波被災地域における復興まちづくりに向けた「連携」の現状と課題	松本行真	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDeSの関与	学外連携
				開始年月	終了年月						
	国内	東北都市学会	年度東北都市学会大会「極点社会」における安全・安心社会の実現—地域コミュニティのゆくえ			八戸地域地場産業振興センター「ユートリー」(青森県八戸市)	学会	運営担当			国内

【教育活動】

教育活動の概要

リーディング大学院において、「防災と復興の社会学」と「実践的防災学Ⅲ」を担当し、主に社会学的な視点から防災・減災とコミュニティとのかわりの実態と課題などについての講義を行った。
--

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
	防災と復興の社会学	東北大学	リーディング大学院			後期	
	実践的防災学Ⅲ	東北大学	リーディング大学院			後期	

【社会活動】

社会活動の概要

いわき市平簿磯区にある薄磯復興協議委員会に参加。リーディング大学院生、福島高専の学生らとともに今後の復興まちづくりに向けた調査・研究、それらに基づく助言・提案を行っている。また、同市四倉町にある「よつくらぶ」が運営する道の駅よつくら港の運営・販売に関して、福島高専の学生らとともに調査・提案を進めている。
--

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDeSの関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	福島工業高等専門学校、災害研、リーディング大学院	地域フォーラム「震災から四年—震災復興のこれまでと今後—」			福島高専階段教室(福島県いわき市)	講演会	企画・運営担当		主催	

セミナー・講演・講義等

合計	件
----	---

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	講演会	第 回 セミナー	招待講演			被災コミュニティの諸相	東京大学科学技術イノベーション政策の科学()教育・研究ユニット	東京大学本郷キャンパス
	講演会	東北大学文系 研究科 人文・社会科学における知の創出セミナー	招待講演			原発事故の避難者による広域自治会の形成・実態・課題—福島県双葉郡富岡町を事例に—	／知の創出センター	東北大学川内南キャンパス

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	薄磯復興協議委員会			
	海まち・とよま市民会議			
	よつくらぶ			

久利 美和 講師

Miwa KURI

リーディング大学院

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
筑波大学	第一学群自然科学類			筑波大学大学院	地球科学系研究科			博士(理学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
		現在		東北大学災害科学国際研究所講師(リーディング大学院「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」)	講師
				東北大学大学院理学研究科教育研究支援部	助教
				東北大学大学院理学研究科(女性研究者育成支援推進室「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」)	助手
				東北大学特定領域研究推進支援センター(女性研究者育成支援推進室「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」)	助手
				東北大学大学院理学研究科地学専攻地球惑星物質科学科 (文部科学省科学研究費特定領域「火山爆発のダイナミクス」 班)	研究支援員
				産業技術総合研究所地質調査総合センター(旧:通産省工業技術院地質調査所)火山活動研究グループ	テクニカルスタッフ
				科学技術振興事業団特別研究員(派遣先:通産省工業技術院地質調査所火山地質部/産業技術総合研究所地質調査総合センター火山活動研究グループ)	科学技術特別研究員
				筑波大学ベンチャービジネスラボラトリー	非常勤研究員
				防災科学技術研究所地圏地球科学技術研究部	臨時雇用職員

所属学会

日本地球惑星科学連合学会	日本火山学会	日本地震学会	科学技術社会論学会	日本災害情報学会	日本地学教育学会
--------------	--------	--------	-----------	----------	----------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
日本地球惑星科学連合学会	広報普及委員会	委員	
日本火山学会	火山学会 周年記念事業 (人財育成)	委員	
日本火山学会	学校教育委員会	委員	
日本地震学会	ジオパーク	委員	

研究分野・キーワード

災害情報	災害対応無人化機器	人材育成	科学的不確実性
------	-----------	------	---------

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
全学	科学者の卵養成講座実行委員会	運営委員	
全学	サイエンスカフェ	委員	
全学	河北新報「科学の泉」編集	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

東日本大震災からの復興視点での地学教育・防災教育の実践とその評価について研究を継続中である(科研費)。継続課題である不確実な科学的情報と社会的意思決定に関連づけて、風水害の災害緊急対応の実務をきっかけに災害情報の伝達とその受け手の行動に関する調査を行なった(特定プロジェクト)。また、日本国内での火山活動の活発化もあり、火山災害時の無人機の活用に関する研究を新たに開始した()。

研究課題

期間				研究課題(内容)	学外連携
開始年	月	終了年	月		
		現在		土石流予測を目的とした火山災害地域のリアルタイムデータベースを実現するセンシング技術の開発と実用化()	国内
				東北地方および世界の台風・洪水被害軽減に向けた実践防災学的アプローチ(特定プロジェクト)	国外
		現在		東日本大震災からの復興を支援する科学コミュニケータ養成プログラムの開発と実践(科研費)	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	多様な自然災害から巨大な自然災害による複合災害への対策へ 国際性と地域性、組織と個人、非日常と日常をつなぐ	大学紀要	無	いいえ	年東日本大震災から見てきたこと						久利美和 杉安和也	筆頭共著	国内
	英語	C C	大学紀要	無	いいえ								筆頭共著	国内

	英語		大学紀要	無	いいえ	年フィリピン台風 年台風 号、 台風ハイエン、 年 度調査報告 ()									共著	国外
--	----	--	------	---	-----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	----	----

学会発表

単名		筆頭 連名		その他の 連名		合計	
----	--	----------	--	------------	--	----	--

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月 日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	日本地球惑星科学連合 連合大会	筆頭 連名	いいえ	パシフィコ横浜 会議センター		口頭(一般)	大学による高校課題研究支援からみる高校地学:分野横断と統計学	久利美和・村上祐子	国内
	国内	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス講演会 C	その他の 連名	いいえ	富山国際会議場 富山市総合体育館		口頭(一般)	火山噴火の長期観測を目的としたポータブル無人観測デバイスの開発	山内元貴・秋山健・谷島諒丞・大塚光・永谷圭司・久利美和・吉田和哉	国内
	国際		その他の 連名	いいえ			口頭(一般)		C_____	国外
	国内	日本災害情報学会 第 回学会大会	単名	いいえ	アオーレ長岡		口頭(一般)	東北地方太平洋沖地震後の被災地での情報ニーズと大学から情報発信	久利美和	国内
	国内	日本地震学会	その他の 連名	いいえ	朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター		口頭(一般)	減災アクションカードゲームによる地震・津波教育:予察	久松明史・牧野嶋文泰・渡邊俊介・金子亮介・山田修司・久利美和	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国内	日本地球惑星科学連合	高校生ポスター発表			パシフィコ横浜 会議センター	学会・シンポジウム	共同コンビナー		なし	国内
	国内	東北大学リーディング大学院・鹿児島大学地域防災教育研究センター	合同ワークショップ「文理融合による実践的災害・防災教育の可能性」			鹿児島大学地域防災教育研究センター・鹿児島市・	学会・シンポジウム	共同企画者		なし	国内

【教育活動】

教育活動の概要

実践的防災学 では火山について、実践的防災学 では科学コミュニケーションについて担当している。C 研修C で火山の無人探査機の開発に加わり、自主企画活動支援として、科学技術をめぐる様々な対立調停、小・中学生を対象とする参加型防災学習の新教材の開発と評価、無人火山観測装置の開発の3件のアドバイザー、メラビ火山の住民避難調査、いわき市の復興社会調査の2件の副アドバイザーを担当。その他、学生による学外向け合うとリーチ活動の支援を実施。また、1期生3名、2期生4名のメンターを担当。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
	実践的防災学Ⅰ(理学:地震、火山噴火、気象、宙空災害)	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		セメ	
	実践的防災学Ⅷ(分野横断:科学コミュニケーション・教育)	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		セメ	
	C 研修:安全工学フロンティア研修	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		通年	

【社会活動】

社会活動の概要

地学教育・防災教育の関連テーマについて、リーディング大学院・災害科学国際研究所・東北大学科学者の卵実行委員会・南三陸海岸ジオパーク準備委員会を窓口に乗せられたものについて対応を行なった。また、博士取得者の多様なキャリアパスにかかわる社会的活動にも関わっている。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	リーディング大学院	サイエンスデイ【ミニ講座】安全を知る・つくる・生きる(減災アクションカードゲーム)			仙台市・東北大学川内キャンパス	市民向け講演会・セミナー	企画・運営		なし	企画: 法人
	国内	リーディング大学院	サイエンスデイ【の部屋】地球の中をのぞいてみよう			仙台市・東北大学川内キャンパス	市民向け講演会・セミナー	企画・運営		なし	企画: 法人

	国内	任意団体 東北大学災害科学 国際研究所 南三陸 海岸ジオパーク準 備委員会	サイエンスデイ 巨大地震と津波の原 因を考えてみよう			仙台市・東北 大学川内キャン パス	市民向け講演会・セミ ナー	企画		共催	企画： 法 人
	国内	飛翔型「科学者の卵 養成講座」	第 回研究基礎コース			仙台市・東北 大学青葉山 キャンパス工 学部中央棟	小中高との連携	企画・運営		なし	
	国際	飛翔型「科学者の卵 養成講座」	第 回研究基礎コース 日英サイエンス ワークショップ ～英語によるプレゼン発表 会の見学			仙台市・東北 大学青葉山 キャンパス工 学部中央棟	小中高との連携	企画・運営		なし	
	国内	リーディング大学院	減災アクションカードゲーム勉強会			仙台市・市役 所	市民向け講演会・セミ ナー	学生企画支援		なし	
	国内	飛翔型「科学者の卵 養成講座」	第 回研究基礎コース			仙台市・東北 大学青葉山 キャンパス工 学部中央棟	小中高との連携	企画・運営		なし	
	国内	飛翔型「科学者の卵 養成講座」	第 回研究基礎コース			仙台市・東北 大学青葉山 キャンパス工 学部中央棟	小中高との連携	企画		なし	
	国内	リーディング大学院	減災アクションカードゲーム			仙台市・八木 山南小学校	小中高との連携	学生企画支援		なし	八木山南小学 校地域避難訓 練
	国内	リーディング大学院	みやぎサイエンスフェスタ サイエンスカ フェ「これからのエネルギー選択を考え る」			仙台第三高等 学校	小中高との連携	学生企画支援		なし	企画：仙台第 三高等学校コ ア
	国内	リーディング大学院	減災アクションカードゲーム			仙台市・宮城 野区公民館	市民向け講演会・セミ ナー	学生企画支援		なし	
	国内	飛翔型「科学者の卵 養成講座」	第 回研究基礎コース			仙台市・東北 大学青葉山 キャンパス工 学部中央棟	小中高との連携	企画・運営		なし	
	国内	南三陸海岸ジオ パーク準備委員会	山元町 「震災伝承ワークショップ 中浜小 学校の保存・活用を考える」			山元町・中央 公民館	市民向け講演会・セミ ナー	企画		なし	企画：山元町
	国内	南三陸海岸ジオ パーク準備委員会	サイエンスデイ@石巻 「石巻は赤道に あった ～石からわかる石巻～」			石巻市・中里 小学校	市民向け講演会・セミ ナー	企画・運営		なし	企画：特定非 営利活動法人
	国内	リーディング大学院	鹿児島大学地域防災教育研究センター・ 東北大学リーディング大学院合同イベント 「歴史・文化・地域から災害を学ぼう」			鹿児島市・か ごしま環境未 来館	市民向け講演会・セミ ナー	企画・運営		なし	
	国内	飛翔型「科学者の卵 養成講座」	第 回研究基礎コース			仙台市・東北 大学青葉山 キャンパス工 学部中央棟	小中高との連携	企画・運営		なし	
	国内	飛翔型「科学者の卵 養成講座」	第7回研究基礎コース			仙台市・東北 大学青葉山 キャンパス工 学部中央棟	小中高との連携	企画・運営		なし	
	国内	リーディング大学院	減災アクションカードゲームサブマスター 養成講座			仙台市・市民 活動サポート センター	市民向け講演会・セミ ナー	企画・運営		なし	協力：わしん倶 楽部
	国内	飛翔型「科学者の卵 養成講座」	第8回研究基礎コース(平成 年度発表 会 発展コース、重点コース、学校推薦・トライ アウト枠による研究発表会)			仙台市・東北 大学青葉山 キャンパス工 学部中央棟・ カターラサイ エンスキャンパ スホール	小中高との連携	企画		なし	
	国内	リーディング大学院	国連防災世界会議パブリックフォーラム 「東日本大震災の被災地域でのグローバ ル安全学リーダー人材の育成」			仙台市・東北 大学川内キャン パスC	市民向け講演会・セミ ナー	企画・運営		共催	
	国内	災害科学国際研究 所・南三陸海岸ジオ パーク準備委員会・ C	国連防災世界会議パブリックフォーラム 「被災地で考えるジオパーク 大地の災いと 恵み」			仙台市・東北 大学川内キャン パスC	市民向け講演会・セミ ナー	企画・運営		主催	

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	展示会	日本地球惑星連合大会	展示			リーディング大学院「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」紹介	リーディング大 学院「グローバ ル安全学トップ リーダー育成 プログラム」	パンフィコ横浜 会議 センター
	その他	日本地球惑星連合大会	相談会			キャリアパス相談会	日本地球惑星 連合キャリアパ ス	パンフィコ横浜 会議 センター
	小中高との連携	台湾教員研修	実習			蔵王火山現地討論会	仙台第三高等 学校	蔵王火山

	小中高との連携	古川黎明高等学校校外学習(大学模擬授業)	講義			エネルギー選択を考える 科学的情報から社会的意思決定へ	古川黎明高等学校	東北大学工学研究科
	小中高との連携	日英サイエンスワークショップ	実習			福島県吾妻山現地地討論会	福島高等学校コア	福島県浄土平ほか
	小中高との連携	日英サイエンスワークショップ	実習			仙台平野津波被災地現地地討論会	福島高等学校コア	仙台市・多賀城市・松島市ほか
	講演会・セミナー	秋田県高校物理教員研修	研修			高校課題研究の大学からの支援の現状と課題	秋田県教育庁	東北大学理学研究科
	公開講座	出前授業	実習			減災アクションカードゲーム	仙台市・通町児童館	仙台市・通町児童館
	講演会・セミナー	平成26年度学校安全教育指導者研修会	研修			減災アクションカードゲームによる児童向け防災・減災教育	宮城県スポーツ健康課学校安全体育班	気仙沼合同庁舎大会議室
	小中高との連携	山形県鶴岡南高等学校「情報・科学リテラシー」防災講話	講演			災害情報の活用	山形県鶴岡南高等学校	山形県鶴岡南高等学校
	公開講座	山元町「震災伝承ワークショップ 中浜小学校の保存・活用を考える」	講演			震災遺構に足を運ぶということ:活用事例を考えてみよう	山元町・南三陸開銀ジオパーク準備委員会	山元町中央公民館
	小中高との連携	出前授業	実習			減災アクションカードゲーム	仙台市・宮城教育大学附属中学校	仙台市・宮城教育大学附属中学校
	小中高との連携	第 回東北大学出前授業	講義			「たてなみ よこなみ よーいどん」緊急地震速報のお話	仙台市立遠見塚小学校	仙台市立遠見塚小学校
	展示会	東北大学イノベーションフェア	展示			減災アクションカードゲーム	東北大学	国際センター
	小中高との連携	飛翔型「科学者の卵養成講座」研究発展コース	実習			留学生向け「減災アクションカードゲーム」をつくる	飛翔型「科学者の卵養成講座」	東北大学工学研究科
	公開講座	「歴史・文化・地域から災害を学ぼう」	実習			キッチン火山	鹿児島大学地域防災教育研究センター・東北大学リーディング大学院	鹿児島市・かごしま環境未来館
	小中高との連携	鹿児島市立黒神中学校第7回防災教室	講義・実習			失敗お菓子に見る火山の世界／地球深部探査船「ちきゅう」	鹿児島市立黒神中学校	鹿児島市立黒神中学校
	小中高との連携	飛翔型「科学者の卵養成講座」研究基礎コース	講義			防災情報の活用に向けて ～御嶽山噴火を事例に考える～	飛翔型「科学者の卵養成講座」	東北大学工学研究科中央棟
	講演会・セミナー	女川向学館「語りの教室」	実習			減災アクションカードゲーム	法人カタリバ女川向学館	法人カタリバ女川向学館
	展示会	国連防災世界会議パブリックフォーラム「防災教育交流国際フォーラム」	展示			減災アクションカードゲーム	災害科学国際研究所	仙台市・東北大学川内キャンパスマルチメディア棟
	公開講座	楠葉ならでは祭	実習			減災アクションカードゲーム	福島県楠葉町	福島県楠葉町

自治体・民間等での委員

	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
	南三陸海岸ジオパーク準備委員会	南三陸海岸ジオパーク準備委員会	運営委員	
	古川黎明高等学校	運営指導委員会	委員	

杉安 和也 助教

Kazuya SUGIYASU

リーディング大学院

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
筑波大学	第三学群(現:理工学群)			筑波大学大学院	システム情報工学研究科			博士(社会学)		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				筑波大学大学院 システム情報工学研究科	非常勤研究員

所属学会

日本建築学会	地域安全学会	日本都市計画学会	日本地震工学会
--------	--------	----------	---------

学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
地域安全学会	東日本大震災特別委員会		
地域安全学会	安全・安心若手研究会	世話人	

研究分野・キーワード

都市計画	地域防災計画	復興まちづくり		
------	--------	---------	--	--

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
リーディング大学院	C 研修委員会	委員	

【研究活動】

研究活動の概要

(1) 「国内外における災害復興過程の比較・可視化に関する研究」 年インド洋津波、 年東日本大震災、 年フィリピン台風ハイエンといった国内外の災害被災地を対象に、災害復興における行政対応、被災者支援、復興計画、建物・インフラの復興過程を調査し、各々の災害復興過程を定性的・定量的に比較・可視化する手法を研究し、災害復興における特徴を明らかにしていくことを目的とする。
(2) 「津波避難における津波避難ビルの運用に関する研究」 迅速な津波避難を行う手法の一つとして、津波避難ビルの立地分布、指定数、避難容量、その維持管理等を解析する。
(3) 「効果的な津波避難訓練の実施とフィードバック手法に関する研究」 東日本大震災以降、各地で開催される津波避難訓練に参画し、訓練時のデータ取得および訓練結果の効果的な

研究課題

	期間				研究課題(内容)	学外連携
	開始年	月	終了年	月		
			現在		国内外における災害復興過程の比較・可視化に関する研究	
			現在		津波避難における津波避難ビルの運用に関する研究	
			現在		効果的な津波避難訓練の実施とフィードバック手法に関する研究	国内

論文

単著	筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無
----	------	--------	----	----	-------	-------	-------	-------

	記述言語	論文題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	年フィリピン台風 号ハイエンの被災・復興状況報告 年 月時点での国家対応およびセブ島・サマル島における住宅復興支援	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会梗概集						杉安和也, 村尾修, 葉袋奈美子, 花園和聖	筆頭共著	国内
	日本語	年フィリピン台風 号ハイエン復興状況報告 年 月時点におけるセブ島北部・サマル島・バセイを対象として	学術雑誌	無	いいえ	日本建築学会大会学術講演梗概集 都市計画(近畿)						杉安和也, 村尾修, 葉袋奈美子	筆頭共著	国内
	日本語	東日本大震災前後の防災・復興教育・学術研究機関の設立動向について	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学会東日本大震災特別論文集						杉安和也, 久利美和	筆頭共著	なし
	日本語	フィリピン・台風ハイエンによる住宅及び人的被害の特性―災害被害と脆弱性の関連性―	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文						花園和聖, 村尾修, 杉安和也	共著	なし
	日本語	藤沢市片瀬西浜・鶴沼地区における津波避難ビル収容能力を考慮した津波避難計画	学術雑誌	有	いいえ	地域安全学会論文						関脩一, 村尾修, 杉安和也	共著	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著		筆頭共著	その他の共著	合計	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無					
						国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無					
	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	共著区分	学外連携
	日本語	多様な自然災害から巨大な自然災害による複合災害への対策へ	大学紀要	無	いいえ	兵庫行動枠組み ー災害に強い国 地域の構築ー 年東日本大震災から見えてきたこと						久利美和 杉安和也	共著	なし
	英語	C	大学紀要	無	いいえ							杉安和也 花岡和聖, 杜尾修	筆頭共著	国内
	日本語	東日本大震災連続ワークショップ開催報告	宮古 その他	無	いいえ	地域安全学会 ニューズレター						杉安和也	単著	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
----	------	--------	----

	国内国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	学外連携
	国際	C	単名	はい	タイ, バンコク		公募 シンポジウム・ワークショップ・パネル		杉安和也	国外

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDeSの関与	学外連携
				開始年月	終了年月						
	国内	地域安全学会	東日本大震災連続ワークショップ 宮古			宮古市総合体育館(岩手県宮古市)	学会・シンポジウム	運営担当		後援	国内
	国内	グローバル安全学教育研究センター	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム平成 年度シンポジウム			東北大学青葉山キャンパス中央棟(宮城県仙台市)	学会・シンポジウム	運営担当		なし	国内
	国際	グローバル安全学教育研究センター	国連防災会議プレイベント 福島沿岸スタディツアー			福島県いわき市	学会・シンポジウム	運営担当		共催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

リーディング大学院専任教員として、C 研修「気仙沼広域生活圏のジオデザイン」およびC 研修総括教務補助を担当した。加えて実践的防災学Ⅳの講義を担当し本講義において東日本大震災、インド洋津波やフィリピン台風ハイエン等から得られた防災・復興に関する知見を都市計画の側面から解説した。また、リーディング大学院の講義・社会連携活動において運用する各種 ICT 機材の運用・整備を担当した。さらに他大学リーディング大学院と本学との交流企画を運営した。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	安全工学フロンティア研修	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		前期	
	実践的防災学Ⅳ	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		前期	

【社会活動】

社会活動の概要

(1)津波避難訓練支援 福島県いわき市平薄磯地区・岩手県陸前高田市において、津波避難訓練の企画・運営支援を実施した。(2)津波防災の日シンポジウムの運営 岩手県宮古市において宮古市役所と連携し、津波復興・防災の啓発企画を運営した。(3)防災意識啓発のための体験講義 古川黎明高校生の校外学習の一環として、都市デザイン(まちづくり)に関する講義を開催した。(4)若手研究者・実務者の交流を目的とした研究・実務交流・発表会を運営した。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・会場	講演会・セミナー等	担当	参加人数	IRIDeSの関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	災害復興学会、みやぎ連携復興センター、東北大学災害科学国際研究所、グローバル安全学教育センター	日本災害復興学会 若手交流会一実務者と研究者でつくるネットワーク			仙台市・東北大学青葉山キャンパス総合研究棟	その他	運営担当		協力	その他:行政・との連携
	国内	地域安全学会、宮古市、東北大学災害科学国際研究所	津波防災の日シンポジウム～津波防災に関する各地の取り組み～			岩手県宮古市・岩手県立大学宮古短期大学部	市民向け講演会・セミナー	運営担当		共催	

	国内	カケアゲレ！日本企画委員会、東北大学災害科学国際研究所、グローバル安全学教育センター、河北新報社、株式会社電通・電通東日本、いわき市薄磯地区復興協議委員会	福島県いわき市薄磯区避難訓練			福島県いわき市平薄磯地区	その他	運営・支援担当		共催	その他：津波避難訓練
	国内	イオンスーパーセンター陸前高田店、陸前高田市、カケアゲレ！日本企画委員会、東北大学災害科学国際研究所、岩手日報社、河北新報社、電通グループ	岩手県陸前高田市イオンスーパーセンター陸前高田店 津波避難訓練			福島県いわき市平薄磯地区	その他	運営・支援担当		共催	その他：津波避難訓練

セミナー・講演・講義等

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	主催者	都市・会場
				開始年月日	終了年月日			
	小中高との連携	古川黎明高校スーパーサイエンスハイスクール企画校外学習	体験講義			都市デザイン(まちづくり)	古川黎明高校、グローバル安全学教育センター	仙台市・東北大学青葉山キャンパス中央棟
	講演会・セミナー	日本災害復興学会 若手交流会ー実務者と研究者でつくるネットワークー	基調講演			海外における復興事例報告：フィリピン台風ハイエンでの取り組み	災害復興学会	仙台市・東北大学青葉山キャンパス総合研究棟

他研究機関・協定締結校との交流実績

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	都市・会場	国内 国外	主な担当 内容	参加 人数
	京都大学グローバル生存学大学院連携プログラム	教授、 准教授 他 計 名		その他	仙台市・東北大学青葉山キャンパス総合研究棟	国内	運営	
	同志社大学グローバルリソースマネジメントプログラム	助教 他、 名		その他	仙台市・東北大学青葉山キャンパス災害科学国際研究所	国内	運営	

地引 泰人 助教

Yasuhito JIBIKI

リーディング大学院

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
慶應義塾大学	法学部			東京大学大学院	学際情報学府			学際情報学博士		

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				帝京大学	非常勤講師
				日本学術振興会	特別研究員(C)
				東洋大学 社会学部	非常勤講師
				東京大学 情報学環	特任助教
				成城大学	非常勤講師

学会活動

所属学会

日本国際政治学会	日本災害情報学会	日本自然災害学会	地域安全学会
----------	----------	----------	--------

研究分野・キーワード

国際関係論	国際政治学	人道支援	国際防災政策
-------	-------	------	--------

【研究活動】

研究活動の概要

(1) 国際防災政策の歴史的変遷の研究
国際防災政策の歴史的変遷を、公開されている国連文書の内容分析を通じて明らかにする。その際に、防災に近接する開発援助、環境問題や気候変動などの領域との関連性に着目する。
(2) フィリピン台風の災害対応・復興に関する研究
年 月の台風ハイエンによる被害について、一般住民の避難行動、情報伝達の課題、復興についての研究を行う。

著書(監修・編著・単著・共著)

監修		編著		単著		筆頭共著		共著		合計		うち	国際		国内	
----	--	----	--	----	--	------	--	----	--	----	--	----	----	--	----	--

	記述言語	著書名・担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	学外連携
	日本語	東日本大震災と被災・避難の生活記録・大学の防災における安否確認に関する考察	単行本		吉原直樹, 仁平義明, 松本行真(編著)	単著	六花出版	国内

学会発表

単名		筆頭連名		その他の連名		合計	
----	--	------	--	--------	--	----	--

	国内 国際	会議名称	区分	招待	場所	発表年月日	講演・発表の形態	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	学外 連携
	国内	日本災害情報学会第 回学会大会	筆頭連名	いいえ	長岡市		口頭(一般)	開発途上国における早期警報システムに関する分析ーインドネシア・ケルート火山を事例にー	地引泰人, 関谷直也, 田中淳	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計		件
----	--	---

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSとの関与	学外 連携
				開始年月	終了年月						
	国際	東北大学リーディングプログラム推進機構グローバル安全学教育研究センター				東北大学川内北キャンパス(宮城県仙台市)	学会・シンポジウム	運営担当		共催	国内

【教育活動】

教育活動の概要

東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム(通称「リーディング大学院」)において実践的防災学 (国際防災政策)などを担当している。

担当授業科目

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
	実践的防災学	東北大学	リーディング大学院	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		セメ	

中鉢 奈津子 特任助教

Natsuko CHUBACHI

広報室

【基本情報・略歴】

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
京都大学	文学部			カナダ・クイーンズ大学大学院	地理学部					

職歴

期間				勤務先	職名
開始年	月	終了年	月		
				アリゾナ州立大学大学院 地理学部	非常勤講師
				国際移住機関ジュネーブ本部 移住問題総合政策局	インターン
				在ホノルル日本国総領事館 広報文化班	外務省専門調査員
		現在		東北大学 災害科学国際研究所 広報室	特任助教

学会活動

所属学会

人文地理学会	アメリカ地理学会
--------	----------

研究分野・キーワード

広報学	サイエンス・コミュニケーション	災害研究の社会発信	人文地理学
-----	-----------------	-----------	-------

【社会活動】

社会活動の概要

広報担当として、当研究所活動の国内外への社会発信に携わった。具体的には、広報誌イリデリス・クォーター編集長として同誌を編集し、また、新聞・ラジオ等メディアから当研究所への取材依頼の調整や、当研究所による記者会見の企画・運営を行った。効果的なメディア発信に関する研究者向け講座を、所内・学内で企画・運営したほか、プレスリリース・年次活動報告書編集・広報ビデオ英語版作成・ウェブ発信等に携わった。

セミナー・講演等の主催・共催・運営等

合計	件
----	---

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		都市・ 会場	講演会・セミナー等	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	備考
				開始年月日	終了年月日						
	国内	災害科学国際研究 所	メディア広報講座			東北大学青葉 記念会館	所内向け講演会・セミ ナー	運営担当		主催	
	国内	災害科学国際研究 所	メディア対応講習会			東北大学工学 部総合棟	所内向け講演会・セミ ナー	運営担当		主催	
	国内	東北大学男女共同 参画推進センター	女性研究者のためのメディア対応セミ ナー			仙台市・東北 大学片平北門 会館	学内向け講演会・セミ ナー	運営担当		共催	
	国内	災害科学国際研究 所	メディアトレーニング			東京博報堂	所内向け・その他	運営担当		主催	

5 教育活動

教育活動

1. 教育活動の目標と概要

本研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、わが国の自然災害対策・災害対応策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えへのパラダイムを作り上げることを設立理念としている。このため、本研究所の教員のすべては、災害に強い社会を醸成するための市民力の向上に寄与するための教育活動を推進する責務を有しており、小・中・高校との連携を含む学外での教育・啓発活動は4章の「専任教員の活動報告」の中に紹介されているほか、次章の「研究成果の社会発信」において総括している。本章では、学内の教育活動の計画と現状を述べる。

学内の教育活動について、本研究所の中期計画では以下のような内容を定めている。

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

○全学教育、関連部局の学部や大学院の科目において、災害科学に関する基礎的な知識を提供する。

○災害科学に関する実践的研究の成果を紹介するフォーラムを定期的に開催し、これを大学院の学生に公開する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

○災害科学に関する基礎知識を教育する全学教育科目を提供する。

○災害科学・実践的防災学に関する大学院科目を提供し、災害対応を担う人材育成を行う。

(3) 学生の支援に関する目標を達成するための措置

○大学院の学生が、災害科学に関する最新の研究発表・聴講ができる支援体制をつくる。

○国際連携のための仕組みをつくり、大学院の学生の海外における災害科学に関する研修を支援する。

上記の目標に対して、平成24年度は各教員が兼担している学部・学科・研究科における学部専門教育・大学院教育の中で、災害科学に関連する教育を行うことと並行して、本研究所独自の全学教育科目のカリキュラム設計と実施体制の検討、平成24年10月に設置されたリーディング大学院「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」のカリキュラム設計への参画と講義、実習の開設準備を行った。また、大学院学生への支援を開始した。

平成25年度にはこれらの準備を受けて、全学教育の新設科目、リーディング大学院プログラムにおける講義、実習科目を実際に開設し、平成26年度も順調に推移している。また大学院生への支援も継続して実施している。

2. 全学教育の実施状況

東北大学では、初年次学生に大学での勉学・研究の意義を理解させる導入科目として、少人数形式の「基礎ゼミ」科目を設定しており、各部局が専任教員数に応じて複数のゼミを提供することとなっている。平成26年度は本研究所において3科目を提供した（災害リスク研究部門：今村文彦教授、越村俊一教授、後藤和久准教授、サッパシー・アナワット准教授、今井健太郎助教、菅原大助助教、安倍祥助手、保田真理助手、福谷陽助手／人間・社会対応研究部門：井内加奈子准教授／災害医学研究部門：服部俊夫教授が担当）。

他方、全学教育講義科目として、本研究所設立時の振替定員に基づき8科目以上の提供が要請されている。このうち6科目はカリキュラムの連続性の制約から、心理学、教育学を2科目（人間・社会対応研究部門：邑本俊亮教授）、歴史学を1科目（人間・社会対応研究部門：佐藤大介准教授）、そしてBCPを1科目（人間・社会対応研究部門：丸谷浩明教授）提供し、残る2科目は本研究所の教育目標に従う講義科目を開講した。

東日本大震災の被災地の中心に存在する東北大学では、自然災害の基本的なメカニズムと対応の考え方について、すべての学生が基本的な知識と自ら考える能力を持つことが望まれる。この目的を達成するため、カレントトピックス科目として「災害の科学」を開講し、「災害の科学－災害の発生と波及－」、「災害の科学－災

害対応」の2科目を提供し、平成26年度はそれぞれ14名、21名の学生が受講した。

「災害の科学－災害の発生と波及－」の目的は、東北地方太平洋沖地震・津波をはじめとする巨大災害の発生メカニズムと、それによる自然・人間・都市・社会の被害の様相について、現時点までの理学、工学、医学分野での科学的理解を学び、防災・減災を考える基礎を習得することにある。自然災害の発生（地震、津波、火山噴火、異常気象）とそれが社会を襲うことにより発生する被害のメカニズム（地震、津波、土砂災害による、建築物、構造物、都市の被害）、災害時の疾病と医学（災害救急、感染症、PTSD、公衆衛生の確保）など、これらの基礎をオムニバス形式で講義し、過去の巨大災害の事例を踏まえて、災害の様相を的確にとらえるための技術、生命・都市・社会の被害を軽減するための基本的考え方を理解させた。

「災害の科学－災害への対応－」の目的は、東日本大震災をはじめとする巨大災害発生時の人間・社会の行動の特徴と課題を学ぶとともに、これらの災害に対し強靱性を持った（レジリエント）な都市、地域、社会を作り上げていくための人文的、社会的、工学的な対応策を学び、今後の防災・減災を考える基礎を習得することにある。そのため、災害時の人間・社会の行動（情報・交通途絶と対応、リスク認知、避難行動、社会・経済への影響）、災害に強い都市・地域の構築・再生（耐火・地震設計、防災都市計画、復興計画）、災害情報と災害文化（災害アーカイブ、災害経験の伝承、文化財保全、災害教育）の基礎をオムニバスで講義し、今後災害に対して強靱な（レジリエント）な都市、地域、社会を作り上げていくための基本的な考え方を理解させた。

3. リーディング大学院における教育活動の概要

リーディング大学院「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」の目的は、我国や世界が直面する、巨大地震や津波などの自然災害あるいは気候変動、エネルギーセキュリティ問題等を解決し、人類社会の持続性及び安全安心な社会構築に寄与するグローバル安全学分野のトップリーダー人材を育成することである。科学・技術・人文社会科学の研究者が連携したプログラムにより、「安全安心を知る」、「安全安心を創る」、「安全安心に生きる」という3つの視点からリーダーを養成するために、平成24年度の準備期間を経て、平成26年度も「実践的防災学 I-VIII」、「安全工学フロンティア研修（C-lab）」などの授業を提供し、教育活動を実施した（詳細は、「第4章 研究活動（1）研究部門・分野概要 リーディング大学院」p.57を参照のこと）。

4. 学生の支援と研究指導

本研究所が月に1回主催している金曜フォーラムは、研究所の専任・兼務教員が各分野の研究視点やプロジェクト研究の成果を報告し討論する場であるが、これを大学院生にも公開し、災害研究の多様な研究方法や研究成果を学ぶ機会を提供している。平成26年度は、国内167件、外国29件の大学院生に対する学会やワークショップへの参加および発表の支援を行った。また、国外の学術機関と協力協定を締結し、経済的負担を下げると同時に研修先の情報を得やすくした。

以上の結果、平成26年度の本研究所の教員の学生への研究指導とその成果は、以下のようである。

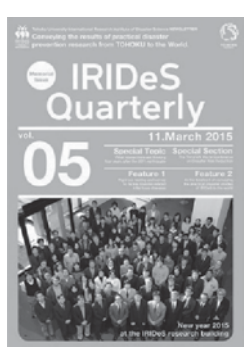
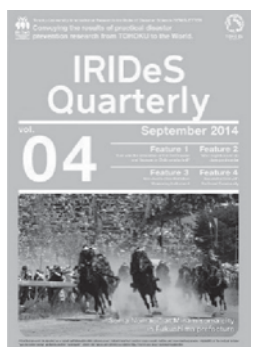
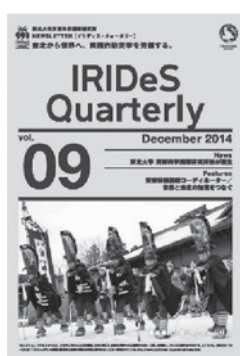
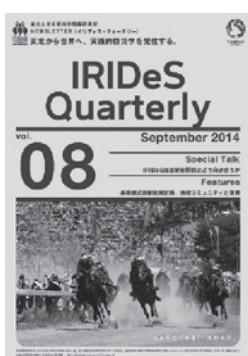
博士論文指導（主査・副査）：	26 件
修士論文指導（主査・副査）：	53 件
卒業論文指導：	41 件
博士学位取得（学内・学外）：	7 件
留学生受け入れ：	28 名

6 研究成果の社会発信

(1) 刊行物

災害科学国際研究所の研究成果や多様な社会活動の現状を、所外の市民・防災関係者等に広く発信するため、平成 年度も広報誌2種を刊行した。ニューズレター「 (イリディス・クォーターリー)」は、ニュース性の高い最新情報を、「 (イリディス・レポート)」は、国内外における社会と関わりの深い研究活動や地域連携事例を中心に紹介した。詳細は以下のとおり。

- 日本語版 編集・発行：東北大学災害科学国際研究所ニューズレターワーキンググループ
 - ・ (発行)
 - 特集：新体制紹介、チリ地震津波シミュレーション、災害時ロジスティクス
 - ・ (発行)
 - 特集：放射能との向き合い方(座談会)、非破壊式放射能測定器、地域コミュニティと復興
 - ・ (発行)
 - 特集：災害科学国際研究所棟完成、災害医療コーディネーター、世界と東北の知見をつなぐ
 - ・ (発行) メモリアル号
 - 特集：第3回国連防災世界会議、研究者たちが今考えること(座談会)、災害感染症
- 英語版
 - ・ (発行) 内容：日本語版 および
 - ・ (発行) 内容：日本語版 および
- (イリディス・レポート) 03 日本語版・英語版 編者・発行：東北大学災害科学国際研究所
 - 発行 内容：被災地とともに歩んだ3年間の道のり



(2) IRIDeS 金曜フォーラム

概要

IRIDeS 金曜フォーラムは、災害科学国際研究所で行われている研究・活動の情報を所内のみならず学内外・一般の方々と広く共有し、研究の連携・融合を図ることを目的に開催する、定期的な発表・討論の場である。

発表テーマ

主に研究所の教員・スタッフが、各部門・分野での国際的・学際的な研究テーマについて発表するほか、災害発生時の調査報告や、大型研究プロジェクトの成果報告なども随時紹介する。

参加方法

東北大学工学部中央棟 2F 大講義室または総合研究棟 1F 講義室 (101) を会場として実施。事前の申し込み不要、参加費無料。

第 18 回 『被災地の復興はどこまで進んだのか?』 平成 26 年 5 月 23 日 (金) 16 時 30 分～

会場：東北大学工学部中央棟 2F 大会議室

1. 復興を支える「生きる力」

杉浦 元亮 (人間・社会対応研究部門 災害情報認知研究分野)

2. 石巻市における復興計画と大学の取り組み

小林 徹平 (情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野)

3. 復興計画の実装とその課題-東日本大震災から 3 年を経て-

小野田 泰明 (情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野)

4. 東日本大震災に照らした我が国災害対策法制の問題点と課題に関する実証研究Ⅲ (災害復興・災害予防編)

島田 明夫 (人間・社会対応研究部門 防災法制度研究分野)

第 19 回 『災害ロジスティクス』 平成 26 年 6 月 27 日 (金) 16 時 30 分～

会場：東北大学工学部中央棟 2F 大会議室

1. An agent-based model for resource allocation after large scale disaster

Das Rubel (人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野)

2. 東日本大震災における支援物資ロジスティクスの実態と課題

福本 潤也 (情報科学研究科)

3. 都市再生計画技術分野における小地域を対象とした人口・世帯基礎データの整備状況について

石坂 公一 (地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野)

4. 空間的な燃料不足実態の推定と携帯電話位置データによる検証

奥村 誠 (人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野)

第 20 回 (平成 25 年度特定プロジェクト研究成果報告会) 平成 26 年 7 月 13 日 (日) 9 時～17 時

会場：東北大学片平キャンパス 片平さくらホール

・口頭発表 (拠点研究 A・拠点研究 B の一部)

1. 構造ヘルスマニタリング機能を有する次世代早期地震警報システムの開発

源栄正人 (災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野)

2. 1611 年慶長奥州地震津波の総合的調査およびデータベース構築

今村文彦 (災害リスク研究部門 津波工学研究分野)

3. 行動科学にもとづいた新しい防災戦略の提案

馬奈木俊介 (人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)

4. 災害発生直後の救援活動に資する広域被害把握技術の社会実証
越村俊一（災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野）
 5. 生きる力とは何かー震災時行動の認知科学的分析
杉浦元亮（人間・社会対応研究部門 災害情報認知研究分野）
 6. 反射法地震探査による活断層（山形盆地）の地下構造解明と活動性評価
今泉俊文（災害理学研究部門 地盤災害研究分野）
 7. 東北地方太平洋沿岸域における段丘・埋没地形の分布高度・編年に基づく長期地殻変動の復元と
巨大海溝型地震にともなう歪みの蓄積・解放過程の解明
丹羽雄一（災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野）
 8. 人間の安全保障に向けた災害感染症への取り組み
服部俊夫（災害医学研究部門 災害感染症学分野）
 9. 災害関連精神疾患への支援体制整備のための基礎研究
富田博秋（災害医学研究部門 災害精神医学分野）
 10. 震災時ストレスとその後の生活環境変化が婦人科疾患に及ぼす影響の解析
伊藤潔（災害医学研究部門 災害産婦人科学分野）
 11. 歯を用いたヒト内部被曝歴の解析ー福島・宮城県在住小児の脱落乳歯を用いた線量評価ー
鈴木敏彦（災害医学研究部門 災害口腔科学分野）
 12. 石巻市（市街地部）の物的空間の再・創生のための研究及び実践活動
小野田泰明（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）
 13. 研究所の実践的防災学の知見を国際防災政策に反映させるための研究
小野裕一（情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス）
 14. 災害の記憶・記録に関する拠点間の連携を通じた災害アーカイブ学の探求
佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野）
 15. 津波による海岸樹木の被害リスク評価手法の高度化
今井健太郎（災害リスク研究部門 津波工学研究分野）
 16. 仙台湾～三陸沖における巨大津波の波源域の時空間的分布および古津波規模の解明
菅原大助（災害リスク研究部門 低頻度リスク評価研究分野）
- ・ポスターセッション：拠点研究 B（上記以外）・拠点研究 C・連携研究 a・b・c
 - ・スライドショー：共同研究 A・B

第 2 1 回 『地震・津波の新しい考え方（1）』 平成 26 年 8 月 22 日（金）16 時 30 分～

会 場：東北大学工学部総合研究棟 1F 講義室（101）

1. 東北地方太平洋沖地震後の海底地殻変動観測の成果と今後の計画
木戸 元之（災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野）
2. 超高層ビルの層間せん断波速度の抽出およびヘルスマonitoringへの応用
王 欣（災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野）
3. 防潮堤問題の整理と評価指標
真野 明（災害リスク研究部門 災害ポテンシャル研究分野）
4. Applications of agent based simulation to support tsunami disaster mitigation
Eric Mas（災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野）

第 2 2 回 『地震・津波の新しい考え方（2）』 平成 26 年 9 月 26 日（金）16 時 30 分～

会 場：東北大学工学部総合研究棟 1F 講義室（101）

1. 東北地方兵庫県南部地震から 20 年：活断層・内陸地震研究の進展と課題
遠田 晋次（災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野）
2. 地形・地質データに基づく長期地殻変動の復元—超巨大地震繰り返しモデル構築に向けた基礎情報—
丹羽 雄一（災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野）
3. 津波リスク評価に関する研究
福谷 陽（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）
4. 三陸海岸で見出された古津波堆積物と歴史津波との対比
石村 大輔（災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野）

第 23 回 『災害とコミュニケーション』 平成 26 年 10 月 24 日（金）16 時 30 分～

会 場：東北大学工学部総合研究棟 1F 講義室（101）

1. 石巻市の復興の現状と課題
笹野 健（石巻市 副市長）
2. 災害のディスコースはどのように理解されるのか ※ディスコース：対話・言説
邑本 俊亮（人間・社会対応研究部門 災害情報認知研究分野）
3. 復興過程のなかのコミュニケーション—復興過程の「見える化」と被災者見守り活動の事例調査—
佐藤 翔輔（情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野）
4. 災害前・中・後のリスク・コミュニケーション—災害精神医学的観点から—
富田 博秋（災害医学研究部門 災害精神医学分野）

第 24 回 『災害医療・保健を支える技術』 平成 26 年 11 月 28 日（金）16 時 30 分～

会 場：東北大学災害科学国際研究所棟 1 階多目的ホール

1. 東日本大震災における薬剤師会の支援活動について
丹野佳郎（石巻薬剤師会 専務理事）
2. 日本 DMAT の活動と広域災害救急医療情報システム
鶴和美穂（国立病院機構災害医療センター、厚生労働省 DMAT 事務局）
3. データ活用基盤としての医療情報システム
中山雅晴（災害医学研究部門 災害医療情報学分野）
4. 大規模数値シミュレーションとデータ同化による革新的地震・津波減災ビッグデータ解析基盤の創出
越村俊一（災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野）

第 25 回 『災害を生き抜くために』 平成 27 年 1 月 23 日（金）16 時 30 分～

会 場：東北大学災害科学国際研究所棟 1 階多目的ホール

1. 市民アンケートに見る東日本大震災直後の暮らしの状況：そのとき、誰に連絡をとろうとしたのか、
誰が頼りになったのか、医療・介護はどうなった？
吉田 浩（人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野）
2. 津波避難をめぐる近年の取り組み
杉安 和也（リーディング大学院 グローバル安全学教育研究センター）
3. ゲームブックを用いた高齢者向けの災害教育の実践
野内 類（人間・社会対応研究部門 災害情報認知研究分野）
4. 新しく発見されたパラオの津波記録：太平洋における巨大津波のリスク
Joseph Kirschvink（カリフォルニア工科大学）

第26回 『歴史に見る災害』 平成27年2月27日（金）16時30分～

会場：東北大学工学部中央棟 2F 大会議室

1. 歴史のなかの災害観—人々は津波をどのように捉えてきたか
川島 秀一（人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野）
2. 明治期感染症予防の問題点
竹原 万雄（東北芸術工科大学）
3. 歴史の中の鼠害と鼠禍 ～安政2年のネズミ大量発生を中心に～
安田 容子（人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野）
4. 江戸時代・村のリーダーによる飢饉への備えと社会—19世紀初めの北上川河口地域を事例に—
佐藤 大介（人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野）

(3) 各種メディアでの紹介

	配信日	分類	配信社名	タイトル	掲載・出演教員名	種別
		新聞（その他）	建設新聞社	報告書で検討手順など示す 津波防災推進計画策定連絡会	今村文彦	報道
		テレビ	C テレビ（コミュニティネットワーク佐渡）	佐渡市防災研修会	佐藤翔輔	報道
		テレビ	東北放送	ニュース	今村文彦・菅原大助	資料提供
		新聞（地方）	河北新報	多賀城市が防災手帳全戸配布へ 避難の心構え紹介	災害科学国際研究所	報道
		新聞（地方）	河北新報	リレーエッセー 医進伝心／震災後のメンタルヘルス	富田博秋	報道
		新聞（地方）	河北新報（他社）	チリ北部沿岸で発生した地震・津波に関する報道記者発表	今村文彦 今井建太郎 マスエリック 保田真理	資料提供
		新聞（全国）	朝日新聞	早朝の津波、列島警戒 岩手、避難所を開設 チリ地震	今村文彦	報道
		テレビ	仙台放送	チリ地震津波 津波防災専門家、万全の準備をと注意呼びかけ	今村文彦	報道
		新聞（地方）	河北新報	余震・連動地震で津波も 東北大災害研解析	災害科学国際研究所、今村文彦	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	早朝の津波、列島警戒 岩手、避難所を開設 チリ地震	今村文彦	報道
		テレビ		東北Z サンドウィッチマンの どうなってる？ 被災地の住まい	小野田泰明	出演
		新聞（全国）	共同通信社（他社）	文化丁寧に議論すべきー「寄りクジラ」に思う」	川島秀一	報道
		テレビ	・テレ	「先人たちの底力 知恵泉（ちえいず）」 トップは発想せよ！「伊達政宗」（後編）	蝦名裕一	出演
		その他	週刊朝日	チリ地震で津波恐怖再び まだある日本沿岸リスク	今村文彦	報道
		新聞（地方）	宮古毎日新聞	伝統祭配から災害学ぶ／電通がナニバイ視察	災害科学国際研究所	報道
		新聞（全国）	日本経済新聞	ロボVB争奪過熱 米IT大手、日本勢に次々触手	田所論	報道
		新聞（地方）	河北新報	防災・減災のページ 津波ハザードマップ、不確かさを数値化 評価の信頼性明示	福谷陽	報道
		新聞（地方）	河北新報	東日本大震災 災害研3年目／命を守る研究・発信に全力を	災害科学国際研究所	報道
		新聞（地方）	河北新報	震災前の営み伝える 小冊子シリーズ刊行 東北芸工大	川島秀一	報道
		その他	富士通	東北大学 災害科学国際研究所と共同で、波源からの伝播過程を反映した三次元津波シミュレーター開発に成功 津波被害予測を高精度化し、災害に強い街づくりへ貢献	災害科学国際研究所	報道
		新聞（地方）	河北新報	<蔵王山>研究者、油断せず冷静に	三浦哲	報道
		新聞（その他）	日刊工業新聞	富士通・東北大、津波の遡上を精緻に再現する3Dシミュレーター開発	災害科学国際研究所	報道
		その他	日経バイオテク	富士通株式会社、東北大学災害科学国際研究所と共同で、波源からの伝播過程を反映した三次元津波シミュレーター開発に成功	災害科学国際研究所	報道
		その他	クラウド	富士通と東北大、精緻な「三次元津波シミュレーター」を開発	災害科学国際研究所	報道
		新聞（その他）	建設通信新聞	【復興まちづくり】住民の愛着高めてコンパクト化を 平野勝也准教授に聞く	平野勝也	報道
		新聞（その他）	建設通信新聞	【日本建築学会賞】大賞に柴田氏、村上氏 作品部門は菅氏ら 件 名に	村尾修	報道
		その他		街や川を遡上する津波を精緻に再現	災害科学国際研究所、今村文彦	報道
		新聞（その他）	財経新聞（他社）	で津波の様子を再現 富士通、東北大がシミュレーター開発	災害科学国際研究所	報道
		新聞（地方）	河北新報	高レベル放射性廃棄物処分地の候補 東北の太平洋側に複数？	遠田晋次	報道
		新聞（地方）	建設通信新聞	建設事業に関する技術開発支援事業（震災関連テーマ 件）	佐藤翔輔	報道
		新聞（全国）	読売新聞	魚水揚げ 即放射能検査	石井慶造	報道
		新聞（その他）	建設通信新聞	東北地域づくり協会「東日本大震災アーカイブ（みちのく震録伝）を利用した防災・減災に係る社会技術開発」	佐藤翔輔	報道
		新聞（地方）	河北新報	防災対策次世代に 宮城・亘理で「むすび塾」	保田真理	報道
		その他	エムレビュー	次の災害に備えて病院「受援力」を向上させるためにー被災地医療機関の「受援計画」に関するアンケート調査から見えてきたことー	佐々木宏之	報道
		テレビ	仙台放送	「減災」小中学校で出前授業を行うなどのプロジェクト開始へ	保田真理	報道
		新聞（地方）	三陸新報	災害時どう行動すべきか 気仙沼中 東北太と連携し防災学習	安倍祥	報道
		新聞（全国）	産経新聞	ハンカチで減災教育「結」プロジェクト始動 東北大など	保田真理	報道
		新聞（地方）	河北新報	「減災ハンカチ」手元に 東北大、宮城県内の小5に配布へ	保田真理	報道
		その他	仙台経済界	次世代の外科医療、災害医学を東北から発信	江川新一	報道
		新聞（地方）	河北新報	震災の記憶を伝え、形を残すことの意味を考えるパネルトークが開かれました	保田真理	報道
		新聞（地方）	毎日新聞	今週の本棚 磯田道史・評『巨大津波 地層からの警告』＝後藤和久・著	後藤和久	報道
		新聞（全国）	読売新聞	日本海側 メートル津波 過去 年間で 回	今村文彦	報道
		新聞（全国）	日本経済新聞	恐竜絶滅させたのは酸性雨？ 隕石衝突で新説浮上 植物が枯死、海もダメージ	後藤和久	報道
		ラジオ	仙台	政府・地方自治体の防災対応の見直し（出演して説明）	丸谷浩明	出演
		新聞（地方）	河北新報（他社）	これから 第19部・研究者の思い（1）震災アーカイブ／防災の礎 世界と共有	災害科学国際研究所、みちのく震録伝、今村文彦、柴山明寛	報道
		新聞（地方）	河北新報	C 震災4年目／余震の中で新聞を作る113～風評の厚き壁を前に／苦悩と議論を持ち寄り	石井慶造	報道
		その他		複合材料を用いた薄板構造物の物性値予測が可能なマルチスケールC ツール「」をリリース	遠田晋次	報道
		新聞（地方）	河北新報	多重防壁など津波対策学ぶ 17日・岩沼でシンポ	佐藤翔輔	報道
		新聞（全国）	毎日新聞	<子ども向けハンカチ>災害時に活用できる日ごろの備えを印刷ー東北大製作	保田真理	報道
		新聞（地方）	河北新報	メタボ対策、宮城県が本腰 生活習慣など調査へ	小坂健	報道
		新聞（地方）	河北新報	防災・減災のページ 運転者の行動から車の流れ予測 適切な避難計画提案	金津英	報道
		新聞（地方）	河北新報	防災・減災のページ 初動と備え「心得」に要点	保田真理	報道
		新聞（全国）	日本経済新聞	震災関連の画像サイトに2万点 宮城・多賀城市	災害科学国際研究所	報道
		その他	ニュース	深刻な汚染解消されぬ「小島の森」、福島市の除染は？	石井慶造	報道
		新聞（その他）	建設通信新聞	復興住宅のこえ 宮城がまちの再生めぐるシンポジウム	小野田泰明	報道
		新聞（全国）	読売新聞	不安招く描写に批判 「美味しんぼ」問題 風評被害の恐れ、住民「謝罪して」	細井義夫	報道
		新聞（その他）	東北大学新聞	【特集】震災研究特集 ～災害科学国際研究所から～	災害科学国際研究所	報道
		新聞（その他）	東北大学新聞	【震災研究特集】災害科学国際研究所・今村新所長インタビュー	今村文彦	報道
		新聞（その他）	東北大学新聞	【震災研究特集】地域再生より効率的に～災害科学国際研究所②都市再生計画技術	石坂公	報道
		テレビ	仙台放送	震災で石巻市の漁港から流出した漁船が沖縄で見つかる	今村文彦	報道
		新聞（その他）	東北大学新聞	【震災研究特集】「生きる力」防災に生かす～災害科学国際研究所③災害情報認知研究分野～	災害情報認知研究分野	報道
		新聞（その他）	東北大学新聞	【震災研究特集】災害ストレスケア 方針探る～災害科学国際研究所④災害精神医学分野～	富田博秋	報道
		新聞（その他）	東北大学新聞	【震災研究特集】地上の災害 宇宙で観測～災害科学国際研究所⑤宇宙災害研究分野～	宇宙災害研究分野	報道
		新聞（その他）	東北大学新聞	【震災研究特集】現行法体制 実態と照らして～災害科学国際研究所⑥防災法研究分野～	島田明夫	報道
		新聞（その他）	東北大学新聞	【震災研究特集】津波被害 軽減目指す ～災害科学国際研究所⑦津波工学分野～	津波工学研究分野	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	美味しんぼ、苦い後味 編集部「表現のあり方見直す」	細井義夫	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	「実践的防災」シンポで紹介	佐藤翔輔	報道
		新聞（地方）	河北新報	津波学んで備える 実践的な防災を 岩沼・シンポ	佐藤翔輔	報道
		新聞（地方）	河北新報	津波学んで備える 震災体験共有を 気仙沼・講習会	今村文彦	報道
		テレビ	東北	津波避難の過大住民が洗い出し	今村文彦 安部祥 保田真理	報道
		ラジオ	仙台	企業や行政組織の災害時の事業継続の必要性（出演して説明）	丸谷浩明	出演
		新聞（その他）	建設新聞社	スポット入「都市・建築の総合的地震対策を」日本建築学会東北支部長に就任する源栄正人氏	源栄正人	報道
		新聞（全国）	読売新聞	若年女性減「40年ショック」	吉田浩	報道
		新聞（その他）	日刊建設産業新聞（東北）	ひと「日本建築学会東北支部長に就任する源栄正人氏」総合的に地震対策支援を	源栄正人	報道
		その他	新潟日報	日ごろから備えよう	佐藤翔輔	報道
		新聞（地方）	河北新報	防潮堤建設、要望協議の場設置へ 気仙沼・小泉地区で説明会	今村文彦	報道
		新聞（地方）	河北新報	防災・減災発信を強化 「むすび塾」地方紙と連携	災害科学国際研究所	報道
		その他	医療ニュース	東北大 デング熱におけるマーカータンパク質を発見	服部俊夫	報道
		テレビ		原子力規制委 新委員に2人	石渡明	報道
		新聞（全国）	毎日新聞	原子力規制委員 田中知・石渡氏が内定 島崎氏、再任せず	石渡明	報道
		新聞（全国）	産経新聞	政府が規制委の後任人事案 田中知・東大大学院教授と石渡明・東北大教授の2氏提示	石渡明	報道

	配信日	分類	配信社名	タイトル	掲載・出演教員名	種別
		新聞（全国）	日本経済新聞（他社）	原子力規制委、島崎氏ら交代へ 政府が国会同意案	石渡明	報道
		新聞（その他）	電気新聞	規制委新委員に田中氏、石渡氏一政府が国会提示	石渡明	報道
		新聞（地方）	佐賀新聞	原子力規制委員に田中知氏ら	石渡明	報道
		新聞（その他）	日刊建設新聞	第 回町公共施設町民会議 役場のゾーニング検討 階段延ばし低地に図書室 駐車場は ～ 台 女川町	平野勝也、本江正茂	報道
		その他		物言わぬ石の地磁気で津波史ひもとく	中村教博	報道
		新聞（全国）	読売新聞	規制委島崎氏交代へ 政府 委員提示 「ベストな人材」	石渡明	報道
		新聞（地方）	新潟日報	新潟地震 年出前授業「防災学び自分守ろう」新潟小 体験者・専門家呼び掛け	佐藤翔輔	報道
		新聞（全国）	読売新聞	規制委人事案 科学的な原発審査につなげよ	石渡明	報道
		新聞（地方）	新潟日報	原発規制委人事 中立、公正を保てるのか	石渡明	報道
		新聞（地方）	新潟日報	新潟地震 周年 出前授業 防災学び自分で守ろう 新潟小 体験者・専門家呼び掛け	佐藤翔輔	報道
		テレビ	C Cテレビ	原子力規制委、島崎委員長代理と大島委員が退任へ	石渡明	報道
		テレビ		推進派 が交代求め・・・原子力規制委「 退任へ	石渡明	報道
		その他	マイナビニュース	東北大、「残留磁気」で沖縄・宮良湾の津波石の形成履歴を解明	中村教博、後藤和久	報道
		新聞（地方）	デーリー東北新聞社	原子力規制委員に田中知氏ら 政府、国会へ人事案提示	石渡明	報道
		新聞（地方）	北國新聞	志賀原発断層、次回審議は7月以降	石渡明	報道
		新聞（地方）	八重山毎日	磁気で津波石を分析 東北大研究グループ	中村教博	報道
		新聞（地方）	河北新報	仙台駅東の魅力発信 地元住民の協議会が本格始動	増田聡	報道
		新聞（全国）	読売新聞	東通原発再稼働 東北電が事前了解願	石渡明	報道
		新聞（全国）	産経新聞	原子力規制委 厳格委員の交代 審査は進むか	石渡明	報道
		その他	広報いわぬま	後世に伝える震災の教訓－実践的防災のススメ	佐藤翔輔	報道
		新聞（地方）	デーリー東北新聞社	昭和三陸津波の記念碑取り壊しへ／三沢	川島秀一	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	国連防災世界会議、小野裕一さんに聞く	小野裕一	報道
		その他	ニュース（他社）	規制委人事、田中氏に反対＝民維み	石渡明	報道
		テレビ	仙台放送	「東北大映像機器フェスティバル」 最新の映像・撮影機材を展示	柴山明寛	報道
		テレビ		てれまさむね、避難指示・避難勧告ガイドライン 自治体向け説明会（	佐藤翔輔	報道
		新聞（全国）	産経新聞	公明は原子力規制委人事を了承	石渡明	報道
		新聞（地方）	徳島新聞	原子力規制委人事 独立性を確保できるのか	石渡明	報道
		新聞（地方）	茨城新聞	大津漁港に放射能非破壊検査施設	石井慶造	報道
		新聞（地方）	河北新報	国連防災世界会議会議、どんな議論期待？被害軽減の数値目標設定を	小野裕一	資料提供
		新聞（全国）	朝日新聞	茨城）魚介類そのまま放射能検査 北茨城に施設完成	石井慶造	報道
		新聞（全国）	産経新聞	魚傷つけず放射能測定 大津漁港に新検査施設完成 茨城	石井慶造	報道
		新聞（地方）	東京新聞	魚つぶさず放射能測定 北茨城に新装置	石井慶造	報道
		新聞（全国）	日本経済新聞	6 機関 人の国会同意人事案を閣議決定 政府	石渡明	報道
		テレビ		クローズアップ東北	蝦名裕一・菅原大助	出演
		テレビ		原子力規制委の人事案、自公など賛成多数で衆院可決	石渡明	報道
		新聞（地方）	東京新聞	規制委人事案を可決 田中知氏に？野党反対	石渡明	報道
		新聞（全国）	共同通信社（他社）	原子力規制 2 委員、国会承認へ 田中知氏に？野党反対	石渡明	報道
		新聞（地方）	新潟日報子ども新聞	「週間ふむふむ」 防災の専門家 佐藤翔輔先生の授業	佐藤翔輔	報道
		その他	C	衆院、原子力規制委員 人交代を衆院承認	石渡明	報道
		新聞（地方）	河北新報	防災・減災のページ まち機能を集約 交流創出「想い」受け継ぐ風景育む	小林敬平	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	原子力規制委に田中知氏・石渡明氏 参院で承認	石渡明	報道
		新聞（全国）	産経新聞（他社）	規制委に田中知氏ら承認 参院、野党反対 民主党時代の人道基準抵触批判も	石渡明	報道
		新聞（全国）	毎日新聞	社説 原子力規制委 中立公正さ損なう人事	石渡明	報道
		その他	（他社）	田中東大大学院教授の規制委人事承認＝国会	石渡明	報道
		新聞（地方）	西日本新聞（他社）	原子力規制委 中立が疑われる人事では	石渡明	報道
		テレビ	仙台放送	原子力規制委の島崎委員長代理ら 人が交代、田中 知氏ら就任へ	石渡明	報道
		テレビ		てれまさむね 風呂敷活用術	保田真理	報道
		その他		原子力規制委の新委員など 国会が同意	石渡明	報道
		新聞（地方）	河北新報	津波石で津波の発生時期や規模を確認 東北大グループが沖縄で調査	中村教博	報道
		テレビ	東日本放送	新委員への就任手続き 規制庁の担当者が説明	石渡明	報道
		新聞（地方）	石巻かほく	東松島市、避難支援者に指針 退避開始時間を設定 消防団にも適用	佐藤翔輔	報道
		新聞（全国）	時事通信社	「科学的判断変わらず」＝石渡明氏	石渡明	報道
		新聞（全国）	日本経済新聞	原発審査、現行方針は踏襲 規制委の田中・石渡次期委員	石渡明	報道
		テレビ	C Cテレビ	規制委「孤立しない独立性重視」 田中知氏が参事に	石渡明	報道
		新聞（全国）	読売新聞	規制委の田中新委員、中立の立場強調 辞令交付	石渡明	報道
		その他	（他社）	規制委「孤立しない独立性重視」田中知氏が参事に	石渡明	報道
		テレビ		原子力規制委 田中新委員「独立性重要」	石渡明	報道
		テレビ	日本テレビ	規制委新委員・田中氏「中立性保ちながら」	石渡明	報道
		新聞（地方）	河北新報	放射性物質、魚丸ごと検査 宮城・女川魚市場に測定器	石井慶造	報道
		新聞（その他）	電気新聞	規制委新委員 氏が抱負－田中氏「孤立しない独立性を」	石渡明	報道
		新聞（全国）	産経新聞	規制委刷新 多角的議論と審査加速を	石渡明	報道
		新聞（その他）		1 6 空港、津波危険域に 専門家ら、開発計画に警鐘	災害科学国際研究所	報道
		新聞（その他）	建設通信新聞	石巻市 オオバ を特定復興まちづくりマネジメント支援	平野勝也	報道
		新聞（地方）	デーリー東北新聞社	昭和三陸地震の大津波を伝える碑 北奥羽各地の現状	川島秀一	報道
		新聞（地方）	福井新聞	規制委の合議制「十分でない」 福井知事、委員交代で注文	石渡明	報道
		新聞（地方）	石巻かほく	女川魚市場が新放射能測定装置を導入 魚丸ごと検査 東北大が無償貸与	石井慶造	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	（プロメテウスの罠）県境の先で：9 丸森なら測りました	石井慶造	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	（プロメテウスの罠）県境の先で：1 0 砂が入っても大丈夫	石井慶造	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	（プロメテウスの罠）県境の先で：1 1 マップをつくろう	石井慶造	報道
		新聞（全国）	日本経済新聞	対話重視の原子力規制委に	石渡明	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	（プロメテウスの罠）県境の先で：1 2 どこで取れた野菜か	石井慶造	報道
		新聞（全国）	読売新聞	敦賀原発、「活断層」見解変えず 再稼働厳しく	遠田晋次	報道
		新聞（地方）	福島民報	【国の個人線量活用方針】除染基準転換に賛否 賛成「効果薄い作業減」 反対「住民の混乱招く」	石井慶造	報道
		その他	ビジネス+（他社）	東北大メディカル・メガバンクが取り組む、東日本大震災による健康被害への中長期医療	栗山進一	報道
		新聞（地方）	河北新報	むすび塾と「カケアガレ！日本」連動 車や徒歩で避難検証	安倍祥	報道
		新聞（その他）	東北大学新聞	日本建築学会賞を受賞 災害科学国際研究所 村尾修教授	村尾修	資料提供
		新聞（地方）	河北新報	防災協力の強化確認 アジア会合閉幕	小野裕一	報道
		その他	週刊金曜日ニュース	村井嘉浩宮城県知事の 暴走 かー エセ住民合意 で進む防潮堤	今村文彦	報道
		新聞（地方）	石巻かほく	歴史尊重、交流空間に 旧北上川河口まちづくりで市民報告会	平野勝也	報道
		新聞（地方）	デーリー東北新聞社	昭和三陸地震の記憶伝承について	川島秀一	報道
		ラジオ	仙台	東北大学防災 回目	後藤和久	出演
		新聞（その他）	日本教育新聞	「耐震化に遅れ 学校の対応は」	佐藤健	報道
		新聞（地方）	河北新報	活断層と内陸地震（1）繰り返し動き「ずれ」が地形に	遠田晋次	報道
		新聞（地方）	河北新報	婦人科疾患への震災影響を発表 東北大災害研、 日報告会	災害科学国際研究所	報道
		新聞（地方）	河北新報	活断層と内陸地震（2）地形の起伏着目、国内に2 0 0 0 超	遠田晋次	報道
		新聞（地方）	河北新報	活断層と内陸地震（3）連動で揺れ大規模に	遠田晋次	報道
		新聞（地方）	神戸新聞	品々の中に多くの記憶	天野真志	報道
		新聞（地方）	河北新報	活断層と内陸地震（4）発生の歴史 地層から読む	遠田晋次	報道
		新聞（地方）	河北新報	防災・減災のページ「車の避難経路 複数用意を」	安倍祥	報道

	配信日	分類	配信社名	タイトル	掲載・出演教員名	種別
		新聞（地方）	神戸新聞	震災の記憶 どう伝えるか	天野真志	報道
		新聞（地方）	河北新報	ニューヨークへ 市長出席 パネル展開幕	小野裕一	報道
		新聞（地方）	河北新報	活断層と内陸地震（５） 以上 平均 年に１回発生	遠田晋次	報道
		新聞（地方）	河北新報	活断層と内陸地震（６完） 多様な手法で地下探査続ける	遠田晋次	報道
		テレビ		災害研究の成果 報告会	災害科学国際研究所、今村文彦	報道
		テレビ	仙台放送	東北大の災害科学国際研、自然災害科学に関する研究成果の報告会	災害科学国際研究所、今村文彦	報道
		新聞（地方）	デーリー東北新聞社	三沢で津波記念碑取り壊し前に供養祭	川島秀一	報道
		テレビ		てれまさむね 豪雨の際の危険車の場合は	保田真理	報道
		新聞（地方）	山口新聞	大震災被災者、津波研究家が講座 周防大島町・城山小で	保田真理	報道
		新聞（地方）	河北新報	かずむ復興／まちづくり 巨大防潮堤の足元（３）／地元合意に異議続出	平野勝也	報道
		テレビ		災害時の感染症対策セミナー	芦野有悟	報道
		新聞（地方）	河北新報	災害と感染症を考える 医療関係者ら意見交換	服部俊夫、江川新一	報道
		テレビ		防災世界会議前にシンポジウム	村尾修	報道
		新聞（地方）	河北新報	本番に向け市民研修 国連防災世界会議 研究者が意義解説	小野裕一	資料提供
		新聞（地方）	河北新報	災害と感染症を考える 医療関係者ら意見交換	江川新一	報道
		新聞（地方）	河北新報	いのちと地域を守る 災害と感染症を考える	服部俊夫	資料提供
		ラジオ	（ 仙台）	東北大学防災 回目	後藤和久	出演
		テレビ		復興や防災 海外の学生が学ぶ	災害科学国際研究所、村尾修	報道
		新聞（地方）	東海新報社	発災直後からの歩み伝える 国連本部でパネル展示	災害科学国際研究所、小野裕一	報道
		ラジオ	（ 仙 台）	日本災害食学会の紹介	佐藤翔輔	資料提供
		新聞（全国）	毎日新聞	比台風災害「ツナミ」と言ってくれば 高潮意味知らず	地引泰人	報道
		テレビ		【ゴジだっちゃ！】 備えつぺ宮城	保田真理	出演
		新聞（全国）	産経新聞	宮城の震災遺構 破壊力の痕跡を基準に 有識者会議、３カ所で適正問う声	災害科学国際研究所	報道
		その他		津波の浸水被害を地震発生 分以内で予測、東北大らが実証へ 大規模地震での津波の浸水被害を発生から 分以内にスーパーコンピュータで予測する実証実験をスタートさせる。	災害科学国際研究所	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	東北大・ C・国際航業、大規模地震発生時の津波浸水被害をリアルタイムに予測する実証事業を推進	災害科学国際研究所	報道
		新聞（全国）	日本経済新聞	廃炉ロボに東北の技	田所諭	報道
		新聞（その他）	エンタープライズ	津波の浸水被害を地震発生 分以内で予測、東北大らが実証へ	越村俊一	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	津波浸水域の予測、地震から 分以内、システム運用へ	越村俊一	資料提供
		ラジオ		東北大防災 内陸地震にも備えよう	遠田晋次	出演
		新聞（その他）	日刊工業新聞	東北大など、津波被害を迅速に予測する技術実証	災害科学国際研究所	報道
		その他	マイナビニュース	東北大や C、地震発生時の津波浸水被害をスパコンで予測する実証事業	災害科学国際研究所	報道
		新聞（地方）	河北新報	津波被害、 分内に予測 スパコン活用、年度内完成目指す	災害科学国際研究所	報道
		新聞（その他）		日刊工業新聞朝刊	越村俊一	資料提供
		その他	クラウド	津波被害予測、 分以内で―東北大・ C・国際航業が技術実証へ	越村俊一、日野亮太	資料提供
		新聞（地方）	石巻かほく	災害対応システム原型構築	越村俊一	報道
		新聞（地方）	河北新報	防災・減災のページ「広い知見 復興に活用を」	杉安和也	報道
		新聞（地方）	河北新報	いのちと地域を守る 防災・減災のページ ◎考える／宮城・山元町花釜行政区の防災訓練／迅速な車避難を模索／高齢者と乗り合い 逃げ遅れ有無確認	安倍祥	報道
		テレビ	東日本放送	地中レーダーで行方不明者捜索	佐藤源之	報道
		新聞（全国）	産経新聞（他 社）	地中レーダーで不明者捜索 東北大と宮城県警が共同で 震災３年５カ月	佐藤源之	報道
		新聞（全国）	日本経済新聞	被災沿岸部で集中捜索 東日本大震災から３年５カ月	佐藤源之	報道
		テレビ		列島ニュース 東日本大震災・３年５か月・レーダーで地中を捜索	佐藤源之	報道
		テレビ		視点・論点「消えゆく砂浜」	有働恵子	出演
		新聞（地方）	河北新報	レーダー使い不明者捜索 仙台・蒲生干潟	佐藤源之	報道
		新聞（全国）	読売新聞	遭跡調査用レーダー使い震災不明者捜索 仙台	佐藤源之	報道
		新聞（その他）	電気新聞	活動性「見分け難しい」京大防災研 断層区別で研究集会	遠田晋次	企画協力
		テレビ	仙台放送	（ともに） 震災の教訓からママの視点で防災を「仙台市」	佐藤翔輔	報道
		新聞（地方）	河北新報	「南三陸海岸」ジオパーク整備実現へ情報交換	久利美和	報道
		ラジオ		東北大防災 地殻変動と超巨大地震、わかったこととわからないこと、	遠田晋次	出演
		新聞（全国）	読売新聞	先人となつがる喜び	川島秀一	報道
		テレビ	東北放送	スタミやぎ 広島のと砂災害受け東北大が報告	災害科学国際研究所、森口周二	報道
		テレビ	仙台放送局	津波避難の計画づくりを紹介	安倍祥	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	甲狀腺がん、疑い含め１０４人 福島の子供３０万人調査	細井義夫	報道
		テレビ		復興サポート 震災の記憶を未来につなぐ	川島秀一	報道
		新聞（地方）	河北新報	【科学の泉】東北沖地震はどんな地震だったのか？（１）プレート境界、一気に滑る	内田直希	報道
		新聞（その他）	東北復興新聞	第 回みやぎ地域復興支援会議（石巻）	災害科学国際研究所	報道
		新聞（地方）	河北新報	【科学の泉】東北沖地震はどんな地震だったのか？（２）摩擦の強い場所で固着発生	内田直希	報道
		新聞（全国）	読売新聞	分単位の避難 防災の要	今村文彦	報道
		新聞（全国）	日本経済新聞	大地震、初の政府想定 日本海側津波最大 メートル	今村文彦	報道
		新聞（地方）	河北新報	自治体 備えまちなち 豪雪地の避難に課題	今村文彦	報道
		新聞（地方）	河北新報	【科学の泉】東北沖地震はどんな地震だったのか？（３）繰り返し地震、調査に活用	内田直希	報道
		新聞（地方）	河北新報	【科学の泉】東北沖地震はどんな地震だったのか？（４）巨大地震発生前の滑り把握	内田直希	報道
		新聞（地方）	高知新聞	「海と共に存する」視点を 災害文化研究の東北大・川島教授が来高	川島秀一	企画協力
		新聞（地方）	河北新報	観光客もカケアゲ！ いわきで避難訓練	災害科学国際研究所、安倍祥	報道
		新聞（地方）	河北新報	【科学の泉】東北沖地震はどんな地震だったのか？（５）浅い場所が滑り巨津波に	内田直希	報道
		新聞（全国）	読売新聞	心と身体のカギノード、人と気持ち分かち合って、（宮城）	富田 博秋	報道
		新聞（地方）	河北新報	【科学の泉】東北沖地震はどんな地震だったのか？（６完）影響今も広範囲で続く	内田直希	報道
		新聞（地方）	福島民報	大震災に備え いわきで津波想定し訓練	災害科学国際研究所	報道
		新聞（地方）	新潟日報	新潟日報 東北で発生、山陰に到達 海底地形が影響	今村文彦	報道
		新聞（地方）	河北新報	防災グッズ 事前に備えて 置き場所を明確に	保田真理	報道
		ラジオ	（ 仙台）	『防災の日 特別番組』 & ～被災地から学ぶ知恵～ 「地震への心構え」今村文彦	今村文彦	出演
		新聞（全国）	産経新聞	敦賀断層調査で規制委、不可解な対応 外部専門家の出席拒否、新資料採用せず	遠田晋次	報道
		テレビ		てれまさむね 東北の防災・土砂災害警戒情報 いかにするか土砂災害警戒情報	佐藤翔輔	報道
		新聞（地方）	河北新報	災害科学と防災・減災のための情報活用（１） 特別警報、運用は試行錯誤	久利美和	報道
		新聞（地方）	河北新報	災害食、家の材料で簡単に 仙台の主婦最優秀賞	佐藤翔輔	報道
		新聞（地方）	河北新報	災害科学と防災・減災のための情報活用（２） 受け手が逐わめ短い言葉で	久利美和	報道
		新聞（地方）	河北新報	災害科学と防災・減災のための情報活用（３） 有珠山噴火、予知の成功例	久利美和	報道
		新聞（地方）	河北新報	災害科学と防災・減災のための情報活用（４） 予測には限界、不確定性伴う	久利美和	報道
		新聞（その他）	日本建設工業新聞	東北地域づくり協会／ 月 日に復興技術フォーラム／国連会議に向け情報共有	佐藤翔輔	報道
		新聞（地方）	河北新報	災害科学と防災・減災のための情報活用（５） 成功事例に落とし穴も	久利美和	報道
		テレビ	仙台	「クローズアップ東北」 年前からの警鐘～慶長の津波・研究最前線～	蝦名裕一・菅原大助・今井健太郎	出演
		新聞（地方）	河北新報	災害科学と防災・減災のための情報活用（６完） 地域で優先度決め判断を	久利美和	報道
		新聞（地方）	河北新報	福島の防災・減災まちづくり推進 福島高専と東北大災害研が協定	災害科学国際研究所	報道
		新聞（地方）	福島民報（他 社）	防災や復興支援で連携協力 福島高専と東北大研究所覚書交わす	災害科学国際研究所、今村文彦	報道
		新聞（地方）	河北新報	福島の防災・減災まちづくり推進	小野裕一	資料提供
		新聞（地方）	福島民報	防災や復興支援で連携協力 福島高専と東北大研究所覚書交わす	小野裕一	資料提供
		新聞（地方）	福島民友	防災、復興人材育成で連携 福島高専と東北大が覚書	小野裕一	資料提供

	配信日	分類	配信社名	タイトル	掲載・出演教員名	種別
		新聞(地方)	河北新報	被災へ市民の意識改革／(9)多賀城市／まちを拓く 震災3年半 各地の試み	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	河北新報	小原隆博(1)宇宙への夢／時代を超えた研究、魅力	小原隆博	報道
		新聞(地方)	河北新報	まちを拓く 震災3年半 各地の試み(9)／多賀城市／被災へ市民の意識改革	柴山明寛	報道
		テレビ	仙台放送	震災から 年半 直下型大地震とキラパルスを取材しました。	源栄正人, 遠田晋次	報道
		テレビ	仙台放送	宮城・名取市・津波に備え防災林を再生	今井健太郎	報道
		新聞(地方)	河北新報	防災・被災のページ「広島・土砂災害の教訓と備え「まさ土」以外も警戒を」	森口周二	報道
		新聞(地方)	河北新報	防災・被災のページ「地層に残る痕跡解説 将来の災害予測に貢献」	後藤和久	報道
		新聞(全国)	日本経済新聞	日本経済新聞 防災用品に震災の教訓 持ち出し品はA4サイズ	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	静岡新聞	県学術会議、基準津波「丁寧に検討を」4月機対策で注文	今村文彦	報道
		新聞(地方)	新潟日報	先月、新潟空港で広域医療搬送訓練 意思疎通 難しさ浮き彫り 経験継承 被災地の責任	江川新一	報道
		テレビ		クローズアップ現代『復興コンパクトシティ～被災地が描く未来のまち～』「コンパクトシティ まちづくりの難しさ」	姥浦道生	出演
		テレビ	NHK	災害時 中学生が地域で役割	佐藤翔輔	報道
		新聞(地方)	河北新報	小原隆博(2)宇宙への窓／人材養成、大学の使命	小原隆博	報道
		テレビ	仙台放送	未来のとうほく創造フォーラム「防災から被災へ」意見交換	今村文彦 保田真理	報道
		新聞(地方)	河北新報	町や学校一丸 防災教育推進 互理で研修会	佐藤翔輔	報道
		新聞(地方)	河北新報	カードゲームを防災教育の切り札に	久利美和	報道
		その他	マイナビニュース(他社)	東北大、年の大地震後の地震変動要因を解明 地震予測の精度向上に期待	日野亮太, 三浦哲	報道
		新聞(地方)	河北新報	防災の研究は多分野と接点 東北大災害研教授多賀城高で講話	佐藤健	報道
		テレビ		「NHKスペシャル」巨大災害 第3集 巨大地震 見えてきた脅威のメカニズム	趙大鵬	出演
		新聞(地方)	河北新報	小原隆博(3)ボイジャーのはるかな旅／35年かけ太陽系観測	小原隆博	報道
		テレビ	テレビ岩手	きげんテレビ防災スペシャル 「ヒトの目に映る 津波浸水」の紹介	佐藤翔輔	資料提供
		新聞(地方)	河北新報	東北大・防災文化講演会／積み重ねた知恵大切／避難ルートなど共有を／気仙沼	安倍祥	報道
		新聞(地方)	盛岡タイムズ	災害予防テーマに意見交換 新しい東北推進協 本県で初の官民交流会	佐藤翔輔	報道
		テレビ	日本テレビ	日テレ 沿岸全世帯に防災手帳寄贈	災害科学国際研究所	報道
		テレビ	テレビ岩手	「みんなの防災手帳」贈呈式	佐藤翔輔	報道
		新聞(地方)	河北新報	小原隆博(4)ロケット実験の見習い	小原隆博	報道
		テレビ	ミヤギテレビ	「時間テレビ」みんなの防災手帳」沿岸市町村全世帯配布	佐藤翔輔	報道
		新聞(地方)	河北新報	復興後押し、新技術紹介 仙台でフォーラム	今村文彦	報道
		その他	C	C 「」	後藤和久, 菅原大助	報道
		新聞(その他)	建設新聞社	復興後押しする技術開発を	佐藤翔輔	報道
		新聞(その他)	日刊建設産業新聞	東日本大震災復興技術支援フォーラム	佐藤翔輔	報道
		新聞(地方)	河北新報	女川原発の安全性検討会、来月中旬にも初会合	今村文彦	報道
		新聞(地方)	河北新報	東北の教訓共有へ 28日・宮崎市で「むすび塾」	災害科学国際研究所	報道
		ラジオ	(仙台)	【東北大学防災】被災地でのこころの健康の問題について	富田 博秋	出演
		新聞(その他)	日刊建設産業新聞	東北大・今村文彦教授ら／宮城県名取市で津波避難情報システム社会実験実施	今村文彦	報道
		新聞(地方)	河北新報	小原隆博(5)科学衛星おおぞら／超高層大気を初観測	小原隆博	報道
		新聞(地方)	河北新報	土石流到達の危険性も／(4)錦ヶ丘・栗生地区／わが街・リスク再点検	森口周二	報道
		新聞(地方)	河北新報	防災・被災のページ「巨大地震発生時の超高層ビルの揺れ 安全性診断技術を確立」	王欣	報道
		テレビ	仙台放送	特別番組 未来のとうほく創造フォーラム「防災から被災へ」生死を分けた瞬間	今村文彦 保田真理	報道
		新聞(地方)	河北新報	小原隆博(6)科学衛星あけぼの／オーロラの謎解明へ	小原隆博	報道
		その他		リアルタイム患者被ばく線量計を開発	千田浩一	報道
		新聞(地方)	石巻かほく	復興へ広報の役割探る 東松島でサミット開催 東北6県自治体職員が参加	佐藤翔輔	報道
		新聞(地方)	河北新報	防潮堤「熟慮を」 気仙沼・小泉地区	今村文彦	報道
		ラジオ	ラジオ石巻	特番「市総合防災訓練」放送 「防災訓練の重要性(なぜ訓練するのか)・「地域ごとの」津波避難計画について」	佐藤翔輔	出演
		ラジオ	(仙台)	【東北大学防災】被災地でのこころの健康に配慮した防災のあり方について	富田 博秋	出演
		新聞(地方)	河北新報	危険を点検「被災」伝授 幸町小で東北大が授業	今村文彦, 保田真理	報道
		新聞(地方)	河北新報	どこでも想定外、念頭に／(9完)八木山南・八木山本町・金剛沢地区／わが街・リスク再点検	森口周二	報道
		新聞(地方)	河北新報	小原隆博(7)フロリダの宇宙基地／オーロラ発生に迫る	小原隆博	報道
		新聞(海外)		()	ボレー セバスチャン	報道
		新聞(地方)	河北新報	戦前の巨理・荒浜。映像で復活 フィルム発見	佐藤大介	報道
		新聞(その他)	防災情報新聞	(緊急津波避難情報システム)タクシーに津波避難情報を配信	今村文彦	報道
		新聞(地方)	石巻かほく	東北大災害研あす研究発表会 石巻市副市長が報告 仙台	佐藤翔輔	報道
		新聞(地方)	河北新報	(週間かほく・こども新聞) みんなで防災を考えよう	佐藤翔輔	報道
		テレビ	仙台放送	災害統計の確立を 東北大で専門家委員会	小野裕一	報道
		テレビ	仙台放送	国連防災世界会議を前に、「災害統計」確立を目指す委員会始まる	小野裕一	報道
		新聞(地方)	河北新報	奥尻の経験生かそう 視察報告会・山元	保田真理	報道
		新聞(地方)	河北新報	東日本大震災復興技術支援フォーラムー国連防災世界会議に向けてー災害に強い次世代社会を、災害と共存 生きる力醸成	佐藤翔輔	報道
		テレビ		災害統計の国際会議始まる	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	河北新報	アジア太平洋地域 災害統計基準策定へ	小野裕一	報道
		新聞(全国)	朝日新聞	Cサイト「ガッソ」において減災授業を開講 ～ドコモ東北支社が講座提供に協賛～	災害科学国際研究所, 今村文彦, 後藤和久	報道
		テレビ		土砂災害からの避難 住民の自主的判断で	佐藤翔輔	報道
		新聞(その他)	建設新聞社	特集・東日本大震災復興技術支援フォーラムー国連防災世界会議に向けてー 技術研究発表	佐藤翔輔	報道
		新聞(地方)	河北新報	＜むすび塾@宮崎＞「南海トラフ」地域の力を	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	河北新報	＜むすび塾@宮崎＞乳母車押し高台へ避難	保田真理	報道
		その他	C 教育ニュース	東北大学／「」で被災をテーマにした講座開講	災害科学国際研究所, 今村文彦	報道
		新聞(地方)	河北新報	小原隆博(8)アシモフの子ども向け本／26巻翻訳、世界に浸る	小原隆博	報道
		新聞(地方)	三陸新報	情報把握し自主避難を	佐藤翔輔	報道
		テレビ		防災キャンペーン みんなの消防フェスタ 「学ぼうBOSAIステージ」	保田真理	出演
		新聞(地方)	河北新報	避難先などメールで通知 仙台的町内会で訓練	災害科学国際研究所	報道
		新聞(全国)	読売新聞	被災児、ぜんそく発症 倍・・・仮設生活影響か	栗山進一	報道
		テレビ	仙台放送	「津波防災の日」仙台市でシンポ、羽生結弦選手のメッセージも	今村文彦	報道
		新聞(地方)	河北新報	小原隆博(9)国際宇宙空間研究委員会／国の体制を超え議論	小原隆博	報道
		テレビ		小学校で出前授業	保田真理	報道
		新聞(その他)	日刊建設産業新聞東北版	建築学会東北／仙台市でシンポ開く／復興まちづくりの課題や経過報告	源栄正人	報道
		新聞(地方)	新潟日報	震災記録の継承探る 神戸と仙台 担当者招きシンポ	佐藤翔輔	報道
		新聞(地方)	河北新報	「津波防災の日」心構え新た	保田真理	報道
		新聞(地方)	河北新報	女川原発の安全性確認 問われる地元判断	今村文彦	報道
		新聞(地方)	河北新報	「震災を科学」ネットで講義 東北大、来年2月から	災害科学国際研究所	報道
		新聞(その他)	日刊工業新聞	災害対応ロボの開発を継続できる環境をつくる、東北大・田所氏	田所諭	報道
		新聞(地方)	河北新報(他社)	気仙沼・陸上で「カケアガレ!日本」 防災訓練	災害科学国際研究所, 安倍祥	報道
		新聞(地方)	河北新報	「見える化データ」を構築	寺田賢二郎	報道
		新聞(地方)	河北新報	認知分析 適切な判断導く	畠山俊亮	資料提供
		新聞(全国)	共同通信社	東北大・災害研究所、新研究棟が完成 防災・減殺を発信	今村文彦	報道
		その他	聯合ニュース	韓中日による資料研究編さん機関学術会議 あすから	佐藤大介	報道
		新聞(全国)	共同通信社(他社)	東北大に災害科学研究の新拠点 防災目的に、大震災の揺れ体験も	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	河北新報	防災教育拠点目指す 東北大災害研新棟が完成	災害科学国際研究所, 今村文彦	報道
		新聞(全国)	日本経済新聞	東北大・災害研究所、新研究棟が完成 防災・減殺を発信	災害科学国際研究所, 今村文彦	報道

	配信日	分類	配信社名	タイトル	掲載・出演教員名	種別
		新聞（地方）	河北新報（他 社）	防災・減災のページ「パーセント安全な場所はない」	保田真理	報道
		新聞（地方）	河北新報	防災・減災のページ「保育士の安全確保を」	保田真理	報道
		新聞（地方）	宮崎日日新聞	地域の防災対策模索 宮崎市で「むすび塾」津波避難訓練や座談会	保田真理	報道
		新聞（地方）	河北新報	シリーズ 巡回ワークショップむすび塾 ①宮崎市から 南海トラフ巨大地震に備える	保田真理	報道
		新聞（その他）	日刊建設工業新聞	東北大学／災害科学国際研究所新棟が完成、災害研究の中核に	災害科学国際研究所	報道
		新聞（地方）	河北新報	女川2号機 震災で耐震性低下？ 指摘相次ぐ	源栄正人	報道
		新聞（地方）	河北新報	小原隆博（10）カナダとの懸け橋／オーロラに集う情熱	小原隆博	報道
		新聞（その他）	日刊工業新聞	目標ロボ八面六臂	田所論	報道
		新聞（地方）	河北新報	小原隆博（11）オーロラの国を訪ねて／名科学者の逝去悼む	小原隆博	報道
		新聞（地方）	河北新報	東日本大震災／津波被害免れた82年前のフィルム上映 昔日の宮城・荒浜を鮮明に復活／巨理住民150人集い観賞／「にぎわい懐かしい」	佐藤大介	資料提供
		テレビ		蔵王山で火山性微動が発生	三浦哲	報道
		新聞（地方）	河北新報	気仙沼向洋高旧校舎の保存 肯定の意見多数	川島秀一	報道
		新聞（全国）	産経新聞	敦賀活断層判断 法的責任ない専門家会合 運営に疑義残る	遠田晋次	報道
		新聞（地方）	河北新報	①宮崎市から 南海トラフ巨大地震に備える「カケアガレ！日本」と連動	保田真理	報道
		テレビ		長野県で震度6弱・津波の心配なし	遠田晋次	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	震度5強程度の余震の恐れ 長野北部、1週間は注意を	遠田晋次	報道
		テレビ	フジテレビ	サンデー「長野北部で震度 弱 専門家が検証・・・震源となった「活断層」」	遠田晋次	報道
		新聞（全国）	産経新聞	【長野で震度6弱】余震は南北約20キロの帯状に分布 神城断層の一部が活動か	遠田晋次	報道
		テレビ		最大で1メートル近くの段差を確認	遠田晋次	報道
		その他		【長野で震度6弱】住宅57棟全半壊 余震60回超観測 41人負傷 ページ	遠田晋次	報道
		その他		震度 弱 活断層地震の特徴は	遠田晋次	報道
		テレビ		インド洋大津波10年で専門家会議	今村文彦	報道
		その他	日刊ゲンダイ	リニアは？原発は？ 列島縦断「糸魚川断層」動き出した恐怖	遠田晋次	報道
		ラジオ	りんごラジオ（山元町臨時災害放送局）	山元町震災伝承ワークショップ講演「震災遺構に足を運ぶということ」	久利美和	出演
		新聞（全国）	朝日新聞	「震災を科学する」講義、ネットで公開へ 東北大	災害科学国際研究所	報道
		新聞（地方）	河北新報	小原隆博（12）宇宙科学研究所の思い出／成果を広報で伝える	小原隆博	報道
		新聞（全国）	毎日新聞	シンポジウム 船と人の関わり、識者が意見交換―気仙沼	川島秀一	報道
		新聞（地方）	朝日新聞	たわむ水田、ずれ最大90センチ 長野北部地震、神城断層と一致	遠田晋次	報道
		その他		神城断層の南側でひずみ増大か「監視が必要」	遠田晋次	報道
		新聞（地方）	河北新報	緊急被ばくの対処法を説明 仙台でセミナー	細井義夫	報道
		新聞（全国）	読売新聞	長野北部地震 糸静線断層帯 残りの断層に影響か	遠田晋次	報道
		新聞（地方）	河北新報	防潮堤高、1m差の攻防 塩釜・浦戸諸島	姥浦道生	報道
		その他	婦人の友 なお、『文藝春秋』誌上で、 立花隆が同座談会を高く評価している。	座談会 災害の世紀 自然と共に生きる力 〈出席者〉川島秀一 民俗学、鬼頭秀一 環境倫理学、堀内成郎 防災学	川島秀一	企画協力
		新聞（地方）	河北新報	<衆院選>選挙費63.0億円 復興に回せれば	川島秀一	報道
		ラジオ	たいはいく	ラジオ「鈴木はるみの ソーシャルで行こう！」 東北大 減災アクション！ カードゲーム		出演
		新聞（地方）	河北新報	小原隆博（13）人工衛星を襲う宇宙災害／太陽活動で地球に嵐	小原隆博	報道
		新聞（全国）	読売新聞	津波被害予測、来年12月素案 県検討委初会合	今村文彦	報道
		新聞（地方）	山形新聞	津波浸水域予測図の見直し、県検討委が初会合 被害想定盛り込み 年春発表	今村文彦	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	山形）県が津波被害検討委立ち上げ 国の発表受け	今村文彦	報道
		新聞（地方）	河北新報	日本海津波 山形県の浸水域見直しへ	今村文彦	報道
		その他		東北大らがハザード・リスク評価による新しい日本津波モデルを開発	災害科学国際研究所	報道
		その他	デエラ	一回り小さいは「想定外」	遠田晋次	企画協力
		その他		震災教訓の防災手帳 点字化	災害科学国際研究所	報道
		テレビ		震災教訓の防災手帳 点字化	佐藤翔輔	資料提供
		新聞（地方）	河北新報	小原隆博（14）宇宙環境対策／自己防衛、ごみ化防ぐ	小原隆博	報道
		新聞（全国）	読売新聞	防災・減災のページ「三陸地域地殻変動研究 沿岸の街づくりに反映」	石村大輔	報道
		新聞（全国）	毎日新聞（他 社）	大震災3年9カ月 3県沿岸部で行方不明者集中捜索	佐藤源之	報道
		テレビ	東日本放送（他 社）	震災 年 カ月 地中レーダーで不明者捜索	佐藤源之	報道
		テレビ	仙台放送	震災から 年 カ月 関上海岸で地中レーダー使い不明者を捜索	佐藤源之	報道
		新聞（地方）	河北新報	45回目の大震災日命日 不明者捜索いまま	佐藤源之	報道
		テレビ		高専ロボコン2014「東北地区大会」	田所論	出演
		新聞（地方）	河北新報	小原隆博（15）コロラドの山々／ドライブで気分転換	小原隆博	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	甲狀腺検査、「過剰」あたらぬ	細井義夫	報道
		テレビ		別冊アサ（秘）ジャーナル「金のたまごを取材せよ！東北大学」	蝦名裕一・今井健太郎	報道
		その他	日経コンストラクション	土木のチカラ 既存景観になじむ 優しい堤防 高瀬川田ノ沢地区堤防（青森県東北町）	平野勝也	報道
		テレビ	仙台放送	来年開業へ 東西線を活用した街づくりが求められています	本江正茂	報道
		新聞（地方）	河北新報	東北沖地震の真実を求めて（1）海底データ、観測船で回収	日野亮太	報道
		新聞（地方）	河北新報	小原隆博（16）JAXA筑波宇宙センター／日本の研究者の故郷	小原隆博	報道
		新聞（地方）	河北新報	東北沖地震の真実を求めて（2）測定点のずれ、地殻変動を証明	日野亮太	報道
		新聞（地方）	河北新報	東北沖地震の真実を求めて（3）観測装置、海中ロボで回収	日野亮太	報道
		新聞（地方）	河北新報	東北沖地震の真実を求めて（4）海底掘削、断層を直接調査	日野亮太	報道
		新聞（地方）	河北新報	気仙沼で中越・スマトラの復興講演会	災害科学国際研究所	報道
		新聞（地方）	河北新報	東北沖地震の真実を求めて（5）最難関の長期温度計測成功	日野亮太	報道
		新聞（地方）	河北新報	東北沖地震の真実を求めて（6完）地殻変動、断層の動き関係せず	日野亮太	報道
		新聞（地方）	河北新報	創造的な復興へ『学校防災教育のさらなる充実を目指して』「生き抜く力と課題解決力養う」	今村文彦	報道
		ラジオ		東北大学防災 年前の大震災～慶長奥州地震津波について	蝦名裕一	出演
		新聞（地方）	河北新報	役割踏まえた議論必要／消えゆく砂浜、どう対応？	有働恵子	報道
		新聞（地方）	神戸新聞	震災踏まえ課題議論 神戸大でシンポジウム	今村文彦	報道
		新聞（その他）	日刊建設工業新聞	東北大学災害科学国際研究所／2月にオンライン講座開講／今村文彦所長に講義	災害科学国際研究所、今村文彦	報道
		テレビ	日本テレビ	内での システムの紹介（国連防災世界会議関連）	柴山明寛	企画協力
		新聞（全国）	読売新聞	「伝える」（116）歴史ふまえ「心の復興」（連載）＝宮城	佐藤大介	企画協力
		新聞（地方）	河北新報	防災・減災のページ「災害リスクの定義 地域で対話 合意を」	井内加奈子	報道
		テレビ		吾妻山で地震増加 警戒を	三浦哲	報道
		新聞（地方）	河北新報	小原隆博（18）震災を機に母校へ／飯館の観測所を移設	小原隆博	報道
		その他	（宮城県大崎市地域マガジン）	変化し続ける 万 千 の 海岸線を守る	有働恵子	報道
		新聞（全国）	朝日新聞	活断層に迫れ 続く模索	遠田晋次	企画協力
		新聞（地方）	河北新報	<山元旧中底小>学習施設校舎内整備は見送り	本江正茂	報道
		新聞（地方）	静岡新聞	スマホ使い避難誘導 N T T西、静岡で初実験	災害科学国際研究所	報道
		新聞（全国）	読売新聞	災害対応 企業に温度差 揺れ対策技術 大幅進歩 C 策定 中堅で遅れ	丸谷浩明	報道
		新聞（その他）	（インドネシア）	（減災のための街づくり）	今村文彦	報道
		新聞（全国）	産経新聞	減災テクノロジー 阪神から 年の歩み（上）国産災害ロボ普及「命救う」研究者の使命	田所論	報道
		その他	（インドネシア）	阪神・淡路大震災から 年 災害から学び続ける日本	今村文彦	報道
		ラジオ		東北大学防災 慶長奥州地震津波にみる復興と先人達の教訓	蝦名裕一	出演

	配信日	分類	配信社名	タイトル	掲載・出演教員名	種別
		テレビ		スペシャル シリーズ阪神・淡路大震災 年 第 回 都市直下地震 年目の	遠田晋次	出演
		テレビ	福島	警告	保田真理	報道
		新聞(全国)	読売新聞	南相馬市で被災出前授業	保田真理	報道
		新聞(地方)	河北新報	被災学ぶ 出前授業 南相馬太田小	小原隆博	報道
		新聞(その他)	東京新聞(他社)	小原隆博(19)社の都の宇宙研究/学生と迫る星の誕生	田所論	報道
		新聞(その他)	日刊建設工業新聞	阪神と東日本、大震災を経験した田所教授が挑む「レスキューロボ」開発の軌跡	今村文彦	報道
		テレビ	テレビ岩手	政府/国土強靱化基本計画の見直し作業開始/土砂災害や噴火重視	佐藤翔輔	報道
		新聞(全国)	毎日新聞	「みんなの防災手帳」使い方講座	ボレー セバスチャン	報道
		新聞(地方)	河北新報	人模様：日本の樹木葬に関心寄せる	佐藤源之	報道
		新聞(地方)	河北新報	科学の泉「地中レーダーと地雷除去活動(1)電波使い埋まった物体透視」	佐藤源之	報道
		新聞(地方)	河北新報	科学の泉「地中レーダーと地雷除去活動(2)掘り出した日印の多さに戦慄」	佐藤源之	報道
		新聞(地方)	河北新報	科学の泉「地中レーダーと地雷除去活動(3)自衛の埋設、苦しむ住民」	小原隆博	報道
		その他	仙台経済界	都市計画は産業(医療)政策と都市政策のミックスで	江川新一	報道
		新聞(地方)	河北新報	科学の泉「地中レーダーと地雷除去活動(4)アンコールワットでも激戦」	佐藤源之	報道
		新聞(地方)	河北新報	科学の泉「地中レーダーと地雷除去活動(5)「エーリス」でより安全に」	佐藤源之	報道
		その他	アリティーブ	アリティーブ 仙台マイクロナノ国際フォーラム 技術視察ツアー	災害科学国際研究所、柴山明寛	報道
		新聞(地方)	河北新報	科学の泉「地中レーダーと地雷除去活動(6完)津波の不明者捜索にも協力」	佐藤源之	報道
		新聞(地方)	河北新報	「新たな被災」小学生ら議論・仙台で催し	今村文彦 保田真理	報道
		新聞(全国)	朝日新聞	宮城)防災減災、子どもたちが考えた 国際フォーラム	今村文彦 保田真理	報道
		ラジオ		防災社会国際比較研究分野の研究内容について	井内加奈子	出演
		新聞(全国)	朝日新聞	津波対策 どう考える/根ほり葉ほり	今村文彦	報道
		新聞(地方)	河北新報	「新たな被災」小学生ら議論・仙台で催し	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	石巻かほく	「料理店の震災談義」発行 石巻芽生会と街なか創生協 教訓も伝える	佐藤翔輔	資料提供
		新聞(地方)	河北新報	石巻の料理人が防災冊子 被災へ再開つづる	佐藤翔輔	資料提供
		新聞(地方)	石巻かほく	災害時、観光客らの避難誘導を調査 石巻の中心街 来訪者18人協力	佐藤翔輔	資料提供
		新聞(地方)	高知新聞	久礼の船頭の歩み記録 「安さんのカツオ漁」 川島教授 東北大 が新刊	川島秀一	企画協力
		新聞(地方)	河北新報	＜むすび塾＞要援護者の避難考える 京都22日	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	宮崎日日新聞	防災手帳を点字訳	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	宮崎日日新聞	防災手帳を点字訳	佐藤翔輔	資料提供
		新聞(全国)	読売新聞	メモリアル・コンファレンス・イン神戸 「阪神」 年の教訓	丸谷浩明	報道
		新聞(全国)	読売新聞	石巻の日本料理店団体 震災の経験と教訓冊子に	佐藤翔輔	資料提供
		新聞(地方)	河北新報朝刊	観光客の避難誘導確認 石巻・創生協	佐藤翔輔	資料提供
		ラジオ	りんごラジオ(山元町臨時災害放送局)	りんごラジオスペシャル 震災 年後調査について	佐藤翔輔	出演
		新聞(地方)	河北新報	「心の被災」考えよう 7日、仙台でフォーラム	災害科学国際研究所、富田博秋	報道
		新聞(地方)	石巻日日新聞	土地勘なくとも安全に 石巻街なか創生協 避難訓練兼ねて調査	災害科学国際研究所	報道
		その他	大日本印刷ウェブニュース	デジタルサイネージでの外国人向け情報サービスの実証実験を仙台で実施	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	石巻日日新聞	土地勘なくとも安全に 石巻街なか創生協 避難訓練かねて調査	佐藤翔輔	資料提供
		テレビ	東北	被災者の心のケアを考える	災害科学国際研究所、今村文彦	報道
		テレビ	仙台放送	国連防災世界会議を前に、「こころの防災」考えるフォーラム	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	河北新報	＜国連防災会議＞災害、心の影響考える・仙台	災害科学国際研究所、富田博秋	報道
		新聞(地方)	河北新報	被災を身近に アプリを創出	昌本俊亮	報道
		新聞(地方)	東京新聞(他社)	一本釣りの生活・文化 安さんのカツオ漁 川島秀一著	川島秀一	企画協力
		新聞(地方)	福島民友	いのちを守る 東北大学で「被災ハッカソン」が開かれました。宮城	保田真理	資料提供
		テレビ	仙台放送	特別番組「被災を未来へ、世界へ！被災子ども国際フォーラム」	今村文彦 保田真理	報道
		新聞(地方)	福島民報	会津大生ら最優秀 被災意識高めるアプリ開発大会 「商品化目指したい」	災害科学国際研究所	報道
		テレビ	仙台	クローズアップ東北スペシャル：世界で生かせ震災の教訓～国連防災会議を前に～	今村文彦、マスエリック、呉修一	出演
		テレビ	仙台	クローズアップ東北スペシャル「国連防災世界会議を前に」		出演
		新聞(地方)	河北新報	津波避難タワー公開 住民「訓練にも力」	今村文彦	報道
		新聞(地方)	河北新報	(かほビジョンこども新聞)被災は、自分の行動から「とっさに考える」力をつけるカードゲーム 宮城県女川町	久利美和	報道
		ラジオ	仙台	復興における将来リスクの取り扱いについて	井内加奈子	出演
		テレビ		地球の声を聞こう「津波はどうして起きる？」	保田真理	出演
		ラジオ	仙台	「ゴジだっちゃ！」 国連防災世界会議本会議を分かりやすく解説	小野裕一	出演
		テレビ	テレビ朝日	三陸沖地震について	遠田晋次	報道
		テレビ		専門家「発生地域は巨大地震の震源域」	今村文彦	報道
		テレビ	東日本放送	震災まもなく 年 余震相次ぐ	越村俊一	報道
		新聞(全国)	朝日新聞	山形)蔵王山の火山防災協議会、3月23日に発足	三浦哲	報道
		テレビ	仙台放送	いのちを守る 東北大学で「被災ハッカソン」が開かれました	保田真理	報道
		その他	日刊ゲンダイ	「震度5以上」的中の学者が警告 東北の次は北信越が危ない	遠田晋次	報道
		テレビ	政府インターネットテレビ	徳光・木佐の知りたいニッポン！～災害の教訓を日本から世界へ 国連防災世界会議	今村文彦	出演
		新聞(地方)	河北新報	＜むすび塾＞要援護者避難考える@京都・伏見	保田真理	報道
		ラジオ	たいはく	「鈴木はるみの ソーシャルで行こう！」 東北大学災害科学国際研究所 久利美和さん国連防災世界会議での催しを語る	久利美和	出演
		テレビ		世界の災害統計の拠点 東北大学に	災害科学国際研究所、今村文彦	報道
		新聞(地方)	河北新報	東北大に新スパコン 津波被害予測に挑む	災害科学国際研究所	報道
		テレビ		世界の災害統計拠点・東北大学に設置へ	災害科学国際研究所、今村文彦	報道
		テレビ		「ゴジだっちゃ！」「もう一度津波への備えを確認しなくては」	保田真理	出演
		テレビ		被災地を記録 3D映画上映へ	災害科学国際研究所	報道
		テレビ	岩手放送	陸前高田のスーパーで津波避難訓練	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	河北新報	買い物客もカケアガレ 陸前高田で津波避難訓練	災害科学国際研究所	報道
		その他	マイナビニュース	東北大など、高解像度な津波モデルを用いた浸水解析をリアルタイム化	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	東海新報社	「カケアガレ！日本」が訓練 地域に合った避難へ	災害科学国際研究所	報道
		新聞(全国)	朝日新聞	被災から得た＜経験＞と＜教訓＞を世界に発信	今村文彦	報道
		テレビ	仙台放送	災害統計の確立を東北大で専門家委員会	小野裕一	報道
		テレビ	仙台放送	国連防災世界会議を前に、「災害統計」確率目指す委員会始まる	小野裕一	報道
		新聞(地方)	河北新報	買い物客もカケアガレ 陸前高田で津波避難訓練	小野裕一	資料提供
		新聞(地方)	東海新報社	「カケアガレ！日本」が訓練 地域に合った避難へ	小野裕一	資料提供
		新聞(地方)	河北新報	統計センター 月開設 世界のデータ収集	今村文彦、小野裕一	資料提供
		新聞(地方)	河北新報	＜国連防災世界会議＞防災・被災への役割を再確認	災害科学国際研究所	報道
		新聞(地方)	河北新報	アジア太平洋地域 災害統計基準策定へ	小野裕一	資料提供
		新聞(全国)	朝日新聞	東北大、災害統計の拠点設置 協力	災害科学国際研究所、今村文彦	報道
		ラジオ	(仙台)	伝承知について	佐藤翔輔	資料提供
		新聞(全国)	朝日新聞	災害統計、東北大に拠点 データ分析、各国に提供	今村文彦、小野裕一	資料提供
		ラジオ	サバメン 防災ハンドブック	有事の時に人間がとりやすい行動を知ることの大切さとは？	昌本俊亮	出演
		ラジオ	(仙台)	東北大学防災 ハイテクが変える近未来の津波予報	日野亮太	出演
		テレビ	東北放送	スタミヤぎ「津波予測」短時間で可能に	災害科学国際研究所、今村文彦	報道

	配信日	分類	配信社名	タイトル	掲載・出演教員名	種別
		その他	ハザードラボ	津波浸水域 地震発生後 分で予測 スパコンで 東北大	災害科学国際研究所	報道
		新聞 (全国)	日本経済新聞	経済教室 東日本大震災から 年 (上) 復興事業、整合性乏しく	増田聡	報道
		新聞 (全国)	読売新聞	「年」を問う ついの住み家 模索続く	増田聡	報道
		新聞 (地方)	河北新報	一本釣り元船頭の半生 安さんのカツオ漁 川島秀一著	川島秀一	企画協力
		新聞 (その他)	日刊建設工業新聞	東北河川技術研修実行委／3月15日に仙台市で防災シンポ／災害情報の伝え方探る	佐藤翔輔	報道
		新聞 (その他)	日刊建設工業新聞	宮城県南三陸町／復興の橋デザインコンペ／3月5日から事前登録	平野勝也	報道
		新聞 (全国)	読売新聞	「年」を問う 跡地移転 活用策がなく収収減も	姥浦道生	報道
		新聞 (全国)	読売新聞	津波浸水域 分で予測 スパコン「京」使う	今村文彦	報道
		新聞 (全国)	朝日新聞	震災経緯、世界と共有 政府、貢献強調へ 国連防災世界会議	小野裕一	資料提供
		新聞 (全国)	朝日新聞	(防災会議@仙台) 津波研究者の視点から	サッパシーアナワット	報道
		新聞 (全国)	日本経済新聞	復興へ希望のマップ	桜井愛子	報道
		新聞 (地方)	河北新報	多賀城／古里への思い 優しく／竹下景子さん 詩を朗読	今村文彦、富田博秋、柴山明寛	報道
		新聞 (全国)	産経新聞	進歩するほど神仏頼みに 安さんのカツオ漁 川島秀一著	川島秀一	企画協力
		新聞 (全国)	朝日新聞	災害の備え 古文書に探る～科学的研究と連携	佐藤大介、蝦名裕一	報道
		新聞 (全国)	産経新聞	【繋ぐ 東日本大震災4年】(上)「心」「一緒に住もうね」約束したのに 仮設移転目前、義母は逝った	富田博秋	報道
		新聞 (全国)	読売新聞 (宮城版)	被災者インタ 富田博秋・東北大教授「心のケア、長期の支援を」	富田 博秋	報道
		新聞 (全国)	読売新聞	地域の記憶 伝え学ぶ	佐藤大介	資料提供
		新聞 (全国)	毎日新聞	地震 発生頻度、震災後100倍 東北・関東の一部	遠田晋次	報道
		新聞 (地方)	河北新報	災害公営住宅の住民、薄い復興実感	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道
		新聞 (地方)	河北新報	<震災4年>実態と合わせ援助に疑問	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道
		新聞 (地方)	河北新報	<震災4年>「生活資金支援を」が上位に	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道
		新聞 (地方)	河北新報	<震災4年>心身ストレス 昨年より改善	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道
		新聞 (地方)	河北新報	<震災4年>生活再建「くらしむき」重視	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道
		新聞 (地方)	福島民友	会津大生ら開発「減災ハッカソン」 国連世界会議で展示へ	災害科学国際研究所	報道
		テレビ		防災研究の最新成果を発表	災害科学国際研究所	報道
		新聞 (地方)	河北新報	<震災4年>今村文彦氏／不安定な収入復興の妨げ	今村文彦	報道
		新聞 (全国)	産経新聞	岩手・福島沿岸域など地震の頻度100倍以上 最近の2年間	遠田晋次	報道
		新聞 (地方)	上毛新聞社	最近2年で地震頻度100倍以上 福島沿岸域など	遠田晋次	報道
		新聞 (その他)	夕刊フジ	東日本の地震発生頻度 最近2年間で「3・11」前の約100倍に	遠田晋次	報道
		その他	週刊女性	首都圏直下型地震 南海トラフ地震との関連性は？	遠田晋次	企画協力
		新聞 (地方)	河北新報	防災・減災のページ「過去の被害知り備える」	保田真理	報道
		新聞 (地方)	河北新報	<むすび塾>少ない要援護者の情報／手書きの伝言板 避難促す	保田真理	報道
		テレビ		東北沖地震の余震続く	遠田晋次	報道
		テレビ	東北放送	スタミやぎスペシャル東日本大震災4年「復興の現在地」	富田 博秋	報道
		新聞 (全国)	共同通信社 (他)	地震の頻度 倍以上	遠田晋次	資料提供
		ラジオ	ラジオ石巻	追悼特別番組 「防災訓練の課題」	佐藤翔輔	出演
		テレビ	東日本放送	スーパー チャンネルみやぎ 震災から 年 新りの灯火 東日本大震災追悼 のつどい	佐藤翔輔	資料提供
		新聞 (地方)	河北新報	<国連防災会議>運営担当・小野裕一東北大教授に聞く	小野裕一	報道
		テレビ		災害統計の世界的拠点 東北大に設置へ	災害科学国際研究所	報道
		新聞 (地方)	東京新聞	気仙沼ルポ 将来像描く前に5年の壁「集中」復興予算、時間切れも経済	増田聡、平野勝也	報道
		新聞 (全国)	読売新聞 愛知・岐阜・三重版	「海の者」心性に迫る 「安さんのカツオ漁」 川島秀一著	川島秀一	企画協力
		新聞 (地方)	中日新聞	遺構 保存か解体か 南三陸の防災庁舎 町を二分 遺族感情に配慮を	川島秀一	企画協力
		ラジオ	(仙台)	東北大学防災 震災から4年・東北沖で何がおこっているのか？	日野亮太	出演
		新聞 (地方)	河北新報	<国連防災会議>津波リスク軽減策報告	今村文彦、サッパシーアナワット、安倍祥、福谷陽、保田真理	報道
		新聞 (その他)	日刊工業新聞	進む「防災・減災」研究、最先端 C 駆使	越村俊一	報道
		新聞 (全国)	朝日新聞	(社説) 震災と文化 記憶と伝承にも支援を	柴山明寛	資料提供
		新聞 (地方)	河北新報	<国連防災会議>「カケアガレ！日本」シンポ	災害科学国際研究所	報道
		新聞 (地方)	愛媛新聞 (他 社)	災害医療「司令塔」拡大 業務自治体で差異～統一化 活動充実の鍵～	江川新一	報道
		新聞 (地方)	河北新報	「助け合いを強化」	佐藤健	報道
		テレビ		(てれまさむね) スマートフォンが防災を変える 書き込む側も情報源の意識を	佐藤翔輔	報道
		新聞 (地方)	河北新報	<国連防災会議>つながり大切 仙台市シンポ	佐藤健	報道
		新聞 (地方)	河北新報	<国連防災会議>大学の役割強調 岩手大	奥村誠	報道
		その他			江川新一	報道
		新聞 (地方)	河北新報	<国連防災会議>「強い復興」に説得力／(上) 日本から発信	小野裕一	報道
		新聞 (全国)	毎日新聞	国連防災世界会議 2015仙台 識者に聞く 新国際指針、「七つの目標」評価	今村文彦	報道
		新聞 (地方)	河北新報	震災忘れず身を守る 宮城県教委が防災副読本	今村文彦	報道
		新聞 (地方)	河北新報	むすび塾『災害「わがこと」に「伝える」決意新た／国連防災世界会議 報道シンポジウム』『メディアの役割 地名や石碑 教訓を伝承』	今村文彦	報道
		新聞 (地方)	河北新報	第 回元氣！健康！フェア とうほく 女性のがんを防ぐには？ ーいくつかからどうやって注意する？ー	伊藤 潔	報道
		新聞 (全国)	朝日新聞	2断層の地震で被害想定を算出 県の検討委、方針／山形県	今村文彦	報道
		新聞 (地方)	河北新報	学部・仙台の活性化へ議論 懇話会初会合	姥浦道生	報道
		新聞 (地方)	河北新報	<国立大定年教授>輝く業績 情熱なお	真野明	報道
		新聞 (全国)	読売新聞	安 やっ さんのカツオ漁	川島秀一	企画協力

新聞	件
全国	件
地方	件
その他	件
テレビ/ラジオ	件
その他	件
報道	件
出演・執筆	件
資料提供	件
企画協力	件

7 国際交流

国際交流

共同研究

開始日	終了日	訪問 受入	相手機関	相手先代表者	開催場所	担当
		訪問	C	山崎文雄教授 (千葉大学)	東北大学・仙台市 C	マス
		訪問	C	富田孝史 港湾空港技術研究所	東北大学・仙台市 C	マス
		受入			東北大学・仙台市	真野
		受入	(ハンガリー)		東北大学・仙台市	石坂・花岡
		訪問		越村俊一教授 (東北大学)	東北大学・仙台市	マス
		訪問	(フィリピン)	局長	フィリピン ・マニラ	村尾
		訪問	国土地理・資源情報庁, 地理・測地局 (フィリピン)		地理・測地局 ・フィリピン	越村
		受入	平成 年度国際交流基金知的交流フェローシップ (ルーマニア)		東北大学・仙台市	源栄
		訪問	(ニュージーランド)		ニュージーランド 市	日野
		訪問	ヤンゴン工科大学 (ミャンマー)	教授 (ヤンゴン工科大学)	ヤンゴン工科大学・ヤンゴン・ミャンマー	村尾
		受入	ジョンズ ホプキンス大学 アメリカ)		東北大学・仙台市	ローバー
		訪問	ヤンゴン工科大学 (ミャンマー)	教授 (ヤンゴン工科大学)	ヤンゴン工科大学・ヤンゴン・ミャンマー	村尾
		受入	ジョンズ ホプキンス大学 アメリカ)	Seth・Guikema准教授	東北大学・仙台市	ブリッカー
		訪問				富田
		訪問	フィリピン・サンラザロ病院		サンラザロ病院・マニラ・フィリピン	服部
		訪問	バンドン工科大学 (インドネシア)	講師	バンドン工科大学・バンドン市・インドネシア	呉
		訪問	フィリピン・サンラザロ病院		サンラザロ病院 市・フィリピン	ホルロ
		訪問	カルフォルニア大学 (サンディエゴ)	C	スクリッパス海洋研究所・サンディエゴ・米国	木戸
		訪問	ウダヤナ大学	イ・マデ・プティアナ	ウダヤナ大学・バリ島・インドネシア	松本
		訪問	フィリピン大学ディリマン校	C 教授	フィリピン大学ディリマン校・ディリマン市・フィリピン	サツバシー
		訪問			コシチュ・スロバキア	井内
		訪問			コシチュ・スロバキア	井内
		訪問	ヤンゴン工科大学 (ミャンマー)	教授 (ヤンゴン工科大学)	ヤンゴン工科大学・ヤンゴン・ミャンマー	村尾
		受入	ロンドン大学 リスク減災研究所 (英国)	教授・所長、 博士・副所長	東北大学・仙台市	サツバシー
		訪問	ハルビン医科大学		ハルビン医科大学・ハルビン・中国	服部
		受入	米国地質調査所		東北大学・仙台市	菅原
		訪問	ハワイ大学医学・熱帯医学部	C	ハワイ大学医学・熱帯医学部・ホノルル・アメリカ	服部・ホルロ
		受入	C モンゴル		東北大学・仙台市	源栄
		訪問	スラバヤ工科大学 (インドネシア)	准教授	スラバヤ工科大学・スラバヤ市・インドネシア	呉
		訪問	大学		C	ボレー
		訪問			ニューヨーク・米国	井内
		訪問	ケンブリッジ大学	教授	ケンブリッジ大学・ケンブリッジ・英国	サツバシー
		訪問				加藤
		訪問	C 大学		C	ボレー
		受入	ロンドン大学 リスク減災研究所 (英国)	氏	東北大学・仙台市	サツバシー
		訪問			ジョグ ジャカルタ・インドネシア	井内
		訪問	インドネシア、ガジャマダ大学		ガジャマダ大学・ジョグジャカルタ・インドネシア	マリ
		訪問	チェンライ県ウィアンパー・バオ郡バンホエヒンラートナ村		GONGOVA ・チェンライ・タイ	服部
		訪問			ニュージーランド 市	木戸
		受入	バンドン工科大学 (インドネシア)	講師	東北大学・仙台市	呉
		受入		先生、 先生	東北大学・仙台市	柴山
		受入	(フィリピン)	博士	東北大学・仙台市	呉
		訪問	パジャジャラン大学医学部 (インドネシア)		パジャジャラン大学医学部・バンドン・インドネシア	服部
		受入	ジョンズ ホプキンス大学 アメリカ)		東北大学・仙台市	ローバー
		受入	ハワイ大学医学部	C	東北大学・仙台市	服部・ホルロ
		受入	フィリピン・サンラザロ病院		東北大学・仙台市	服部・ホルロ
		受入		先生	東北大学・仙台市	柴山

開始日	終了日	訪問 受入	相手機関	相手先代表者	開催場所	担当
		受入			東北大学・仙台市	井内
		訪問	大学		・	ボレー

講義・セミナー

開始日	終了日	訪問 受入	相手機関名	相手先代表者氏名	会場	担当
		訪問	国際地震工学研修コース	坂本雄三（建築研究所理事 長）	建築研究所・つくば市	マス
		受入	平成 年度 C フィリピン国別研修コース	C	東北大学・仙台市	マス
		受入	C	C	東北大学・仙台市	五十子
		訪問	C		C・	富田
		訪問	C		C・	富田
		訪問	C C	C	C・	富田
		受入			C・	富田
		受入	C		C・	富田
		受入	C		C・	富田
		受入	C		C・	富田
		受入		牧野由佳	東北大学・仙台市	井内
		訪問	(オーストラリア)	()	東北大学・仙台市	森口
		訪問	(タイ)		・ブー ケット・タイ王国	保田
		訪問	(タイ)		・バンコク・タイ王国	保田
		訪問	大連大学	宋協毅(大連大学国際交流担 当副学長)	大連大学・大連市・中国	源栄
		受入	文部省(タイ)		東北大学・仙台市	マス
		訪問	世界銀行	ジム・ヨン・キム総裁	C ・ロンドン・英	地引
		受入			東北大学・仙台市	江川
		受入	イスラエル工科大学		東北大学・仙台市	五十子
		受入	クリフトン科学トラスト(イギリス)		東北大学ほか・仙台市ほか	久利
		受入	あしなが育英会インターンシップ		東北大学・仙台市	江川
		訪問	小学校(パロ市内 1、タナウアン 2、タクロバン 1)(フィリ ピン)		タクロバン、パロ、タナウアン・フィ リピン共和国	保田
		受入		C C	鹿児島大学・鹿児島市	後藤
		訪問	C ドイツ航空宇宙センター (ドイツ)		・ ・ドイツ	越村
		受入	タスマニア大学(オーストラリア)		東北大学・仙台市	江川
		訪問	ジャクアラ大学(インドネシア)		ジャクアラ大学・バンダ・アチェ・ インドネシア	村尾
		訪問			・	栗山
		受入	ロンドン大学		東北大学・仙台市	今村
		受入	建築研究所国際地震工学センター	坂本雄三 (建築研究所理事)	東北大学・仙台市	源栄
		受入	(米国)		東北大学・仙台市	江川
		受入	マサチューセッツ工科大学(アメリカ合衆国)	()	東北大学・仙台市	村尾
		受入	メルボルン大学(オーストラリア)	C (メルボル ン大学)	東北大学・仙台市	村尾
		受入	C (インドネシア)	C	東北大学・仙台市	桜井
		受入	(タイ)		東北大学・仙台市	桜井
		受入	京都大学地球環境学堂		東北大学・仙台市	桜井
		受入	世界銀行 東京ハブ	C	東北大学・仙台市	桜井
		受入	(タイ)		東北大学・仙台市	桜井
		受入	さくらサイエンス交流事業(カンボジア)	佐藤源之教授(東北大学)	東北大学・仙台市	源栄
		訪問	チリ大学(チリ)		チリ大学・サンティアゴ・チリ	村尾
		訪問	インドネシア海洋水産省	、	ホテル・ジャカルタ・イ ンドネシア	今村・サッパ シー・保田
		訪問	C C	C	C ・ C	マス
		受入	インドネシア大学(インドネシア)		東北大学・仙台市	江川
		訪問	ジャクハラ大学(インドネシア)	(ジャクハラ大 学)	小学校 小学校・バンダアチェ・イ ンドネシア	保田
		訪問	東北工業大学	藤松清教授(東北工業大学)	東北工業大学・仙台市	源栄
		訪問	大学(フィリピン)	C 教授	アンヘレス大学・アンヘレス市・ フィリピン	江川
		訪問	ケンブリッジ大学		ケンブリッジ大学・英国	今村
		訪問	C 大学(イギリス)	(C 大学)	C 大学・C ・	蝦名・保田
		受入			東北大学・仙台市	寺田・加藤
		受入	C (米国)		東北大学・仙台市	江川
		受入			東北大学・仙台市	五十子
		訪問		C	・	富田
		訪問	フィリピン大学バギオ校	C センター長	フィリピン大学バギオ校・バギオ・ フィリピン	サッパシー

開始日	終了日	訪問 受入	相手機関	相手先代表者	開催場所	担当
		訪問	アメリカ合衆国		ヒロ カピオラニ小学校 ケアウカハ 小学校・ハワイ州ヒロ・アメリカ合衆国	保田
		受入		服部俊夫 災害科学国際研究 所)	東北大学・仙台市	マス
		受入	(オランダ)		東北大学・仙台市	栗山
		受入	ハーバード大学		東北大学・仙台市	今村
		受入	四川大学(中国)		東北大学・仙台市	桜井
		受入	C (インドネシア)		東北大学・仙台市	桜井
		受入	(インドネシア)		東北大学・仙台市	桜井
		受入		C	東北大学・仙台市	桜井
		受入	C		産業プラザ・仙台市	桜井
		受入	C C	C	産業プラザ・仙台市	桜井
		受入	(米国)		東北大学・仙台市	江川
		受入	(フィリピン)		東北大学・仙台市	江川
		受入	ロンドン大学 リスク減災研究所(英国)	博士・副所長、 博士	東北大学・仙台市	サッパシー
		受入			東北大学・仙台市	後藤
		受入			東北大学・仙台市	後藤
		受入			東北大学・仙台市	井内
		受入	C C C C		仙台市民会館・仙台市	ケリー
		受入			東北大学・仙台市	井内
		受入			東北大学・仙台市	井内
		受入			東北大学・仙台市	井内
		受入	C		東北大学・仙台市	井内
		受入	C	C	東北大学・仙台市	井内
		受入	駐ペルー日本国大使	明田 大吾 (仙台市 危機 管理室 防災都市推進課)	東北大学・仙台市	マス

視察・意見交換会

開始日	終了日	訪問 受入	相手機関名	相手先代表者氏名	会場	担当
		訪問	復興庁、赤十字(フィリピン)	C C	・マ ニラ・フィリピン	小野
		受入	s大学 (ハンガリー)	秋山晋吾教授(一橋大学)	東北大学・仙台市	佐藤(大)
		受入	国連開発計画()、国連開発計画危機予防復興支援局 (ニューヨーク)	近藤哲生(駐日代表)	東北大学・仙台市	小野
		訪問	C C		C・	桜井
		訪問	中国地震局地質研究所	何 宏林教授	・四川省成都・中華人 民共和国	岡田(真)
		訪問	タイ気象局南部地方	氏	タイ気象局南部地方・ブーケット 市・タイ	サッパシー
		訪問	平成 年度 C 中央アジア・コーカサス地域防災行政 コース	大橋千加子(研修監理員)	東北大学・仙台市	マス
		受入	ナンヤン工科大学		東北大学・仙台市	久利
		受入	C エクアドル津波警報システムコース	高垣隆博(C 東京 経済基 盤開発・環境課)	東北大学・仙台市	マス
		訪問	海洋大気局(米国)		・	越村
		受入	長春市地震局(中国)	李恩澤(長春市地震局副局長)	東北大学・仙台市	源栄
		訪問			・ C・	桜井
		訪問			・ C・	桜井
		訪問		C 研究員	・ニューヨーク・米国	マリ
		訪問	(杭州市)	中国建築学会	・杭州市・中国	源栄
		訪問	カジャマダ大学(インドネシア)	トリセサリア	カジャマダ大学・ジョグジャカル タ・インドネシア	久利
		訪問	(インドネシア)		・ジョグジャカルタ・インド ネシア	久利
		訪問			・	桜井
		訪問			・	桜井
		受入	世界銀行(東京防災ハブ)	Jack Campbell	東北大学・仙台市	佐藤(健)
		訪問	中国雲南省地震局	李春光	雲南省地震局・昆明市・中国	王
		訪問	国学振興院(大韓民国)	韓巨熙氏(韓国国史編纂委員 会)	国学振興院・安東市・大韓民国	佐藤(大)
		受入	アメリカ国際問題研究所、カーネギー国際平和財団	長山和夫東北支所長(日本国 際協力センター)	東北大学・仙台市	中鉢
		訪問	C アメリカ		C ン・アメリカ	・ポスト 中山
		受入	インドネシア大学		東北大学・仙台市	泉
		訪問	C		・	桜井
		訪問	フィリピン・サンラザロ病院及びタクロバン病院		サンラザロ病院・マニラ市とタク ローバン病院・タクロバン市・ フィリピン	ホルロ

開始日	終了日	訪問 受入	相手機関	相手先代表者	開催場所	担当
		受入	同志社大学グローバル・スタディーズ大学院研究科等	ダニシマズ・イディリス助教(同志社大学)	東北大学・仙台市	中鉢
		受入	Think Across(オーストラリア)	大塚博子	松島町文化観光交流館・松島町	佐藤(健)
		訪問	太平洋津波情報センター	博士	太平洋津波情報センター・ハワイ州・米国	サッパシー
		受入	大学 オーストラリア		波板地域交流センター・石巻市	小林
		受入	大学(アメリカ)	准教授	東北大学・仙台市	有働
		訪問	トリノ国立文書館(イタリア)	マリア・バルバラ・ベルティーニ(前トリノ国立文書館長)	トリノ国立文書館・トリノ・イタリア	天野
		訪問	フィレンツェ国立文書館(イタリア)	カルラ・ザッリリ館長(フィレンツェ国立文書館)	フィレンツェ国立文書館・フィレンツェ・イタリア	天野
		訪問	ウフィッツィ美術館(イタリア)	ヴァレンティーナ・コンティ・チェッリ(ウフィッツィ美術館学芸員)	ウフィッツィ美術館・フィレンツェ・イタリア	天野
		訪問	貴石加工・修復研究所(イタリア)	C (貴石加工・修復研究所)	貴石・加工修復研究所・フィレンツェ・イタリア	天野
		訪問	国立ローマ中央修復研究所(イタリア)	C C (国立ローマ中央修復研究所)	国立ローマ中央修復研究所・ローマ・イタリア	天野
		受入	国連 ほか	佐藤摩利子(国連)	東北大学・仙台市	村尾
		受入		先生	東北大学・仙台市	柴山
		受入	C	先生	東北大学・仙台市	柴山
		受入	C	先生	東北大学・仙台市	柴山
		受入	ユネスコ		東北大学ほか・仙台市	久利
		受入	大学(アメリカ)	教授	東北大学・仙台市	有働
		受入			東北大学・仙台市	久利
		訪問	ハーバード大学ライシャワー研究所(アメリカ)	マクヴェイ山田久仁子(C)	C カゴ・アメリカ ・シ	佐藤(大)、天野
		訪問			C	寺田

学術指導

開始日	終了日	訪問 受入	相手機関名	相手先代表者氏名	会場	担当
		受入	カトリカ大学コンセプトシオン校(チリ)		東北大学・仙台市	越村
		受入	特別研究学生(モロッコ)		東北大学・仙台市	源榮
		受入	大学(インドネシア)		東北大学・仙台市	越村
		受入	大学(インドネシア)		東北大学・仙台市	越村
		受入	ロンドン大学		東北大学・仙台市	今村
		受入	大学(インドネシア)		東北大学・仙台市	越村

学術協定

開始日	終了日	訪問 受入	相手機関名	相手先代表者氏名	会場	担当
		受入	(ニュージーランド)	C	東北大学・仙台市	遠田
		訪問	大学(インドネシア)		h・インドネシア	越村
		訪問	大学(フィリピン)	C 教授	アンヘレス大学・アンヘレス市・フィリピン	江川
		受入	国立台湾大学気候天気災害研究センター	譚義績教授(国立台湾大学)	東北大学・仙台市	小野

技術協力

開始日	終了日	訪問 受入	相手機関名	相手先代表者氏名	会場	担当
		訪問	C (エクアドル)		C ・ エクアドル	越村
		訪問	大学 ボリビア)	教授 サンアンドレス大学水理研究所	大学・ラパス市・ボリビア	奥村
		受入			C ・東京	井内
		受入	大学 ボリビア)	C 教授 サンアンドレス大学衛生研究所	東北大学・仙台市	奥村
		訪問	大学		・	ボレー
		訪問	大学 ボリビア)	教授 サンアンドレス大学水理研究所	大学・ラパス市・ボリビア	奥村

現地調査

開始日	終了日	訪問 受入	相手機関名	相手先代表者氏名	会場	担当
		訪問	ブリストル大学 工学部研究科土木専攻	講師	ブリストル大学・ブリストル市・英国	サッパシー
		訪問	ボアヂチ大学		ボアヂチ大学・イスタンブール・トルコ	木戸
		受入	中華民国(台湾)	太田陽子教授 徐滌徳 副教授	仙台市, 村山市, 尾花沢市, 酒田市, にかほ市, 大仙市, 一関市	岡田(真)
		訪問	大学		C ・	ボレー
		訪問	中国地震局工程力学研究所	馬強	雲南省昭通市・中国	王
		訪問	大学(フィリピン)	C 教授	アンヘレス大学・アンヘレス市・フィリピン	江川
		訪問	中華民国(台湾)	太田陽子教授, 徐滌徳 副教授	屏東県恒春鎮周辺・中華民国(台湾)	岡田(真)
		訪問	ボアヂチ大学		ボアヂチ大学・イスタンブール・トルコ	木戸

その他

開始日	終了日	訪問 受入	相手機関名	相手先代表者氏名	会場	担当
			国連開発計画()	ヘレン・クラーク(国連開発計画総裁)	ホテルメトロポリタン仙台・仙台市	小野

8 関係・協力団体

関係・協力団体一覧

本研究所全体として連携・協力していただいている団体は以下のとおりである。教員各自の活動のなかでの連携組織・団体については教員の自己評価報告書の項を参照のこと。

地方自治体（協定締結日順）

多賀城市、亘理町、岩沼市、気仙沼市、仙台市、東松島市、山元町、仙台市
岩手県陸前高田市

独立行政法人科学技術振興機構（JST）

国立国会図書館

2014 年度 東北大学 災害科学国際研究所 活動報告書

Annual Report

International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS)

Tohoku University

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1 (事務局)

電話 022-752-2049 Fax 022-752-2013

平成 27 年 (2015 年) 8 月 1 日 発行

発行 東北大学災害科学国際研究所 所長 今村 文彦

編集 東北大学災害科学国際研究所 寺田賢二郎・伊藤潔・中鉢奈津子・鈴木通江

印刷 有限会社明倫社

表紙デザイン 株式会社ソノベ

